

日本美術年鑑

昭和 3 5 年 版

美術研究所

序

日本美術年鑑は昭和11年発足して以来、すでに20余年を経ており、その間大戦前後、数年合冊の分をのぞけば、毎年1冊ずつ刊行してきたが、昨年以来体裁を従来の縦組から横組に改めることとした。それで今年も横組の体裁を取り、ここに昭和35年版の新版を世に送る次第である。周知の通り、今日の美術界は戦後10余年を経ていちじるしく活気をとり戻し、諸美術団体の常時の定期展を初めとして、臨時の展覧会も年と共にその数を増し、更に個展開催の盛況は、ほとんど廻り切れぬほどの目まぐるしさで、これと共に雑誌新聞紙上における批評紹介等の発表も極めて多くなっている。更に古美術界をみると、国宝、重要文化財の新指定と相表裏して、国立の博物館や財団の美術館等における古美術展観や、デパートでの古社寺の宝物展など頻度を増し、東西にわたる古美術関係の研究論文の発表や、著述、図録類の刊行等、枚挙にいとまなき実情である。これら新古美術の諸領域に関し、巨細にわたる調査と編集については、当研究所美術部(美術研究所)の第2研究室がこれに当り、更に第1研究室や資料室からも、これを援助するところが多かつた。しかし前述の通り、美術界近來の錯綜を極めた実況に対しては、手際よくしかも落度なくこれを集約載録して、瞭然たらしめることは容易の業ではない。もちろん毎年刊行のこととて、常にこの点に意を注いで、記事採択の適正と、内容の充実とに努力してはいるが、この間にも、思わぬ過誤や不備の点がないとは限らない。これらの点については、閲読の諸君子の叱正と御示教とを切望して止まない。

なおこの年鑑の編集に当つて、連年諸官庁や美術関係の公私機関をはじめ、多数の学者作家等の御助力を煩わしている。殊に文化財保護委員会事務局、文部省社会教育局藝術課、日本藝術院、国立近代美術館、国立西洋美術館、東京・京都・奈良の各国立博物館、各地の諸新聞社、雑誌社、美術館、研究所、学校、美術団体等の御援助に待つところがすくなくなかつた。更にまた大蔵省印刷局は、この年鑑の体裁上印刷技術の困難な点多きに拘らず、今年も引続きこの印刷を快諾された。ここにこれら諸機関の当事者諸賢に対して深甚の謝意を表する。

昭和35年12月

東京国立文化財研究所長 田 中 一 松

凡 例

1. 本年鑑は、昭和34年1月から同年12月に至る1年間の美術界の主要な出来事を掲載した。

1. 本年鑑の内容は、「図版」「本欄」「便覧」の3部に大別し、「図版」には上記期間中に発表された注目すべき作品の写真を主として掲載し、「本欄」は、わが国美術界の全般について、全体の展望、主要な事件、展覧会、物故者、発表された文献などを記載した。

「便覧」は、美術関係の法規、諸施設、団体、美術家及び美術関係者名簿などを集録した。便覧の性質上この欄は原則として現在の記録(昭和35年11月)に従っている。

1. 本年鑑であつかう美術の範囲は、一般に行われる狭義の解釈に従い、絵画、彫塑、工藝、書、および建築に限っている。絵画のうち、日本画と洋画の区別は困難な場合もあるが、だいたい現代の慣習に従つた。建築はわれわれの注意をひく範囲にとどめた。

1. 人名を記す場合は、すべて敬称をはぶいた。

1. 美術文献目録、美術家及び美術関係者名簿についてはそれぞれ項目の初めに凡例を記した。

目次

序	1
凡例	3
目次	4

本欄

昭和34年美術界年史	1
附 表	8
新指定国宝一覧	8
新指定重要文化財一覧	10
文化財保護委員会昭和34年度補助金交付一覽	39
昭和34年度、国立博物館・美術館、文化財保護委員会新収品目録	51
各大学美術関係講義題目	61
受賞一覧	66
美術展覧会	69
物故者	136
美術文献目録	146
凡例	146
目次	147
定期刊行物所載文献	
現代美術・西洋美術	148
東洋古美術	191
単行図書	
現代美術・西洋美術	208
東洋古美術	211

便覧

美術関係法規	1
--------	---

文化財保護法	1
文化財専門審議会令	23
文化財専門審議会議事規則	24
文化財専門審議会常任委員会設置規則	25
文化財専門審議会諮問事項等取扱規則	25
文化財保護委員会事務局内部組織	29
東京国立博物館組織規程	31
京都国立博物館組織規程	33
奈良国立博物館組織規程	33
東京国立文化財研究所組織規程	34
奈良国立文化財研究所組織規程	35
文部省社会教育局藝術課	37
国立近代美術館	37
国立西洋美術館	37
日本藝術院	40
正倉院評議会規程	44
皇室技藝員	44
美術関係研究施設	45
美術関係学会	47
美術教育施設	47
学校	47
美術観覧施設	50
東京画廊一覧	65
名古屋画廊一覧	66
京都画廊一覧	66
大阪・神戸画廊一覧	66
美術団体一覧	67
美術家及美術関係者名簿	90
美術関係定期刊行物一覧	137

図版目次

日本画

1 夢遊(春の青竜展)	山口吉旺
2 沼(9回未更会展)	山田申吾
3 雨の鵜(個展)	小林巢居人
4 黄粧(19回日本画院展)	高橋光輝
5 棕栢(19回日本画院展)	望月春江
6 祭り(9回新興美術展)	鬼原素俊
7 飛び立つ(5回日本国際美術展)	吉岡堅二
8 白樺の林(薔薇会展)	小野竹喬
9 蒼い日輪(5回日本国際美術展)	加山又造

10 いんこ(新作展)	高山辰雄
11 静物(薔薇会展)	岩橋英遠
12 峽(5回日本国際美術展)	横山操
13 女修道(31回青竜展)	大塚達夫
14 筏流し(31回青竜展)	川端竜子
15 大海(31回青竜展)	高山晴雄
16 娘の四季(31回青竜展)	安西啓明
17 芥子(尚美展)	安田靉彦
18 家族達(44回日本美術院展)	小倉遊亀
19 鳴門(44回日本美術院展)	奥村土牛
20 吾妻早春(44回日本美術院展)	今野忠一
21 残照(44回日本美術院展)	富取風堂

22 佳日(44回日本美術院展)……堀 川 公 子
 23 大観先生(44回日本美術院展)……安 田 靱 彦
 24 御水取「其の17」(44回日本美術院展)……前 田 青 邨
 25 同上「其の14」(44回日本美術院展)……前 田 青 邨
 26 篝火(44回日本美術院展)……須 田 珙 中
 27 海「B(真鶴の海)」(44回日本美術院展)……片 岡 球 子
 28 蝕(44回日本美術院展)……岩 橋 英 遠
 29 踊り(44回日本美術院展)……中 村 貞 以
 30 岩の石仏(44回日本美術院展)……福 王 寺 法 林
 31 月光(23回新制作展)……野 崎 貢
 32 黒人歌手ポール・ロブソン(23回新制作展)……朝 倉 摂
 33 月の華(23回新制作展)……近 藤 弘 明
 34 水鳥(23回新制作展)……加 山 又 造
 35 石水(23回新制作展)……麻 田 鷹 司
 36 水辺(23回新制作展)……上 原 卓
 37 鳥(23回新制作展)……加 山 又 造
 38 金華山(23回新制作展)……福 田 豊 四 郎
 39 鶴(23回新制作展)……上 村 松 篁
 40 華(23回新制作展)……広 田 多 津
 41 風景(23回新制作展)……山 本 丘 人
 42 三人(5回凡樹画社展)……上 野 泰 郎
 43 滝(5回凡樹画社展)……太 田 正 弘
 44 野分(5回凡樹画社展)……福 田 鑒 治
 45 風景(5回凡樹画社展)……毛 利 武 彦
 46 海禾(個展)……児 玉 希 望
 47 海老(2回双杉会展)……野 島 青 玆
 48 白い蝶(1回野火会展)……稗 田 一 穂
 49 草叢(1回野火会展)……信 太 金 昌
 50 愚痴(2回日本美術展)……伊 東 深 水
 51 蝶(2回日本美術展)……三 谷 十 糸 子
 52 風霜(2回日本美術展)……麻 田 弁 次
 53 曇り日の海(2回日本美術展)……小 野 竹 喬
 54 桜島(2回日本美術展)……西 山 英 雄
 55 青い沼(2回日本美術展)……加 藤 栄 三
 56 仲居(2回日本美術展)……寺 島 紫 明
 57 月庭(2回日本美術展)……橋 本 明 治
 58 猿(2回日本美術展)……山 口 華 楊
 59 波(2回日本美術展)……池 田 遙 邨
 60 風景(2回日本美術展)……我 妻 碧 宇
 61 仮象(2回日本美術展)……杉 山 寧
 62 暮潮(2回日本美術展)……東 山 魁 夷
 63 若い人(2回日本美術展)……森 田 沙 伊
 64 窓(個展)……東 山 魁 夷
 65 遠いネオン(個展)……東 山 魁 夷

洋 画

66 幽契 その1(11回読売アンデパンダン展)……岩 間 正 男
 67 装い(4回新世紀展)……大久保 作次郎
 68 黄色い夢(4回新世紀展)……藤 川 光 次
 69 モスクワの地下鉄(12回日本アンデパンダン展)……尾 藤 豊
 70 弔・散華(19回美術文化展)……猪 飼 重 明
 71 冬海(18回水彩聯盟展)……春日部 たすく
 72 ベニス(12回示現会展)……松 木 重 雄
 73 トレド(12回示現会展)……大 内 田 茂 士
 74 菩提樹など(18回水彩聯盟展)……上 田 哲 農
 75 燈台(4回雨晴会展)……岡 鹿 之 助
 76 内なる野性6(モダンアート展)……勝 本 富 士 雄
 77 南国の露店(12回示現会展)……石 川 寅 治
 78 反乱(モダンアート展)……中 井 幸 一
 79 牛の親子(モダンアート展)……山 口 薫
 80 日光秋景(45回光風会展)……辻 永
 81 美人コンクール(モダンアート展)……矢 橋 六 郎
 82 静物(45回光風会展)……中 村 研 一
 83 西銀座(45回光風会展)……小 糸 源 太 郎
 84 運河の街(18回創元会展)……樋 口 治 平
 85 群像(36回春陽会展)……藤 井 令 太 郎
 86 夏の海辺(45回光風会展)……中 沢 弘 光
 87 明け方No.2(アメリカ抽象六人展)……岡 田 謙 三
 88 菜の花と夕陽(個展)……木 田 金 次 郎
 89 高原の春(18回創元会展)……倉 員 辰 雄
 90 長崎の夕暮(36回春陽会展)……中 川 一 政
 91 花(36回春陽会展)……小 柳 秀 太 郎
 92 船(36回春陽会展)……宮 城 音 蔵
 93 闘牛(36回春陽会展)……水 谷 清
 94 婉(36回春陽会展)……中 山 爾 郎
 95 落馬(36回春陽会展)……田 畔 司 朗
 96 四月阿呆(36回春陽会展)……南 大 路 一
 97 晩秋西ノ京(33回国画会展)……杉 本 健 吉
 98 波騒ぐ(33回国画会展)……熊 谷 九 寿
 99 樹木(33回国画会展)……庫 田 毅
 100 ヴェニス(33回国画会展)……梅 原 竜 三 郎
 101 うに(33回国画会展)……立 石 鉄 臣
 102 魚の碑(33回国画会展)……国 松 登
 103 夕陽(長崎)(25回東光会展)……斎 藤 与 里
 104 農村冬景(25回東光会展)……佐 藤 一 章
 105 椅子に凭る(25回東光会展)……石 本 秀 雄
 106 海風(5回日本国際美術展)……高 間 惣 七
 107 サロメの踊り(5回日本国際美術展)……三 雲 祥 之 助

- 108 湧く(5回日本国際美術展)……杉 全 直
109 作品X E(11回秀作展)……岩 崎 鐸
110 家族(5回日本国際美術展)……麻 生 三 郎
111 二つの像(5回日本国際美術展)……三 岸 節 子
112 横たわる女(5回日本国際美術展)……小 磯 良 平
113 陶土(5回日本国際美術展)……中 谷 泰
114 蝶(5回日本国際美術展)……海老原喜之助
115 隅田川(5回日本国際美術展)……田 村 孝 之 介
116 青の跡(5回日本国際美術展)……斎 藤 義 重
117 地獄門(5回日本国際美術展)……福 沢 一 郎
118 座像(5回日本国際美術展)……林 武
119 サンチャゴ(5回日本国際美術展)……栗 原 信
120 戦舞(2回新象展)……土 井 俊 生
121 静物(55回太平洋美術展)……坂 本 繁 二 郎
122 マスク(5回日本国際美術展)……岡 本 太 郎
123 作品(5回日本国際美術展)……山 田 栄 二
124 休む(14回女流画家協会展)……小 川 孝 子
125 軒の菜の花(尚美展)……熊 谷 守 一
126 裸婦B(13回新樹会展)……三 岸 黄 太
127 夏の海(13回新樹会展)……井 手 宣 通
128 ファルスA(13回新樹会展)……朝井 閑 右 衛 門
129 灯台(11回立軌会展)……牛 島 憲 之
130 作品A(11回立軌会展)……秋 野 卓 美
131 三月堂(13回新樹会展)……島 村 三 七 雄
132 唐津(11回立軌会展)……須 田 寿
133 宇治川(11回立軌会展)……飯 島 一 次
134 作品C(11回立軌会展)……若 狭 暁 男
135 変貌なき世界(11回立軌会展)……榎 戸 庄 衛
136 流(14回行動美術展)……田 中 稔 衛
137 みなもと(14回行動美術展)……江 見 絹 子
138 芦の湖畔(14回行動美術展)……田 辺 三 重 松
139 兵器廠跡と大阪城(14回行動美術展)……小 出 卓 二
140 大地の岩(14回行動美術展)……古 家 新
141 会合(14回行動美術展)……村 田 實 史 雄
142 蝗のむれ(44回二科展)……北 川 民 次
143 花(44回二科展)……西 村 竜 介
144 酸化(44回二科展)……斎 藤 三 郎
145 緩和(Relax)(23回新制作展)……斎 藤 正 夫
146 耐(44回二科展)……多 賀 谷 伊 徳
147 衝立(44回二科展)……山 口 長 男
148 朝の生(23回新制作展)……佐 藤 敏 敬
149 因襲(23回新制作展)……赤 穴 宏
150 EPITAPH(1)(23回新制作展)……草 野 誠
151 「原野」より(5回一陽会展)……長谷川三千春
152 自ら畏にかかつた精霊(23回新制作展)……田 淵 安 一
153 窓辺の静物(5回一陽会展)……鈴木 信 太 郎
154 想思樹の実(23回新制作展)……脇 田 和
155 夜夜の星(5回一陽会展)……野 間 仁 根
156 月寒の夏(21回一水会展)……木 下 義 謙
157 ホームバー(21回一水会展)……木 下 孝 則
158 大阪川口風景(21回一水会展)……林 鶴 雄
159 アルチショウ(21回一水会展)……高 橋 庸 男
160 秋の浅間山(21回一水会展)……田 崎 広 助
161 花(21回一水会展)……仲 田 好 江
162 シエルプール港(13回二紀会展)……児 玉 幸 雄
163 市街(13回二紀会展)……佐 野 繁 次 郎
164 長崎家「三菱炭鉱クラブ」(13回二紀会展)……鍋 井 克 之
165 流水(3)(手取川)(13回二紀会展)……宮 本 三 郎
166 花(13回二紀会展)……佐 伯 米 子
167 双鳥(13回二紀会展)……金 田 辰 弘
168 人々と煙突(23回自由美術展)……森 芳 雄
169 鳥と青年(23回自由美術展)……糸 國 和 三 郎
170 群青(23回自由美術展)……末 松 正 樹
171 寓話(23回自由美術展)……井 上 長 三 郎
172 船着場B(27回独立展)……西 田 藤 次 郎
173 戦史(23回自由美術展)……小 野 木 学
174 自由を讃える饗宴《センタービル
の壁面のために》(27回独立展)……高 橋 忠 弥
175 青衣(27回独立展)……児 島 善 三 郎
176 日蓮聖人像(27回独立展)……野 口 弥 太 郎
177 山村A(27回独立展)……斎 藤 長 三
178 壁の修理(27回独立展)……鳥 海 青 児
179 白と黒作品(27回独立展)……山 本 正
180 海(27回独立展)……小 林 和 作
181 熱海(27回独立展)……高 島 達 四 郎
182 鉱山(27回独立展)……須 田 国 太 郎
183 追はれる鳥(27回独立展)……鈴 木 保 徳
184 港運河(横浜風景)(27回独立展)……斑 目 秀 雄
185 影おとす雲(二人展)……山 崎 隆 夫
186 萩咲き初む(2回日本美術展)……鈴 木 千 久 馬
187 少女像(2回日本美術展)……中 野 和 高
188 滝野關龍灘(2回日本美術展)……小 山 敬 三
189 黒衣(2回日本美術展)……森 田 元 子
190 高層湿原(2回日本美術展)……田 村 一 男
191 画室の女(2回日本美術展)……中 村 琢 二
192 雪男(個展)……福 沢 一 郎
193 スペインの旅(2回日本美術展)……新 道 繁
194 渡辺夫人の像(2回日本美術展)……山 下 新 太 郎
195 群れ(3回安井賞候補新人展)……中 本 達 也
196 父と子(個展)……佐 藤 真 一
197 室内少女(2回日本美術展)……鬼 頭 鍋 三 郎
- 版 画
- 198 同床異夢(5回日本国際美術展)……浜 田 知 明
199 相対性絵画 No.5(モダンアー
ト展)……吉 田 政 次
200 埋める(27回日本版画協会展)……鈴 木 幹 二

- 201 キリコ(36回春陽会展)……………清 宮 賢 文
 202 果実の受胎(36回春陽会展)……………駒 井 哲 郎
 203 秋草(36回春陽会展)……………長 谷 川 潔
 204 魚(27回日本版画協会展)……………益 田 義 信
 205 摩奈波門多に建つ(2回日本美術展)……………棟 方 志 功
 206 追念(27回日本版画協会展)……………山 口 源 三
 207 桜桃(5回日本国際美術展)……………浜 口 陽 三
 208 黎明(27回日本版画協会展)……………萩 原 英 雄
 209 空中に咲く花(13回新樹会展)……………永 瀬 義 郎

彫 塑

- 210 作品39(個展)……………木 村 賢 太 郎
 211 双晶(詩と彫刻二人展)……………樋 口 シ ン
 212 うれ(23回新制作展)……………佐 藤 忠 良
 213 作品(日本アンデパンダン展)……………井 上 武 吉
 214 U・S 博士(44回日本美術院展)……………新 海 竹 蔵
 215 哭く(5回日本国際美術展)……………本 郷 新
 216 違和(44回二科展)……………平 川 正 道
 217 作品5(13回新樹会展)……………大 滝 直 平
 218 波・群(44回二科展)……………淀 井 敏 夫
 219 1959年(8回創型会彫塑展)……………中 野 四 郎
 220 婦人座像(5回日本国際美術展)……………木 内 克
 221 ベラベラ(44回日本美術展)……………仁 田 原 英 二
 222 座る(女)(5回日本国際美術展)……………柳 原 義 達
 223 裸婦B(44回日本美術院展)……………四 田 昌 二
 224 道(5回一陽会展)……………金 田 忠
 225 鳥(13回二紀会展)……………坂 上 政 克
 226 漂流2(23回新制作展)……………豊 福 知 徳
 227 女(ち)(13回二紀会展)……………堀 義 雄
 228 金属の空間(14回行動美術展)……………向 井 良 吉
 229 工匠(23回新制作展)……………吉 田 芳 夫
 230 或るモニュマン(14回行動美術展)……………中 島 快 彦
 231 人によせてA(植木茂・山崎隆夫二人展)……………植 木 茂
 232 落ちた馬(6回白樹会展)……………伊 東 傀
 233 Melle Roseline Sirouy(2回日本美術展)……………安 田 周 三 郎
 234 立つ女(2回日本美術展)……………黒 田 嘉 治
 235 曼珠沙華(2回日本美術展)……………沢 田 政 広
 236 果 No.70(23回自由美術展)……………森 堯 茂
 237 臙脂(2回日本美術展)……………羽 紫 小 枝 子

工 藝 ・ デ ザ イ ン

- 238 松林の図肩衝釜(6回日本伝統工芸展)……………長 野 埤 志
 239 駒隙(2回日本美術展)……………野 口 晴 朗
 240 備前角台鉢(6回日本伝統工芸展)……………金 重 陶 陽

- 241 型染屏風野草の図(6回日本伝統工芸展)……………稲 垣 稔 次 郎
 242 平文箱(6回日本伝統工芸展)……………大 場 松 魚
 243 野牛と NYMPH(2回日本美術展)……………蓮 田 脩 吾 郎
 244 金銀彩甕(2回日本美術展)……………楠 部 弥 弼
 245 クリーム・ド・カカオ(贈答用パッケージ)(日本宣伝美術展)……………田 宮 督 夫
 246 ポスター(ニューヨーク・タカシマヤテキスタイル展)(日本宣伝美術展)……………田 中 一 光
 247 刺繍湖面の影(2回日本美術展)……………岸 本 景 春
 248 聖書物語より(ベツレエム母親の嘆き)(日本宣伝美術展)……………稲 垣 行 一 郎
 249 クリスタル硝子鉢(2回日本美術展)……………各 務 敏 三

建 築 (図版写真は新建築社提供による)

- 250 日本住宅公団晴海高層アパート……………前川国男建築設計事務所設計
 251 東京国際貿易センター……………村田政真建築設計事務所設計
 252 寿屋山崎工場……………安井建築設計事務所設計
 253 大多喜町役場……………今井兼次設計
 254 西洋美術館……………ル・コルビュジェ設計
 255 長崎水族館……………武基雄研究室設計
 256 世田谷区民会館……………前川国男建築設計事務所設計
 257 菊竹邸……………菊竹清訓・紀枝設計

遺 作 展

- 258 煌く嫉妬(異色作家シリーズ展)……………戸 張 孤 雁
 259 グレー冬(高野コレクション)……………浅井忠水彩画展)……………浅 井 忠
 260 蝶の軌跡(異色作家シリーズ展)……………長 谷 川 三 郎
 261 画室小集(21回一水会展)……………石 井 柏 亭
 262 序の舞(山川秀峰名作展)……………山 川 秀 峰
 263 竹外一枝(横山大観遺作展)……………横 山 大 観
 264 溷東綺談(木村莊八遺作展)……………木 村 莊 八
 265 嗣信の最後(下村観山代表作展)……………下 村 観 山

海外作家国内展

- 266 ゼラ(5回日本国際美術展)……………エミール・シューマッハー(西ドイツ)
 267 鶯の夜(5回日本国際美術展)……………マッソン(フランス)

- 268 素描(イタリア巨匠二人展).....ファツツイーニ
(イタリア)
- 269 コンポジション(5回日本国際
美術展).....モンタナリーニ
(イタリア)
- 270 紅茶沸しの静物(5回日本国際
美術展).....ピカソ(フラン
ス)
- 271 15D(5回日本国際美術展).....シュネイデル
(フランス)
- 272 夏(5回日本国際美術展).....ブブノフ(ソビ
エト)
- 273 声(5回日本国際美術展).....フセイン(イン
ド)
- 274 女(5回日本国際美術展).....ムア(イギリス)
- 275 変奏曲(5回日本国際美術展).....ブルーム(アメ
リカ)
- 276 作品B(5回日本国際美術展).....スワレス(スベ
イン)
- 277 十字軍(日本・メキシコ現代版
画交歓展).....アルベルト・デ・
トリニダード・
ソリス

古 美 術

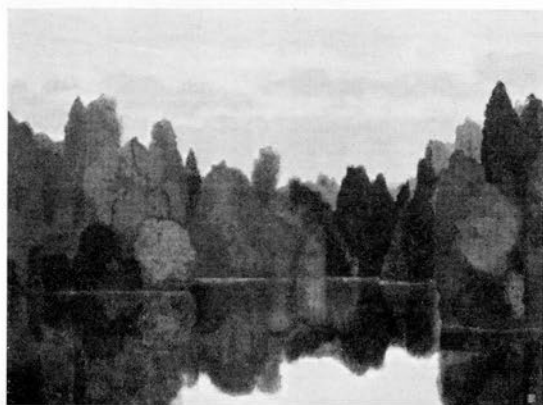
- 278 絹本著色中村内蔵助像(重文)
尾形光琳筆.....1幅...近畿日本鉄道株
式会社
- 279 石造如来立像(重文).....1軀...大倉集古館
- 280 絹本著色四聖御影(永和本)
(重文).....1幅...東大寺

- 281 紙本金地著色泰西王侯騎馬図
四曲屏風(重文).....藤井徳義
- 282 木造大日如来坐像(重文).....1軀...金剛峯寺
- 283 紙本墨画風雨山水図(重文)1幅...小田栄作
- 284 銅造釈迦如来坐像(重文).....1軀...三田庄三郎
- 285 紙本白描建保六年中殿御会図
(重文).....1巻...九条道秀
- 286 和歌体十種(国宝).....1巻...高野時次
- 287 東南院々主房起請(重文).....1巻...醍醐寺
- 288 大燈国師墨蹟(重文).....1幅...藤原銀次郎
- 289 紫紙金字法華経巻第一(重文)
.....1巻...藤井孝昭
- 290 宋版新編醉翁談録(重文).....2冊...天理大学附属天
理図書館
- 291 色鍋島松竹梅文瓶子(重文)1口...中島いわ子
- 292 孔雀文磬(重文).....1面...松本市
- 293 秋野蒔絵手筈(重文).....1合...遠山元一
- 294 馬具(金銅杏葉)(重文)筑前宗像
神社沖津宮祭祀遺跡出土...^{12箇}内...宗像神社
- 295 唐招提寺宝蔵(国宝).....1棟...奈良県唐招提寺
- 296 観音寺金堂(重文).....1棟...香川県観音寺
- 297 埴輪雛(重文).....1箇...横内忠作
- 298 埴輪男子跪坐像(重文)茨城県西
茨城郡岩瀬町出土.....大倉亀
- 299 瑞巖寺庫裡(国宝).....宮城県瑞巖寺
- 300 白山神社拝殿(重文).....滋賀県白山神社

版 図



1 夢遊 (春の青竜園) 山口吉旺



2 沼 (未更会展) 山田申吾



3 雨の鶏 (個展) 小林栗居人



4 黄鶏 (日本画院展) 高橋光輝



5 棕櫚 (日本画院展) 望月春江



6 祭り (新興美術展) 鬼原素俊

日本画



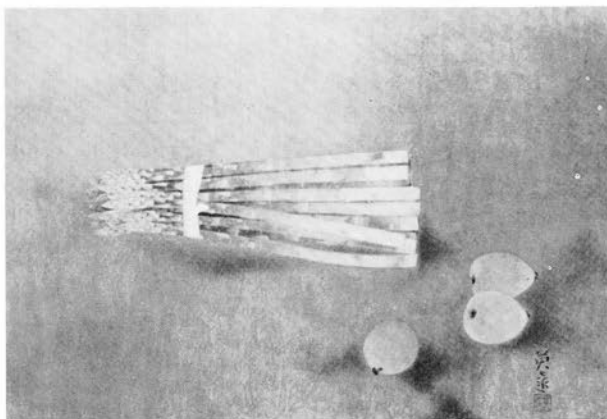
7 飛び立つ (国際美術展) 吉岡 堅二



10 いんこ (新作展) 高山 辰雄



8 白樺の林 (薔薇会展) 小野 竹斎



11 静物 (薔薇会展) 岩橋 英遠



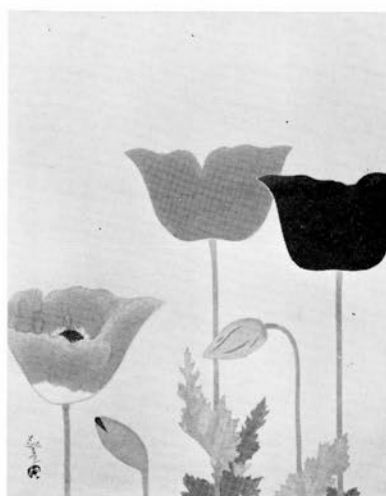
9 蒼い日輪 (国際展) 加山 又造



12 峡 (国際展) 横山 操



13 女修道 (青竜展) 大塚達夫



17 芥子 (尚美展) 安田頼彦



14 筏流し (青竜展) 川端竜子



15 太海 (青竜展) 高山晴雄



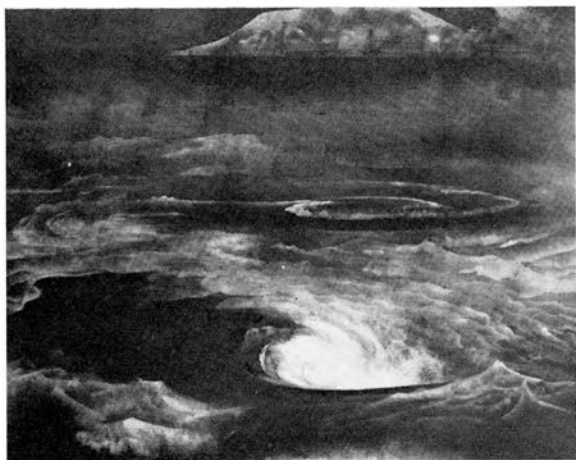
16 娘の四季 (青竜展) 安西啓明



18 家族達 (院展) 小倉遊亀



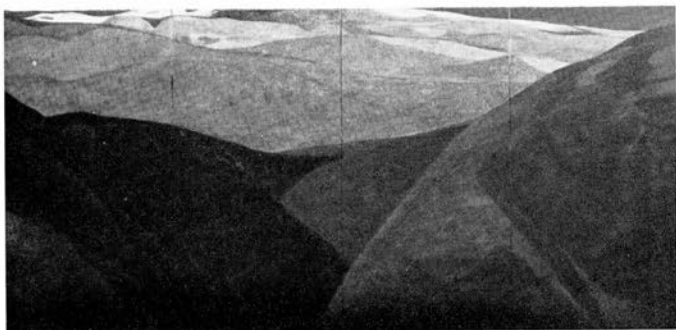
21 残照 (院展) 富取風堂



19 鳴門 (院展) 奥村土牛



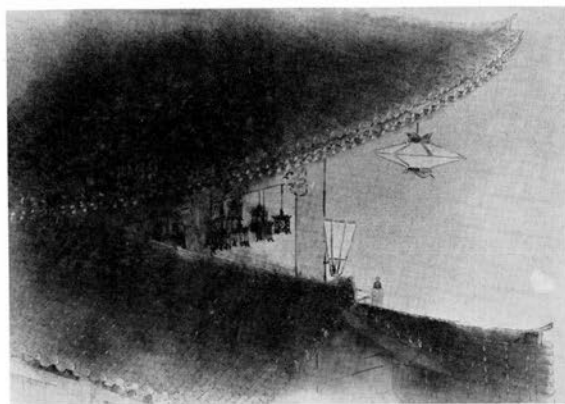
22 佳日 (院展) 堀川公子



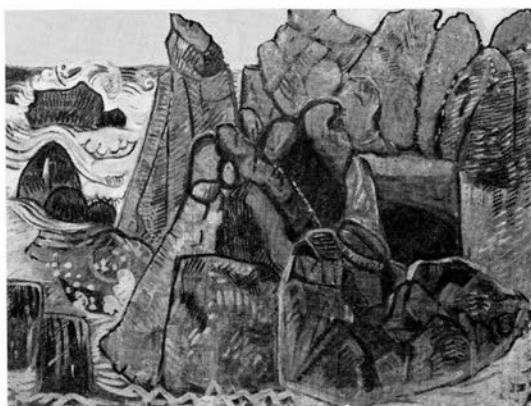
20 吾妻早春 (院展) 今野忠一



23 大観先生 (院展) 安田靫彦



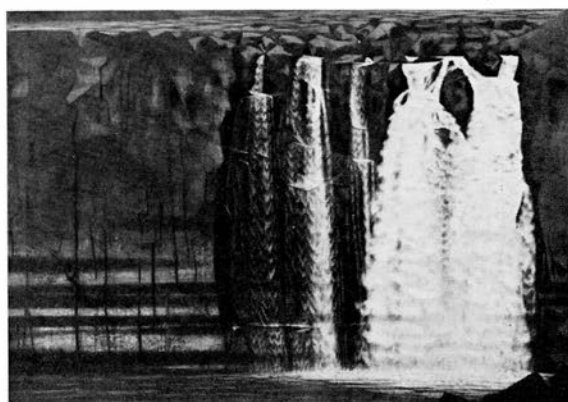
24 御水取「其の17」 (院展) 前田 青邨



27 海「B(真鶴の海)」 (院展) 片岡 球子



25 同上「其の14」 (院展) 前田 青邨



28 融 (院展) 岩橋 英遠



26 篝 火 (院展) 須田 洪中



29 踊 り (院展) 中村 貞以



30 岩の石仏《院展》福王寺法林



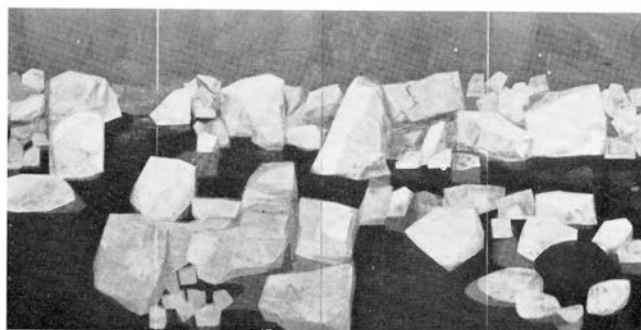
33 月の華《新制作展》近藤弘明



31 月光《新制作展》野崎貢



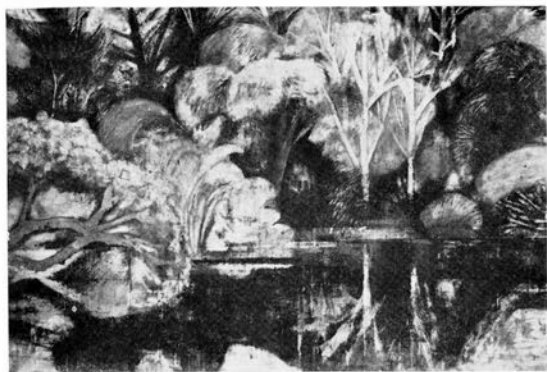
34 水鳥《新制作展》加山又造



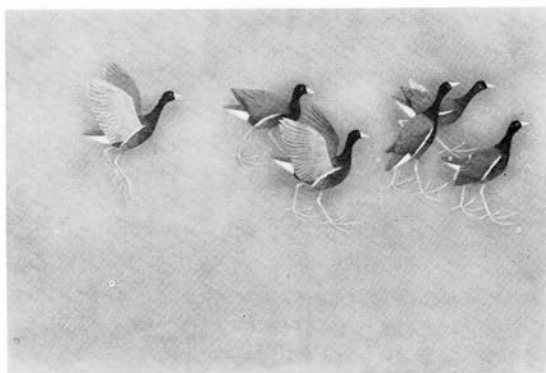
35 石水《新制作展》麻田聡司



32 黒人歌手ボール・ロブソン《新制作展》朝倉 摂



36 水 辺 (新制作展) 上 原 卓



39 鶴 (新制作展) 上 村 松 篁



37 鳥 (新制作展) 加 山 又 造



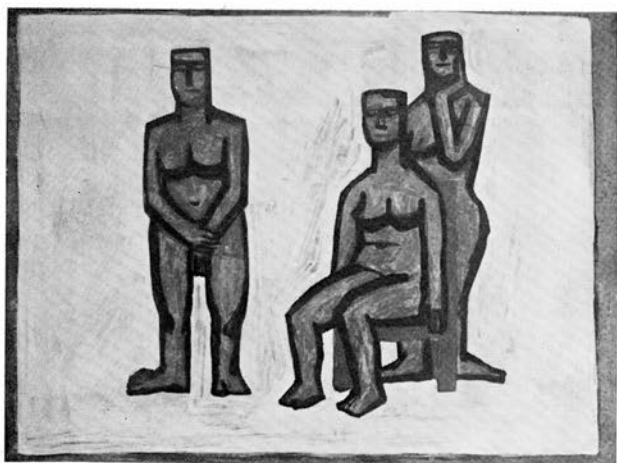
38 金 華 山 (新制作展) 福 田 豊 四 郎



40 華 (新制作展) 広 田 多 津



41 風 景 (新制作展) 山 本 丘 人



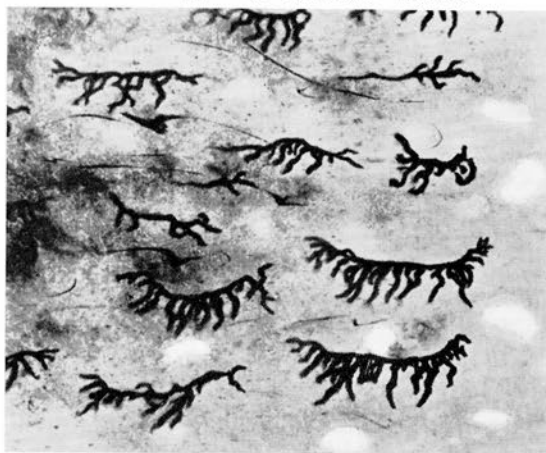
42 三 人 (凡樹画社展) 上野 泰 郎



45 風 景 (凡樹画社展) 毛利武彦



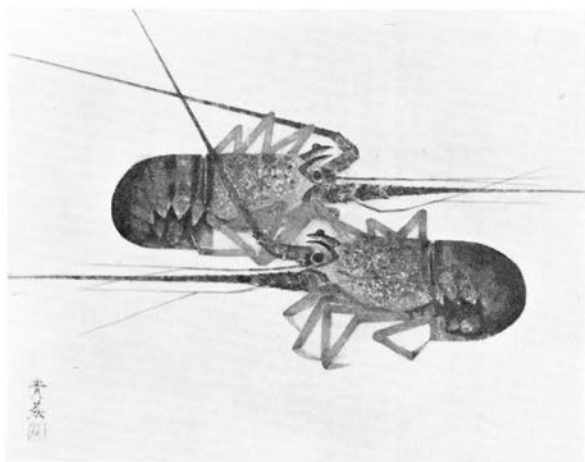
43 滝 (凡樹画社展) 太田 正 弘



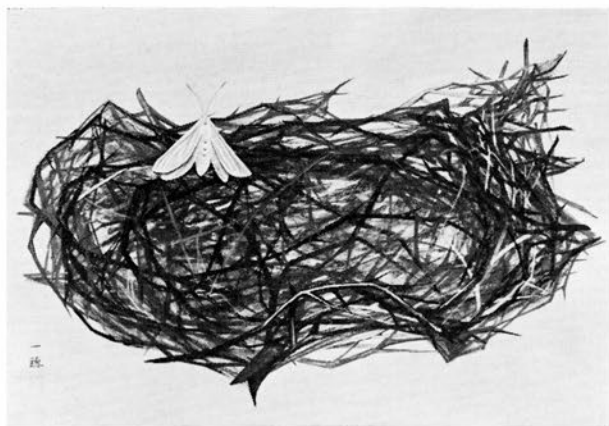
46 海 禾 (個展) 児 玉 希 望



44 野 分 (凡樹画社展) 福田 鑒 治



47 海 老 (双杉会展) 野 島 青 絃



48 白い蝶 (野火会展) 神田一穂



49 草 渡 (野火会展) 信太金昌



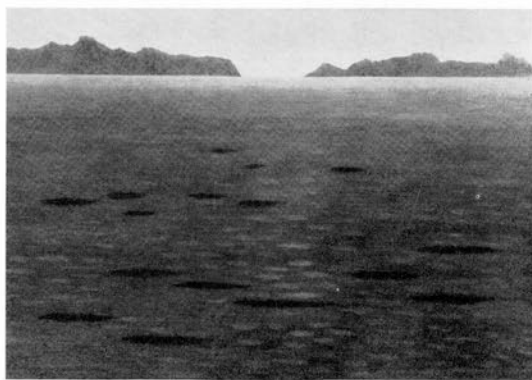
51 蝶 (日展) 三谷十糸子



52 風 霜 (日展) 麻田弁次



50 愚 痴 (日展) 伊東深水



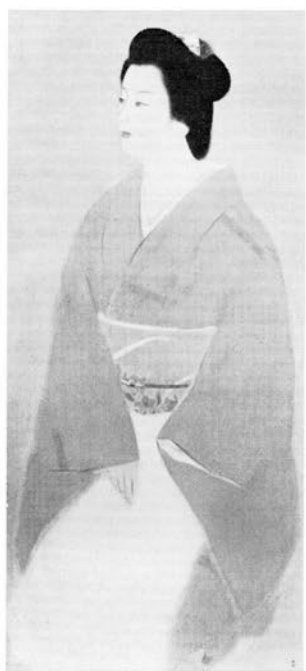
53 曇り日の海 (日展) 小野竹斎



54 桧 島 (日展) 西山英雄



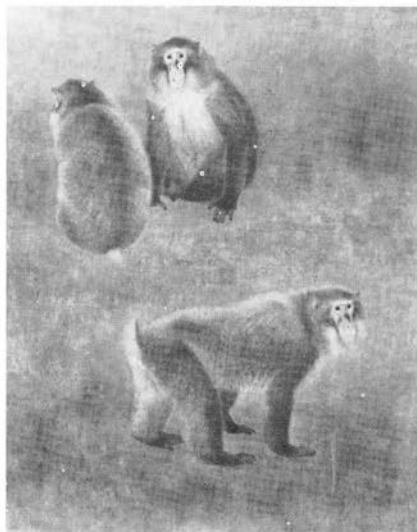
55 青 い 沼 (日展) 加藤栄三



56 杵 居 (日展) 寺島紫明



57 月 庭 (日展) 橋本明治



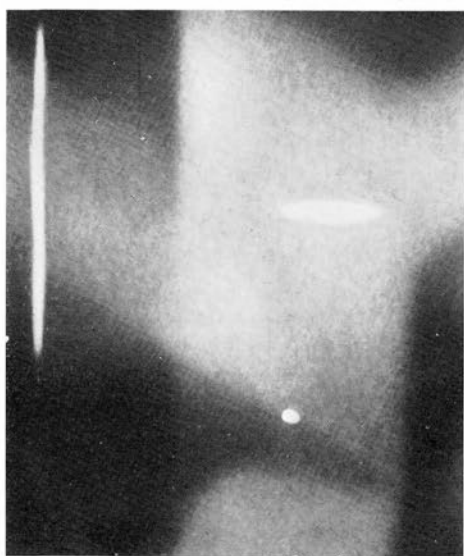
58 猿 (日展) 山口華楊



59 波 (日展) 池田遙邨



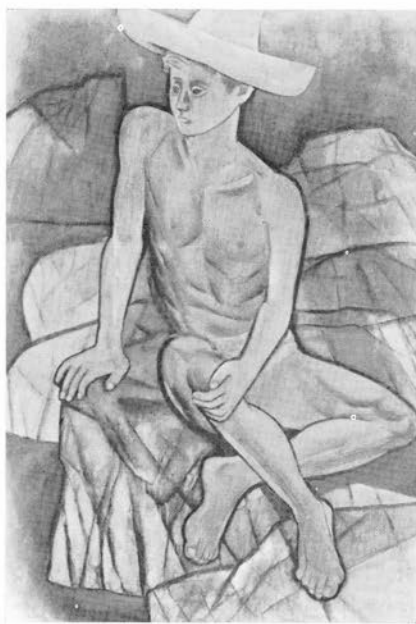
60 風景 (日展) 我妻碧宇



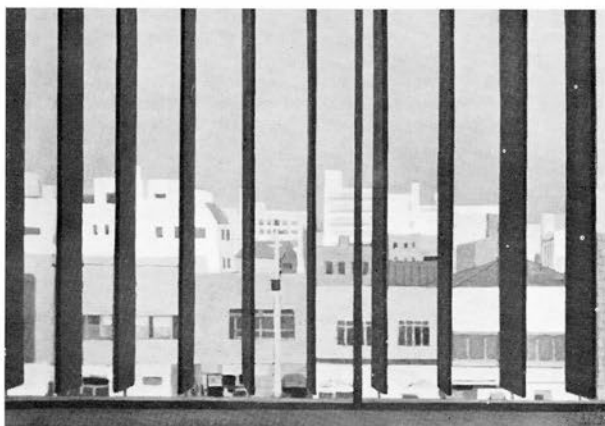
61 仮象 (日展) 杉山寧



62 暮潮 (日展) 東山魁夷



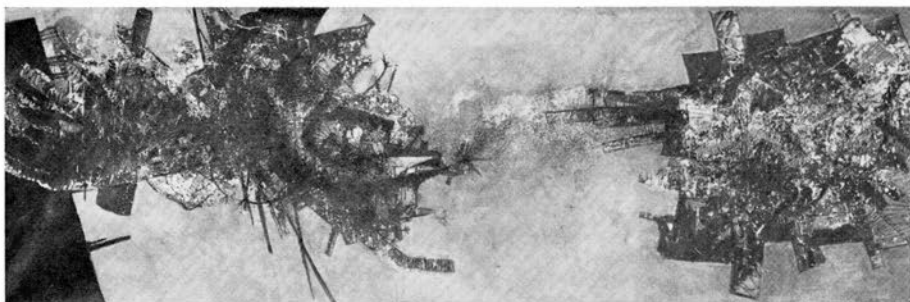
63 若い人 (日展) 森田沙伊



64 窓 (個展) 東山魁夷



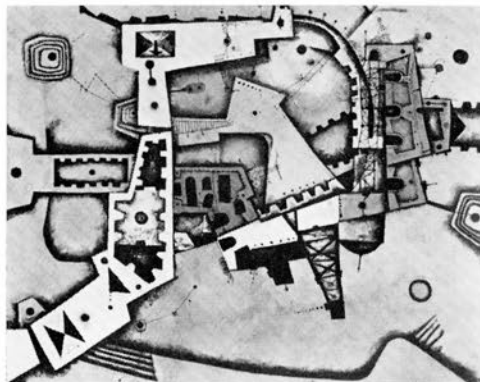
65 遠いネオン (個展) 東山魁夷



66 幽契 その1(読売アンデパンダン展) 岩岡正男



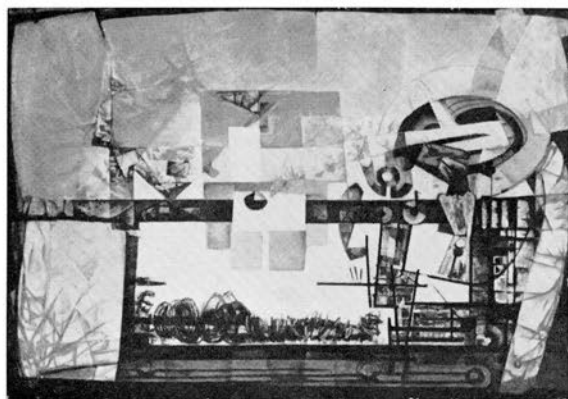
67 装い(新世紀展) 大久保次郎



69 モスクワの地下鉄(日本アンデパンダン展) 尾藤豊



68 黄色い夢(新世紀展) 藤川光次

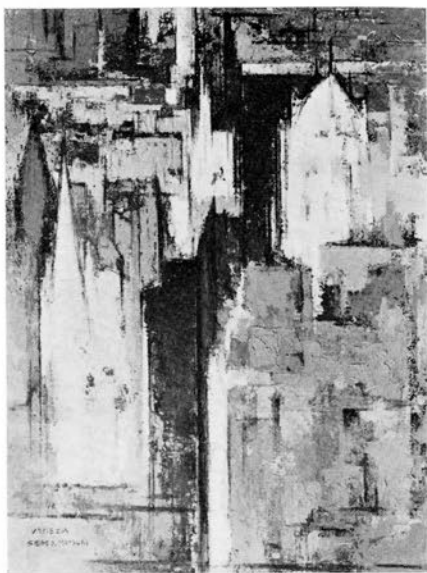


70 弔・散華(美術文化展) 猪飼重明



71 冬海(水彩聯盟展) 春日部たすく

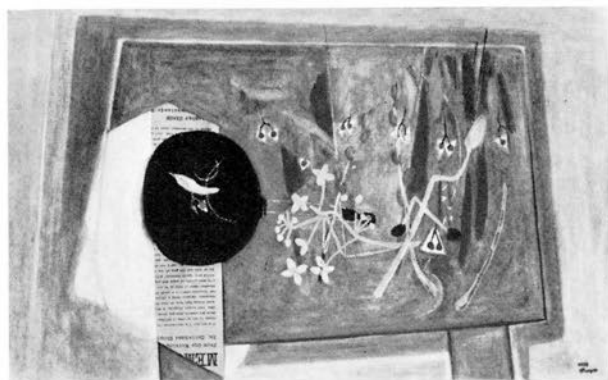
洋画



72 ベニス (示現会展) 松本重雄



73 トレド (示現会展) 大内田茂士



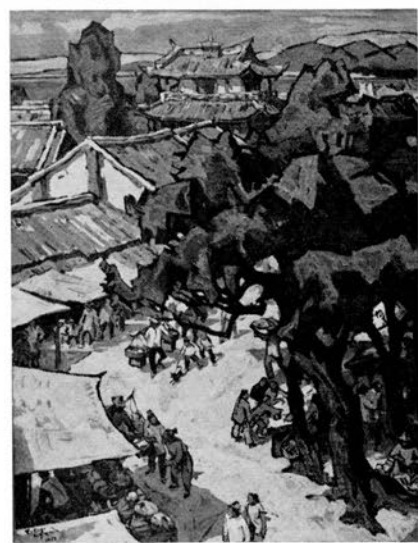
74 菩提樹など (水彩聯盟展) 上田哲農



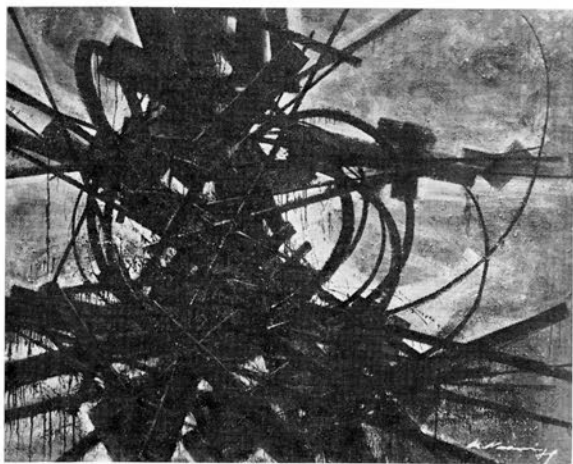
75 燈台 (雨晴会展) 岡鹿之助



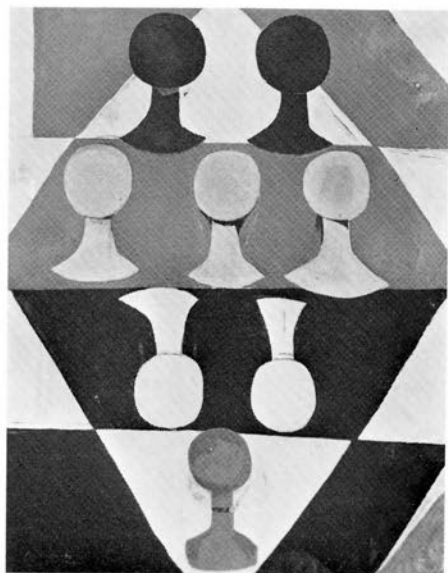
76 内なる野性6 (モダンアート展) 勝本富士雄



77 南国の露店 (示現会展) 石川寅治



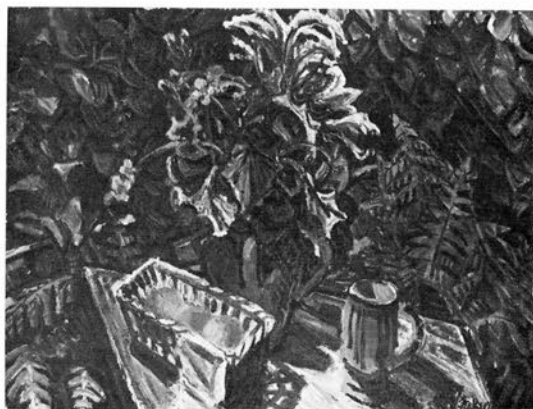
78 反 乱 (モダンアート展) 中井 幸一



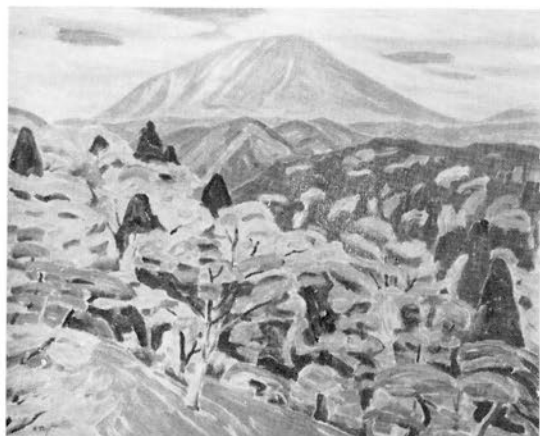
81 美人コンクール (モダンアート展) 矢橋 六郎



79 牛の親子 (モダンアート展) 山口 薫



82 静 物 (光風会展) 中村 研一



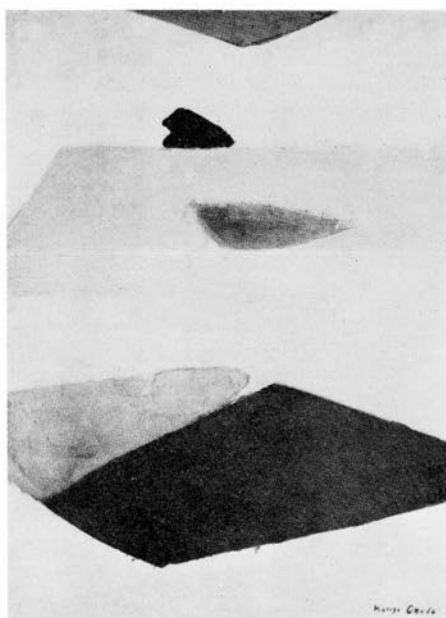
80 日光秋景 (光風会展) 辻 永



83 西 銀 座 (光風会展) 小篠源太郎



84 通り町の街 (創元会展) 樋口治平



87 明け方 No. 2 (アメリカ抽象六人展) 岡田 謙三



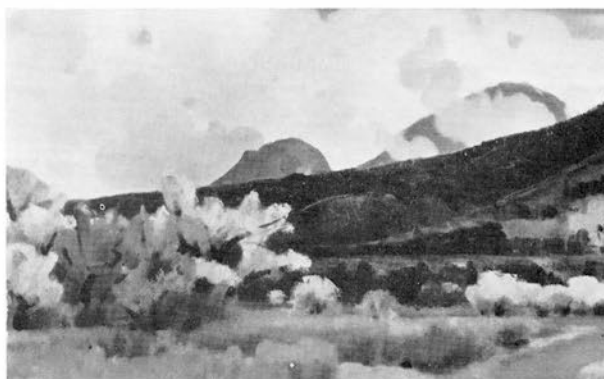
85 群像 (春陽会展) 藤井令太郎



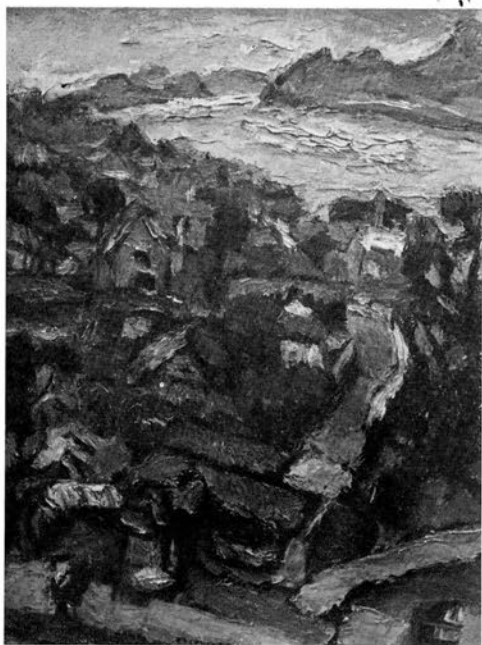
88 紫の花と夕陽 (個展) 木田金次郎



86 夏の海辺 (光風会展) 中沢弘光



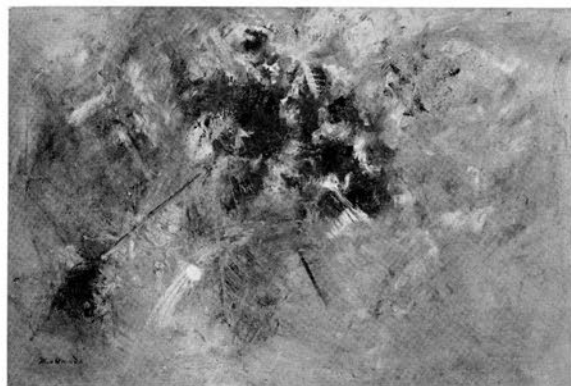
89 高原の春 (創元会展) 倉員辰雄



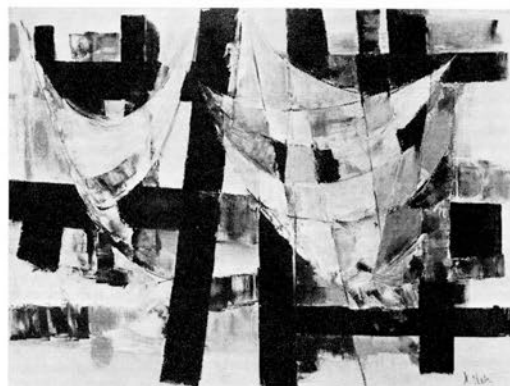
90 長崎の夕暮(春陽会展) 中川 一政



93 闘牛 (春陽会展) 水谷 清



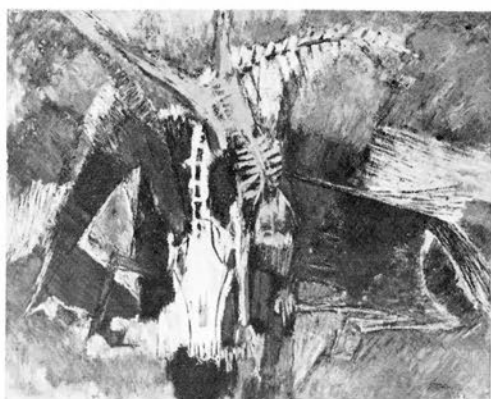
91 花 (春陽会展) 小柳秀太郎



94 碗 (春陽会展) 中山 寛郎



92 船 (春陽会展) 宮城 音蔵



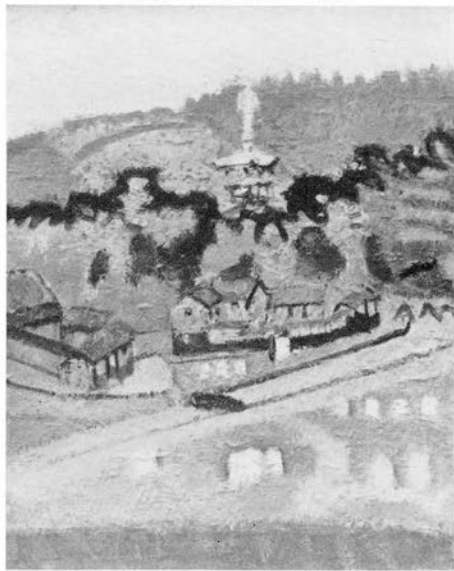
95 落馬 (春陽会展) 田畔 司朗



96 四月阿呆 (春陽会展) 南大路 一



99 樹 木 (国画会展) 庫田 菱



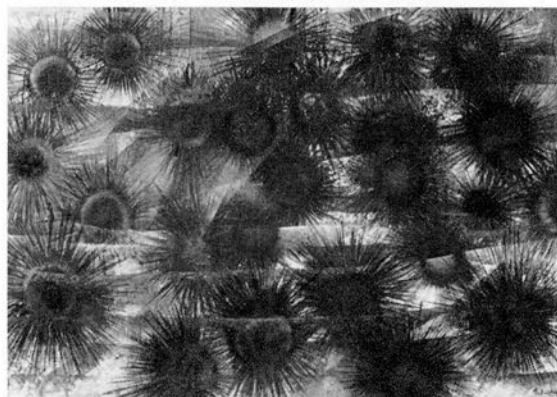
97 晩秋西ノ京 (国画会展) 杉本 健吉



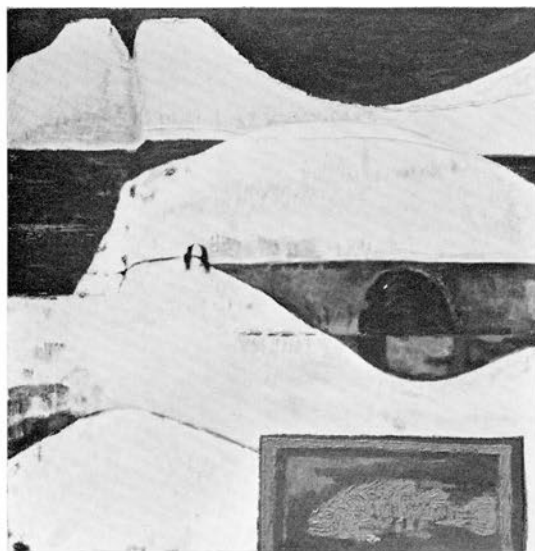
100 ヴェニス (国画会展) 梶原竜三郎



98 波 騒 ぐ (国画会展) 熊谷 九寿



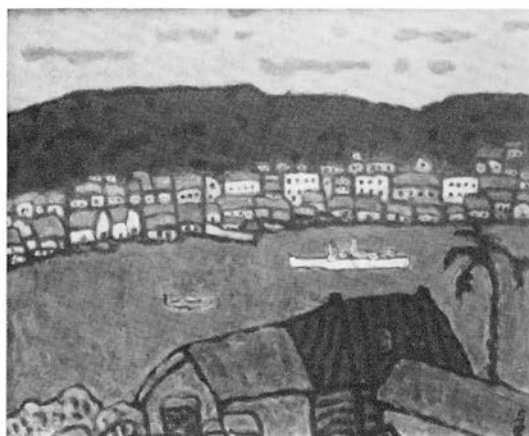
101 う に (国画会展) 立石 鉄臣



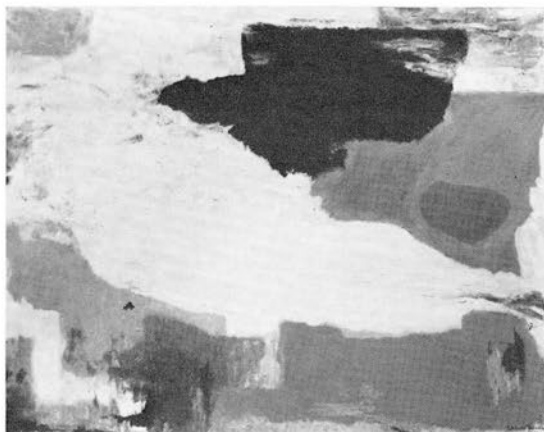
102 魚の碑 (国画会展) 国松 登



105 椅子に凭る (東光会展) 石木 秀雄



103 夕陽(長崎) (東光会展) 斎藤 与里



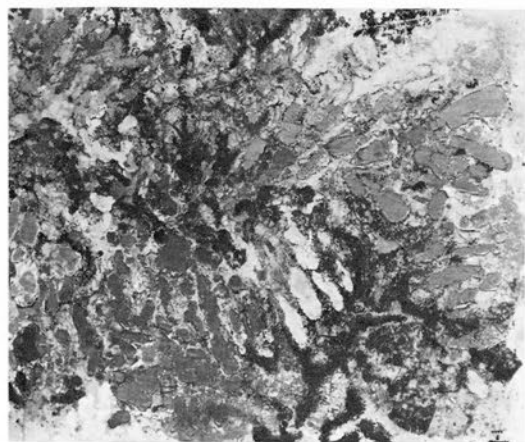
106 海風 (国際展) 高岡 惣七



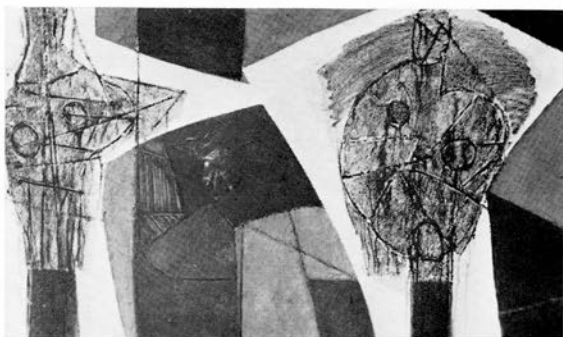
104 農村冬景 (東光会展) 佐藤 一章



107 サロメの踊り (国際展) 三雲祥之助



108 湧く (国際展) 杉全直



111 二つの像 (国際展) 三岸節子



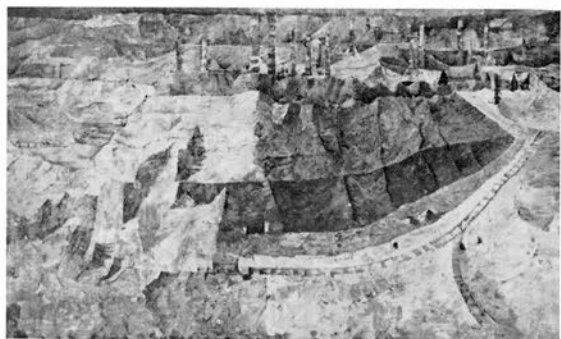
109 作品X E (秀作展) 岩崎 鐘



112 横たわる女 (国際展) 小磯良平



110 家族 (国際展) 麻生三郎



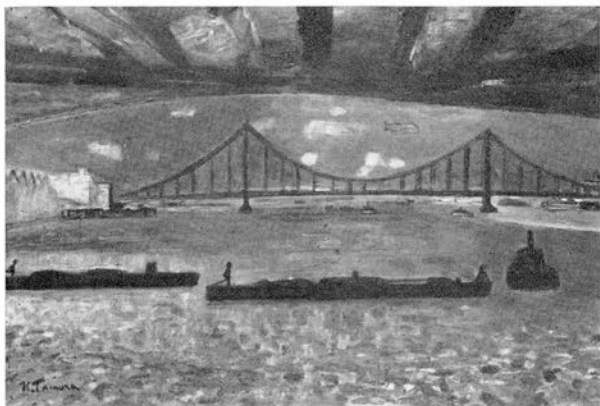
113 陶土 (国際展) 中谷 泰



114 蝶 (国際展) 海老原喜之助



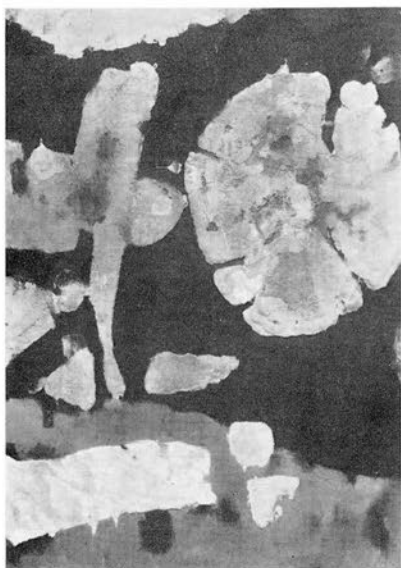
117 地獄門 (国際展) 福沢一郎



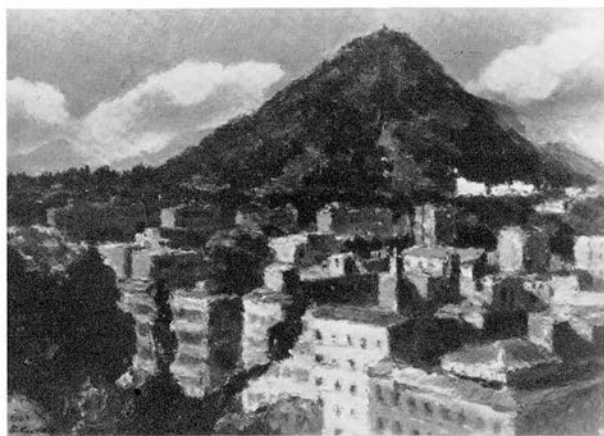
115 隅田川 (国際展) 田村孝之介



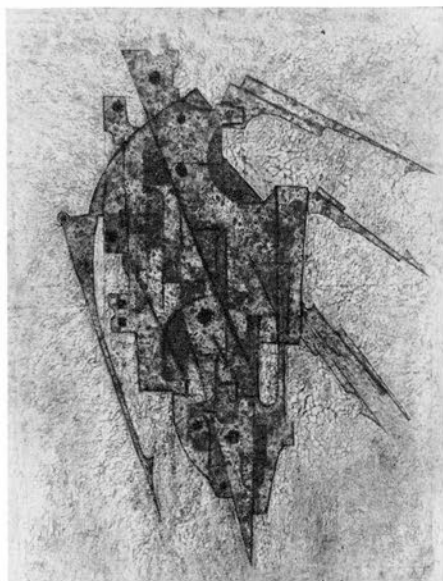
118 座像 (国際展) 林武



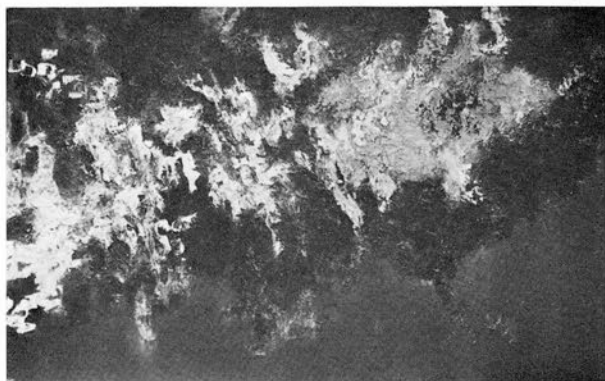
116 青の跡 (国際展) 斎藤義重



119 サンチャゴ (国際展) 栗原信



120 戦 舞 (新象展) 土井俊生



123 作 品 (国際展) 山田栄二



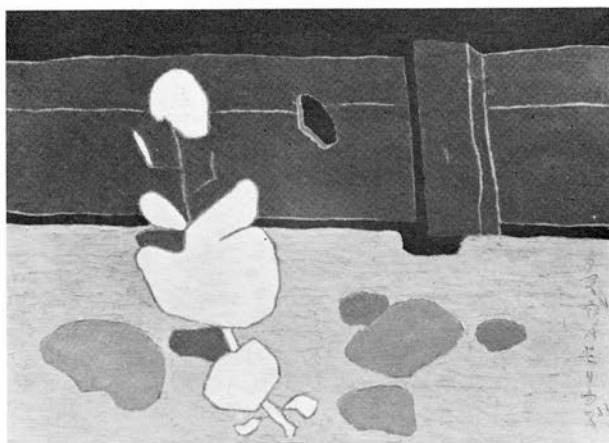
121 静 物 (太平洋展) 坂本繁二郎



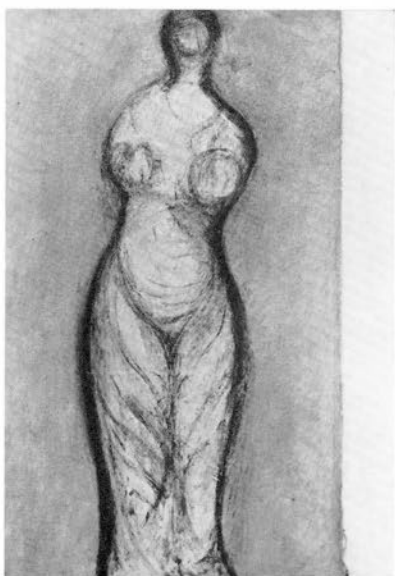
124 休 む (女流画家展) 小川孝子



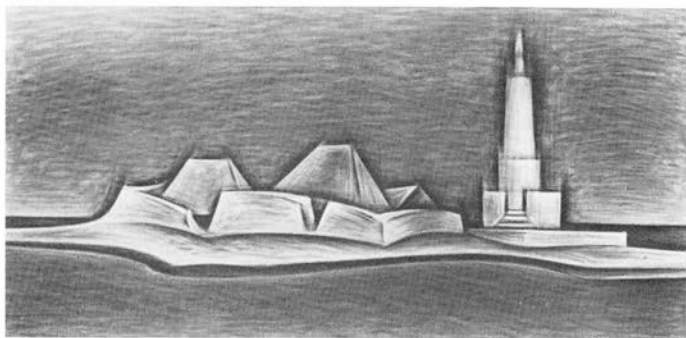
122 マ ス ク (国際展) 岡本太郎



125 軒の葉の花 (尚美展) 熊谷守一



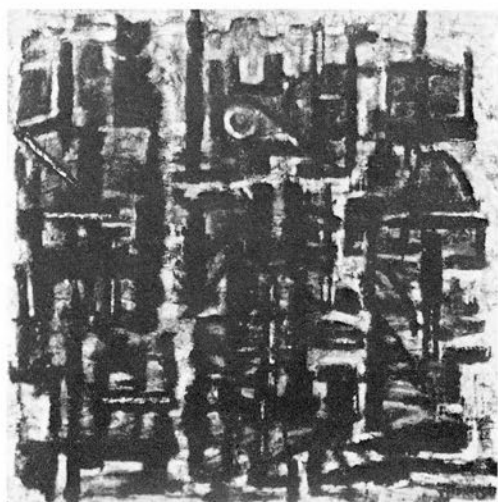
126 裸 婦 B (新樹会展) 三岸 黄太



129 灯 台 (立軌会展) 牛 島 憲 之



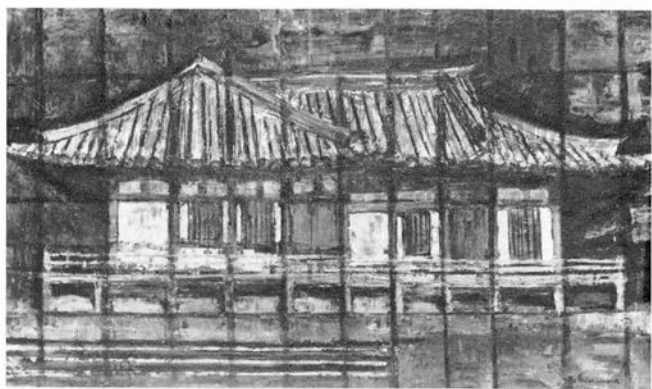
127 夏 の 海 (新樹会展) 井 手 宣 通



130 作 品 A (立軌会展) 秋 野 卓 美



128 フアルスA (新樹会展) 朝 井 関 右 衛 門



131 三 月 堂 (新樹会展) 島 村 三 七 雄



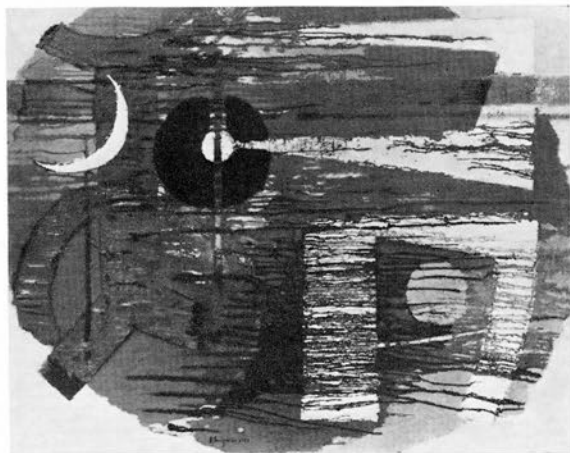
132 唐 津 (立軌会展) 須田 寿



133 宇 治 川 (立軌会展) 飯島 一次



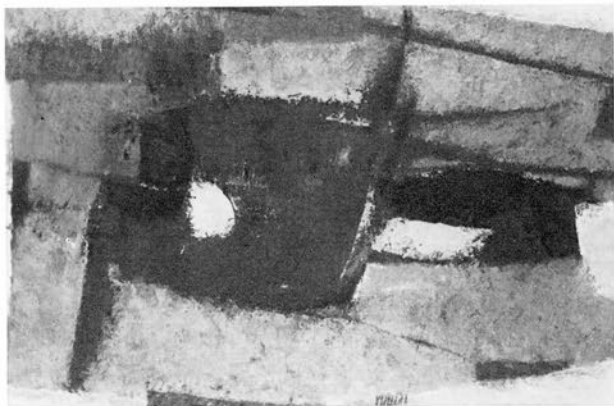
134 作 品 C (立軌会展) 若狭 曉男



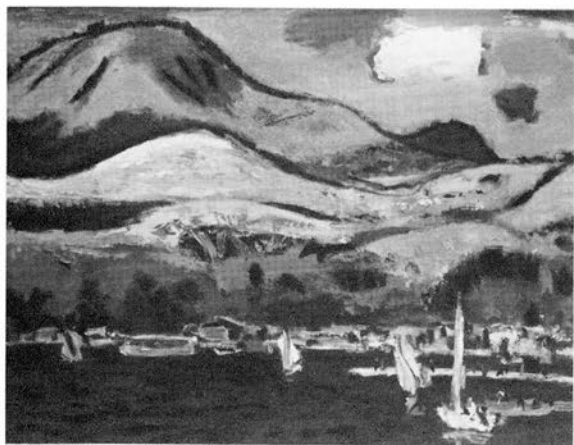
135 変貌なき世界 (立軌会展) 榎戸 庄衛



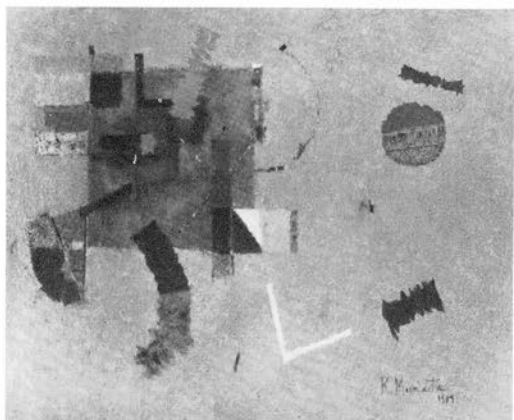
136 流 (行動美術展) 田中 稔之



137 みなもと (行動美術展) 江見 絹子



138 芦の湖畔 (行動美術展) 田辺三重松



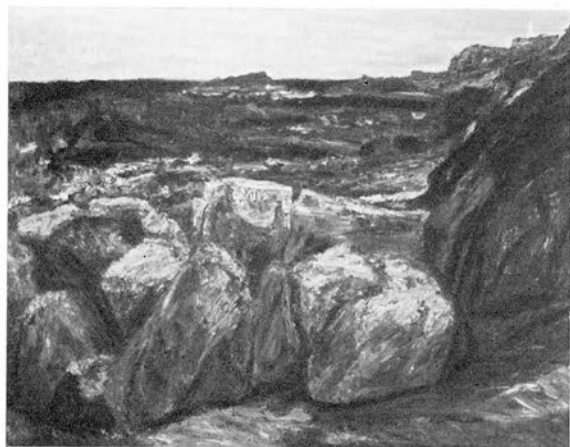
141 会合 (行動美術展) 村田實史雄



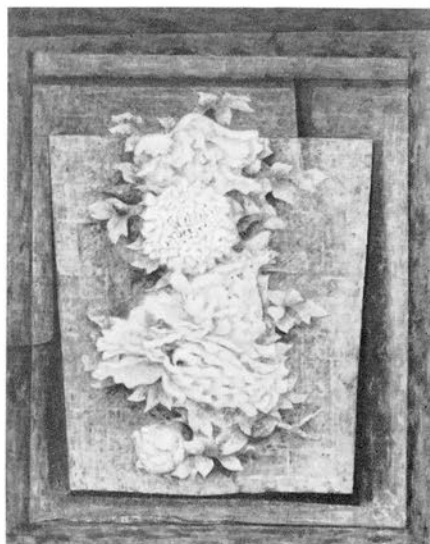
139 兵器廠跡と大阪城 (行動美術展) 小出卓二



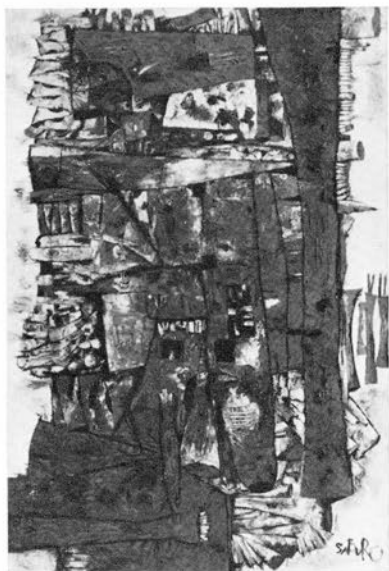
142 蝗のむれ (二科展) 北川民次



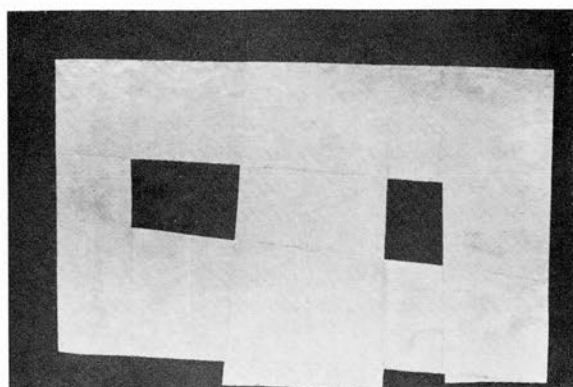
140 大地の岩 (行動美術展) 古家新



143 花 (二科展) 西村竜介



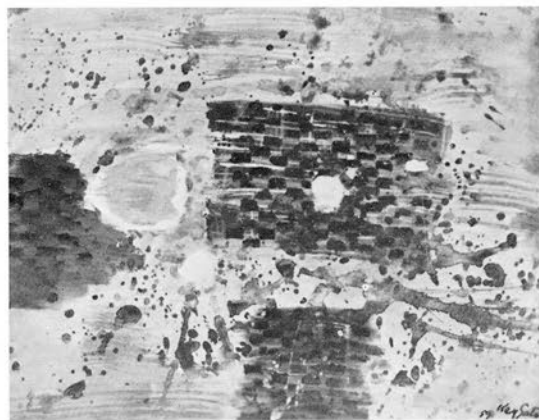
144 酸 化 (二科展) 斎藤 三郎



147 立 (二科展) 山口長男



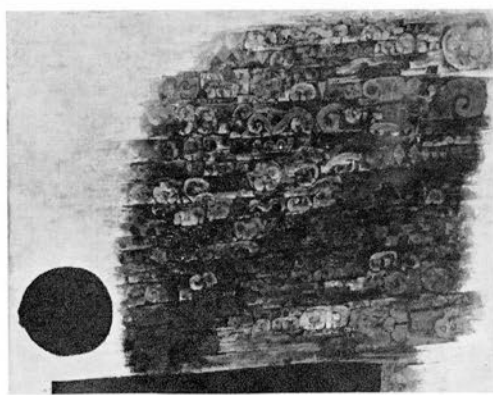
145 緩和(Relax) (新制作展) 斎藤 正夫



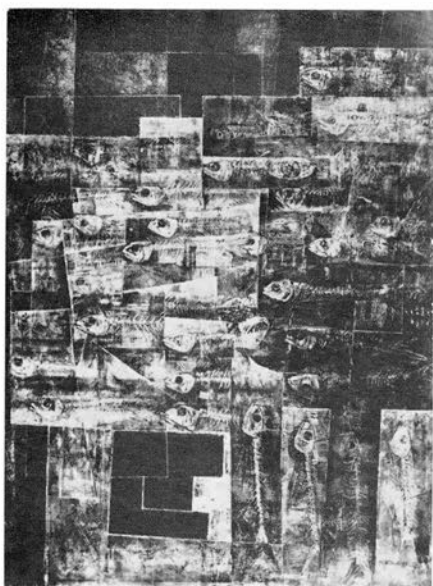
148 朝の生 (新制作展) 佐藤 敬



146 耐 (二科展) 多賀谷伊徳



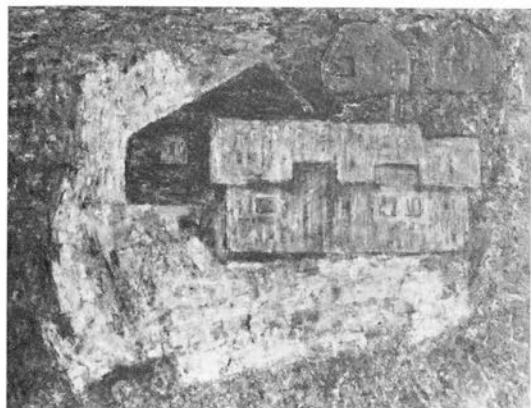
149 因 襲 (新制作展) 赤穴 宏



150 EPITAPH(1) (新制作展) 草野 誠



153 窓辺の静物 (一陽会展) 鈴木信太郎



151 「原野」より (一陽会展) 長谷川三千春



154 想思樹の実 (新制作展) 脇田 和



152 自ら畏にかかった精霊(新制作展) 田淵安一



155 夜夜の星 (一陽会展) 野間仁根



156 月寒の夏 (一水会展) 木下義謙



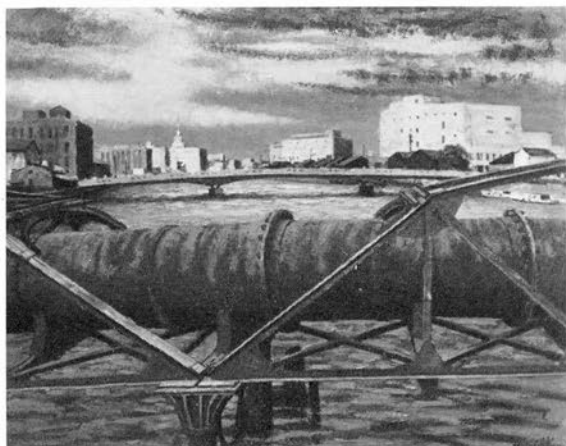
159 アルチシヨウ (一水会展) 高橋 晴男



157 ホームバー (一水会展) 木下孝則



160 秋の浅間山 (一水会展) 田崎 広助



158 大阪川口風景 (一水会展) 林 鶴雄



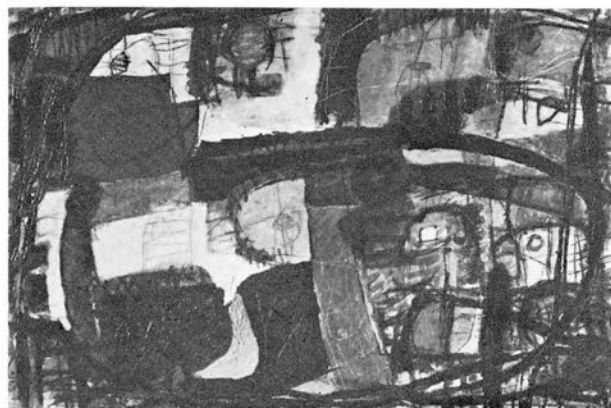
161 花 (一水会展) 仲田好江



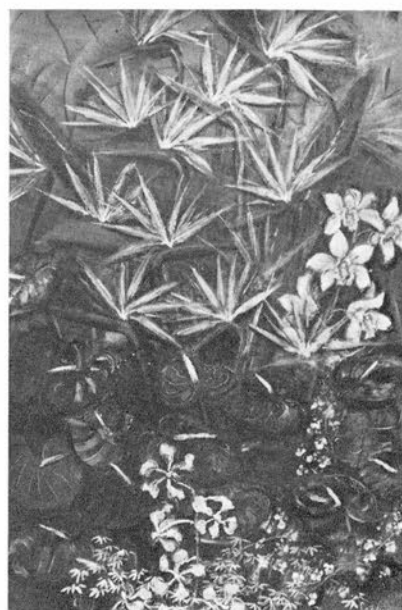
162 シェルブール港 (二紀会展) 児玉幸雄



165 流水(3)(手取川) (二紀会展) 宮本三郎



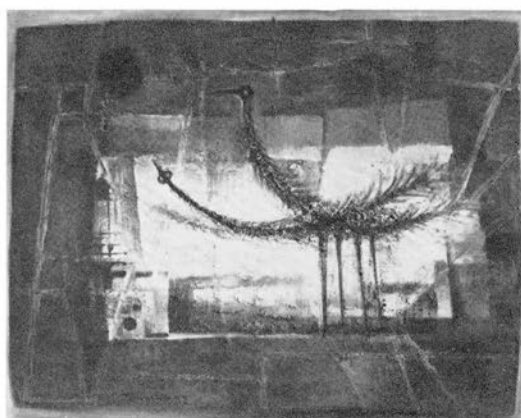
163 市 街 (二紀会展) 佐野繁次郎



166 花 (二紀会展) 佐伯米子



164 長崎家「三菱炭鉄クラブ」 (二紀会展) 鍋井克之



167 双 鳥 (二紀会展) 金田辰弘



168 人々と煙突 (自由美術展) 森 芳雄



171 寓 話 (自由美術展) 井上長三郎



169 鳥と青年 (自由美術展) 糸岡和三郎



172 繪 着 場 B (独立展) 西田藤次郎



170 群 青 (自由美術展) 末松正樹



173 戦 史 (自由美術展) 小野木 学



174 自由を讃える饗宴『センタービルの壁面のために』(独立展) 高橋 忠 弥



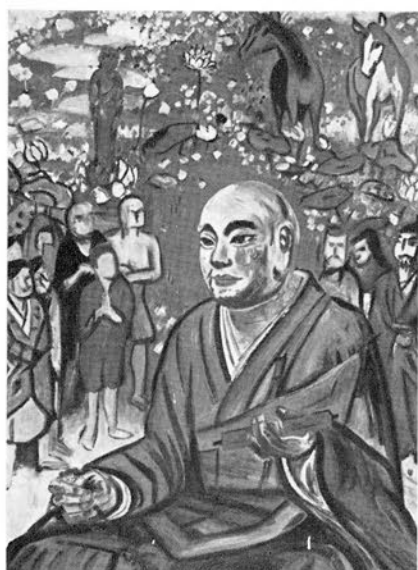
177 山 村 A (独立展) 斎 藤 長 三



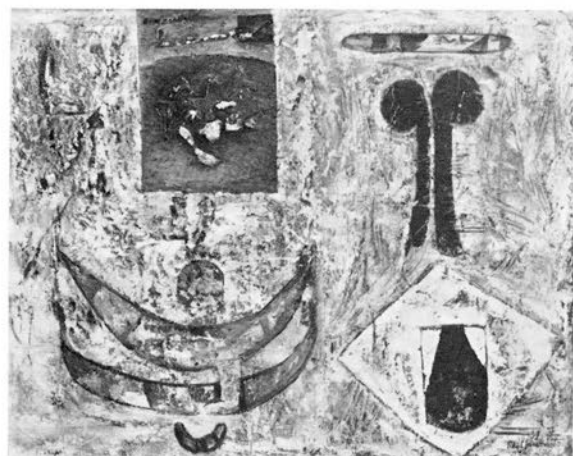
175 青 衣 (独立展) 児島善三郎



178 壁の修理 (独立展) 島 海 青 児



176 日蓮聖人像 (独立展) 野口弥太郎



179 白と黒作品 (独立展) 山 本 正



180 海（独立展）小林和作



181 熱 海（独立展）高橋達四郎



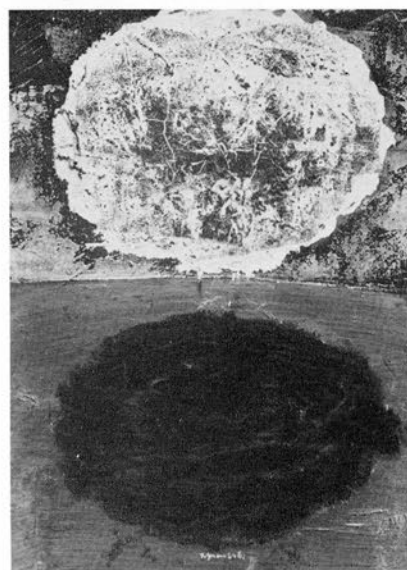
182 鉄 山（独立展）須田国太郎



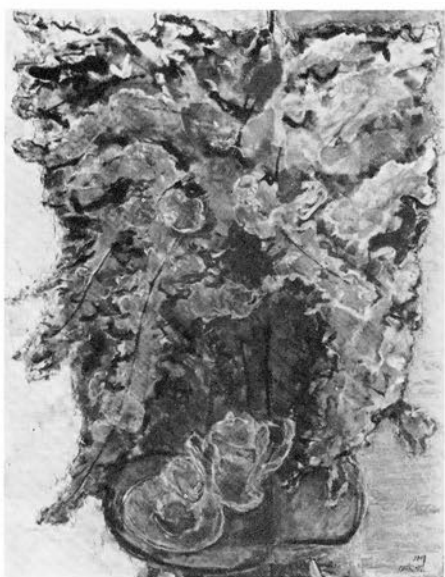
183 追はれる鳥（独立展）鈴木保徳



184 港運河(横浜風景)（独立展）斑目秀雄



185 影おとす雲（二人展）山崎隆夫



186 萩咲き初む (日展) 鈴木千久馬



189 黒衣 (日展) 森田元子



187 少女像 (日展) 中野和高



190 高層湿原 (日展) 田村一男



188 流野園龍灘 (日展) 小山敬三



191 画室の女 (日展) 中村琢二



192 雪 男 (個展) 福沢一郎



195 群れ (安井賞新人展) 中本達也



193 スペインの旅 (日展) 新道繁



196 父と子 (個展) 佐藤真一



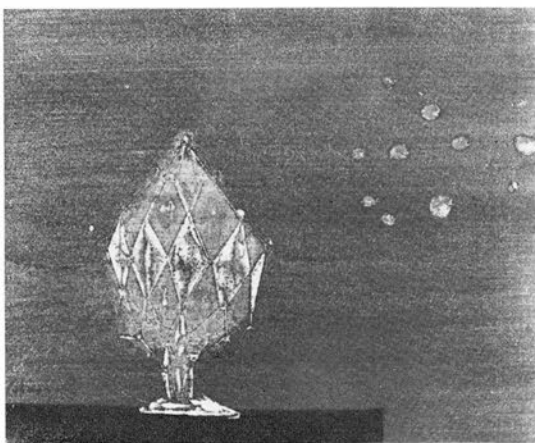
194 渡辺夫人の像 (日展) 山下新太郎



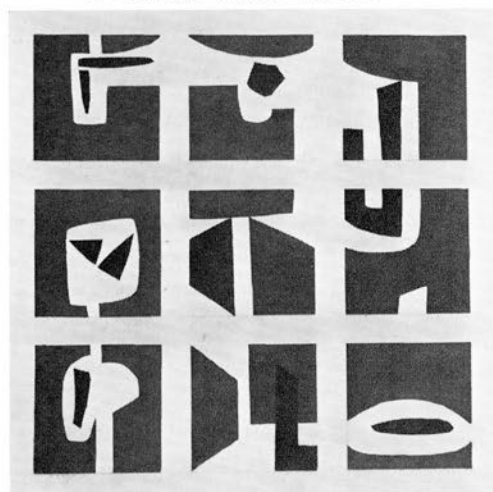
197 室内少女 (日展) 鬼頭鍋三郎



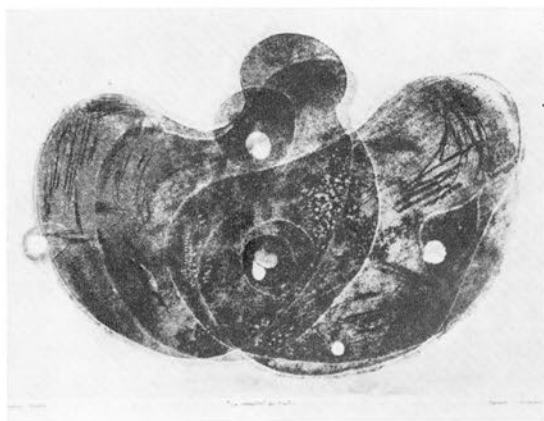
198 同床異夢 (国際展) 浜田知明



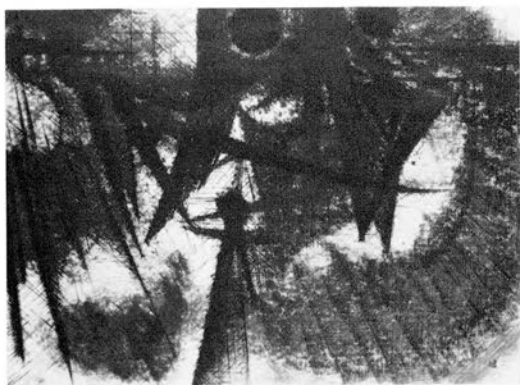
201 キリコ (春陽会展) 清宮 賀文



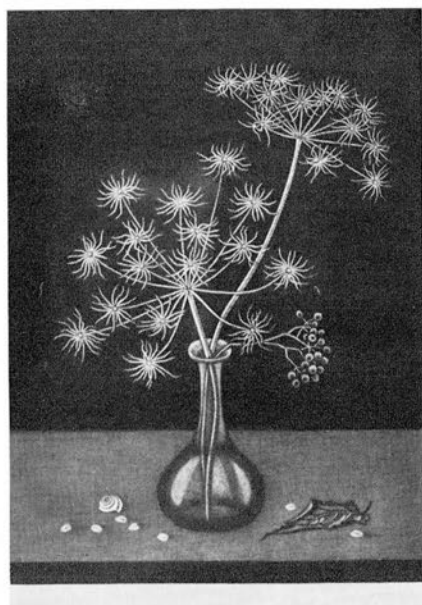
199 相対性絵画 No.5 (モダンアート展) 吉田 政次



202 果実の受胎 (春陽会展) 駒井 哲郎

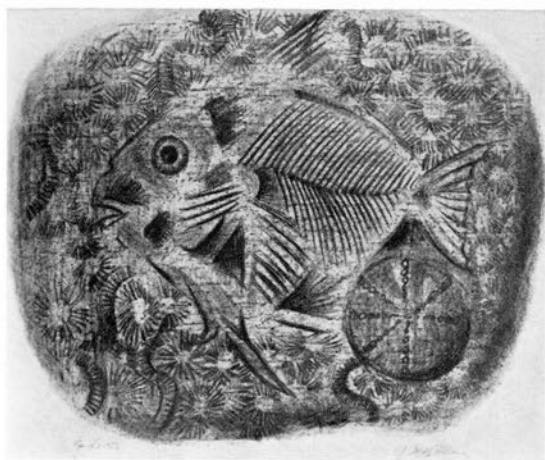


200 埋める (日本版画協会展) 鈴木 幹二

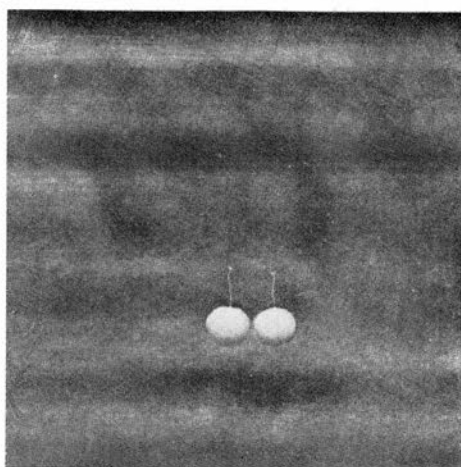


203 秋 草 (春陽会展) 長谷川 潔

版 画



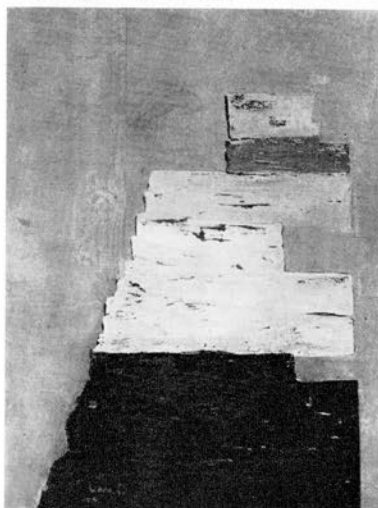
204 魚 (日本版画協会展) 益田 義信



207 板 桃 (国際展) 浜口 陽三



205 摩奈波門多に建つ (日展) 棟方 志功



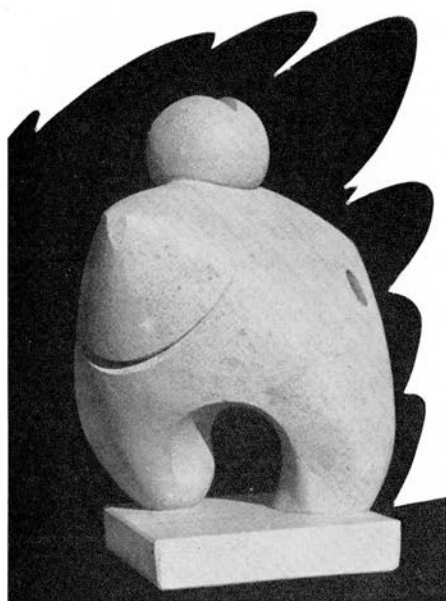
208 黎 明 (日本版画協会展) 萩原 英雄



206 追 念 (日本版画協会展) 山口 源



209 空中に咲く花 (新樹会展) 永瀬 義郎



210 作品 39 (個展) 木村賢太郎



212 う れ (新制作展) 佐藤忠良



215 哭 く (国際展) 本郷 新



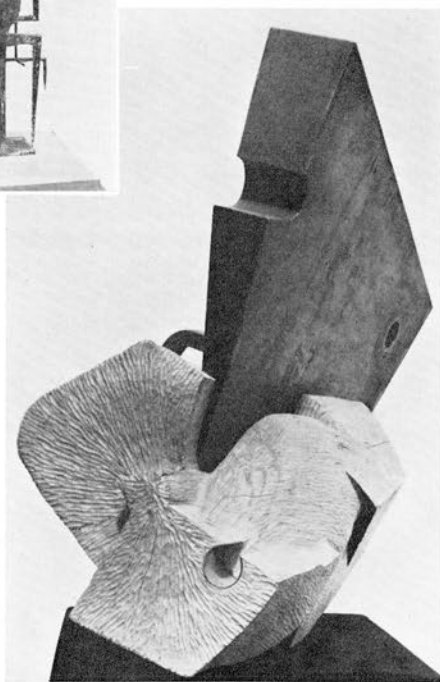
211 双 品 (詩と彫刻二人展) 樋口 シン



213 作品 (日本アンデパンダン展) 井上武吉



214 U・S博士 (院展) 新海竹蔵



216 違 和 (二科展) 平川正道

彫 塑



217 作品 5 (新樹会展) 大滝直平



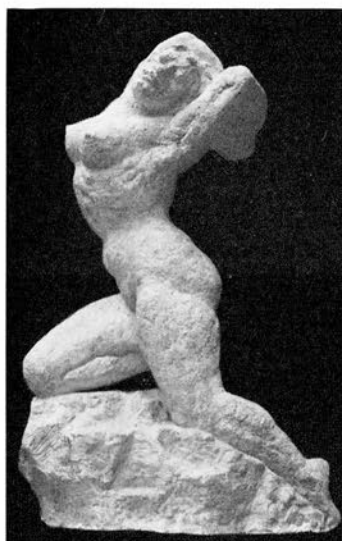
220 婦人座像 (国際展) 木内 克



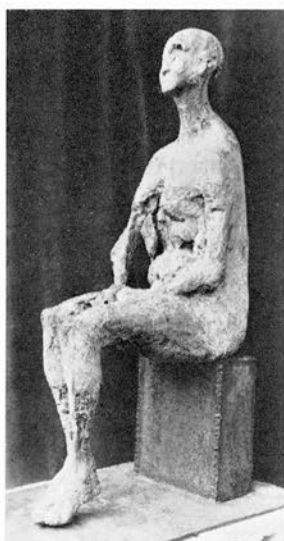
218 波・群 (二科展) 淀井敏夫



221 ペラペラ (院展) 仁田原英二



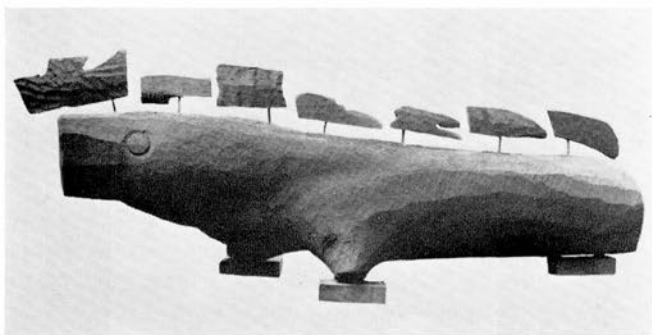
219 1959年 (創型会彫塑展) 中野四郎



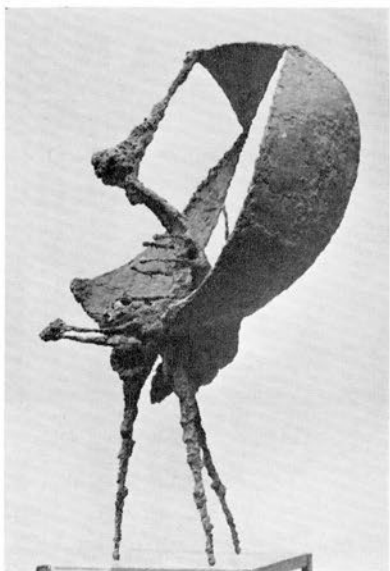
222 座る(女) (国際展) 柳原義達



223 裸婦 B (院展) 四田昌二



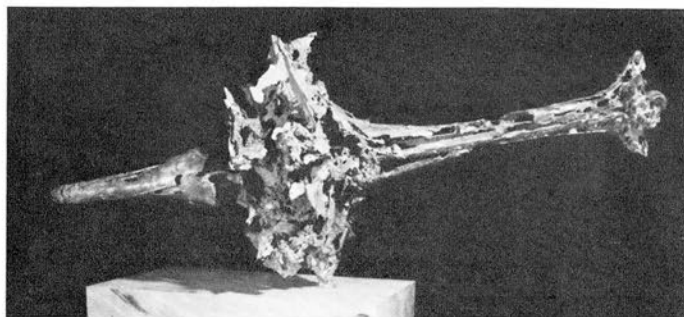
224 這 (一陽会展) 金田 忠



225 鳥 (二紀会展) 坂上政克



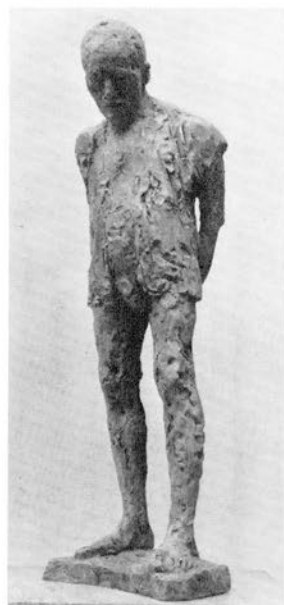
227 女(ち) (二紀会展) 堀 義雄



228 金属の空間 (行動美術展) 向井良吉



226 漂流 2 (新制作展) 豊福知徳



229 工匠(新制作展) 吉田芳夫



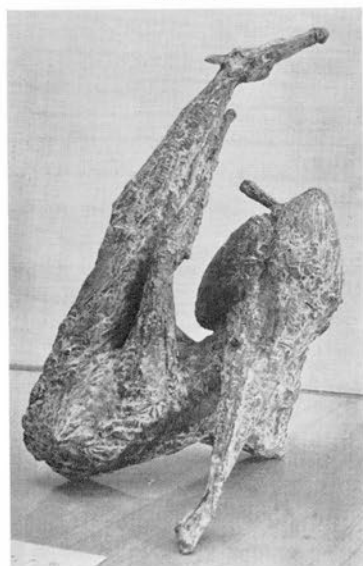
230 或るモニュマン (行動美術展)
中島快彦



231 人によせてA (植木茂・山崎隆夫二人展)
植木 茂



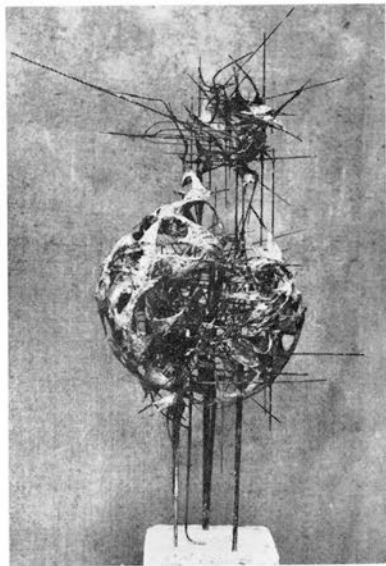
233 Meile Roseline Sirouy (日展) 安田周三郎



232 落ちた馬 (白樹会展) 伊東 傀



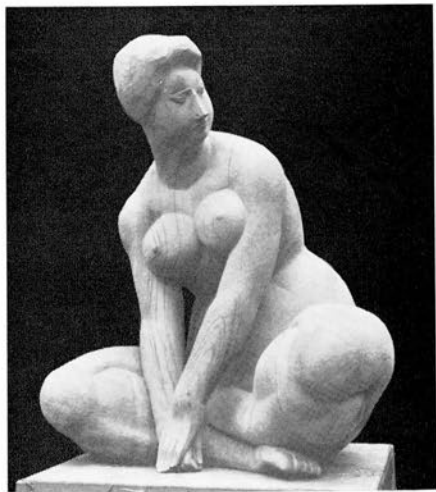
234 立つ女 (日展) 黒田嘉治



236 巢 No. 70 (自由美術展) 森 堯茂



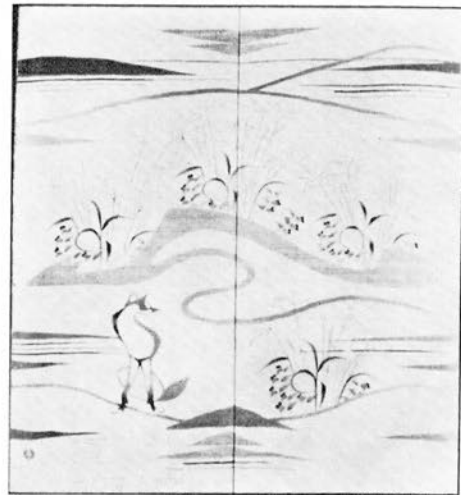
235 曼珠沙華 (日展) 沢田政広



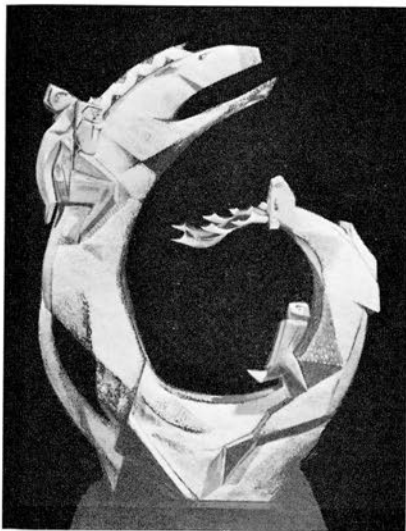
237 膝 脂 (日展) 羽紫小枝子



238 松林の図肩側釜 (日本伝統工芸展) 長野 埜志



241 型染屏風野草の図 (日本伝統工芸展) 稲垣稔次郎



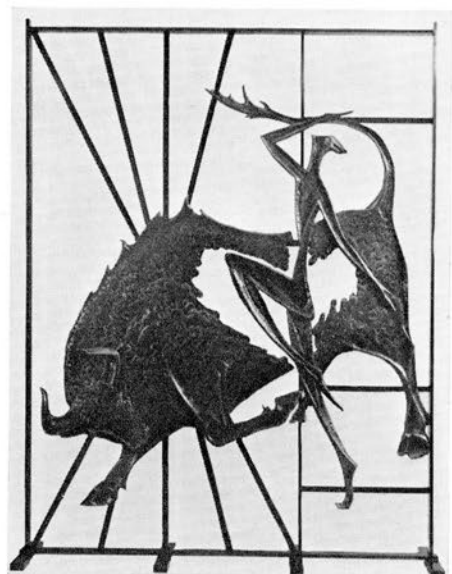
239 駒 隙 (日展) 野口晴朗



242 平文箱 (日本伝統工芸展) 大場松魚



240 備前角台鉢 (日本伝統工芸展) 金重陶陽

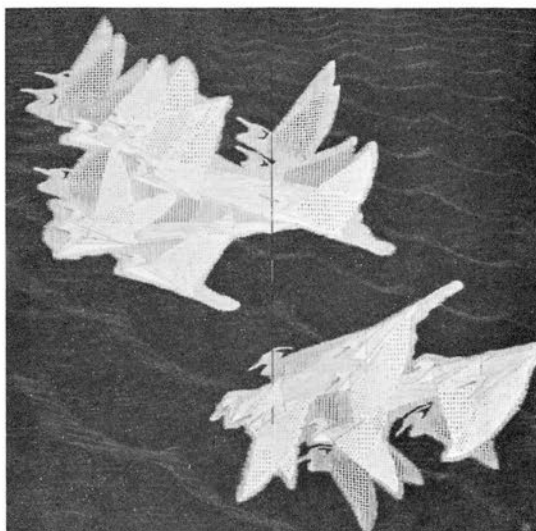


243 野牛と NYMPH (日展) 蓮田脩吾郎

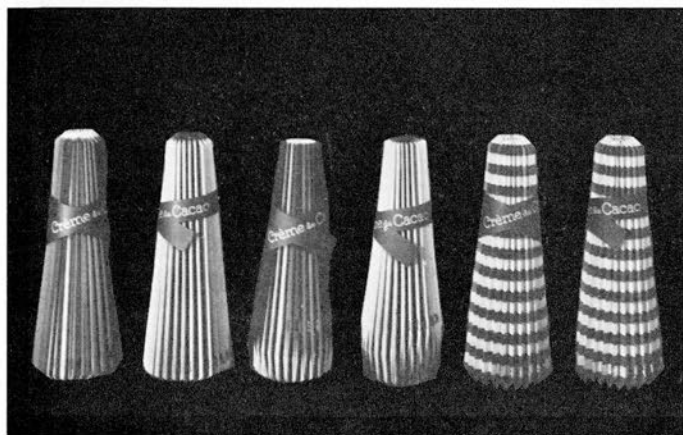
工芸・デザイン



244 金銀彩甕 (日展) 楠部弥弼



247 朝顔湖面の影 (日展) 岸本景春



245 クレーム・ド・カカオ(贈答用パッケージ) (日宣美展) 田宮 啓 夫



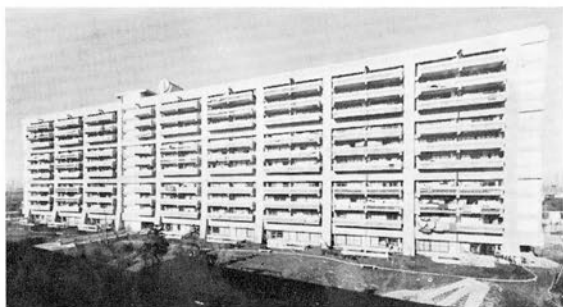
248 聖書物語より(ベツレエム母親の嘆き)
(日宣美展) 船垣行一郎・吉 沢 一 浩



246 ポスター(ニューヨーク・タカシマヤテキスタイル展) (日宣美展) 田中一光



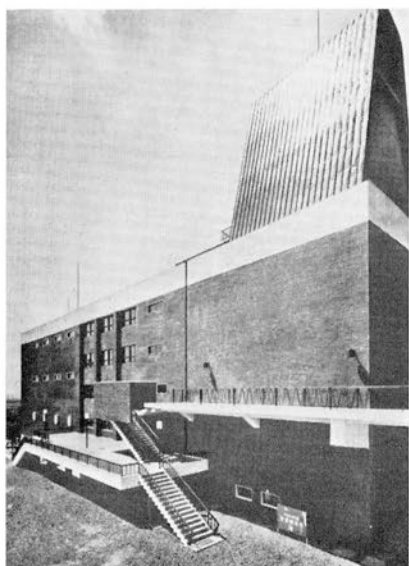
249 クリスタル硝子鉢 (日展) 各務 敏 三



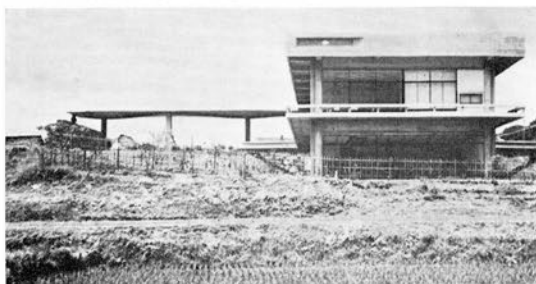
250 日本住宅公団晴海高層アパート 前川国男建築設計事務所設計



251 東京国際貿易センター 村田政真建築設計事務所設計



252 寿屋山崎工場 安井建築設計事務所設計



253 大多喜町役場 今井兼次設計



254 西洋美術館 ル・コルビュジエ設計



255 長崎水族館 武基雄研究室設計



256 世田谷区民会館 前川国男建築設計事務所設計



257 菊竹 郎 菊竹清訓・紀枝設計

建 築 (図版写真は新建築社提供による)

遺作展



258 煌く嫉妬(異色作家シリーズ展) 戸張孤雁



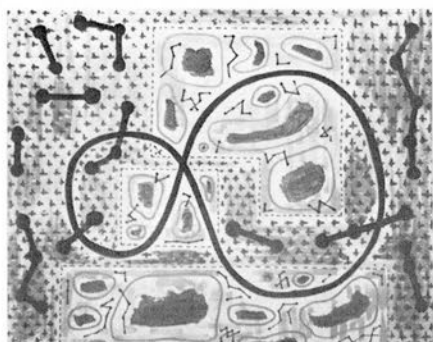
262 序の舞(名作展) 山川秀峰



259 グレー冬(浅井忠水彩画展) 浅井 忠



263 竹外一枝(遺作展) 横山大観



260 蝶の軌跡(異色作家シリーズ展) 長谷川三郎



264 濯東綺談(遺作展) 木村荘八



261 画室小集(一水会展) 石井柏亭



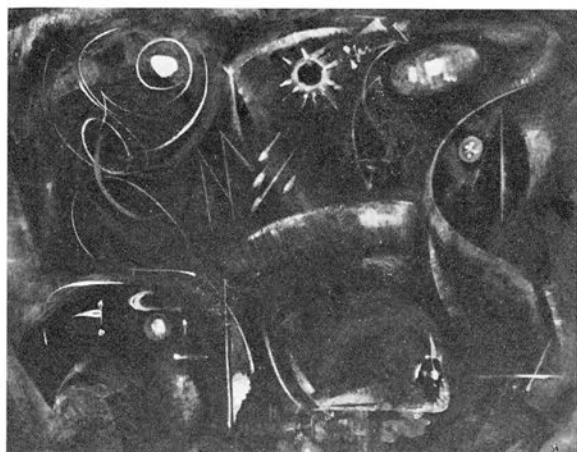
265 嗣信の最後(代表作展) 下村観山



266 ゼ ラ (国際展) エミール・シューマツハー



269 コンポジション (国際展) モンタナリーニ



267 鷲の夜 (国際展) マツソン



270 紅茶沸しの静物 (国際展) ピカソ



268 素 描 (イタリア巨匠二人展) ファツティーニ



271 15 D (国際展) シュネイデル

海外
作家



272 夏 (国際展) プブノフ



273 声 (国際展) フセイン



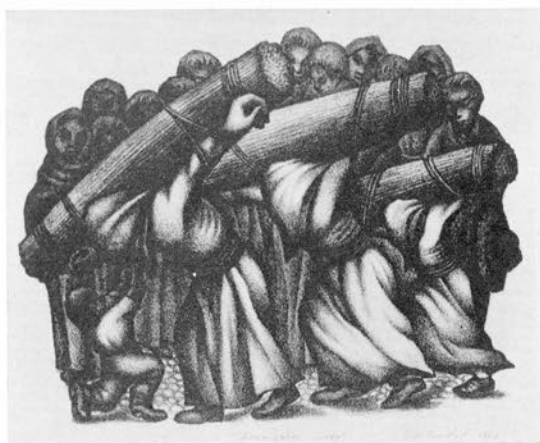
274 女 (国際展) ム ア



276 作品 B (国際展) スワレス



275 変奏曲 (国際展) ブルーム



277 十字軍 (日墨現代版画展) アルベルト・デ・トリニダード・ソリス



278 絹本着色中村内蔵助像(重文)尾形光琳筆 近畿日本鉄道株式会社



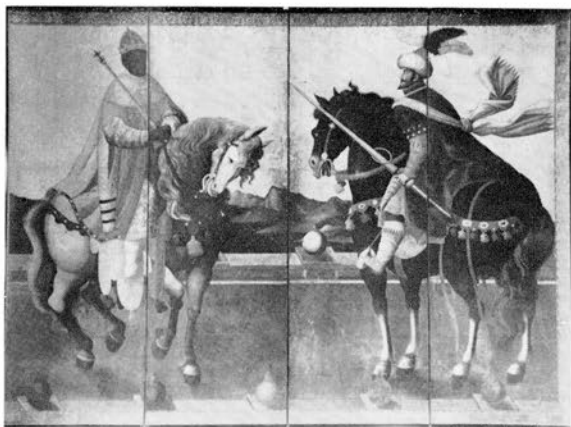
280 絹本着色四聖御影(永和本)(重文) 東大寺



283 紙本墨画風雨山水図(重文) 小田栄作



279 石造如来立像(重文) 大倉集古館



281 紙本金地著色秦西王侯騎馬図四曲屏風(重文) 藤井徳義

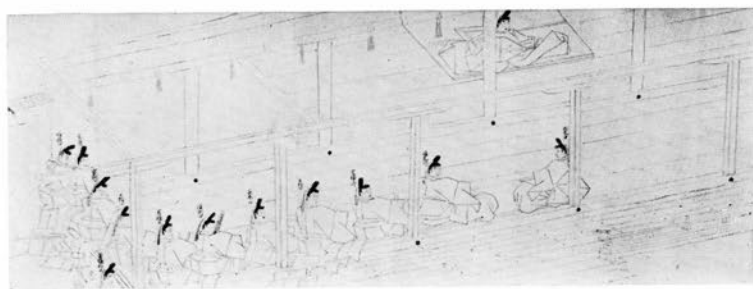


282 木造大日如来坐像(重文) 金剛峯寺



284 銅造釈迦如来坐像(重文) 三田庄三郎

古美術



285 紙本白描建保六年中殿御会図(重文) 九条 道秀



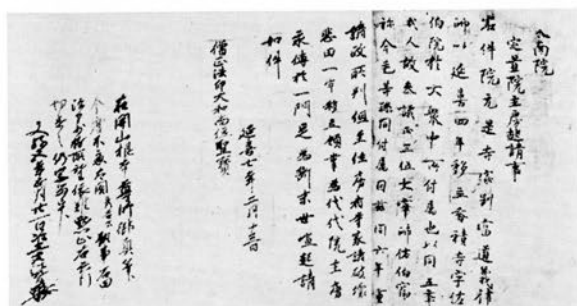
290 宋版新編醉翁談録(重文)
天理大学附属天理図書館



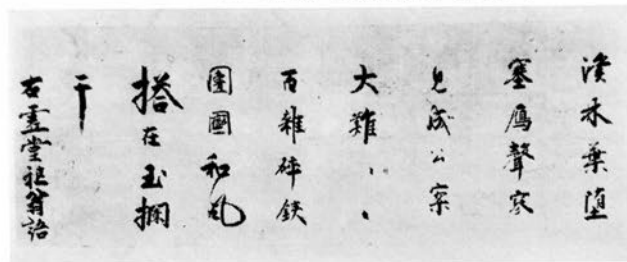
286 和歌体十種(国宝) 高野 時次



291 色鍋島松竹梅文瓶子(重文) 中島いわず



287 東南院々主房起請(重文) 醍醐 寺



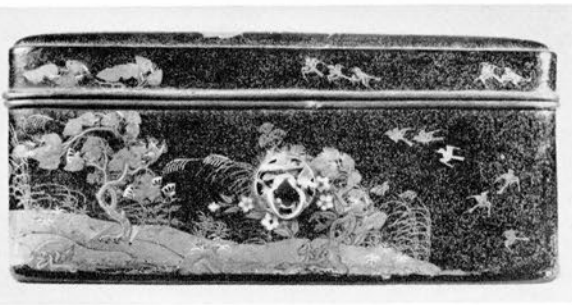
288 大燈国師墨蹟(重文) 藤原銀次郎



292 孔雀文罿(重文) 松本 市



289 紫紙金字法華經卷第一(重文) 藤井孝昭



293 秋野時絵手篋(重文) 遠山 元一



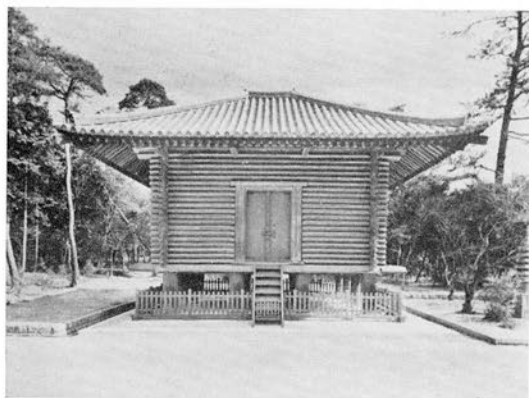
294 馬具(金銅杵葉)(重文)筑前宗像神社
沖津宮祭祀遺跡出土 宗像神社



297 埴輪雞(重文) 横内忠作



298 埴輪男子跪坐像(重文)茨城県西
茨城郡岩瀬町出土 大倉 亀



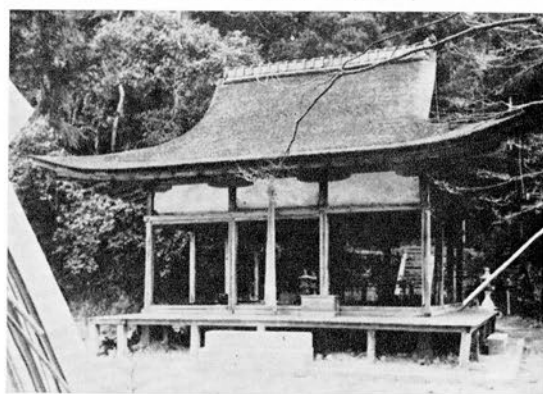
295 唐招提寺宝蔵(国宝) 奈良県唐招提寺



299 瑞巖寺庫裡(国宝) 宮城県瑞巖寺



296 観音寺金堂(重文) 香川県観音寺



300 白山神社拜殿(重文) 滋賀県白山神社

本欄

昭和34年美術界年史

1 月

○「近世絵画の展望」展 6日—18日 於日本橋・高島屋、美術雑誌「国華」の創刊70年を記念して開催されたもの。必ずしも有名品揃とまではゆかぬが、いままて公開の機会の少なかつた作品がかなり多かつただけに衆目を集めた。

○第7回日本工業デザイン賞決定 産業デザイン振興運動の一翼として、毎年、毎日新聞社が主催している新日本工業デザイン・コンペの1958年度(第7回)は、応募点数437点に及んだが審査の結果、特選以下入賞作12点の他、スポンサー賞23点を決定12日発表した。

特選1席 通産大臣賞

ブラザーミシン 勝山直佐子、葉満田貴美子

特選2席 通産大臣賞

クボタホームテラー

GK インダストリアル・デザイン

研究所 本田、吉岡、長、西沢

特選3席 東京都知事賞

パイロット万年筆

塚本定男、西山亘

大阪府知事賞

パロマガス湯沸器

青木哲則

○毎日美術賞 昭和25年から毎日新聞社は、毎年その年度間に、優秀作品を発表、また美術界に貢献した作家に毎日美術賞を贈つてきたが、15日に第10回(33年度)の受賞者を決定、次の通り発表した。

島海青児 第3回現代日本美術展出品「ピカドール」その他の制作活動に対し。(賞金10万円)

山口 薫 第3回現代日本美術展出品「林と動物」その他の制作活動に対し(賞金10万円)

須田国太郎 関西画壇の向上に長期間にわたつてつづいた功績に対し。(特別賞5万円)

○メキシコに日墨協会々館建設 メキシコは第2次大戦中日本と国交断絶し、メキシコ市にあつた日本公使館の資金を凍結したが平和条約締結後、昭和30年には日墨文化協定が結ばれ、31年には凍結資金全額(約2200万円)を解除返還した。日本側は、この好意を両国の親善と文化交流に役立てようと、たまたま創立された「日墨協会」の会館建築費として返還金を寄贈し、同会館は31年12月着工、日系メキシコ人大工の手で建設

された。敷地13,000平方米、木造二階建延1,500平方米、入母屋式の日本風建築で、日本が外国に建てた文化会館としては、初めての建築様式である。1月30日開館式を行つた。

○東京都文化会館着工 東京都の開都500年を記念して上野竹之台に建てられる東京都記念文化会館の起工式が1月末に行われた。総工費13億5,900万円、延21,490平方米の建物で、都民のための音楽、オペラ、バレエなどの上演にふさわしい設備をそなえ、また国際会議場としての大小のホールがつくられる。前川国男設計事務所・ミド同人の設計になるもので、36年春完成の予定である。

2 月

○欧州巡回の日本古美術展無事終了 欧州巡回日本古美術品展覧会は2月1日、最終会場ローマのパラッツォ・ディ・エスポジチオーネにおいて無事終了した。

○文化財専門審議会専門委員の新任 前委員の任期満了に伴い、改めて委員81名を決定、1日付で発令した。殆ど再任の委員であるが新委員は次の8名である。

第一分科会(美術工芸)

山口蓬春、野間清六、水野清一、龍村謙

第三分科会(史跡、天然記念物)

辻 永、駒井和愛、桜田勝徳

第四分科会(無形文化)

浜村米蔵

○木村荘八遺作展 春陽会創立以来の会員で、昨年11月物故した木村荘八の遺作展が、春陽会、毎日新聞社主催のもとに、17日から22日まで日本橋白木屋でひらかれた。フェーザン会時代から、晩年に及ぶ油絵のほか、たけくらべ、湊東綺譚などの挿絵、水墨画を含む100余点の代表的作品が展覧され、木村荘八の初めての、大きな回顧展であり、遺作展であつた。

○高村光太郎賞(第2回) 高村光太郎賞の第2回選考委員会は、21日次の通り受賞者を決定した。

造型部門 豊福知徳(新制作協会々員)の木彫「漂流」

詩部門 山之口鏡「定本山之口鏡詩集」(原書房) 故草野天平「定本草野天平詩集」(弥生書房)

授賞式は4月2日、高村光太郎の命日に行われる。

○法隆寺献納宝物展 20日—4月12日、於東京国立博物館、明治11年に法隆寺より帝室に献納した宝物一切、

300点に及ぶ品々を公開陳列した展覧で、その作品は正倉院御物に匹敵する。宝物の時代も飛鳥・奈良を中心に平安鎌倉から近世の遺品に及び、「聖徳太子及び二王子像」「鳳凰円文螺鈿唐櫃」などわが国古美術の最高級品を数多く含んでいる。

○日本藝術院恩賜賞・日本藝術院賞決定 昭和33年度(第15回)恩賜賞ならびに藝術院賞が決定し25日発表された。

恩賜賞

木村荘八 「東京繁昌記」の文章と絵に対して

藝術院賞

(第一部美術部門)

加藤 栄三 (日本画) 33年日展作品「空」に対し

森田 沙伊 (日本画) 33年日展作品「少年」に対し

小山 敬三 (洋画) 一水会出品「白鷺城」連作に対し

林 武 (洋画) 33年の「回顧・新作」個展に対し

井上 良斎 (陶器) 33年日展出品「丸文陶平皿」に対し

大須賀 喬 (彫金) 33年日展出品「金彩透彫飾皿」に対し

中村 順平 (建築) 長年の業績に対し

木村荘八は、一昨年の折口信夫に次で故人としては二度目の受賞に当る。授賞式は5月26日日本藝術院会館で行なわれた。

○吉川逸治、パリ日本会館々長に就任 東大文学部教授吉川逸治は、パリの日本会館々長就任のため23日渡仏した。任期は2年。

○東京藝術大学教授前田青邨の後任に吉岡堅二決定 今年から67才を定年として、定年制が実施されることになった藝大では、前田青邨、石井鶴三、丸山不忘、脇本楽之軒がこれに該当し勇退することとなった。なかでも日本画科は、従来教授をはじめ助教授、講師のほとんどを院展系作家で占めていたため、日展系作家の不満も多かったが、それが1月8日の美校日本画出身者の同窓会で表面化し、「朝日」「東京」などの紙上で大きく報道され波紋をおこした。後任教授の問題は、その後も、日展、院展両派の対立抗争としてしばしばジャーナリズムの取りあげるところとなったが、藝大は独自の立場から選考、後任は吉岡堅二ときまつた。なお吉岡堅二は助教授として任命される。

○高徳院銅造阿弥陀如来坐像保存修理 鎌倉大仏の名で親しまれていた阿弥陀如来像の保存修理は2月に鎌倉大仏修理委員会(委員長関野克東大教授)をつくり、第1-4半期より着工した。

3 月

○丸善ビルにクラフトセンター新設 日本クラフト・セ

ンターでは、丸善の協力を得て、日本各地に埋れているハンドクラフト製品の健全な発達と、優秀性を内外に紹介するため、東京日本橋の丸善ビル3階に恒久的な展示場を設けた。各地の陶磁器、木竹工藝、金工、ガラス製品、紙、玩具など陳列品は各種に及ぶが、クラフト・センター所属の勝見勝、渡辺力他10名のデザイナーの厳格な選衡により国際水準に達した優れた作品のみが展示されることになっている。14日から展示をはじめた。

○丹下健三、フランス建築雑誌社から受賞 フランスの建築雑誌「L'architecture D'aujourd'hui」は、同誌が創設した、建築および藝術の国際グランプリ第1回(1959年)受賞者として丹下健三を決定したと、20日報じた。1958年の建築雑誌に発表された現代建築について、「建築と絵画の結びつき(協力)」を重視して審査した結果、丹下の東京都庁舎及び草月会館が受賞対象となつたものである。なお6月7日パリで授賞式が行われ丹下が出席した。

○日本藝術院の新会員 日本藝術院は23日補充会員の選考委員会をひらき、第一部新会員に金島桂華、児玉希望、小糸源太郎が決定した。選考は、さきに選考委員会があげた11人の候補者について(6人の補充予定)各部門毎に会員から書面投票を求めた結果、過半数を獲得した人で、美術部門3人(第一部)、藝能部門1人、計4人であつた。

○国宝・重要文化財新指定 文化財保護委員会は28日国宝及び重要文化財の新指定を行つた。新たに指定された国宝は14件で、瑞巖寺庫裏及び廊下(宮城)や刀無銘正宗(文化財保護委員会保管)などあり、重要文化財は277件で、旧法隆寺献納御物の各種工芸品47件(東博保管)など含まれている。

○千鳥ヶ淵無名戦士墓苑完成

日華事変以後、太平洋戦争まで、大陸や南方戦線で散つた無名戦士の遺骨を収めるため、東京都千代田区三番町千鳥ヶ淵に建設中の墓苑は28日完成し、完工式と追悼式を行つた。建築設計谷口吉郎、造園田村剛、工事は竹中工務店、敷地16,000平方メートル、工事費4,800万円。

○文部省藝術選奨さきまる 28日、33年度(第29回)の藝術選奨授賞者がきまり、美術関係では上村松篁、建築では大江宏が選ばれた。

上村松篁 新制作展の「星五位」で日本の伝統と革新の調和をなしたとげた功績に対し授賞式は4月6日文部省で行われた。

○イラク・イラン第2次調査団派遣 東大イラク・イラン遺跡発掘委員会(委員長茅東大総長)は、去る31年に行つた第一次発掘調査の成果にもとづき江上波夫教授以下11人の第二次調査団を派遣することとなった。江上団長ら三人の先発隊は1月末テヘランに先行、受

入れ準備をすすめており新規矩男副団長（東京藝大教授）ら8人の本隊は29日現地に向つた。

- 欧州巡回日本古美術品展出品作品無事帰国 33年4月より本年2月まで欧州4ヶ国（フランス、イギリス、オランダ、イタリア）を巡回した日本古美術品展出品作品143点は、3月30日フランス船にて横浜港に無事到着した。

4 月

- 西洋美術館長に富永惣一決定 仏政府から返還される松方コレクションを収める西洋美術館の初代館長に学習院大学文学部長富永惣一がきまり、3日付で発令された。
- 朝倉文夫、上野駅にブロンズ像を贈る 朝倉文夫は上野駅に三人の裸婦像を贈り6日除幕式が行われた。等身大のブロンズ像で、三人の裸婦像は知、情、意を表わすという。像は御影石の台座上に立ち、2分間に1回転する装置になつてゐる。
- 奈良国立博物館の新庁舎竣工 16日奈良国立博物館の新しい事務所が竣工した。この庁舎は旧庁舎の奥に建てられたもので本館の東側、広い芝生の正面にあり、陸屋根造りの低い平屋建で、軒廻しや柱以外は外廊をすべてガラス張りに開放したものである。
- 藝術院保留会員に宇田荻郎 先に補充会員として美術部門では兒玉希望、金島桂華、小糸源太郎の三名がきまつたが、このうち日本画関係では、金島、宇田は投票各22票で過半を占め有資格者となつたが、同数のため、年令順により金島を当選とした。しかし、会員の松林桂月、鍋木清方、安田靉彦の抗議によつて再考、結局、宇田を有資格として会員申請保留の形とし、欠員を生じたときは無投票で当選の資格をもつものと決め20日発表した。保留会員の措置は同院初めてである。
- ロンドンの博物館から「東方の賢者の礼拝」(彫刻)寄贈される ロンドンのビクトリア・アンド・アルバート博物館から「東方の賢者の礼拝」(鯨骨の彫刻)が文化財保護委員会に寄贈された。高さ約45cm、12世紀頃の作品の複製で、昨夏ロンドンで開かれ好評だった日本古美術展の御礼として同館から贈られたもの。23日外務省で岡田文化財保護委員会事務局長に手渡された。
- 松永記念館開館 松永安左衛門は、小田原市板橋の自宅わきに松永記念館を建て26日開館披露式を行つた。二階建、延528平方メートルの同館には、同氏所蔵の書画、陶器、銅器などを展示、いずれ一般にも公開の予定である。
- 中国古代彫刻展 28日—5月10日、於日本橋・高島屋、日本経済新聞社主催、中国の南北朝、隋唐の仏像彫刻を中心として、日本に集約されたもののうちから

優品をえらんで、塑像（古代及び西域）をはじめ青銅像・檀像・石像・陶像（明器を含む）など130点あまり出陳された。この種の展覧は最近あまり催されていなかったため、有意義な展覧といえよう。

- 国宝美術工芸品の保存修理 34年度第1—4半期の保存修理物件は次の通り。知徳院障壁画25枚内「松に梅図」を修理し完了。神護寺薬師如来立像を修理し完了。陽明文庫 後二条殿記30巻の内10巻を修理し完了。高野山文化財保存会 続宝簡集を前年度よりひきつづき修理し、次年度に継続する。
- 平家納経の新補 保存修理を行つていた平家納経（厳島神社蔵）33巻のうち葉草喩品の表紙と見返の絵を安田靉彦が新しく描いて、同品の修理が完了し、平安時代に製作された平家納経に新風を入れることとなつた。
- 千葉大学夜間短大部に工業意匠科新設 千葉大学の工業短期大学に工業意匠科が新設された。修業年限3年で、夜間のみ授業が行われる。

5 月

- 斎藤義重に国際芸術批評家協会賞 パリの国際芸術批評家協会は、5日、本年度の同協会賞を斎藤義重に贈つた。去る4月24日審査会で決定されたもので受賞作「作品E」はユネスコで複製のうえ、各国に配布される予定。
- 故宮博物院名画写真展 5日—10日 於日本橋・白木屋 及び26日—31日 於大阪・阪急百貨店 朝日新聞社主催。台湾台中にある中国美術の一大コレクション故宮博物院的蔵品より名画300種を選んでその実大写真を展示したもので、元来ごくわずかのの人にしか知られていなかった故宮の名画を紹介したことは、まことによこばしい。
- ブリジストン美術館増改築なる 東京京橋のブリジストン美術館の増改築工事が完成し10日から一般に公開された。
- 日光文化総合調査 日光輪王寺を中心に、日光の総合調査が文化財保護委員会と読売新聞社によつて12日—26日にわたつて行われた。調査団は人文科学部門としては書跡班・彫刻班・絵画班・考古班・歴史班などに分かれ、輪王寺天海蔵の蔵品を中心に調査が行われ、自然科学部門では日光を中心として動物、植物、気象などの班に分れて調査を行つた。
- 各部門とも多くの新発見や新資料の収獲など多大の成果をおさめた。
- ローマの「日本アカデミア」の設計者に吉田五十八 外務省は日本とイタリアの文化交流センターとして、今年から2ヶ年計画、総額18,000万円の予算でローマに「日本アカデミア」を建設することになったが、設計を日本藝術院会員吉田五十八に依頼することをきめた。

敷地は伊政府の提供で4,000平方米、建物本館2,000平方米、別館200平方米が予定されている。

○切手趣味週間に細田栄之の版画切手を発行 切手に用いた版画は、細田栄之の「浮世源氏八景」中の一枚である。20日に発売された。

○日本国際美術展受賞者きまる 毎日新聞社主催第5回日本国際美術展は、5月9日から東京都美術館で開かれているが、20日、全出品作品(外国部308点、日本部233点)に対して行われた授賞選考委員会で次の通り受賞者を決定した。

〔外国部〕

外務大臣賞(賞状及び賞品)	ヘンリー・ムア
文部大臣賞(同)	エミール・シューマッハ
東京都知事賞(同)	ジェラルド・シュネイデル
毎日新聞社賞(同)	M・F・フセイン
同	アントニオ・スワレス

〔日本部〕

最優秀賞(賞状及び副賞30万円)	海老原喜之助
国立近代美術館賞	斎藤義重
鎌倉近代美術館賞	杉全直
ブリヂストン美術館賞	駒井哲郎
優秀賞(賞状及び賞金5万円)	麻生三郎
	高間惣七
	中谷泰
	横山操
	本郷新
大衆賞(賞状及び賞金5万円)	東郷青児

大衆賞は5月9日から20日迄の一般入場者の投票によつて決定した。

○福田平八郎自選展 福田平八郎最初の自選展で、自選代表作60余点を展覧し、大正10年代から今日迄の画業を展望するよい機会であつた。朝日新聞社主催で5月22日から6月3日迄銀座松屋で開かれた。

6 月

○みづゑ賞設定 美術出版社、資生堂共催による「みづゑ選抜・新しい水彩15人展」が5日から銀座松屋でひらかれた。第1回みづゑ賞は、その中から選ばれ、一席中本達也、二席油野誠一、横山操ときまつた。

○松方コレクション、新築の西洋美術館に収まる 今年1月以降の松方コレクション返還の経過をのべると、まず、1月23日古垣駐仏大使とクーブドミユルビル仏外相は仏外務省で旧松方コレクション返還に関する協定に調印した。つづいて翌24日、フランスの日本大使館から、外務省にその正式リストが届いた。絵画308点、彫刻62点、書籍5点、計375点である。3月21日浅間丸は特別冷房室に同コレクションを積み、3月11日マルセーユ港を出港、4月15日無事横浜港

につき、17日上野公園内に完成した西洋美術館に運ばれた。同館では作品の整理、補修ののち、陳列を行い、6月10日午前11時から開館披露式を行つた。また、これより先5月29日、日本政府は、この機会にフランス側の好意にこたえ、両国文化の交流を計るため、国立美術館長エドモン・シデ他文化人6名を政府賓客として招待することを発表した。招待はエドモン・シデ、ルネ・ユイグ(ソルボンヌ大美術史教授)、オシップ・ザッキン(彫刻家)、クロード・ベルナール(画家)、ジュリアン・デュヴィヴィエ(映画監督)、マルセル・アシャール(劇作家)、及びジャック・ドゥ・ラクルテール(作家)[団長]ら7名であつた。これらの文化使節一行を招いて西洋美術館の開館披露式が行われ、13日から一般公開に入つた。

なお西洋美術館は設計ル・コルビュジエ、監理坂倉準三、前川国男、吉阪隆正、構造横山建築構造設計事務所、文部省教育施設部、施工清水建設株式会社である。

また旧松方コレクションの公開を記念して、東京国立博物館でも同時期に旧松方コレクションの浮世絵特別展を行つた。

○フランスから藝術文藝勲章おくれる フランス政府は、国立西洋美術館開館を記念して、日仏文化交流の功労者として次の5名に勲章を贈ることになり12日駐日大使館で授賞式が行われた。

同勲章コマンドール	高橋明(外務省文化参事館)
オフィシエ	富永惣一(西洋美術館長)
	川喜多長政(東映映画社長)
シュヴァリエ	嘉門安雄(西洋美術館)、秋山光和(東京国立文化財研究所)

7 月

○男体山遺物の調査 文化財保護委員会の斎藤忠技官ら7名の調査団により、日光連峰男体山頂で、二荒山神社奥宮周辺の遺物を発掘、山岳信仰の歴史を明らかにする学術調査が2日より10日迄行われた。発掘品として奈良時代の銅印や平安時代の銅鏡などをはじめ、錫杖・独鈷・経筒などの仏具や古銭など多数があり、巨岩が奈良時代より江戸時代まで信仰の中心となつていたことに男体山信仰の特異性が認められるにいたつた。

○浅野長武ら仏政府から勲章を贈られる フランス政府では、13日長年フランス文化の日本紹介と交流に功績のあつた東京国立博物館長浅野長武に、レジオン・ドヌール・オフィシエ章を、同館次長田内静三に同シュヴァリエ章を贈つた。

○第5回毎日産業デザイン賞決定 毎日新聞社が産業デザインの向上をはかつて、昭和30年度に設定した毎

日産業デザイン賞の、第5回受賞者が21日発表された。授賞式は8月27日。

工業デザイン部門 金子至、秋岡義夫、河潤之介（セコニック8ミリ撮影機、影写機ならびにセコニック製品における一連のデザイン活動）

商業デザイン部門 開高健、柳原良平、酒井睦雄、山口瞳（寿屋宣伝部、テレビコマーシャルを中心とする一連のデザイン活動）

なお選考委員は、今竹七郎、大場吉三郎、金子徳次郎、重成基、竹岡リョウ、直野善一（以上大阪）今泉武治、勝見勝、剣持勇、小杉二郎、豊口克平、原弘、山名文夫（以上東京）

○下村観山代表作展 天心、春草、大観らと新しい日本画の創造をめざし、明治から大正へかけての日本画の発展に大きな足跡をのこした観山の、歿後30年を迎えての回顧展である。美校時代の写生図から昭和5年の絶筆まで屏風大作を含む40点近くが集められた。朝日新聞社主催、東京国立博物館・日本美術院後援で、会期は21日から8月2日迄。

○国宝美術工芸品の保存修理 34年度第2—4半期の保存修理物件は次の通り。金地院秋景冬景山水図2幅を修理し完了。東大寺俱舎曼荼羅図を前年度より継続して修理し完了した。厳島神社平家納経33巻の内5巻を修理し完了した。当麻寺聖造弥勒仏坐像を修理し完了した。熊野速玉神社古神宝類を前年度よりひきつづき修理し、次年度に継続する。東大寺金堂鎮壇具の修理を開始し次年度に継続する。

8 月

○久保貞次郎所蔵の油絵盗難 栃木県真岡市にある久保貞次郎のギャラリーから、タマヨの「迫害される民族」他2点の油絵が8日盗まれた。

○アンデス遺跡展 東京大学では、アンデス地帯調査団を組織し、昭和33年初夏から約半年にわたって同地帯を、地理学、考古学の両面から調査、研究し多大な成果をあげ昨年未帰国した。この展覧会は、その際の調査によつて得た資料によるもので、ペルー政府の好意で東京大学に贈られた品である。読売新聞社主催、外務省・文部省・ペルー大使館・ボリビア領事館・東大アンデス地帯学術調査団の後援で18日から30日まで東京新宿伊勢丹百貨店で開催され、更に、来年1月迄、仙台、大阪、横浜、名古屋、福岡の各地でも展覧される。

9 月

○源氏物語絵巻展 1日—13日 於東京国立博物館 東京国立博物館、徳川美術館共催、川面義雄氏の徳川本

源氏物語絵巻の木版複製完成を記念して開催されたもので、原本と複製を同一会場に陳列して、比較ができるようになっていた。原本の優秀さと、木版技術の限界が対照され、まことに興味深く鑑賞できた。

○文化勲章選考委員 きまる 文部省は今年度の文化勲章選考委員会委員、同文化功労者選考審査会委員に次の10名を推薦、8日の閣議で正式に決定した。

元文相	天野 貞 祐(哲学)
東大校長	茅 誠 司(物理学)
慶応義塾々長	奥井復太郎(社会学)
東大名誉教授	瀬戸 象二(工学)
国立西洋美術館長	富 永 惣一(美術)
作家	大 仏 次 郎(文藝)
日大医学部長	比 企 能 達(医学)
東京教育大名誉教授	福原麟太郎(英文学)
日本藝術院会員	山口 蓬 春
音楽評論家	牛 山 充

○ICSID 第1回総会に小池岩太郎出席 ICSID(The International Council of Societies of Industrial Designers)の第1回総会が16日から18日までストックホルムで開かれた(ICSIDは1957年創立)。カナダ、ドイツ、フランス、インド、イタリア、英、米、日その他各国のデザイン関係協会の会員が出席し、日本からはJIDA代表小池岩太郎が出席した。

○上野藝術大学長らにドイツ 功勞十字勲章 西独政府は、藝術大学長上野直昭と元外交官永井亜歴山に対し、日独文化交流、推進に尽した功績によりドイツ功勞十字勲章を贈った。

○サンパウロ国際美術展で川端実が入賞 サンパウロで開かれた第5回国際美術展の入賞者が17日発表されたが、日本は約150点を出品、そのうち川端実が入賞した。大賞は英国の彫刻家バーバラ・ヘプウォースであつた。日本からは徳大寺公英が審査に参加した。

○文部省、優秀美術品買上制度を設ける 美術奨励のため、文部省は今年度から、展覧会発表作品中の優秀作品を国で買取することをきめ、9月19日買上作品の選考委員として今泉篤男、河北倫明、辻永、富永惣一、柳亮の5名を決定した。国立近代美術館が行っている作品買上と平行して、若手や新人、中堅級の画家に重点をおき展覧会出品作品が対象となつている。本年は100万円の予算で(10点位の購入を予定)あるが、来年度は200万円位に増額して、彫刻、工芸にまで及ぶ計画でいると20日発表した。

○日本機械デザイン・センター設立 かねてから設立が望まれていた機械関係のデザイン・センターが創立、29日創立総会を開いた。デザイン・センターの主な業務は、1 機械類のデザインなどの保全登録及び認定に関するもの、2 デザインに関する調査研究、3 新規デザインの考察、指導及び助成に関する業務、4 デザインに関するPR、5 デザインに関する紛

争の調停、6 その他、となつてゐる。理事長、日本機械輸出組合理事長 弘中、理事藤井左内、小池新二、小池岩太郎

10 月

○産業工芸試験所で米人デザイナーを招く 産業工芸試験所では J. Doblin, Dave Chapman, の2名の米人デザイナーを講師として招き、5日から約1ヶ月、同試験所及び都道府県の関係職員、民間デザイナー約30人について講義と実習指導を行った。

○隋唐の美術展 11日—11月8日 於京都 国立博物館。京博恒例の秋の特別展覧会で、日本に古来伝わる遺品を主とし、更に近年中国各地の遺跡から出土したものなど、いろいろな遺品を美術各分野にわたつて網羅したものである。出陳作品は絵画22点、書蹟35点、彫刻33点、陶彫152点、陶器84点、金工54点、染織53点に及んでいる。

○石川県立美術館開館 兼六園の一角に建造中の石川県立美術館は、9月竣工、10月12日落成開館した。地下1階、地上2階、延1593平方米(482坪)鉄筋コンクリート造、総工費76,250万円で、金沢出身の谷口吉郎が設計にあつた。所蔵品は786点、仁清の色絵雄雫煙、同、色絵梅花文様平水指ほか工芸品が過半を占めている。

○イタリア、プレミオ・リソーネ美術展で堂本尚郎入賞 北イタリア、リソーネ市で開催された第11回プレミオ・リソーネ美術展で、堂本尚郎が第2位特別賞(10万リラ)を受賞した。この展覧会は前衛美術に限定された国際ビエンナーレ展で、他に田淵安一(美術館賞)川端実(名誉賞)も入賞した。なお1位はイタリアのベデバであつた。

○西本願寺蔵国宝三十六家集展 15日—29日 於根津美術館。日本経済新聞社・根津美術館共催、西本願寺の宝物三十六家集の展覧である。平安貴族藝術の粋をあつめたこの家集は、料紙の美しさと文字の美しさが調和して更に一段と美的効果をあげている。王朝文化を考える上からも必見の催しであつた。

○重要文化財の新指定 文化財保護委員会は16日重要文化財の新指定を行った。絵画29件、彫刻18件、工芸品43件、書蹟46件、考古11件、計147件である。

○自由美術家協会から抽象派6名が退会 難波田竜起、山口正城、西田信一、小野忠弘(油)、稲田三郎(版)、昆野恒(彫)ら6名は、24日自由美術家協会退会を発表した。近く「日本抽象作家協会」を結成するという。

○紫綬褒賞受賞者 学問、藝術の発明、改良創作に寄与した功勞者20人に27日紫綬褒賞が贈られることになつたが、美術関係の人は

(版画複製) 川面義雄 (評論出版) 下中弥三郎

(古建築修理) 岸 熊吉 (童 画) 武井武雄
(建築学) 内藤多伸 (人形研究) 西沢笛畝
(金工修理) 藤島三郎 (浮世絵版元) 渡辺庄三郎
授賞式は11月3日文化の日に行われる。

○川合玉堂記念館くわ入式行われる 晩年に東京都青梅市沢井上分に住み、去る32年逝去した川合玉堂の業績を永久に記念しようと玉堂記念館の建設がすすめられていたが、このほど、東都知事の手でくわ入式が行われた。32年秋結成された玉堂会(名誉会長高橋誠一郎、会長榎戸米吉青梅市長)が中心となつて計画が進められている。

○ベルギー第2回国際陶藝展で受賞 ベルギーのオステンド市で開催されていた第2回国際陶藝展で八木一夫が金賞、浜田庄司が銀賞をうけた。ジュネーヴに本部をもつ国際陶藝協会の主催で2年ごとに行われる展覧会で、同協会の日本代表小山富士夫のすすめで外務省が代表作家の作品を買上げ、更に在外公使館の所蔵作品を加えて25点出品したものである。

○二科会はパリのコンパレゾン展覧会と交換展を契約

二科会では、パリのコンパレゾン展覧会代表者ボルド・ルベックと交換展の契約を行った。二科会の作家50人の作品を選んで来春フランスでの同展に送り陳列する。一方フランス側の作品は来秋の二科展に2室分展覧紹介しようという。コンパレゾン展は絵画・彫刻の総合グループで様々な傾向の作家を含んでいる。

○雑誌「デザイン」創刊 美術出版社では、デザイン関係の専門誌として月刊「デザイン」を企画、10月創刊号を発行した。

○朝護孫子寺信貴山縁起の修理 35年度第3—4半期に同縁起3巻の内1巻を保存修理し、次年度に継続する。

11 月

○正倉院宝物展 1日—20日 於東京国立博物館 皇太子殿下御結婚を記念して、北、中、南の3倉、聖語蔵及び飯庫の代表的宝物を選んで出陳した展覧で、141件の宝物が陳列された。いずれも正倉院宝物の粋で、連日盛況のうちに終了した。

○浦上天主堂再建 昭和20年8月9日に原爆で破壊された長崎市の浦上天主堂は、内外の信者から寄せられた寄金で昨年6月から再建に着工していたが、このほど完成し、1日に献堂式が行われた。新天主堂は工費5,000万円、旧天主堂の形を復元、内部正面には、ベルギーで作られたステンドグラス「昇天のマリア像」がはめられた。

○文化勲章受章者並びに文化功労者決定 34年度文化勲章受章者は10月27日の閣議で、川端龍子、小泉信三、丹羽保次郎、里見淳、吉田富三の5名と決定、また、文化功労者には上記文化勲章受章者のほか、市河三喜、伊藤誠哉、上野直昭、河村巳之助、辻永の5名、計10人が決まった。授章式は11月3日文化の日に行われる。

○毎日藝術賞・毎日藝術大賞設定 毎日新聞社では、東京本社発行の本紙3万号を記念して、毎日藝術賞を設定することを決めた。この賞は、年間を通じて優秀、かつ新鮮な業績をあげたと認められる芸術家を選んで贈るものであるが、その中から更に、優秀なもの1件を選出して毎日藝術大賞を贈ることとなった。なお従来の毎日美術賞、音楽賞、演劇賞は取り止めと、8日発表した。対象は、文学、美術、音楽、演劇、写真、舞踊、映画、放送などと広範囲にわたり、毎年1月1日から12月末日迄に発表されたものから選出される。大賞は100万円、藝術賞2件各20万円。

○安井賞受賞者決定 第3回安井記念賞の受賞者が13日東京京橋の国立近代美術館でひらいた選考委員会から自由美術家協会の中本達也に決定した。

受賞作品は「群れ」。なお、安井賞候補新人展は同館で12月13日まで開かれた。

○毎日商業デザイン賞決定 毎日新聞社主催の第27回毎日商業デザイン作品募集は、9月末で締切つたが、第1部一般公募の作品総数3534点、A(新聞広告デザイン1902点)、B(ポスターデザイン1632点)の多数に上り、これと第2部スポンサーの参加作品を審査の結果、17日別記の通り受賞者を発表した(受賞一覧68頁参照)審査員は伊藤憲治、金丸重嶺、亀倉雄策、衣笠静夫、久保田孝、竹岡リョウ、早川良雄、藤本倫夫、池島信平、山崎隆夫である。

○毎日工業デザイン賞決定 毎日新聞社の1959年度、第8回毎日工業デザイン賞は19日、特選以下入選作17点の他、スポンサー賞20点を決定した。

特選1席 テープレコーダー(ソニー) 斎藤正
2席 オートバイ・スズモペット 菅原辰雄、小森康弘、豊川慶
3席 アマノ・タイムスタンプ 富川和雄、中山

正治、吉川和隆、篠康雄

同3席 トヨタ家庭用ミシン GKインダストリアル・デザイン研究所

準特選 トランジスターラジオ(日立) 橋本多紀子
ブラザー家庭用糸毛縫機 上田マナツ、多田愛美他3名

授賞式は12月12日で商業デザイン賞授賞と合同で行われる。

12 月

○藝術院補充会員きまる 本年5月迄に逝去した洋画家和田英作、書道の尾上柴舟ら10名の補充として第1部は小山敬三、寺内万治郎、東郷青児、鈴木翠軒の4名を決定10日発表した。

○重要文化財建造物の新指定 文化財保護委員会は12日、建造物に関して、新に重要文化財に16件を新指定した。長崎県の眼鏡橋、安養寺宝塔などが含まれている。

○安井曾太郎胸像除幕式 石井鶴三によつて制作されていた安井曾太郎胸像(ブロンズ)の除幕式は安井曾太郎の5周忌にあたる14日に 藝大美術学部校庭で行われた。

○朝日広告賞決定 新聞広告を明るく、たのしいものにしようという運動のひとつ、34年度「朝日広告賞」の受賞作品が14日発表された。(受賞一覧67頁参照)応募点数は新聞広告用デザイン3694点、広告写真1527点、計5221点、また第2部の(完成された新聞広告)は298点に達した。

○文化財保護委員会が功労者を表彰 文化財保護委員会では大場信統、中村竹四郎の2名を文化財功労者として表彰することを19日発表した。大場信統は居宅代官屋敷と所蔵の古文書などを自力で保存していたため、中村竹四郎は文化財を対象とした印刷に功労あり、日本の古文化財を世界に紹介した功績をみとめたもの。

〔附 表〕

新 指 定 国 宝 一 覧

(国 宝 目 録 第 13 集 より転載)

昭和 34 年 3 月委員会指定決定

(同年 6 月 27 日官報告示)

工 藝 品 の 部

名	称	員 数	所 有 者
刀無銘正宗(名物観世正宗)		1 口	国(文化財保護委員会保管)
志野茶碗	銘卯花塙	1 口	神奈川県足柄下郡箱根町湯本三井 高 大
太刀	銘守利	1 口	大阪府大阪市城東区左専道町 693 田 口 儀 之 助
花鳥彩絵油色箱		1 合	奈良県奈良市雑司町 東 大 寺
黒漆螺鈿卓		1 脚	同 生駒郡斑鳩町大字法隆寺 法 隆 寺

書 跡 の 部

名	称	員 数	所 有 者
和歌牀十種		1 巻	愛知県知多郡知多町長浦海岸高野 時 次
釈摩訶衍論		5 帖	滋賀県大津市石山寺辺町 石 山 寺
理源大師筆処分状 (延喜七年六月二日)		1 巻	京都府京都市伏見区醍醐東大路町三 宝 院
不空羼索神變真言經		18 巻	和歌山県伊都郡高野町大字高野山三 宝 院

建 造 物 の 部

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 所 住	所在の場所
1	瑞巖寺庫裏及び廊下	2 棟	庫裏 桁行78尺、梁間45尺5寸、1重、切妻造、妻入、本瓦葺、玄関及び北面庇2ヶ所を含む 廊下 桁行玄関2間、東廊6間、中廊11間、西廊2間、各梁間1間、1重、入母屋造、本瓦葺	瑞 巖 寺	宮城県宮城郡松島町字町内	宮城県宮城郡松島町字町内
2	醍醐寺薬師堂	1 棟	桁行5間、梁間4間、1重、入母屋造、檜皮葺	醍 醐 寺	京都府京都市伏見区醍醐伽藍町	京都府京都市伏見区醍醐醍醐山

新指定国宝一覧(建造物の部)

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 所 住	所在の場所
3	観 智 院 客 殿	1 棟	桁行42尺、梁間45尺2寸、1重、入母屋造、妻入、正面軒唐破風附 中門 桁行1間、梁間1間、1重、切妻造 総銅板葺 附 棟札 1枚 新造慶長十 ^七 年五月吉日の記がある	観 智 院	京都府京都市南区九条町	京都府京都市南区九条町
4	北野 天満宮 本殿、石の間、拝殿及び楽の間	1 棟	本 殿 桁行5間、梁間4間、1重、入母屋造、右側面3間庇附、檜皮葺 石の間 桁行3間、梁間1間、1重、両下造、檜皮葺 拝 殿 桁行7間、梁間3間、1重、入母屋造、正面千鳥破風附、向拝7間、軒唐破風附、檜皮葺 楽の間 東西各桁行正面2間、背面3間、梁間2間、1重、1端入母屋造、他端拜殿に接続、檜皮葺	北野天満宮	京都府京都市北区馬喰町	京都府京都市北区馬喰町
5	唐 招 提 寺 宝 蔵	1 棟	桁行3間、梁間3間、校倉、寄棟造、本瓦葺	唐 招 提 寺	奈良県奈良市五条町	奈良県奈良市五条町

国宝に未指定物件を附として追加し、構造及び形式を改めたもの (○印は今回追加したものを示す)

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 所 住	所在の場所
1	醍 醐 寺 金 堂	1 棟	桁行7間、梁間5間、1重、入母屋造、本瓦葺 附○棟札 1枚 建立慶長五年 ^{歳次} 四月十八日 ^{庚子} の記がある	醍 醐 寺	京都府京都市伏見区醍醐伽藍町	京都府京都市伏見区醍醐伽藍町
2	法 隆 寺 金 堂	1 棟	桁行5間、梁間4間、2重、初重もこし附、入母屋造、本瓦葺、もこし板葺 附○旧初重軸部(組物を含む) 1構	法 隆 寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺

国宝の名称を改めたもの

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 所 住	所在の場所
1	元興寺極楽坊本堂	1 棟	桁行6間、梁間6間、1重、寄棟造、妻入、正面1間通り庇附、本瓦葺、圓伽棚を含む 附 厨子及び仏壇 1具 1間厨子、1重仏壇 棟札 1枚 寛元二年甲 ^巳 四月拾 ^五 日 ^{乙酉} 柱立 辰 ^六 月二日 ^{辛未} 棟上 の記がある	元興寺極楽坊	奈良県奈良市中院町	奈良県奈良市中院町
2	元興寺極楽坊五重小塔	1 基	3間5重塔婆、本瓦形板葺	元興寺極楽坊	奈良県奈良市中院町	奈良県奈良市中院町
3	元興寺極楽坊禅室	1 棟	桁行4間、梁間4間、1重、切妻造、本瓦葺	元興寺極楽坊	奈良県奈良市中院町	奈良県奈良市中院町

新指定重要文化財一覧

(重要文化財目録第12集より転載)

昭和34年3月委員会決定

(同年6月27日官報告示)

美術工藝品の部

新指定

◎印は重要美術品等認定物件より重要文化財指定の決定があつたものを示す。

絵画の部

名	称	員数	所有者
◎	紙本白描釈教三十六歌仙図断簡	1巻1幅	国(東京国立博物館保管)
◎	絹本墨画淡彩達磨図 一山一壺の賛がある	1幅	〃
	絹本著色興福寺曼荼羅図	1幅	国(京都国立博物館保管)
	紙本著色地藏菩薩靈驗記	1巻	群馬県甘楽郡妙義町 妙義神社
◎	紙本墨画淡彩山水図 曾我紹仙筆 大永三年月舟寿桂の賛がある	1幅	東京都港区赤坂青山南町6/115 財団法人根津美術館
◎	絹本著色銭塘観潮図 装幀紙に月翁周鏡等七僧の賛がある	1幅	〃
◎	紙本著色瓜虫図 呂敬甫筆 自賛がある	1幅	〃
◎	絹本著色仏涅槃図 附旧軸木 一本 康永四年南都絵所行等有図絵の記がある	1幅	〃
◎	絹本著色法相宗曼荼羅図	1幅	〃
◎	紙本著色鶴飼図 狩野探幽筆 六曲屏風	1双	〃 赤坂葵町 財団法人大倉集古館
◎	紙本墨画紅梅鳩図 宮本武蔵筆	1幅	〃 文京区関口台町26 細川護立
◎	紙本金地著色緹暖簾図 二曲屏風(右扇後補)	1隻	〃 品川区北品川3/325 原邦造
	紙本著色藤原元真像(佐竹本三十六歌仙切)	1幅	東京都品川区大崎2/548 萩野一
◎	紙本白描四天王図像(高山寺本)	4幅	〃 目黒区上目黒7/1094 財団法人大東急記念文庫
	絹本著色一向上人像	1幅	神奈川県藤沢市西富 清浄光寺
◎	紙本墨画入磨貫之図 岩佐勝以筆 自賛がある	2幅	静岡県熱海市熱海232/1 宗教法人世界救世教
◎	紙本著色花見鷹狩図 六曲屏風	1双	〃
◎	絹本著色風俗十二月図 勝川春章筆 附詩歌聯幅 十二幅	10幅	〃

名	称	員 数	所 有 者
◎ 絹本著色雪月花図	勝川春章筆	3 幅	静岡県熱海市熱海 232 / 1 宗教 世界 救世教 法人
紙本著色源重之像(上畳本三十六歌仙切)		1 幅	〃
◎ 紙本墨画政黄牛図	石溪心月の賛がある	1 幅	愛知県知多郡知多町長浦海岸 高野 時次
◎ 絹本墨画放牧図	平山処林の賛がある	1 幅	〃
大書院障壁画	伊藤若冲筆 宝暦九年の年記がある	50 面	京都府京都市北区金閣寺町 鹿 苑 寺
(紙本墨画葡萄図(葡萄之間)		15 面	
襖貼付 4、壁貼付 2、床貼付 3、違棚貼付 6			
紙本墨画松鶴図(松鶴之間)		8 面	
襖貼付 8			
紙本墨画芭蕉図(芭蕉之間)		12 面	
襖貼付 8、床貼付 4			
紙本墨画鶏及秋海棠図(鶏之間)		11 面	
襖貼付 10、壁貼付 1			
紙本墨画竹図(入側)		4 面	
襖貼付 4			
◎ 絹本著色足利義持像	応永十九年履仲元礼の賛がある	1 幅	〃 右京区芒ノ馬場町 66 慈 濟 院
◎ 絹本著色芦葉達磨図	固山一羣の賛がある	1 幅	〃 上京区出水通 6 軒町東入ル 7 番町 玉 蔵 院
◎ 絹本著色一翁院豪像	弘安四年の自賛がある	1 幅	〃 上京区烏丸通今出川上ル御所 八幡町 大 聖 寺
◎ 絹本墨画白衣観音図	明兆筆	1 幅	〃 中京区寺町通り三条上ル天性 寺前町 天 性 寺
◎ 絹本著色観経十六観変相図		1 幅	〃 下京区高倉通り松原下ル 長 香 寺
◎ 絹本著色童子経曼茶羅図		1 幅	〃 東山区塩小路通大和路東入 ル東瓦町 智 積 院
◎ 絹本著色阿弥陀浄土図	淳熙十年の年記がある	1 幅	〃 東山区新橋通大和路東入ル 3 丁目林下町 知 恩 院
◎ 紙本白描建保六年中殿御会図		1 巻	〃 伏見区深草車坂町 5 九 条 道 秀
◎ 絹本著色親鸞上人像		1 幅	〃 伏見区西尼崎町 895 常 福 寺
◎ 絹本著色中村内蔵助像	尾形光琳筆 自賛並に元禄十七年元仲(中根元圭)の賛及び中村 信逸の追賛がある	1 幅	大阪府大阪市天王寺区上本町 6 丁目 近畿日本鉄道株式会社 (財団 大和文華館保管) 法人
◎ 絹本墨画淡彩山水図	伝趙大年筆	1 幅	〃
◎ 紙本著色豊臣秀吉画像画稿		1 幅	〃 北区角田町 51 (梅田阪急ビル 内) 財団 逸 翁 美 術 館 法人
◎ 紙本著色芦引絵		5 巻	〃
◎ 紙本金地著色泰西王侯騎馬図	四曲屏風	1 双	兵庫県西宮市杉下町 25 藤 井 徳 義
◎ 紙本墨画三保松原図		6 幅	〃 甲東園 1 / 145 顯 川 徳 助
紙本墨画風雨山水図	「雄華室印」の印がある	1 幅	〃 芦屋市東芦屋町 96 小 田 栄 作
著色智光曼茶羅図(板絵)		1 面	奈良県奈良市中院町 元興寺 極楽坊
附絹本著色智光曼茶羅図	一面		
◎ 絹本著色武田信玄像	長谷川信春筆	1 幅	和歌山県伊都郡高野町大字高野山 成 慶 院

新指定重要文化財一覧(美術工藝品の部)

名	称	員 数	所 有 者
紙本白描及著色覚禪鈔 元亨三年、四年、正中二年、三年了性の奥書がある 附紙本白描及著色覚禪鈔(吉祥天法・造塔法) 2巻 延慶三年実遍の奥書がある		50巻	和歌山県伊都郡高野町大字高野山 西 南 院
絹本著色恵果阿闍梨像		1幅	西 生 院

彫 刻 の 部

名	称	員 数	所 有 者
木造薬師如来坐像(本堂安置) 像内に仁治四年三月廿四日、修理仏師実慶の銘がある		1軀	千葉県銚子市常世田 常 灯 寺
木造十一面観音立像		1軀	〃 佐原市佐原イノ 1,110 莊 嚴 寺
木造阿弥陀如来坐像(本堂安置) 台座天板裏面に正応三年四月卅日の銘がある		1軀	〃 長生郡長南町報恩寺 報 恩 寺
木造不動明王坐像(本堂安置) 附紙本墨書不動種子 1巻		1軀	〃 長柄町山根 飯 尾 寺
◎ 木造薬師如来坐像 1 (七仏薬師)		7軀	〃 印旛郡印旛村松虫 松 虫 寺
◎ 銅造阿弥陀如来及両脇侍立像		3軀	神奈川県茅ヶ崎市西久保 宝 生 寺
木造薬師如来坐像		1軀	京都府京都市東山区松原通大和大路東入ル 饅饅町 六 波 羅 蜜 寺
銅造菩薩立像		1軀	〃 南区九条町 教 王 護 国 寺
木造観音菩薩梵天立像(二間観音) 帝釈天		3軀	〃
木造八幡神息長足姫坐像 比売神 2枚 附木 札 内1枚に御正躰造立、嘉暦元年八月十二日、他の1枚に大仏師慶覚の銘がある		3軀	島根県飯石郡赤木町赤名 赤 穴 八 幡 宮
木造阿弥陀如来立像快慶作 足柄に「巧匠法眼快慶、建暦元年三月廿四日」の銘がある 附像内納入文書 紙本墨書承元五年覚勝造立夢想記 1紙 紙本墨書阿弥陀経巻数 1括 承元五年三月覚勝奥書 紙本墨書阿弥陀種子 1紙		1軀	岡山県邑久郡牛窓町千手 東 寿 院

工 藝 品 の 部

名	称	員 数	所 有 者
金銅三鈷杵		1口	国(東京国立博物館保管)
金銅五鈷鈴		1口	〃
金銅五大明王鈴		1口	〃
金銅金鉢		1口	〃
鏡		1柄	〃
銅鑼		1面	〃
白銅錫杖		1柄	〃
琥珀念珠		2連	〃
金剛子念珠		1連	〃

名	称	員 数	所 有 者
金剛子念珠		1 連	国(東京国立博物館保管)
竹帙		2 枚	〃
彩絵燈台		1 基	〃
鉄炉		1 箇	〃
陶硯		1 面	〃
陶硯		1 面	〃
塩山蒔絵文台		1 基	〃
興鈴		1 連	〃
龍鬚筵		1 枚	〃
長畳		4 枚	〃
黒漆七絃琴		1 張	〃
	「開元十二歳在甲子五月五於九隴県造」の墨書銘がある		
箏柱		6 枚	〃
	附堆朱合子 1 合		
瓦製彩絵羯鼓胴		1 口	〃
黒漆鼓胴		1 口	〃
	延文二年 ^丁 西六月日注之の墨書銘がある		
朱漆羯鼓台		1 脚	〃
奚婁鼓胴		1 口	〃
尺八		1 管	〃
横笛		1 管	〃
牙笏		1 枚	〃
銀雲形釵子		1 本	〃
獅子鬘絵摺板		1 枚	〃
栴檀香		1 材	〃
	天応二年及延暦二十年の墨書銘がある		
白檀香		1 材	〃
	延暦廿年及宝字五年の墨書銘がある		
沈水香		1 材	〃
青木香		1 括	〃
	附漆皮箱 1 口		
大枡		1 箇	〃
一升枡		5 箇	〃
火取水取玉		12 顆	〃
	附紙胎黒漆八角小箱 1 合		
石名取玉		16 顆	〃
	附堆朱曲輪合子 1 合		
錐斗		1 口	〃
鋸		1 挺	〃
鎌		1 挺	〃
沈香木画箱		1 合	〃
金銀絵漆皮箱		1 合	〃
漆皮箱		1 合	〃
金銅宝相華唐草文灌仏盤		1 口	〃
金銅応量器鉢支付		1 口	〃
◎ 沃懸地獅子螺鈿鞍		1 背	〃
◎ 短刀 銘吉光(名物秋田藤四郎)		1 口	宮城県仙台市北 5 番丁 188 / 4 永 藤 一
◎ 刀 銘長曾祢興里入道扁徹		1 口	〃

新指定重要文化財一覧(美術工藝品の部)

名	称	員 数	所 有 者
◎ 金銅双龍双鳥文盤 「持仏堂盤」「正応六年十月日」「阿仏」「大工伴貞吉」 の鋳出銘がある		1 面	福島県会津若松市大和町 金剛寺
◎ 白銅三鈷杵		1 口	〃 耶麻郡磐梯村 恵日寺
梅竹蒔絵鞍		1 背	茨城県鹿島郡鹿島町宮中 鹿島神社
南蛮胴具足		1 具	栃木県日光市山内 東照宮
◎ 短刀 銘国光		1 口	埼玉県行田市佐間 松本近太郎
◎ 鏡		1 口	千葉県銚子市馬場町 円福寺
◎ 鋳銅唐草文釣燈籠		2 基	〃 長生郡水上村 笠森寺
銅錫杖頭 附鉄剣 1 口 富山県中新川郡礪波山頂発見		1 柄	東京都港区赤坂一ツ木町 36 公務員宿舍 35 号 柴崎芳博
◎ 刀 銘出羽大掾藤原国路		1 口	〃 三田豊岡町 大塚肇
◎ 太刀 銘雲生		1 口	〃 台東区谷中初音町 3 / 34 伊勢寅彦
◎ 扇散蒔絵手箱		1 合	〃 目黒区駒場町 861 財団法人 前田育徳会
◎ 大薙刀 無銘伝法城寺		1 口	〃 渋谷区代々木初台町 506 渡辺国雄
藍草威胴丸 壺袖付 附 26 周星兜鉢 1 頭		1 領	〃 〃
刀 金象嵌銘備前国兼光(名物大兼光) 本阿弥(花押)		1 口	〃 世田谷区弦巻町 2 / 690 佐野隆一
◎ 短刀 銘光包(名物乱光包)		1 口	〃 〃
色絵花鳥文壺 伝柿右衛門作		1 口	〃 杉並区泉町 759 古館均一
住吉蒔絵櫛箱		1 合	〃 武蔵野市西窪都営アパート 22 / 29 鈴木三郎
◎ 鰐口 文永十年癸酉五月廿日の刻銘がある		1 口	〃 南多摩郡七生村 金剛寺
金銀鍍宝相華文如意		1 柄	神奈川県鎌倉市山ノ内 485 前田廉造
金銅蓮唐草文透彫経箱		1 合	〃 小田原市十字 3 / 545 松田福一郎
◎ 脇指 銘来国光(名物新身来国光)		1 口	静岡県静岡市馬淵 6 / 15 石居健次
◎ 金銅馬頭観音御正体 三河国小松原寺、文永八年 ^{大才} 正月十五日の籠字 銘がある ^{辛未}		1 面	愛知県豊橋市小松原町 東観音寺
◎ 鋳銅三具足 附木箱 1 合 蓋裏及身底に天正十五丁亥十一月寄進の墨書銘 がある		1 具	滋賀県大津市下阪本比叡辻町 聖衆来迎寺
太刀 銘国宗(伯耆)		1 口	〃 彦根市松原町 515 井伊直愛
◎ 太刀 銘備州長船住近景 元亨三年十月日		1 口	大阪府大阪市城東区左専道町 693 田口儀之助
◎ 刀 銘以南蛮鉄於武州江戸越前康継 慶長十九年八月吉日		1 口	〃 〃

名	称	員 数	所 有 者
金銅五鈷明王鈴		1口	大阪府泉大津市助松ノ浜 見 亮 市
線刻十二尊鏡像(瑞花双鳥八稜鏡)		1面	〃
◎ 色絵釘隠 伝仁清作		21箇	〃 枚方市伊加賀99 田 中 太 介
◎ 金銅装戒体箱 元応二年五月十二日の朱漆銘がある		1合	〃 河内長野市天野町 金 剛 寺
◎ 金銅柄香炉 附金銅牡丹文透蓋		1柄	〃
◎ 蓮唐草螺鈿蝶形三足卓 梅花掭垣群雀鏡		1脚 1面	〃 〃 和泉市内田町85 久 保 惣 太 郎
黄瀬戸立鼓花生 銘旅枕		1口	〃
黄瀬戸大根文鉦鉢		1口	兵庫県神戸市東灘区住吉町井手口 乾 豊 彦
◎ 竹虎双雀方鏡		1面	奈良県奈良市春日野町 春 日 大 社
孔雀文罍 「沙弥観如」の刻銘がある		1面	〃 雑司町 東 大 寺
◎ 銅水瓶 内1口に「東大寺戒壇院常住嘉元三」の刻銘がある		2口	〃
銅香水杓 夫々に建長五年、建長七年、文永四年、□□元年 の刻銘がある		4枝	〃
鉄鑪 鍵付 附鉄鍵 4本		1箇	〃
◎ 堂司鈴 弘安八年二月十二日の刻銘がある		1口	〃
◎ 梵鐘(二月堂食堂所用) 「徳治三年二月阿古女修復之」の刻銘がある		1口	〃
◎ 罍口		1口	〃
朱漆布薩盥 内2口に応永三十四年丁未七月二十二日の朱漆銘が ある		3口	〃
二月堂練行衆盤 内十枚に永仁六年十月 日の朱漆銘がある		11枚	〃
木製黒漆油壺 「東大寺油倉之常住物元徳武」の朱漆銘がある		2口	〃
黒漆鼓胴 「東大寺」の刻銘がある		2口	〃
彩絵鼓胴		1口	〃
彩絵鼓胴 寛喜四年壬辰三月十一日加修理云々の墨書銘がある		1口	〃
玳瑁如意		1柄	〃
金銅金剛盤		1面	〃 5条町 唐 招 提 寺
金銅法具類			〃
金剛盤面	1面		
五鈷鈴	1口		
独鈷杵	1口		
三鈷杵	1口		
五鈷杵	1口		
金銅蓮瓣飾法具		1具	〃

新指定重要文化財一覧(美術工藝品の部)

名	称	員 数	所 有 者
火 舎	1 口		奈良県奈良市五条町 唐 招 提 寺
花 瓶	2 口		〃
六 器	6 口		
飲食器	2 口		
灑水器	1 口		
塗香器	1 口		
金銅法具類			〃
火 舎	2 口		
六 器	24口		
灑水器	1 口		
塗香器	1 口		
鍔銅3具足 附木箱	蓋裏に永正拾三 ^丙 子正月日の墨書銘がある	1 具	〃
銅香水壺		1 口	〃
金銅舍利容器	「大聖竹林寺」の針書銘がある	1 口	〃
日供舍利塔		1 基	〃
金亀舍利塔		1 基	〃
白琉璃舍利壺	(鑑真和上将来舍利納入)	1 基	〃
方円彩糸花網		1 口	〃
黒漆舍利厨子		1 枚	〃
	元亨二年、慶長十七年、寛永二年の墨書修補銘がある	1 基	
梵 鐘		1 口	〃
黒漆華盤		1 口	〃
法会所用具類			〃
突 婁	1 口		
羯 鼓	1 口		
鼓 胴	1 口		
木製橋	3 枚		
木製柄香炉	3 口		
附残闕	10口		
木製龍頭	8 頭		
木製馬頭	1 頭		
鉦鼓縁		1 対	〃
鼙太鼓縁		1 基	〃
附皮残闕	1 括		〃
牛皮華鬘残闕		5 枚	〃
附残片	1 括		
黒漆布薩手洗	2 口		
	建武五年 ^{戊寅} 六月日の朱漆銘がある		
黒漆布薩花器	1 口		〃 生駒郡斑鳩町大字法隆寺
	建武五年 ^{戊寅} 六月日の朱漆銘がある		法 隆 寺
銅水瓶	3 口		
金銅法具類			〃
火 舎	4 口		
花 瓶	4 口		
六 器	24 口		

新指定重要文化財一覧(美術工芸品の部)

名	称	員 数	所 有 者
飲食器	2口		
金剛盤	1面		
	正安二年 ^{庚子} 八月日の刻銘がある		
四 概	4本		
灑水器	1口		
塗香器	1口		
◎ 銅六器	盞一口欠	12口	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺
	各に「法隆寺」の刻銘がある		法 隆 寺
◎ 金銅花瓶		1口	〃
	乾元元年十二月日の刻銘がある		
金銅火舎		1口	〃
	貞治五年 ^{丙午} 五月の刻銘がある		
◎ 金銅雲形磬		1面	〃
龍鬚褥		1枚	〃 斑鳩町三井 輪 寺
梵 鐘		1口	〃 吉野郡吉野町吉野山 金 峯 山 寺
	永暦元年 ^{庚辰} 九月廿日、鋳物師散位船是守等の鋳出銘及刻銘がある		
梵 鐘		1口	〃 十津川村 玉 置 神 社
	応保三年 ^{癸未} 三月三日 ^{甲午} の鋳出銘がある		
紙胎花蝶蒔絵念珠箱		1合	和歌山県伊都郡高野町大字高野山 金 剛 峯 寺
附念珠 二連			
花鳥文磬		1面	〃 清 浄 心 院
古瀬戸瓶子		1口	鳥取県米子市塩町 深 田 雄 一 郎
	永仁二年の刻銘がある		
◎ 太刀	銘正恒(青江)	1口	岡山県岡山市東古松町358 林 原 一 郎
◎ 三十二間二方白星兜鉢		1頭	広島県呉市西惣付町8 武 田 甲 斐 人
◎ 銅水瓶		1口	〃 豊田郡瀬戸田町 耕 三 寺
浅黄糸威鎧		1領	山口県防府市大字宮市松崎 防 府 天 満 宮
◎ 雷文螺鈿鞍		1背	香川県大川郡大内町大字水主 水 主 神 社
◎ 亀甲繫散蒔絵手巾掛		1基	愛媛県越智郡大三島町 大 山 祇 神 社
◎ 革 箆		1腰	〃
修験板笈		1背	福岡県田川郡添田町大字英彦山 英 彦 山 神 社
	壇板に元亀三年の刻銘がある		
◎ 色鍋島松竹梅文瓶子		1口	佐賀県多久市北多久町706 中 島 い わ 子

書 跡 の 部

名	称	員 数	所 有 者
◎ 熊野懷紙	飛鳥井雅経筆 (行路水・暮炭竈)	1幅	国(東京国立博物館保管)
◎ 因幡権守重隆家歌合	(巻頭)	1幅	秋田県秋田市東根小屋町 小 泉 重 憲

新指定重要文化財一覧(美術工藝品の部)

名	称	員 数	所 有 者
◎ 阿弥陀經(裝飾經)		1 卷	栃木県日光市内 輪 王 寺
宋版大唐三蔵取經詩話(高山寺本)		3 冊	東京都千代田区麴町2番丁 大倉喜七郎
◎ 本朝文粹卷第13 殘卷 正安元年六月書写奥書		1 卷	〃 神田駿河台2ノ9 梅沢彦太郎
◎ 伏見天皇宸翰和歌(50首) (むら雨の)		1 卷	〃 〃 梅沢義一
大燈国師墨蹟(上堂語) (用墨蹟)		1 幅	〃 港区白金今里町121 藤原銀次郎
一山一寧墨蹟(金剛經序) 嘉元四年十月十二日		1 幅	〃 新坂町1 吉川文子
◎ 搜神記 句道興撰		1 卷	〃 台東区上根岸町125 財団法人書道博物館
仏説灌頂隨願往生經 (天平九年十二月八日石川年足願經)		1 卷	〃 新宿区諏訪町33 反町十郎
等目菩薩經卷中 (天平神護二年十月八日吉備由利願經)		1 卷	〃 〃 〃
月岡文明墨蹟(同途二大字)		1 幅	〃 品川区大崎2ノ548 荻野一
◎ 古今和歌集卷第18 斷簡(高野切) (旋頭歌)		1 幅	〃 品川区大崎2ノ548 荻野一
◎ 寸松庵色紙(むめのかを)		1 幅	〃 品川区五反田5ノ60 遠山元一
金光明最勝王經音義 承暦三年四月書写奥書		1 冊	〃 目黒区上目黒7ノ1094 財団法人大東急記念文庫
◎ 清原良枝遺誠(徳治三年四月十日) 清原家代々護状(12通)	1 1	2 卷	〃 大田区上池上町1045 舟橋清賢
陸放翁詩集(五山版)		2 冊	〃 大田区田園調布鶏ノ木町388 小汀利得
〔範永宅歌合 越中守頼家歌合〕		1 卷	〃 大田区新井宿2ノ1519 竹本省三
◎ 栄花物語(富岡本)		10 冊	〃 〃 〃
◎ 宋版圓悟心要上下 嘉熙戊戌刊記		2 冊	〃 渋谷区松濤町23 伊東祐淳
◎ 曾我物語(真名本) 天文十五年書写奥書		10 冊	〃 〃 〃
法華經 懷良親王筆 卷第八、正平廿四年八月十六日書写奥書		8 卷	〃 豊島区目白町4ノ42 財団法人黎明会
法華經普門品(裝飾經)		1 卷	〃 〃 〃
◎ 明月記 自筆本 正治元年四・五月		1 卷	〃 豊島区高田本町2ノ7 北沢国男
◎ 狭衣 卷第四欠 (深川本)		3 帖	〃 〃 〃
◎ 狭衣(伝為家筆)		4 帖	〃 〃 〃
◎ 弘決外典鈔 卷第1、2、3 卷第二、弘安七年六月十五日円種奥書		3 帖	神奈川県横浜市金沢区金沢町 称名寺
寒山詩(五山版) 正中二年十月刊記		1 冊	〃 鎌倉市極楽寺町400 石井光雄
◎ 寸松庵色紙(秋のつき)		1 幅	〃 小田原市幸町1ノ874 浅野長武
大般若經卷第四百六十八 殘卷 (神龜五年五月十五日長王願經)		1 卷	〃 新潟県長岡市長町1丁目 反町厚三
金剛頂經曼殊室利菩薩五字心陀羅尼品 淳祐筆		1 卷	〃 北蒲原郡水原町 無為信寺

名	称	員 数	所 有 者
悉曇集記 ^{上中} 淳祐筆		2 卷	新潟県北蒲原郡水原町 無為信寺
日蓮聖人筆書状 国府尼御前御書(建治元年六月十六日) 阿仏房御前御返事(弘安元年七月廿八日) 故阿仏房尼御前御返事(弘安三年七月二日)		3 卷	〃 佐渡郡真野町大字阿仏坊 宣寺
細字法華經(1部8卷) 日野資朝筆 元徳三年五月廿一日書写奥書		1 卷	〃
太政官符 宝龜三年五月廿日 大伴家持自署		1 卷	石川県能美郡辰口町宮竹 宮本長則
太政官符 宝龜三年正月十三日 大伴家持自署		1 幅	〃 石川県鶴来町本町2丁目 桜井慶二郎
◎ 源信明集(彩牋)		1 帖	岐阜県岐阜市上竹屋町 遠藤豊三郎
◎ 寸松庵色紙(ふみわけて)		1 幅	〃 金屋町1丁目 岡本太右衛門
雲居寺結縁經後宴歌合		1 卷	〃 本巢郡真正村下真桑 安藤鉦司
無住道曉筆文書 六祖偈 置文(嘉元三年三月七日) 夢想記 {前右衛門佐源經仲歌合 {出羽守經仲歌合		3 幅	愛知県名古屋市中区矢田町本賀崎 長母寺
仏鑑禪師墨蹟 尺牘		1 幅	〃 蒲安市相府町上浜 1191 安藤柳司
淳祐内供筆聖教(蕪聖教) 附聖教目錄2卷		60 卷 1 帖	〃 知多郡知多町長浦海岸 時次
◎ 宋版纂図互註尚書(普門院本)		4 冊	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺
◎ 白氏文集新楽府断簡四種 陰山道、潤底松、蛮子朝(絹本) 驪宮高(紙本)		3 葉 1 卷	京都府 京都市 京都府京都市右京区宇多野上ノ谷町 財団法人陽明文庫
深心院関白記 具注曆本 三卷 古写本 四卷		7 卷	〃
紫紙金字法華經卷第一		1 卷	〃 左京区南禅寺永観堂町17ノ8 藤井孝昭
◎ 継色紙(われみても)		1 幅	〃 北区平野上柳町16ノ8 堂本三之助
寸松庵色紙(わかきつる)		1 幅	〃 堂本四郎
◎ 古今和歌集第十八断簡 ^(高野切) (貞観御時に)		1 幅	〃 中京区堺町通三条上ル 里見忠三郎
東南院院主房起請 ^(延喜七年二月十三日) 文祿五年正月廿一日義演補筆		1 卷	〃 代見区醍醐伽藍町 醍醐寺
仏説灌頂經 卷第四、七、天平勝宝六年潤十月廿九日奥書		12 帖	〃 南区八条通大宮西入ル柳原町 観智院
◎ 雙観無量寿經卷上 (天平六年聖武天皇勅願經)		1 卷	大阪府大阪市北区角田町51(阪急梅田ビル内) 財団法人逸翁美術館
十五番歌合断簡(素性)		1 幅	〃 都島区網島町 財団法人藤田美術館
朝忠集(八枚)		1 帖	〃

新指定重要文化財一覧(美術工藝品の部)

名	称	員 数	所 有 者
熊野懷紙	久我通親筆 (山路眺望・暮里神楽)	1 幅	大阪府大阪市都島区網島町 財団法人 藤田美術館
大字法華經葉草喩品		1 卷	和泉市内田町 85 久保惣太郎
◎ 願文集	寛元三年十一月二日宗性跋	1 卷	奈良県奈良市雑司町 東大寺
東大寺宗性筆聖教并抄録本(二百十四種)		347 冊・ 99 卷	〃
東大寺凝然撰述章疏類	自筆本 (九種)	146 卷	〃
東大寺文書(千二十六通)		100 卷	〃
高麗版華嚴經随疏演義鈔		40 卷	〃
唐招提寺一切經和版	宋版四千四百五十六帖 写本 八十八帖 二百五十帖	4794 帖	〃 五条町 唐招提寺
附元版五部大乘經(内和版八十三卷写本二十九卷)二百六十九卷			〃 天理市杣之内 天理大学附属天理図書館
三宝類字集卷上(高山寺本)		1 冊	〃
藥種抄本		1 卷	〃
扶桑略記抄		1 冊	〃
宋版新編醉翁談錄		2 冊	〃
◎ 日本紀覽宴和歌上下		2 卷	熊本県熊本市花園町 6 本 妙 寺

考 古 の 部

名	称	員 数	所 有 者
◎ 伊勢国小町経塚出土品			国(東京国立博物館保管)
一、土製光背	二枚 内一承安四年五月廿一日作者僧隆円在銘		
一、土製台座殘闕	二箇		
一、瓦經(大日経卷四)	一枚 過去僧定禪在銘		
一、瓦經殘闕	三十箇		
◎ 埴輪雞	群馬県佐波郡境町大字上武士天神山出土	1 箇	青森県青森市浜町 95 横 内 忠 作
◎ 埴輪甲	二箇		
◎ 埴輪家殘闕	一箇分		宮城県石巻市南鰺山 10 遠 藤 源 七
◎ 埴輪円筒	一箇		
宮城県名取市下増田大字杉ヶ袋出土			
上総国木更津金鈴塚古墳出土品			千葉県 木 更 津 市 (木更津市教育委員会 保管)
一、銅鏡	二面		
一、玉類			
瑪瑙勾玉一箇	水晶切子玉一箇		
琥珀玉一拵	滑石白玉四箇		
ガラス丸玉一拵	ガラス小玉一拵		
一、金銀	八箇		
一、銅承台付蓋鏡	殘闕共 二口分		
一、銅蓋鏡殘闕	一口分		
一、銅鏡殘片	一口分		

名	称	員数	所	有	者
一、刀剣類					
金銅荘環頭大刀	残闕共 七口分				
金銅荘圭頭大刀	柄頭一箇共 三口分				
銀荘圭頭大刀	残闕 一口分				
金銅頭椎大刀	二口				
銀荘雞冠頭大刀	柄頭一箇共 三口分				
金銅荘大刀	残闕 一口分				
金銀荘大刀	残闕 一口分				
其他大刀	残闕 一括				
刀子	残闕共 十一口分				
一、鉄冑	一頭				
一、挂甲札	残闕 一括				
一、銀彈金物	残闕共 三対分				
一、馬具類					
金銅鞍金具	残闕 三背分				
鉄轡	残闕 一括				
金銅杏葉	残闕共 十四箇分				
金銅雲珠	残闕 三箇分				
金銅辻金物	残闕共 十三箇分				
金銅長方形金具	残闕共 十八箇分				
銅馬鐙	六箇				
一、銅鈴	残闕共 一括				
一、金鈴	五箇				
一、銀木実形垂飾	四箇				
一、金步揺	一括				
一、金銅透彫金具	残闕共 2枚分				
一、銀葉形飾金具	1箇				
一、銅飾金具	残闕共 10箇分				
一、土器類					
土師器	14箇				
須恵器	161箇				
一、其他金糸・金箔・布片・鉄鏃残闕・鉄釘等					
一、箱式石棺	1合				
(金鈴塚古墳石室内所在)					
据台付子持鏡		1口	三重県伊勢市浦田町	神宮司庁	
福岡県早良郡金武村羽根土古墳出土					
◎大和国帯解山村廃寺出土品			奈良県奈良市帯解町	円照寺	
一、石製相輪擦残闕	1括				
一、金銅風鐸	舌鈎銀各一箇共 2箇				
◎伯耆国倉吉国分寺古墳出土品			鳥取県倉吉市国府 430	国分寺	
一、夔鳳鏡	1面				
一、三角縁神獸鏡	1面				
一、二神二獸鏡	1括				
附鉄劍・鉄斧頭等					
◎埴輪男子立像		1軀	山口県徳山市佐保町 1704	樋口恵子	
群馬県伊勢崎市波志江町出土					

新指定重要文化財一覧(美術工藝品の部)

名	称	員 数	所 有 者
土製彩繪経筒 久安三年十月廿三日在銘 福岡県筑紫郡太宰府天満宮境内経塚出土 筑前国宗像神社沖津宮祭祀遺跡出土品		一口	福岡県福岡市本庄町天神通41 柴 田 子 ヨ 同 宗像郡玄海町大字田島 宗 像 神 社
一、銅鏡			
変形方格四神鏡	1 面		
変形三角縁神獸鏡	1 面		
珠文鏡残闕	1 面分		
変形文鏡残闕	1 面分		
無文鏡	1 面		
一、玉類			
硬玉勾玉	3 箇		
滑石勾玉	6 箇		
碧玉勾玉	1 箇		
碧玉管玉	40 箇		
滑石管玉	55 箇		
水晶切子玉	13 箇		
ガラス切子玉	7 箇		
滑石棗玉	10 箇		
滑石玉類等	1 括		
ガラス玉類	1 括		
真珠	1 箇		
滑石子持勾玉	3 箇		
一、金指環	1 箇		
一、金釧	1 箇		
一、銀釧 残闕共	3 箇分		
一、銅釧	1 箇		
一、碧玉釧 残闕共	2 箇分		
一、金銅帶金具	8 箇		
一、馬具類			
鉄鞍橋残闕	1 背分		
一、金銅杏葉付雲珠 辻金物共	1 具		
金銅雲珠	1 括		
金銅杏葉	12 箇		
金銅散金物	5 箇		
其他馬具類残闕	1 括		
一、金銅唐草文透彫金具	2 枚		
一、刀剣類			
直刀身残闕共	1 括		
金銅鐔銅製銀張鞘口共	1 箇		
刀子残闕	1 括		
劍身	1 口		
矛身	11 口		
金銅矛鞘	1 口		
一、三輪玉	17 箇		
一、鉄鎌	1 括		
一、斧形鉄器	1 括		
一、挂甲札残闕	1 括		
一、滑石模造品 人形	1 箇		

名	称	員数	所有者
船形	2 箇		
一、銅盤	2 箇		
一、土器類	1 括		
一、ガラス碗残片	1 箇		
一、三彩釉陶器残片	1 箇		

重要文化財に未指定物件(一部重美)を追加して、名称、員数を改めたもの

絵 画 の 部 ○印は追加物件を示す

名	称	員数	所有者
大方丈障壁画	岡田為恭筆	47 面	愛知県岡崎市鶴田町鶴田大樹寺
紙本著色子日図	襖貼付 6 壁貼付 15	21	
紙本著色琴棋書画図	戸袋貼付	4	
紙本著色茸狩図	襖貼付 16 壁貼付 6	22	
紙本著色鶴図	襖貼付 16 壁貼付 3	19 面	
紙本著色牡丹図	襖貼付 12 壁貼付 3	15 面	
紙本著色鉄線花図	襖貼付	16 面	
板絵著色杉戸絵		16 面	
附	布袋唐子図 2 檜時鳥図 2 鴛鴦図 2 蘇鉄猫図 2 岩に鷹図 2 東遊図 2 緑陰浴馬図 2 花果籠図 2		
紙本墨画春秋山水図	襖貼付	16 面	
小方丈杉戸絵		6 面	
附	松に桜図 2 紅葉滝図 2 陶淵明図 2		
○ 紙本著色蓮池図	(本堂所在) 襖貼付	8 面	
紙本墨書作画目録	為恭筆 安政4年の 年記がある	1 巻	

彫 刻 の 部

名	称	員数	所有者
木造釈迦如来立像		1 軀	東京都目黒区下目黒 1 / 150 円 寺
○附像内納入品			
菊花双雀鏡		1 面	
鏡面に「釈迦如来、建久四年十月十六日、丹治氏乙女」の線刻がある			
紙本墨書紙片		3 枚	
「丹治氏乙女」「紀千國女」「公□氏」とある			

新指定重要文化財一覧(美術工芸品の部)

名	称	員 数	所 有 者
木造六観音菩薩像 准胝観音像内に造仏師肥後別当定慶、貞応三年五月四日の銘がある ○附像内納入経	8巻 1 1 (以上聖観音分) (千手観音分) (馬頭観音分) (十一面観音分) (准胝観音分) (如意輪観音分)	6 軀	京都府京都市上京区五辻通六軒町西入ル溝前町 大 報 恩 寺
紙本朱書法華経普門品 紙本朱書消伏毒害陀羅尼經 紙本朱書千手陀羅尼經 紙本朱書馬頭念誦儀軌 下巻に貞応三年、大檀那藤原以久、女大施主藤氏、六観音造立納経、執筆明増の奥書がある 紙本朱書十一面神咒心經 紙本朱書准胝陀羅尼經 紙本朱書如意心陀羅尼呪經 貞応3年書写、願主肥後前司藤原以久、女大施主藤氏、執筆明増の奥書がある			

工 藝 品 の 部

名	称	員 数	所 有 者
透漆梓弓 木造彩絵胡録 六目鳴簫箭 簫箭 鐵欠 利箭 ○(利箭1本追加) 赤糸威鏡殘闕 ○附25周四方白星兜鉢	1張 1枚 1本 1本 5本 1頭	1 括	国(東京国立博物館保管) 福島県東白川郡棚倉町馬場 都々古別神社

書 跡 の 部

名	称	員 数	所 有 者
幼学指南鈔 ○(重美幼学指南鈔1帖追加) 東寺文書(礼楽射御書数箱入) ○(弘福寺領田地目録(天平十五年四月廿二日)1巻外4巻追加) (紺紙金字一切経(神護寺経) 経帙(中に久安五年墨書) 附黒漆塗経箱 45合 ○(紺紙金字一切経(神護寺経)46巻外経帙、経箱追加)	6 帖 91 巻 2317巻 202 枚		東京都目黒区上目黒7ノ1094 財団 大東急記念文庫 法人 京都府京都市南区九条町 教王護国寺 同 右京区梅ヶ畑高雄町 神 護 寺

考 古 の 部

名	称	員 数	所 有 者
筑前国嘉穂郡王塚古墳出土品 1. 変形神獸鏡	1面		福岡県嘉穂郡 桂 川 町

名 称	員 数	所 有 者
1. 玉類 瑠璃管玉 1 箇、埋木切子玉 2 箇、土製丸玉 9 箇、○琥珀畫玉残闕 1 箇		
1. 金銀 1 箇	1 箇	
1. 馬具類 金銅鞍金具残闕一背分、○金銅轡鏡板 3 箇 ○金銅杏葉 10 箇、○金銅雲珠 2 箇、○金 銅辻金物残闕共 10 箇分、鉄鍔残闕等		
○1. 銀鈴 1 箇	1 箇	
1. 挂甲札残闕 1 括	1 括	
1. 土器類 1 括 其他出土品一切	1 括	
筑前国四王寺陀經塚群出土品		福岡県粕屋郡 宇 美 町
{銅經筒 木製内筒及經軸残片共 1 口	1 口	
{石造如来立像 1 軀 以上第一經塚	1 軀	
{輪積式銅經筒 1 口	1 口	
{牡瓦 2 枚 以上第二經塚	2 枚	
{銅經筒 1 口	1 口	
{瓦筒 1 口 以上第三經塚	1 口	
{褐釉經筒 1 口	1 口	
{青白磁盒子 1 合	1 合	
{山吹双雀鏡 1 面	1 面	
{菊花双雀鏡 1 面 以上第四經塚	1 面	
{甕 1 口	1 口	
{銅經筒 木製据台及經卷残塊共 1 口	1 口	
銘文元永貳年 ^{歲次} 己亥 ^{玖月} 廿四日 勸進僧良実		
以上第五經塚		
褐釉經筒 1 口	1 口	
以上第六經塚		
{褐釉六耳壺 經軸共 1 口	1 口	
{青白磁小壺 1 口	1 口	
以上第七經塚		
輪積式銅經筒 1 口	1 口	
以上第八經塚		
附 { 褐釉經筒 1 口	1 口	
○法華經(1部8卷)	2 部	
{輪積式銅經筒 1 口	1 口	
四王寺山出土		
○(法華經八卷追加)		

新指定重要文化財一覧(美術工藝品の部)

重要文化財の名称を改めたもの

彫 刻 の 部

名	称	員 数	所 有 者
木造不動明王及二童子立像(本堂安置) 中尊像内に造立願主藤原氏、錦信貞、同勝古曾子、 寛治八年三月廿六日の銘がある 杢羯羅童子像内納入の紙片三枚の一に(国二年九围 云々とある		3 軀	大阪府富田林市彼方 明 王 寺

その他既に重要文化財に指定されたもの (註、当年鑑 1959 年版未載録分)

彫 刻 の 部 (昭和 33 年 10 月決定
昭和 33 年 10 月 7 日付指定)

名	称	員 数	所 有 者
石造如来倚像(頭部欠失) (旧天竜山石窟仏)		1 軀	東京都中央区京橋ノ 11 蘭 山 順 吉

考 古 の 部 (昭和 33 年 3 月決定
昭和 33 年 3 月 25 日付指定)

名	称	員 数	所 有 者
埴輪武装男子立像 群馬県佐波郡境町大字上武士天神山出土		1 軀	石川県金沢市中川除町 嵯 峨 保 二

建 造 物 の 部

新指定(昭和 34 年 3 月に指定の決定があつたもの)

◎印は重要美術品等認定物件より重要文化財指定の決定があつたものを示す

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 住 所	所在の場所
1	白山神社拜殿	1 棟	桁行 3 間、梁間 3 間、1 重、入母屋造、 檜皮葺	白山神社	滋賀県甲賀 郡石部町大 字東寺	滋賀県甲賀 郡石部町大 字東寺
2	南法華寺礼堂	1 棟	桁行 5 間、梁間 2 間、背面 3 間庇附、 1 重、入母屋造、本瓦葺	南法華寺	奈良県高市 郡高取町大 字壺坂	奈良県高市 郡高取町大 字壺坂
3	観音寺金堂	1 棟	桁行 3 間、梁間 4 間、一重、寄棟造、 向拝 1 間、本瓦葺 附 厨子 1 基 3 間厨子、入母屋造、妻入、こ けら葺 棟札 1 枚 再興延宝 五丁巳 曆卯月廿一日の記がある	観 音 寺	香川県観音 寺市観音寺 町	香川県観音 寺市観音寺 町
◎ 4	松尾寺本堂	1 棟	桁行 3 間、梁間 3 間、一重、寄棟造、 茅葺	松 尾 寺	長野県南安 曇郡穂高町 大字有明	長野県南安 曇郡穂高町 大字有明

新指定重要文化財一覧(美術工藝品の部)

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 所 住	所在の場所
◎ 5	白髯神社本殿	1棟	1間社流造、こけら葺	白髯神社	長野県上水内郡鬼無里村大字日影	長野県上水内郡鬼無里村大字日影
◎ 6	五社神社十三重塔	1基	石造十三重塔	五社神社	大阪府池田市才田	大阪府池田市才田
7	板 塔 婆	2基	石造板塔婆 各延文二年己未十一月十五日の刻銘がある	細見亮市	大阪府泉大津市助松ノ浜	大阪府泉大津市助松ノ浜

重要文化財を改めて統合の上1件とし、新たに未指定物件を附として追加して、名称、員数並びに構造及び形式を改めたもの

○印は今回追加指定したもの

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 所 住	所在の場所
1	高 倉 神 社 本境内社八幡社 本殿 境内社春日社 本殿	3棟	一 間社流造、檜皮葺 一 間社流造、檜皮葺 一 間社隅木入春日造、檜皮葺 附○棟札 6枚 造立春日社天正二年甲戌十一月二日の記があるもの 1 八幡春日両社表簀三社修理寛文元年辛巳九月二十八日の記があるもの 1 諏訪八幡両社上簀元祿二己巳天三月中旬吉辰御宮遷の記があるもの 1 上簀春日社宝永元甲申天霜月十四日の記があるもの 1 上簀八幡春日享保十三戊申天三月二十三日遷宮の記があるもの 1 簀替高倉八幡春日三社文化十四丁丑年三月吉祥日の記があるもの 1	高倉神社	三重県上野市西高倉	三重県上野市西高倉

重要文化財に新たに未指定物件を附として追加して、その員数並びに構造及び形式を改めたもの

○印は今回追加指定したもの

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 所 住	所在の場所
1	猪田神社本殿	1棟	一 間社流造、檜皮葺 附○棟札 6枚 上簀寛永五子年二月十三日の記があるもの 1 上簀延宝八申年四月十有五日の記があるもの 1 上簀延享四卯年六月廿九日の記があるもの 1 修理天明七丁未歳四月十四日の記があるもの 1 上簀慶応元乙丑年十二月十三日の記があるもの 1 □七稔丁多五月十八日棟上の記があるもの 1	猪田神社	三重県上野市猪田	三重県上野市猪田

新指定重要文化財一覧(美術工藝品の部)

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 所 住	所在の場所
2	庫蔵寺本堂	1棟	桁行4間、梁間3間、1重、寄棟造、妻入、向拝1間、檼瓦葺 附○厨子(伝旧本尊厨子) 1基 一間厨子、入母屋造、本瓦形板葺 ○棟札 6枚 建立永祿二十二年辛酉九月二十一日の記があるもの 1 上尊慶長八年九月二十八日の記があるもの 1 上尊元和九天霜月吉日の記があるもの 1 上尊明暦式丙申年五月吉祥日の記があるもの 1 上尊貞享元甲子年三月吉祥日の記があるもの 1 上尊宝永八辛卯年三月吉祥日の記があるもの 1	庫蔵寺	三重県鳥羽市河内町丸山	三重県鳥羽市河内町丸山
3	観菩提寺楼門	1棟	三間一戸楼門、入母屋造、檜皮葺 附○棟札 1枚 再興寛文三关曆八月吉祥日の記がある 卯	観菩提寺	三重県阿山郡島ヶ原村	三重県阿山郡島ヶ原村
4	大村神社宝殿	1棟	一間社入母屋造、妻入、檜皮葺 附○棟札 3枚 造崇正保四丁年卯月十一日の記があるもの 1 元祿十一戊寅六月二十八日の記があるもの 1 上尊安永八己亥年十一月十二日の記があるもの 1	大村神社	三重県名賀郡青山町阿保	三重県名賀郡青山町阿保

重要文化財の名称、員数並びに構造及び形式を改めたもの

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 所 住	所在の場所
1	地藏院愛染堂	1棟	桁行3間、梁間3間、1重、寄棟造、向拝1間、本瓦葺	地藏院	三重県鈴鹿郡関町新町	三重県鈴鹿郡関町新町
2	国津神社十三重塔	1基	石造十三重塔	国津神社	三重県一志郡美杉村太郎生	三重県一志郡美杉村太郎生
3	観菩提寺本堂	1棟	桁行3間、梁間3間、1重、入母屋造、向拝3間、檜皮葺	観菩提寺	三重県阿山郡島ヶ原村	三重県阿山郡島ヶ原村
	北野天満宮 本殿、石の間、 拜殿及び楽の間 中 門	8棟	本 殿 桁行5間、梁間4間、1重、入母屋造、右側面3間庇附、檜皮葺 石の間 桁行3間、梁間1間、1重、両下造、檜皮葺 拜 殿 桁行7間、梁間3間、1重、入母屋造、正面千鳥破風附、向拝7間、軒唐破風附、檜皮葺 楽の間 東西各桁行正面2間、背面3間、梁間2間、1重、一端入母屋造、他端拜殿に接統、檜皮葺 四脚門、入母屋造、前後千鳥破風及び軒唐破風附、檜皮葺 附 左右袖塀2棟			

新指定重要文化財一覧(美術工藝品の部)

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 所 住	所在の場所
4	廻 廊 後 透 東 門		各延長3間、檜皮葺 左右各桁行折曲り延長16間、梁間1間、1重、切妻造、檜皮葺、潜門1所を含む 一週一戸平唐門、檜皮葺 左透塀 折曲り延長14間、檜皮葺、潜門1所を含む 右透塀 折曲り延長16間、檜皮葺 附 棟札 6枚 再興慶長十二曆十二月吉日の記があるもの 1 上棟寛文九年己酉二月吉日の記があるもの 1 上棟元禄十三年庚辰十二月己丑十三日辛未の記があるもの 1 元文元年丙辰八月吉祥日の記があるもの 2 修造明和七年庚寅七月吉祥日の記があるもの 1 四脚門、切妻造、檜皮葺	北野天満宮	京都府京都市北区馬喰町	京都府京都市北区馬喰町

重要文化財の名称を改めたもの

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 所 住	所在の場所
1	元興寺極楽坊東門	1 棟	四脚門、切妻造、本瓦葺	元興寺極楽坊	奈良県奈良市中院町	奈良県奈良市中院町

重要文化財の解除

文昭院靈廟附銅燈籠 95 基(昭和32年7月24日付解除)

有章院靈廟附銅燈籠 8 基(昭和32年7月24日付解除)

有章院奥院宝塔及び附惇信院宝塔(昭和33年5月14日付解除)

文昭院(徳川家宣)靈廟、奥院宝塔・奥院中門(昭和33年5月1日付解除)

(重要文化財目録第13集より転載)

昭和34年10月17日指定決定(同年12月18日官報告示)

美術工藝品の部

絵 画 の 部

新 指 定

◎印は重要美術品等認定物件から重要文化財指定の決定があつたものを示す

名 称	員 数	所 有 者
板絵著色日光三所権現像被板付額装正和二年銘	1 面	栃木県日光市山内輪王寺
板絵著色日光三所権現像額装正和五年銘銘文中に「筆師曉運」とある	1 面	
板絵著色日光三所権現像被板付額装正中二年銘	1 面	

新指定重要文化財一覧(美術工藝品の部)

名	称	員 数	所 有 者
板絵著色日光三所権現像	被板付額装 嘉暦二年銘	1面	栃木県日光市山内 輪 王 寺
板絵著色日光三所権現像	被板付額装 延文二年銘	1面	
板絵著色日光三所権現像	額装	1面	
附絹本著色日光三所権現像		1幅	
板絵著色役行者八大童子像	被板付額装 元徳三年銘 銘文中に「画師大法師滝□□」とある	1面	〃 〃
板絵著色役行者八大童子像	額装	1面	
板絵著色勝道上人像	額装 文保二年銘	1面	〃 〃
板絵著色勝道上人像	額装 正中二年銘	1面	
◎ 紙本白描十二天図像(珍海本)	(羅刹天、水天、伊舎那天、梵天、地天、日天)	6幅	東京都新宿区戸山町 35 反 町 茂 作
◎ 紙本白描十二天図像(珍海本)	(帝釈天、火天、閻魔天、風天、毘沙門天、月天)	6幅	〃 新宿区諏訪町 33 反 町 十 郎
◎ 絹本著色夏山雨後図	藍瑛筆	1幅	〃 目黒区下目黒 1 / 5 三 条 実 春
◎ 絹本著色秋景山水図	藍瑛筆 戊寅(崇禎十一年)秋 八月の年記がある	1幅	〃 世田谷区岡本町 912 財団 静 。 嘉 堂 法人
附絹本著色同模本	谷文晁筆	1幅	〃 中野区千光前町 14 大 倉 亀
◎ 絹本著色貴神邸宅図		1幅	神奈川縣鎌倉市山ノ内 186 瀬 津 巖
◎ 絹本著色一遍上人絵伝断簡(江之島)	(歙喜光寺本)	1幅	〃 鎌倉市山ノ内 485 前 田 廉 造
◎ 絹本著色二河白道図		1幅	〃 小田原市板橋 松 永 安 左 衛 門
◎ 紙本著色地獄草紙断簡(勘当の鬼)		1幅	富山県富山市中野新町 大 津 賀 善 允
◎ 紙本著色野郎歌舞伎図	六曲屏風	1双	静岡県熱海市熱海 232 / 1 宗教 法人 世 界 救 世 教
◎ 絹本著色寒江独釣図		1幅	京 都 市
◎ 紙本金地著色舞踊図	六曲小屏風	1隻	京都府京都市右京区梅ヶ畑榎尾町 高 山 寺
◎ 絹本著色熊野曼荼羅図		1幅	〃 左京区南禅寺福地町 聡 松 院
◎ 絹本著色天境靈致像	永徳元年の自賛がある	1幅	〃 東山区新橋通大和路東入ル 一 心 院
◎ 絹本著色阿弥陀如来像		1幅	〃 綴喜郡八幡町 八 角 院
◎ 絹本著色石清水曼荼羅図		1幅	大阪府大阪市北区角田町 51 (梅田阪急ビル内) 財団 逸 翁 美 術 館 法人
◎ 紙本著色十卷抄	延慶二年寛敵の奥書がある	10巻	〃 池田市本町 3131 財団 阪 急 学 園 法人
◎ 紙本金地著色三十三間堂通矢図	六曲屏風	1隻	大阪府守口市橋波東之町 1 / 77 木 崎 国 嘉
◎ 絹本著色閻魔天曼荼羅図		1幅	

名	称	員数	所有者
◎ 紙本著色北野天神縁起 永仁六年藤原親泰施入の奥書がある		3巻	兵庫県姫路市飾磨区構津田天満神社
◎ 紙本著色東大寺大仏縁起 天文五年祐全の奥書がある	芝琳賢筆	3巻	奈良県奈良市雑司町東大寺
{ 絹本著色嘉祥大師像		1幅	〃
{ 絹本著色浄影大師像		1幅	〃
{ 絹本著色四聖御影(建長本)		1幅	〃
{ 絹本著色四聖御影(永和本)	美濃法橋観盛筆	1幅	〃
◎ { 紙本墨画菊図		1幅	和歌山県伊都郡高野町大字高野山遍照光院
{ 紙本墨書菊図	慶仲周賀等十僧筆	1幅	〃
絹本著色一字金輪曼荼羅図 裏に承久二年深賢伝領の押紙がある		1幅	〃
{ 絹本著色浅井久政像 永祿十二年玄中性洞の賛がある		1幅	同
◎ { 紙本著色浅井長政像 天正十七年鍊甫宗純の賛がある		1幅	持明院
{ 絹本著色浅井長政夫人像		1幅	〃
板絵著色神像(本段板壁面)		3面	島根県松江市佐草町八重垣神社

彫刻の部

名	称	員数	所有者
木造兜跋毘沙門天立像		1軀	岩手県江刺市藤里智福愛宕神社
木造僧形坐像 膝裏に永承二年二月五日、仏師僧〇〇の銘がある		1軀	同 水沢市黒石町黒石寺
◎ 銅造釈迦如来坐像 台座背面に比丘法恩造像の銘がある		1軀	東京都中央区日本橋中洲7三田庄三郎
◎ 石造如来立像 光背に桓氏一族等の名がある		1軀	〃 港区葵町3財団法人大倉集古館
◎ 石造如来及両脇侍立像 光背及び台座に都邑師法始等73人の名がある		1基	〃 新宿区戸山町35反町茂作
◎ 石造菩薩半跏像		1軀	〃 文京区関口台町26財団法人永青文庫
{ 木造阿弥陀如来立像		1軀	三重県四日市市富田町北村善教寺
{ 像内納入文書 紙本阿弥陀如来十一面観音摺仏等 嘉禎四年、延応元年、同二年、仁治 元年の記がある		1括	〃
紙本墨書仏頂尊勝陀羅尼		1紙	〃
紙本墨書般若心経阿弥陀経		合1巻	〃
天福元年藤原実重奥書			〃
紙本墨書藤原実重作善日記		1巻	〃
仁治二年奥書			〃
紙本墨書藤原実重願文		1巻	〃
延応元年奥書			〃
木造釈迦如来坐像(本堂安置)		1軀	滋賀県栗太郡栗東町荒張金勝寺
木造軍荼利明王立像		1軀	〃
木造地藏菩薩坐像 像内に文治三年十月十五日、造立供養の銘がある		1軀	〃 甲賀郡甲賀町櫟野櫟野寺

新指定重要文化財一覧(美術工藝品の部)

名	称	員 数	所 有 者
木造役行者及二鬼像		3 軀	滋賀県神崎郡五ヶ荘町石馬寺
木造薬師如来立像(薬師堂安置) 像背面に薬師如来造立、建保三年四月十七日の銘がある		1 軀	伊香郡余呉村上丹生源昌寺
木造観音菩薩立像(観音堂安置) 像背面に奉造立、建保四年七月日の銘がある		1 軀	余呉村菅並洞寿院
木造大日如来坐像(西塔安置)		1 軀	和歌山県伊都郡高野町大字高野山金剛峯寺
木造大日如来坐像(本堂安置)		1 軀	西南院
木造阿弥陀如来立像 快慶作 左足柄に巧匠安阿弥陀仏の銘がある		1 軀	遍照光院
木造釈迦如来坐像(本堂安置)		1 軀	円通寺
木造薬師如来坐像		1 軀	香川県丸亀市本島町東光寺

工 藝 品 の 部

名	称	員 数	所 有 者
◎ 刀	無銘伝来国光	1 口	青森県弘前市東府町9平泉秀一
◎ 銅鉢	色々威腹巻 兜壺袖付 (伝上杉謙信所用) 附黒漆鐙櫃	1 領	山形県米沢市南堀端町36上杉神社
◎ 銅鉢	陸奥国会津山郡熊野山新宮證誠殿御鉢、暦応四年辛巳六月三日、大工円阿の刻銘がある	1 口	福島県喜多方市大字新宮字熊野熊野神社
◎ 鰐口	奥州会津蛭河庄塔寺八幡宮之鰐口、奉鋳大檀那三浦草名性覚、大工円性至徳二年丁卯十一月十五日の刻銘がある	1 口	河沼郡会津坂下町塔寺心清水八幡神社
◎ 金銅鍔字御正体		1 面	栃木県足利市家富町鍔阿寺
銅錫杖頭	奉施入日光山女体権現御宝前正応元年戊子十一月日の刻銘がある	1 柄	日光市山内輪王寺
金銅鰐口	日光山金堂鰐口永正三年丁卯四月下旬大工下野国阿僧那天命住人大河掃部助占部高信の刻銘がある	1 口	〃
鍔銅半肉千手観音像		1 面	〃
金銅大火舎香炉		1 口	〃
金銅小形密教法具			〃
火 舎	1 口		
花 瓶	2 口		
六 器	6 口		
飲食器	1 口		
六 器	2 口		
行事壇皆具			〃
火 舎	1 口		

名	称	員 数	所 有 者
花 瓶	2 口		
六 器	6 口		
飲食器	2 口		
金剛盤	1 面		
「寛永辛巳四月十七日日光山東照社御宝前」の刻銘がある			
五鈷鈴	1 口		
五鈷杵	1 口		
三鈷杵	1 口		
独鈷杵	1 口		
灑水器	1 口		
塗香器	1 口		
磬・磬架	1 具		
燈 台	2 基		
前 机	1 基		
脇 机	2 基		
礼 盤	1 基		
刺繍種子阿弥陀三尊掛幅		1 幅	栃木県日光市山内 輪 王 寺
刺繍不動明王二童子像掛幅		1 幅	〃
金銅装神輿	1 基		
「野州小山大正持宝寺願主仏藏坊能応康応元〇〇月日」の刻銘がある			〃 二 荒 山 神 社
金銅装神輿	1 基		
「銀細工彼家彦四郎行因」の刻銘がある			
金銅装神輿	1 基		
「銅細工比氣彦左衛門尉行久・沙弥正道・沙弥乗運」の刻銘がある			
大太刀	無銘(号瀬登太刀)	1 口	〃 〃
金銅蛭巻兵庫鎖太刀拵		1 口	東京都千代田区駿河台 2 / 9 梅 沢 義 一
◎ 定窯白磁蓮花唐草文鉢		1 口	〃 中央区宝町 1 / 4 吉 田 吉 之 助
◎ 源氏夕顔蒔絵手箱		1 合	〃 港区赤坂青山南町 6 / 115 財団 法人 根 津 美 術 館
◎ 金銅鉢		1 口	〃
「重大四斤九両」の刻銘がある			
附鉢支		1 口	
◎ 唐物肩衝茶入	銘松屋	1 口	〃
附龍三爪純子袋	珠光好	1	
木綿広東袋	利休好	1	
波梅鉢純子袋	織部好	1	
捻梅唐草純子袋	遠州好	1	
黒漆挽家		1	
黒漆四方盆		1	
◎ 蓬萊山蒔絵櫛箱		1 合	〃 港区芝白金猿町 67 晶 山 一 清
◎ 楽焼赤茶碗	銘雪峯 光悦作	1 口	〃
◎ 古備前火櫛水指		1 口	〃
◎ 紫地唐草文印金九条袈裟		1 領	〃 品川区北品川 3 / 325 原 邦 造
秋野蒔絵手箱		1 合	〃 品川区五反田 5 / 6 遠 山 元 一

新指定重要文化財一覧(美術工藝品の部)

名	称	員 数	所 有 者
◎ 唐物肩衝茶入 附珠光純子袋 白極手純子袋	銘初花 1 1	1口	東京都渋谷区代々木大山町1064 徳川家正
◎ 三島芋頭水指 胴に「高靈仁寿府」の銘がある		1口	〃 世田谷区岡本町912 財団法人 静嘉堂
◎ 刀 銘於南紀重国造之		1口	〃 杉並区久我山1ノ32 中島たま
◎ 太刀 銘貞次		1口	神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩崎町132 角替利策
◎ 鉄仏餉鉢 胴に嘉暦元年丙九月吉日の鋳出銘がある		1口	新潟県西蒲原郡弥彦村 弥彦神社
◎ 孔雀文磬		1面	長野県松本市 松本市立博物館保管)
◎ 金銅十一面観音釈迦聖観音像御正体 裏に建長元年大才八月六日の針書銘がある		1面	〃 東筑摩郡坂北村大字別所 岩殿寺
◎ 梵鐘 三河国薬勝寺椎鐘寛喜二年庚卯月三日の鋳出銘がある		1口	愛知県蒲郡市坂本町深山 勝善寺
◎ 梵鐘 美州不破郡清水寺宝治元丁未九月廿二日東大寺大工散位山河助清の刻銘がある		1口	〃 知多郡知多町 八社神社
金銅雲形孔雀文磬 「民安寺」の針書がある		1面	滋賀県坂田郡山東町大字柏原 成菩提院
◎ 色々威腹巻大袖付 附笈形鍔櫃		1領	京都府京都市上京区一条通御前通西入 高津義家
金銅蓮華形磬		1面	大阪府大阪市天王寺区上本町6ノ1 近畿日本鉄道株式会社 (財団大和文華館保管)
群鹿時絵笛筒蓋欠 附横笛1管		1筒	〃
金銅密教法具 火舎 1口 花瓶 2口 六器 5口			兵庫県神戸市須磨区大手町9ノ1 勝福寺
朱漆金銅装桶 各々に「大神八所大明神 嘉元参季乙卯月一日」の朱漆銘がある		2枚	奈良県磯城郡大和郡三輪町 大神神社
◎ 太刀 銘備州住高光作 元亨四年七月日		1口	岡山県岡山市東古松町358 林原一郎
◎ 銅五鈎鈴 「備前国新田安養寺了円之 建武五年三月 日」の刻銘がある		1口	〃 和気郡和気町大字泉 安養寺
◎ 鯛口 奉寄進鯛口周防脇山口今八幡大菩薩御宝前、大檀那多々良義隆、天文三年甲午卯月上旬葦屋金屋大工大江宣秀の刻銘がある		1口	山口県山口市八幡馬場 今八幡宮
◎ 梵鐘 周防国吉敷郡冰上山興隆寺、享祿五年壬辰八月吉曜日、葦屋元金屋大工大江宣秀、大願主多々良義隆の鋳出銘及刻銘がある		1口	〃 吉敷郡大内町大字御堀 興隆寺

書 跡 の 部

名	称	員 数	所 有 者
高麗版一切経		614 冊	栃木県日光市山内 輪 王 寺
◎ 大慈恩寺三蔵法師伝巻第6		1 巻	東京都千代田区駿河台 2 / 9 梅 沢 彦 太 郎
◎ 紺紙金字仏舎利奉納願文	九条兼実筆 文治五年九月廿八日	1 幅	〃 千代田区神田神保町 1 丁目 酒 井 宇 吉
◎ 月礪文明墨蹟	拈香語	1 幅	〃 港区青山南町 6 / 115 財団 根 津 美 術 館 法人
◎ 月江正印墨蹟	玉泉字号偈 至正八年仲冬	1 幅	〃
◎ 飛鳥井雅経筆懷紙(詠暁紅葉和歌)		1 幅	〃
◎ 大職冠伝	弘安□年十二月十三日書写奥書	1 巻	〃 港区芝三田功運町 39 柳 原 博 光
◎ 春日若宮神主祐茂百首和歌		1 巻	〃
◎ 都玉記	(建久九年、建暦二年) 大普会事	1 巻	〃
◎ 古今和歌集巻第九断簡(蠟箋)	伝俊頼筆 (甲斐国に)	1 幅	〃 港区三田功運町 1 / 1 東急三田ア パート 高 野 光 正
◎ 清拙正澄墨蹟	乗弘謝語(蠟箋) 建武四年臘月旦	1 幅	〃
◎ 源頼朝筆書状	(文治三年十一月九日) 山城介宛	1 幅	〃 品川区五反田 5 / 60 遠 山 元 一
源氏物語	桐壺巻、元応二年十月書写奥書 夢浮橋巻、慶長十九年仲春後陽成天皇御跋	51 帖	〃 大田区新井宿 2 / 1519 竹 本 泰 一
源氏物語		32 帖	〃 北区西ヶ原 3 / 34 吉 田 幸 一
◎ 友雲土思、月江正印墨蹟	唱和偈	1 幅	神奈川県鎌倉市深沢町笛田 財団 常 盤 山 文 庫 法人
◎ 仏鑑禪師墨蹟	禅院牌字「巡堂」 東福寺伝来	1 幅	〃
◎ 藤原信綱筆懷紙(くれなゐの)		1 幅	愛知県名古屋市区南鷹匠町 2 / 1 関 戸 有 彦
◎ 源家長筆懷紙(たをやめか)		1 幅	〃
◎ 古事記裏書	応永三十一年七月道祥書写奥書	1 冊	三重県伊勢市浦田町 神 宮
◎ 古事記上巻	応永卅三年八月春璫書写奥書	1 冊	〃
◎ 伏見天皇宸翰御歌集(五十五首)		1 巻	京都府京都市左京区下鴨北園町 78 神 田 喜 一 郎
◎ 平宗盛筆消息	(仁安二年九月十八日) 右兵衛督宛	1 幅	〃
◎ 寸松庵色紙(すかはらのあそん)		1 幅	〃 左京区南禅寺下河原町 37 野 村 文 英
◎ 貫之集下断簡(石山切)	(紀將歌) 二枚綴(集第十) 附貼紙 一幅	1 幅	〃 左京区南禅寺草川町 60 上 田 堪 一 郎
◎ 尊円親王筆消息(二月五日)		1 幅	〃 右京区宇多野上ノ谷町 財団 陽 明 文 庫 法人
◎ 大府記	寛治六年春 (古写本)	1 巻	〃

新指定重要文化財一覧(美術工芸品の部)

名	称	員 数	所 有 者
◎ 吉黄記	康元二年三月、閏三月 (自筆本)	1 巻	京都市右京区宇多野上ノ谷町 財団法人 陽明文庫
◎ 紺紙金字光明経	卷第四、久安元年八月、九月書写奥書	4 巻	〃 右京区梅津中村町 長福寺
◎ 藤原範宗筆懷紙	(旅宿時雨・故郷曉月) 附後西天皇宸筆範宗略伝 一通	1 幅	〃 上京区御車道清和院口上ル梶井町 北村謹次郎
継色紙(あしひきの)		1 幅	〃 北区平野上柳町16ノ8 堂本四郎
{ 黄檗山木額・柱聯・榜牌額四十面・聯四十四対・榜 同 下書 牌十三面 十四幅			〃 宇治市五ヶ荘 万福寺
古今和歌集卷第九断簡	(高野切) (卷第九巻頭)	1 幅	大阪府大阪市東区高麗橋3ノ23 湯木貞一
寸松庵色紙(よしのかは)		1 幅	〃
熊野懷紙	飛鳥井雅經筆 (山路眺望・暮里神楽)	1 幅	〃
古今和歌集卷第十八断簡	(高野切) (むねをかの)	1 幅	〃 都島区網島町40 財団法人 藤田美術館
継色紙(つくはねの)		1 幅	〃
古今和歌集断簡	(筋切 八葉) (通切 二葉)	1 帖	〃
法華経卷第六	万里小路宣房筆 正中三年四月十六日書写奥書	1 巻	〃
◎ 熊野懷紙	藤原範光筆 (山河水鳥・旅宿埋火)	1 幅	〃 和泉市内田町85 久保惣太郎
熊野懷紙	久我通光筆 (深山紅葉・海辺冬月)	1 幅	〃 和泉市府中町1477 森田一顕
◎ 藤原長房筆懷紙(きゝまでも)		1 幅	兵庫県西宮市名次町3ノ2 松下幸之助
文鏡秘府論		6 帖	和歌山県伊都郡高野町高野山 三寶院
西南院文書		11 巻	〃 西南院
和泉往来	文治二年四五月書写奥書	1 巻	〃
◎ 太平記	吉川元春筆 各冊自永祿六年至同八年書写奥書 附太平記目録 一冊	40 冊	山口県岩国市大字横山350 吉川重喜
◎ 元亨釈書	吉川経基筆	15 冊	〃

考 古 の 部

名	称	員 数	所 有 者
◎ 埴輪男子立像	群馬県藤岡市本郷出土	1 軀	茨城県石岡市高浜町 広瀬栄一
埴輪男子立像	茨城県結城郡八千代村出土	1 軀	東京都中野区千光前町14 大倉亀
埴輪男子跪坐像	茨城県西茨城郡岩瀬町出土	1 軀	〃
◎ 袈裟褌文銅鐸	滋賀県大津市石山寺辺町出土	1 口	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺

名	称	員 数	所 有 者
◎ 平安京大内裏瓦			滋賀県大津市坂本町 景 山 雅 子
緑釉鴟尾残闕	2 箇		
鬼 瓦	1 箇		
緑釉蓮華文鍔瓦	1 箇		
緑釉唐草文宇瓦	1 箇		
◎ 埴輪男子胡坐像		1 軀	奈良県天理市布留 天理大学附属天理参 群馬県群馬郡南村八幡原出土 考館
埴輪武装男子立像		1 軀	群馬県新田郡尾島町大字世良田出土
◎ 鴟尾残闕		1 箇	生駒郡斑鳩町三井 法 輪 寺
◎ 石馬		1 箇	鳥取県西伯郡淀江町大字福岡 天 神 垣 神 社
◎ 石製鴟尾		1 箇	西伯郡岸本町 福 樹 寺
◎ 鬼瓦		1 箇	福岡県筑紫郡太宰府町太 田 正 夫
	福岡県筑紫郡太宰府町都府楼趾出土		

重要文化財に未指定物件を附として追加したもの (昭和 34 年 10 月 17 日決定)

絵 画 の 部 ○印追加物件

名	称	員 数	所 有 者
絹本着色武田信玄像	長谷川信春筆	1 幅	和歌山県伊都郡高野町大字高野山 院
◎附紙本墨書武田勝頼寄進状(卷子本中)	1 通		成 慶

重要文化財の指定を解除したもの (昭和 34 年 10 月 17 日決定)

絵 画 の 部 焼失年月日 昭和 32 年 3 月 21 日

名	称	員 数	所 有 者
絹本着色四所明神像		1 幅	岡山県小田郡三谷村大字東三成 寺
絹本着色五大尊像		1 幅	棒

建 造 物 の 部

新指定 昭和 34 年 12 月 12 日指定決定 同 35 年 2 月 9 日官報告示

◎印は重要美術品等認定物件より重要文化財指定の決定があつたものを示す

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 所 住	所在の場所
1	眼 鏡 橋	1 基	石造二連アーチ橋、高欄附	長 崎 市	長崎県長崎 市	長崎県長崎 市酒屋町及 び西古川町 間
2	通 潤 橋	1 基	石造単アーチ橋 取入口より排出口に至る水路を含む	矢 部 町	熊本県上益 城郡矢部町	熊本県上益 城郡矢部町 大字長原
◎ 3	長 安 寺 宝 塔	1 基	石造宝塔	長 安 寺	滋賀県大津 市長安寺町	滋賀県大津 市長安寺町

新指定重要文化財一覧(美術工藝品の部)

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 住 所	所在の場所
◎ 4	西明寺宝塔	1基	石造宝塔 嘉元二年十二月日の刻銘がある	西明寺	滋賀県犬上郡甲良町池寺	滋賀県犬上郡甲良町池寺
◎ 5	涌泉寺九重塔	1基	石造九重塔 永仁三季 ^{乙未} 閏月七日の刻銘がある	涌泉寺	滋賀県蒲生郡蒲生町鐔物師	滋賀県蒲生郡蒲生町鐔物師
◎ 6	赤人寺七重塔	1基	石造七重塔 文保貳年戊午歳九月日の刻銘がある	赤人寺	滋賀県蒲生郡蒲生町下麻生	滋賀県蒲生郡蒲生町下麻生
◎ 7	石塔寺宝塔	1基	石造宝塔 正安四年 ^{壬寅} 十月日の刻銘がある	石塔寺	滋賀県蒲生郡蒲生町石塔	滋賀県蒲生郡蒲生町石塔
◎ 8	石塔寺五輪塔	2基	石造五輪塔 嘉元二 ^{甲辰} 辰九月五日の刻銘があるもの 貞和五年 ^{己丑} 八月廿九日の刻銘があるもの	1 1 石塔寺	滋賀県蒲生郡蒲生町石塔	滋賀県蒲生郡蒲生町石塔
◎ 9	正法寺宝塔	1基	石造宝塔 正和二年大才乙卯十二月参日の刻銘がある	正法寺	滋賀県蒲生郡日野町鎌掛	滋賀県蒲生郡日野町鎌掛
◎ 10	鏡神社宝篋印塔	1基	石造宝篋印塔	鏡神社	滋賀県蒲生郡龍王町鏡	滋賀県蒲生郡龍王町鏡
◎ 11	安養寺十三重塔	1基	石造十三重塔(うち第九・十・十一重を欠く)	安養寺	滋賀県栗太郡栗東町治田	滋賀県栗太郡栗東町治田
◎ 12	松尾寺九重塔	1基	石造九重塔 文永七 ^{庚午} 午八月 日の刻銘がある	松尾寺	滋賀県坂田郡米原町上丹生	滋賀県坂田郡米原町上丹生
◎ 13	長福寺宝塔	1基	石造宝塔 建武元季 ^{甲戌} 十一月八日の刻名がある	長福寺	京都府京都市右京区梅津中村町	京都府京都市右京区梅津中村町
◎ 14	覚勝院宝篋印塔	1基	石造宝篋印塔、基壇附	覚勝院	京都府京都市右京区嵯峨大覚寺前登町	京都府京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町共有墓地内
◎ 15	東福寺十三重塔	1基	石造十三重塔	東福寺	京都府京都市東山区本町15丁目	京都府京都市東山区本町15丁目
◎ 16	安養寺宝塔	1基	石造宝塔	安養寺	京都府京都市東山区円山町	京都府京都市東山区円山町

重要文化財の名称を改めたもの (昭和34年12月12日決定 同35年2月9日官報告示)

番号	名 称	員数	構 造 及 び 形 式	所 有 者	所 有 者 の 住 所	所在の場所
1	旧寛永寺五重塔	1基	三間五重塔婆、五重銅瓦葺、他本瓦葺	東京都	東京都	東京都台東区上野公園地
2	旧矢筥原家住宅	1棟	桁行七十六尺一寸、梁間四十三尺四寸、一重三階、入母屋造、茅葺、東面水屋附属	財団法人三溪園保勝会	神奈川県横浜市中区本牧三ノ谷285番地	神奈川県横浜市中区三ノ谷285番地

文化財保護委員会昭和34年度補助金交付一覧

昭和35年3月

総括表(科目別一覧)

目・目の細分	昭和34年度 総経費	昭和34年度 補助金	補助率	負担額	雑収入	昭和34年度 予算額
文化財保存修理費 補助金	415,744,254	267,466,000	%	141,495,867	6,782,387	262,725,000
国宝其他建造物保存 修理費補助金	298,536,851	207,874,000	71	83,958,520	6,704,331	202,874,000
日光二社一寺国宝其 他保存修理費補助金	57,077,042	21,945,000	39	35,055,000	77,042	21,945,000
国宝其他宝物類 保存修理費補助金	27,622,142	20,872,000	76	6,749,128	1,014	21,131,000
史跡名勝天然記念物 保存修理費補助金	32,508,219	16,775,000	52	15,733,219	0	16,775,000
文化財防災施設費 補助金	189,077,985	104,066,000	55	84,643,951	368,034	104,066,000
国宝其他防災 施設費補助金	141,958,242	79,132,000	56	62,481,821	344,421	79,132,000
観世音寺収蔵庫 建設費補助金	5,047,130	3,578,000	71	1,469,130	0	3,578,000
金剛峯寺収蔵庫 建設費補助金	18,957,000	10,806,000	57	8,151,000	0	10,806,000
伊能忠敬遺品収蔵庫 建設費補助金	8,152,000	4,750,000	58	3,402,000	0	4,750,000
高山寺収蔵庫 建設費補助金	2,940,000	2,000,000	68	940,000	0	2,000,000
宝蔵院収蔵庫 建設費補助金	4,000,000	2,000,000	50	2,000,000	0	2,000,000
法隆寺管理費 補助金	8,023,613	1,800,000	23	6,200,000	23,613	1,800,000
無形文化財補助金	11,792,572	4,604,000	39	7,188,572	0	4,604,000
文化財災害復旧費 補助金	12,160,000	9,567,000	79	2,593,000	0	9,567,000
計	628,774,811	385,703,000	62	235,921,390	7,150,421	380,962,000

備考

昭和33年度からの繰越額	無形文化財補助金	総経費	3,600,000円	補助金	1,200,000円
昭和35年度への繰越額	国宝其他宝物類保存修理費補助金	〃	4,650,000円	〃	3,720,400円
〃	国宝其他防災施設費補助金	〃	1,173,000円	〃	938,000円
不要額	国宝其他建造物保存修理費補助金(平家納経)			補助金	259,000円
流用	(目)国有文化財保存修理費から(目)文化財保存修理費補助金へ				5,000,000円

都道府県別交付金額

府県名	科目	国宝其他建造物 保存修理費 補助金	日光二社一寺国 宝其他保存修理 費補助金	国宝其他宝物類 保存修理費 補助金	史跡名勝天然記 念物保存修理費 補助金	国宝其他防災 施設費補助金
北海	道森手城田				1,500,000 1	300,000 2
北青岩宮秋				265,000 1		800,000 1
						300,000 1
						3,796,000 2
						335,000 1
山福茨栃群	形島城木馬	1,720,000 1 1,367,000 1 400,000 1	21,945,000 3	294,000 1 598,000 1	4,000,000 1 450,000 1	100,000 1 793,000 3 3,600,000 3
埼千東神新	王葉京川湯	6,100,000 2 7,500,000 3 150,000 1 8,657,000 2		6,662,000 1	500,000 1	100,000 1 984,000 2 500,000 1 1,368,000 1 50,000 1
富石福山長	山川井梨野	4,200,000 1 16,703,000 4 530,000 1			125,000 1 50,000 1	1,813,000 1 1,060,000 2 2,554,000 2
岐静愛三滋	阜岡知重賀	6,196,000 3 165,000 1 5,348,000 4 1,876,000 1 19,812,000 5		140,000 1 546,000 1 717,000 2 865,000 5	200,000 1	880,000 3 2,131,000 3 2,250,000 4 946,000 4 11,164,000 7
京大兵奈和	都阪庫良山	30,805,000 8 13,340,000 4 17,190,000 5 35,863,000 7 7,168,000 4		2,646,000 14 515,000 3 135,000 1 2,063,000 9 1,768,000 5	400,000 2 1,000,000 1 1,295,000 1	1,812,000 2 7,305,000 5 2,058,000 3 14,684,000 12
鳥島岡広山	取根山島口	6,560,000 2 5,645,000 2		391,000 1	500,000 1 500,000 2 4,000,000 1 400,000 1	175,000 2 550,000 2 3,255,000 1 2,509,000 4 4,550,000 8
徳香愛高福	鳥川媛知岡	2,800,000 1 3,574,000 2 500,000 1		606,000 1 2,002,000 3		1,915,000 3 2,362,000 3 1,543,000 4
佐長熊大宮	賀崎本分崎	1,465,000 1 2,240,000 2		233,000 1 426,000 1	1,855,000 1	300,000 1 150,000 1
鹿兒島						140,000 2
総計		207,874,000 70	21,945,000 3	20,872,000 52	16,775,000 17	79,132,000 99

お よ び 交 付 件 数 一 覧

収 蔵 庫 建 設 費 補 助 金	法隆寺管理費 補 助 金	無 形 文 化 財 補 助 金	文化財災害復 旧 費 補 助 金	合 計		府 県 名
				金 額	件数	
		230,000	2	1,800,000	3	北海道
				800,000	1	青森
				565,000	2	岩手
				4,026,000	4	宮城
				335,000	1	秋田
				100,000	1	山形
				2,807,000	5	福島
				5,965,000	3	茨城
				26,395,000	8	栃木
				0	0	群馬
(伊能忠敬)	4,750,000	854,000	4	100,000	1	埼玉県
				11,834,000	5	千葉県
				8,854,000	8	東京都
				8,680,000	4	神奈川県
				8,707,000	3	新潟
				0	0	富山
				6,138,000	3	石川県
				50,000	1	福井
			5,512,000	23,275,000	8	山梨
				3,084,000	3	長野
				7,216,000	7	岐阜
			1,700,000	4,742,000	7	静岡県
			995,000	9,310,000	11	愛知県
		190,000	1	3,012,000	6	三重
			740,000	32,581,000	19	滋賀
(高山寺宝蔵院)	4,000,000	100,000	1	40,083,000	30	京都府
		737,000	2	22,897,000	15	大阪府
	1,800,000			20,678,000	10	兵庫県
(高野山)	10,806,000		300,000	54,710,000	30	奈良
				19,742,000	10	和歌山
				675,000	3	鳥取
				1,050,000	4	島根
		100,000	1	13,915,000	5	岡山
				8,545,000	7	広島
				4,950,000	9	山口
				606,000	1	徳島
		2,293,000	3	5,093,000	4	香川県
				7,491,000	8	愛媛
(観世音寺)	3,578,000	100,000	1	2,362,000	3	高松
				5,721,000	7	福岡
				0	0	佐賀
				0	0	長門
				1,698,000	2	熊本
				4,821,000	5	大分
				150,000	1	宮崎
				140,000	2	鹿児島
23,134,000	5	1,800,000	15	9,567,000	8	総 計

文化財保存修理費補助金

国宝其他建造物保存修理費補助金

番号	県別	所有者 (管理団体)	名 称	所 在 地	昭和34年度 総 経 費	昭和34年度 補 助 額	補助 率%	負 担 額	雑 収 入	備 考
1	福島	奥之院	奥之院	河沼郡柳津町	2,608,246	1,720,000	70	730,000	158,246	完
2	茨城	西蓮寺	西蓮寺	行方郡玉造町	1,991,222	1,367,000	71	563,000	61,222	シ
3	群馬	雷電神社	雷電神社	邑楽郡板倉町	570,000	400,000	70	170,000	0	
4	千葉	笠森寺	笠森寺	長生郡長南町	8,066,000	6,000,000	79	1,600,000	466,000	
5	シ	大聖寺	大聖寺	夷隅郡大原町	500,000	100,000	20	400,000	0	完
6	東京	根津神社	根津神社	文京区根津須賀町	4,500,000	3,600,000	80	900,000	0	
7	シ	金剛寺	金剛寺	南多摩郡日野町	7,730,296	3,000,000	39	4,730,296	0	
8	シ	護国寺	護国寺	文京区大塚坂下町	1,909,090	900,000	47	1,008,486	604	完
9	神奈川	三保勝園	旧矢筈原家住宅	横浜市中央区本牧三の谷	2,300,000	150,000	7	2,150,000	0	
10	新潟	笹川只一	笹川家住宅	西蒲原郡味方村	5,546,552	3,857,000	70	1,653,000	36,552	完
11	シ	(新発田市)	新発田城櫓	新発田市本丸	7,300,000	4,800,000	66	2,500,000	0	
12	石川	那谷寺	那谷寺	小松市那谷町	6,200,000	4,200,000	68	2,000,000	0	
13	山梨	善光寺	善光寺	甲府市善光寺町	14,000,000	11,900,000	85	2,100,000	0	
14	シ	中牧神社	中牧神社	東山梨郡牧丘町	1,366,000	1,040,000	80	260,000	66,000	完
15	シ	最恩寺	最恩寺	南巨摩郡富沢町	3,000,000	2,400,000	80	600,000	0	
16	シ	高野宅美	高野家住宅	塩山市上於曾	1,700,000	1,363,000	80	337,000	0	
17	長野	仁科神明宮	仁科神明宮	大町市大字社	1,060,768	530,000	50	530,000	768	完
18	岐阜	新長谷寺	新長谷寺	関市長谷寺町	3,392,415	2,540,000	75	840,000	12,415	シ
19	シ	シ	新長谷寺	シ	1,250,000	1,000,000	80	250,000	0	
20	シ	照蓮寺	照蓮寺	高山市堀端町	6,964,969	2,656,000	42	3,689,000	619,969	完
21	静岡	方広寺	方広寺	引佐郡引佐町	330,386	165,000	50	165,000	386	シ
22	愛知	東観音寺	東観音寺	豊橋市小松原町	1,185,467	740,000	70	310,700	134,767	シ
23	シ	尾張大國	尾張大國	中島郡稲沢町	1,100,000	660,000	60	440,000	0	シ
24	シ	八幡神社	八幡神社	東加茂郡足助町	640,305	448,000	70	192,000	305	シ
25	シ	曼陀羅寺	曼陀羅寺	江南市大字前飛保	6,000,000	3,500,000	58	2,500,000	0	
26	三重	金剛証寺	金剛証寺	伊勢市朝熊町	2,686,725	1,876,000	70	803,338	7,387	完
27	滋賀	日吉大社	日吉大社	大津市坂本本町	7,820,000	6,500,000	83	1,320,000	0	
28	シ	彦根市	彦根市	彦根市金亀町	11,142,000	7,800,000	70	3,342,000	0	
29	シ	八坂神社	八坂神社	甲賀郡水口町	1,530,000	1,040,000	80	260,000	230,000	完
30	シ	石山寺	石山寺	大津市石山寺辺町	7,500,000	4,000,000	53	3,500,000	0	
31	シ	大野神社	大野神社	栗太郡栗東町	390,000	472,000	80	118,000	0	完
32	京都	醍醐寺	醍醐寺	京都市伏見区醍醐伽藍町	9,170,000	7,075,000	92	657,000	1,438,000	シ
33	シ	京都市	二条城	シ中京区二条通	8,638,700	4,300,000	50	4,338,700	0	シ
34	シ	本願寺	本願寺	シ下京区堀川通花屋町	2,530,000	994,000	65	536,000	1,000,000	シ
35	シ	竜吟庵	竜吟庵	シ東山区本町	7,223,000	6,501,000	90	722,000	0	
36	シ	教王護国寺	教王護国寺	シ南区九条町	8,878,000	7,990,000	90	888,000	0	
37	シ	大仙院	大仙院	シ北区紫野大徳寺町	3,225,000	2,740,000	85	485,000	0	
38	シ	金胎寺	金胎寺	相楽郡和束町	640,000	480,000	75	160,000	0	完
39	シ	金地院	東照宮	京都市左京区南禅寺福地町	906,000	725,000	80	181,000	0	
40	大阪	久安寺	久安寺	池田市伏尾町	7,991,791	6,240,000	82	1,360,000	391,791	完
41	シ	来迎寺	来迎寺	泉南郡熊取町	2,000,000	1,400,000	70	600,000	0	
42	シ	(大阪市)	金蔵、焰硝蔵、千貫蔵	大阪府東区馬場町	10,000,000	5,000,000	50	5,000,000	0	
43	シ	四天王寺	四天王寺	シ天王寺区元町	1,370,000	700,000	51	670,000	0	

文化財保護委員会昭和34年度補助金交付一覧

番号	県 別	所 有 者 (管理団体)	名 称	所 在 地	昭和34年度 総 経 費	補 助 額	補助 率%	負 担 額	雑 収 入	備 考
44	兵庫	如意寺	如意寺文殊堂、 阿弥陀堂	神戸市垂水区榎谷町	2,273,630	1,500,000	83	300,000	473,630	完
45	〃	〃	如意寺三重塔	〃	1,874,822	1,320,000	80	330,000	224,822	〃
46	〃	浄土寺	浄土寺浄土堂、薬師堂	小野市浄谷町	5,740,774	4,370,000	86	710,000	660,774	〃
47	〃	円教寺	円教寺食堂	姫路市書写	8,900,000	8,000,000	90	900,000	0	
48	〃	太山寺	太山寺本堂	神戸市垂水区伊川谷町	3,000,000	2,000,000	67	1,000,000	0	
49	奈良	東大寺	東大寺中門、廻廊	奈良市雑司町	14,500,000	8,700,000	60	5,800,000	0	
50	〃	法隆寺	法隆寺東室	生駒郡斑鳩町	8,164,072	4,760,000	59	3,306,000	98,072	完
51	〃	当麻寺	当麻寺曼荼羅堂	北葛城郡当麻村	11,110,000	10,000,000	90	1,110,000	0	
52	〃	円成寺	円成寺本堂、楼門	奈良市忍辱山町	10,000,000	9,000,000	90	1,000,000	0	
53	〃	大神神社	大神神社拝殿	磯城郡大三輪町	3,175,621	1,743,000	55	1,427,000	5,621	完
54	〃	文殊院	白山神社本殿	桜井市大字阿部	476,947	332,000	70	143,000	1,947	〃
55	〃	宇太水分 神社	宇太水分神社本殿 末社春日神社本殿 末社宗像神社本殿	宇陀郡菟田野町	1,666,734	1,328,000	80	332,000	6,734	〃
56	和歌山	八幡神社	八幡神社(野上)本殿、 拝殿、摂社武内神社社 殿、摂社平野今木神社 社殿、摂社玉重神社社殿	海草郡野上町	6,950,000	5,568,000	82	1,182,000	200,000	〃
57	〃	宝来山神社	宝来山神社本殿	伊都郡かつらぎ町	475,000	200,000	42	274,000	1,000	完
58	〃	白岩丹生 神社	白岩丹生神社本殿	有田郡金屋町	570,000	400,000	70	170,000	0	
59	〃	和歌山市	和歌山城 岡口門、附土堀	和歌山市一番丁	1,660,000	1,000,000	60	660,000	0	
60	岡山	(岡山県)	閑谷堂(講堂、小斎、習藝齋) 及び飲室、文庫、公門	和気郡備前町	7,500,000	4,800,000	64	2,700,000	0	
61	〃	金山寺	金山寺本堂	岡山市金山堂	2,204,575	1,760,000	80	440,000	4,575	完
62	広島	沼名前神社	沼名前神社能舞台	福山市鞆町	1,494,752	1,005,000	72	395,000	94,752	〃
63	〃	明王院	明王院五重塔	〃 草戸町	5,810,000	4,640,000	80	1,170,000	0	
64	香川	金刀比羅宮	金刀比羅宮奥書院	仲多度郡琴平町	5,110,000	2,800,000	55	2,310,000	0	
65	愛媛	大洲市	大洲城芋綿櫓	大洲市大洲	1,590,000	1,174,000	78	336,000	80,000	完
66	〃	浄土寺	浄土寺本堂	松山市大字鷹子	3,000,000	2,400,000	80	600,000	0	
67	福岡	住吉神社	住吉神社本殿	福岡市大字住吉	715,000	500,000	70	215,000	0	
68	熊本	(湯前町)	明導寺阿弥陀堂	球磨郡湯前町	2,297,494	1,465,000	70	629,000	203,494	完
69	大分	善光寺	善光寺本堂	宇佐郡四日市町	1,224,498	840,000	70	360,000	24,498	〃
70	〃	泉福寺	泉福寺開山堂	東国東郡国東町	2,000,000	1,400,000	70	600,000	0	
			計	70 計	298,536,851	207,874,000	71	83,958,520	6,704,331	

日光二社一寺国宝其他保存修理費補助金

番号	県別	所 有 者 (管理団体)	名 称	所 在 地	昭和34年度 総 経 費	補 助 額	補助 率%	負 担 額	雑 収 入	備 考
1	栃木	二荒山神社	二荒山神社透塀 中 荒 山 祠	日光市山内	5,305,921	1,590,000	30	3,710,000	5,921	
2	〃	東照宮	東照宮透塀、御供廊、 本殿蒔絵扉、神楽殿	〃	23,625,218	7,552,000	32	16,049,000	24,218	
3	〃	輪王寺	輪王寺本堂(三仏堂)	〃	28,145,903	12,803,000	46	15,296,000	46,903	
			計	3 件	57,077,042	21,945,000	39	35,055,000	77,042	

国宝其他宝物類保存修理費補助金

番号	県名	所有者 (管理団体)	名 称	所 在 地	昭和34年度 総 経 費	補助額	補助 率%	負担額	雑収入
			(絵 画)						
1	愛知	大 樹 寺	大 方 丈 障 壁 画	岡崎市岩津町	671,200	537,000	80	134,200	0
2	滋賀	新 知 恩 院	阿弥陀廿五菩薩来迎図	滋賀郡堅田町	89,900	63,000	70	26,900	0
3	〃	總 持 寺	愛 染 明 王 像	長沼市宮司町	260,230	182,000	70	78,230	0
4	京都	広 隆 寺	准 胝 仏 母 像	京都市右京区太秦蜂岡町	126,228	76,000	60	50,228	0
5	〃	金 地 院	秋 景 冬 景 山 水 図 2	〃 左京区南禅寺福地町	256,277	205,000	80	51,277	0
6	〃	醍 醐 寺	大 日 金 輪 像	〃 伏見区醍醐伽藍町	325,080	228,000	70	97,080	0
7	〃	智 積 院	障 壁 画 25 松 に 梅 図	〃 東山区塩小路通大和 大路	525,970	368,000	70	157,970	0
8	〃	南 禅 寺	薬 山 李 翺 問 答 図	〃 左京区南禅寺福地町	56,550	45,000	80	11,550	0
9	〃	知 恩 院	毘 沙 門 天 像	〃 東山区新橋通大和 大路東入	124,640	87,000	70	37,640	0
10	大阪	藤田美術館	法 相 宗 祕 事 絵 詞 3	大阪市都島区綱島町	307,000	215,000	70	92,000	0
11	〃	護 国 寺	般 若 菩 薩 像	吹田市礼場町	77,085	62,000	80	15,085	0
12	奈良	朝護孫子寺	信 貴 山 縁 起	生駒郡平群村	250,518	175,000	70	75,518	0
13	〃	東 大 寺	俱 舍 曼 荼 羅 図	奈良市雑司町	207,900	166,000	80	41,900	0
14	和歌山	(高野山文化) 財保存会	大 元 帥 明 王 像	伊都郡高野町	363,440	218,000	60	145,440	0
15	〃	〃	阿 弥 陀 浄 土 曼 荼 羅 図	〃	245,729	172,000	70	73,729	0
16	広島	厳 島 神 社	平 家 納 経	佐伯郡宮島町	489,486	391,000	80	98,486	0
			(彫 刻)						
17	岩手	黒 石 寺	木 造 薬 師 如 来 坐 像	水沢市黒石町	379,950	265,000	70	114,950	0
18	茨城	薬 師 寺	木 造 薬 師 如 来 両 脇 土 像	東茨城郡常北町	747,185	598,000	80	149,185	0
19	神奈川	高 德 院	銅 造 阿 弥 陀 如 来 坐 像	鎌倉市長谷	8,327,000	6,662,000	80	1,665,000	0
20	滋賀	円 光 寺	木 造 阿 弥 陀 如 来 坐 像	野洲郡野洲町	233,000	186,000	80	47,000	0
21	京都	仁 和 寺	木 造 吉 祥 天 立 像	京都市右京区御室大内	118,150	83,000	70	35,150	0
22	〃	神 護 寺	木 造 薬 師 如 来 立 像	〃 梅ヶ畑高尾町	222,850	156,000	70	66,850	0
23	〃	浄 瑠 璃 寺	木 造 吉 祥 天 立 像	相模郡加茂町	146,900	103,000	70	43,900	0
24	兵庫	達 身 寺	木 造 毘 沙 門 天 立 像	氷上郡氷上町	169,035	135,000	80	34,035	0
25	奈良	達 元 極	木 造 聖 德 太 子 立 像	奈良市中院町	210,870	169,000	80	41,870	0
26	〃	〃	木 造 弘 法 大 師 坐 像	〃	233,260	186,000	80	47,260	0
27	〃	当 麻 寺	塑 造 弥 勒 仏 坐 像	北葛城郡当麻村	455,200	364,000	80	91,200	0
28	〃	聖 林 寺	木 十 一 面 観 音 立 像	桜井市	693,000	520,000	75	173,000	0
29	〃	法 隆 寺	塔 本 塑 像 20	生駒郡斑鳩町	400,000	240,000	60	160,000	0
30	徳島	丈 六 寺	木 造 聖 観 音 坐 像	徳島市丈六町	856,640	606,000	70	250,640	0
31	愛媛	大 宝 寺	木 造 阿 弥 如 来 坐 像	松山市南江戸町	604,560	423,000	70	181,560	0
32	〃	保 安 寺	木 造 阿 弥 陀 如 来 坐 像	八幡浜市五反田	851,080	596,000	70	255,080	0
33	大分	大 楽 寺	木 造 仏 像	宇佐郡宇佐町	532,940	426,000	80	106,940	0
			(工 藝)						
34	福島	伊 佐 須 美 社	朱 漆 金 銅 装 神 輿	大沼郡会津高田町	420,000	294,000	70	126,000	0
35	岐阜	春日神社	能 装 束 類 62 の 内 15	関市春田	201,014	140,000	70	60,000	1,014
36	愛知	熱 田 神 宮	古 神 宝 類 44	名古屋市中区新宮坂	299,975	180,000	60	119,975	0
37	京都	教王護国寺	法 会 所 用 具 類 44 の 内 6	京都市南区九条町	228,370	180,000	80	48,370	0
38	〃	醍 醐 寺	金 銅 装 束 類 2 の 内 1	〃 伏見区醍醐伽藍町	423,850	297,000	70	126,850	0
39	大阪	壺井八幡宮	黒 草 威 胴 丸	南河内郡大阪町	298,150	238,000	80	60,150	0

文化財保護委員会昭和34年度補助金交付一覧

番号	県別	所 有 者 (管理団体)	名 称	所 在 地	昭和34年度 総 経 費	補 助 額	補助 率%	負 担 額	雑収入
40	和歌山	熊野速玉社	古 神 宝 類 13	新宮市	282,266	196,000	70	86,266	0
41	愛媛	大山祇神社	藍 韋 威 胴 丸 他 6 (書 跡)	越智郡大三島町	1,310,000	983,000	75	327,000	0
42	静岡	修福寺	大般若経 539 の内 79	加茂郡南伊豆町	682,930	546,000	80	136,930	0
43	滋賀	石山寺	法 華 義 疏 他 14	大津市石山寺辺町	154,055	108,000	70	46,055	0
44	〃	園城寺	大蔵経 592 の内 166	〃園城寺町	434,855	326,000	75	108,855	0
45	京都	陽明文庫	後二条殿記 30 の内 10	京都市右京区宇多野上 合町	597,200	478,000	80	119,200	0
46	〃	教王護国寺	悉曇藏巻 8 の内 2	〃 南区九条町	88,245	70,000	80	18,245	0
47	〃	観智院	古 文 尚 書 他 8	〃 〃 八条町	337,566	270,000	80	67,566	0
48	奈良	唐招提寺	経 巻 文 書 5	奈良市五条町	81,063	57,000	70	24,063	0
49	和歌山	(高野山文化財保存会)	統 宝 簡 集 (考 古)	伊都郡高野町	1,371,400	960,000	70	411,400	0
50	奈良	東大寺	東大寺金堂鎮壇具 1 括	奈良市雑司町	232,710	186,000	80	46,710	0
51	和歌山	王子神社	銅 経 筒	日高郡日高町	277,380	222,000	80	55,380	0
52	熊本	免田町	肥後国球磨郡免田 才園古墳出土品 1 括	球磨郡免田町	333,260	233,000	70	100,260	0
計				52 件	27,622,142	20,872,000	76	6,749,128	1,014

備考 国宝其他宝物類保存修理費補助金の昭和35年度への繰越額

神奈川県 高德院銅造阿弥陀如来坐像保存修理費	総 額	4,650,000 円
	補 助 額	3,720,400 円
	負 担 額	929,600 円

史跡名勝天然記念物保存修理費補助金

番号	県別	所 有 者 (管理団体)	名 称	所 在 地	昭和34年度 総 経 費	補 助 額	補助 率%	負 担 額	雑収入	備考
1	北海道	函館市	五 稜 郭 跡	函館市五稜郭	3,000,000	1,500,000	50	1,500,000	0	
2	茨城	茨城県	旧 弘 道 館	水戸市北三の丸	8,000,000	4,000,000	50	4,000,000	0	
3	栃木	栃木県	日光杉並木街道	日光市、今市市	900,000	450,000	50	450,000	0	
4	神奈川	小田原市	小 田 原 城 跡	小田原市	1,000,000	500,000	50	500,000	0	
5	石川	七尾市	七 尾 城 跡	七尾市	250,000	125,000	50	125,000	0	
6	福井	今庄町	伊 藤 氏 庭 園	南条郡今庄町	100,000	50,000	50	50,000	0	
7	静岡	竜潭寺	竜 潭 寺 庭 園	引佐郡引佐町	418,219	200,000	48	218,219	0	
8	京都	退蔵院	退 蔵 院 庭 園	京都市右京区花園妙 心寺町	200,000	100,000	50	100,000	0	
9	〃	京都市	旧二条離宮 (二条城)	〃 中京区二条通	600,000	300,000	50	300,000	0	
10	大阪	大阪市	大 阪 城 跡	大阪市東区	2,000,000	1,000,000	50	1,000,000	0	
11	兵庫	姫路市	姫 路 城 跡	姫路市	2,590,000	1,295,000	50	1,295,000	0	
12	鳥取	鳥取市	鳥 取 城 跡	鳥取市	1,000,000	500,000	50	500,000	0	
13	島根	松江市	松 江 城 跡	松江市殿町	800,000	400,000	50	400,000	0	
14	〃	万福寺	万 福 寺 庭 園	益田市益田	200,000	100,000	50	100,000	0	
15	岡山	岡山市	岡 山 後 楽 園	岡山市古京町	8,000,000	4,000,000	50	4,000,000	0	
16	山口	三陽町	村田清風旧宅および墓	大津郡三隅町	800,000	400,000	50	400,000	0	
17	大分	臼杵市	臼 杵 磨 崖 仏	臼杵市	2,650,000	1,855,000	70	795,000	0	
計				17 件	32,508,219	16,775,000	52	15,733,219	0	

文化財防災施設費補加金

国宝其他防災施設費補加金

番号	県別	所有者 (管理団体)	名 称	所 在 地	昭和34年度 総 経 費	補 助 額	補助 率%	負 担 額	雑収入	備 考
			(建造物防災施設)							
1	宮城	東 照 宮	東 照 宮 本 殿	仙台市北六番丁	801,477	560,000	70	240,000	1,447	C, D
2	〃	瑞 巖 寺	瑞 巖 寺 本 堂 他 5 棟	宮城郡松島町	4,979,000	3,236,000	65	1,743,000	0	A, G
3	福島	八 葉 寺	八 葉 寺 阿 弥 陀 堂	河沼郡河東村	730,000	365,000	50	365,000	0	G
4	栃木	二 荒 山 神 社	二 荒 山 神 社 本 殿 外	日光市山内	2,660,894	1,089,000	41	1,539,000	32,294	D, Z
5	〃	東 照 宮	東 照 宮 本 殿 外	〃	2,341,202	907,000	41	1,283,000	151,202	D, Z
6	〃	輪 王 寺	輪 王 寺 本 堂 外	〃	3,994,776	1,604,000	41	2,269,400	121,376	D, Z
7	東京	根 津 神 社	根 津 神 社 本 殿、幣 殿 外	文京区根津須賀町	810,000	500,000	62	310,000	0	G
8	神奈川	三 溪 園 會 社	臨 春 園 外 谷	横浜市中区本牧三之谷	2,280,000	1,368,000	60	912,000	0	D
9	石川	尾 崎 神 社	尾 崎 神 社 本 殿	金沢市西町	2,590,000	1,813,000	70	777,000	0	G, P
10	長野	浄 光 寺	浄 光 寺 藥 師 堂	上高井郡小布施町	2,508,665	1,754,000	70	754,665	0	A, D
11	岐阜	日 竜 峯 寺	日 竜 峯 寺 塔 婆	武儀郡武儀村	836,000	418,000	50	418,000	0	G, C, H
12	愛知	成 瀬 正 勝	犬 山 城 天 守 殿	犬山市犬山町	700,000	350,000	50	350,000	0	A, H
13	〃	尾 張 大 国 靈 神 社	尾 張 大 国 靈 神 社 本 殿	稲沢市国府宮	1,000,000	600,000	60	400,000	0	D, H, C
14	滋賀	園 城 寺	園 城 寺 大 門 外	大津市園城寺町	3,023,277	2,115,000	70	904,999	3,278	A
15	〃	常 楽 寺	常 楽 寺 本 堂、三 重 塔	甲賀郡石部町	2,871,654	1,849,000	66	1,022,654	0	A
16	〃	長 寿 寺	長 寿 寺 本 堂、弁 天堂	〃	2,935,346	1,951,000	66	984,346	0	A
17	〃	油 日 神 社	油 日 神 社 本 殿 外	甲賀郡甲賀町	790,000	474,000	60	316,000	0	A
18	〃	延 暦 寺	延 暦 寺 転 法輪 堂	大津市坂本本町	6,550,000	3,275,000	50	3,275,000	0	A
19	京都	大 報 恩 寺	大 報 恩 寺 本 堂	京都市上京区五条通六軒町	2,446,000	1,712,000	70	734,000	0	P
20	大阪	住 吉 大 社	住 吉 大 社 本 堂	大阪府住吉区住吉町	6,274,000	3,060,000	50	3,214,000	0	A
21	兵庫	住 名 草 神 社	住 名 草 神 社 本 堂	養父郡八鹿町	1,000,000	500,000	50	500,000	0	A
22	奈良	法 華 寺	法 華 寺 本 堂	奈良市法華寺町	415,000	250,000	60	165,000	0	D, G, H
23	〃	東 大 寺	南 門、鐘 楼	奈良市	1,116,000	670,000	60	426,000	20,000	Z
24	〃	大 神 神 社	大 神 神 社 本 殿 外	磯城郡大三輪町	1,695,000	848,000	50	847,000	0	D
25	〃	長 谷 寺	長 谷 寺 本 堂	〃 初瀬町	4,836,000	2,900,000	60	1,936,000	0	A
26	〃	石 上 神 宮	石 上 神 宮 拜 殿、 楼 門	天理市	450,000	270,000	60	180,000	0	A
27	岡山	吉 備 津 神 社	吉 備 津 神 社 本 殿 他 2 棟	吉備郡真金町	5,420,000	3,255,000	60	2,165,000	0	A
28	広島	嚴 島 神 社	嚴 島 神 社 本 殿 外	佐伯郡宮島町	1,347,000	673,000	50	674,000	0	H
29	山口	瑠 璃 光 寺	瑠 璃 光 寺 五 重 塔	山口市	1,969,795	1,376,000	70	590,880	2,915	A, G
30	〃	月 輪 寺	月 輪 寺 藥 師 堂	佐渡郡徳地町	1,044,000	626,000	60	418,000	0	G
31	愛媛	松 山 市	松 山 市 城 天 守 殿	松山市	2,140,000	500,000	25	1,640,000	0	A
32	〃	大 山 祇 神 社	大 山 祇 神 社 本 殿	越智郡大三島町	958,000	575,000	60	383,000	0	A
33	高知	土 佐 神 社	土 佐 神 社 本 殿、 楼 門	高知市一宮	2,450,000	1,592,000	65	858,000	0	C, G, X
34	奈良	元 興 寺	元 興 寺 極 楽 坊 本 門	奈良市中院町	7,380,000	5,905,000	80	1,475,000	0	F
		極 楽 坊	堂、禪室、東門	34 件	83,343,056	48,940,000	59	34,070,544	332,512	
			(宝物類防災施設)							
35	山口	国 分 寺	木 造 阿 弥 陀 如 来 像 他 8 尊	防府市東佐波令	1,757,206	1,200,000	68	557,206	0	A, D, G, C
36	福岡	大 悲 王 院	木 造 千 手 觀 音 像 他 2 尊	糸島郡前原町	1,596,000	750,000	47	846,000	0	A
			小 像 他 計 2 件		3,532,206	1,950,000	58	1,403,206	0	
			(宝物類保存施設)							
37	山梨	願 成 寺	木 造 阿 弥 陀 如 来 三 尊 像 3 軀	韮崎市神山町	1,922,214	960,000	50	960,000	2,214	I

文化財保護委員会昭和34年度補助金交付一覧

番号	県別	所有者 (管理団体)	名 称	所 在 地	昭和34年度 総 経 費	補 助 額	補助 率%	負 担 額	雑収入	備 考
38	三重	宝 巖 寺	木造十一面観音立像	名賀郡青山町	800,000	400,000	50	400,000	0	I
39	大阪	孝 恩 寺	木造聖観音20尊像	貝塚市木積	1,178,500	690,000	58	448,500	0	I
40	〃	誉田八幡宮	木造地蔵銅像	南河内郡南大阪町	1,690,000	1,000,000	59	690,000	0	I
41	兵庫	無 動 寺	木造日如來像	神戸市兵庫区山田町	1,992,000	960,000	48	1,032,000	0	I
42	奈良	西 大 寺	金銅透彫舍利塔	奈良市西大寺町	5,439,244	2,375,000	44	3,055,000	9,244	1
43	〃	(吉野山) 保勝会	木造五智如来坐像	吉野郡吉野町	1,450,000	866,000	60	584,000	0	I
44	〃	薬 師 寺	銅造観音菩薩立像	奈良市西ノ京町	450,000	225,000	50	225,000	0	Z
45	島根	玉作湯神社	木造雲国分寺	八束郡玉湯村	700,451	350,000	50	350,000	451	I
46	愛媛	保 安 寺	木造阿彌陀像	八幡浜市五反田	2,006,910	840,000	42	1,166,910	0	I
47	高知	金 剛 頂 寺	木造阿彌陀像	安芸郡室戸町	3,100,000	720,000	23	2,380,000	0	I
48	福岡	国 分 寺	木造薬師如来坐像	筑紫郡大宰府町	1,187,000	593,000	50	593,000	0	I
小 計					21,916,319	9,979,000	46	11,925,410	11,901	
(史跡名勝天然記念物防 災施設)										
49	長野	松 代 町	旧文武学校	埴科郡松代町	1,600,000	800,000	50	800,000	0	D
50	三重	神 宮	旧林崎文庫	伊勢市	513,800	428,000	83	85,800	0	A,C,G
51	広島	菅 好 雄	麻塾ならびに 菅茶山旧宅	深安郡神辺町	123,000	86,000	72	37,000	0	A
小 計					2,236,800	1,314,000	59	922,800	0	
(史跡名勝天然記念物保 存施設)										
52	北海道	壮 警 村	昭和新しい山 釧路のタンチ	有珠郡壮警村	405,000	200,000	50	205,000	0	K,L,M
53	〃	北 海 道	ウおよびそ の地跡	釧路郡釧路村ほか	200,000	100,000	50	100,000	0	U
54	岩手	平 泉 町	繁毛越寺	西磐井郡平泉町	600,000	300,000	50	300,000	0	K,L,M
55	山形	出 羽 山 社	羽黒山の杉並木	東田川郡羽黒町	200,000	100,000	50	100,000	0	K,L
56	福島	小 高 町	観 音 堂 石 仏	相馬郡小高町	400,000	200,000	50	200,000	0	O
57	〃	須賀川牡丹 園保勝会	須賀川の牡丹園	須賀川市	457,000	228,000	50	229,000	0	N
58	埼玉	美 國 村	野田のサギおよ びその繁殖地	北足立郡美園村	213,100	100,000	47	113,100	0	U
59	新潟	新 潟 県	ト	新潟県	100,000	50,000	50	50,000	0	U
60	山梨	根古屋神社	根古屋神社のキ 大ケヤ	北巨摩郡須玉町	390,466	100,000	26	290,466	0	K,L,M
61	岐阜	可 児 町	長 塚 古 墳	可児郡可児町	150,000	75,000	50	75,000	0	K,L,M
62	静岡	富 士 宮 市	狩宿の下馬 ザク	富士宮市	115,000	80,000	70	35,000	0	R
63	三重	神 宮	旧林崎文庫	伊勢市	85,000	43,000	50	42,000	0	K,L,M
64	〃	鈴 鹿 市	伊勢国分寺跡	鈴鹿市国分町	150,000	75,000	50	75,000	0	K,L,M
65	京都	三 柱 神 社	産土山古墳	竹野郡丹後町	200,000	100,000	50	100,000	0	K,L,M
66	奈良	奈 良 県	宇智川磨崖碑	五条市	100,000	50,000	50	50,000	0	T
67	〃	吉 野 町	宮 滝 遺 跡	吉野郡吉野町	400,000	200,000	50	200,000	0	K,L,M
68	〃	長 谷 寺	与喜山暖帯林	磯城郡初瀬村	250,000	125,000	50	125,000	0	K,L,M
69	鳥取	国 府 町	伊福吉部 徳足比売墓跡	岩美郡国府町	200,000	100,000	50	100,000	0	O

文化財保護委員会昭和34年度補助金交付一覧

番号	県別	所有者 (管理団体)	名 称	所 在 地	昭和34年度 総 経 費	補 助 額	補助 率%	負 担 額	雑収入	備 考
70	鳥取	羽合町	橋津古墳群	東伯郡羽合町	150,000	75,000	50	75,000	0	K, L, M
71	島根	松江	出雲国分寺跡	松江市竹矢町	400,000	200,000	50	200,000	0	L, M, T
72	広島	広島市	広島城跡	広島市	500,000	250,000	50	250,000	0	K, L, M
73	山口	熊毛町	八代のツルおよ びその渡来地	熊毛郡熊毛町	199,980	50,000	25	149,000	0	U
74	山口	山口市	大内氏遺跡	山口市	600,000	300,000	50	300,000	0	K, L, M
75	山口	萩市	見島ウシ産地	萩市	200,000	100,000	50	100,000	0	U
76	山口	山口市	明神池	山口市	296,000	148,000	50	148,000	0	S
77	高知	高知県	土佐のオナガド	高知県	100,000	50,000	50	50,000	0	U
78	福岡	筑紫野町	五郎山古墳	筑紫郡筑紫野町	200,000	100,000	50	100,000	0	K, L, M, O
79	山口	八女市	岩戸山古墳	八女市吉田	200,000	100,000	50	100,000	0	K, L, M
80	大分	三重町	菅尾石仏	大野郡三重町	645,000	300,000	47	345,000	0	O
81	宮崎	国富町	本庄古墳群	東諸県郡国富町	300,000	150,000	50	150,000	0	M
82	鹿児島	鹿児島市	桂庵墓	鹿児島市伊敷町	80,000	40,000	50	40,000	0	K, L, M
83	山口	出水市	鹿兒島県のツル およびその渡来 地	出水市ほか	200,000	100,000	50	100,000	0	U
小 計 32 件					8,686,546	4,189,000	48	4,497,546	0	
(史跡買上)										
84	静岡	磐田市	遠江国分寺跡	磐田市中心町	3,492,000	1,744,000	50	1,748,000	0	W
85	大阪	美陵町	古室山古墳群	南河内郡美陵町	2,111,200	1,055,000	50	1,056,000	0	W
小 計 2 件					5,603,200	2,799,000	50	2,804,200	0	
(埋蔵文化財収蔵庫)										
86	秋田	十和田町	大湯環状列石出土品	鹿角郡十和田町	670,000	335,000	50	335,000	0	I
87	千葉	観音教寺	芝山古墳群出土品	山武郡横芝町	925,000	484,000	52	441,000	0	I
88	静岡	浜松市	蜷塚遺跡出土品	浜松市蜷塚町	629,000	307,000	49	322,000	0	I
小 計 3 件					2,224,000	1,126,000	51	1,098,000	0	
(埋蔵文化財緊急調査)										
89	愛知	愛知県	名神道路関係遺跡	愛知県	375,000	300,000	80	75,000	0	V
90	岐阜	岐阜県	岐阜県	岐阜県	483,800	387,000	80	96,800	0	V
91	滋賀	滋賀県	滋賀県	滋賀県	1,648,000	1,318,000	80	330,000	0	V
92	大阪	大阪府	大阪府	大阪府	1,875,000	1,500,000	80	375,000	0	V
93	兵庫	兵庫県	兵庫県	兵庫県	748,000	598,000	80	150,000	0	V
94	青森	弘前市	岩木山麓古代遺跡	弘前市	1,600,000	800,000	50	800,000	0	V
95	千葉	千葉県	印旛沼周辺遺跡	千葉県	1,000,000	500,000	50	500,000	0	V
96	愛知	愛知県	愛知常滑古窯跡	愛知県	2,001,315	1,000,000	50	1,001,315	0	V
97	滋賀	滋賀県	ケンサイ塚古墳	滋賀県	364,000	182,000	50	182,000	0	V
小 計 9 件					10,095,115	6,585,000	65	3,510,115	0	
(民俗資料収蔵庫)										
98	広島	藝北町	山村生活用具	山県郡藝北町	3,000,000	1,500,000	50	1,500,000	0	I
99	山口	防府市	丸太船および製 塩用具	防府市	1,500,000	750,000	50	750,000	0	I
小 計 2 件					4,500,000	2,250,000	50	2,250,000	0	
計					141,958,242	79,132,000	56	62,481,821	344,421	

昭和35年度への繰越額

滋賀県下名神道路遺跡緊急調査	総 経 費	425,000 円
	国庫補助金	340,000 円
	負 担 金	85,000 円
兵庫県下名神道路遺跡緊急調査	総 経 費	748,000 円
	国庫補助金	598,000 円
	負 担 金	150,000 円

観世音寺収蔵庫建設費補助金

番号	県別	所有者 (管理団体)	名 称	所 在 地	昭和34年度 総 経 費	補 助 額	補助 率%	負 担 額	雑収入	備考
1	福岡	観世音寺	木造聖観音坐像 他23点	筑紫郡太宰府町	5,047,130	3,578,000	71	1,469,130	0	

金剛峯寺収蔵庫建設費補助金

番号	県別	所有者 (管理団体)	名 称	所 有 地	昭和34年度 総 経 費	補 助 額	補助 率%	負 担 額	雑収入	備考
2	和歌山	(高野山文化 財保存会)	彫刻24, 書跡18439 絵画76, 他34点	伊都郡高野町	18,957,000	10,806,000	57	8,151,000	0	

伊能忠敬遺品収蔵庫建設費補助金

番号	県別	所有者 (管理団体)	名 称	所 在 地	昭和34年度 総 経 費	補 助 額	補助 率%	負 担 額	雑収入	備考
3	千葉	(佐原市)	伊能忠敬遺書並 遺品85点	佐原市佐原	8,152,000	4,750,000	58	3,402,000	0	

高山寺収蔵庫建設費補助金

番号	県別	所有者 (管理団体)	名 称	所 在 地	昭和34年度 総 経 費	補 助 額	補助 率%	負 担 額	雑収入	備考
4	京都	高山寺	絹本着色仏眼 仏母像他1,185点	京都市右京区梅 ヶ畑梅尾町	2,940,000	2,000,000	68	940,000	0	

宝蔵院収蔵庫建設費補助金

番号	県別	所有者 (管理団体)	名 称	所 在 地	昭和34年度 総 経 費	補 助 額	補助 率%	負 担 額	雑収入	備考
5	京都	宝蔵院	鉄眼版一切経 版木48,775枚	宇治市五ヶ荘	4,000,000	2,000,000	50	2,000,000	0	

法隆寺管理費補助金

番号	県別	所有者 (管理団体)	名 称	所 在 地	昭和34年度 総 経 費	補 助 額	補助 率%	負 担 額	雑収入	備考
1	奈良	法隆寺	法隆寺文化財	生駒郡斑鳩町	8,023,613	1,800,000	23	6,200,000	23,613	

防災施設備考欄施設内容略号

A 消 火 栓	H 避 雷 針	O 覆 屋	V 緊急調査
B 消火水路	I 保 存 庫	P 防 火 壁	W 買 上
C ボ ン ブ	J 金 庫	Q 水害防止等	X 消防道路
D 警火装置	K 標 識	R 支 柱	Y 水路等改修
E 報 知 機	L 説 明 板	S 壕 浚 渫 等	Z 施設修理
F 障害物撤去	M 境 界 標	T 整 地 等	
G 貯水槽, 貯水池	N 囲 柵	U 飼 料	

文化財保護委員会昭和34年度補助金交付一覧

無 形 文 化 財 補 助 金

番号	県別	名 称	交 付 先	昭和34年度 総 経 費	補 助 額	補助 率%	負 担 額	備 考
1	東京	(藝 能) 能 楽	能楽三役養成会	862,000	400,000	46	462,000	伝承者養成
2	大阪	文 楽	文楽三業養成会	1,000,000	500,000	50	500,000	シ
3	宮城	(工 藝) 正 藍 冷 染	栗原郡栗駒町	195,000	130,000	66	65,000	シ
4	三重	伊 勢 型 紙	鈴鹿市教育委員会	380,000	190,000	50	190,000	シ
5	香川	香 川 県 漆 藝	香川県	1,387,241	630,000	45	757,241	シ
6	シ	シ	シ	4,275,000	1,425,000	33	2,850,000	施設費
7	宮城	(公 開) 民 俗 藝 能 ブ ロ ッ ク 大 会	宮城県	200,000	100,000	50	100,000	第1回ブロック別大会
8	東京	シ	東京都	500,000	100,000	20	400,000	シ
9	シ	指定藝能特別鑑賞会	財団法人演劇研究会	435,461	200,000	45	235,401	第2回特別鑑賞会
10	シ	民俗藝能中央大会	シ 日本青年館	728,230	154,000	21	574,230	第10回全国郷土藝能 大会文部省負担金150, 000円を含む
11	大阪	日本伝統工芸展	社団法人日本工芸会	515,800	237,000	46	278,850	第6回日本工芸展
12	京都	民 俗 藝 能 ブ ロ ッ ク 大 会	京都府	200,000	100,000	50	100,000	第1回ブロック別大会
13	岡山	シ	岡山県	250,000	100,000	40	150,000	シ
14	香川	日本伝統工芸展	社団法人日本工芸会	563,850	238,000	42	325,850	第6回日本工芸展
15	福岡	民 俗 藝 能 ブ ロ ッ ク 大 会	福岡県	300,000	100,000	33	200,000	第1回ブロック別大会
		計	15 件	11,792,572	4,604,000	39	7,188,572	

昭和33年度から繰越 香川県, 香川県漆藝(施設費) { 総 額 3,600,000 円
補助 額 1,200,000 円
負 担 額 2,400,000 円

文 化 財 災 害 復 旧 費 補 助 金

番号	県別	所 有 者 (管理団体)	名 称	所 在 地	昭和34年度 総 経 費	補 助 額	補助 率%	負 担 額	雑収入
1	山梨	善 光 寺	善 光 寺 本 堂	甲府市善光寺町	5,647,000	4,800,000	85	847,000	0
2	シ	シ	善 光 寺 山 門	シ	840,000	712,000	85	128,000	0
3	愛知	徳川義親	源 敬 公 廟	東春日井郡田野町	1,422,000	995,000	70	427,000	0
4	滋賀	豊満神社	豊満神社四脚門	愛知郡愛知川町	625,000	550,000	80	125,000	0
5	奈良	宇奈多理座 高御魂神社	宇奈多理座高 御魂神社本殿	奈良市法華寺町	375,000	300,000	80	75,000	0
6	静岡	久 能 山 東 照 宮	久 能 山	静岡市	2,432,000	1,700,000	70	732,000	0
7	滋賀	滋 賀 県	竹 生 島	東浅井郡びわ村	350,000	240,000	70	110,000	0
8	京都	本 願 寺	渉 成 園	京都市下京区下珠数 屋町通間之町	469,000	320,000	70	110,000	0
			計	8 件	12,160,000	9,567,000	79	2,593,000	0

昭和 34 年度 国立博物館・美術館、文化財保護委員会 新収品目録

東京国立博物館

絵 画
山 水 図 紙本淡彩 狩野山雪筆 双幅 江戸時代
自 画 像 油彩 犬飼恭平筆 1点
若い婦人の像 油彩
富岳三十六景 横大判錦絵葛飾北斎筆 34枚 江戸時代

書 跡
詩 歌 屏 風 紙本墨書 良 寛 筆 6曲 1双 江戸時代
楽 志 論 屏 風 紙本墨書 市川米庵筆 6曲 1双

陶 磁
色絵葡萄文瓢形注 柿右衛門手 1個 江戸時代
須 恵 高 足 鉢 1個 平安時代
丹 波 山 椒 壺 丹波焼 1個 江戸時代

漆 工
牙 彫 赤 とんぼ 菊地互道作 1個

考 古
硬 玉 製 品 北区西ヶ原出土 1個 縄文時代
有 孔 貝 製 品
昆沙門洞出土品 神奈川三浦市出土 1括 弥生時代
細 形 銅 剣 高知須崎市出土 3個
クリス形銅戈銘 佐賀久保泉町出土 1個
峯村三根出土品 長崎峯村出土 1括 弥生時代
模造鉄斧残欠 1個 原品弥生時代
中 鋒 銅 矛 福岡春日村出土 1本 弥生時代
器 台 形 土 器 岡山庄村鬼川市出土 1個
器 台 形 土 器 1個
中山古墳出土品 宮城沼辺村出土 1括 古墳時代
八幡塚出土品 栃木那須小川町出土 1括
甲山古墳出土品 長崎上県町大將出土 1括
直 刀 身 奈良県出土 1口

京都国立博物館

絵 画
重美 菊花図簾屏風 宗雪筆 1隻
紙本淡彩花鳥図 祥啓筆 1幅

彫 刻
石造仏坐像 (永昌元年2月17日銘) 1軀

染 織
薄黄縮緬地蛇籠芦模様小袖 1領
浅葱地水辺に鴨の模様振袖帷子 1領
緋縮子松竹梅宝菜模様振袖 1領

浅葱縮緬地小菊裾模様小袖 1領
藍鼠縮緬地御所解模様打掛 1領
白縮子地籠に梅の文字入小袖 1領
納戸縮緬地雪持梅に風景の模様小袖 1領
浅葱縮子地貝模様打掛 1領

(寄 贈 品)

(上野コレクション—中国書画—)

絵 画
江 山 平 遠 図 巨 然 筆 1幅
夏 木 清 陰 図 董 源 筆 1幅
松 峰 高 士 図 1幅
百 牛 図 卷 戴 嶧 筆 1卷
馬 上 人 物 図 伝・李 唐 筆 1幅
田 家 嫁 娶 図 卷 李 唐 筆 1卷
唐 風 図 卷 宋高宗書、馬和之画 1卷
山 水 図 卷 馬 遠 筆 1卷
七 賢 過 関 図 卷 銭 選 筆 1卷
幽 篁 枯 木 図 卷 郭 界 筆 1卷
白 雲 春 岫 図 卷 方 從 義 筆 1卷
柳 橋 漁 唱 図 卷 王 蒙 筆 1卷
雲 林 六 墨 倪 瓚 筆 1帖
山 水 図 徐 賁 筆 1幅
仿 董 源 山 水 図 沈 周 筆 1幅
採 菱 図 1幅
送 陳 燕 詞 図 1幅
柘 榴 図 1幅
連 霖 江 漲 図 1幅
紫 薇 睡 猫 図 文 徵 明 筆 1幅
烹 茶 図 1幅
停 雲 館 画 冊 1帖
春 江 鱗 魚 図 唐 寅 筆 1幅
秋 景 山 水 図 1幅
江 山 驟 雨 図 1幅
江 山 琴 図 仇 英 筆 1幅
枇 杷 図 陳 淳 筆 1幅
著 色 山 水 図 董 其 昌 筆 1幅
蔡 文 姬 像 1幅
仿 米 山 水 図 1幅
練 溪 佳 勝 図 卷 謝 時 臣 筆 1幅
仿 倪 瓚 山 水 図 王 穉 登 筆 1幅
仿 黄 公 望 山 水 図 文 伯 仁 筆 1幅
梅 花 図 冊 陳 繼 儒 筆 1帖
扁 舟 歸 闕 図 邵 宝 筆 1幅
山 水 画 冊 楊 文 聰 筆 1帖
蘭 石 図 1幅

昭和34年度 国立博物館・美術館、文化財保護委員会新収品目録

[illegible]

六	言	聯	句	伊	秉	綬	筆	1	幅									
懷	東	坡	詩	王	文	治	筆	1	幅									
七	言	律	詩	楊	守	敬	筆	1	幅									
七	言	古	詩	李	宗	瀚	筆	1	幅									
五	言	對	聯	清	肅	親	王	筆	2	幅								
七	言	對	聯	寶		熙		筆	2	幅								
錄	李	子	盤	銘	臨	書	羅	振	玉	筆	1	幅						
七	言	對	聯	陳	寶	琛		筆	2	幅								
陳	鴻	壽	書	冊							1	帖						
宋	拓	紹興	內府	重刻	汝	帖					2	帖						
旧	拓	唐	顏真卿	多	寶	塔					1	帖						
明	拓	唐	歐陽詢	九成宮	醴泉	銘					1	幅						
明	拓	唐	懷素	法	帖						1	幅						
唐	懷	素	聖母	帖							1	帖						
唐	柳公權	原道碑	九疑山	賦							1	帖						
裴休	送黃邵南	序	三種	合冊														
明	拓	宋	米芾	評紙	帖						1	帖						
旧	拓	唐	褚遂良	雁塔聖教	序						1	帖						
明	拓	唐	褚遂良	同州聖教	序						1	帖						
集	王	聖	教	序							1	帖						
明	拓	國	學	本蘭亭	序						1	帖						
明	拓	東	陽	本蘭亭	序						1	帖						
元	趙孟頫	十三跋	本蘭亭	序							1	帖						
定	武	本	蘭	亭	序						1	帖						
蘭	亭	序	四	十	種						4	帖						
錄											12	冊						
熒	陽	鄭	文	公	碑	拓	本				1	帖						
唐	顏	真	卿	爭	坐	帖					1	帖						
繪 画																		
源	義	家	甲	冑	撰	写	画	卷			1	卷						
冷	泉	為	恭	資	料						17	点						
工 藝																		
褐	釉	水	注	山口県光市清山出土			1	箇	竹	腰	健	造	寄	贈				
保	全	染	付	龍紋様	煙管				1	個	松	村	林	治	寄	贈		
小	代	焼	注	口付壺					1	個	今	枝	善	陸	寄	贈		
考 古																		
愛	知	縣	春	日	井	郡	楠	村	白	山						16	点	
飯	古	墳	出	土	品													
北	海	道	千	歲	郡	千	歲	町	出	土								
秋	田	縣	平	鹿	郡	雄	物	川	町	造	山	出	土					
秋	田	縣	湯	沢	市	松	岡	經	塚	出	土	品						
埼	玉	縣	大	里	郡	岡	部	村	今	泉	出	土						
静	岡	縣	駿	東	郡	長	泉	村	下	土								
狩	長	塚	古	墳	出	土	品											
愛	知	縣	愛	知	郡	豊	明	村	境	川	出	土						
小																23	点	
兵	庫	縣	龍	野	市	日	山	西	宮	山	古	墳	出	土	品			

広島県豊田郡本郷町西野
田經塚出土品 46点
以上国有埋蔵文化財品を館蔵品に繰入れ

奈良国立博物館

男神毛彫方形鏡像(金峯山出土)		1	面
男神対向毛彫鏡像()		1	面
蔵王権現毛彫鏡像()		1	面
埴仏断片(夏目庵寺出土)		6	箇
法隆寺救世観音宝冠模造及宝珠 火焰模造	祐森祐斉作	2	個
百濟観音宝冠模造及胸飾模造	シ	2	個
四天王宝冠模造	シ	2	個
四天王宝冠復原模造	シ	1	個
アジャンタ洞窟模写(山岡銈兵衛寄贈)		11	幅
アジャンタ洞窟全景図(シ)		1	卷

文化財保護委員会

絵 画

絹本着色山水屏風	六曲一隻
附 絹本着色同模本 藤井良次筆	一隻

考 古

京都市左京区浄土寺南田町	經塚出土品	1	括
京都府福知山市牧	弁財古墳出土品	1	括
大阪府岸和田市流木町	出土銅鐸	1	点
奈良県磯城郡大三輪町	珠城山古墳出土品	1	括
シ 北葛城郡新庄町	二塚古墳出土品	1	括
シ 五条市西河内	猫塚古墳出土品	1	括
シ 天理市西山	古墓出土品	1	括
和歌山市紀伊	橘谷出土銅鐸	1	点
和歌山県那賀郡粉河町	粉河經塚出土品	1	括
佐賀県唐津市久理	弥生式遺跡出土品	1	括

陶 藝

染付色絵金銀彩大飾皿	富	本	憲	吉
柿釉丸紋大平鉢	浜	田	庄	司
塩釉瑠璃面取方壺	シ			
備前焼緋襷水指	金	重	陶	陽
備前焼緋襷平水指	シ			
志 野 鉦 鉢	荒	川	豊	蔵
瀬 戸 黒 茶 碗	シ			
木 葉 天 目 茶 碗	石	黒	宗	磨
黒 釉 大 深 鉢	シ			
色絵金銀彩飾壺	富	本	憲	吉
青白磁型押草花文大鉢	加	藤	土	師
油 滴 天 目 大 鉢	加	藤	幸	兵
萩 茶 碗	坂	倉	新	兵
備前焼火襷水指	藤	原	啓	
砧 青 磁 筒 花 生	宇	野	宗	太
祥 瑞 共 蓋 壺	川	瀬	竹	春
雲 華 焼 筒 花 生	浅	尾	宗	筈

染 織		衣裳人形「長閑」		平 田 郷 陽	
藍地鼠棒縞上布	小 千 谷 縮 布	シ 「けはい」		堀 柳 女	
茶地一羽格子上布	技術保存協会				
藍地黄縞格子上布	シ	(NHK映画			
藍地双子格子上布	シ	重要無形文化財シリーズ)			
地白藍小格子上布	シ	陶 藝			
錆 入 生 平	シ	備 前 焼 (金重陶陽)	N	H	K
錆 入 縞 生 平	シ	色 絵 磁 器 (富本憲吉)	シ		
間 道 縮	シ	シ	シ		
白茶地茶藍格子縮	シ	鉄 釉 陶 器 (石黒宗磨)	シ		
浅黄地藍格子縮	シ	染 織			
紺 藍 横 段 縮	シ	江戸小紋と伊勢型紙 (小宮康助)	N	H	K
型絵染麻地いろは屏風	芹 沢 銈 介	結 城 紬	シ		
芭蕉布地型絵染花文着物	シ	久 留 米 紬	シ		
精好仙台平 仙霊の滝	甲 田 栄 佑	越 後 縮	シ		
シ 妙 曲	シ	漆 藝			
越後縮地白亀甲紬	小 千 谷 縮 布	沈 金 (前大峰)	N	H	K
型絵染「野草の図」屏風	技術保存次郎	陶 藝			
紅型松雲霞文衣	鎌 倉 芳 太 郎	浜田庄司記録写真集		木 村 伊 兵 衛	
訪問着「静 謐」	高 村 柳 治	染 織			
訪問着「四季の香」	森 口 華 弘	芹沢銈介記録写真集		木 村 伊 兵 衛	
一越縮緬地友禪訪問着「寿山の曙」	上 野 為 二				
紫牡丹唐草文羅地金襴	喜 多 川 平 朗				
唐 花 文 上 代 羅	シ	国立近代美術館			
上 代 洞 羅	シ	絵 画 (日本画)			
紅地菱花文倭錦	シ	大 原 御 幸	1908	下 村 観 山	
一越縮緬地型絵染丸文着尺	芹 沢 銈 介	大 冬	1957	加 山 又 造	
古代縮緬地型絵染竹文着物	シ	絵 画 (洋 画)			
芭蕉布地型絵染布地文部屋着	志 村 ふ く み	裸 女 と 白 布	1929	小 出 楯 重	
紬織着物「鈴虫」		阿 武 隈 小 春	1958	石 井 柏 亭	
漆 藝		肱 を つ く 女	1938	森 芳 雄	
盆	松 田 権 六	群	1959	中 本 達 也	
平文丸宮及び平文工程見本	シ	青 の 跡	1959	斎 藤 義 重	
蒔絵螺鈿有職文飾宮	高 野 松 山	素 描			
乾 漆 竹 葉 子 器	高 音 丸 耕 堂	俊 徳 丸	1922	下 村 観 山	
彫 漆 齊 文 茶 入	増 村 耕 益 城	文 楽 人 形 頭・松王丸	1959	奥 村 土 牛	
乾 漆 盛 器	富 樫 光 成	ミ イ ラ の 棺(1)	1957	杉 山 寧	
堆 漆 縞 文 小 宮		ヴ ェ ニ ス	1958	梅 原 龍 三 郎	
金 工		読 書	1942	安 井 曾 太 郎	
蠟型鍔銅置物「采花」	佐々木象堂	奈 良 春 日 神 社	1923	富 田 溪 仙	
渡金秋草文小宮	二 橋 美 衡 志 市	樹 根	1953	須 田 国 太 郎	
松林の図肩衝釜	高 橋 金 市	茄 子		小 林 古 徑	
脇 差		草 相 撲	1937	竹 内 栖 鳳	
木 工	黒 田 辰 秋	郷 里 の 酒 屋	1955	前 田 青 邨	
拭漆櫻葡萄空器局		長 恨 歌	1929	橋 本 関 雪	
人 形	鹿 兒 島 寿 蔵	山	1939	村 上 華 岳	
紙塑人形「延寿雛」	野 口 光 彦				
菊 慈 童	平 田 郷 陽				
衣裳人形「萌芽」					

昭和34年度 国立博物館・美術館、文化財保護委員会新収品目録

切	炭	1950	福田平八郎	パリーの壁	1957	北岡文雄
版画				北国の海辺の花	1958	シ
東京風景等	1916—22	織田一磨	磯			シ
漁村の屋根	1958	北岡文雄	海辺の流木	1959	シ	
滞船	1954	シ	作	品(A)	フランシスコ、 オッタ	
古道具屋	1941	川西英			(フランシスコ、 オッタ氏寄贈)	
露天台	1957	シ				
蜜船入津	1953	川上澄生	作	品(B)	フランシスコ、 オッタ	
日本へ	1958	シ			(フランシスコ、 オッタ氏寄贈)	
いらか	1957	関野準一郎				
墓地とニューヨーク	1960	シ	湖畔雪村	1942	川西英	
漁村	1939	前田政雄			(川西英氏寄贈)	
臥牛山	1958	シ	小春日和	1958	シ	
彫刻			アネモネ	シ	シ	
クリスチーヌの首	1923	保田龍門	シンフォニー	1959	シ	
トルソー		堀江尚志	夕暮れ		J. パールムッタ 作	
詩人M	1926	藤川勇造			(J. パールムッタ氏寄贈)	
工藝						
青白釉からたち文壺	1956	浅見隆三	南蜜船図	1940	川上澄生	
柿釉壺	1959	清水卯一			(川上澄生氏寄贈)	
(寄贈品)			胸中の地図	1953	シ	
絵画(日本画)			南蜜ぶり	1957	シ	
序の舞	1932	山川秀峰	きりしたん武士	1958	シ	
		(山川綾子氏寄贈)	堀口大学先生像	1954	関野準一郎	
大観先生の像	1959	安田靉彦			(関野準一郎寄贈)	
		(安田靉彦氏寄贈)	泉の森	1957	シ	
絵画(洋画)			モンマルトルのキリスト	1959	シ	
ランデブー額装		ホルヘ・ノセダ、 サンチェス作	フィレンツェの屋根	シ	シ	
		(足立正氏寄贈)	メンフィス、テネシー	1960	シ	
少年	1923	清水良雄	黒猫	1940	前田政雄	
		(辻永氏寄贈)			(前田政雄氏寄贈)	
版画			大漁網	1941	シ	
大阪風景等	110枚	織田一磨	蔵王火口湖(A)	1953	シ	
		(織田ゆきえ氏寄贈)	(B)	1957	シ	
赤いスード	1950	斎藤清	(C)	1958	シ	
		(斎藤清氏寄贈)	クリスタル	1959	シ	
凝視	シ	シ	工藝			
阿修羅	1959	シ	色絵金彩椿文鉢		北大路魯山人	
街	1953	北岡文雄	雲金手未完成鉄絵鉢		(福田彰氏寄贈)	
		(北岡文雄氏寄贈)	書		シ	
青い服	シ	シ	抱牛	1955	手島右卿	
二裸婦	1954	シ	骨	1959	井上有一	

国立西洋美術館新収品目録

(フランスより寄贈された旧松方コレクション)

絵 画 (番号は美術館収蔵ナンバー)

アマン・ジャン、エドモン・フランソワ 1860~1935

- | | | | |
|---|---------|----|------|
| 1 | 二人の女 | 油彩 | 麻布 |
| 2 | 若い娘 | シ | カルトン |
| 3 | 少女 | シ | 麻布 |
| 4 | 本を読む女たち | シ | シ |
| 5 | 日本婦人の肖像 | シ | シ |
| 6 | 少女の肖像 | シ | シ |
| 7 | 夢想 | シ | シ |

アンドレ、アルベール 1869~

- | | | | |
|----|---------------|----|----|
| 8 | カタランの水浴 | 油彩 | 麻布 |
| 9 | 花 | シ | シ |
| 10 | マルセーユのプティ・ニース | シ | シ |
| 11 | プロフェートの岬 | シ | シ |
| 12 | りんご | シ | シ |
| 13 | 日曜日の岩壁 | シ | シ |

バルトソン、アルベール 1866~1922

- | | | | |
|----|-------------|----|----|
| 14 | 雪の中の繋船 | 油彩 | 麻布 |
| 15 | ケンシントン・ガーデン | シ | シ |

ベルナル、エミール 1868~1941

- | | | | |
|----|--------|----|----|
| 16 | パリジェンヌ | 油彩 | 麻布 |
|----|--------|----|----|

ベナル、ポール・アルベール 1849~1934

- | | | | |
|----|-----------------|-------|-------|
| 17 | アラビア騎兵 | 油彩 | 麻布 |
| 18 | 横たわる裸婦 | シ | シ |
| 19 | 眼ざめ | シ | 板 |
| 20 | アプロディテとヘーパイストース | シ | 麻布 |
| 21 | 木かげ | 水彩 | 紙 |
| 22 | 秋 | グアッシュ | シ |
| 23 | スペイン舞踊 | シ | 麻布に紙貼 |
| 24 | 子供 | エッチング | |
| 25 | 坐る女 | シ | |
| 26 | 立つ女 | シ | |
| 27 | 書く女 | シ | |
| 28 | 瀕死の男 | シ | |
| 29 | 裸婦 | シ | |
| 30 | 裸婦 | シ | |
| 31 | 女の顔 | シ | |

ブランシュ、ジャック・エミール 1861~1942

- | | | | |
|----|-----|----|----|
| 32 | 若い娘 | 油彩 | 麻布 |
|----|-----|----|----|

ボンヴァン、フランソワ 1817~1887

- | | | | |
|----|----|----|----|
| 33 | 静物 | 油彩 | 麻布 |
|----|----|----|----|

ボワイエ

- | | | | |
|----|--------|----|----|
| 34 | 水族館 | 油彩 | 麻布 |
| 35 | モンマルトル | シ | シ |
| 36 | 冬景色 | シ | シ |

37 マダム・フジタの肖像 油彩 麻布

38 ある日本人の肖像 シ シ

39 スペイン風景 シ シ

カリエール、ユージェーヌ 1849~1906

40 クレマンソー 油彩 麻布

41 母子像 シ シ

カザン、ジャン・シャルル 1841~1901

42 風景 デッサン(鉛筆・紙)

43 風景 シ シ

セザンヌ、ポール 1839~1906

44 水差しとスプーン容れ 水彩 紙

45 舟にて シ シ

46 横たわる裸婦 シ シ

47 勝利 シ シ

シャルロ、ルイ 1878~

48 羊飼いの女 油彩 麻布

49 田舎の教会堂 シ シ

50 鳥笛をふく少年 シ シ

コッテ、シャルル 1863~1924

51 捨てられた舟 油彩 カルトン

52 霧こもるサヴォアの山 シ シ

53 夕暮のカナル(ヴェネツィア) シ シ

54 ブルターニュの海岸 シ シ

55 琥珀の首飾をした婦人 シ 麻布に紙貼

56 海辺の悲しみ シ 麻布

57 ムーラン・ルージュの女たち シ カルトン

58 ブルターニュの入江 シ シ

59 小ミサ シ 板

60 山(新雪、秋、日没) シ カルトン

61 裸婦 シ 麻布に紙貼

62 タベのミサヘ シ シ

63 りんごと封蠟 シ 板

64 入り陽の港 シ カルトン

65 行列 シ シ

66 セゴビアの窪地 シ シ

67 夕暮の海 シ シ

68 タホ河 シ シ

69 トレード附近のタホ河 シ シ

70 ヴェネツィア シ シ

71 霧のヴェネツィア シ シ

72 ブルターニュの老婦 シ シ

73 日光を浴びる舟 エッチング

74 漁船 シ

75 悲しみ シ

76 ブルターニュの水車 シ

77 雷雨をさける漁師たち シ

78 ポン・タン・ロワイヤン シ

79 祈り シ

クールベ、ギュスターヴ 1819~1877

昭和34年度 国立博物館・美術館、文化財保護委員会新収品目録

80 馬小屋	油彩 麻布	122 腕を上げる裸婦	木炭・パステル 紙
81 雪の中の鹿	シ	123 後向きの裸婦	シ
82 肌ぬぎの女	シ	124 裸の女たち	シ
83 りんご	シ カルトン	125 肖像	シ
84 もの思うジプシー女	シ 麻布	126 聖女ジャンヌ・ド・ ジャンタル	シ
85 畏にかかつた狐	シ	127 ギリシアの彫像	シ
86 波	シ	138 三つの顔	油彩・コンテ 紙
ドーシェ、アンドレ 1870~1943		デヴァリエール、ジョルジュ 1861~1950	
87 樹と流れ	油彩 麻布	129 聖母の訪問	油彩 麻布
88 プルターニュ風景	エッチング	ドゥヴァル、ピエール・ジャン・シャルル 1897~	
ドガ、エドガー 1834~1917		130 回教風の中庭	油彩 麻布
89 化粧する女	デッサン(木炭・パステル紙)	131 二人の姉妹	シ
ドラクロワ、ユージェーヌ 1798~1863		132 ガルダイア	シ
90 「サルダナパールの死」のための習作	油彩 麻布	ディネ、アルフォンス・エティエンヌ 1861~1929	
91 「ダンテの小舟」のための習作	デッサン(インク・紙)	133 負傷者	油彩 麻布
92 ヘラクレスとケンタウロス	シ (鉛筆 〃)	134 回教寺院からの帰り	シ
93 ヘラクレスとネメアスの獅子	シ (シ 〃)	デュブル、ヴィクトリア 1840~?	
ドニ、モーリス 1870~1943		135 花	油彩 麻布
94 水浴	油彩 麻布	136 花	シ
95 エル・ケーテルの墓地	シ 板	カロリュス・デュラン、エミール・オーギュスト 1838~1917	
96 サン・ローラン修道院	シ	137 坐せる裸婦	油彩 麻布
97 コンスタスティヌ (アルジェリア)風景	シ	138 母と子	シ
98 踊る女たち	シ 麻布	ディスパニア、ジョルジュ 1870~	
99 ラ・クラレテの教会堂	シ カルトン	139 浴女	油彩 麻布
100 字を書く子供	シ 麻布	140 二人の少女	シ
101 紫陽花	シ カルトン	141 女の画家	シ
102 若い母	シ 麻布	142 花	シ
103 行列	シ 板	143 風景	シ
104 クアトロ・トルリ	シ 麻布	144 少女	シ
105 黒い岩	シ	エッティ、ウイリアム 1787~1849	
106 ローマ(ヴィラ・ メディチ)	シ	145 横たわる裸婦	油彩 カルトン
107 ロスマパモン	油彩 カルトン	ファンタン・ラトゥール、アンリ 1836~1904	
108 シエナの聖カタリーナ	シ 板	146 聖アントワースの誘惑	油彩 麻布
109 ばら色の壁のあるシエナ	シ	フィエルディング、コブレ 1775~1855	
110 トンケデックのテラス	シ	147 ターバット湖	油彩 麻布
111 踊る男	木炭 紙	フランドラン、ジュール 1871~1947	
112 踊り子	木炭・パステル 紙	148 ヴィクトリアのボストン	油彩 麻布
113 エチュード	シ	フォラン、ジャン・ルイ 1852~1931	
114 エチュード	シ	149 贈物	油彩 麻布に紙貼
115 エロアのための習作	シ	150 聖アントワースの誘惑	シ 麻布
116 エロアのための習作	シ	フジタ、ツグハル 1886~	
117 祭服の女	シ	151 裸婦	デッサン 紙
118 タンバリンを持つ女	シ	152 自画像	淡彩 紙
119 第九交響曲	シ	ゴーガン、ポール 1848~1903	
120 うずくまる裸婦	シ	153 水浴の女たち	油彩 麻布
121 腕を背にまわす裸婦	シ	154 プルターニュ風景	シ
		155 海辺に立つ プルターニユの二少女	シ
		156 画家Sの肖像	シ

昭和34年度 国立博物館・美術館、文化財保護委員会新収品目録

ジロー、ユー・ジェーヌ・ルイ	1867～			194 婦人の像	油彩 麻布
157 裕仁殿下のル・		油彩 板		195 縫物をする娘	デッサン(コンテ・紙)
アーブル港到着				メナール、ルネ	1862～1930
158 オルテ・ド・ヴィルの		カルトン		196 アクロポリス	油彩 麻布
レセプション				197 秋の森	〃 〃
159 リゼール河		油彩 麻布		198 水辺の乙女たち	〃 〃
160 トゥーロンの兵器廠		グアッシュ カルトン		199 森の中の裸婦	油彩 カルトン
エンネル、ジャン・ジャック	1829～1905			200 松 林	〃 麻布
161 婦人像		油彩 麻布		201 古代の地	〃 〃
162 音楽家サミュエルの肖像		〃 〃		202 エチュード	デッサン(コンテ・紙)
ローノワ、ジャン	1898～1942			ミレー、ジャン・フランソワ	1814～1875
163 お手玉遊びをする		淡彩 紙		203 春(ダフニスとクロエ)	油彩
アラビアの子供たち				204 菓 塚	デッサン(鉛筆・紙)
164 カフエのアラビア女		〃 〃		モネ、クロード	1840～1926
165 アラビア女とその子供たち		〃 〃		205 並木道	油彩 麻布
166 アルジェリアの女		〃 〃		206 舟遊び	〃 〃
167 ガルダイア		〃 〃		207 波立つトゥルーヴィルの海	〃 〃
ローラン、エルネスト・ジョゼフ	1861～			208 雪のアルジャントゥーユ	〃 〃
168 美しい肩		油彩 麻布		209 睡 蓮	〃 〃
169 テラスの二人の婦人		〃 〃		210 陽を浴びるボブラ並木	〃 〃
170 しゃくやく		〃 〃		211 しゃくやくの花園	〃 〃
171 若い婦人の像		〃 〃		212 チャーリング・クロス橋	〃 〃
172 白いばら		〃 〃		(ロンドン)	
ルバスク、アンリ	1865～1937			213 ウォータールー橋 (ロン	〃 〃
173 窓		油彩 麻布		ドン)	
174 ハンモック		〃 〃		214 ラ・ロシュ・ギュイヨンの道	〃 〃
ルーブル、シャルル・アルベール	1849～1928			215 ヴェトゥーユ	〃 〃
175 セーヌ河(ラ・ブーユ附近)		油彩 麻布		モンテザン、ピエール	1874～1946
ルグロ、アルフォンス	1837～1899			216 小川のほとり	油彩 麻布
176 海岸警備の兵舎		油彩 麻布		217 ボブラのある風景	〃 〃
レピース、エドゥアール	1836～1892			モンティセリ、アドルフ・ジョゼフ・トマス	
177 セーヌのほとり		油彩 板		218 レ・マルティグ	油彩 板
レルミット、レオン・オーギュスタン	1844～1925			モロー、ギュスターヴ	1826～1898
178 落穂拾い		油彩 麻布		219 ピエタ	油彩 板
179 農 夫		〃 〃		220 聖テチリア	水彩 紙
マルケ、アルベール	1875～1947			ピカソ、パブロ	1881～
180 坐る裸婦		油彩 麻布		221 坐る女	水彩 紙
181 オロンスの浜		〃 〃		ピオ、ルネ	1869～1934
マルタン、アンリ	1860～1943			222 異国情緒の女	油彩 麻布
182 花と泉水		油彩 麻布		223 りんごの木のもとの女たち	〃 〃
183 縫物をする女		〃 〃		224 裸 婦	デッサン(鉛筆・紙)
184 バスティードの教会		〃 〃		225 裸 婦	〃 (〃 〃)
185 エチュード		〃 〃		226 鋤をもつ裸体の男	〃 (〃 〃)
186 裸 婦		〃 〃		ピサロ、カミーユ	1830～1903
187 娘		〃 カルトン		227 エラニーの秋	油彩 麻布
188 ヴェネツィアの大運河		〃 〃		228 立ち話	〃 〃
189 マルセーユ		〃 麻布		229 冬景色	〃 〃
190 カオールの橋		〃 〃		ポワントラン、オーギュスト・エマニュエル	1839～1933
191 自画像		〃 〃		230 月の出	油彩 麻布
192 柳、緑の小川		〃 〃		231 森のはずれ	〃 〃
193 テラス		〃 〃		232 風 景	〃 〃

昭和34年度 国立博物館・美術館・文化財保護委員会新収品目録

233 風景	油彩 麻布	275 ユーゴー	エッチング
234 小川	シ	276 ユーゴー(顔二つ)	シ
235 孤境	シ	277 春	シ
236 ジュラの谷	シ	278 アントナン・ブルースト	シ
237 風景	木炭 紙	279 ロンド	シ
238 風景	シ	ロール、アルフレッド・フィリップ	1846~1919
239 風景	シ	280 木かけ	油彩 板
240 風景	シ	シニャック、ポール	1863~1935
ボミ、アレクサンドロ	1890~	281 漁船	淡彩 紙
241 食事	油彩 麻布	282 オンフルール	シ
ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ、ビエール	1824~1898	283 イル・ド・クロワ	シ
242 貧しき漁夫	油彩 麻布	284 ロマロ	シ
243 画家プレヴォの肖像	コンテ 紙	285 燈台	淡彩
ピュイ、ジャン	1876~	シモン、リュシアン	1854~1945
244 アトリエ	油彩 麻布	286 二人の婦人	油彩 麻布
クオスト、エルネスト	1820	287 ブルターニュの祭り	シ
245 柳の径	油彩 麻布	288 婚礼	シ
246 鉢植	シ 板	289 庭の集い	シ
247 牧場の木かけ	シ 麻布	290 養老院	グアッシュ 麻布に紙貼
248 泉	シ	291 ブルターニュの女	水彩 紙
ルノワール、ピエール・オーギュスト	1841~1919	292 墓地のブルターニュの女 たち	シ
249 帽子の女	油彩 麻布	シュレダ、アンドレ	1872~1949
250 アルジェリア風のバリの 女たち	シ	293 羚羊	油彩 麻布
251 木かけ	シ	294 アラビアの女たち	グアッシュ 紙
ロッシュ、カミーユ		295 アラビアの女	デッサン(鉛筆・紙)
252 裸婦	デッサン(コンテ、パステル紙)	タナカ	
ロダン、オーギュスト	1840~1917	296 裸	油彩 カルトン
253 カンボジアの男	デッサン(淡彩・紙)	ヴァン・ドンゲン、キース	1877~
254 カンボジアの女	シ (シ)	297 ターバンの女	油彩 麻布
255 ケンタウロス	シ (シ)	298 カジノのホール	シ
256 ダンテとヴィルギリウス	シ (インク・シ)	ファン・ゴッホ、ヴィンセント	1853~1890
257 「誘拐」のための習作	シ (シ)	299 ばら	油彩 麻布
258 女	シ (淡彩)	ホイッスラー、ジェームズ・マックネイル	1834~1903
259 立てる女	シ (鉛筆)	300 女の肖像	油彩 麻布
260 裸の女	シ (淡彩)	彫刻	
261 緑の女	シ (シ)	ロダン、オーギュスト	1840~1917
262 蛇を巻く男	シ (シ)	1 アダム	ブロンズ
263 うずくまる裸婦	シ (鉛筆)	2 青銅時代	シ
264 うずくまる裸婦	シ (複製・紙)	3 からみ合うバックナントたち	シ
265 立てる裸女	シ (淡彩)	4 接吻	シ
266 立てる裸婦	シ (複製)	5 美しかりしオーミエール	シ
267 裸の女たち	シ (淡彩)	6 ベルローナ	シ
268 裸の女たち	シ (鉛筆)	7 プノワ 15 世	シ
269 セイレーン(人魚)	シ (鉛筆)	8 カレーの市民	シ
270 化粧	シ (淡彩)	9 カミーユ・クロードルの胸像	シ
271 メディア	ラヴィ・紙	10 ろちひしがれたカリアティード	シ
272 世界を導くアムールたち	エッチング	11 クレマンテルの胸像	シ
273 ベルローナ	シ	12 星座	シ
274 アンリー・ベック	シ	13 国の護り	シ

昭和34年度 国立博物館・美術館、文化財保護委員会新収品目録

14	苦 悩	ブロンズ	42	三人の踊り子	ブロンズ
15	抱きあう子供たち	大理石	43	小さなトルソー	シ
16	永遠の青春	ブロンズ	44	泣く女	大理石
17	エスキュラーブ	シ	45	地獄の門	ブロンズ
18	エヴァ	シ	46	地獄の門(ひな型)	テラコッタ
19	立てるフォーン	シ	47	ビュヴィス・ド・シャヴァ アンスの胸像	ブロンズ
20	うずくまる女	シ	48	ロッシュフォールの胸像	シ
21	姉と弟	シ	49	ロダンの父の胸像	シ
22	フギット・アモール	シ	50	ラッセル夫人の胸像	シ
23	墓をまもる精霊の頭部	シ	51	洗礼者ヨハネの首	大理石
24	ジュッフロワの胸像	シ	52	説教する聖ヨハネ	ブロンズ
25	ハナコのマスク	シ	53	化粧するヴィーナス	シ
26	ハナコの頭部	シ	ブールデル、エミール・アントワース 1861~1929		
27	鼻の潰れた男	シ	54	アナートル・フランスの 胸像	ブロンズ
28	私は美しい	シ	55	バッカント	シ
29	髪に花を飾る少女	シ	56	瀕死のケンタウロス	シ
30	J. P. ローランスの胸像	シ	57	弓をひくヘラクレス	シ
31	嘆きの獅子	石 膏	58	セレーネと弓	ブロンズ鍍金
32	リンチ將軍記念碑	ブロンズ	59	聖母子	ブロンズ
33	瞑 想	シ	ダルデ、ポール 1890~		
34	ミルボーの胸像	シ	60	キリスト頭部	石
35	ネレイデス	シ	61	永遠の苦悩	ブロンズ
36	オケアノスの娘たち	シ	62	ぶどうの房をつけた頭	石
37	オルフェウス	シ	サン・マルソー、ルネ・ド 1845~1915		
38	オルフェウスとマイナーデス	シ	63	マリー・バッシュキー ルツェフの胸像	大理石
39	考える人 (1/2 等身大)	シ	他に絵画8点(損傷甚しきもの)、書籍5点を収蔵		
40	考える人	シ			
41	P. J. エイマール神父の胸像	シ			

各大学美術関係講義題目

〔国立〕

東北大学

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
美学概論	美学	佐藤 明	助教授
西洋近代美術論	シ	西田 秀穂	講師
美術理論	シ	西村 規矩夫	シ
美学普通講義	シ	西田 秀穂	助教授
美学演習	シ	シ	シ
美学講読 (カント美学研究)	シ	シ	シ
美学演習 (カント美学研究)	シ	シ	シ
美学講読	シ	シ	シ
美学演習	シ	村田 潔	教授
美学・美術史特選 目研究	シ	シ	シ
西洋美術史講義 (近代画家論)	美術史	シ	シ
西洋美術史演習	美術史	シ	シ
東洋美術史普通講義 (日本美術史・奈良 平安時代)	シ	亀田 孜	シ
東洋美術史特殊講義 (水墨画の諸相)	シ	シ	シ
東洋美術史演習 (平安時代の文藝作 品から)	シ	シ	シ
東洋美術史特殊講義 (日本服飾史)	シ	鈴木 敬三	非常勤 講師
考古学普通講義 (日本考古学概説)	考古学	伊東 信雄	教授
考古学特殊講義 (東北の古代文化)	シ	シ	シ
考古学講読	シ	シ	シ

岩手大学

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
日本美術史	美術史	栗原 良	助教授
東洋美術史	シ	シ	シ
美学演習	シ	シ	シ
素描、水彩、油彩	シ	シ	シ
西洋美術史	美術	田辺 彦太郎	助教授
美学	シ	シ	シ
工芸史	工芸	森口 多里	シ
考古学概説	歴史学 (考古学)	草間 俊一	助教授
考古学実習	シ	シ	シ

千葉大学

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
日本美術史	文理	梶崎 宗重	講師
西洋美術史	シ	三輪 福松	シ
美学概論	シ	佐々木 勇二	シ
造形学	工学 (工業意匠)	小池 新二	教授

東京大学文学部

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
抽象美術の問題	美学	竹内 敏雄	教授
文藝における悪の問題	シ	シ	シ
Hegel; Ästhetik	シ	シ	シ
日本中世絵画史 —室町時代—	美術史	山根 有三	助教授
日本美術史演習	シ	シ	シ
日本美術史	シ	シ	シ
東洋古代仏教美術の 研究	シ	松本 栄一	講師
ルネサンス美術史	シ	摩寿 意善郎	講師
考古学概論	考古	駒井 和愛	教授
漢代の文化	シ	シ	シ
周官考工記	シ	シ	シ
日本古墳文化	考古	八幡 一郎	講師
考古学演習	シ	シ	シ
野外考古学	シ	関野 雄	助教授
エジプト考古学	シ	杉 勇	講師

東京藝術大学

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
西洋工芸史	美術史	新 規矩男	教授
西洋美術史概説	シ	シ	シ
人体美学	美学	西田 正秋	シ
東洋工芸史	美術史	前田 泰次	シ
美術史特講	シ	シ	シ
工芸論	シ	シ	シ
美術概論	美学	村田 良策	シ
美学特講	シ	シ	シ
東洋美術史概説	美術史	松本 栄一	シ
日本彫刻史	シ	シ	シ
西洋美術史概説	シ	摩寿 意善郎	シ
西洋美術史特講	シ	シ	シ

各大学美術関係講義題目

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
美学概論	美学	西本 順	助教授
美学演習	ス	ス	ス
日本美術史特講	美術史	鈴木 敬	講師
西洋美術史特講	ス	柳 宗玄	ス

東京学藝大学

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
美学概論	美学	中野 勇	教授
日本美術鑑賞	ス	ス	ス
西洋美術史	美術史	久富 貢	教授
近代日本美術史	ス	ス	ス

東京教育大学

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
美学概論	文学部 哲学科	山本 正男	非常勤講師
日本考古学	文学部 史学科	斎藤 忠	ス
東洋考古学	ス	石田 幹之助	ス
考古学特講	ス	木代 修一	教授
考古学実習	ス	木代 修一	教授
西洋美術史特講	教育学部 芸術学科	斎藤 忠	非常勤講師
日本美術史概説	ス	沢柳 大五郎	教授
日本美術史特講	ス	町田 甲一	助教授
東洋美術史特講	ス	秋山 光	非常勤講師
日本彫刻史	ス	町田 甲一	助教授
日本工芸史	ス	岡田 譲	非常勤講師

横浜国立大学

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
書道論	書道	中山 弥一	助教授
書法及実書	ス	ス	ス
美学概論	美学	山本 正男	ス
美術学概論	ス	ス	ス
美術学概論	ス	ス	ス

京都大学

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
美学序説	美術史	井島 勉	教授
美術的現実と実	ス	ス	ス
社会的現実と実	ス	ス	ス
インド彫刻の諸流派	ス	上野 照夫	ス

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
平安初期美術の作風の形成	ス	蓮実 重康	助教授
大和絵の伝統	ス	源 豊宗	講師
ルネサンスのイタリア絵画	ス	摩寿 意善郎	ス
考古学序説	考古学	有光 教一	教授
朝鮮文化の考古学的研究	ス	ス	ス
殷周代の墓制	ス	樋口 隆康	助教授
弥生式文化の研究	ス	小林 行雄	講師
ギリシア考古学(学史と彫刻と)	ス	村田 数之亮	ス

京都学藝大学

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
日本書道史	書道	大河内	助教授
中国書道史	ス	ス	ス
中国書道史論	ス	中田	ス
美学概説	美学美術史	中村 二柄	助教授
西洋美術史概説	ス	ス	ス
日本美術史概説	ス	ス	ス
美学特講	ス	吉岡	ス
美術史特講	ス	ス	ス
工芸学概論・工芸史	工芸	手塚 又四郎	教授

京都工芸繊維大学

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
日本美術史	美術史	土居 次義	教授
美学概論	美学	河本 敦夫	ス
意匠工芸学	ス	福永 俊吉	ス
建築史	美術史	藤原 義一	ス
建築論	美学	大倉 三郎	ス
建築史各論	美術史	中村 昌生	講師
室内構成	美学	野口 茂	ス
建築意匠	ス	元良 秀	ス
工業デザイン	ス	高橋 雄	ス
西洋工芸史	美術史	龍村 謙	ス
日本工芸史	考古学	小林 行雄	ス
産業工芸	ス	赤沢 鉄太郎	ス

各大学美術関係講義題目

神戸大学

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
世界藝術史	美術史	小林太市郎	教授
実証藝術学	美術学	〃	〃
藝術学講読及演習	美術史	〃	〃
藝術学特殊講義	美術学	〃	〃
西洋美術史	美術史	辻部政太郎	講師
藝術ジャンル論	美術学	〃	〃
藝術学講読及演習	美術史	〃	〃
日本美術史概説	美術史	谷 信 一	教授
造形論	美術学	〃	〃
藝術学講読及演習	美術史	〃	〃
美術概論	美術学	黒田英一郎	〃
美術史	美術史	〃	〃
藝術学講読	美術学	岩山三郎	助教授

九州大学

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
中国美術思潮	東洋美術史	谷口鉄雄	教授
東洋画論	〃	〃	〃
藝術論	美術学	〃	〃
パ—ツ	西洋美術史	前川誠郎	助教授
近世画家論	〃	〃	〃
パノフスキー	美術学	〃	〃
ヴェルフリーン	〃	〃	〃
原始及び古代の技術	考古学	鏡山 猛	教授
演習(A)	〃	〃	〃
演習(B)	〃	〃	〃
秦漢考古学の諸問題	〃	岡崎 敬	助教授
西域考古学	〃	〃	〃

〔公立〕

金沢美術工芸大学長

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
西洋美術史	美術史	板垣 鷹 穂	教授
東洋美術史	〃	秋山 光 夫	〃
工芸史(漆工史)	〃	小松 森 作	〃
工芸史(陶磁史)	〃	北出 塔 次	〃
西洋工芸史	〃	大隅 為 三	講師
美術概論	美術学	鈴木 正 明	〃

京都市立美術大学

科 目	担当者氏名	資格
藝術学概論	井 島 勉	講師
芸術教育思想	田 中 健 一	助教授
日本美術史概論	佐 和 隆 静	教授
東洋美術史概論	下 店 静	市 貢
西洋美術史概説	上 平	貢 講
日本美術史演習	佐 和 隆 静	市 貢 研
大和絵の研究	田 村 隆 隆	照 講
日本工芸史	源 元 井 能	講 師
文様	〃	〃
ビザンチン美術	〃	〃
東洋美術論	佐 和 隆 静	市 貢 研
東洋美術史特講	下 店 静	市 貢 講
インド美術史概論	上 野 照 正	夫 和 貢
西洋彫刻史	堀 内 正	貢 講
西洋近世の美術	上 平	貢 講
陶磁器工芸史	満 岡 忠 成	講 師
建築史	村 田 治	講 師
漆工	〃	〃
近代建築工芸史	上 野 伊 三	郎 教 授
近特講英書講読	上 中 貢	講 師
作風論	佐 和 隆 静	研 究
藝術学特講	井 島 重 信	助 教 授
抽象と感情移入	〃	〃
現代美術論	龍 村 謙	講 師
工芸概論	〃	〃
東洋画論	吉 岡 健 二	郎 講 師
藝術と社会	〃	〃

大阪市立大学文学部

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
考古学概論	考古学	角 田 文 衛	教 授
日本美術史	美術史	望 月 信 成	〃
西洋美術史	〃	西 垣 雄 太	講 師
美術学概論	美術学	〃	〃
美術史	美術史	〃	〃

〔私立〕

早稲田大学

科 目 名	部学別	担当者氏名	資格
美 学	美術学	青 柳 正 広	教 授
美術史	美術史	安 藤 正 輝	〃

△ 150

講義題目				部学別	担当者氏名				資格										
美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	板垣鷹穂	小杉朝太郎	大沢武雄	滝口村正	渡辺良信	直熊谷宣夫	駒井和愛	玉口時雄	富田亮一	富田亮一	富田亮一	富田亮一	富田亮一	富田亮一	富田亮一
文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学
美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学
文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究
文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学	文化人類学
建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学	建築美学
先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学	先史地理学
日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論	日本美術特論
考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学
美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学	美術考古学
西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論	西洋古代美術特論
考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学	考古学
文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究	文化遺産研究
美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学	美術史学

慶應義塾大学

講 議 題 目				部學別	担 当 者 氏 名			資 格
美 術 概 論	美 術 特 殊	美 術 演 習	東 洋 美 術 史 概 說 東 洋 美 術 史 演 習 西 洋 美 術 史 概 說 西 洋 美 術 史 演 習 藝 術 近 世 美 術 史 学 日 本 近 古 学	美學 美術史学	守 屋 謙 二	竹 内 敏 雄 三 輪 福 松 菅 沼 貞 三 松 下 章 二 村 田 武 雄 洪 井 清 策 藤 田 亮 潤 清 水 潤 三	教 授 講 師 シ シ シ シ 教 授 助 教 講 師 シ 教 授	

明治大学

[illegible]

日本大学藝術学部

[illegible]

多摩美術大学

[illegible]

女子美術大学

講 議 題 目	部学別	担当者氏名	資 格
日本美術史概説(二)	美術史	久 野 健	講 師
日本美術史概説(一)	〃	永 井 信 一	〃
東 洋 美 術 史 概 説	〃	松 本 栄 一	〃
西 洋 美 術 史 概 説	〃	坂 崎 坦	教 授

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
美学概説	美学	中山公男	講師
藝術学概説	美学	沢柳大五郎	シ
考古学概説	考古学	杉原莊介	シ

同志社大学

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
美学概論	美学及藝術学	國頼三	教授
美学史	シ	金田民夫	シ
藝術学概論	シ	シ	シ
美学演習	シ	國頼三	シ
シ	シ	金田民夫	シ
藝術学特論	美学	中川勝正	講師
独書講読	シ	シ	シ
西洋美術史	シ	金田民夫	教授
美学特論	シ	杉山芳子	講師
日本美術史	シ	蓮実重康	シ
藝術思潮	シ	河本敦夫	シ
東洋美術史	シ	下店静市	シ
美術史特論	シ	木村重信	シ
工藝概論	シ	竜村博三	シ
考古学概論	文史化学	白酒詰	教授
考古学実習	シ	シ	シ
日本美術史	シ	小川光暘	助教授

関西学院大学

講義題目	部学別	担当者氏名	資格
美学概論	美学	張源祥	教授
美学講読演習(1)	シ	源豊	シ
同(2)	シ	谷村晃	講師
同(3)	シ	シ	シ
美学研究演習(A)	シ	張源祥	教授
同(B)	シ	源豊	シ
同(C)	シ	今井清	助教授
美学史	シ	シ	シ
藝術史(1)	シ	源豊	教授
同(2)	シ	谷村晃	講師
同(3)A	シ	源豊	教授
同(3)B	シ	今井清	助教授
美術論	シ	シ	シ
美学理論特殊講義	シ	井島勉	講師
美学研究演習	シ	張源祥	教授
造形美学特殊講義	シ	源豊	シ
造形美学研究演習	シ	シ	シ
考古学	史学	武藤誠	シ
藝術	美学	今谷村	助教授
シ	シ	シ	講師

団体展受賞記録

第5回一陽展

〈一陽賞〉みのわ淳(絵)、宮川和博(彫)、〈青麦賞〉鶴田猛(絵)、福士勝男(彫)、〈特待〉黒野佳夫、斎藤満蒼、千種園子、高尾千代光、井黒四郎、五十嵐二郎、大塚伊次、野中重利(絵)、林白菊、福田浩子、リチャード・C・ティム(彫)

第21回一水会展

〈会員優賞〉山川勇一郎、中川力、筒井広道、〈会員佳作賞〉不破章、真下慶治、中沢茂、〈一水会賞〉吉崎道治、村上耕一、森下喜文、〈安井奨励賞〉生野雅三、〈石井奨励賞〉斎藤政一、〈佳作賞〉浅見嘉正、飯島敏三、神田麻子、津田正毅、野林豊子、花輪明美

第9回一線美術展

〈一線美術賞〉田畑弘、〈同文化賞〉大黒孝儀、〈同新人賞〉星野登喜男、〈同努力賞〉山田邁、宮沢今朝雄、根本清満、田村満、中山久也、〈同奨励賞〉鼓武雄、斎藤博、石井芳弥、奥田辰一、浅原昭二

第25回旺玄展

〈会賞〉古橋義朗〈牧野賞〉忍田三子雄、〈奨励賞〉杉浦一郎、北川金治、浅川英二、〈努力賞〉吉増達夫、森西進、田代雅善

第7回形象派美術展

〈形展特賞〉渡辺勝海、木村政夫、〈中日賞〉白井新一、〈形展賞〉伊藤利勝、伊藤栄二、浅野義郎、〈新人賞〉中西和子、島本美千子

第15回現代美術家協会展

〈現展賞〉下川研、〈会員努力賞〉陶山博、山路光男、阿部保、舟橋公平、野口満、〈新人努力賞〉中城慶子

第14回行動美術展

(絵画部)〈行動美術賞〉下高原伸輝、河端亮治、〈会友賞〉久保晃、藤井多鶴子、〈新人賞〉(M氏賞)儀間比呂志、阿部平臣、〈奨励賞〉松

受賞一覧

本宏、三箇三郎、武藤玲子、藤波晃、藤尾友一、小谷公清(彫刻部)〈行動美術賞〉田中榮作、〈会友賞〉志水晴晃、〈新人賞〉井上平八郎、〈奨励賞〉宮永理吉

第45回光風展

〈会員賞〉高木春太郎、西田享、〈会友賞〉村田省蔵、時田幸彦、〈光風賞〉筒井博、篠崎輝夫、岸本年晴

第7回光陽会展

〈会員努力賞〉丸山妙子、吉川俊久、〈光陽会奨励賞〉田上知代子、村上花枝

第33回国展

〈会友優作賞〉橘野富彦、野中進、矢岡勲(絵)、岩見礼花(版)、〈図画賞〉藤田吉香、木村訓丈、佐々木豊(絵)、星裏一(版)、〈新人賞〉別所明芳、広瀬実、井上悟、森田松孝、大倉昭吾、杉本賢司(絵)、佐藤宏、木下富雄、(版)

第28回期日会版

〈期日会賞〉越次勇

第11回三軌会展

〈三軌会賞〉新聞理吉、〈会友努力賞〉森治三郎

第12回示現展

〈会奨励賞〉倉田純三、田中照三郎

第11回朱葉会展(連立展)

〈会賞〉安田和子、〈産経奨励賞〉梨木英美子、〈奨励賞〉菊池恵子

第36回春陽展

〈会賞〉今井治男、前田謙一、大庭勝郎、前田舜敏(絵)、今野央輔(版)、〈研究賞〉池田久典、梅田博之(絵)

第13回女流画家協会展

(会員)〈毎日新聞社賞〉小川孝子、〈日本航空賞〉春田安喜子、(一般)〈会賞〉溝田コトエ

第3回新槐樹社展

〈会賞〉榎木孝、牛尾忠夫、〈奨励賞〉堀口一枝、中村登恵、〈努力賞〉大野光秋、鈴木雁、江草孝典

第2回新協美術会展

〈会賞〉田中弘三、〈奨励賞〉岩井道

男、吉田道子

第11回新構造社展(連立展)

(絵画)〈奨励賞〉松田静男、隅井竹一、〈研究賞〉田中貞美、(彫刻)〈研究賞〉原比呂美

第9回新興美術院展

〈院賞〉鈴木清子、〈新人賞〉小林恒吉、〈奨励賞〉秋野稔、宇佐美之彦、佐藤恵一、中島洋子、〈努力賞〉関川都

第2回新象作家協会展

〈協会賞〉丸野幸雄、〈第2商展賞〉中村博英、〈奨励賞〉阿部光雄、斎藤久子、〈佳作賞〉松田福恵、岩本忠利、袴田猪太郎、寺尾孝志、平野良一、段村一美、加藤喜夫、宮崎正二、中橋彰吾、加藤寿

第4回新世紀美術協会展

〈黒田賞〉栢森義、〈会員努力賞〉片岡竜平、藤田重夫、松原広、〈会賞〉鬼頭輝三、〈奨励賞〉高橋良英、溝淵良和、藤田雄耕

第23回新制作展

〈協会賞〉網谷義郎(油絵)、〈新作家賞〉石川勇、草野誠、近藤茂、張哲真宏、福島誠、松田穰、(油絵)、鳥頭尾精、上原卓、近藤弘明、渡辺学、西村昭二郎(日本画)、内藤堯雄、澄川喜一、高橋米吉、本間紀男、寒川典美(彫)

第18回水彩連盟展

〈みづゑ賞〉藤川章造、〈スター賞〉安野光雄他

第7回生活工芸展

〈朝日新聞社賞〉山田小常山、〈生活工芸協会賞〉鶴岡鉦次郎、〈会員奨励賞〉林卯太郎

第31回青菴展

〈奨励賞〉大塚達夫、武市政輝、池田洛中、岡信孝、浜出青松

第8回創型会展

〈会展〉中森五三九、〈努力賞〉塩原康正、島田忠恵

第18回創元会展

創元会賞該当者なし、〈次賞〉林清納、三好捷

第11回創造美術会展(連立展)

〈会賞〉野田典男(洋)、平田晴耕(日)、〈東京教育委員会賞〉富田燎(洋)、長島北彩(日)

第30回第一美術協会展

〈絵〉〈会賞〉黒沢雄三郎、〈奨励賞〉竹田桂一、日下部美樹、伊藤雄三、岩田広吉、山岡輝江、大村慶治、横川孝好、加藤利吉(彫・工)〈会賞〉田島弘子、〈奨励賞〉海老沢房枝、日野コウ、原豊日、西山平内、青木不二子

第55回太平洋美術会展

〈絵画〉〈会員特賞〉野沢一郎〈奨励賞〉手代木英馬〈文部大臣奨励賞〉藤沢泰俊、〈彫刻〉〈奨励賞〉小金丸幾久

第25回東光会展

〈東光賞〉宮本正、〈奨励賞〉重安真三、室脇光晴、橋口丸美子、松川富司也、竹田源太郎、星野晴一、今泉弘子

第27回独立美術展

〈独立賞(優秀賞)〉尾崎良二、針生鎮郎、〈独立賞〉小林敦雄、松本英一郎、空野未人、柄内忠男、荒木絢子、砂田友治、小野教治、古賀猛

第44回二科展

絵画部〈特選〉高橋満寿男、古賀耕児、赤羽恒男、寺田健一郎、内藤道広、高橋三郎、〈二科金賞〉西村竜介、〈会員努力賞〉阿部金剛、伊藤研之
彫塑部〈特選〉古久保三郎、小島広志、沢井寿、長谷川栄、早川収、細井良雄、吉延唯史、〈会友金賞〉須賀通泰

第13回二紀会展

絵画部〈同人優賞〉宮島美明、〈同人努力賞〉北村脩、吉野純〈同人賞〉田中猛夫、〈二紀賞〉前田喜男、〈佳作賞〉島圭吉、佐藤一、松岡英明、三輪勇之助〈褒賞〉田中吉則、小池勇、田中信太郎、根本淑子、佐川陽子、南俊一、辻谷和子、上田保隆、岡田教太郎、栗野守之、小西保文、石原ただす、砂場三郎、小野重治郎、坂本保、佐々木恒子、三谷裕幸、岡田長久、長谷川美

智、福永登代子、来往恭子

彫刻部〈同人優賞〉矢形勇、〈同人努力賞〉清水正博〈同人賞〉堀野秀雄〈佳作賞〉安田修身〈奨励賞〉山崎誠、滝瀬弘、八柳雅一、〈褒賞〉山本泰三郎、尾崎保太郎、細野稔人

第2回日展

〈特選賞〉石川義、佐藤罔夫、高木義夫、谷野圭一、村山径、森緑翠(日)、浅井光男、伊藤正、井上和、岡崎勇次、梶田英一、清原啓一、酒泉淳、根岸敬(洋)、尾形喜代治、岸崎夜光、杉村尚、羽紫小枝子、平野敬吉(彫)

第47回日本水彩画会展

〈文部大臣奨励賞〉斎藤伊右衛門、〈会賞〉吉田敏、〈三宅氏賞〉島口繁次郎、〈真野氏賞〉和田賞信〈石井氏賞〉大塚荘治

第7回日本彫塑家クラブ展

〈日彫賞〉長谷川和幸、小西竹太郎、日下寛治、松田喜三郎、杉村尚

第11回日本板画院展

〈華嚴賞〉城所祥、〈楠公賞〉佐野隆夫〈新人賞〉岩坂義樹、横尾竜彦、尾島庄吉

第27回日本版画協会展

〈協会賞〉前田守一、〈恩地賞〉パトリシア・カスパー〈会友努力賞〉三井尚子、大本靖

第44回日本美術院展

絵画〈日本美術院賞〉大観賞須田瑛中、堀川公子、〈奨励賞〉白寿賞福王寺法林、今野忠一、郷倉和子
彫塑〈日本美術院賞〉大観賞久保寺恭、横田修英〈奨励賞〉白寿賞古島実、黒崎弘、仁田原英二、四田昌二、鈴木実、小林章、小柳津三郎、荒川明照、矢崎后夫、福家あや、〈文部大臣賞〉岩橋英遠(絵)喜多武四郎(彫)

第35回白日会展

〈白日賞〉関戸紹作、白江正夫(絵)峯田義郎(彫)

第19回美術文化協会展

〈会員努力賞〉猪飼重明、久富金之、〈協会賞〉阪本昌也〈奨励賞〉木梨アイネ、小島喜八郎〈努力賞〉加

藤純雄、小林猛男、伊藤利彦

第9回モダンアート協会展

〈協会賞〉柳原睦夫、〈新人賞〉前田守一、大西長利、〈奨励賞〉木村良枝、寺尾悦示、田中敏雄〈会友努力賞〉笹岡信彦〈努力賞〉河野俊二、木村一生、城所祥

その他

34年度朝日広告賞

第1部 新聞広告用デザイン＝岡田穰、木村じゅん、宮崎清(平凡社)、広告写真＝石川伸一(塩野義製薬)

第2部 日本ビクター、トランジスター・ラジオ(竹岡リョウ、城所伸正、竹岡美砂)

33年度〈藝術院恩賜賞・藝術院賞〉

〈恩賜賞〉木村荘入「東京繁盛記」〈藝術院賞〉第1部(美術部門)加藤栄三、森田沙伊(日)、小山敬三、林武(油)、井上良斎、大須賀喬(工)、松本芳翠、安東聖空(書)、中村順平(建)

第3回シェル美術賞

〈1等〉伊藤隆康、〈2等〉小野木学、〈3等〉中村克己、宮城輝夫、深沢幸雄、上村次敏

第2回高村光太郎賞

豊福知徳(造型)

33年度日本建築学会賞

大江宏(法制大学)、大沢秀行、三宅敏郎(中国電電ビル)、国方秀男(関東通信病院)

第5回日本国際美術展

外国部〈外務大臣賞〉ヘンリー・ムア(イギリス・彫)、〈文部大臣賞〉エミール・シューマッハー(西ドイツ)、〈東京都知事賞〉ジェラルド・シュネデル(フランス)、〈毎日新聞社賞〉M. F. フェイン(インド)、アントニオ・スワレス(スペイン) 日本部〈最優秀賞〉海老原喜之助、〈国立近代美術館賞〉斎藤義重、〈鎌倉近代美術館賞〉杉全直、〈ブリヂストン美術館賞〉駒井哲郎、〈優秀賞〉麻生三郎、高間惣七、中谷泰、横山操、本郷新、〈大衆賞〉東郷青児

59年度日本宣伝美術会賞

受賞一覧

＜日宣美賞＞田宮督夫、＜会員賞＞田中一光、＜特選＞稲垣行一郎、植松国臣、北井三郎、針木良雄、毛利彰、平沢志郎、前野洋一、＜奨励賞＞石黒紀夫、稲垣行一郎、井上修、麴谷宏、植松国臣、北井三郎、大住順一、梶山俊夫、木村浄司、柴田 敏、島田 光雄、真島節子、村永謙一、山下勇三

第6回日本伝統工芸展

＜日本工芸会総裁賞＞佐々木象堂、＜文化財保護委員会委員長賞＞志村ふくみ、＜東京都教育委員会賞＞平中歳子、＜日本放送協会会長賞＞長野匡志＜朝日新聞社賞＞大場松魚

第5回毎日産業デザイン賞

工業デザイン＝KAK セコニック 8ミリ撮影機・映写機ほか（金子至、秋岡義夫、河淵之介）、商業デザイン＝寿屋 宣伝部 テレビコマercial他（開高健、柳原良平、酒井隆雄、山口瞳）

第27回毎日商業デザイン賞

第1部A部門（新聞広告デザイン）＜総理大臣賞状・毎日広告賞＞中原収一、宮本一保、山下勇三（毎日新聞社出版局）＜毎日広告特別賞＞伊坂芳太郎、土屋耕一（松屋）、武田裕夫、佐藤浩

二（シェル石油）

B部門（ポスターデザイン）

＜通産大臣賞・毎日広告賞＞猪俣良平（東洋レーヨン）、＜毎日広告特別賞＞稲垣 智城、（文藝春秋新社）、原田雅夫（毎日新聞社出版局）、＜毎日広告奨励賞＞日暮修一、長谷川 幸夫（加美 乃素）、岡庭正行、蓼沼 敏夫（伊勢丹）、千葉敬三、中村吉之介（日本ビール）、清野喜平（明治製菓）、中原収一（伊勢丹）

第2部（スポンサー参加作品）

＜毎日広告賞＞江崎グリコ、＜毎日広告特別賞＞日本ビクター、高島屋、＜毎日広告奨励賞＞三共、丸見屋、寿屋、三洋電機、大和証券、伊勢丹、平凡社、東洋レーヨン、ワーナーブラザーズ・ファーストナショナル映画

8回毎日工業デザイン

＜特選1席＞テープレコーダー（ソニー）斎藤正、＜特選2席＞オートバイ・スズモペット（鈴木自動車工業）菅原辰雄、小森康弘、豊川慶＜特選3席＞アマノ・タイムスタンプ（天野特殊機械）、宮川和雄、片山 正治、吉川 和隆、篠康雄、＜特選3席＞トヨタ 家庭用 ミシン

（愛知工業）、GK インダストリアル・デザイン研究所

第10回毎日美術賞

島海青児、山口薫、＜特別賞＞須田国太郎

第1回みづゑ賞

＜1席＞中本達也、＜2席＞油野誠一

第9回文部省芸術選奨

＜文部大臣賞＞上村松篁

第3回安井賞

中本達也

国外受賞記録

第1回＜建築と藝術の国際大賞＞

（フランス建築雑誌「今日の建築」主催）丹下健三

59年度＜国際美術批評家協会賞＞

斉藤義重

第11回リゾーネ国際美術展

＜2位特別賞＞堂本尚郎、＜美術館賞＞田淵安一、＜名誉賞＞川端実

第5回サンパウロ国際ビエンナーレ

賞金 川端実

ビッツバーク200年祭国際展

＜ウィリアム・フリー記念賞＞長谷川晶

主要美術展覧会 索引

現代美術

1 月

秀作美術展(第10回)	71
戦後の秀作展	73
スペインに行く日本の版画展	74

2 月

日本表現派展	74
明治の石版画展	75
木村荘八遺作展	75
日本アンデパンダン展(第12回)	75
ビュッフェ展	75
読売アンデパンダン展(第11回)	76

3 月

火の藝術の会	76
近代日本の静物画・ブラジル近代建築展	77
美術文化展(第19回)	77
示現会展(第12回)	79
白日会展(第35回)	79
水彩連盟展(第18回)	80
日本伝統工芸染織展(第1回)	80

4 月

モダンアート展(第9回)	81
光風会展(第45回)	82
日本版画協会展(第27回)	83
創元展(第18回)	85
サンパウロ・ビエンナーレ展国内展(第5回)	86
近代木彫の流れ展	88
長谷川三郎展	89
山川秀峰名作展	89
東光会展(第25回)	89
国画会展(第33回)	91
春陽会展(第36回)	92
大淵武夫遺作展	95

5 月

日本国際美術展(第5回)	95
日本画院展(第19回)	100
新興美術院展(第9回)	100
世界の中の抽象・イタリヤと日本美術展	100
世界のガラス工芸展	101
カレル・アベル個展	101
福田平八郎自選展	101
現代日本の陶藝展	101

朔日会展(第28回)	103
30周年記念第一展	103

6 月

連立展(第11回)	103
みづゑ賞選抜15人展	103
須田国太郎自選展	103
太平洋美術会展(第55回)	104
旺玄会展(第25回)	104
ザッキン展	104

7 月

新象作家協会展(第2回)	105
パリ・コラージュ3人展	105
棕櫚会展(第3回)	105
プレミオ・リソーネ国際展国内展	106
日本メキシコ現代版画交換展	106
下村観山代表作展	106
日英水彩交換展	106
村井正誠・山口薫・柳原義達・辻晋堂展	106

8 月

日宣美展(第9回)	107
新樹会展(第13回)	107
立軌会展(第11回)	108
写真による世界の建築と美術の総合展	109

9 月

青竜社展(第31回)	110
行動美術展(第14回)	110
二科展(第44回)	111
日本美術院展(第44回)	112
美術院会員・受賞者による明治・大正・昭和 美術回顧展	113
集団30展	113
横山大観遺作展	114
新制作協会展(第23回)	114
一水会展(第21回)	115
一陽会展(第5回)	116

10 月

明治・大正・昭和三代名画展	117
狩野芳崖展	117
日本伝統工芸展(第6回)	118
児島善三郎自選展	118
自由美術展(第23回)	118
独立美術展(第27回)	119
二紀会展(第13回)	121

主要美術展覧会 索引

ヨーロッパ巡回棟方志功展	123
ビュッフェ展	123

11 月

野口弥太郎・鳥海青児展	123
日展(第2回)	123
毎日美術賞10年記念展	127
日本表現派展(第3回)	127
海老原喜之助展	128
福沢一郎個展	128
板谷波山米寿記念展	128
安井賞候補新人展	128
フォートリエ展	129

12 月

斎藤義重展	130
浅井忠水彩画展	130
グレコ・ファツツイーニ・デッサン展	131

古美術

「国華」創刊70年記念「近世絵画の展望」展	131
法隆寺献納宝物展	131
琳派秀作展	132
仏教美術入門展	132
中国古代彫刻展	132
故宮博物館名画写真展	132
長谷川等伯名品展	132
仙厓展	132
カメハメハ王朝文化展	133
エトルスク美術展	133
アンデス遺跡展	133
源氏物語絵巻展	133
隋唐の美術展	133
正倉院宝物展	133
円山応挙展	134
三十六家集展	134

1 月

10回秀作美術展 6—18 日本橋・三越

日本画

高野林坂梅木鳥宮中飯長三棧田福麻芝荻川大鈴小海北田久脇高中岡鈴野津山田杉南村田斎須宮斎中川
 放
 放
 達弥
 四太
 郎郎武郎郎八兒郎泰次春子江雄郎郎三郎厓夫郎作助次良守和七政助馬治一正郎直一雄一重太藏三夫実郎
 繁龍
 二三莊青三
 一三節浜忠一三米太軌武
 信和喜民喜
 惣一之久曉和
 鹿千山
 路實
 史安義剋音長冊
 次

美術展覧会(1月)

地 表 金 田 辰 弘
伝 説 の 鳥 高 橋 忠 弥
上記の作者は1958年度秀作美術展
に選抜いたしました以下記載の理
由により陳列いたしませんから諒承
願います。
所有者の都合により
晩 雪 原 山 本 丘 人
◎作者の都合により
鏡 獅 子 平 櫛 田 中
◎作者の都合により
婦 人 像 三 雲 祥 之 助
◎オーストラリア・ニュージーランド
巡回展のため
元 祿 岡 田 謙 三
◎グッゲンハイム展に出品のため
作 品(黄) 山 口 長 男
林 と 動 物 山 口 薫
◎地方巡回展のため
作 品 吉 原 治 良
渥美芙峰日本画展 6—11 日本橋
・三越
古川北華日本画展 6—11 新宿・
伊勢丹
独立展 8—27 京都市美術館
関信太郎個展 9—15 栄画廊
銅版画展(大野晴義、加藤正、加納
光於、小林ドンゲ、駒井哲郎、菅
野陽、高橋淳子、野中ユリ、深沢
幸雄) 10—19 ひろし画廊
山口勝弘個展 10—18 サトウ画廊
田中登代子個展 10—15 村松画廊
1 回松原香子個展 10—15 村松画
廊
2 回 Jone 展(星原満朗、佐久間尊
経、片岡清、滝田主計、中吉照雄、
矢島忠弘) 10—15 村松画廊
田栗テル、千葉精三、友部隆治 3 人
展 5—10 中央公論社画廊
ホエティ・グラフィカ展 11—31
新宿・風月堂画廊
内間安理・後藤又兵衛 2 人展(樺画
廊 2 人展) 11—15 樺画廊
松本康南遺作展 11—16 銀座画廊
現代版画初期作家展(山本鼎、織田
一磨、戸張孤雁、富本憲吉、恩地
孝四郎、田中恭吉、岸田劉生、万
鉄五郎、深沢索一、栗田雄、谷中
安規、藤牧義夫) 12—17 養清
堂画廊

自由美術会員10人展 12—17 ヤナ
セギャラリー
ミニチュア作品展 12—14 東京
・大丸
鈴木新吉個展 12—16 壺中居
渡辺義一、山崎政太郎、内藤秀因水
彩展 12—17 トキワ画廊
木村莊八追悼「東京繁昌記」展 13—
18 渋谷・東横
3 回日本洋画壇1959年展(主催日
本洋画商連盟) 13—18 日本橋・
白木屋
多摩美術大図案科22回卒業生「多摩
デザイン展」 13—18 日本橋・三
越
山元桜月日本画展 13—18 日本橋
・三越
亀井味茶茶陶展(高取焼) 13—18
日本橋・三越
現代版画秀作展 13—18 新宿・伊
勢丹
5 回阪本雅城水墨画展 13—18 日
本橋・高島屋
後藤愛彦個展 13—19 ナビス画廊
知求会春季展(幸田佑三、佐藤多持、
奈良原浩、山内頼吾) 14—19 三
省堂画廊
アジア墨藝会展 14—18 上野・松
坂屋
荻野咲彦油絵展 16—22 栄画廊
広重昌子彫刻個展 16—21 村松画
廊
諏訪淳個展(「智恵子抄」による小品
展) 16—21 村松画廊
藤山(愛一郎)コレクション展 16—
27 横浜松屋
彩路会作品展 16—21 銀座・松坂
屋
巧趣苑展 16—17 東京美術倶楽部
内山雨海水墨画展 16—21 東京・
大丸
10回全国カレンダー展 16—21 銀
座・松屋
イールジー・トルンカ作チェコ人形
展(主催朝日新聞) 17—2月1
新宿・伊勢丹
ぼらの会展(大木卓・野沢一郎・藤
村千良・立山慶二) 17—22 お
りかさ画廊
東邦美術院小品展 17 丸ビル・
中央公論社画廊

斎藤義重・清野恒二人展 19—24
養清堂画廊
染木照個展 19—24 いづみぎやら
りい
第37回現代版画展 19—24 渡辺木
版画店
織田繁銅版画展 19—25 サトウ画
廊
戸田吉三郎個展 19—24 フォルム
画廊
現代版画展(美術出版社版画友の会)
20—31 美術書房画廊
京趣苑(染織) 20—2月6 渋谷・
東横
「藝術家の見た産業」美術展(主催シ
エル石油株式会社) 20—25 日
本橋・高島屋
日奥文敬版画展(主催一日本版画協
会) 20—25 日本橋・三越
近藤吾郎滞欧作品展 20—25 日本
橋・高島屋
森田恒友展(異色作家シリーズ第
10回)(主催毎日新聞社) 20—
25 渋谷・東横
丸木位里・丸木俊子海外スケッチ展
20—25 日本橋・白木屋
星守雄・松本英一郎二人展 20—25
小松名店街ギャラリー
松本重雄滞欧油絵展 20—25 日本
橋・三越
池田満寿夫水彩画個展 20—26 画
廊ひろし
ベトナム工芸絵画展(主催毎日新
聞社) 20—25 日本橋・三越
九重年支子展 20—25 日本橋・高
島屋
墨絵会展 20—24 池袋・三越
川端竜子「魚龍」七題展 21—24 兼
素洞
田中朝吉個展 22—28 村松画廊
3 回新表現展(稲葉治夫・豊島弘
尚・高山寿・渡辺恂三) 22—27
村松画廊
山本健司油絵個展 22—27 村松画
廊
三木富雄・金子謙一二人展 22—27
樺画廊

戦後の秀作展 (主催朝日新聞社)

23—3月1 国立近代美術館

出品目録

日本画

開庭石(雪・水) 香 伊東 深 水
庭石(雪・水) 五 岩 英 遠
星 五 上 松 箕
踊 五 奥 村 牛
裸 五 小 倉 龜
雨 の 野 竹 喬
M 先 山 南 風
冬 座 嶋 桂 華
夏 座 木 清 方
月 座 山 又 造
暮 座 合 堂
金 閣 端 子
牡 菖 倉 靱
菖 大 林 徑
耿 沼 松 寧
沼 赤 山 雄
雪 爽 岡 泉
爽 黒 村 陵
黒 まり千代 以
光 濤 東 嶮
濤 雨 福 夷
山 を待つ 田 四
黄牡丹、黒牡丹 前 郎
伏見の茶亭 望 郎
黒瓶断層 安 江
風蕭々兮易水寒 山 彦
くさむら 山 楊
洋 画 横 春
新開地 朝井 右衛門
赤いトリエ寺壁像 麻生 三郎
ア招提の壁像 荒井 龍男
唐鳥K氏の突図 糸園 和次郎
富土図 猪熊 一之郎
船を造る人 牛島 憲之郎
壊されなかつた 梅原 龍三郎
礼拝堂 海老原 喜之助
岡 鹿之助

進め 桂 ユ キ 子
港 の 朝 川 口 帆 匡
リ ズ ム 川 端 実
メキシコ市場の一隅 北 川 民 次
トロア・グラース 小 磯 良 平
雪 後 小 絲 源 太 郎
春 遠 小 兒 島 善 三 郎
秋 山 早 雪 小 林 和 作 郎
千 人 び な 小 牧 源 太 郎
作 品 (A) 斎 藤 義 重 子
秋 草 佐 伯 米 子
水より上る馬 坂 本 繁 二 郎
花 生 物 佐 野 繁 次 郎
或る地点での記録 杉 全 直
長崎の家 鈴 木 信 太 郎
犬 須 田 国 太 郎
能動的無的主体 須 田 剋 太 郎
月と車 高 橋 忠 弥 郎
暮 色 高 島 達 四 郎
九 月 高 間 惣 七 郎
遊 蝶・花 B 鷹 山 宇 一 助
初夏の阿蘇山 田 崎 広 助
ピカドール 鳥 海 青 一 男
埋葬する人体 津 高 岡 政 一 男
マリア園 中 川 一 政 泰 二 郎
陶 土 中 村 琢 中 山 嶺 之 助
扇を持つ女 鍋 井 克 之 助
女の肖像 難 波 田 龍 太 郎
台風それる海岸 野 口 弥 武 郎
天体の運行 福 沢 一 郎
昆布とり 藤 井 令 太 郎
十和田湖 三 岸 節 子
祈りの椅子 三 雲 祥 之 助
二つの椅子 宮 本 三 郎
橋を持った武士 村 井 正 誠 雄
婦人像 村 田 實 史 雄
箱 根 森 芳 雄 子
手 港 森 田 元 子
空 と 娘 安 井 曾 太 郎
母室 孫 山 口 薫 男
水田を拓く 山 口 長 男
かたち 脇 田 和
あらそい

版 画

なぎさのリズム 内 間 安 理
自分の死貌 恩 地 孝 四 郎
夢 駒 井 哲 郎
凝 視 斎 藤 清
南仏ムアン・サルトゥの村 長 谷 川 潔
パ リ 浜 口 陽 三
湧然する女者達 棟 方 志 功
哀 愁 記 吉 田 政 次
彫 刻
若い女 朝 倉 響 子
トルソ 植 木 茂 雄
青年像 菊 池 一 克
見つけたポーズ 木 内 恒
生長の形態 No. 1 昆 野 恒
群馬の人 佐 藤 忠 良
カリス嬢の首 清 水 多 嘉 示
少年 新 海 竹 蔵
拾 得 辻 晋 堂
萩原朔太郎像 舟 越 保 武
かがむ 本 郷 新
アフリカの木連 向 井 良 吉
作 No. 1 柳 原 義 達
靴下をはく女 山 本 豊 市
若い女
1 回関和弥・戸田健夫・田村勲・松沢茂雄展 23—28 銀座画廊
加納光於銅版画展 23—29 栄画廊
2 回水野英夫個展 23—28 銀座・松坂屋
3 回2・1展 有馬迪子・衣川弘子・羽根節子・伊藤周子・佐藤敦子・毛利やすみ・鍋木きよ子・高橋綾子 23—27 丸善画廊
1 回三歳会展 23—28 銀座・松屋
具象派国際作品展 23—28 東京・大丸
黄色い月と黒い太陽展 23—29 銀座おりかさ画廊
春紅会人形展 23—29 新宿・伊勢丹
春陽会7人展 (横堀角次郎・岩田栄之助・倉田三郎・遠藤典太・上野春香・田中寿太郎・鬼塚金華) 23—28 銀座・松屋
水野英夫個展 23—28 銀座・松坂屋

美術展覧会(1月・2月)

スペインに行く日本の版画 24—
2月15 鎌倉近代美術館
大嶺政敏・三保憲司2人展 24—29
文芸春秋画廊
森英滂油絵展 24 日本橋堀留
足利銀行東京支店
富本憲吉作・案 陶器と綴帯 25—
2月1 日本橋・高島屋
北山泰斗展 26—2月1 サトウ画
廊
吉城弘・石田深星絵と花展 26—31
トキワ画廊
ジャン・ピエール・ブスケ作展 26—
31 養清堂画廊
高間惣七没彩展 26—31 造形画廊
十一会小品展 26—31 サエグサ画
廊
双光会日本画展 27—2月1 上野・
松坂屋
富本憲吉「陶器と綴帯」展 27—2月
1 日本橋・三越
創造美育春季展 27—2月1 池袋・
三越
東京会展 27—2月1 日本橋・三
越
小川マリ油絵近作展 27—2月1
兜屋画廊
寺中作雄滂政作品展 27—2月1
渋谷・東横
17回青々会展 27—2月1 日本橋・
三越
12回踏青会展 27—2月1 日本橋・
三越
英国フィエール版 世界の名画展
27—2月1 日本橋・白木屋
松林桂月日本画展 27—2月1 日
本橋・三越
小山田二郎洋画展 27—31 フォル
ム画廊
19回国際写真サロン展 (主催朝日
新聞社・日本写真連盟) 27—2月
1 日本橋・三越
近藤弘明個展 27—2月1 ひろし
画廊
金子徳之・土屋樹男・安岡厚生展
28—2月2 樺画廊
花房英樹個展(能と舞踊) 28—2月
2 村松画廊
松岡溪油絵展 28—2月2 村松画
廊

佐藤省三郎油絵個展 28—2月2
村松画廊
東京教育大学構成学科卒業展 28—
31 東京・丸善画廊
新紀会展 29 三省堂画廊
北斗会スケッチ展 30—2月5 栄
画廊
11回珠玉展 30—2月4 銀座・松
坂屋画廊
国際政治漫画展 30—2月4 銀座・
松坂屋
41回桜彩会洋画展 30—2月4 東
京・大丸
現代アメリカ版画展 30—2月4
銀座・松屋
東京砂丘俳画展 30—2月4 銀座・
松屋
六鳥会新作展 31 八重洲画廊

2 月

八木保次絵画作品展 1—14 風月
堂画廊
熱海美術館名品展 1—27 熱海美
術館
秋保正三作品展 1—6 おりかさ
画廊
奎星会展 1—8 東京都美術館
創人社工芸小品展 1—14 銀座・
松屋
3回丘人・松篁・堅二3人展 1—
7 村越画廊
不二泉・長谷川光子・国米弘子・河
内俊4人展 2—8 サトウ画廊
野中ユリ銅版画展 2—8 画廊ひ
ろし
5回杜子会展 2—8 美松書房画
廊
田島広行展 2—7 養清堂画廊
名井万亀個展 2—7 サエグサ画
廊
久保晃個展 2 文藝春秋画廊
室内アクセサリイとしての書展
2—7 中央公論画廊
ユーゴスラビヤ中世墓石彫刻拓刷展
(主催日本ユーゴスラビヤ協会)
3—8 渋谷・東横
春陽会選抜新人展 (安谷屋正義、
五味秀夫、荒木市三、田畔司朗、
宮城音蔵) 3—8 日本橋・高島屋

集国「30」展 3—8 渋谷・東横
4回加納白干漆絵風景画展 3—8
日本橋・高島屋
J. A. N. 七人展 (江田豊、本郷暁、
今関一馬、大村連、清水康雄、辻
正男、山本恭平) 3—8 村松画廊
4回近藤竜男個展 3—8 松村画廊
教育大絵画22人展 3—15 池袋・
東横
永井肇個展 3—8 樺画廊
伊藤深水欧米旅行スケッチ展 3—8
日本橋・三越
刑部人油絵展 3—8 日本橋・三越
至巧会人形展 3—8 日本橋・三越
前衛書画合同展 4—9 銀座画廊
グラフィックアート展 5—10 文
芸春秋画廊
坂口実小品展 6—12 栄画廊
太平洋美術会小品展 6—11 東京・
大丸
ボール・クレール展 7—25 市立神
戸美術館
5回三装会舞台美術展 (石井康、鳥
井せつ子、榎宏、本宮昭五郎、森
亮子、安田誠道、富岡弘、花井靖
子、三宅悦隆) 9—14 樺画廊
荒木道之個展 9—14 村松画廊
2回南部雄作個展 9—14 村松画
廊
2回現代美術研究所展 9—15 美
松画廊
2回実在4人展(石田琴次、鶴見雅
夫、太田久、福島誠) 9—14 村
松画廊
服部宏展 9—14 養清堂画廊
執行正夫・奥谷直美作品展 9—14
ひろし画廊
佐々木真夫個展 9—11 丸ビル
中央公論画廊
岩崎鐸油絵展 9—14 銀座サエグ
サ画廊
光陽会春季展 10—15 銀座・松坂
屋
2回日本表現派展(安藤千恵子、安
孫子荻声、岩崎巴人、伊藤寿浩、
宇佐見省吾、川上俊一、木間明、
斎藤嘉久、清水詢平、谷口山郷、
長崎莫人、長江兼次、野村清六、
三上正寿、水四澄子、村上大魯、

山口きみ、田中路人、寺沢正敬)
10—15 渋谷・東横
成川遺跡展とこども図工展 10—3
月 15 鹿児島市立美術館
ブリヂストン美術館展 10—3月1
大阪心斎橋大丸
弥三郎窯と書画の会 (主催世界連
邦建設同盟) 10—15 日本橋・三
越
イトウ・ヒロ・フォトグラム個展
10—16 なびす画廊
黒田頼綱・黒田久美子2人展 10—
15 日本橋・高島屋
下村良之介個展 10—14 フォルム
画廊
明治の石版画展 (主催日本経済新
聞社) 10—15 日本橋・三越
2回兆展 10—15 銀座画廊
千葉輝彦彫刻個展(5年展) 10—15
銀座画廊
石門会展 10—18 新宿・伊勢丹
若林奮個展 11—20 みつぎ画廊
松林桂月日本画展 —12 大阪・三
越
2回Verde展 (笠井美恵子、高橋
芙蓉、鹿野幸子、伊東みつ、宮越
洋子、紫上和子、荒木保枝) 13—
17 東京・丸善画廊
茂名英雄、大谷幾生、中村信3人小
品展 13—19 栄画廊
3回日本洋画壇1959年展 (主催日
本洋画商連盟) 13—18 大阪心
斎橋そごう
世界の人形展 (主催世界友の会・
マザークラブ) 13—18 銀座・
松屋
矢柳剛淵南米作品展 13—18 銀座
松坂屋
嶋々会作品展 13—18 東京・大丸
須田国太郎作品展 13—18 大阪梅
田画廊
岡本玉水人形回顧展 13—18 銀座
松屋
1959年錦綵会押絵展 13—18 銀
座・松屋
東西日本画代表作家の新作展 —14
東京・造形画廊
山田尚政個展 15—20 村松画廊
白木建男、西野和治2人展 15—20

20 村松画廊
沢田重隆絵画作品展 15—28 風月
堂画廊
ふたり展(横口悦子、山田三千子)
15—20 樺画廊
井谷助二郎個展 16—22 サトウ画
廊
木版3人展(井出岳水、島珠美、滝
平二郎) 16—21 渡辺木版画店
画廊
近代版画展 16—28 いづみぎやら
りい
山之内敬明、浜田真良2人展 16—
20 画廊ひろし
みみづく会展 16—18 ヤナセギャ
ラリー
高橋卯八近作展 16—21 造形画廊
小口益一版画展 16—21 養清堂画
廊
駒井哲郎銅版画個展 16—21 大阪
フォーラム画廊
本田克己個展 17—21 大阪・フォ
ルム画廊
1958年度毎日産業デザイン展
17—22 日本橋・三越
田中案山子日本画展 17—22 日本
橋・三越
樹会展(武蔵野美術学校日本画科)
17—22 小松名店街ギャラリー
2回新協美術会展 17—26 東京都
美術館
2回九阜会展(岡鹿之助、脇田和、
吉岡堅二、高山辰雄、上村松篁、
山本丘人、山口薫、東山魁夷、杉
山寧) 17—21 壺中居
木村荘八遺作展 (主催春陽会、毎日
新聞社) 17—22 日本橋・白木屋
5回ナガハマ塾そめもの展 17—22
上野・松坂屋
9回独立10人の会(鳥井敏文、中村
節也、藤岡一、片山公一、田中佐
一郎、田中行一、熊谷登久平、矢
崎牧広、松島一郎、樋口加六、清
水鍊徳、妹尾正彦) 17—22 日
本橋・高島屋
落合朗風展(11回異色作家展シリ
ーズ) 17—22 渋谷・東横
2回次代美術展 17—22 文芸春秋

画廊
森田路一染色展 17—22 日本橋・
白木屋
西谷世外父子工芸指物展 17—22
大阪うめだ・阪急百貨店
3回新槐樹社美術展 17—26 東京
都美術館
弥生会展 17—21 弥生画廊
6回日本画府展 18—26 東京都美
術館
9回一線美術展 18—3月1 東京
都美術館
12回日本アンデパンダン展 18—3
月1 東京都美術館
瀬本容子個展 19—21 丸ビル・中
央公論画廊
1回野口光彦人形塾展 19—25 銀
座・松屋
5回ほりじやん会新作彫刻展 (石
井滋、西田明史、岡正敏、奥山泰
堂、綿引弘、長橋阿久於、村井辰
夫、樫沢伸行、山脇正司、森大造
岡保寿) 19—25 新宿・伊勢丹
ビュツフェ展 19—4月5 神奈川
県立近代美術館
スケッチ展シリーズ第24輯向井潤
吉、民家スケッチ展 (主催朝日
新聞社) 20—25 銀座・松屋
11回現代人形美術展 20—25 上野
・松坂屋
森治樹油絵個展 20—25 兜屋画廊
1回野口光彦人形塾展 20—25 銀
座・松屋
日本藝術院会員スケッチ展 20—3
月4 池袋・西部
松井宏個展 21—26 樺画廊
グルッペNABEL展 (赤塚徹、加
納敬次、金野宏治、鶴岡政男、早
川重章、川瀬孝二、森堯茂) 21
—27 村松画廊
植木祥吉郎個展 21—26 村松画廊
瀬戸ゆり子個展 21—26 村松画廊
ヨーロッパ児童画展 21—28 みつ
ぎ画廊
東京藝術大学卒業作品展 21—23
第1会場芸大美術部本館、第2会
場東京都美術館

美術展覧会(2月・3月)

寺田健一郎、菊畑茂久馬2人展 22—27 銀座画廊
 河野通紀個人展 (養清堂画廊主催) 23—28 養清堂画廊
 2 回桑畑義博個展 23—3月1 サトウ画廊
 東平哲弥作品展 23—28 おりかさ画廊
 エスプリ・ヌウボオ、制作会議交流展 23—28 文芸春秋画廊
 大月源二、伊藤仁2人展 23—28 サエグサ画廊
 高雄自治、服部和益展 23—28 トキワ画廊
 二芽会展 23—3月4 池袋・西武東商美展 23—26 東京・丸善
 黎会展 (坊坂俊文明、大塚花御史、大野百樹、鎌倉秀雄、吉田善彦、小谷津任牛、小谷津雅美、小松均、小松澄佳、塩出英雄) 24—3月1 日本橋・高島屋
 无文会展(染絵) 24—3月1 渋谷・東横
 白根光男、飯山勇二2人展 24—3月1 日本橋・三越
 川上澄生版画展 24—3月1 日本橋・白木屋
 伝統こけしの会 (土湯系、弥次郎系、遠刈田系、鳴子系、作義系、蔵王高湯系、木地山系、南部系、津軽系) 24—3月10 日本橋・高島屋
 三光会日本画展 24—3月1 日本橋・三越
 清寛子個展 24—28 フォルム画廊
 喜多村作多郎作陶展 24—3月1 日本橋・三越
 好流会展 25—28 ギャラリー 創苑
 6 回四日会展 27—3月4 画廊ひろし
 武者小路実篤個展 27—3月4 銀座・松坂屋
 安孫子萩声日本画展 27—3月4 東京・大丸
 新象作家協会春季展 27—3月4 村松画廊
 2 回ナインパターンデザイン展 27—3月4 村松画廊

八木正風水墨画展 27—3月3 銀座・松屋
 集団「画」展 27—3月4 樺画廊
 蒲田素石個展 28—3月1 築地・新喜楽
 11回読売アンデパンダン展 28—3月15 都美術館
 風日会展 28 弥生画廊

3 月

荻野康児個展 1—15 風月堂画廊
 中村琢二油画近作展 1—5 日動画廊
 風間完滞仏作品展(1957—8) 1—7 兜屋画廊
 鉄斎・溪仙・華岳名作展 1—25 市立神戸美術館
 服部龍男個展 (墨絵、油絵) 2—7 サエグサ・ギャラリー
 米原二郎個展 2—7 養清堂画廊
 鶴岡義雄個展 (夜景シリーズ) 2—8 文芸春秋社画廊
 レオンターナー LEON TURNER 彫刻展 2—8 銀座・サトウ画廊
 2 回中央公論新人展 (小栗潮、加倉井和夫、川崎鈴彦、三谷青子、山岸純、山口吉三郎、小市美智子、今野忠一、樋笠数慶、守屋多々志、野崎貢、毛利武彦) 2—10 京橋・中央公論社画廊
 4 回新世紀展 (代表作品回顧特陳) 和田三造、川島理一郎、大久保作次郎、吉村芳松、柚木久太) 2—15 東京都美術館
 日本画展 2—7 造形画廊
 阿部和久作品展 2—3 東電サービス・センター
 1 回十未会展 3—7 東洋美術館画廊
 火の藝術の会 (美術家による陶器の新しい実験) 共同制作者 朝井 閑 右衛門 海老原 喜之助 岡 麿 之 助 岡 本 太 郎 川 口 軌 屋

川 端 実
 木 内 克
 末 松 正 樹
 高 島 達 四 郎
 田 中 岑
 竹 谷 富 士 雄
 島 海 青 児
 難 波 田 龍 起
 林 武
 東 山 魁 夷
 福 沢 一 郎
 福 田 豊 四 郎
 藤 井 令 太 郎
 益 田 義 信
 松 田 宏 明
 三 雲 祥 之 助
 向 井 良 吉
 村 井 正 誠
 毛 利 武 士 郎
 森 芳 雄
 山 口 薫
 柳 原 義 達
 吉 岡 堅 二
 脇 田 和
 渡 辺 守 治
 (50 音順)

3—8 日本橋・高島屋
 4 回女流版画展 3—8 渋谷・東横
 富田溪仙小品素描即売会 3—8 日本橋・白木屋
 1 回淙葉会 (伊東万燿、大山忠作、加藤東一、浦田正夫、佐藤太清、稗田一穂、浜田台児、尾山轅、中村正義、麻田鷹司、塩出英雄) 3—8 日本橋・高島屋
 6 回サンシユマン展 3—8 日本橋・高島屋
 富士名作展 (主催産経新聞社) 3—8 日本橋・白木屋
 小林樂居人日本画展 3—8 日本橋・三越
 松林豊彦新作陶展 3—7 日本橋・三越
 6 回浜田信(続ハルビン風景個展) 4—7 丸善画廊
 6 回成和会展 4—7 兼素洞

バトリック PATRIC の描いた日本人 4—8 日本橋・高島屋
 京都アンデパンタン展 4—9 京都市美術館
 近代日本の静物画 5—29 国立近代美術館
 ブラジル近代建築展 (国立近代美術館、ブラジル大使館、毎日新聞社共催) 5—29 国立近代美術館
 青松会日本画展 5—11 銀座・松坂屋
 大美会日本画展 5—10 大阪市立美術館
 西山博個展・貌(青年期) 6—11 村松画廊
 杉本健吉素描展 (松屋画廊スケッチ展シリーズ第25輯)(主催朝日新聞社) 6—15 銀座・松屋
 ホルヘ・ノセダ・サンチェス JORGE NOCEDA SANCHEZ 油絵展 (主催ドミニカ大使館、テテンアメリカ協会) 6—11 池袋・西武
 藤村加代子・阿部和子2人展 6—7 東京電気サービスセンター
 藤田喬平新作小品展 6—10 銀座・松屋
 青松会日本画展 6—11 銀座・松坂屋
 木版・銅版・石版版画六人展 (稲田三郎・中山正・小野忠重・曾我同志江・穂積肇・森村惟一) 9—14 養清堂画廊
 北形きよし展 9—15 サトウ画廊
 永田精二デッサン展 9—11 いづみ・ぎやらりい
 8 回三枝会展 (林武、岡鹿之助、香月泰男、山口薫、高島達四郎、児島善三郎、牛島憲之、青山義雄、野口弥太郎、森芳雄) 9—14 銀座・サエグサ画廊
 有田徳一油絵展 9—12 東京・丸善画廊
 菊岡残奄画心展 9—11 東京画廊
 鶴田吾郎個展 9—14 造形画廊
 小林丙個展 9—14 トキワ画廊
 大彦大羊居兄弟染物展 10—15 上野・松坂屋
 重要無形文化財「結城紬と久留米紬」

展 (主催、本場結城紬技術保存協会) 10—15 日本橋・三越
 石毛正一デザイン展 10—12 文藝春秋社画廊
 中川哲哉乾漆作品展 10—15 日本橋・三越
 旦生会展 10—15 上野・松坂屋
 6 回生間社展 10—15 日本橋・白木屋
 4 回ビショップ英郎個展 10—14 フォルム画廊
 松本竣介素描遺作展 10—15 兜屋画廊 主催-兜屋画廊
 交通人総合文化展協賛 日本画・洋画大家中堅新作展 (日本交通文化協会主催) 10—15 渋谷東横
 小本昌彰展(ロー画展) 10—14 ひろし画廊
 1 回黒土会展 10—15 日本橋・高島屋
 辻弘徳 僕の陶器展 10—15 日本橋・高島屋
 8 回このはな会染色展 10—15 日本橋・高島屋
 麻生良方個人展 10—15 小松名店街ギャラリー
 現代の日本画壇展 10—15 池袋・三越
 小沢敦個展 11—17 樺画廊
 3 回“コ”個展 (吉田道宏・伊藤美智蔵・中野敏・高塚篤・砂原寿一・栗原勇・江戸健・梅田博之) 11—16 村松画廊
 篠崎千・石川鴻児2人展 11—16 村松画廊
 エドワード・ズトロ個展 12—18 京橋・中央公論社画廊
 二紀会関西展 12—17 大阪市立美術館
 青桃会展 12—17 大阪市立美術館
 山本正個展 13—20 文藝春秋社画廊
 辻陶器グループ展 13—18 銀座・松坂屋
 5 回プラスチック文化展 13—18 銀座・松屋
 本間青琳書画展 15—21 美松書房画廊

5 回今井ロゼン近作油絵個展 16—20 丸ビル・中央公論画廊
 39 回現代版画展 16—21 渡辺木版画店画廊
 鈴木慶夫・竹内庸悦・森田六男3人展 16—22 サトウ画廊
 3 回恩地邦郎個展 16—21 養清堂画廊
 脇田和個展 16—31 東京画廊
 小菅徳二個展 16—20 銀座・サエグサ画廊
 木村鉄雄滯欧グワッシュ展 16—20 いづみぎやらりい
 1 回林謙一画展 16—20 フォルム画廊
 吉田遠志版画作品展 16—31 風月堂画廊
 江川真太郎スケッチ展 16—22 おりかさ画廊
 清水錬徳展 16—20 造形画廊
 英照・昭憲・貞明三代皇后展 16—22 新宿・伊勢丹
 春の青竜展・青竜社人展 17—29 日本橋・三越
 伊藤通夫個展 17—22 村松画廊
 針生鎮郎個展 17—22 村松画廊
 伊東翠壺新作陶展 17—22 日本橋・三越
 生活工芸グループ展 17—22 日本橋・白木屋
 九草会 17—21 壺中居
 森田路一ろうけつ展 17—22 日本橋・白木屋
 白虹会 評論新社創立五周年記念 17—19 小松名店街ギャラリー
 19 回美術文化展 17—31 東京都美術館

会員出品目録

ま	よ	い	宮	崎	敬	喜
狂	つ	た	触	角	タ	
幼	い	頃	の	断	章	タ
弔	・	散	華	猪	飼	重
汚	さ	れ	た	旗	タ	
作	品	Ⅱ	鷗	野	政	
作	品	Ⅰ	タ			
宿	命	(A)	伊	藤	直	介

美術展覧会(3月)

[illegible]

破 墨 一 島 駿 一 郎
土 地 A 牧 野 静 雄
土 地 B シ
土 地 C シ

女流グループ展ZERO 17-22

渋谷・東横

12回示現会展 17-31 東京都美術
館

18回一采社展 17-22 日本橋・高
島屋

春季立軌展 17-22 池袋・三越

いそべたつお絵画作品展 17-22

村松画廊

西沢ツトム油絵個展 17-23 新宿
ブランシェ画廊

桜田精一滞欧スケッチ展 17-22

上野・松坂屋

尾内健治個展 17-22 櫛画廊

4 回雨晴会展 17-20 兼素洞

創立35年白日会展 18-31 東京
都美術館

会員出品目録

絵 画

白 夢 東 理 次 良
猫 と 女 と シ
猫 は ね こ シ
街 B シ
街 A シ
街 C シ
壺をもつ二人 伊 藤 利 行
傷ついた鳥 シ
小 島 と 女 シ
トーテムポール 川 口 栄 永
F 嬢 伊 藤 清 永
白 日 臥 シ
横 臥 シ
残 雪(湯沢) 村 上 鉄 太 郎
静 園 風 景 村 宮 島 武 男
田 園 風 景 島 田 四 郎
少 年 像 島 平 松 譲
ヨ ッ ト 壁 森 谷 重 夫
白 い 婦 青 木 青 見
裸 建物のある風景 春
早 牛 岩 月 光 金
海 浜 シ

枯れた植物
窓 辺
コ ッ プ
紅 衣 の 女
い こ う
外 房 風 景
上 野 原 風 景
石神井公園風景
作 品Ⅱ
作 品Ⅰ
作 品Ⅲ
久 慈 川 の 冬
河 沿 え の 丘
早春の奥久慈
赤いトッパー
白いブラウス
黒いルパシカ
草 原
潮 来 十 二 橋
霞 ケ 浦
鱈 壳 S 氏 の 像
夕 赤 い 岬 A
八 丈 島 風 景
黒 い 潮
赤 い 岬 B
M 君 島
大 時 計 と 茶 碗 等
(細描)
句集と果物(シ)
瓶と果物(シ)
海 奈 良 花
紫 陽 花
秋 煙 る 工 場 地 帯
津 軽 娘
海 の 男
赤 地 の 見 える 風
景 秋 の 高 原
ひ ま わ り
霞 ケ 浦 煙 門
噴 倉 庫 と 館
教 司 崎 の 建 物
長 冬 日
桜 い し ぐ ら

富 山 芳 男
シ
シ
柳 沢 淑 郎
シ
シ
シ
シ
渡 部 百 合 子
シ
シ
酒 泉 淳
シ
シ
町 田 源 三 郎
シ
シ
大 崎 善 生
シ
シ
古 川 弘
シ
シ
笹 口 淳
シ
シ
中 山 忠 彦
千 葉 精 三
篠 原 薫
シ
シ
中 沢 弘 光
シ
間 部 時 雄
シ
川 島 実 郎
川 村 精 一
シ
前 田 錡
灰 野 文 一 郎
シ
堀 進
シ
田 中 君 江
シ
シ
柴 田 祐 作
シ
小 野 瀬 進

残 雪 小 野 瀬 進
松 浦 瀧 風 景 牧 原 万 之 助
東京のバタヤ シ
安達太郎残雪 シ
い わ し 山 田 鶴 左 久
ひ ら め シ
少 女 高 須 敬 司
若 い 人 シ
木 立 の 秋 難 波 栄 子
街 牧 の 丘 シ
本 牧 の 丘 シ
外 房 内 山 又 輔
佐渡見えず(出
雲崎) シ
浜 辺 の 家(シ) シ
学 校 の 一 隅 石 崎 五 郎
無 題 門 崎
水 重 塔 シ
赤 ズ ボ ン 広 本 了
裸 婦 篠 原 薫
校 舎 風 景 西 田 耕 作
川 い 建 物 水 野 富 美 夫
赤 い 弟 女 川 村 精 一 郎
姉 と 内 い 安 井 藤 三 郎
貝 室 へ い 芝 浦 風 景
へ 芝 浦 風 景 氏 田 喜 八 郎
土 岬 夕 景 小 泉 馨 武
大 岡 山 風 景 柴 田 三 千 春
道 樹 白 日 樹 千 葉 精 三
白 青 い 樹 景 手 塚 忠 一
高 原 風 景 中 山 鎗 三 郎
残 白 い 塀 後 藤 江 幾 太 郎
白 雪 室 の 一 隅 雪 景 図
画 霧 ケ 峯 岳
鯛

会員 福田義之助遺作

秋 の 箱 根
霞 ケ 浦 風 景
鯉

花
静 物(蟹)
柿
雨後の十和田湖
南 フランス
静 物
北海道風景
北海道風景
北 風
南 風
景 カ-ニユ
日 の 出
雪
トロワ・グラス
牛 止 場
波 入 江
白 い 家
洋 風 子
東 風 吹 く
栗 倉 民 庫
倉 公 船 館
造 所 池
蓮 園 物
中 津 祇 刻
裸 婦 と 彫
彫 曲
序 女 坊
ま こ と
古 式 の
若 い 女
女 年
少 (B)
母 小 品
裸 婦 (A)
母 立 女
丁 子 像
試 作
牛 (A)
牛 (B)
羊
顔 馬
名 夢
初 作
習 作
習 作
首 像
河 童

中 山 忠 彦
長 井 幸 一
堀 英 治
堀 兼 偉
中 兼 洋
中 子 平
益 田 由 乘
武 山 本 道
中 村 晋 也
坂 手 讓
堀 功
星 野 宣
木 村 珪 二
伊 奈 重 孝
伊 藤 五 百 亀
伊 藤 野 恵 三
笹 見 島 正 典
小 池 藤 雄
富 田 匠 美

三田禧三郎氏之
像 女 の 首
明

吉田三郎特別陳列

中 沢 氏
北 村 西 望 氏
金 山 平 三 氏
雲 に 漂 ぶ
男 立 像
波 治 安 回 復
偵 察 暖
春 猿
中 村 研 一 氏
(試作)
平 和

(回顧作品)

横 浜 風 景
海 高 台 風 景
川 岸 の 工 場
晚 春 場
工 場
黒い板壁のある
風景
暗 い 辻
坂道のある風景
早 春 景
田 園 風 景
ひ ら き 頭
社 近 し
春 スペインの動物
凝 視
美 ケ 原
S 氏 の 像
曇 日 の 海 辺
明 暗 物
静 集 り つ む き
二 梅 人 林
花 霧 降 り 高 原
修 理 船
樹 間 大 山
室 内 房
外

富 田 匠 美
大 木 祥 作
富 田 匠 美

田 中 君 江
紫 田 祐 作
千 葉 精 三
安 井 藤 三 郎
古 川 弘 洋
益 子 幸 一
長 井 幸 一
入 景 正 義
西 田 耕 作
森 谷 重 夫
牧 原 万 之 助
山 田 鶴 佐 久
篠 原 薫 兄
青 木 青 永
伊 藤 清 光
中 堀 進 了
小 広 本 淳
酒 泉 五 郎
石 崎 馨 武
小 東 理 次 良
伊 藤 利 行 郎
柳 沢 淑 郎
水 野 富 美 夫
渡 部 百 合 子
灰 野 文 一 郎
小 野 瀬 進 郎
藤 江 幾 太 郎
岩 月 光 金
内 山 又 輔

椿 汀 梅 憩 える 女
高 台 雪 景
楽器を持つ青年
森 黄色いおび
裏 庭
朝 の 映 画 館
日除のある建物
少年と日雀
奏 平 松 譲
開 港 記 念 館
18回水彩連盟展 18-31 東京都美
術館

7 回草人展 18-21 丸善画廊
中央美術協会展 18-23 銀座画廊
永田力個展 20-4月1日 池袋・
西武アートステップ
斑目秀雄個展 20-25 銀座・松屋
渡辺祐一郎満歌作展 20-25 東京
大丸
1 回日本伝統工芸染織展(主催日本
工芸会、日本経済新聞社) 20-31
銀座・松屋
白鶴春季展 21-5月31 神戸・白
鶴美術館 3月21-5月31日明代
五彩陶器展、3月29-4月19日大
判金及古金銀展、4月21-5月31
日 南都古寺伝来品展
女子美術大卒業制作展 21・22 同
大学
磯村敏之個展 22-28 銀座・サエ
グサ画廊
深沢春郎個展 23-28 トキワ画廊
曹良奎 cho yang gyu 作品展
23-28 村松画廊
4 回カトル展 23-28 村松画廊
福田利秋版画展 23-28 いづみぎ
やらりい
福室利一作品展 23-29 銀座・サ
トウ画廊
1 回4人展(安部長昭・仙名秀雄・
飯塚八朗・古川益弘) 23-28 櫛
画廊
仏国セーブル製陶所、名古屋工業技
術試験所作品交換展 23-28 和
光ギャラリー

4 回フラーテル展(田代光、三善、高之、裕二、とよ、小野塚響干、滝瀬弘) 23—26 東京・丸善画廊
 11回 PAN展(尼野和三、中川タマオ、大橋弘明、松岡秀太郎) 23—28 村松画廊
 宮下芳そめ系による壁画展 23—28 養清堂画廊
 4 回カトル展(鈴木益躬、瀬戸拓実、渡辺満、古城弘、石田深星) 23—28 村松画廊
 渡辺明節個展 23—28 造形画廊
 虹原会展 23—28 ギャラリー創苑
 島田晃宏個展 23—28 求竜堂画廊
 金山康喜作品展 24—4月5日 文藝春秋社画廊
 8 回棟方志功藝業展 24—29 渋谷・東横
 8 回きぬた会染色作品展 24—29 高島屋
 2 回栗林今朝男個展 24—28 フォルム画廊
 金彫会茶道工藝展 24—29 日本橋・三越
 浜田台児・川本末雄・浦田正夫3人展 24—28 東洋美術画廊
 新制作日本画展 24—29 銀座画廊
 一斗展 24—30 ナビス画廊
 米良道博個展 25—29 日動画廊
 1 回横山泰三作品展 25—31 兜屋画廊
 11 回外岡信子個展 25—28 ひろし画廊
 主潮社日本画展 26—31 大阪市立美術館
 7 回竜土会展 27—4月1日 銀座・松屋
 賀川忠・石井弘・藤島清雄作品展 27—31 美松書房画廊
 現代名匠彫塑展 27—4月1日 東京・大丸
 2 回関口茂個展 27—31 丸善画廊
 燦樹社展 27—31 銀座・松坂屋
 岡田菊恵・北山マミ展 29—4月3日 村松画廊
 久野真個展 29—4月3日 村松画廊
 近馬治・原伸男・小崎雄司・奥山由治4人展 29—4月3日 村松画廊
 須摩とおる・宮嶋美明展(樺画廊、新人展第8回) 主催樺画廊 29—

4月3日 樺画廊
 米倉正弘個展 30—4月4日 ひろし画廊
 昆野勝個展 30—4月5日 銀座・サトウ画廊
 和仁壮六個展 30—4月4日 養清堂画廊
 小田部・降矢・筒井3人展 30—4月4日 銀座サエグサ画廊
 三月会展・足立真二個展 30—4月4日 銀座画廊
 3 回石版画展(主催一織田石版術研究所) 30—4月4日 いづみぎやらりい
 難波田竜起個展 30—4月11日 南画廊
 現代一流美術家名士作品即売展 30—4月1日 銀座・松屋
 5 回瀬戸陶藝作家新作展 31—4月5日 渋谷・東横
 2 回美術家会館建設展 31—4月5日 日本橋・高島屋
 滝田項一白磁展・賛助出品斎藤清版画 31—4月5日 日本橋・白木屋
 山本ひろの個展 31—4月5日 小松名店街ギャラリー
 10 回荻野康児(花と東京)個展 日本橋・高島屋
 3 回マットのあぶらえ個展 31—4月4日 フォルム画廊
 煌土社展(再興第一回) 31—4月5日 池袋・三越
 都美術館増築資金現代日本画・洋画・彫刻・工芸展 31—4月5日 日本橋・三越
 国沢和衛滞欧作展 31—4月5日 池袋・三越
 深水・南風2人展 31—4月5日 上野・松坂屋

4 月

1 回ボンジュール会展 1—5 日 比谷画廊
 9 回モダンアート展 1—19 東京都美術館

主要出品目録

絵画

レコード59—2 土橋 敏 造
 レコード59—1 〃

昇 華 岡 本 公 夫
 時 と 空 〃
 か か し A 高 崎 元 尚
 〃 B 〃
 暗色の太陽 和 田 季 悦
 デッサン・白 〃
 エカシ(古老) 刀 根 真 澄
 放 浪 記 〃
 北のコタン 〃
 内なる野性6 勝 本 富 士 雄
 内なる野性5 〃
 鳥 人 勝 呂 忠
 結ばれるもの 〃
 昇 天 〃
 牛の親子 山 口 薫
 水と小舎 〃
 幻想矢羽根と牛 〃
 美人コンクール 矢 橋 六 郎
 寿 小 松 義 雄
 風 〃
 奏 で る 小 川 孝 子
 滑 る 〃
 弾 く 〃
 白 と 赤 紫 田 紗 千 夫
 フイギュールA 〃
 黄 と 緑 〃
 フイギュールB 〃
 枯 れ た 花 杉 本 亀 久 雄
 線と美(試作) 陰 山 光 義
 線と点(試作) 〃
 谷 間 竹 田 長 年
 日 蝕 〃
 作 品 B 谷 沢 秀 晃
 作 品 A 〃
 作 品 D 〃
 作 品 C 〃
 マ ス ク 周 裏 吉
 崩 壊 〃
 洞 壁 東 俊 二
 風 〃
 鎧 の 人 村 井 正 誠
 舞 ふ 人 〃
 か く し た 顔 〃
 綾 朝 妻 治 郎
 握 〃
 も え る 勝 田 寛 一
 し ず む 〃
 お も う 〃
 対 話 〃
 熔 清 野 恒

美術展覧会(4月)

[illegible]

校お茶の水風景角霧像子流隅物近仏像分図内堂女	由大倉里明	潮光る	長坂春雄	子供部屋壁面	大津健
街畔人船溪附石の浴三紺の早の妙高々像鶴く太れ場堤舟晴火内女春望陰道鴻	溝江上河木田藤沢川野浜岡山渡本平尾居井津本田端河船岡石島林木地原塚条本岡中野橋村坂	花か土器と土器六朝の静ヴアンダシヤンデリアナ他霜船所の見える湖の静春立游堀堤静尾早布座樹春残裸山山春深八座銀路曇ひまわりの朝の道須朝樹白隠書と李朝壺工藝染額「庭」	永瀬馬白安達田林彦本戸尾原重山領飼山田名延桃立岡井藤保野宅山藤屋野藤橋上兼反高松岡武夫	人物と鳩子花挿大理石と硝子魚彫金象嵌花器「花輪」の「薄暮」色絵早春花器花に集ふ春の舞輪牛(額面)黎明無風浅間連作の内金彩花器を抱く猫器庭文皿莫文(名古鉢銅壺硝子花瓶(二ツの顔)と鉄静ガ第三花梅犬みずもに立つ	佐美行元治謙夫清郎男一良行子水茂夫郎平男朗華子夫治郎典介洋雄利修山郎雄
舍風景角霧像子流隅物近仏像分図内堂女	由大倉里明	潮光る	長坂春雄	子供部屋壁面	大津健
水畔人船溪附石の浴三紺の早の妙高々像鶴く太れ場堤舟晴火内女春望陰道鴻	溝江上河木田藤沢川野浜岡山渡本平尾居井津本田端河船岡石島林木地原塚条本岡中野橋村坂	花か土器と土器六朝の静ヴアンダシヤンデリアナ他霜船所の見える湖の静春立游堀堤静尾早布座樹春残裸山山春深八座銀路曇ひまわりの朝の道須朝樹白隠書と李朝壺工藝染額「庭」	永瀬馬白安達田林彦本戸尾原重山領飼山田名延桃立岡井藤保野宅山藤屋野藤橋上兼反高松岡武夫	人物と鳩子花挿大理石と硝子魚彫金象嵌花器「花輪」の「薄暮」色絵早春花器花に集ふ春の舞輪牛(額面)黎明無風浅間連作の内金彩花器を抱く猫器庭文皿莫文(名古鉢銅壺硝子花瓶(二ツの顔)と鉄静ガ第三花梅犬みずもに立つ	佐美行元治謙夫清郎男一良行子水茂夫郎平男朗華子夫治郎典介洋雄利修山郎雄
風景角霧像子流隅物近仏像分図内堂女	由大倉里明	潮光る	長坂春雄	子供部屋壁面	大津健
水畔人船溪附石の浴三紺の早の妙高々像鶴く太れ場堤舟晴火内女春望陰道鴻	溝江上河木田藤沢川野浜岡山渡本平尾居井津本田端河船岡石島林木地原塚条本岡中野橋村坂	花か土器と土器六朝の静ヴアンダシヤンデリアナ他霜船所の見える湖の静春立游堀堤静尾早布座樹春残裸山山春深八座銀路曇ひまわりの朝の道須朝樹白隠書と李朝壺工藝染額「庭」	永瀬馬白安達田林彦本戸尾原重山領飼山田名延桃立岡井藤保野宅山藤屋野藤橋上兼反高松岡武夫	人物と鳩子花挿大理石と硝子魚彫金象嵌花器「花輪」の「薄暮」色絵早春花器花に集ふ春の舞輪牛(額面)黎明無風浅間連作の内金彩花器を抱く猫器庭文皿莫文(名古鉢銅壺硝子花瓶(二ツの顔)と鉄静ガ第三花梅犬みずもに立つ	佐美行元治謙夫清郎男一良行子水茂夫郎平男朗華子夫治郎典介洋雄利修山郎雄
風景角霧像子流隅物近仏像分図内堂女	由大倉里明	潮光る	長坂春雄	子供部屋壁面	大津健
水畔人船溪附石の浴三紺の早の妙高々像鶴く太れ場堤舟晴火内女春望陰道鴻	溝江上河木田藤沢川野浜岡山渡本平尾居井津本田端河船岡石島林木地原塚条本岡中野橋村坂	花か土器と土器六朝の静ヴアンダシヤンデリアナ他霜船所の見える湖の静春立游堀堤静尾早布座樹春残裸山山春深八座銀路曇ひまわりの朝の道須朝樹白隠書と李朝壺工藝染額「庭」	永瀬馬白安達田林彦本戸尾原重山領飼山田名延桃立岡井藤保野宅山藤屋野藤橋上兼反高松岡武夫	人物と鳩子花挿大理石と硝子魚彫金象嵌花器「花輪」の「薄暮」色絵早春花器花に集ふ春の舞輪牛(額面)黎明無風浅間連作の内金彩花器を抱く猫器庭文皿莫文(名古鉢銅壺硝子花瓶(二ツの顔)と鉄静ガ第三花梅犬みずもに立つ	佐美行元治謙夫清郎男一良行子水茂夫郎平男朗華子夫治郎典介洋雄利修山郎雄

27 回日本版画協会展 3—19 東京
都美術館

会員出品目録

顔顔顔の顔のお凝胎	(G) (E) (F) のけんな動	玉上恒夫 野邦弘 田修三
-----------	----------------------------	--------------------

美術展覧会(4月)

い 新 霧 さ 難 寓 水 白 屋 果 調 お は 静 明 破 こ あ 高 青 船 別 旅 言 安 期 少 魚 夜 暗 壺 漂 デ ア 塊 萌 追 物 物 ほ ほ ほ ほ ほ 斑 棲 壊	き 開 す 中 い 根 理 ど ね る の か 原 の 水 太 の い ド ク ア ク 芽 季 念 語 語 と と と と と 斑 棲 壊	の 地 盗 夜 ひ 民 話 楽 鶏 に 実 場 り 物 に る り 花 桐 離 葉 息 待 女 面 陽 う に ク ア ク 季 念 語 語 と と と と と 斑 棲 壊	池 伊 タ タ タ 泉 タ 宮 タ 駒 タ 菅 タ 浜 深 タ 代 タ 武 中 若 タ タ タ 松 タ タ 西 タ 吉 タ 山 タ 吉 タ 内 タ タ タ 佐 タ タ	田 藤 タ タ タ 下 登 喜 雄 井 哲 郎 野 陽 幸 二 雄 田 恒 夫 藤 完 一 田 幾 久 山 八 十 岡 敏 行 貝 和 子 田 穂 高 口 田 遠 志 間 安 理 藤 宏	三 勉 茂 雄 郎 陽 二 雄 夫 氏 行 子 高 源 志 理 宏	ニ グ ロ の 唄 ニ グ ロ の 唄 板 書 冊 「女」 板 書 冊 「円孔方 木」 古 都 華 B A 体 子 親 春 作 作 品 B A No5 支 浮 り た か た 虚 極 黎 秩 作 品 59 の 34 作 品 59 の 35 作 品 B A 景 夜 う つ ろ う 神 話 (myth) 信 徒 (Believer) フ ク ロ A フ フ ヒ ロ シ マ B 芭 蕉 A ヒ ロ シ マ A 雪 中 新 山 麓 魚 大 淵 の と 白 突 ば ん じ 画 木 北 海 道 の 漁 村 林 庭 丘 地 猫 の オ ネ ダ リ 語 郷 望 の 眼	吉 田 千 鶴 子 卷 白 高 橋 力 雄 吹 田 文 明 星 タ タ 吉 田 政 礼 岩 タ 原 英 雄 萩 タ タ タ 牛 玖 健 治 大 前 博 穴 戸 徳 子 (滞 米 中) 萩 タ 上 タ タ タ タ 加 タ 河 タ 川 タ 北 タ 橋 タ 前 タ 稲 タ 畦 タ	土 器 と 埴 輪 (C) 土 器 と 埴 輪 (D) 月 の 出 庭 石 鳥 の 落 葉 小 薔 薇 と 封 書 静 物 (玻 璃 球) 静 物 (秋 草) 湖 頃 呂 D F B E A C G 燈 A 鬼 さ ま 馬 鏡 島 の 乙 女 二 荒 山 内 逆 光 初 春 の 陽 明 門 春 を 呼 ぶ 花 想 A 幻 水 中 に 咲 く 花 想 B バ 月 二 農 家 の 庭 景 東 浜 風 景 海 の あ る 風 景 日 本 ア ル プ ス 物 語 流 れ が 止 ま る 物 語 ヨ ナ の 乗 船 物 語 ヨ ナ の く じ 引 き 物 語 エ テ ロ の 姉 妹 物 語 腹 中 の ヨ ナ 大 雄 宝 殿	馬 淵 聖 前 田 藤 四 郎 長 谷 川 潔 島 喜 平 山 口 進 井 鶴 三 川 竜 生 前 川 千 帆 川 上 澄 生 初 武 井 武 雄 宮 尾 し げ を 平 塚 運 一 永 瀬 義 郎 山 林 文 子 大 田 耕 孝 二 永 タ 月 岡 忍 光 金 守 世 士 夫 タ 川 憲
---	---	---	--	---	---	---	--	--	---

火の国の城 田川憲
すすき 武田由平
難芥子
杜(もり)
いてふ
作品2
作品1
作品A
作品B
高原の老松
日光いろは坂
「青森県版画譜」
から
青島戸
鶏のきざし
春冬木
雞
ほろほろ鳥
二人
噴気のある道
原始時代うおとり
原始時代おどり
原始時代けもの
かり
地虫の踊り
群像
座像
或る痴像A
或る痴像B
春陽
春光
落椿
近江入景之内石
山、矢走
近江入景之内
石山
海神 中川雄太郎
農婦
特陳・フランス作家招待
ラ・ジュース・グラヴェール・
コンタンボレーヌ会員作品
招待作家
招旗 水船六州
壁の唄
田園譜
林桂子
魚田義信
小鳥三羽

特陳・帰朝会員作品

1958年欧米亜より
帰朝
砂漠の夜 吉田千鶴子
メキシコ・カー
ニバル
アリゾナ大地
1958年欧米より
帰朝
モンマルトルの
石段(パリ)
運河添の家
(パリ)
マルケンの少女
(オランダ)
プラットパーク
の小学生(アメ
リカ)
ロンドンの少年
郵便屋
1956年フランス
より帰朝
いこうモデル
道路工事
窓
壁
巴里の窓
1955年フランス
より帰朝
教会の横 駒井哲郎
廃跡
芽生え
仏国風景
風景
1954年欧米、
1955年米・メキ
シコより帰朝
メキシコの彫刻 吉田遠志
グランド・キャ
ニオン
スペインの女
バグダッドのア
ラブ
野にある首
1955年米・メキ
シコ
1958年欧米亜より
帰朝
アラブの眼 吉田穂高
古代人
石と人
1955年中国より
帰朝
水華 牛石井鶴三
石 山 仏

1956年米・メキ
シコより帰朝

教会ニューメキ 斎藤清
シコ
野良犬メキシコ
憩いメキシコ
心の宿ニューメ
キシコ

18回創元展 3—19 東京都美術館

会員出品目録

早花 春大島 黥
火橋本 花
宵 樹
雪の日曜日 三保
雨ふり 坂本幹男
雪 後宮地 亨
仮面 鱗竜之助
垣壁 安藤信哉
聖徒物語 川口雄男
魚 深谷 徹
牛 頭 高島常雄
レダ ベ 井上 和
エウロッパ 井川 四郎
鉄組 岩 木村 敏一
庭宇野虎所風景 木田 尚
暮色 中 敬子
春 中 敬子
ホロホロ鳥 中村 一郎
駅附近場 花重雄
貯炭山
ボタ 田口 克己
アパート 田 豊
住宅 八田 好
漁夫と家族 益本 治平
赤い馬 樋口
運河の街 范雲 舜
白い丘 雲 舜
黒い水 泉 繁
アドマン 小田 義
庭岩 吉田 定
建 名村 賀
ストープの女 戸谷 一
芽 ぶく頃 沢 甫
梅 金 治

美術展覧会(4月)

編建少石つ蓮パリージョ水物帽子高二長池花シ大山風何或夜エークにて)	物女仏菰の一の静人春丘畔A B早景で日ウヨ少の鏡像風景花物ファインター部道カ噴煙物内春閑む幹幹し景	広三井安鈴シ田長シ倉中シ樋金子シ青沼久システィール子(客員)	本島上武木中繁川竜員野口千恵地倉米小野下本塚本木田山々木島角尾村島藤辰木正嶺俊徹見迫塩福シ	与利自芳千久繁川竜辰和一恵太正夜子郎吉夫郎夫子男祐基郎梓義徹真貢一文正金正治郎	丸正助男馬吉平雄高郎子郎見子千代郎吉夫郎夫子男祐基郎梓義徹真貢一文正金正治郎	お実験室の風室慈け母漁岩海ウ静一机梨冬シ海岸晩煉瓦梅シ魚と棕崖臨画外海石教姫タン寺風景阿魚森風晩海逆街場K石古丹波窯庵主く花	兼隅景内光し子港間辺一物隅子花A B景夏物(一)石ら欄遊隅壁辺縁堂鼓楼な院人物谷て景秋街街の市場像仏壺人像木	小中河磯川後山島町シ岩中荒佐児小シ小犬飯齋シ内堀大シ藤シ伊仙シ小小糟シ高岩深シ河根香シ鷹伊櫛橋中中戸	又山野谷辺藤口崎田井山明竹子川沼飼野藤田内橋谷勢波池野谷橋永山本守取尾庭田西西田郁	光一男治治史勝則二吉子実吾義蔵源二一孝康幸盛喜雄勉実修男力男夫徳助雄義雄清清郎	良文桂外純三洋新節正美勝源二一孝康幸盛喜雄勉実修男力男夫徳助雄義雄清清郎	緑川岸風景サンドイッチマ(昼)(夜)雪ヨ飾影も冬シ隠子夜生といりとしんしい庭シ船シよ貨バシシ山波シ長雪箱越シ片シ喜生	樹景原ト窓えA B魂供典誕りA Bま船ナ(1)(2)(3)湖町A B景宅山林城A B楽る	小石野々増シ中シ江長シ木矢上シ岩シ安シ原シ豊シ井シ氏シ内シ恩シ山シ牧進シ財シ	池原増田島口谷村沢上本藤田千正子秀之進一郎山孝徳政太郎野藤牧園	鉄義垣常研美政英一雄晃哉貞嘉千里上正子	太郎武甚一郎吉介春子雄翠也晃哉嘉千里上正子進一郎徳太郎吉清園	5回サンパウロ・ビエンナーレ展 日本側出品作国内展 3—12 国立近代美術館 出陳目録 (絵画) 斎藤義重 作品 1 シ 2
-----------------------------------	---	--------------------------------	---	---	--	--	--	--	---	---	--------------------------------------	--	--	--	---------------------------------	---------------------	--------------------------------	--

1959
シ

美術展覧会(4月)

作品 3	1959	森 田 子 竜		山 口 源	1959
〳 4	〳	灼熱	1958	Ballad A	〳
〳 5	〳	寒山	1959	〳 B	〳
〳 6	1958	拾得	〳	〳 C	〳
〳 7	〳	蒼	〳	Narcissism	〳
〳 8	〳	淵	〳	A Solar Eclipse	〳
〳 9	〳	凍	〳	Walking over Fire	〳
佐 野 繁 次 郎		脱	〳	A Commandment	〳
片目二人	1956	坐組上	〳	Comedy	〳
生物 No. 1	〳	竜知竜	〳	Transmigration	〳
生活	1957	無	〳	Emptiness	〳
・街	〳	(版 画)		吉 田 政 次	
仕事	〳	内 岡 安 理		相対性絵画 No. 1	1959
生物 No. 2	〳	日本の四季	1959	〳 No. 2	〳
〳 No. 3	1958	五輪：地	〳	〳 No. 3	〳
津 高 和 一		〳：水	〳	〳 No. 4	〳
雷神	1958	山 口 源		〳 No. 5	〳
伝説	〳	Ballad A	1959	〳 No. 6	〳
イムA	〳	〳 B	〳	〳 No. 7	〳
芽	1959	〳 C	〳	〳 No. 8	〳
交流する空間	〳	Narcissism	〳	〳 No. 9	〳
変転する空間	〳	五輪：火	〳	〳 No. 10	〳
血縁	〳	〳：風	〳	(彫 刻)	
長 谷 川 晶		〳：空	〳	小 野 忠 弘	
呪	1958	成長	〳	かぐろい座	1955
訃	〳	間(ま)	〳	ヘリクレサムトランス	1956
祈	〳	問答	〳	ススコミセテス	1957
凶	〳	かくれた月	〳	シモセファロス	1958
祉	〳	加 納 光 於		向 井 良 吉	
南 大 路 一		天使について	1958	飛翔する形態	1958
六月	1958	花・沈黙	〳	発掘した言葉 1	〳
植物A	〳	動く風景	〳	〳 2	〳
〳 B	1959	鳥葬	〳	〳 3	1959
〳 C	1958	イカルス	〳	毛 利 武 士 郎	
都会の音A	〳	燐と花と	〳	Technology	1954
〳 B	1959	〳	〳	隕星	1956
〳 C	〳	〳	1959	作品 1	1957
(墨 象)		〳	〳	〳 2	1959
比 田 井 南 谷		〳	〳	以上の外下記3名の作家の作品及び	
作品第42 マイナー	1956	駒 井 哲 郎		佐野繁次郎・印作品「街」(1957)は海	
〳 第58-1 マイナー	1958	調理場	1958	外より直接出されるので国内展には	
〳 第58-4 マイナー	〳	森	〳	陳列されない。	
〳 第58-39 マイナー	〳	三匹の魚(B)	〳	(絵 画)	
〳 第58-42 メイジャー	〳	版画(A)	〳	猪 熊 弦 一 郎	
“電第7”	〳	〳 (B)	1959	極地設定 No. 1	1959
〳 第58-43 メイジャー	〳	〳 (C)	〳	〳 No. 2	〳
〳 第58-44 メイジャー	〳	〳 (D)	〳	極地青光	〳
〳 第58-45 メイジャー	〳	夢	〳	凍れる大地	〳
〳 第59-1 マイナー	1959	夜	〳	静かなる地表	〳
〳 第59-2 マイナー	〳	鳥	〳	白の世界	〳
				櫓	〳

美術展覧会(4月)

川 端 実
リズム A 1958
シ B
シ C
白の上のリズム
コンポジション
シ
シ 1959
菅 井 汲
KAMINARI 1954
FUJI 1958
MURASAKI
ONI
MATSURI
OTO 1959
尚サンパウロ展には浮世絵の発展を示す特別展観が行われる予定
田中恒夫個展 4—9 村松画廊
3人展(美谷順一、中村秀雄、大宮弘) 4—9 村松画廊
1回小林孝一展 4—9 村松画廊
5回グループ展「鋭」 4—9 樺画廊
日本染織図案家連盟10周年記念展 4—5 京都市美術館
市制70周年記念関西展 5—30 大阪市立美術館
アメリカ抽象6人展(マーク・ロスコ、パーネット・ニューマン、ロバート・マザウエル、ジャック・ヤンガーマン、岡田謙三、マーク・トビー) 6—30 ギャラリー・キムラ
田辺栄次郎個展 6—11 文藝春秋社画廊
網干戸根・中村忠二2人展 6—11 いづみぎやらい
2回若槻菊枝個展 6—11 文藝春秋社画廊
1回斎藤清近作版画個展 6—15 京橋・中央公論社画廊
4回空間グループ展 6—10 美松書房画廊
毛利彰個展 6—11 トキワ画廊
西尾一三展 7—12 小松名店街ギャラリー
村松乙彦日本画展 7—12 日本橋・三越

新制作協会東京春季日本画展 7—12 日本橋・高島屋
川端竜子個展主題「紅白」 7—12 日本橋・高島屋
井上覚造タイル絵新作展 7—12 日本橋・高島屋
木田金次郎作品展 7—12 日本橋・高島屋
岩崎鐸政米スケッチの旅 7—12 日本橋・白木屋
近代日本画富岳展 7—12 渋谷・東横
原生林の主題による詩と彫刻展(サカキ・ナナオ、ヒグチ・シン2人展) 7—12 池袋・三越
釈尊二五〇〇年記念第3回現代仏教美術展 7—12 池袋・三越
皇居をめぐる風景展 8—14 日動画廊
鷹の会展 10—15 銀座・松屋
岩田ちよ子個展 樺画廊
8回グループJUNE展 10—15 村松画廊
日本人形美術展 10—15 銀座・松屋
5回7人展(池田準・影山勇・楠本正明・桑山忠明・小山礼司・梶本三枝子・野田修郎) 11—15 美松書房画廊
高橋好文個展 11—16 銀座画廊
織田大喜個展 13—18 銀座・サエグサ画廊
若狹暁男個展 13—18 南画廊
山口昭昭展 13—19 銀座・サトウ画廊
武林敬吉小品展 13—18 いづみ・ぎやらい
山口きみ展 13—18 トキワ画廊
篠原有司男個人展 14—19 小松名店街ギャラリー
朱葉会々員展 14—19 渋谷・東横
一陽会春季展 14—19 日本橋・高島屋
サロン・ド・アヴリュ(榎本庄衛、川端実、風間完、南大路一、難波田龍起、大沢昌助、オノサト・トシノブ、斎藤義重、山田栄二、山口長男) 14—19 兜屋画廊
真珠会(ミニアチュール)油絵展 14—19 日本橋・高島屋

寿会日本画展 14—19 日本橋・高島屋
象牙彫刻展 14—19 日本橋・高島屋
二重作龍夫個展 14—19 日本橋・三越
新井峰雲個展 14—18 此花画廊
村松三冬新作展 15—19 日動画廊
9回未更会展 15—18 兼素洞
7回彫展 15—5月5日 東京都美術館
新制作日本画展 15—19 京都市美術館
国立近代美術館所蔵今日の写真(日本とフランス)(南日本新聞社・市立美術館共催) 16—5月3日 鹿児島市立美術館
フレッシュ5展(飯島啓司・松田政仁・矢田順男・柳崎正男・吉崎登) 16—20 美松書房画廊
久野真作品展 16—30 風月堂
久保田すみ子蠟エッチング小品展 16—21 樺画廊
鶴野政個展 16—21 村松画廊
新現実展 16—21 村松画廊
近代木彫の流れ 17—5月17日 国立近代美術館
翠松会日本画展 17—22 銀座・松屋
白色セメントによる春の野外彫刻展(主催・東京都後援白色セメント造形美術会) 18—5月10日 日比谷公園
ギャラリー・ボワン開設展(岡鹿之助、熊谷守一、鳥海青児、中川一政、林武、宮本三郎、脇田和) 20—30 銀座西5ノ5 ギャラリー・ボワン
宮川富作子個展 20—25 養清堂画廊
森田正治個展 20—5月2日 南画廊
釈尾弘邦仏画展 20—25 京橋・中央公論社画廊
40回現代版画展 20—25 渡辺木版画店
工藤哲巳個展 20—26 文藝春秋社画廊
馬場彬個展 20—26 銀座・サトウ画廊

- 19回日本木彫会展 21—26 日本橋・高島屋
 河井博次作陶展 21—26 日本橋・高島屋
 長谷川三郎展(異色作家シリーズ展第12回) 21—26 渋谷・東横
 山川秀峰名作展 (主催一産経新聞社) 4—21 日本橋・白木屋
 久里洋二漫画展 21—26 美松書房画廊
 27回上社会洋画展 21—26 池袋・三越
 日米親善ロナルド・ロバートソン、ヘレン・ロバートソン二人展(主催一第5空軍司令部美術工藝所) 21—26 日本橋・高島屋
 8回日本墨絵会展 21—26 池袋・三越
 2回斎藤正夫個展 21—26 兜屋画廊
 渡辺賢二個展 21—26 小松名店街ギャラリー
 柳原義達・辻晋堂展 日本の都市展 21—24 鎌倉近代美術館
 5回エボククアール油絵展 22—27 村松画廊
 赤間禎子個展 22—27 村松画廊
 25回東光会展 22—5月8 東京都美術館

主要出品目録(会員のみ)

ショウ・ウインド 河野 磐
 マスカン
 帽子店
 牡丹 森田 茂
 笛吹く三人
 窓
 工場 C 坂口 美幸
 工場 A
 工場 B
 騎馬 新本 燦根
 波切風景 奥野 康春
 レストラン 大屋 正紀
 早春の丘 岡本 順之
 街景物
 人形芝居楽屋A 大歳 敏秋
 人形芝居楽屋B
 人形使い
 風景 河井 達海

黒い海 河井 達海
 白壁の家
 橋と物 A 熊岡 且視
 静物 B
 静物の砂丘 中川 茂
 冬の山 田代 順七
 球磨川
 城内風景 A
 城内風景 B
 木立
 長崎大浦にて 田辺 恭一
 古い町でその五
 静物 大野 昌男
 風景 山本 日子士良
 工場風景
 教会堂
 新開地風景
 オランダの婦人 平通 武男
 海女
 農村晩秋 佐藤 一章
 雪舟園
 農村冬景
 農村春景
 箱根早春
 休みのポーズ 石本 秀雄
 椅子に凭る婦人
 椅子の裸雪
 楠とはぎ
 かわはぎ 三田村 築
 笑面 溪窓
 魚 窓
 桃 畑
 倉敷の露路 毛利 一就
 岩壁の山と観音 木村 福太郎
 堂 船曳 実雄
 柿の木の大樹
 山村風景
 明神坂風景
 赤碕山風景
 仁摩町風景
 人街 物景
 暮白の男屋
 肉衣
 壺海
 広場の花屋祭 岩下 三四
 初

早春の庭 岩下 三四
 茶羽織像 小早川 篤四郎
 丁女 子
 古城早春
 青 江 藤 哲
 アトリエ
 岩 像
 座
 住之江の波船場 兵動 健吾
 海辺風景 葦名 芳夫
 漁村風景
 漁輪車 真木 宜武
 とものだち
 輛風景 和田 貢
 輛の家
 街と海
 山と海
 土壁のある家 林 林 男
 瀬戸の島
 街角
 私の人形 A 高橋 雅子
 私の人形 B
 鉢道のある静物 安原 綾子
 人形のある静物 長根 翠
 花と葉
 朝の庭
 机による静物
 卓上静物
 花
 静核 物
 三井 美尾子
 静核 島
 三 段 峡
 バタ陽(長崎) 先
 縁グーパー邸 浦娘
 輛のゴ娘
 長崎風景
 椿 スタンク 野 沢 寛
 ガ水 門
 アトリエの風景 西寺 鉄舟
 波切風 西 沢 栄一
 志摩の 斎 藤 久子
 庭の子 渡 辺 満
 風卓梅 胡 桃 沢 源人

美術展覧会(4月)

三炬工風風舞	の	秋花燵	胡渡原赤関	桃辺松口	沢浩孝二太	源浩孝二太	人三夫良郎
静春壁人人春	鶴の	朝前物娘	江星桃小早小	口篤耕利三	之耕利三	明助一子郎純	
習静富室田	物	A B 景作物	戸井兄高藤	川上子畠田	雅速満茂義	夫男志雄雄	
暮東長丹巖	雲手二の	富の春番の	安山	達田	良正	雄孝	
新中駟秋廻	沢	寺山	松渡	本部	曉文	周雄	
若街木浅鳥街	島	廊泉	上	田	素	由	
K港風県苔静	がえり	の	守朝福	井井	洞勝	春清重	
石下く残岸風	津	川	山美今岩山越	中知野館木智	政隆隆正旭	郎治二二仁輝	
静	境む	のす	吉山熊山能	本形岡	欽光ゆ	一寿み進幸	
	炭	山巖物山秋戸	園	本登	靖	晋	
	呂ぐ	雪壁(A) (B) 物	松	部	和	夫	
	景	景	松	永			

[illegible]

池田隆	岡本肇	尾崎弘己	三田清	奥村四郎	大和田利平	辻田久	柳永三郎	家津五郎	梅詰一郎	橋大幸俊治	大原本剛生門櫛	島嶋利右良悦	豊瀧斗健退三	大野村与之源之正源一智	秦稻村谷野岡谷岡野原藤留英一夫	稻中島佐松島松水井齋竹
-----	-----	------	-----	------	-------	-----	------	------	------	-------	---------	--------	--------	-------------	-----------------	-------------

山咲は壁阿松山瀬漁滯静焜静秋春室室室木ビ好早二構入早立座静川木雪春晩時黒雪農閑早漁鷄水ひ晩山緋首名繕	峡満に画麓戸ケ島船のがある炬物	のつるよ修春正(南方)の台	梅梅わり羅雪月明物所
--	-----------------	---------------	------------

多々	武々	山々	大々	近	福	板々	大々	熊々	西	松々	石々	菊	大	中	丸	矢	栗	錦	片	遠	上	原	井	秋	高	河	秋
田	永	崎	歳	藤	永	倉	木	岡	村	本	原	田	平	久	山	田	家	織	寄	藤	石	田	上	久	田	野	山
俊	横	修		喜		義		正	義	恵	梅	次	次	康	司	幸		保	茂	德	哲	博	文	多	肇	太	
彦	雄	二	曉	義	清	寛	茂	夫	人	行	男	郎	郎	夫	珖	一	功	久	悦	一	夫	介	哉	士	三	郎	進

美術展覽會(4月)

い	か	襖	秋	山	進
耶	馬	溪	清	原	武
耶	馬	秋	坂	田	憲
山			均	場	勇
港			シ		
頭	骸	骨	の		
物	前	焼	の		
備	吹	く	子	嶋	重
物	習	す	る	崎	視
笛					
練					
橋					
街					

33回国画会展 22—5月8 東京都
美術館

會員出品目錄

繪 画

勝造雄念巖吉助一一登一子平臣志裕司太	武愛重一房啓俊運貞好哲鉄忠幸章	垣田宮上谷森木塚松辺田山石田向部留	真々辻々宮曾村々大大々柏平国々渡々々野々字々立々和日々音々福々	水園村港緑塀像青図き原日王萃(碑)野壊丘と表林にげ物翔群聰(B)(A)	泉公新土のど高の仁(魚)座と生ら根根	の岳福氏薇ちの野底野	都マロ漁漁焼聖I踏薔み夏夕武海雪曠土砂へ花丘地原うく建飛鳥炎難樹樹
--------------------	-----------------	-------------------	---------------------------------	-------------------------------------	--------------------	------------	-----------------------------------

[illegible]

卓上サあ湿浚構解人燈開緑漁阿蘇作品阿蘇作品阿蘇作品裸ネ争磴「檸檬鉄鉄勳水は花花鬼と鬼室室作作魚魚平面無限否定か碣寥拓つく	する飾テ午地漑形使いたの地村	男花ン後帯船築体い台花園村	鈴中々福々木々松々土々喜島	木村井内田田多内	正敬一広平雄知み	二博
作サあ湿浚構解人燈開緑漁阿蘇作品阿蘇作品阿蘇作品裸ネ争磴「檸檬鉄鉄勳水は花花鬼と鬼室室作作魚魚平面無限否定か碣寥拓つく	蘇による(A)蘇による(C)蘇による(B)オ	婦ンう	田中道久長野静小尾井小三沢鎌高山須東橋岩	館善田上林邦橋野岩田健松健太崎田剋貞本尾	郎竜綱報健太郎子郎夫太美郎樹	
港町庭	大淵武夫遺作	の酒場			1927 1927	

美術展覧会(4月)

盛 夏 1927
空を配せる静物 1930
南 仏 の 港 1935
ノートルダム 1935
人 物 1935
セーヌの花火 1935
洗濯 船 1935
坂 道 1933
曇りの日の小坪 1949
窓辺の静物 1954
長崎の港 1956
神戸港 1956
浅間春雪 1958
泉のほとり 1956
静物(絶筆) 1958
西海国立公園 1958

版 画

静 物 川 上 澄 生
木 立 の 庭 橋 本 興 家
鳥 栗 山 茂
麦 秋 の 季 節
モンマルトルの
キリスト
ノートルダム・
ド・パリ
王女の棺
(ベルギー)
ハレムの少女
ハレムの少年
酔 歩 中 川 雄 太 郎
彫 像 下 沢 木 鉢 郎
佐渡立花海岸
長勝寺庫裡
離 山 口 源
再 顧 平 塚 運 一
池 袋 の 夕 雲
春 宵 三 日 月
蠢 動 品 川 工
息 吹 斎 藤 清
さくらんぼ
まんじゆしやげ
瀬戸の土山
断 層 畦 地 梅 太 郎
雪 風 の 中 人 林
登 の 人 林
風 ある 林
森 評 反 对
勤 い 天 幕
赤 エ 藝
山 吹 の 花

鴛 霞 苑 原 田 麻 那
撒 胡 珠 小 島 應 次 郎
納 曾 利 河 井 武 一
玄 鳥 三 代 沢 本 寿
玉 藻 文 岡 村 吉 右 衛 門
着物白地華文
藍染カーテン
角蓋物(鉄)A
角蓋物
染屏風
あいぬ諸道具
沖縄諸道具
日本諸道具
室内着 A
婦人肩掛 A
婦人肩掛 B
室内着 B
摺出鉢
三彩紋花瓶
型染裂文
芭蕉布部屋着
型染花鳥文芭蕉
布着物
型染竹葉文木綿
反物
練上げ食盒
カーテン用布
(A)
カーテン用布
(B)
カーテン用布
(C)
飾 布(赤)
飾 布(白)
飾 布(緑)
毛 布 A
緋 着 尺
紬 布 A
毛 布 B
緋 布 B
紬 布
緋 布
寫 真
撮 影
夜 モニュメント
○ ○
芒 離 宮(2)
桂 離 宮(1)
風 景
砂 A

砂 B
砂 C
裸 婦
と あ し
と あ し
紋
小顔
津金鶴仙氏
農家の主婦
遊 魚
ね だ
残 骨
起 源
珠 和 す
タ コ い ら ん
る い コ 反 す
タ コ 反 す
姉 妹
父 子
交 叉
枯 骨
十 字
み の 魚
秋 の 海
タ ワ ー
た か い
飛 天
あ き ら め

特別出品

廻 遊
ほ ね 魚
は だ か
残 骨
起 源
珠 和 す
タ コ い ら ん
る い コ 反 す
タ コ 反 す
姉 妹
父 子
交 叉
枯 骨
十 字
み の 魚
秋 の 海
タ ワ ー
た か い
飛 天
あ き ら め

36回春陽会展 22—5月8 東京都
美術館

主要出品目録

(絵 画)

門 婉 中 山 爾 郎
婉 中
構 中
構 中
構 成(B)
構 成(A)
クレヴァスの花
れ る 月
蝕 った 蝶
凍 像
群 像
屋 と 裸 婦
布 人
二 船
宮 城 音 蔵

船 魚 落種 海蜜 化楽 牧裸 奈良 霧庭 少女 おお お蒙 相相 向日 椿 バラ、 椿、 アマリ ジョリ 長崎 花三 赤ね きぼ おず きナ ラ サロ 白一 白塔 馬窓 枯窓 猫犬 魚静	馬 時 辺 り 石 園 神 婦 景 高 像 城 庭 古 撲(1) 撲(2) 葵 リンゴ 壺 マ ジョ リ 壺 夕暮 池門 おず (B) (A) (C) き ナ ラ の 梅 塔 塔 辺 舞 台 物 (A) (B) 実 四 郎	宮 城 音 蔵 畔 司 朗 川 晃 善 藤 三 郎 助 波 三 鶴 一 隆 政 郎 赴 子 助 永 三 郎 徳 三 郎 マ リ 実 四 郎	静 雪 節 四 断 へラ グレス (A) (B) 星 武 新 黒 花 (B) (A) (C) 馬 騎 陶 春 瀬 戸 の 歌 転 独 ひま わり C B A (版 画) 小 鳥 と 落 葉 静 物 (秋 草) 静 物 (玻 璃 球) 薔 薇 と 封 書 キ 悲 の 頭 或 る 日 果 実 の 受 胎 合 飲 木 の 花 聖 ドロ テ ア A 聖 ドロ テ ア C 聖 ドロ テ ア B 大 学 の 構 内 真 昼 の 漁 村 根 室 風 景 海 辺 の 流 木 昆 布 の 季 節 ハイ ティ ーン M 内 海 航 路 (昼) 章 内 海 航 路 (夜) ハイ ティ ーン W (絵 画) 郊 外	加 田 南 松 村 禎 夫 野 村 千 春 西 尾 節 子 田 中 寿 太 郎 中 谷 泰 小 泉 倫 之 助 上 原 欽 二 長 谷 川 潔 清 宮 實 文 駒 井 哲 郎 古 川 竜 生 北 岡 文 雄 前 田 藤 四 郎 高 橋 辰 雄	丘 花 島 な 岩 は は は 翅 梵 焼 華 樹 帆 風 花 カ テ ド ラ ル C カ テ ド ラ ル B カ テ ド ラ ル A 静 笛 を ふ く 少 女 鯛 虹 (滯 外 作 品) ス ペ イ ン 風 景 A B C D E モ レ ー の 路 地 七 面 鳥 を う る 闘 牛 終 わ る サン ク リ ス ト の 男 メ キ シ コ の 屋 根 闘 牛 村 (ブ ラ ッ セ ル 郊 外) 古 橋 (ト レ ズ) 本 寺 (ル ク セ ン ブ ル ク) 鉄 路 (コ ペ ン ハ ー ゲ ン) 人 物 習 作 B A ル ー ブ ル 宮 前 の 寺 院 セ ー ヌ 通 り の 建 物 モ ン マ ル ト ル 風 景 A	高 橋 辰 雄 藤 典 太 川 隅 路 之 助 吉 田 達 磨 原 田 武 夫 小 柳 秀 太 郎 角 南 松 生 川 上 尉 平 佐 藤 篤 郎 志 村 一 男 宮 田 武 彦 水 谷 清 倉 田 三 郎 田 辺 謙 輔
---	---	---	--	---	---	--

美術展覧会(4月)

モンマルトル風景B	田 辺 謙 輔	屋 根(1)	大 嶺 政 寛	野間 宏作
モンマルトルのカフェー	シ	墓 地	シ	「黄金の夜明け」河 野 国 夫
色 線 B	福 田 庸 一	晩秋風景(その1)	土 屋 義 郎	チャイコフスキー作バレエ
シ A	シ	シ (その3)	シ	「白鳥の湖」四幕 三 林 亮 太 郎
シ C	シ	シ (その2)	シ	三島由紀夫作
信州馬籠(1)	魚 津 良 吉	荊棘に囲れるキリスト	小 川 緑	「橋づくし」伊 藤 熹 作
シ (2)	シ	聖 な る 丘	シ	ミュージカル、衣裳デザイン
パイナップル	シ	天 主 堂	シ	「風神」吉 田 謙 吉
風景(A)	石 井 光 楓	穂 高 岳	関 四 郎 五 郎	「雷神」シ
シ (B)	シ	霞 沢 岳	シ	泉 鏡花作 久保田万太郎改訂
シ (C)	シ	焼 岳	シ	演出
エリカの花	岩 崎 又 二 郎	冬 山	查 掛 利 通	恋女房より「井筒屋お柳」
割 木 と 貝	シ	丘	シ	織 田 音 也
石 (B)	佐 藤 昌 胤	独 鋸 山 初 秋	シ	川口松太郎作 程島武夫演出
シ (A)	シ	人 物	加 賀 孝 一 郎	「深川の鈴」シ
青の子供たち	宮 脇 晴	馬 と 人	シ	セーヌの本屋
信号所風景	岩 田 栄 之 助	馬	シ	ルクサンブルグの黄昏
ヨ ッ ト	シ	鉄 屑 と 海	上 野 春 香	花 柳 章 太 郎
菖 蒲	シ	工 場 と 鉄 屑	シ	ミラノの鳥屋・果物屋
東京駅前広場	高 田 力 蔵	そ よ ぐ	大 嶺 政 敏	メリーゴーランド
半蔵門より	伊 川 鷹 治	望 郷	シ	ブルージュの橋
梅花と柑の木	シ	守 札 の 国	シ	チャイコフスキー作曲
窓	シ	習 作 A	アントニン・レーモンド	「白鳥の湖」三 林 亮 太 郎
雨の長崎(早春)	シ	(水彩素描)		2回日本画展 (橋本豊治、長谷部日
穂 草	原 田 平 治 郎	群 像	福 田 庸 一	出男、藤井達也) 23—28 銀座
山 仙 花	シ	エ チ ュ ー ド	シ	画廊
船上B	豊 泉 恵 三	作 品 2	三 雲 祥 之 助	滝川美一作品展 (彫塑) 24—30
黒 潮	シ	シ 1	シ	日比谷画廊
船上A	シ	シ 3	シ	ベラ・ストラビンスキー 個展 (主
フローラ	伊 藤 慶 之 助	カテドラル A	角 南 松 生	催- 産経新聞社) 24—29 銀座・
フレダ	シ	シ B	シ	松屋
羚羊と女	加 藤 秀 夫	シ C	宮 城 音 蔵	かおすグループ展 (第3回展) 24
聖 堂 A	シ	船	シ	—29 銀座・松坂屋
シ B	森 川 鉄	シ	シ	造景美術紫山流展 (主催- 造景美
枯 葉 態	シ	シ	シ	術紫山会、後援- 読売新聞社) 24
白 い 日	シ	中国服の像	宮 脇 晴	—29 銀座・松屋
人	シ	習 作 B	アントニン・レーモンド	6回新作陶藝展 24—29 銀座・松
夏の仙石原	鬼 塚 金 華	シ C	シ	屋
早春の櫟林	シ	作 品(A)	今 竹 七 郎	石倉喜美男個展 27—5月3 銀座・
奈良風景	シ	シ (B)	シ	サトウ画廊
海 辺(2)	井 上 重 生	赤 人 霊 歌	川 島 昇 太 郎	5回 神谷信子個展 27—5月2 養
白 い 花	シ	キ ャ ン プ	シ	清堂画廊
海 辺(1)	シ	(舞台美術)		北斗会小品展 27—5月2 いづみ
那岐にて	田 川 勤 次	野上 彰作	吉 田 謙 吉	ぎやらりい
賀 露 の 海	シ	「鴉」		3回 林鹿会展 (関尚美堂- 主催)
屋 根(2)	大 嶺 政 寛			27—5月2 壺中居 福田平八郎

- 5回 青桐会日本画展 28—5月3
渋谷・東横
- 3回 創玄会展 28—5月3 日本橋・
高島屋
- 14回 日本美術院春季展 28—5月3
日本橋・三越
- 青グループ工芸展 (市橋 敏雄、平
松保城、佐竹伊助、中野政樹、風
里谷彰、伊藤隆一) 28—5月3
日本橋・白木屋
- 加藤昭男テラコッタ展 28—5月3
兜屋画廊
- 1回 内田克巳個展 28—5月3 村
松画廊
- 5回 秋保正三、斎藤慶、三浦逞彌 3
人展 28—5月3 村松画廊
- 3回 グループエイト展 (グラフィッ
クアート) 28—5月3 村松画
廊
- 4回 福田翠光 個展 28—5月5 日
本橋・三越
- 大淵武夫遺作展 29—5月5 大阪・
北浜ギャラリー

5 月

- 渡辺恂三旧作展 1—15 風月堂
- 宮本三郎素描展 (松屋 画廊 スケッ
チ展シリーズ第26輯) 1—10 銀
座・松屋
- 3回 土曜会展 1—14 京橋・中央
公論社画廊
- 片柳忠男花の幻想展 1—6 銀座・
松坂屋
- 行動美術関西展 2—12 大阪市立
美術館
- 11回京展 3—17 京都市美術館
- 鈴木健三個展 4—8 村松画廊
- 1回 望月鏡一個展 4—8 村松画廊
- 大谷久子個展 4—9 銀座・サエグ
サ画廊
- 2回 河尻隆次個展 4—9 樺画廊
- 河野薫版画展 4—9 養清堂
- 小久保彰個展 4—8 村松画廊
- 高田正二郎滞米欧作品展 4—7 日
本橋・丸善画廊
- 田名網敬一展 (メタリックアート
による光の造形野外のための感触
絵画) 4—10 銀座・サトウ画廊
- 上野泰郎個展 5—10 兜屋画廊

- 武田範芳個展 5—10 小松名店街
ギャラリー
- 女性文化発達史料展 (近代女性の
あゆみ)(主催実践女子学園) 5—
10 渋谷・東横
- 青木大乗日本画展 5—10 日本橋・
高島屋
- 二紀会選抜展 5—10 池袋・三越
- 6回 墨人展 5—10 銀座画廊
- 彩交会展 5—10 日本橋・三越
- 日本美術協会展 5—10 日本橋・
三越
- 新しいカレンダー資料展 6—13
大日本印刷銀座 サービスステ
ーション
- 富岡惣一郎個展 7—14 銀座・な
びす画廊
- 一回 朴土社展 7—11 京都府ギヤ
ラリー
- 土方久功彫刻個展 8—12 日本橋・
丸善画廊
- リチャード・V・ステータ個展 8
—13 銀座・松屋
- 大野・弦田・柚木3人展 9—13
村松画廊
- 堆朱と鎌彫展 9—31 鎌倉国宝館
- 渡辺恂三新作展 9 村松画廊
- 伊藤昭二個展 9—13 村松画廊
- 5回 日本国際美術展 (主催—毎日
新聞社) 9—6月3 東京都美術
館

出品目録

オーストリア

- ひまわりの花 ウエルナー・ベ
ルク
- 射的小屋 シ
- 割れた猪の頭 シ
- にわとり シ
- 青いピンのある
静物 マックス・ワイ
ラー
- 青い背景のフォ
ルム シ
- 頭のある静物 シ
- 天然褐色と赤 シ
- 塔 建築物 カール・アント
ン・ウォルフ
- 桃色の家 シ
- 父と子と聖霊 シ
- 肖像 シ

- 二つの輪のコン
ポジション ウォルフ・ガン
グ・ホレガー
- シ
- シ
- 形 シ

ベルギー

- 寄り添い ヤン・ピュルサ
ンス
- 双生児 シ
- 形 象 シ
- 火打ち石 アントワヌ・モ
ルチエ
- タンス シ
- 黄と青 シ
- 逆説 シ
- 支配的な黒 シ
- 破壊された町 シ
- スリオン岬 シ
- 野菜 シ
- 化石の森 シ

ブラジル

- 対立するムーブ
マン ヨランダ・モハ
リ
- コンポジション シ
- 変動する主題 シ
- 茶のコンポジ
ション シ
- 光のコンポジ
ション シ
- 空間のフォルム シ
- 赤と青のコンポ
ジション シ
- 作品 No. 1 マナブ・マベ
- 作品 No. 2 シ
- 作品 No. 3 シ
- 作品 No. 1 アルフレッド・
ボルビ
- 作品 No. 2 シ
- 作品 No. 3 シ
- 作品 No. 4 シ
- 作品 No. 5 シ

イギリス

- 犠 牲 アラン・ディ
ビィ
- 白のコンポジ
ション No. 1 アドリアン・
ヒース
- シ No. 2 シ
- 黄色のコンポジ
ション シ
- 海の風 ビーター・ラン
ヨン
- ふくろろ シ

美術展覧会(5月)

セント・アイブス湾	ピーター・ランヨン	精油所 A	M・カルズー	コンポジション	ビレンデ
黒と白の抽象構成(レリーフ)	ビクター・パスモア	池のほとりの精油所	シ	男と機械	M・サマント
白と黒とオークルの透明構造(レリーフ)	シ	精油所 B	シ	声	M・F・フセイン
黒と白とオークルの抽象構成(レリーフ)	シ	15	D	ダンス	シ
黒と白とオークルの抽象	シ	16	D	作品 No. 1	V・Sガイトン
直接のモチーフ(黒と白の抽象)	シ	17	D	作品 No. 2	シ
多価構造(黄)	フランク・アブレイ・ウィルソン	子供と病める子羊	ポール・ルベイ	イタリア	ジュゼッペ・アイモーネ
軌道に入る(濃灰緑)	シ	ジュウタンの静物	ロール	カステイアの嵐	ジュゼッペ・アイモーネ
活性剤(緑)	シ	戦士	アントニ・クラヴェ	ジェンナの谷	コルラード・カリ
フ ラ ン ス	シ	魚と静物	シ	ソロモン	シ
コムポジション	セルジュ・ボリアコフ	寺院	シ	安楽椅子の女	ドメニコ・カンタートレ
シ	シ	ガラスと静物	シ	静物	シ
シ	シ	下草	シ	アバメレチ別荘の公園	リカルド・フランシランチャ
紅茶沸しの静物(モザイク)	バプロ・ピカソ	作品	レオン・ザック	ビエイオへのサクラ谷	シ
バラ色のアヤメ	アンドレ・ボードダン	輝く緑	ダニエル・ラヴェル	コンポジション 1	ルイジ・モンタナリーニ
馬の誕生	シ	黒い人 No. 5	シ	コンポジション 2	シ
捕虜のスケッチ	シ	黄と緑の一致	シ	キリストのある画室	ジョバンニ・オミッチオリ
深淵	アンドレ・マッソン	西 ド イ ツ	フーベルト・ベルケ	静物	ファウスト・ピランデルロ
祭り	シ	黄色の上に眺め	シ	連続のモチーフ	シ
鷲の夜	シ	堤防の風景	オットー・エグラウ	休憩する少女たち	ドメニコ・プリフィカート
チューリップ	ベルナール・ビュッフェ	潮の風景	シ	犬	シ
若者にかに	シ	赤い野原で青い円	ルップレヒト・ガイガー	風景と太陽	ブルーノ・サエッティ
枝の日曜日	リュシアン・クトー	赤の上の網目	シ	黒の形態	セルジオ・パキ
海の窓	ギュスターヴ・サンジュ	ゴミの山	シ	メキシコ	シ
作品 T	ハンス・アルツング	蟹取り漁夫	マックス・カウス	エダの肖像	ギエルモ・メサ
作品 T	シ	トスカナの町	シ	母情	マヌエル・ロドリゲス・ロサノ
J O の農場	エドアル・ピニオン	暗い道	エミール・シューマッハー	重苦	ルイス・ニシザワ
枯れたオリーブ農園	シ	ゼラ	シ	ガリマティアス	ファン・ソリアノ
母性	シ	黒と黄の上のひろがり	フレート・ティーラー	埋葬	ラウール・アンギアノ
鳥と海の月	アンドレ・マルシャン	リズムカルな回転	シ	浜辺の遊戯	フェルナンド・カストロ・パチエコ
夜(地中海)	シ	インド	クリシェン・カンナ	ユニコンと乙女	フェデリコ・カンツ
海と鳥	シ	犬を連れた家族	ラム・クマール	暗闇のヒーロー	コルデア・ウルエッタ
作品	シ	廃墟風景	シ	腹話術者	フランシスコ・イカサ
	ピエール・スーラージュ	メロディー	ディンカル・コーシク	創世	ネフェオロ
		線	シ	訪問者	レメディオス・バモロ
		序曲	ビレンデ		

新聞スタンド
忘れられた鯨山
モノポテオシス
海 辺 の 男
スペイン
作 品 A アン ト ニ オ ・ ロ
シ B ド リ ゲ ス ・ ル
シ C ナ
作 品 A オ ル ガ ・ コ ス タ
シ B レ オ ノ ー ラ ・
シ C カ ー リ ン グ
作 品 A カ ル ロ ス ・ オ ロ
シ B ス コ ・ ロ メ ロ
作 品 A アン ト ニ オ ・
シ B ラ ー ゴ
シ C
作 品 A マ ノ ー ロ ・ ミ リ
シ B ヤ ー レ ス
シ C
作 品 A アン ト ニ オ ・ ス
シ B ワ レ ス
シ C
ム ニ ッ ヒ
RAVENA の
思い出
カ ダ ケ ス
作 品 A ビ セ ン テ ・ ペ ラ
シ B
シ C
ス イ ス
中 心 的
ノ パ
作 品 8
コンポジション
No.85
夜 景
金色の線スペク
トル
明色の空間置換
現代的アクセント
をもつ三つの
果進的色彩群
棒 の 凝 集
モジュールの水
平・垂直変化
空間的コンポジ
ション
遠心的コンポジ
ション

解放の貴婦人
二つのグループ
級 数 4×2
アメリカ
変 奏 曲
作 品 No.9
婦 人 座 像
西 部 の 夢
オルベテロ
ナッツズ族の遺
跡
冬 の 断 崖
男 と 猫
無 題
移 住
開拓地の酒場
草 上
湖 地 帯 5
朽葉色のあひる
イタリー風景
ソビエト
火 の 粉
交 替 時
ソ連人民彫刻家
レシェフの肖像
タリンの風景
開拓地の恋人た
ち
アラガッツ山岳
の果実
新 し い 建 設
学 生 達
白とバラ色のラ
イラック
夏
コルホーズ発電
所の灯

シャルル・ロリ
エ
エルンスト・シ
ャイデッカー
マルセル・ウィ
ス
ノーマン・ブ
ルーム
ナソス・ダフニ
ス
エンリコ・ドナ
ティー
ヘレン・フラン
ケンサラー
レオン・ゴルダ
ン
ポール・ジェン
キンス
カール・モリス
ナーサン・オリ
ベイラ
ウォールター・
プレート
ロバート・ロー
シェンバーグ
ミルトン・レス
ニック
ミリアム・シャ
ピロ
ハイデ・ソロモ
ン
ブライアン・ウ
イルソン
マヌーチャー・
イエクタイ
コンスタンチン・
フィノゲノフ
エフゲニー・サ
ムソノフ
ビクトール・オ
レシニコフ
レッボ・ミッコ
ドミトリー・モ
チャリスキー
マルチロス・サ
リヤン
ユーリ・ピメノ
フ
セルゲイ・シリ
ニコフ
ビエートル・コ
ンチャロフス
キー
アレクサンド
ル・ブズノフ
ユーリ・ポドリ
ヤスキー

暖 かな 或 日
クバンのコル
ホーズ員
ロストフ・ヤロ
スラフスキー
ゴリキーの古像
郊 外 の 冬
海 辺
河のある風景
レーニングラ
ドの夏の庭
ソフホーズの朝
ユーゴスラビア
島 の タ ぐ れ
島
コンポジション
テ ー ブ ル
娘
ブルーの道化役
者
バラ色の道化役
者
ア ト リ エ
魚
静 物
夜 と 日
第三の意見
黒 い 魚
サン・ジョル
ジュ
家 族
日 本
洋 画
皿 山
か ら く り
紅 葉 水 車
東 家 族
作 品
水 害 の
運河と貨物駅
樟 若 葉
島 々
静 物
人 び と
海 と 牡 牛
壁 画

アナトリー・レ
ピンチン
ワシリー・ネチ
タイロ
ウラジミール・
ストジャロフ
ワシリー・エフ
ァノフ
ポリス・ドマシ
ニコフ
エドアルド・カ
ルスイシ
イラール・タン
スイフベフ
アレクセイ・グ
リツアイ
セミエン・チュ
イコフ
ヤネス・ベルニ
ック
シ
シ
シ
シ
アントン・モチ
カ
シ
シ
シ
ムラデン・スル
ビノビツ
シ
シ
シ
シ
青 柳 暢 夫
赤 穴 宏
朝 井 閑 右 衛 門
朝 妻 治 郎
麻 生 三 郎
阿 部 展 也
有 岡 一 郎
石 川 滋 彦
井 手 宣 通
伊 藤 継 郎
伊 藤 廉
糸 國 和 三 郎
井 上 三 綱
井 上 長 三 郎

美術展覧会(5月)

[illegible]

初母翔白高鳥白か蒼杉加岩土林樹岩羽白敦霧	子原のいるば日風の	夏像雉春海鳥ん輪景月堀礁化林煌	伊岩岩上奥片加龜加川琴小酒沢杉西稗東福堀丸丸水望山山横横吉	東崎橋村村岡納井山本塚松井宏山田山田豐文木木越月崎田深山岡	深巴英松厚球樂兵又末英亜宏英一魁四子位俊松春申林堅	水人遠筆一子輝衛造雄一均人靱寧雄穗夷郎子里子南江豐吾人操二	憩う踊子 坐った裸 シネ・コン の城 立 態 像 ト ル ソ 婦人座像石膏 金色の女 作品 40 鬼 山 子 陶 案 裸 婦 石膏 白いトルソ 娘 海に立つ弟木彫 裸 橋比亮 有機体・3 これ我かまた 図第11部) 昏花 間景峰 び た つ 版 画 土地の管理 人 渴 き リラフ 泉 茂 生 英 雄 郎 清 工 三 明 郎 志 子 三	久三弘男清雄克岬太郎雄吉治恒良広示造堂業雄実武和新乡孝吉達夫一市彦	直庄忠季顕一内賢太順嘉恒忠政多嘉晋隆常田越保正郷外次郎良義壮常雅	村本野置藤池内村久保倉田野藤田清水建 辻 長 西 新 堀 本 松 向 柳 山 山 山	寄りかかる 像 寄りかかる 像 盾をもつ戦 士 座 像 倒れた戦士 背景のある 座像 小 女 デッサン A寄りかかる 像 B 人体の変形 人体の変 形・習作 彫刻のアイ デア A (動物) B 人体の変 形 寄りかかる 像 彫刻のアイ デア A B C 寄りかかる 像 (彫像のためデ ッサン) A寄りかかる 像と頭 B座 像 人体習作 A動物の頭 B 寄りかかる 像 (彫刻のためデ ッサン) 二人の座像 ユネスコ A彫刻の デッサン B C ユネスコ D彫刻のデ ッサン	No. 2 ブロンズ 1953 No. 4 1953-4 1956 1956-7 1958 1 2 1932 1932 1933 1932 水彩・ペン チョーク 1933 鉛筆・チョ ーク 1939 鉛筆・チョ ーク・水彩 1 2 3 インク・水 彩 鉛筆・チョ ーク・イン 1940 鉛筆・水彩 1948 鉛筆・水 彩・チョ ーク 1950 鉛筆・水 彩・イン ク 1954 鉛筆・イン ク 1956 1457 鉛筆 鉛筆 鉛筆 鉛筆
----------------------	-----------	-----------------	-------------------------------	-------------------------------	---------------------------	-------------------------------	--	-----------------------------------	----------------------------------	--	---	--

美術展覧会(5月)

寄りかか る像2 (彫刻のためデ ッサン)	A	石版画に 水彩	1958
B	1	鉛筆・ 水彩	
寄りかか る像(黒と白)	A	鉛筆・ 水彩	2
B	1	クレ ン・ 水彩	
寄りかか る像(黒)	A	鉛筆・ 水彩	1
B	2	鉛筆・ 水彩	
特陳『現代アメリカの版画』			
ベギーの入 江	木版	アービング・ エーメン	
猫	石版	ウィル・バー ネット	
闘牛士	インタ リオ	ディビット・E・ ベルナード	
明るい棧橋	セリグ ラフ	ドロシ・ボウ マン	
薄暮No. 1	シ	ハワード・ブ ラッドフォード	
シ No. 2	シ	シ	
サーカス	インタ リオ	レテリオ・カラ バイ	
恐怖の瞬間	シ	エドモンド・カ ザレラ	
黄色い岩	紙版	シ	
落ちる雄鶏	インタ リオ	リー・チェス ニー	
一番街	石版	ラルストン・ク ロフォード	
海	セリグ ラフ	ノーシェ・クラ イスト	
深海の幻想	シ	マリオ・ド・ フェランテ	
ボート	木版	エドワード・デ イッカーソン	
海景	シ	シ	
西部の番人	シ	ワナー・ド ルーズ	
魔女の猫	モノタ イブ	フリッツ・アイ ケンバーク	
十字架の道	石版	アーネスト・フ リード	
動きの精	木版	トム・S・フリ カノ	
カチナ	インタ リオ	エミール・ギル	
市場	セリグ ラフ	ミリアム・ハ ワース	
私の窓から	銅版	セシル・ホルシ ンガー	
紅い大草原	木版	ビリー・M・ ジャクソン	

サラセンの 橋	木版	イネス・ジョン ストン	
バルコニー の子供	石版	マックス・カー ン	
舟と魚	シ	シ	
家族	木版	ヒルダ・カッツ ミッシュ・コー ン	
登山者	シ	シ	
伴を連れた 訪問者	シ	シ	
バリーの地 下鉄	木版	アーミン・ラン デック	
狭い街路	銅版	シ	
射手座	石版	モリシオ・ラン サスキー	
朝の光景	セリグ ラフ	シスター・メ リー・コリタ	
デ・ド・ボ ン街	石版	ドナルド・R・ マテソン	
市場	シ	ワンダ・ミラー・ マシュース	
獲物	木版	ユージン・メン カルスキ	
沼沢の旋律	セリグ ラフ	ディーン・ミー カー	
逃げる愛人	木版	シオン・モイ ジョン・メンク	
追想	石版	ロウエル・ブレ アー・ネスピッ ト	
葡萄樹	銅版	ジョージ・オ コーネル	
三人の少年 達	木版	ガボ・ペテル ディ	
暗い地平線	銅版	シ	
蜘蛛の巣	シ	レオナ・ピアス シ	
玉弾き	木版	シ	
縄飛び	シ	ルディ・O・ボ ザツティ	
かりそめの 威厳	石版	チャールス・ケ スト	
風景	木版	マニー・ライ ンハート	
屋根の猫	シ	リタ・ロカ ルイス・シャン カー	
行列	シ	カール・シュラ グ	
飛ぶ鳥	シ	ドリリス・セイド ラー	
雨後の陽光	銅版	ベントン・スプ リアンス	
五点形	木版	シ	
聖者と怪物	石版	ジェームス・ル イス・ステグ デイク・スウ イフト	
悲しみ	石版	シ	
聖アンネ街	木版	シ	
祖先の崇敬	石版	シ	

接合	木版	クレイ・ウォー カー	
聖フランシ ス	石版	エミール・ウ エッディッジ	
トライトン	シ	シ	
現代の証人	シ	ハワード・J・ヤ ング	
西尾一三個展	10—15	樺画廊	
19回日本画院展	10—23	東京都美 術館	
9回新興美術院展	10—23	東京都 美術館	
中山正リトグラフ展	11—16	養清 堂画廊	
4回デッサン淡彩画展	11—16	銀座・サエグサ画廊	
藤浦康子個展	11—17	いづみぎや らりい	
アタック展	11—17	銀座・サトウ 画廊	
津高和一個展	11—23	南画廊	
黄芽会展(独立女流)	11—13	銀座・松屋	
児玉三鈴・早坂土鈴日本画2人展	11—16	造形画廊	
美の美展(主催・日本経済新聞社)	12—24	日本橋・三越	
春季独立展	12—17	日本橋・高島 屋	
平田郷陽人形新作展	12—17	日本 橋・三越	
4回宮坂房衛彫金展	12—16	壺中 居	
1回国土社展	12—17	池袋・三越	
矢野知道人個展	12—17	日本橋・ 三越	
石原宏策モノクローム個展	12—16	銀座・フォルム画廊	
サロン・ド・サテリット	12—17	兜屋画廊	
世界の中の抽象	イタリア・日本美 術展	12—17 日本橋・白木屋	
美術文化関西グループ展	12—25	大阪・千日デパート	
光と裸の島展(南太平洋学術調査)	(主催・読売新聞社・大阪市立自然 科学博物館)	12—17 上野・松 坂屋	
4回洗々会日本画展	12—17	上 野・松坂屋	

世界のガラス工芸展(エジプトから現代まで) 12—17 渋谷・東横
片岡哲個展 12—17 小松名店街
ギャラリー
岩田藤七新作硝子器展 12—17 日本橋・高島屋
水谷清外遊作品展 12—17 日本橋・高島屋
渡辺章人個人展 14—18 村松画廊
田崎紀・武田広男2人展 14—18 村松画廊
新世紀美術協会展 14—20 大阪市立美術館
春鷗会日本画展 15—20 銀座・松坂屋
高雄自治(彫)・田沢茂(洋)・高木雅章(洋)・服部和益(洋)展 15—19 村松画廊
林唯一油絵個展 15—20 銀座・松屋
3 回恵下会展(青邨門下展) 銀座・松屋
5 回グループ・ネオ・エスバース展 16—21 榎画廊
牛秋健治添版画作品展 16—31 新宿・風月堂
相良秋男漫画展 17—21 美松書房画廊
3 回青々会油絵展 17—22 銀座画廊
12 回東陶会展 17—24 東京都美術館
角谷光生個展 18—23 養清堂画廊
鎌田正蔵個展 18—24 銀座・サトウ画廊
41 回現代版画展銅版4人展(布施梯次郎・深水正策・織田繁・秋山いわお) 18—24 渡辺木版画店画廊
辛島一誓個展 18—23 日本橋・丸善画廊
荻野康児個展 18—24 いづみ・きやりい
10 回彩尚会展 19—23 壺中居
1 回緑樹会日本画展 19—24 渋谷・東横
宗阿弥個展(プランシェ青年作家選抜シリーズ展) 19—25 新宿・プランシェ画廊

4 回横田峰斉竹藝個展 19—24 日本橋・高島屋
2 回中島清之日本画展 19—24 日本橋・三越
瀬戸作陶会展 19—24 日本橋・白木屋
1 回堀江万寿男個展 19—23 村松画廊
遠藤啄郎・冬將軍による作品展 19—23 村松画廊
群青会日本画展 19—23 東洋美術館
足立源一郎山の油画新作展 20—24 日動画廊
カレル・アベル個展 20—6月3 現代画廊
鄭月波個展(主催・中華民国留日華僑連合会・東京華僑総会) 21—24 日本橋・高島屋
1 回草原会展 22—27 銀座・松屋
福田平八郎自選展 22—6月3 銀座・松屋
1 回境展 22—27 榎画廊
東光会全国展 22—29 大阪市立美術館
モダン・アート展 22—31 京都市美術館
光風会展 22—6月1 京都市美術館
現代日本の陶藝 23—7月12 国立近代美術館

出品目録

日展

白磁大花瓶 板谷波山 1916
天目釉鶴首花瓶 シ 1935
青磁鳳耳花瓶 シ 1950
彩磁桔梗文水指 シ 1953
彩磁紫陽花文花瓶 シ 1958
青磁花瓶 清水六和 1942
赤地金襴手大深鉢 河村靖山 1930
無地壺 楠部弥弼 1954
秋草文化瓶 清水六兵衛 1954
色絵愛獣譜大皿 北出塔次郎 1957
黒釉象嵌泰山木文化瓶 宮之原謙 1955
花器「家」 安原喜明 1953
白地黒象嵌魚文壺 河村喜太郎 1957

濃彩枝文大皿 河合栄之助 1953
白磁豆葉文壺 叶光夫 1956
青白釉からたち文壺 浅見隆三 1956
黒象嵌落仏象文花瓶 滝一夫 1946
丸紋大皿 井上良齊 1958
白地香蒲文花瓶 伊東陶山 1958
彩釉象嵌文壺 伊東翠壺 1951
白瓷花瓶 井上治男 1956
塩釉長角線文化瓶 森野嘉光 1956
織部印花文水盤 加藤青山 1942
蝶文深鉢 鈴木青々 1953
彩磁躍動文壺 中村翠恒 1958
彩釉花瓶 土肥刀泉 1957
黒釉落蝶文壺 内田邦夫 1955
青釉からたち文花瓶 新開寛山 1953
青釉花瓶 堀岡道仙 1952
金彩菱文白磁花瓶 勝尾青龍洞 1957
白地萌春文壺 加藤滝川 1955
海草文花瓶 大江文象 1950
抱擁壺 山本正年 1954
線彫文花瓶 城戸夏男 1958
野草文壺 久保駒太郎 1956
貼付線文壺 古賀大眉 1955
染付樹林文花瓶 松風栄一 1958
暗緑釉鶏文壺 大樋年郎 1957
オブジェ 清水洋 1955

新匠会

金銀彩羊歯文共蓋飾壺 富本憲吉 1958
色絵金銀彩八角飾呂 シ 1955
染付蓋物 シ 1941
染付皿(5枚) シ 1933
白磁三組鉢 シ 1936
染付柘榴文壺 近藤悠三 1957
鉄絵緑彩壺 鈴木清 1958
白い壺 山田喆 1958
淡青釉刻線文壺 福田力三郎 1958
釉彩線文壺 徳力孫三郎 1958

日本工芸会

黒釉褐斑鳥文鉢 石黒宗磨 1958
斑唐津壺 シ 1956
黒刷毛赤土皿(5枚) シ 1955
志野水指 荒川豊蔵 1958
志野きぬた形花生 シ 1958

美術展覧会(5月)

瀬戸黒花生	荒川豊蔵	1958	緑釉壺	木村盛康	1959	失透釉格子文角皿	浜田庄司	1958
黄瀬戸花生	〃	1958	色絵蝶文皿	辻 輝子	1953	掛分釉壺	〃	1958
備前水指	金重陶陽	1958	色絵梅花文皿(5枚)	畚 伊之助	1958	瑠璃塩釉花瓶	〃	1958
萌黄金欄手蓋物	加藤土師萌	1958	染付鶯文皿(5枚)	鷹渠豊治	1952	黄釉楕円鉢	船木道忠	1958
青白磁鉢	〃	1958	黒釉花瓶	大森照成	1956	黒釉絵鉢(鹿絵)	船木研二	1953
黄瀬戸蒲莖文鉢	加藤唐九郎	1957	大平鉢	〃	1955	鉄釉花形楕円皿	河井武一	1958
青織部縄文壺	加藤嶺男	1956	鹿絵皿	バーナードリーチ	1926	呉須無地台鉢	河井博次	1959
碧釉壺	宇野三吾	1956	鉄絵山水絵タイル	〃	1952	黒刷毛壺	喜多村作太郎	1958
青磁筒花生	宇野宗堯	1959	黒釉搔落文壺	〃	1956	黄釉彫絵皿	佐久門藤太郎	1957
色絵草花文蓋物	酒井田柿右衛門	1957	黒釉箱形花生	アントニンレイモンド	1957	象嵌鉢	島岡達三	1958
色鍋島牡丹文八角大皿	今泉今右衛門	1957	花	〃	1959	前衛派		
祥瑞刻線文共蓋壺	川瀬竹春	1954	織部花器	イサム・ノグチ	1951	歩行	八木一夫	1957
萩焼水指	三輪休雪	1958	夫婦	〃	1951	雙頭壺	鈴木治	1951
唐津水指	中里太郎右衛門	1958	織部魚文小合鉢	J. B. ブランク	1953	凝固する炎	熊倉順吉	1956
備前火櫛水指	藤原啓	1958	黒象嵌文大鉢	チャクリンパーンスティン	1959	作品	山田光	1958
黒釉渦卷文大皿	辻 晋六	1959	茶碗			もだえ	藤本能道	1956
柿釉壺	清水卯一	1959	黒楽茶碗	楽吉左衛門	1958	オブジェ像	辻 弘徳	1955
雲花焼花生	浅尾玄雲	1959	千点文茶碗	石黒宗麿	1938	参考陳列		
九谷色絵山水図盤	徳田八十吉	1955	木の葉天目茶碗	〃	1937	縄文土器	縄文時代	
備前焼花生	山本陶秋	1959	志野茶碗	荒川豊蔵	1957	弥生土器	弥生時代	
練上手鉢	日向良広	1959	萩焼茶碗	坂倉新兵衛	1958	土師器	古墳時代	
練土手鉢	木村一郎	1958	瀬戸黒茶碗	加藤唐九郎	1952	須恵器長頸壺	古墳時代	
油滴天目大皿	木村盛和	1959	餡釉茶碗	大樋長左衛門	1958	緑釉手付瓶	平安時代	
備前大徳利	藤原雄	1958	茶碗「一声」	川喜田半泥子	1953	自然釉壺	平安時代	
萩焼皿セット	三輪節夫	1957	茶碗「赤不動」	〃	1953	常滑壺	平安時代	
油滴天目大鉢	加藤幸兵衛	1959	黒楽光悦写茶碗	山田惣吾	1958	古瀬戸瓶子	鎌倉時代	
無所属			楽白黒片身替茶碗	日根野作三	1943	古信楽壺	室町時代	
志野蘆絵中皿	北大路魯山人	1949	瀬戸黒茶碗	中村研一	1953	黄瀬戸香炉	桃山時代	
色絵筋文皿	〃	1950	黒釉茶碗	上口愚朗	1957	瀬戸黒茶碗	桃山時代	
信楽大鉢鉢	〃	1951	赤楽茶碗	杉浦保嘉	1957	黒楽茶碗銘「くちこは」楽長次郎	桃山時代	
雲錦手大鉢	〃	1952	志野茶碗	岡部 敢	1953	織部手鉢	桃山時代	
織部長方形平鉢	〃	1957	民藝派			志野四方大平鉢	桃山時代	
鉄絵蟹文皿	〃	1959	鉄・辰砂文丸壺	河井寛次郎	1553	鼠志野角平鉢	桃山時代	
赤地金欄手桐竹文手桶形水指	永楽善五郎	1957	青磁盛上文喜之字鉢	〃	1936	古備前火櫛大皿	桃山時代	
金欄手遊環耳花瓶	和田桐山	1943	呉須地辰砂文大鉢	〃	1940	古伊賀水指	桃山時代	
雲花焼花壺	八木一艸	1959	鉄・辰砂文扁壺	〃	1942	薩摩水指	桃山時代	
椿葉文鉢	河井卯之助	1923	花手角鉢	〃	1951	絵唐津大皿	桃山時代	
雲花焼火入	山崎宗元	1956	餡釉白十字文大皿	浜田庄司	1955	上野足付中皿	江戸初期	
イチチン文壺	中島清	1959	塩釉流掛鉢	〃	1957	肥前染付草花文花瓶	江戸初期	
飾皿 渚のリズム(おけさ調)	三浦小平	1957				肥前染付椿絵花瓶	江戸初期	
鶏頭文鶴首花瓶	河合修二	1957				草花文壺	酒井田柿右衛門	江戸初期
白がけ鉢	坪島土平	1954				双鳳松竹梅文鉢	〃	江戸初期
鉄絵楕円皿	田村耕一	1955						

色絵牡丹水指 野々村 江戸初期
 古九谷牡丹獅子 江戸初期
 絵銚子 江戸初期
 緑地梅文向附 尾形乾山 江戸中期
 色鍋島桜絵中皿 江戸中期
 古伊万里桜に婦 江戸中期
 女絵鉢 江戸中期
 呉須赤絵 写膳 奥田頼川 江戸後期
 色絵百仙人図鉢 青木木米 江戸後期
 辰砂釉花瓶 竹本準太 明治時代
 青華玉蜀黍図花瓶 加藤友太郎 明治時代
 色絵かんどろ図 井上良斎 明治時代
 蓋付壺 明治時代
 金赤絵山水唐草 浅井一毫 明治時代
 花瓶 明治時代
 旭彩山桜図花瓶 清風与平 明治時代
 青磁鳳雲浮彫文 諏訪嶺山 明治時代
 様花瓶 明治時代
 鳳凰置物 沼田一雅 明治時代
 青磁大花瓶 宮川香山 大正時代
 色絵喇叭形花瓶 伊東陶山 大正時代
 青陶会展 23—28 京都市美術館
 5回匹亜展 24—28 村松画廊
 2回高柳逸雄個展 24—28 村松画廊
 28回朔日会展 24—6月7 都美術館
 佐藤昭一個展 25—31 銀座・サトウ画廊
 今野央輔版画個展 25—30 養清堂画廊
 30周年記念第一展 25—6月7 都美術館
 1回碧会洋画展 26—31 渋谷東横
 平山昭個展 (プランシェ青年作家
 選抜シリーズ選)(主催プランシェ
 画廊)26—6月1 プランシェ画廊
 7回皐月会展 (深水、神泉、印象、
 蓬春、平八郎、紫峰)26—31 日
 本橋・高島屋
 野中春清作陶展 26—31 日本橋・
 高島屋
 今関鷺人滞欧米近作展 26—30 銀
 座・フォーラム画廊
 古家新個展 26—31 兜屋画廊
 1回紫々会彫刻・素描展 26—31
 日本橋・三越
 16回東丘社画展 26—31 京都・大
 丸
 井上三綱個展 26—31 日本橋・白
 木屋

第2回ペラ・ストラビンスキー個展
 26—31 大阪・ガスサロン
 北村明道大和絵展 26—31 上野・
 松坂屋
 薫風会展 26—31 日本橋・三越
 新匠会展 26—31 京都市美術館
 吉浦摩耶個展 28—6月2 櫛画廊
 高塚省吾個展 29—6月2 村松画
 廊
 八幡健二作品展 29—6月2 村松
 画廊
 5回NOA5人展 29—6月2 村
 松画廊
 関西新制作展 30—6月7 大阪市
 立美術館

6 月

正宗得三郎油絵新作展 1—5 日
 動画廊
 2回神崎キワ個展 1—6 養清堂
 画廊
 森省一郎個展 1—6 銀座・サエ
 グサ画廊
 みのわ淳エンコステックによる作品
 展 1—15 風月堂
 4回春秋会展 1—4 村越画廊
 3回十芳会日本画展 2—7 渋谷
 ・東横
 8回渥美美峰門日本画展 2—7
 新宿・三越
 4回アルファエ工芸展 2—7 日
 本橋・白木屋
 2回久留美会展 2—7 日本橋・
 高島屋
 兜屋新作家展 (今関一馬、岩佐清、
 松島治基、永原達郎、酒匂稔) 2
 —7 兜屋画廊
 アメリカ抽象作家展 2—7 小松
 ギャラリー
 3回三珠会日本画展 2—7 日本
 橋・三越
 8回兵庫県日本画家連盟展 2—10
 市立神戸美術館
 行動美術京都作家展 2—9 京都
 市美術館
 9回オノザト・トシノブ個展 (櫛画
 廊新人展) 3—8 櫛画廊
 深尾庄介個展 3—7 村松画廊
 2回川島竹史個展 3—7 村松画
 廊

京都陶藝家クラブ展 3—7 京都
 市美術館
 11回連立展 (創造美術、新構造社、
 女流朱葉会) 4—16 東京都美
 術館
 12回サロンド・ジュワン 4—9
 銀座画廊
 日吉ヶ丘高校美術コースO.B.展
 4—9 京都市美術館
 みづゑ賞選抜新しい水彩15人展
 (主催美術出版社、資生堂絵具工
 業K.K.) 5—10 銀座・松屋
 6回青陶会展 5—10 銀座・松屋
 池田達郎素描展 (スケッチ展シ
 リーズ第47輯)(主催朝日新聞
 社) 5—14 銀座・松屋
 酒見恒平近作個展 5—10 銀座・
 松坂屋
 2回三国慶一、恭三父子彫刻展 8
 —13 京橋・中央公論社画廊
 六月の会 (具象七人の新作展)(中
 谷泰、麻生三郎、飯島一次、長谷
 川三千春、斎藤長三、桜井浜江、
 田中阿喜良) 8—20 ギャラリー
 キムラ
 1回百合会展 (日展、新制作、院
 展、青竜社 新進日本画家16名)
 8—13 文藝春秋画廊
 清希卓抽象展 8—14 銀座・サエ
 グサ画廊
 養清堂画廊主催新作素描展 8—18
 養清堂画廊
 比田井南谷墨象近作展 8—12 村
 松画廊
 2回菊地幸樹個展 8—12 村松画
 廊
 グループ展 8—14 大阪市立美術
 館
 モダンアート展 8—14 大阪市立
 美術館
 日高昌克日本画展 (米国美術館招
 待記念) 9—14 日本橋・高島屋
 須田国太郎自選展 9—14 日本橋・
 高島屋
 戸張孤雁展 (異色作家シリーズ13
 回) 9—14 渋谷・東横
 10回日月社展 9—14 日本橋・三
 越

美術展覧会(6月)

3 回七象会油絵展 (松本昭、田口安男、志郎武久、酒匂穰、小松崎邦雄、稲村洋、赤堀尚、林武) 9—14 日本橋・三越
3 回丁酉会日本画展 9—12 此花画廊
47回日本水彩画会 9—22 都美術館
2 回谷相一夫作品展 9—14 樺画廊
サロン・ド・シュマン 9—18 兜屋画廊
京都竹工藝展 9—14 日本橋・白木屋
VAN 彫刻 5 人展 10—15 銀座画廊
ミロ版画近作展 10—14 日動画廊
12回芦屋市展 (主催・芦屋市教育委員会・芦屋市美術協会) 10—14 精道小学校
悠々会 10—13 壺中居
55回太平洋美術会 10—22 東京都美術館
北海道をいける勅使河原和風展 12—17 銀座・松屋
2 回成篁会 12—17 銀座・松坂屋
2 回菊間猪三郎展 12—16 京橋・丸善画廊
岡本喜久司・森田拾史郎 2 人展 13—17 村松画廊
2 回森川信索個展 13—17 村松画廊
空野末人個展 13—17 村松画廊
青塔社展 13—17 京都市美術館
光陽会 14—15 都美術館
塩見栄一展 15—20 銀座・サエグサ画廊
クレバスによる現代抽象作家展 15—17 銀座・松屋
山下充個展 15—21 文藝春秋社画廊
バスキ・アブドゥラ油絵展 (主催・財団法人日本インドネシア協会・アジア文化の会) 15—20 三菱商事ビル
41回遠藤了敬個展 15—21 文藝春秋社画廊
三宅瑞穂作品展 15—20 樺画廊

熊谷樞はり画・洋画展 15—18 日動画廊
研水会 15—21 大阪市立美術館
二紀会委員展 16—21 日本橋・三越
朱青会日本画展 16—21 日本橋・白木屋
五葉会 16—21 渋谷・東横
友人会 (服部正一郎、大沢昌助、田辺三重松、田中忠雄、田村孝之助、田崎広助、中村善策、栗原信、松本弘二、古家新、寺田竹雄、宮本三郎) 16—21 日本橋・高島屋
2 回菱洗会 16—21 日本橋・高島屋
今日の画家達 (山口薫・森芳雄・香月泰男・宇治山哲平) 16—27 銀座・フォルム画廊
及川孝士個展 16—22 新宿・プランシエ画廊
東貞美絵画作品展 16—30 風月堂
3 回新井秀一郎個展 16—20 東洋美術館画廊
樺会 16—21 上野・松坂屋
批杷会 16—21 上野・松坂屋
高山辰雄新作展 17—20 兼素堂
九品庵展 17—20 壺中居
ファオン展 18—22 村松画廊
2 回グループ黄展 (大角実・田代勇・和田品) 18—22 村松画廊
2 回グループAUBE展 18—20 美松画廊
4 回横田峰青竹藝個展 19—24 日本橋・高島屋
生活と美術展 (主催行動美術協会) 19—30 西部ホール
3 回日本金工制作展 19—24 銀座・松屋
三人展 (青木マサオ・大森房之助・宮本安広) 21—26 樺画廊
2 回正田正雄個展 21—27 銀座画廊
谷沢鉄三油絵個展 22—28 銀座・サエグサ画廊
4 週・森嘉茂個展 (1959年新進作家展) 22—28 銀座・サトウ画廊
中山爾郎個展 22—27 文藝春秋社画廊
竹田多美子作品展 22—27 養清堂画廊

3 回深沢紅子個展 22—27 求竜堂画廊
阿部金剛個展 22—27 京橋・中央公論社画廊
ジャン・ブスケ漆絵展 22—27 南画廊
19回美術文化展 22—7月2 大阪市立美術館
北沢映月・秋野不矩 2 人展 23—28 渋谷・東横
三岸好太郎遺作展 23—28 兜屋画廊
郭仁個展 23—28 小松ギャラリー
12回田辺竹雲齊竹芸展 23—28 日本橋・高島屋
浅羽保治個展 23—27 村松画廊
比田井仁史個展 23—27 村松画廊
染葉剛・福留八郎展 23—27 村松画廊
片岡球子日本画展 23—28 日本橋・三越
25回旺文会 23—7月4 東京都美術館
ザッキン絵画彫刻展 24—25 大阪・フジカワ画廊
伊東深水小唄に因む新作画展 26—7月1 銀座・松屋
13回大須賀力・黒田嘉治彫刻展 26—30 丸善画廊
9 回会白合会 26—28 東条会館
田岡秀男個展 27—7月2 樺画廊
田村道郎・伊東隆康・後藤藤子・畑律 4 人展 28—7月3 銀座画廊
3 回細井督三・成井浩二展 28—7月2 村松画廊
田崎昭作個展 28—7月2 村松画廊
吉沢伝・片瀬輝一 2 人展 28—7月3 銀座画廊
1 回黎明会 29—7月12 いづみぎやらりい
薔薇会日本画展 29—7月4 中央公論社画廊
2 回此花会日本画展 (伊東深水、西山英雄、高山辰雄、上村松篁、中村正義、我妻碧宇、信太金昌) 29—7月4 此花画廊
東光会 10 人展 29—7月5 ギャラリー・ポアン
福森金一展 29—7月5 銀座・サトウ画廊

加藤陽油絵個展 29—4 銀座・サ
エグサ画廊
現代アメリカ版画6人展(主催・養
清堂画廊)
下田治個展 29—7月4 中央画廊
3 回葉々会展 29—7月4 文藝春秋
社画廊
尚美展 30—7月4 壺中居
新エコール・ド・トキョー 30—7月5
池袋・三越
内田邦夫・ジョン・チャペル陶藝展
30—7月5 日本橋・高島屋
4 回山林美術展 30—7月5 池袋・
三越
青羊会日本画展 30—7月5 日本
橋・三越

7 月

7 回ニッポン展 1—12 東京都美
術館
三岸節子はり絵展 1—11 楡の木
画廊
窯彩硝子即売会 1—8 日本橋・
高島屋
5 回立花一花作品展 1—4 丸善
画廊
高田誠油絵新作展 1—5 日動画
廊
2 回新象展 1—12 東京都美術館
イタリアの観光と工芸展 1—12
名古屋・名鉄百貨展
吹田文明版画作品展 1—15 風月
堂
市民美術展 1—25 市立神戸美術
館
小磯良平素描展(松屋画廊スケッチ
展第28輯) 2—11 銀座・松屋
バリ・コラージュ3人展(J. P. ダ
ルナ、F. デュムーラン、J. モノ
リ)(主催・読売新聞社) 3—15
西武
近代西欧名画 フィエール複製展
3—15 西武
森山裕之個展 3—8 樺画廊
5 回NAVA展 3—8 村松画廊
坂野里子・藤野貴久子展 3—8
村松画廊
5 回悠心会日本画展 3—8 大丸
画廊

独立展 3—10 大阪市立美術館
染色美術展 3—5 京都市美術館
物故20年記念三溪遺墨展(三溪・
主催 神奈川県立図書館) 4—13
神奈川県立図書館講堂
関西独立展 4—10 大阪市立美術
館
日本画展 4—9 銀座画廊
中川一政・熊谷守一2人展 6—15
ギャラリー・ポワン
抽象画家8人展(斎藤義重、油野
誠一、山田栄二、江見絹子、田中
田鶴子、清野恒、柴田紗千夫、津
高和一) 6—18 ギャラリー・キ
ムラ
テレスコヴィッチ水彩・石版展
6—11 銀座・サエグサ画廊
水谷勇夫個展 6—11 名古屋・広
小路丸善
友沢恭男版画展 6—11 養清堂画
廊
米山信子個展 6—12 銀座・サト
ウ画廊
わかたけ会染色展 6—9 銀座・
松坂屋
山水会展 6—11 中央画廊
梅本昭・児玉正美彫刻2人展 6—
8 日本橋・丸善画廊
古川・加納・平野3人展 —6
三省堂画廊
岡本天明クレパス画展 7—9 京
橋・中央公論社画廊 大阪会場
13—18 白鳳画廊
名画コレクション市(主催・日本経済
新聞社) 7—12 日本橋・白木屋
孔雀会 7—11 文藝春秋社画廊
沖繩民藝展 7—13 渋谷・東横
ファニー・ダルナ・スタイル画展
7—15 池袋・西武
米沢森峰個展 7—12 日本橋・三
越
伊川鷹治新作油絵展 7—12 日本
橋・三越
武者小路実篤油絵個展 7—12 上
野・松坂屋
丹青会展 7—12 池袋・三越
日本版画展 7—12 池袋・三越
豊島区美術家連盟展 7—12

佐久間茂個展 7—13 画廊なびす
中国剪纸・切手展 8—13 三省堂
画廊
8 回筵上会展 9—12 日本橋・丸
善画廊
上村宏幸個展 9—14 村松画廊
橋本アイ子絵画・橋本正司彫刻展
9—14 村松画廊
3 回ひびき展(内山秀子、亀本信子、
小林千里、松江栄、吉村郁子)
9—13 村松画廊
竹口義之個展 9—15 樺画廊
第1回依岡慶樹個展 10—13 産経
会館
Les Six展(井上篤、石坂春生、真
殿宏二郎、真殿サク、中村貞夫、
西村元三郎) 10—15 銀座画廊
3 回棕櫚会彫刻展(井上武吉、大國
丈夫、加藤昭男、児島幸雄、志水
晴児、田中栄作、橋本惣介、福家
増夫、細川宗英、山形寿夫)
10—13 銀座・松坂屋
新美術協会展 11—20 大阪市立美
術館
藤江幾太郎山の絵展 —11 東電
サービス・センター
暖話会展(林武ほか) —11 弥生
画廊
4 回爽々会水彩画展(春日部たす
く、荒谷直之介、小堀進) 12—
17 日本橋・三越
1 回洋画展班会(一水会同人9人
展) 12—15 銀座・松坂屋
黎明会新人推薦シリーズ —12 い
づみ・ぎやらりい
3 回日騰連総会と孔版文化展 —12
九段会館
2 回ネオ・フィギュラティブ画家
展(福田庄助、永瀬孝爾、古田善
三、小山田チカエ) 13—18 画
廊ひろし
吉留要個展 13—19 銀座・サトウ
画廊
桜井慶治スケッチ展 13—19 いづ
み・ぎやらりい
ルーマニア民藝展(主催・日本ルー
マニア友好協会) 13—19 日本
橋・白木屋

美術展覧会(7月)

教育大学絵画・彫塑展 13—19 池袋・三越
 齋藤宝小品涼呼展 13—18 此花画廊
 斎藤善・晴山英二人展 13—18 文藝春秋画廊
 篠原有司男個展 13—18 文藝春秋画廊
 高木俱個展 13—18 養清堂画廊
 北村修・斎藤譲一・森芳雄3人展 13—18 銀座・サエグサ画廊
 山下忠平個展 13—16 日本橋・丸善画廊
 田中寅三洋画個展 13—18 丸ビル中央公論社画廊
 グループエス展 13—19 池袋・東横
 豊田道夫個展 13—18 中央画廊
 示現会三越展 14—19 日本橋・三越
 矢野茫土展 14—19 上野・松坂屋
 新世紀夏季小品展 14—19 日本橋・高島屋
 世界商業デザイン展 14—19 池袋・三越
 教育大美術展 14—19 池袋・三越
 1回渡辺修油絵・彫刻展 14—19 ナビス画廊
 グループ連合展 14—19 京都市美術館
 田曼詩女士中国画展 15—17 日動画廊
 大江孝個展 15—20 村松画廊
 美術文化関東グループ展 15—20 村松画廊
 熊倉・田所・半田3人展 15—20 樺画廊
 千田高詩絵画作品展 16—31 風月堂画廊
 プレミオ・リゾーネ国際展出品国内展 16—20 銀座画廊
 3回陶藝家協会展 (板谷波山・富本憲吉・楠部弥弼・宮之原謙・石黒宗磨・加藤土師萌・荒川豊蔵) 17—22 銀座・松坂屋
 黏土展 17—22 八重洲・大丸
 小川勝蔵個展 17—21 丸善画廊
 二紀彫刻展 18—24 日比谷画廊
 日下部道寿日本画展 18—25 日本橋・三越

瀬戸作陶会展 19—24 日本橋・白木屋
 龍土会日本画展 19—24 銀座・松屋
 夏日会展 (麻生三郎・信田金昌・中谷泰・横山操) 20—30 六本木画廊
 43回現代版画展 20—25 渡辺木版画廊
 2回織田一磨石版画展 20—26 いづみ・ぎやらりい
 秀作車内ポスター展 20—26 文藝春秋画廊
 森本健二・金田辰弘2人展 20—25 大阪・日仏画廊
 柳沢安雄個展 20—26 銀座・サトウ画廊
 中島保彦個展 20—25 銀座・サエグサ画廊
 城所祥版画展 20—25 養清堂画廊
 A・A・会展 20—25 中央画廊
 花とそめもの展 21—26 池袋・三越
 中山正実カラー・エッチング展 21—26 日本橋・高島屋
 日本・メキシコ現代版画交歓展 (主催・日本版画協会・後援・国際文化振興会) 21—26 日本橋・三越
 2回邦画展 21—28 東京都美術館
 佐久間阿佐緒絵図面展 21—26 村松画廊
 5回野火展 21—28 村松画廊
 新象作家協会会員小品展 21—26 樺画廊
 18回双台展 (石井柏亭先生追悼) 21—26 日本橋・三越
 下村親山代表作展 (主催・朝日新聞社 後援・東京国立博物館・日本美術院) 21—8月2 日本橋・三越
 日・英水彩交歓展 21—26 日本橋・三越
 相生展 21—26 上野・松坂屋
 平和美術展 21—27 大阪市立美術館
 後藤豊彦個展 22—25 日本橋・丸善画廊
 双元会展 24—29 八重洲・大丸

村井正誠・山口薫・柳原義達・辻晋堂展 25—8月23 神奈川県立近代美術館
 清川泰次油絵個展 26—8月2 日本橋・三越
 備前焼名工作品展 26—31 銀座・松屋
 梶谷寿雄・平林克之・幸形栄治3人展 27—8月1 村松画廊
 西山松久・鍋谷郁子油彩展 27—8月1 村松画廊
 野間伝治個展 27—8月1 村松画廊
 3回杉村美文個展 27—8月2 銀座・サトウ画廊
 三木富雄個展 27—8月1 樺画廊
 首代俊夫個展 27—8月1 中央画廊
 池昭二個展 27—8月1 中央公論丸ビル画廊
 茂春人・ナツオ・グラフィック展 27—31 日本橋・丸善画廊
 楠野友繁個展 28—8月2 文藝春秋社画廊
 11回清流会展 (神泉・清方・竜三郎・土牛・靱彦・蓬春・青邨・平八郎) 28—31 兼素洞
 アルフレッド・パウレット作品展 28—8月2 新宿・伊勢丹
 現代新作木版画展 28—8月2 日本橋・三越
 青珠会日本画展 28—8月2 渋谷・東横
 晴日会油絵展 28—8月2 日本橋・高島屋
 土と絵・詩の展覧会 (主催・岐阜多治見市教育委員会・同小中学校校長会・同図工研究会・同絵の会・同作文の会) 29—8月2 池袋・三越
 慧星会油絵展 (木下寿々子・黒田外喜男・弦田英太郎・名取明德・源川雪) 29—8月2 日本橋・高島屋
 21回連袖会展 29—8月2 日本橋・三越
 7回日本医家美術展 (主催・日本医家美術クラブ・後援・日本医師会・日本医事新報社)

- 羽黒洞日本画即売会 29-8月2 上野・松坂屋
 新鋭作家日本画30人展 29-8月 2 上野・松坂屋
 内山孝・橋本博英2人展 30-8月 2 画廊ひろし
 六鳥会新作展 30-8月4 八重州画廊
 リーテ作品展 30-8月 日本橋・宝町三日画廊
 3 回上条静光東京百景個展 31-8月5 大丸
 27回日本バステル画会展 31-8月5 銀座・松坂屋
 2 回北斗会油絵展 31-8月5 銀座・松屋

8 月

- 森村惟一版画作品展 1-15 新宿・風月堂
 7 回駒込美術研究所展 1-6 美松画廊
 1 回草炎会展 (伊藤仁、伊吹英次、上野誠、大月源二、小出峰雄、金野新一、桜井誠、須山計一、中居定雄、永井潔、永見譲治) 2-7 村松画廊
 小幡博志・寺尾昇・赤木始3人展 2-17 村松画廊
 点々会展 (村雲大模子(日)、石垣栄太郎(洋)、別府貫一郎(洋)、岡本唐貴(洋)、山上嘉吉(洋)、寺島貞志(洋)、後藤禎二(洋)) 2-7 銀座・松屋
 ベルクロッシェ発表展 2-17 銀座・松屋
 「時間」グループ詩画展 2-5 東京電気銀座サービスセンター
 国井誠海個展 3-8 銀座画廊
 3 回水波博個展 3-8 養清堂画廊
 3 回グループ拓展 (黒坂晴雄、高野条一、宮下勝一) 3-10 銀座・サトウ画廊
 1 回VAVAのグループ展 (岐阜県関市在住作家グループ・石原通男、小本章、後藤昭夫、後藤喜美夫、後藤昌子、後藤鎮、西尾一三、波多野恭子、羽山富雄、山田俊) 3-8 文藝春秋社画廊

- 正田壱・田中恒夫2人展 3-8 中央画廊
 3 回京都府推薦日本画新人展 (主催-京都府・京都日本画家協会) 4-9 東京・日本橋高島屋
 13回紅土会展 4-9 日本橋・三越
 新興美術院一行会日本画展 4-9 渋谷・東横
 カトリック美術展 4-9 日本橋・三越
 12回能彫会展 4-9 日本橋・三越
 宮原明良日本画展 4-9 日本橋・三越
 日宣美展 4-9 日本橋・高島屋
 中山社一画展 4-9 小松ギャラリー
 山口源版画展 7-12 銀座・松屋
 XII 展 8-12 銀座・松坂屋
 イトイ父子カラージュ展 7-8 東京電気銀座サービスセンター
 1 回集団版展 8-13 村松画廊
 10回宮地龍新作展(樺園廊新人展) 8-13 樺園廊
 木下正文・青山荘政2人展 8-丸ビル・中央公論画廊
 中谷延子個展 10-16 サエグサ画廊
 前田守一版画展 10-15 養清堂画廊
 古山保子個展 10-15 中央画廊
 小野寺蓉子素描画展 10-10 プランシェ画廊
 カメハメハ王朝文化展 ハワイ民俗芸術展 (主催・読売新聞社、後援・外務省、文部省、東京国立博物館、アメリカ大使館) 11-23 日本橋・白木屋
 6 回橋展 (高橋甲子男、小倉洋一、沢井興羽、岡沢喜美雄、頼田室子) 11-20 銀座・サトウ画廊
 伊藤清水油絵展 11-16 日本橋・高島屋
 創元会夏季展 11-16 日本橋・高島屋
 2 回十一回展 (後援-国際文化振興会) 11-16 日本橋・高島屋
 4 回ろくに会展 11-16 渋谷・東横
 13回新樹会展 11-16 日本橋・三越

出品目録

彫	刻	
エチュード	I	仁田原英二
シ	II	シ
男	の	シ
裸	婦	本郷 暁
裸	婦	千野 茂
作	品	大滝 直平
男	の	渡辺 利雄
河		シ
トル	ソ	久保寺 恭
魚		シ
エチュード		山本 恭平
女	の	シ
原子力時代		松本 雅山
神父ヘルマン・		シ
ホイヴェルス		シ
女	座	シ
二人の子供		土方 久功
全身	像	三雲 祥之助
凹	凸	シ
凹	面	シ
くしけずる女		シ
少女	首	シ
粧	い	山本 豊市
エチュード		シ
髪		シ
座	像	木内 克
小	品	シ
シ	A	シ
シ	B	シ
シ	C	シ
シ	D	シ
裸	婦	清水 多嘉示
シ	B	シ
絵 画		
		林 武
機	帆	岡田 又三郎
シ	船	シ
	A	シ
	B	シ
潮	路	片岡 球子
作	品	門倉 芳枝
シ	A	シ
シ	B	シ
シ	C	シ
シ	D	シ
こ	ど	武田 邦雄
う	ま	シ
く	る	シ
空中に咲く花		永瀬 義郎
港		シ

美術展覧会(8月)

アカシヤの住人 長坂やす子
 ならかな小径 シ
 眼鏡橋 A 野口弥太郎
 シ B シ
 埴輪 A 山本蘭村
 シ B シ
 朱の壺 シ
 (画集出版記念招待)
 火山の遺跡 畦地梅太郎
 山男 シ
 山を歩く人々 シ
 再会 シ
 足音 シ
 白い像 シ
 画集表紙絵 シ
 風景 A 平沢喜之助
 シ B シ
 シ C シ
 鉄線花・白 ビショップ英郎
 シ・紫 シ
 大沼公園駒ヶ岳 シ
 冬夕焼 井手宣通
 梅雨空 シ
 冬の海 A シ
 シ B シ
 シ C シ
 裏山 原勝郎
 ぞいの畑 シ
 樹景 シ
 風景物 シ
 静蝶 大河内信敬
 遊花子 シ
 芥子蒲合 シ
 百合顔 シ
 朝顔
 中沢弘光先生の像 大久保泰
 関門海峡(門司側より) シ
 鏡の前 シ
 三月堂 シ
 バラ 朝井関右衛門
 ガラス台鉢 シ
 花束 シ
 ファルス A シ
 シ B シ
 安南の女 南政善
 バリー島の女 シ
 手をかざす女 シ

椅子にける女 南政善
 裸婦 A 三岸黄太
 シ B シ
 シ C シ
 三月堂 島村三七雄
 大池の芦(奈良) シ
 チャーテル会展 11-16 日本橋・三越
 宮原明良日本画展 11-16 日本橋・三越
 5 回警視聴職員美術作品展 11-16 日本橋・三越
 宮永東山和陶器の会 11-16 池袋・三越
 揚英風版画展 11-16 上野・松坂屋
 現代美術研究所研究生グループ展(前期) 13-19 美松画廊
 「明日の都市」展(主催-建設省・住宅金融公庫・日本住宅公団・日本道路公団・首都高速度道路公団・東京都都市計画協会) 14-19 銀座・松屋
 三人展(林田セツ子・小川阿屋子・園房江) 14-19 櫛画廊
 4 回豊田一夫絵画作品展 14-19 村松画廊
 5 回赤土会展 14-19 村松画廊
 石沢瑛子・佐藤範子・関根一枝 3 人展 14-19 村松画廊
 世界のホスター傑作展(主催-横浜商工会議所・神奈川新聞社 後援-神奈川県・横浜市・横浜商業美術家協会) 14-19 横浜・松屋
 現代生活デザイン展(主催-国際工芸協会・後援-毎日新聞社)池袋・西武
 大平洋美術会染色部作品展 14-19 東京・大丸
 3 回回「人間」展 15-20 銀座画廊
 渡辺一美個展 15-16 丸ビル・中央画廊
 清水康雄個展 17-22 丸ビル・中央論画廊
 J・デュビュッフェ新作版画展 17-27 日本橋画廊
 小糸源太郎・島海青児・林武・野口弥太郎新作四人展(晩夏会) 17-22 ギャラリー・キムラ

44回現代版画展 17-22 渡辺版画店画廊
 日本現代版画イスラエル展出品作品国内展示会 17-18 養清堂画廊
 桜井孝身個展 17-22 南画廊
 滝川太郎油絵展 17 東京美術画廊
 3 回草人社展(後援・毎日新聞社) 18-23 池袋・三越

11回立軌会展 18-23 日本橋・三越

出品目録

小供の歌A(油) 有岡一郎
 小供たちの歌B(油) シ
 街(油) シ
 水害者(油) シ
 演劇(素描) シ
 シ(シ) シ
 シ(シ) シ
 作品 A 秋野卓美
 シ B シ
 極楽と地獄 榎戸庄衛
 変貌なき世界 シ
 君子(くんし)の肖像 シ
 二つの壁 シ
 青つばい思想 シ
 賢者の風貌 シ
 青春の記号 シ
 海底に沈んだところ シ
 小さな社 エヴァレット(Al. Everett)
 作品 A 藤橋正枝
 シ B シ
 シ C シ
 シ D シ
 宇治川 飯島一次
 御蓋山 シ
 サン・マルコ シ
 サン・フロン シ
 むし(油) 五百住乙
 シ(シ) シ
 シ(シ) シ
 シ(シ) シ
 シ(シ) シ
 シ(水彩) シ
 シ(シ) シ

作品 A 河村俊子
 シ B シ
 シ a シ
 シ b シ
 鳥 (油) 川越昭子
 シ (シ) シ
 シ (シ) シ
 水彩 彩 シ
 シ シ
 風 大貫松三
 水 たまり シ
 夜 シ
 花 (春逝く) 小川イチ
 シ (たなばた) シ
 シ (こぼれる) シ
 翅 (水の面) シ
 シ (みやま路) シ
 OPUS-A シ
 OPUS-B シ
 陶器をつくる家 須田寿
 壺のある風景 シ
 唐津 シ
 壺の風景 シ
 作品 A 辻茂
 シ B シ
 シ C シ
 シ D シ
 シ E シ
 鳥 A 玉置弘三
 シ B シ
 シ C シ
 ピアノひく子供 シ
 おどる シ
 地獄への招待 内田光之助
 地獄風景 シ
 地獄腹 シ
 持国天 シ
 地獄変 シ
 地獄の使者 シ
 運河 牛島憲之
 タンクとエント シ
 ツ シ
 灯 台 シ
 作品A (ガッシュ) 若狭暁男
 シ B (シ) シ
 シ C (シ) シ
 シ D (シ) シ
 シ E (シ) シ
 シ F (シ) シ
 新開地風景 A 山下大五郎

新開地風景B 山下大五郎
 シ C シ
 花 シ
 1回青騎会展 18-30 日本橋・白
 木屋
 小野忠重版画展 18-23 日本橋・
 三越
 吉沢章・創作折り紙展 18-23 日
 本橋・高島屋
 九人展 (青柳暢夫、斎藤長三、高
 橋忠弥、土屋幸夫、中岡冊夫、空
 田たけを、山田栄二、山本正、横
 地康国) 18-23 小松名店街
 ギャラリー
 坂本直行油・水彩画展 18-23 涉
 谷・東横
 13回文化人肖像写真展 (後援・フジ
 フィルム株式会社) 18-23 日
 本橋・三越
 広告電通賞展 (主催・電通KK)
 18-23 日本橋・三越
 千種達夫スケッチ展 18-23 日本
 橋・三越
 2回青木英子・菱田義宣・新国敬子・
 三宅洋子4人展 18-22 銀座・
 サエグサ画廊
 三浦巖水彩画展 18-23 上野・松
 坂屋
 森田成男諷刺漫画展 18-22 なび
 す画廊
 青葉会展 18-23 日本橋・高島屋
 2回スポーツ藝術展 (主催・日本ス
 ポーツ藝術協会・朝日新聞社・後
 援・文部省・財団法人日本体育協
 会) 19-31 銀座・松屋
 有馬迪子版画展 19-22 養清堂画
 廊
 福田恒太個展 20-25 村松画廊
 田中朝吉油絵展 20-25 村松画廊
 2回高山寿個展 20-25 村松画廊
 現代美術研究所研究生グループ展
 (後期) 20-26 美松画廊
 1回∞(無限大)展 (三岸黄太、三宅
 悦雄、平沢喜之助、吉田親、本宮
 竜太郎、矢田建爾、森田亮輔、久
 間木勝義、霞節男、今井一志、須
 賀万知子、茅野洋子、貴島由美、
 安井一美) 21-26 銀座・松屋
 岩田正男個展 21-26 銀座画廊

羽田良美個展 21-30 銀座・サト
 ウ画廊
 3回九州派グループ展 21-26 銀
 座画廊
 スティグ・リンドバーク展 21-30
 池袋・西武
 5回燦光会展 21-26 銀座・松坂
 屋
 近岡善次郎滞欧スケッチ展 21-27
 新宿・伊勢丹
 下田治、鈴木明二人展 24-29 中
 央画廊
 7回ネオ・アルチザン展 (主催・四
 日会後援会) 24-30 画廊ひろし
 小出檜重デッサン小品展 24-29
 六本木画廊
 元山道子版画個展 24-29 養清堂
 画廊
 いいじま・ゆき油絵個展 24-29
 丸ビル・中央公論社画廊
 長瀬子個展 24-29 南画廊
 モダンアート版画展 25-30 涉
 谷・東横
 7回ゲフ会展 (綾井秀宣、笠木実、
 梶田英一、黒沢梧朗、沢田正太郎
 清宮賢文、田畔司朗、田代利夫、
 土屋広倫、弦田英太郎、富安昌也、
 中尾良一、細川路真、柚木祥吉郎、
 吉原秀夫) 25-30 日本橋・白
 木屋
 木本重利個展 25-30 なびす画廊
 写真による世界の建築と美術の総合
 展 (主催・国際造形藝術連盟日本
 委員会、後援・日本美術家連盟、
 日本建築家協会、毎日新聞社)
 25-30 日本橋・高島屋
 関野準一郎滞欧米版画個展 25-30
 日本橋・高島屋
 6回日本水墨派展 25-30 日本
 橋・三越
 6回仏教美術展(彫刻) 25-30 日
 本橋・三越
 1959年建築展 25-30 日本橋・三
 越
 日野耕之祐個展 25-30 上野・松
 坂屋
 集団オリエント展 25-30 小松
 ギャラリー
 具体美術展 25-30 京都市美術館

世界の抽象・イタリア・日本美術展
25—30 大阪・高島屋

市民美術展 25—30 京都市美術館
倉田忠明、永岡信行、富田文雄、東
田直人四人展 26—27 東電ギャ
ラリー

6 回カマラード展(女子美油、60回
生) 26—31 樺画廊

4 回集団画展 26—30 村松画廊
福島秀子作品展 26—30 村松画廊
現代画家の作品を織る縋帯展 28—
9月2 銀座・松屋

川合玉堂の名作を染める留袖模様作
品展 28—9月2 銀座・松屋
皆川月華藝術衣裳展 28—9月2
銀座・松屋

2 回井上トヨ子油絵展 28—9月2
八重州口・大丸

賀川忠、石井弘、藤島清雄作品展
29—9月3 美松書房画廊

林敬二、島田章三油絵2人展 —29
銀座・サエグサ画廊

高松次郎個展 30—9月5 ひろし
画廊

藝々南画会作品展 —30 いみづ
ぎやらい

岩見礼花版画展 31—9月5 養清
堂画廊

ヌリヤ・ムタシブNuriya Muhtesip
個展 31—9月6 いづみ画廊

山里寿男個展 31—9月6 銀座サ
トゥ画廊

クロード岡本個展 31—9月5 中
央画廊

住谷磐根個展 31—9月3 丸善

2 回加賀見政之個展 —31 お茶の
水、レモン茶廊

9 月

5 回日本画府秋季展 1—6 池
袋・三越

伊藤隆康個展 1—5 村松画廊

2 回北美文化展 1—5 村松画廊

31回青龍社展 1—13 日本橋・三
越

神 戸 10月6—11
京 都 10月27—11月1
名古屋 11月3—8
大 阪 11月10—15

主要出品目録

筏 流 し 川 端 龍 子
逆説生々流転
和蘭陀万才 加納三楽輝
軍 艦 島 山 崎 豊
緑 蔭 市 野 亨
娘 の 四 季 安 西 啓 明
連作の23
入 王 子 懷 古
風 除 け 小 島 鼎 子
下 田 時 田 直 善
霖 雨
ねそべる獅子 亀井玄兵衛
谿 琴 塚 英 一
赤 潮 佐 藤 土 筆
根 子 岳 佐々木邦彦
開 拓 地 結 城 天 童
和 藤 内 大 塚 香 緑
雄 容 竹 内 未 明
富 士 原 始 林
岳 製 鋼 炉 水 島 裕
太 海 高 山 晴 雄
鬼 押 出 し 丸 山 岐
駝 風 林 入 江 北 宰
防 石 英 岩 渡 会 伊 良 子
蜘蛛 加 藤 輝 三
いの松 原 安 東 丈 夫
列 天 池 田 洛 中
牡 牛 酒 井 白 澄
白 暮 浜 出 青 松
囚はれしもの 武 市 政 輝
樹 海 と 山 富 田 保 和
菖 蒲 苑 岡 信 孝
羽 衣 山 口 吉 旺
石 仏 白 杵 一 穂
南 紀 橋 杭 岩 細 野 光 治

14回行動美術展 1—20 東京都美
術館

会員出品目録

絵 画
エトルスク 河 端 亮 治
歴 史 藤 形 一 男
作 品 B
作 品 A

仮 装 A 深 見 隆
仮 装 C
仮 装 B
流 層 田 中 稔 之
作 品 3 長 谷 川 晶
作 品 2
作 品 1
作 品 三 四 高 井 寛 二
作 品 一 九 五 然 野 尻 弘
坐 立 像 座 江 見 絹 子
星 座 江 見 絹 子
み な も と
作 品
No. 98 K 村 田 實 史 雄
空 港
まりもの伝説 合 山 中 春 雄
会 二 人 田 中 忠 雄
Aダムの設計 空の鳥を見よ
主の衣を奪う 果 齋 藤 真 成
稲 荷 山 景 貝 原 六 一
ボ タ 山 風 景 佐 藤 真 一
牛 頭 ・ 木 霊 出 土 ・ 埋 葬 さ れ る も の 辻 親 造
部 屋 洋 大 森 朔 衛
印 度 落 A B 福 井 勇
野 転 陸 黒 い 石 組
黒 い 魚 板 物 林 田 辺 三 重 松
庭 の 静 黒 い 湖 畔
芦 の 断 崖 山
噴 煙 の 山
兵器廠跡と大阪 解体船のある風 景
淀 川 風 景
ぼ た 山 と 月
野 浜 跡 高 橋 進
坪 内 節 太 郎

高生海砂 坪内節太郎
移民 辺船く 下高原龍巳
パをさ 西飯田清毅
人人物物 B 飯田清毅
人枯野物 A 抄湖風景
伝説の風景
室戸風景
熱海風景
内海夕照
久住山新緑
煙木浜鳥
赤地の橋
太庵の土蔵
飛驒の静かな
不眠な咲
狂い咲
夢千城の化石
古(あまも)
魚ともしび
人々人
二人やすで殖
生蛾座裏
銀らく町河岸
らく町河岸の夕
暮建物
コットン横町
観る風景
ある風景
帰国(あまも)
よさうなら)
化石と女
壁村画
漁村 A
漁村 B
狩野川

黒い米 難波香久三
彫刻 向井良吉
金属の空間 戦 野崎一良
利品のCANON 今村輝久
木のオブジェ 中島快彦
変身 建畠覚造
或るモニュマン 阿井正典
核と穀 林是賢
作品 伊勢典賢
立像 立像
小茂田青樹展(異色展作家展シリーズ14回)(主催・毎日新聞社) 1—6
渋谷・東横
中村真展(やまとの流れ連作) 1—6
日本橋・高島屋
津田青楓近作展 1—6 日本橋・高島屋
3 回東光会会員展 1—6 日本橋白木屋
二〇〇会(中谷泰、古茂田守介、織田広喜、麻生三郎) 1—5 京橋・フジキ画廊
国立近代美術館提供現代秀作絵画展(主催 国立近代美術館・本間美術館) 1—20 本間美術館
4 回漫画集団展 1—6 日本橋・白木屋
19 回マハニ展 1—6 小松ストアギャラリー
「ラブ・フォア・ピース」世界の写真展(主催・社団法人世界友の会 後援・外務省・文部省・朝日新聞社) 1—6 上野・松坂屋
辰々々日本画展 1—5 東洋美術館画廊
44 回二科展 1—20 東京都美術館
主要出品目録
絵画
酸白断朽農青の煌陶
化宇宙面紙た場モノローグのむれ器
斎藤三郎 斎藤三郎
藤幹衛 藤幹衛
大沢昌助 大沢昌助
北川民次 北川民次

作品 A 佐藤吉五郎
作品 B 織田広喜
葡萄棚物 桑原実
静シヤワー 桑原実
漁港の群像 多賀谷伊徳
テトラポット 多賀谷伊徳
耐積羅 山本敬輔
作品五九の三 山本敬輔
作品五九の二 鶴岡義雄
アバート 鶴岡義雄
ナイター A 吉村勲
ナイター B 吉村勲
A 藤川栄子
C 藤川栄子
B 清水刀根
塊変野山村 福島金一郎
パストラール 立原植
木仙石田 藤井二郎
花遊蝶・花 藤井二郎
街頭にて 松本弘二
遊ぶ子 松本弘二
花山 服部正一郎
ノサップ 服部正一郎
水郷 服部正一郎
ポブラ 服部正一郎
沙漠地帯 F 寺田竹雄
沙漠番帯 G 寺田竹雄
土土土 伊東静尾
土土土 伊東静尾
花野 籠東郷青児
辺の鳥 籠東郷青児
黒い風 籠東郷青児
汐号作品 C 松井正
記号作品 A 松井正
記号作品 B 松井正
記号作品 B 吉井淳二
魚を運ぶ女 吉井淳二
せり市にて 佐々木良三
蝶の花東

美術展覧会(9月)

黒い裸女 佐々木良三
 蛾の群れ 錦義一郎
 修学院離宮 高橋三郎
 桂離宮 青山竜水
 蝶 丘の分譲地 森長子
 水辺の 長 宮川富佐郎
 成海が見えます 浪江勘次郎
 十字路 野村守夫
 YORU 丘にて 山尾薫明
 股とインカ 股とインカ(1) 股とインカ(3) 阿部金剛
 "RIEN"A-1 "RIEN"C-1 "RIEN"B-1 山本不二夫
 朝粧 花にもてる妖女 戸川串田実之
 花につちづけす 哀愁の路品 伊藤研之
 作 冑の人 井上賢
 甲 人 日遊 赤いベスト 彫刻
 抱膝 違 裸 波 静 作 立 脱 来
 二つの円筒 開かれた円筒 祭 髪 波 貌(かたち) 母子像 三人の少女 ふうた

商業美術部

本年度審査員無鑑査作品

新生壁画ポスター
 シ
 シ

X 団地
 MR・ADAM
 MRS・EVE

赤とんぼ
 カナリヤ
 しやぼん玉

赦し給え
 メサイヤ
 力を尽して狭き門より入れ

核実験禁止
 それでも更生できない

スペイン航空ポスター

原始民族藝術展
 クリスマス
 サークス
 オリンピック

44回日本美術院展 1-20 東京都

美術館

絵画

御水取 前田青都

御水取を迎える奈良の旧家

総別火(行事の支度)

堂の役人衆

わらび餅の茶屋

籠り堂

湯屋

食堂

行法を待つ参籠衆

鈴を振る咒師

御水取(若狭井)

松明をみる群衆

松明のぼる

内陣の幕をしぼる堂童子

達陀の行法

社頭の終了報告

二月堂は明けゆく

踏淵

熊山踊

歌 真野満

中島多茂都

野真道黎明

霧郷倉千靱

り中村貞以

鳴大 観先 門生 川実川
 雪の 花梅 鯉 蝕 S 婦人 宇津の山路馬仔 海(B)真鶴の海岸 海(A)小田原海岸 無花果 残照 鴨家族 達 彫塑

ポーズせる女 信濃青年 ネグリジェの乙女 U・S 博士 立落裸坐 石井氏寿像 男ノ K 子 像 ないしよ話 阿藤氏像 裸腕ぐみしたF氏 摩訶摩耶夫人 稻垣君像 鈴木孝子夫人像 金蟾公主(がまのおひめさま) くまどり(六代菊五) 夏 日 清 閑 習 作 木組による住空間の構成 三つの接点を主題にしたモニュメント

奥安酒北中小岩田新羽片 島田 訥郎 富取 風堂 小谷津任牛 小倉遊 龜

村田徳次郎

核井祐一 新海竹蔵 山本豊市 関谷充茂 千松原松造

田中太郎

関谷充雄 関谷充圃 大宮本重良

平 楠 田 中

石井鶴三 喜多武四郎

基 俊 太 郎

青 社 新 人 展 1-13 日本橋・三越

小磯良平素描展 1-6 大阪・高島屋

日宣美展 1-6 大阪・高島屋

1回彫塑八人展(石井康夫、猪股進、逸見敏、豊福正弘、谷本清光、中島陸雄、斎藤信也、日比野知三) 2—7 銀座画廊
 2回塩出千鶴子個展 2—7 銀座画廊
 2回スエーデン展 2—6 上野・松坂屋
 森桂一滞欧スケッチ展 2—7 上野・松坂屋
 多田ヒロシ漫画展 4—8 美松画廊
 備前焼名工作品展 4—9 銀座・松屋
 田中佐一郎個展 4—8 日本橋・丸善
 村松達也野外彫刻展 5—15 大阪天王寺公園植物温室の通り
 日本の原始美術展 5—10月11 神奈川県立近代美術館
 銀二会新作日本画展 5—5 一哉堂銀座画廊
 桂川寛・尾藤豊・中村宏三人展 6—10 村松画廊
 1回赤石賢三個展 6—10 村松画廊
 田辺竹次個展 6—10 村松画廊
 1回阿部久子個展 7—12 文藝春秋社画廊
 1回能間弘秀作展 7—12 養清堂画廊
 福井良之助新作版画展 7—16 日本橋画廊・大阪日仏画廊
 晴日会展(岡鹿和之助、吉岡堅二、山本丘人、脇田和、山口薫、森芳雄) 7—12 文藝春秋社画廊
 小野忠重ミニチュア版画展 7—13 いづみぎやらりい
 小山田二郎展 7—15 東京画廊
 海老原喜之助素描展(スケッチ展シリーズ第29輯)(主催-朝日新聞社) 7—19 銀座・松屋
 9回多賀谷伊徳油絵個展 7—12 中央画廊
 4回深沢幸雄銅版画展 7—13 銀座・サトウ画廊
 1回小原弥緒彫刻展 7—12 横山画廊
 旦彩会展(浮田克躬、江崎寛友、柏木治子、佐野隆人、島戸繁、松浦英章) 7—12 造形画廊

畑勇隆個展 7—12 銀座・サエグサ画廊
 兜屋新作家展(浅生田光司、兵藤和男、菅野功) 8—13 兜屋画廊
 2回九月会洋画展(山田栄二、古茂田守介、村井正誠ほか) 2—13 日本橋・白木屋
 西山英雄、吉岡堅二作品鑑賞展(主催-新星画房) 8—12 中央公論社画廊
 1回包装紙展 8—13 小松ストアギャラリー
 藝術院会員受賞者の秀作による明治・大正・昭和美術回顧展(主催-文部省・毎日新聞社) 8—13 第1会場(絵画)日本橋・白木屋、第2会場(彫刻・工芸・書道)上野藝術院会館
 和田正一画展 8—12 フォルム画廊
 2回涼草会展 8—13 日本橋・高島屋美術部
 集団「30」展 8—13 日本橋・白木屋
 1回石田重子個展 8—13 上野・松坂屋
 新写真画選抜百人展 8—13 池袋・三越
 西陣織物展(主催-京都市西陣織物工業組合、西陣着尺織物工業組合、後援-東京新聞・京都織物卸商協会・西陣織物買継協同会) 8—13 日本橋・三越
 小泉又楽庵作陶展 8—13 日本橋・三越
 日本水彩画展 8—17 大阪市立美術館
 高島野十郎油絵個展 9—12 日本橋・丸善画廊
 藤山コレクション展(主催-鹿児島市・同教育委員会、南日本新聞社、後援-鹿児島県・同教育委員会) 10—10月4 鹿児島市立美術館
 フランコ・アッセルトウ個展 10—現代画廊
 中西夏之個展 11—15 村松画廊
 グループ・ラ・ヴィ展 11—15 村松画廊

新派俳優陶藝新緑社展 11—16 銀座・松屋
 晴映会洋画展 11—16 八重州・大丸
 宮本海洋航空協会展 11—20 いづみぎやらりい
 8回具体美術展東京展 12—13 青山南町・小原会館
 青年美術家協会展 12—17 京都市美術館
 11回横山画廊新人展(江藤環子、藤井多鶴子) 13—16 横山画廊
 佐多勝個展 14—19 銀座・サエグサ画廊
 飯野紀雄個展 14—20 銀座・サトウ画廊
 久里洋二版画展 14—19 養清堂
 織維デザイン展(石井教子、大田公子、永野秀子、小山和枝、荒木保枝) 14—18 美松画廊
 田中善蔵染色展 14—17 日本橋・丸善画廊
 工藤哲巳個展 14—19 南画廊
 五味悌四郎油絵個展 14—19 中央画廊
 創造美術秋季展 14—19 銀座画廊
 2回石心会書・水墨展 14—19 丸ビル、中央公論社画廊
 宮川仁作品展 14—19 造形画廊
 児玉佐規子個展 15—20 兜屋画廊
 田村耕一作陶展 15—20 日本橋・高島屋
 日本銀工藝展(主催-東京都・東京銀器連盟、後援-通産省・科学技術庁) 15—20 日本橋・高島屋
 新装現代洋画展 15—24 日動画廊
 グループしおん展(岩浪弘、大沼映夫、小島俊男、鈴木信雄) 15—20 小松画廊
 九月会日本画展(横山操、大山忠作、福王寺法林、麻田鷹司、稗田一穂、伊東万耀、加藤東一、中村正義) 15—20 渋谷・東横
 1回吉田清志個展 15—19 フォルム画廊
 清環会日本画展 15—20 日本橋・三越
 福島積美日本画展 15—20 上野・松坂屋

美術展覧会(9月)

イタリアの観光と民藝展 (主催=読売新聞社 後援=外務省・イタリア大使館・日伊協会) 15—27 日本橋・三越

横山大観遺作展 (主催=東京国立博物館・国立近代美術館・横山大観遺作展委員会 後援=日本美術院、朝日新聞社、毎日新聞社) 15—10月18 東京国立博物館、国立近代美術館

似顔漫画の会 (主催=漫画協団・後援=朝日新聞社) 15—20

うるみ会展 15—21 なびす画廊

3 回展 16—20 村松画廊

読島庸二絵画作品展 16—30 風月堂

楠本正明個展 16—20 村松画廊

アクセサリー展 (世界と日本の古代から現代まで) 18—24 池袋・西武ホール

蠟型鑄造須賀松園作品展 18—23 銀座・松坂屋

北陸工芸デザイン展 18—24 丸善画廊

創造美術展 18—26 大阪市立美術館

権寧一、江副義之二人展 19—24 樺画廊

2 回豆の木展 19—23 美松画廊

2 回中山久也個展 20—27 ひろし画廊

渡辺文平個展 20—26 中央画廊

EYE 59 展 20—25 銀座画廊

2 回グループLTS展 21—27 文藝春秋画廊

町田光子石版画展 21—26 養清堂画廊

シャガール石版画展 21—27 ギャラリー・ポワン

6 回野田好子個展 (画廊主催) 21—26 フォルム画廊

長谷川彰一展 21—30 東京画廊

1 回ナガキケンシ作品展 21—27 いづみ・ぎやらりい

45 回現代版画展(石版画) 21—26 渡辺木版画店画廊

溜勇個展 21—27 銀座・サトウ画廊

新田耕三、小番つとむ二人展 21—25 村松画廊

9 回視群展 21—25 村松画廊

1 回田沢八甲、佐々木利栄二人展 21—25 村松画廊

4 回河越虎之進山岳風景画展 21—26 丸ビル・中央公論画廊

川村勇個展 21—26 文藝春秋社画廊

里見明正個展 21—26 銀座・サエグサ画廊

江波戸一郎個展 21—30 いづみぎやらりい

23 回新制作協会展 22—10月10 東京都美術館

主要出品目録

日本画

いなぐら 堀文子
黒人歌手ポール・ロブソン 朝倉 摂
石 水 麻田 鷹司
つ る 石 本 正人
風 景 山 本 丘 篁
州 上 村 松 矩
源 秋 野 不 昌
岩 と 信 太 金 一
草 魚 稗 田 久
雷 原 向 井 隆
浜 雲 奥 村 厚
壁 画 試 作 吉 岡 堅
あみもんがら 沢 宏 二
華 山 広 田 多 観
金 福 田 豊 四 津
春 高 橋 周 郎
鳥 加 山 又 桑 造

油 絵

作品 C 風 間 完
回 宮 脇 公 実
生 命 山 東 洋
炎 い 海 山 東 洋
白 い 太 陽 山 東 洋
黒 い 太 陽 山 東 洋
貝 殻 穀 古 茂 田 守 介
貝 殻 と 裸 婦 古 茂 田 守 介
磐 西 村 元 三 朗
堰 西 村 元 三 朗
作 品 A 行 木 正 義
作 品 B 行 木 正 義
作 品 C 行 木 正 義
オルガニック I 桑 田 道 夫

オルガニック II 桑 田 道 夫
せいざ S 丸 山 正 三
みなとまち タ 鈴 木 新 夫
てぶくろ タ 鈴 木 新 夫
ターワー A BURNING MAN 玉 置 正 敏
A BLIND MAN タ
弱 法 師 中 尾 進
太陽と少年 萩 太 郎
歴史 史 タ
白 い 死 タ
まきあみ 若 松 光 一 郎
漁 夫 た ち タ
道 伊 勢 正 義
丘 伊 勢 正 義
聖者デオルジュと竜 角 浩
風 騎 士 像 タ
ドンキホーテ タ
春 は し け 河 三 田 康 彦
運 夜 窓 海 穴 休 石 川 滋 彦
村 の サ ー カ ス 家 村 合 田 小 三 郎
農 山 海 (屏風形式) 坂 井 範 一
丘 (屏風形式) 伊 藤 継 郎
雪 仏 手 と 仏 足 橋 手 と カ ラ ス
仏 手 と カ ラ ス 野 水 ま ひ さ
水 ひ さ 泳 る し
水 ひ さ 襲 壇 文 濫 小 関 利 雄
祭 戒 汎 洪 水 III 田 中 田 鶴 子
作 品 I 田 中 田 鶴 子
作 品 II 田 中 田 鶴 子
作 品 III 田 中 田 鶴 子

作品 N
 働く姿態 1
 働く姿態 2
 休む姿態 1
 休む姿態 2
 飛 天 武 夫
 爵 と 戈
 壇 輪
 飛 翔
 翼
 相思樹の実
 ガル・ド・モン
 バルナスのほと
 りにて
 プールヴァール・
 ド・モンバルナス
 モンバルナス通
 旗のある風景
 シャトル風景
 ルー・ツールネ
 フォール
 失 楽 園 誠
 七 賢 人 達
 賢 人 息
 休 息 物
 静 物
 解 放(はなつ)
 オンフルールの
 港
 自らわなにかか
 った精霊
 朝 の 生
 昼 の 生
 夕 の 生
 生きている壁A
 生きている壁B
 建 築
 リヴィング
 フアーニチュア
 セット
 綜合三菱ショールーム
 横浜シルク博物
 館
 日本楽器国際見
 本市出品デイス
 プレイK氏住宅
 (模型、図ABC)
 都庁(模型、建築
 写真ABCDEF)
 尾崎行雄記念会
 館(模型、図面)
 東宮御所(模型、
 図 ABCDEF)

田中田鶴子
 竹谷富士雄
 シ
 シ
 シ
 内 田 武 夫
 シ
 脇 田 和
 シ
 小 松 益 喜
 シ
 シ
 シ
 シ
 シ
 鈴 木 誠
 シ
 磯 良 平
 シ
 関 口 俊 吾
 田 淵 安 一
 佐 藤 敬
 シ
 シ
 田 中 修
 シ
 山 口 文 象
 剣 持 勇
 シ
 岡 田 哲 郎
 (協力者
 原 沢 東 吾)
 丹 下 健 三
 海 老 原 一 郎
 (招待出品)
 谷 口 吉 郎

彫 刻

海 の 幸
 日本二十六聖人
 記念碑部分製作
 女 の 首
 の け ぞ る
 う つ む
 A の 像
 時 と こ
 ふ だ
 は 工 匠
 本 庄 氏 像
 坐 本 海
 日 潮
 潮 ど も
 こ 尾 崎 喜 入 氏 像
 崎 喜 入 氏 像
 坐 け ら ま り
 か り と 象
 と 象
 類 死 の サ
 トゥール
 あ る く
 エ イ
 う れ
 Dr. 矢 追
 母 子 氏
 N
 ラグアーO君
 若 い 孔 雀
 婦 像
 不 染 汗
 漂 流 2
 姉 妹
 空 の 墓 標
 メ チ タ
 5 回城所昌夫作品 22-27 兜屋画
 廊
 福田新生渡欧作品展 22-27 日本
 橋・高島屋
 村上道太郎染色展 22-27 日本橋・
 白木屋
 NON59展 22-27 池袋・三越
 21回一水会展 22-10月10 東京都
 美術館

村田勝四郎
 舟 越 保 武
 細 川 宗 英
 大 国 丈 夫
 久 保 孝 雄
 村田勝四郎
 早 川 巍 一 郎
 吉 田 芳 夫
 武 次 郎
 芥 川 永 雄
 西 常
 五 十 嵐 芳 三
 伊 東 傀
 菊 池 一 雄
 細 川 宗 英
 土 谷 武 良
 佐 藤 忠 良
 菅 原 安 男
 田 畑 一 作
 山 本 常 一
 岡 本 庄 三
 阿 部 米 蔵
 豊 福 知 徳
 山 内 壯 夫
 石 場 清 四 郎
 22-27 兜屋画
 廊
 日本橋・
 白木屋
 池袋・三越
 東京都
 美術館

主要出品目録

道化師のセレ
 ナード
 一億光年の彼方
 上原美佐さん
 庭 の 一 隅
 アンドロメダ
 天 草 松 島
 ノ サ ッ プ 岬
 能 登 の 海
 麻 生 の 女
 銅 山 風 景
 伊 豆 の 漁 港
 石 鷄 頭 花
 アルチショウ
 踊 り 子
 白 の 岩 山
 女 の 顔
 山 多 摩 川
 東 京 市 街
 少 女 と 花
 立 てる 少 女
 二 い ち ぢ く
 盆 踊 り の 一 隅
 七 村 ヶ 崎 に て
 F 夫 人
 小 樽 港
 銭 函 風 景
 月 寒 の 夏
 初夏白鷺城
 浅 間 山 黎 明
 樹 子 の 人 形
 花 静 物
 山 の 草
 天 山
 天主堂のある風
 景
 バスの通る風景
 腕 を 組 む 女
 椅 上 の 花
 N 君 像
 高 野 三 三 男
 シ
 シ
 シ
 シ
 鈴 木 良 三
 シ
 中 村 琢 二
 シ
 シ
 高 橋 庸 男
 シ
 小 野 末
 シ
 中 村 善 策
 シ
 シ
 池 辺 一 郎
 シ
 深 沢 紅 子
 シ
 池 部 鈞
 シ
 有 島 生 馬
 シ
 木 下 義 謙
 シ
 小 山 敬 三
 シ
 仲 田 好 江
 シ
 シ
 納 富 進
 シ
 シ
 安 宅 虎 雄

美術展覧会(9月)

夏の阿蘇山 田崎広助
 秋の浅間山 シ
 群馬の農夫 福田新生
 錦秋 高田誠
 谷間の町 シ
 アルプスの麓 シ
 婦人像 木下孝則
 読書 シ
 ホームバー シ
 静かなる山湖 (立山) 荒谷直之介
 鏡をもつ裸婦 シ
 こどもと犬 シ
 石井柏亭遺作
 風景 1910
 勝浦港 1953
 エトルリア (水) 1911
 外套を被たる女 (深尾須磨子氏像) 1922
 桑港展望 (水) 1954
 グラナダにて (水) 1912
 蘆花 1945
 箴笥の前 (淡彩) 1918
 妙高山 1953
 画室小集 1949
 木崎湖初夏 (水) 1951
 農村勤労 1952
 片山津浴舎にて (水) 1953
 野尻湖 1951
 ナポリ港 1923
 阿武隈小春 (絶筆) 1958
 善光寺街道 (水) 1945
 雉子柑子 1956
 球場晴雪 (水) 1953
 久慈直太郎氏像 1958
 アスシジ 1923
 芦の湖富岳 1940
 サンミツシエル 1923
 橋畔
 他陶器、著書等
 朝粧図その他遺作
 エ 藝
 山吹 (九谷染付皿) 裕三彩亭
 備前の鉢 藤原啓
 秋草鶏画組皿 酒井田柿右衛門
 地紋牡丹画水指 シ
 備前の壺 藤原啓
 四方花絵花瓶 今泉今右衛門
 瓢形花入 金重陶陽
 石楠花八角皿 今泉今右衛門

花瓶 金重陶陽
 バラ絵折鉢 今泉今右衛門
 天平鉢 金重陶陽
 辰砂魚文平鉢 木下義謙
 花器 金重陶陽
 青九谷平鉢 木下義謙
 緋襷平水指 金重陶陽
 手作り辰砂平鉢 木下義謙
 試作花 シ
 手作り辰砂平鉢 木下義謙
 試作小女と犬 シ
 5 回一陽会展 22—10月10 東京都
 美術館 10月27—11月1 大阪高
 島屋 11月10—16 金沢大和

主要出品目録

絵 画

「原野」より 長谷川三千春
 A小さな部落 シ
 B消えて行く街 シ
 欲び A 飯田慶三
 シ B シ
 象徴詩 近藤長三郎
 近代化された空 片柳忠男
 気の中で A 雨
 B 風
 C 曇
 Twilight 小出泰弘
 裸婦 シ
 花 米良道博
 平面の跡に依る 森由太郎
 構成(壺と花) シ
 平面の跡に依る 森由太郎
 構成(金魚) シ
 雄鳥 シ
 裸婦 シ
 磯 シ
 ノアの家族 棟方寅雄
 (挿絵) 松方寅雄
 魚 松方寅雄
 女 松方寅雄
 雨の日 村上英男
 雨 村上英男
 洋傘の人 野間仁根
 夜々の星 野間仁根
 森の物語 野間仁根
 平和時代への或るモニュメント A 中田豊
 (月と石油化学) (工場)
 土俗 シ
 祭典 シ

聖寂 萩野康児
 街 シ
 窓辺の静物 鈴木信太郎
 札幌北大構内 シ
 熱海来ノ宮風景 シ
 山 鯉利彦
 黄調風景 シ
 緑調風景 シ
 果てしなき存在 指田由米
 存在の一部 シ
 作品 A 沢田重隆
 シ B シ
 シ C シ
 曲馬 沢田正太郎
 一輛車 シ
 チェコの馬 シ
 利根川の冬の夏 高岡徳太郎
 舟 丹下富士男
 静物馬 シ
 仔馬 田辺栄次郎
 提提 提提
 怪 怪
 胎生魚 山路真護
 象を使う男 山路真護
 楽器と女(A) 山谷鉄一
 シ (B) シ
 シ (C) シ
 彫刻
 立像 浅野孟府
 海(セメントレリーフ) 植木力
 少女 シ
 婦人像(テラコッタ) シ
 女(テラコッタ) シ
 待望 伊本淳
 火の記録 中村暉
 双馬と酒神 根本勲
 横臥(木彫) シ
 人身柱(木彫) シ
 二人(木彫) シ
 這う(木彫) 金田忠
 坐す(木彫) シ
 狙う(木彫) シ
 かお(木彫) シ
 岡部政作陶展 22—27 日本橋・三越
 2 回松籙会 日本画展 22—27 上
 野・松坂屋

磯部草丘 日本画展 22—27 日本橋・三越
 マーチン、ブラッドレイ 個展 22—28 なびす画廊
 1 回虹洞会展 22—27 小松画廊
 7 回島田洗耳 日本画展 25—30 銀座・松屋
 1 回有賀孝夫 個展 25—30 樺画廊
 駒田嘉一 道新文人画展 25—30 銀座・松坂屋
 近藤吾朗 湯吹淡彩スケッチ展 25 東京美術画廊
 油絵の十傑展・現代彫刻の十人展 26—10月2 日動画廊
 飯ヶ谷文子、佐々木伸子、大熊周子、坂上忠子、西羅美佐子 五人展 26—10月1 銀座画廊
 3 回異質展 (横田健三、平松輝子、仁科喜夫) 26—30 村松画廊
 6 回グループ・ネオ・エスパース 26—30 村松画廊
 星原満朗 個展 26—30 村松画廊
 グループ彫刻・油絵展 26—10月1 銀座画廊
 行動展 27—10月7 大阪市立美術館
 有秋会 日本画展 27—10月7 大阪市立美術館
 宮脇憲三 個展 28—10月3 文藝春秋社画廊
 高森茂夫 個展 28—10月4 銀座・サトウ画廊
 東義雄、弦田英太郎 二人展 28—10月4 いづみ・ぎやらりい
 山口源版画 個展 28—10月3 養清堂画廊
 虹会 油絵展 28—10月10 造形画廊
 藤本堯子、山崎勢津子 二人展 28—10月3 中央画廊
 宮坂昌夫 個展 28—10月3 ひろし画廊
 阪倉宣鴨 個展 28—10月3 文藝春秋社画廊
 彼末宏 個展 28—10月3 銀座・サエグサ画廊
 4 回新作漆画展 (主催-日本漆画会) 29—10月4 日本橋・三越
 5 回笹島喜平版画展 29—10月4 日本橋・高島屋

山口亮一 画展 29—10月8 日比谷画廊
 青季会 展 29—10月4 日本橋・高島屋
 窪部焼新 作展 (主催-愛媛県・伊予陶磁器協同組合) 29—10月4 日本橋・三越
 小林清栄 展 (三重の観光と物産展) 29—10月5 日本橋・三越
 松田正平 個人展 29—10月3 フォルム画廊
 5 回矢野鉄山 日本画展 29—10月4 日本橋・三越
 3 回高沢万起 個展 29—10月4 兜屋画廊
 五人展 (中西夏子、横山明弘、加藤良子、山本信子、坂井淑子) 29—10月4 小松ギャラリー
 黒沢梧朗 個展 29—10月3 美松画廊
 帰山薫 新作 陶展 29—10月4 渋谷・東横
 飯田実 個展 30—10月5 三省堂画廊

10 月

くりくりグループ染織展 1—11 日本橋・高島屋
 5 回古川吉重 個展 1—5 村松画廊
 春陽会 13 人展 1—5 村松画廊
 グレイ・エンド・グレイ 展 1—6 樺画廊
 2 回小原義也 個展 1—6 樺画廊
 北岡文雄 版画作品展 1—15 風月堂
 明治、大正、昭和三代名画展 (主催-朝日新聞社、東京国立博物館、後援-国立近代美術館) 第一会場(日本画) 1—11 上野・松坂屋
 第2会場(洋画) 2—11 銀座・松坂屋 日本画家 91 人、洋画家 107 人の作品を陳列
 二芽会 展 1—10 みつぎざやらりい
 9 回新興美術秋季展 2—5 銀座・松屋
 馨香同人展(前衛書道) 2—7 銀座・松坂屋

彩光会 日本画展 2—7 八重州・大丸
 石橋清治 個展 2—7 銀座画廊
 AKSA グループ 展 2—7 銀座画廊
 小松清 個展 3—10 プランシェ画廊
 勅使河原蒼風・宏二人展 4—7 草月会館
 青紀会 展 4—8 美松画廊
 画廊開設水彩、版画推薦展 5—9 港区芝新橋・新橋画廊
 ミロ版画展 5—11 ギャラリー・ボワン
 岩崎巴人 展 5—10 東京画廊
 矢野誠一 回顧展 5—10 文藝春秋画廊
 2 回井上悟 個展 5—10 銀座・サエグサ画廊
 1 回岡秀四郎 油絵 個展 5—10 養清堂画廊
 1 回西条紀子 洋画 個展 5—10 櫛の木画廊
 鶴沼あひる 会 展 5—10 丸ビル・中央公論社画廊
 もーぶ 淡色 展 5—10 中央画廊
 田中不二夫 個展 5—11 銀座・サトウ画廊
 渥美英峰 門 日本画部会 展 6—11 新宿・三越
 3 回七三会 日本画 展 6—11 日本橋・白木屋
 狩野芳崖 展 6—30 藝術大学
 7 回稀星会 油絵 展 6—11 日本橋・高島屋
 鍋木清方 下絵・写生 展 (松屋画廊スケッチ展シリーズ第30輯)(主催-朝日新聞社) 6—14 銀座・松屋
 2 回藤井令太郎 個展 (ドン・キホーテを主題とした連作) 6—11 兜屋画廊
 望月義晃、豊島壮六 展 6—10 村松画廊
 VIVAN 展 6—10 村松画廊
 7 回鳥取民藝協団 新作 展 6—11 渋谷・東横
 横溝洋・榎原仁 二人 展 6—11 画廊ひろし
 工藤光園 展 6—11 日本橋・白木屋
 研美会 展 6—11 日本橋・白木屋

美術展覧会(10月)

高橋弘二個展 6—11 上野・松坂屋
長沼孝一、四本貴資、柚木沙弥郎3人染色展 6—11 小松ぎやらりー
6 回日本伝統工芸展 (主催-文化財保護委員会、東京都教育委員会、日本放送協会、日本工芸会、朝日新聞社) 6—18 日本橋・三越
蕭繁宝水墨画展 6—11 日本橋・三越
藤原啓備前焼作陶展 6—11 日本橋・高島屋
立花みどり個展 6—12 なびす画廊
平櫛田中個展 6—11 日本橋・高島屋
原貝次郎個展 7—12 櫛画廊
グループ行列展 8—13 銀座画廊
2 回染々会グループ展 8—13 銀座画廊
2 回児島善三郎自選展 (名作シリーズ)(主催-朝日新聞社) 9—21 銀座・松屋
43回龍駿介富士油絵展 9—14 銀座・松坂屋
丹桂会日本画展 —9 新宿・伊勢丹
2 回中村英子・山寺重子2人展 11—17 ひろし画廊
和気史郎、青木節子2人展 11—15 村松画廊
北形きよし、北山泰斗2人展 11—15 村松画廊
池田竜雄個展 11—29 画廊ひろし
大瀨武夫遺作展 11—15 みつぎぎやらりい
中野越南個展 —11 神田・大安画廊
飛永頼節個展 12—18 銀座・サトウ画廊
須磨弥吉郎個展 12—18 ギャレリー・ボワン
牧野邦夫個展 12—18 いづみ画廊
第1回基俊太郎造庭作品展 12—14 日本橋・丸善画廊
藤井悠紀子個展 12—17 養清堂画廊

岡本半三個展 12—17 文藝春秋社画廊
伊藤敏博個展 12—17 中央画廊
新宮晋個展 12—17 銀座・サエグサ画廊
22回自由美術展 12—30 東京都美術館

主要出品目録

多摩丘陵 松永浩二郎
多摩川 幸丸辰門
猫と魚形 栄永大治良
作業終つて 広田嘉子子
母 清登崎太三郎
景 寛 中野淳
俊 剋 島鉄生
相 い 人 古木茂雄
黒 話 中山一郎
泥 古風な景色 久保田九一
童 母子像 砕石工場
女 砕石工場 砕石工場
赤いフライパン 尾内健治
人々と煙突 森芳雄
劫 火 早川薫太郎
カ ラ ス 岡本実
腕 風 接近 戸津勇作
風 景 山田光春
モロザキの漁船 原田肇
夜 学 杉原清司
聞 く 人 松本正子
勤 続 30 年 加藤一
青 い 藤沢喬
魚 婦 麻生三郎
裸 婦 景 中島保彦
風 景 佐藤吉彦
母 子 藤橋誠滋
家 族 八橋誠滋
ウインの寺院 南園義博
ホエフの寺院 佐藤吉彦
骸 佐藤吉彦
偶 入橋誠滋
遣 物 南園義博
浮 沈 関戸伸
は し け 関戸伸

礎 泊 関戸伸
祖先の像・男 松野庸子
祖先の像・女 金井信一
A 金井信一
B 田中朝吉
人・人 長野誠之助
あわい足音 浜田方一
石 石 小野忠弘
セキシタントマ テリアル 小野忠弘
オメガの天 金野宏治
作 品 小野州一
作 品 ラリ 秀島任二
カザリ 伊藤昭男
虫 品 鶴岡政憲
作 品 風坊原 井上照子
台 専 風 井上照子
東 川 風 小野木学
川 風 戦 史 三井滋夫
風 残 作 品 I 羽田重亮
残 作 品 II 吉江新二
PASTRAL 作 品 B 江見崇
作 品 A 田原史
おどる 木 境野一之
木 と 月 小 林良曹
風 貌 窓 2 川口精六
次 の 窓 2 田中健三
作 品 1 安部毅
作 品 品 矢崎甲子夫
夏夜の湖畔 月 塚谷政義
作 品 月 林田セツ子
九十 話 豊田一男
対 作 品 西田信一
昼と夜 市村力
船 蟹 小貫政之助
蟹 女 あ り 安部真知
街 (B) 難波田竜起
街 (A) 難波田竜起
黒 い 面

面 A B I I 点
 い 品 品 品 品 差
 品(赤) 品(黒)
 7 切 な 笑 ふ に
 品(僧) 品(祈り)
 子 島 の 屋 声 像
 ク 景 話 蝕 い
 こ ガリガリモウモ
 終 審 査 港 飼 物 束 牛
 い 花 の
 い の 頭 と 静 物 籠 と 静 物
 オ ク ラ
 と 子 と リンゴ
 き と 青 の 年 風
 あ ば ら の ある 裸 婦
 き い ろ い 裸 婦

終 未 の 記 録
 草 む れ
 操 つ ら れ た ビ
 マ ン ホ ー ル 者 者
 勞 勞 人 叫 大 蹴 静 静 月 野 風 家 岩
 生 狂 言
 イ ー ハ ト ー ヴ
 残 さ れ た 抵 抗
 青 か 積 偶 生 芽 実
 間 あ の の の
 物 月 月
 祭 木 風 反 お こ つ い る 人 迷
 OKHOTSK
 沈 め る 舟
 鳥 流 れ る 線 月
 白 い P 壇
 作 品 59 の
 天 能 古 典 と 近 代
 有 る 気 体 中 の 物
 質 群 座
 黄 風 像 像

忠 二 稔 奎 義 顯 郎
 井 菅 木 良 重 八 郎
 吉 小 鈴 曹 谷 中 西 塩 清 佐 中 八 渡 井 高 サ イ ト ー ・ ト シ
 末 青 平 比 峯 早 上 稻 上 八 柿 倉 山 大 平 清 文 藤 松 石
 鶴 の 舞 (アイヌ 民踊)
 作 風 雪 作 作 ハ ド ン キ ホ ー テ 人 無 彫 刻
 ト 坐 作 お お 城 青 青 列 喰 セ キ シ タ ン ト ・ マ テ リ ア ル
 裸 作 凸 白 い ト ル ソ 男 充 試 作 (イ カ ー ル) 進 痕 氏 氏
 傷 S T 渠 た て ひ ざ 像
 座
 27回独立展 12-30 東京都美術館
 主要出品目録
 山 山 山 二 つ の か た 想 光 養
 幻 青 の 讀 える 饗
 自 由 を 讀 える 饗
 白 と 黒 作 品 (B)
 小 荒 加 森 西 高 西 村 保 史 郎
 谷 木 納 田 良 三 郎
 博 道 敬 正 治 郎
 貞 夫 次 明 司
 松 本 光 司
 安 藤 士 雄
 喜 久 夫 夫
 野 文 子 雄
 昭 治 弘
 忠 弘
 実 夫 吉 恒 満 二 孝 弘 隆 道
 清 信 茂 岬
 森 木 内 正

美術展覧会(10月)

青と紅 白と黒作品(A)	山本正	けし 潮の岬	志村計介	丘と流れ 丘と水	松島正幸
雨(B)	板井浜江	西伊豆	赤堀佐兵	裸(B)	菊地精二
雨(A)	中村善種	遺跡と鷹	島村三七雄	裸と鳥	高間惣七
黒い絵	芝田米三	祇園飼	久保一雄	海蝶	熊谷登久平
白い絵	松崎真一	八坂頭	中村節也	河口	鈴木亜夫
文宇	坂本善三	小な漁港	大久保泰	古き燈台	鈴木芳男
草とはりねずみ	山道栄助	浅瀬船のある風景	妹尾正彦	北海山湖(摩周湖)	青柳暢夫
老鹿、若鹿	赤星孝	火口壁	小林和作	アイヌの長老	池島勘治郎
黒鹿	斎田武夫	殺生河原記行	野口弥太郎	地球岬	仲村一男
ダイヤモンド(C)	入江一子	早朝の真鶴	林武	歌う老人	松島鈴子
ダイヤモンド(A)	小島善太郎	三月堂のヴィナス	鳥居敏文	合唱	矢崎牧広
ダイヤモンド(B)	菅野恵介	白雨の熱海	佐川敏子	演奏	松島一郎
静物(A)	児島善三郎	裸婦と笛吹き	小出三郎	紋(C)	全田たけを
壁(B)	高島達四郎	裸婦と木洞	織田彩子	紋(A)	横地康国
建物	高島達四郎	秋芳洞	清水鍊徳	紋(B)	松島一郎
静物(B)	鈴木保徳	火口壁	斑目秀雄	テシコトの舞	今井憲一
川辺	須田国太郎	館の雨	狭間二郎	還城楽(2)	妹尾正雄
海立つ顔	中山巍	裸を持つ少年	松島正幸	かがし	
二つの顔	西田藤次郎	氷上の魚		ギター弾く男	
トルソ		入海		ギター弾く男	
合奏		海		(A)	
音		諫早の眼鏡橋		対決	
ドンキホーテ		日蓮聖人像		生争	
森のなか		揺り椅子に座す女		北国の抒情(Ⅲ)	
はなはま		壁の修理		北国の抒情(Ⅰ)	
すとるか		家の修理		北国の抒情(Ⅱ)	
南伊豆風景(B)		飛んでいる鳥		異邦人と女	
晩秋		黒い鳥		混血児に寄せる	
夏		夜が明けてくる		何故白くならない	
秋		裸		室戸(B)	
青		京都東山		室戸(A)	
熱花		裸		パリの街	
熱道		洋蘭など		サン・ジェルマン・ロクセロワ	
花と浅間山		かれひ・蝶		サン・テチエンヌ・デュ・モン	
遠い鳥		ニコライ堂		プラス・サン・タンドレ・デ・ザール	
追はれる鳥		街		壁と雲	
黙す鳥		虹		村	
鉢		港・運河(横浜風景)		村	
三彩鉢と桜実		海		生誕(右)	
或肖像		或る記録(C)		生誕(左)	
船着場(A)		或る記録(A)		光芒	
船着き場(C)		或る記録(B)		夏の焼岳	
船着き場(B)		木立と川			

梓雪戯放静窓 トウキョウタワ ー地採季恋野女曼曼海突雪追街卓作作森溝牧農 川の大秋山れ題物辺 上石風達花ち 節と鳥羅(1)羅(2) 浜堤道惜れ上 品(1)品(2)品(3) のうた 舎と車場 13回二紀会展 12-30 東京都美術館	妹尾正雄 田中行一 堀之内一誠 水島清 宇根元 足達裏 鳩川誠一 加藤陽 斎藤求 宮崎精一 江川平三 藤岡一 井上寛信 伊藤彪 12-30 東京都美術	ノッサ クシ 行進 原始(開) 原始(叫) 鼓動 崩壊する鬼ヶ島 雷と鳥 髪彫連 品B・S 作品Y・W 野菜 白群 千拓地 アトリエの玩具 アトリエ 石仏 湖ドック 食食物 雪建日物 赤い堀 ある家族 礼拝への道 泉の群 獣の台座 雑草の塔 ザクルシフショ カタコンブ ローマのイメー ジ 起源 繋がり 作品I 作品II 待合室 ステーション プラットフォーム コーヒー園(ブラジル) リオデジャネロ 熱海ホテル附近 花花 村 村	小島真佐吉 シ 岡田登志男 シ 中西勝 シ 山口操助 シ シ シ シ シ 横井礼以 佐々木孔 島岡実 久野修男 秋保正三 築山節生 葎野正雄 鳥取敏 シ 森英 シ 近藤嘉男 熊野俊一 西村功 栗原信 シ 佐伯米子 土岐国彦 シ	マジョルカ島の 夢 マジョルカ島の 女 流水(手取川) 流水(裾花川) 流水(手取川) 流水(犀川) サカス 絵を描く女 画象 字画墨象 山の砂礫地帯 山の幻想 連山 さいちよう ほろほろちよう 霊島 長崎商館のバル コン 彩光(天主堂の 一隅) 和蘭陀屋敷のテ ラス 月と富士のある 風景 人物 長崎家(三菱炭 鉱クラフ) 薔薇と果物 夕霽れの湖 溪間に残る雪 窓による姉妹 光堂 紅芙蓉と少女 縁側の静物 静物 ルリコ像 白い船 砂浜 風物B バベルの塔B 風物B エジボス エタナイ カイン 新人讃歌 蝕日 秋鳥 逢沈	田村孝之介 シ 宮本三郎 シ シ シ 成井弘 シ 峰岸義一 シ 中野安次郎 シ シ 津田周平 シ 大兼実 シ シ 中川紀元 シ 鍋井克之 黒田重太郎 シ 正宗得三郎 シ シ シ 大石俊彦 シ 市野長之介 シ 浜田信 シ 加藤敏子 シ 青木寿
---	---	---	---	---	---

美術展覧会(10月)

支 青 木 寿
働 く 人 山 田 等
子 供 と 牛
【彫 刻】
女 (り) 堀 義 雄
女 (ち) シ
擬透明体5二つの曲面
演若達多(おのが面をさがす)
座 像 長 野 隆 業
立 像 水 野 欣 三 郎
ポ ー ズ 長 谷 川 八 十
よこたわる女 小 島 弘
ある角度 丹 羽 康 晴
若 い 人 滝 川 美 一
女王+トルソー 松 村 外 次 郎
シルクドチエコ
FIGURE 菅 沼 五 郎
ど ん 斎 藤 聖 香
想 八 柳 恭 次
鳥 坂 上 政 克
生 誕 中 川 為 延
横 臥 真 鍋 忠
マグノリヤ(鳥と女) 新 谷 秀 雄
相 対 シ
クツシャ作品展 12—24 南画廊
4 回染彩画公募展 (主催 日本染織作家協会) 13—18 池袋・三越
6 回白樹会彫塑展 13—18 日本橋 白木屋
伊藤研之個展 13—18 兜屋画廊
静岡県優良木製品展示会 (主催 静岡県諸市) 13—18 日本橋・三越
6 回県会展 (山本丘人、小倉遊亀、吉岡堅二) 13—18 日本橋・高島屋
実在染色展 (実在染色工芸集団) 13—18 日本橋・高島屋
国松登油絵個展 13—17 フォルム画廊
諸大家秀作小品展(主催-国際美術社 安岡公一) 13—15 大手町・産経会館
グループD展 (此木三男、林忠正、鈴木森繁、高橋進、吉田孝次郎) 16—18 小松ギャラリー
松原亜也フオート・スクラッチ展 13—18 樺画廊

池田勇八彫塑展 13—18 渋谷・東横
デザイングループ25時展 13—19 なびす画廊
三浦竹軒作陶展 13—18 日本橋・三越
安西啓明・小島鼎子2人展 13—18 日本橋・三越
曜玄会会員展 13—18 池袋・三越
行動展 13—25 京都市美術館
九品庵展 —13 日本橋・壺中居
3 回大地展 (橋本博英、吉田正明、知見昭男、中村清治、佐藤章太郎) 14—19 銀座画廊
新制作協会全国展 15—25 大阪市立美術館
藤井多鶴子油絵作品展 16—31 風月堂
3 回岩田重義・野村久之・楠田信吾・棚橋文子・浜田泰介5人展 (日本画) 16—20 村松画廊
和田徹個展 16—20 村松画廊
8 人の会展 16—20 村松画廊
1 回青炎会展 16—21 銀座・松坂屋
14回第1グループ絵画展 16—20 日比谷画廊
現代名匠彫塑展 16—21 八重洲・大丸
河尻隆次個展 16—20 みつぎ・ぎやらりい
3 回建築祭これからの住居と新建材展(主催-産経新聞社・東京建設関係団体連合会 後援-通商産業省・運輸省・建設省・東京都・日本建築学会・東京建設業協会・東京建築士会・フジテレビ・ニッポン放送・文化放送)16—25 東京タワー広場
小川緑個展 —17 造形画廊
3 回グループ展 (青木一美、菅原和夫、石井豊太、泰克彦、臼井義雄) 18—22 画廊ひろし
古沢岩美個展 19—24 養清画廊
小野未個展 19—31 東京画廊
今井繁三郎油絵個展 19—24 銀座 サエグサ画廊
黄土会展 (川本久・窪田真規・久田弘) 19—28 美松画廊

福井敬一・松村禎夫ドンコー2人旅スケッチ展 19—25 いずみ画廊
4 回古川惇個展 19—24 樺画廊
高橋甲子男個展 19—25 銀座・サトウ画廊
8 回新工人展 19—24 文藝春秋画廊
1 回新紀美術協会展 19—23 港区 芝新橋・新橋画廊
長谷川利行遺作小品展 16—24 東洋美術館
五十嵐二郎・荒木省三・服部裕子3人展 19—24 中央画廊
新挿画集団展 —19 三省堂
吉田重郎個展 19—24 文藝春秋社画廊
萬鉄五郎展 (異色作家展シリーズ第15回)(主催-毎日新聞社) 20—25 渋谷・東横
2 回五友会展 (小松久子、佐渡多市、田屋幸男、難波堅爾、新倉政英) 20—25 小松ギャラリー
8 回川合修二作陶展 20—25 日本橋・島高屋
橋本三郎作品展 20—24 フォルム画廊
三岸好太郎・淡彩遺作展 20—25 兜屋画廊
安藤光一・中島正雄クラフト小品 20—11月1
オイルメン美術展 (主催-オイルメン美術連盟 後援-石油文化社)20—25 銀座画廊
靖国神社展 (創立90周年記念) 20—25 日本橋・三越
石川県美術工芸展 20—日本橋・三越
クロード岡本近作展 20—25 新宿 伊勢丹
桑原宏個展 —20 歌舞伎座前・北海道ビル
13回新しき村美術展 20—25 日本橋・三越
メキシコ民藝展 20—25 日本橋・高島屋
風霜会日本画展 20—25 日本橋・三越
石井弥一郎個展 20—23 日本橋・丸善画廊

木内岬・久保孝雄彫刻展 21—25 村松画廊
 宗肇油絵個展 21—25 村松画廊
 3 回久保田すみ子個展 21—25 村松画廊
 飯島一夫個展 22—31 大阪・フジカワ画廊
 17回あひるの会展 22—27 池袋・西武SSSホール
 淡紫会日本画展 22—27 池袋・西武SSSホール
 素仙洞日本画展 23—28 銀座・松屋
 3 回スポーツ藝術展 (主催-日本スポーツ藝術協会・朝日新聞社 後援-文部省・日本体育協会) 23—28 銀座・松屋
 伊藤竜雄バステル画展 23—28 銀座・松坂屋
 春光塾人形展 23—28 池袋・西武新富会日本画展 23—28 八重洲・大丸
 4 回座標グループ展 24—29 神戸三越
 ヨーロッパ巡回棟方志功展 (主催-国際文化振興会・日本民藝館・国立近代美術館 後援-外務省・毎日新聞社) 24—11月8 国立近代美術館
 8 回葵会展 24—29 日本橋・丸善画廊
 琉球近世工藝展 (主催-財団法人シルクロード・ソサエティ 後援-朝日新聞社) 24—28 港区芝高輪光輪園内シルク・ギャラリー
 池田竜雄個展 24—29 画廊ひろし
 友達3人展 —24 神田・神保町新村堂
 内藤圭介個展 25—30 櫛画廊
 福本智雄個展 25—30 櫛画廊
 太宰澄個展 26—31 文藝春秋社画廊
 3 回知求会展 26—31 銀座画廊
 吉田政次版画展 26—31 養清堂画廊
 今洋子個展 26—11月1 いづみぎやらい
 富ノ井政文展 26—11月1 銀座・サトウ画廊
 堀尾実個展 26—30 村松画廊
 中山正個展 26—30 村松画廊

園三千恵個展 26—30 銀座・サエグサ画廊
 中村健一郎個展 26—30 村松画廊
 クロペロ個展 26—11月2 南画廊
 中島つとむ個展 26—31 中央画廊
 青木浩展 26—31 銀座画廊
 二科展 26—11月13 大阪市立美術館
 3 回藤本かまり個展 27—11月1 兜屋画廊
 山崎隆夫・植木茂2人展 27—11月1 日本橋・白木屋
 杉浦非水新作日本画展 27—11月1 日本橋・三越
 日本画・洋画デッサン20人展 27—11月1 渋谷・東横
 風樹画社展 27—11月1 日本橋・高島屋
 児玉希望新水墨画展 27—11月1 日本橋・高島屋
 佐久間藤太郎作陶展 27—11月1 日本橋・高島屋
 宇治山哲平個展 27—11月7 フォルム画廊
 六人展 (織田広喜・桜井浜江・中川力・成井弘・野村千春・松本重雄) 27—11月1 小松名店街ギャラリー
 ビュッフェ展 (主催-朝日新聞社 後援-フランス大使館・サントル・デュ・リーブル・フランス) 27—11月1 日本橋・高島屋
 県治朗近作展 27—31 弥生画廊
 大竹省二写真展 28—11月3 富士フォート・サロン
 5 回女子美幸にかわ絵グループ展 29—11月2 美松書房画廊
 7 回古城弘個展 30—11月3 画廊ひろし
 3 回三様会日本画展 30—11月4 銀座・松屋
 空間造型シリーズ第1輯清家清 30—11月4 銀座・松屋
 山下勝彦個展 31—11月5 櫛画廊
 美術文化秋季展 31—11月4 村松画廊
 高見泰三個展 31—11月5 櫛画廊
 123 会展 —31 東電サービスセンター

小野末展 —31 銀座・東洋画廊

11 月

山口勝弘・上村宏幸油絵作品展 1—15 風月堂
 鬚光展 1—3 一橋大学
 万人の為の展覧会 1—10 大阪・フジカワ画廊
 大沼真呂個展 1—10 横浜市中区横浜画廊
 中村憚(遺作)・中林左千夫父子展 1—6 銀座画廊
 野口弥太郎・柳原義達・鳥海青児・辻晋堂展 1—12月20 鎌倉近代美術館
 柴垣星個展 1—6 銀座画廊
 祥島大虚竜生展 1—6 銀座画廊

2 回日展 (主催-社団法人日展) 1—12月6 東京都美術館

主要目録

主要出品目録

略 号

(顧).....顧	問
(理).....理	事
(監).....監	事
(招).....招	待
(評).....評	議 員
(会).....会	員
(審).....審	査 員
(委).....委	品 委 嘱 者
(無).....無	鑑 査
(文).....文	部 大 臣 賞
(特).....特	選
(白).....白	寿 賞
(苞).....苞	竹 賞
(北).....北	斗 賞

日 本 画

遊 園 地(委)	三 谷 青 子
羅 庭(無)	加 倉 井 和 夫
踊 子(特・白)	高 木 義 夫
溪 澗(特・白)	谷 野 圭 一
少 女(特・白)	森 緑 翠
津 軽 の 浜(特・白)	佐 藤 罔 夫
間	(委)白 鳥 映 雪

美術展覧会(11月)

風 船(委)堂 本 元 次
舞 子(委)中 村 正 義
彎 曲 する 管(委)山 本 知 克
路 (無)山 口 吉 三 郎
虹 (委)加 藤 東 一
嶺 (委)鈴 木 竹 柏
蜜 柑 実 る 島(委)堂 本 阿 岐
彩 秋(委)尾 山 萬 耀
室 内(審)伊 東 台 兄
流 紋(委)浜 田 大 華
隼 (審)猪 原 太 清
寂 (審)佐 藤 申 吾
麓 (会・審)山 田 明 治
月 庭(評・審)橋 本 山 雄
桜 島(評)西 山 英 次
風 霜(評・審・文)麻 田 碧
風 景(評・審)我 谷 十 糸
蝶 (会・審)三 浦 田 正
浦 内(委)立 石 春 美
室 識(委)大 山 忠 作
童 子 (会)加 藤 晨 明
苑 林(会)矢 野 鉄 山
松 居(評・審)寺 島 本 明
仲 人(評・審)森 田 本 伊
麦 い 人(評)堂 理 小 野
若 覚(理)海(理)小 野 華
知 り 日 の (評)山 口 楊
曇 い 沼(評)加 藤 栄 三
猿 沼(評)兄 玉 希 望
青 (評)痴(理)伊 東 深 水
道 痴(理)日(会)川 本 末 雄
愚 日(会)橋(評)三 輪 晃 勢
冬 橋(評)望 月 春 江
古 欄(評・審)望 月 春 村
棕 道(評)矢 野 子 光
峠 礁(会)曲 吉 田 登
岩 桃(会・審)川 崎 小
仙 韻(評)池 田 遙 観
静 (評)浜 田 正 巳
波 曲(評)岩 藤 桑 乙
晨 果(委)遠 藤 主 税
南 雲(委)関 楯 彦
採 照(委)菅 橋 彦
嶺 船(会)菅 橋 彦
残 木(招)西 沢 笛 敵
金 比 羅 船(会)菅 橋 彦
泰 山 木(招)西 沢 笛 敵
そ て つ(委)常 岡 文
シニョリーナ・(委)長 谷 川 路
マスカン

鯉 (委)田 之 口 青 晃
明 粧(会)梶 原 緋 佐 子
鷗 (委)晶 山 錦 成
室 生(委)水 野 深 草
虹 鯨(委)松 浦 満 次
薄 暮(委)森 戸 国 孝
薬 師(会)江 崎 孝 一
汀 (委)野 村 川 義
礁 (特・白)石 川 青 茲
団 樂(委)野 島 自 然
岳 (会)嶋 谷 山 辰 怪
白 浜(無・特・白)村 山 元 宋
白 翳(評)高 山 魁 宋
仮 象(評)杉 山 元 宋
暮 潮(評)東 山 元 宋
嶽 亦 奇(委)白 井 烟 一
山 ね む る(会)近 藤 浩 一
薬 師 花 会 式(委)生 田 花 朝
夏 雲(委)松 本 姿 水
岳 (委)下 保 昭 子
光 と 翳(委)田 代 正 文
堰 (委)沢 野 富 治
鹿 法 僧(委)中 谷 光 道
仏 光(委)松 元 硯 夫
寂 光(委)水 田 井 香
崖 と 姥(委)堀 鈴 木 朱
尉 陣(委)勝 田 永 芳
内 瀑(委)橘 田 翠 光
階 杉(委)加 藤 美 代
懸 山 原(委)中 野 草 雲
北 磐 梯 高 原(委)中 野 草 雲
暮 ね な づ む 八 ヶ (委)中 野 草 雲
岳 動(委)小 川 翠 村
波 燭(委)亀 割 玲 隆
谿 目(委)山 口 玲 隆
赤 牛(委)榎 崎 洙 雀
闘 鮎(委)山 本 紅 雲
む れ る 鮎(委)幸 松 春 浦
夕 潮(委)幸 松 春 浦

西洋画
祭 の 日(会)森 田 茂
海 と 雪(委)日 原 晃
ア ビ ラ(委)小 川 博 史
受 胎 告 知(委)川 口 雄 男
母 と 子(会・審)高 光 一 也
楚 歌(会)笹 岡 了 一
滝 野 関 竜 灘(評)小 山 敬 三
少 女 像(評)中 野 和 高

海 港 秋(評・審)中 村 善 策
高 西 風(会)井 手 宣 通
一 ノ 谷 の 家(会)西 山 真 一
漁 船 と 海 女(会)金 沢 秀 之
ジブシー小屋の射的場(パリーに(委)阪 倉 宜 暢
て)

ヨ ッ ト 浮 ぶ(審)藤 本 東 一 良
湘 南 風 景(委)大 内 田 茂 士
あ ら べ す く(委)高 田 正 二 郎
手 風 琴(委)平 松 一 讀
舞 鳩(委)堀 田 清 一 治
裏 街(会)堀 保 兵 次 郎
秋 初 月(委)新 保 健 三
ヴェトニユの古(会)檜 原 彦
アトリエにて(委)泉 治 彦
修 道 女(会)笹 鹿 彰
卓 上 静 物(会)渡 辺 浩 三
楽 器 を 持 つ(委)飯 田 弥 生
兄 島 半 島(委)青 地 秀 太
白 い 船(特)岡 崎 勇 次
花 模 様(会)光 安 浩 行
山 湖(会)高 田 誠 男
十 号 地(特)浅 井 光 雄
天 主 堂 と 海(委)大 津 鎮 哉
秋 丘 (委)樋 口 一 郎
裸 婦(委)山 田 原 輝
天 燈 鬼(会)田 原 精 二
ふ ら め ん こ(委)永 藤 四 郎
二 重 の 魚 槽(会)伊 藤 又 三
夕 風(委)長 屋 利 平
緑 庭(委)辻 井 弥 一
卓 上 静 物(会)岩 野 三 三
躍 子(評)耳 野 卯 三
静 物(評)流(順)金 山 平 三
溪 流(順)中 村 琢 二
画 室 の 女(評・審)中 村 鍋 三
室 内 少 女(評)鬼 頭 鍋 三
渡 辺 夫人ノ像(理・審)山下 新 太 郎
楠 若 葉(理・審)辻 永 一
緑 の 中(理・審)中 村 研 一
芦 之 湖 朝 陽 故 石 井 柏 亭
浜 の 長 老(評)池 部 釣
婦 人 像(評)木 下 孝 則
雨 や む(評)小 絲 源 太 郎
尼 僧(順)中 沢 弘 光
稻村崎と自転車の少女(理・審)有 島 生 馬

裸婦(評・審)寺内万治郎
 静物(故)斎藤与里
 M子像(評・審)田中繁吉
 燈台の見える
 (監・審)石川寅治
 光秀(猿之助)(理)長谷川昇
 秋の山(評・審)小寺健吉
 裸婦(委)村岡平蔵
 溪流(会)大河内信敬
 大吹岬(会)吉村芳松
 旗のある風景(委)桜井悦雄
 外套の女(委)安宅進
 海辺の道(会)納富新一
 山荘晩夏(会)山田朗夫
 山その二(委)辻武平
 ギターならす(委)渡辺亮正
 南の室(会)緒藤文雄
 雪の農場(特)伊藤清永
 奈良博物館(委)朝比奈三斗
 背裸(会)伊藤有馬知治
 朝すゝ(会)三上宇三郎
 木曾谷小景(評)伊原宇三郎
 アトリエ(評)伊原宇三郎
 萩咲初む(評)鈴木千久馬
 冬(招)東郷青児
 林檎園(招)鈴木信太郎
 バリー島おどり(会)南政善
 武蔵野の路(評)奥瀬英三
 春雪(会)倉員辰雄
 市場の魚店(評)大久保作次郎
 漁村(会)山下忠平
 「さるとりいば」のある静物(会)大沢海蔵
 境(評・審)佐竹徳夫
 ばち(会)土佐林豊人
 蓮(審)胡桃沢源繁
 スペインの旅(評)新道繁
 静春(評・審)山喜多二郎
 鎌倉山風景(理・審)川島理一郎
 高麗湿原(評・審)文田村一男
 黒衣(評)森田元子
 英彦山(審)福田新生
 陰山先生(評)江藤純一
 樹林(評)佐藤一章
 庭(審)島野重之
 夏の朝(会)河井清一
 夏の午後(委)高宮一栄
 来信(委)辻村八五郎
 鳩と少女(委)藤江理三郎
 黒い網(委)杉村惇

雪暮れ(委)小林易夫
 晩夏(会)平通武男
 群鶏(特)清原啓一
 座像(委)江藤哲彦
 佐世保(委)山口猛定
 人達と牛(委)西村恕清
 フレンツエ(委)遠山清
 白い楽器と娘た(委)柳瀬俊雄
 吹きぶり(委)矢島堅土
 池畔(会)小早川篤四郎
 裸婦とゴムの木(委)石本秀雄
 卓上の静物(特)井上和一
 裸婦(委)田中実敬
 二人(特)根岸達海
 燈ともる中島(委)河井忠利
 法界寺阿弥陀堂(委)松田正子
 愉しい煙突(委)樽喜久子
 雪溪(委)西村英一
 午後の部屋(特)梶田徳衛
 卓と椅子(委)金子瀬功
 北国の春(委)広瀬義郎
 トルソと女(委)足代士一
 B家の娘達(委)大島徹
 マドリッド郊外(委)深谷吉次
 家族(委)庄司端敏
 埠頭(委)川谷邦敏
 石庭(委)菅谷新次郎
 娘(委)中村治子
 庭の石(無)柏木七
 防波堤(委)田代順花
 たそがれ(委)橋本章
 唐招提寺金堂(無)松浦莫章
 溪泉(委)清水敦次郎
 金銅仏像(委)清原重以知
 備中神楽「荒鬼(委)片岡銀蔵
 の舞」
 裸婦(委)松本富太郎
 初秋(委)中条茂夫
 鳩と静物(委)三尾文夫
 静かな漁港(無)島戸繁
 静物(委)鈴木三五郎
 山羊(委)奈良岡正夫
 漁閑(八丈島)(委)中谷竜一
 曇り日の製錬所(無)浮田克躬
 スイトピー(委)市ノ木慶治
 豊漁(無)江崎寛友
 志摩冬(委)高木春太郎
 石榴(委)高橋庸男
 残暑の窓(委)草光信成
 梅(会)金沢重治

夏山の朝(会)柚木久太郎
 卓上(委)白川一助
 塩原雪景(故)委妹尾寿信
 うす衣の女(委)刑部人
 林間(委)白石隆一
 三陸海岸(委)角野判治郎
 海岸風景(委)大沼静巖
 巖浜(委)上野山清貢
 久欽長氏の日課(委)渡辺祐一
 ABATTOIR (委)岩下三四郎
 薩摩鎧(委)幸嶋重雄
 南国の鳥(委)鈴木良三
 雲仙を望む(会)池辺一郎
 小漁港(委)舟木徳重
 箱根(委)水上信雄
 青い望(委)鶴田吾郎
 鳴動(会)筒井広道
 女と犬(委)由利明
 苦行僧の合唱(委)佐野隆人
 余光(無)山本日子士良
 老石工(委)山本日子士良
 (版 画)
 北果ての早春(委)永瀬義郎
 民踊(委)前川千帆
 摩奈波門多に建(会)棟方志功
 つ盛装(会)荒谷直之助
 夕照(評・審)小堀進
 雪のなかの白(委)上田哲農
 テーブルに寄る(委)田中実
 女物(委)山本彪一
 静物(委)山本彪一
 窯場風景(委)古川弘
 曇日の海辺(特)酒泉淳
 (彫 塑)
 自由の女神(理・審)北村西望
 ペリかん(審)伊藤芳雄
 女(評・審)畝村直久
 膳脂(特)羽柴小枝子
 猫と裸女(会・審)宮地寅彦
 裸婦(会)木下繁
 混濁(評)後藤清一
 Melle Roseline Sirorey
 (会)安田周三郎
 シミーズ(評・審)堀進二
 を脱ぐ
 溪流にきく(評)雨宮治郎
 木による女(評・審)森野円象
 霧氷(会・審)分部順二

鳥失あ律曼若哭噴望無望示山白裸また日あ空麻若秋髪想磯闘競三選ほ裸風い聖二ブル望鬼或59浴逆若追エチュードポーズ人間星粧芽うつ	とる珠者泉いを持つ技忠えぶのッ太ポー流き	女(評)長 (理・審)吉 (評)中 (特)杉 (評)沢 (會・審)富 (會・審)和 (理・審)斎 (委)安 (無)高 (會)榎 (審)野 (會)瀬 (會)水 (特)平 (無)雨 (評・審)柚 (會)木 (會)古 (委)佐 (委)服 (委)綿 (委)長 (委)柴 (會)岡 (委)小 (會)富 (委)羽 (委)久 (會)杉 (委)中 (評)横 (委)矢 (委)岩 (委)笹 (會)中 (會)佐 (委)太 (會)山 (評・審)木 (特)尾 (委)矩 (特)岸 (會)小 (委)阿 (感情)(評)加 (評)古 (會)森 (會)伊 (會)倉	沼田村田永田藤達藤山々戸船野宮月島川藤部引谷川田本倉永下原本野江野田野野藤田畑村形崎森藤持	孝三政直金素貫鎮三一団六敬敬芳延順靜仁司郎塊佳錦一修濤宗素嘉判千惠桂助良阿珪喜夜邦正顯忠朝五百	三郎清尚広樹剛巖一夫穀男治州吉子芳幸三司郎記石明郎堂三子一純三虎三樹雄平一二治成光夫基清雄光亀芳
--	----------------------	---	---	---	--

秀行弘昇一庸正二福一平之起彦武徳樹治剛信郎示郎力郎	朝弘高五光舜勝治慶信尚義稚教良大嘉正五嘉一賀三	本辺間本野本野鏑村国堀田谷本利永々田橋村色水坂須田	橋渡(会)橋中(会)藤(評・審)人(会)北(評)三(評・審)赤(評)松(会)山(評)毛(会)安(評・審)佐(評・審)文(評)高(評)北(評)清(評)三(評)大(評)浜	華(評)橋(委)流(会)女(委)生(評・審)人(会)ア(評)立(評)女(評・審)60号(評)ソ- (会)い(評)品(委)子(会)弘(評・審)つ女(評・審)光(委)女(委)婦(評)像(評)ズ(委)	女底丘腰影人楽ゼ静立作トお作母誕生立つ清朝少裸女立ジ
美術工藝					
々豊助夫典	青藤鉄一光	木藤川田井松井山下肥林東川田野	鈴(委)伊(委)染(会)滝(委)辻(評・審)海(評・審)中(北)阿(委)春(委)平(評・審)三(会)丸(会)宮(会)土(会)小(委)伊(会)広(無)村(委)佐(会)	彫文花器(委)の破口(委)鳥の花器(会)金魚(委)かなり(評・審)乳花器(会)園地(特・北)醬花蝶棚(委)蝕(委)牛彫金額(会)象箆花器(会)雀(会)花壺(会)手付花瓶(会)郷(委)韻(会)地の印象(無)家族達(委)(会)	豊漁線彫文花器(委)神話の破口(委)青銅鳥の花器(会)黒陶金魚(委)遙るかなり(評・審)白き雲(評・審)八乳花器(会)遊園地(特・北)蒟醬花蝶棚(委)浸蝕(委)十牛彫金額(会)彫金象箆花器(会)朱蕉花壺(会)琅甃手付花瓶(会)望郷(委)秋韻(会)団地の印象(無)家族達(委)柳(会)或るホールの為の作品B(評・審)帖(委)大(委)置物(委)八
行彦孝二	美春孝	佐谷井		マラゲーニヤ(委)黄銅ヌード(母と子)	

— 126 —

扁 壺(評)岡 部 達 男
 黒 釉 壺(評・審)宮之原 謙
 駒 隙(特・北)野 口 晴 朗
 クリスタル硝子(評)各 務 敏 三
 鉢 紋 瓶(会)信 田 洋
 透 紋 瓶(会)信 田 洋
 青銅花器(会・審)丸 谷 端 堂
 花 器(審)山 本 正 年
 青銅鳥のいる花(会)会 田 富 康
 器
 牛(二曲一双)(委)大 西 忠 夫
 馬 染 屏 風(会)岸 田 竹 史
 牧 歌(特・北)佐 藤 正 巳
 干 し 物(会)高 久 空 木
 春 (委)喜多村 栄 太 郎
 川越の民家染屏(委)皆 川 泰 蔵
 風
 わらんべ風土詩(委)鶴 巻 三 郎
 争覇漆パネル(委)彼 谷 芳 水
 「陽喜」スクリー(審)横 山 白 汀
 秋 映 飾 皿(委)徳 田 八 十 吉
 高原の花(うば(会)河 合 秀 甫
 百合)屏風
 蠟型鋳造置物(委)須 賀 松 園
 「無題」
 群蝶夢スクリー(無)明 石 朴 景
 虎園(ホールのための竹花器)(会)生 野 祥 雲 斎
 鉢 銅 花 生(会)豊 田 勝 秋
 晩 秋(会)談 議 所 栄 二
 破 調(委)二 口 志 保 子
 色絵花器 晩秋(委)松 風 栄 一
 影 (委)成 竹 登 茂 男
 漁 場(無)中 堂 憲 一
 染壁掛「殷の顔」(評)大 坪 重 周
 「陽喜」スクリー(審)横 山 白 汀
 染 屏 風「門」(審)青 木 滋 芳
 彫漆飾柵(特・北)小 口 正 二
 潮・二曲屏(評・審)番 浦 省 吾
 風
 群 鳥 屏 風(会)山 崎 立 山
 刺繍パネル「萌」(会)平 野 利 太 郎
 春
 漆 屏 風「水」(委)久 保 金 平
 藤織革屏風(高(委)楠 田 撫 泉
 原)
 モザイク額 鳥(評)板 谷 梅 樹
 光 (パネル)(無)横 山 一 夢
 草蝶透彫盛器(会)鴨 政 雄
 鉄花器「風」(特・北)横 倉 嘉 山
 雪
 青 磁 花 瓶(会)河 合 栄 之 助

叩 き 壺「馬」(無)中 里 忠 夫
 シャボテン (特・北)寺 本 美 茂
 文花器
 花 器(委)吉 賀 大 眉
 ヒルと夜(壺)(会)中 村 翠 恒
 秋 霜 花 瓶(委)河 合 瑞 豊
 向 日 葵 花 瓶(会)新 開 寛 山
 濤 (委)亀 倉 蒲 舟
 壺 (会)河 村 喜 太 郎
 雪 晨 壺(会)伊 東 翠 壺
 「雲」 花 籃(委)田 辺 竹 雲 斎
 横山大観遺作展 1—23 京都市美
 術館
 新制作協会展 1—14 京都市美術
 館
 嘉手川繁夫個展 2—8 銀座・サ
 トウ画廊
 ガラス3人展 (守田 哲郎、徳尾政
 信、佐々木祥子) 2—7 養清堂
 画廊
 伊藤清永デッサン展 2—8 いづ
 み・ぎやらりい
 林唯一「働く婦人のすがた」スケッチ
 展 (主催一家の光協会 後援-東
 京民藝協会) 2—4 銀座・松坂
 屋
 長浜重太郎個展 2—7 文藝春秋
 画廊
 鈴木正彦洋画個展 2—7 丸ビ
 ル・中央公論社画廊
 加藤英夫個展 2—7 中央画廊
 近藤真道個展 2—7 銀座・サエ
 グサ画廊
 大森朔衛個展 3—8 兜屋画廊
 入江波光個展 (16回異色作家シ
 リーズ) (主催-毎日新聞社)
 3—8 渋谷・東横
 毎日美術賞10年記念展 (主催-毎
 日新聞社) 3—8 日本橋・高
 島屋
 10回丹楓会展 3—8 日本橋・高
 島屋
 フタバ木彫会小品展 3—8 日本
 橋・高島屋
 五燐会展 3—8 池袋・三越
 三宅手藝グループ展 3—8 日本
 橋・白木屋
 4 回岡本博・酒井健・渡辺皓司3人
 展 3—7 美松画廊
 11回日本板画院展 3—8 日本
 橋・白木屋

世界の民藝展 (主催-読売新聞社)
 3—8 上野・松坂屋
 さゆり会新作展 3—6 日本橋・
 丸善画廊
 日本民藝館展 3—22 日本民藝館
 スエーデン現代絵画展 3—8 上
 野・松坂屋
 和田三造日本画展 3—8 日本
 橋・三越
 吉賀大眉作陶展 3—8 日本橋・
 三越
 後藤愛彦水墨個展 3—9 なびす
 画廊
 アンコールワット遺跡写真展 —3
 上智大学
 直野進・多田昌平2人展 4—9
 画廊ひろし
 白流会展 4—7 ギャラリー・創苑
 「日本の百年」写真展 (毎日新聞 3
 万号記念) 4—8 日本橋・三
 越
 グループ日山会展 4—9 三省堂
 画廊
 三吉雅子個展 5—9 村松画廊
 島州・小華知為雄・加藤好弘3人
 展 5—9 村松画廊
 斎藤忠誠個展 5—9 村松画廊
 1 回朴土社東京展 6—11 銀座・
 松屋
 3 回日本表現派展 6—11 銀座・
 松坂屋
 田辺謙輔滞欧作品展 6—11 八重
 洲・大丸
 グループ table rasée 6—11
 樺画廊
 6 回グループ鋭展 7—12 銀座画
 廊
 田部井石南個展 7—11 日本橋・
 丸善画廊
 朱泉会展 7—12 銀座画廊
 近藤信道個展 —7 銀座・サエグ
 サ画廊
 E デザイナーズ展 9—14 銀座・
 文藝春秋社画廊
 林康夫作陶展 9—14 養清堂画廊
 現展グループ12人展 9—15 銀
 座・文藝春秋社画廊
 5 回二青会小品展 9—15 いづみ
 画廊

美術展覧会(11月)

- 2 回形象展 9—10 銀座・東電サービス・センター
- 1 回竹中正次個人展 9—15 銀座・サトウ画廊
- 4 回野菜会展 (丘人、松篁、鹿之助、薫) 9—14 京橋・中央公論社画廊
- 新制作日本画部会員展 9—14 ギャラリー・創苑
- 海老原喜之助展 9—20 東京画廊
- 1 回トンボの会作品展 9—13 新橋画廊
- 瀬尾孝正作品展 9—14 銀座・和光
- 谷田・長崎2人展 9—14 中央画廊
- 原田雅光個展 9—14 銀座・文藝春秋画廊
- KEAグループ展 9—15 銀座・サエグサ画廊
- 福沢一郎個展 10—15 渋谷・東横
- 河井寛次郎新作陶磁器展 10—15 日本橋・高島屋
- 鈴木信太郎油絵展 10—15 日本橋・三越
- 板谷波山米寿記念展 (主催-波山米寿記念展委員会) 10—15 日本橋・三越
- 3 回音部幸司個展 10—14 フォルム画廊
- 2 回志賀健蔵個展 10—14 村松画廊
- アメリカへ行く「日本手工藝展」 (主催-日本貿易振興会・全日本手工藝協会 後援-国際文化振興会・毎日新聞社・英文毎日) 10—15 日本橋・高島屋
- 建築と生活展 (主催-日本建築士協会) 10—23 東京港晴海埠頭・国際貿易センター
- 8 回潮会洋画展 (木下孝則、小磯良平、小糸源太郎、児島善三郎、鈴木信太郎、田崎広助、田村孝之介、寺内万治郎、中山嶺、野口弥太郎、林武、三岸節子、宮本三郎) 10—15 上野・松坂屋
- 丹阿弥岩吉個展 10—15 日本橋・白木屋
- 近代日本女性史展 (主催-東京新聞

- 社) —10 池袋・西武
- 山崎会日本画展 10—14 京橋・孔雀堂画廊
- 谷口郷・長崎莫人2人展 10—14 銀座・松坂屋
- 市川鎮琅木彫鉄筆彫作品展 10—15 日本橋・三越
- 彫刻3人展 10—14 画廊ひろし
- 台糖美術部展 10—12 なびす画廊
- 江間漢・詩と絵画展 10—15 小松画廊
- 小柳津経広、石川三郎油絵展 —10 大久保・三福ストア
- 10 回植会美術展 (主催-資生堂美術部) 11—15 兜屋画廊
- グループいべ展 11—16 三省堂画廊
- 1 回野火会展 (稗田一穂、信太金昌) 11—14 兼素洞
- 4 回輸出繊維デザイン展 11—12 大阪国際見本市会館 19—20 都立産業会館 26日 高岡市産業会館 12月1日—2 愛知県商工館
- 大兼実個展 12—16 日本橋・丸善画廊
- 沢田重隆個展 12—17 樺画廊
- URアクセサリイ協会展 —12 銀座・和光
- 4 回可紅会日本画展 13—17 美松画廊
- 4 回後藤敬一郎個展(写真) 13—18 小西六ギャラリー
- 竜土会小品展 13—18 銀座・松屋
- 棒5人展 13—18 銀座画廊
- 千松会茶具展 13—18 銀座・松坂屋
- 6 回錦虹会日本画展 13—18 八重州・大丸
- 宮沢歳男個展 13—19 なびす画廊
- 安井賞候補新人展 14—12月13 国立近代美術館 (出品目録はP. 154にあります)
- 麦蘆展 (主催-新潟県教育委員会) 14—23 佐渡博物館
- 独立展 14—24 大阪市立美術館
- ホエチックグラス展 —14 丸ビル 中央公論社画廊
- 越次勇個展 15—20 村松画廊
- 稲田年行、松田ハルミ2人展 15—20 村松画廊

- 鶴見雅夫個展 15—20 村松画廊
- 竹中正治個展 —15 トキワ画廊
- 川口軌匠デッサン展 16—21 求竜堂画廊
- 矢橋六郎個展 16—21 ギャラリー・キムラ
- 47 回現代版画展 16—21 渡辺木版画店画廊
- 4 回桜井慶治個展 16—21 いづみ・ぎやらりい
- 稲木秀臣個展 16—22 銀座・サトウ画廊
- 3 回田中秀雄水墨画展 16—18 丸ビル・中央公論社画廊
- 馬淵聖個展 16—21 養清堂画廊
- 藤城清治影絵作品展 16—30 新宿・風月堂
- 岡野憲太郎個展 16—21 銀座・サエグサ画廊
- 白眉会油絵展 16—21 中央画廊
- 小品4人展 16—23 西銀座デパート
- 虹グループ展 16—20 港区芝新橋・新橋画廊
- 奥野礼子個展 16—22 文藝春秋社画廊
- 5 回成城大学美術展 17—23 小松ギャラリー
- 12 回白寿会絵画展 17—22 日本橋・高島屋
- 2 回柏光会日本画展 17—22 日本橋・白木屋
- 2 回松庵創展 17—22 日本橋・高島屋
- 尚美堂古稀展 (林武、鳥海青児、脇田和、中川一政、梅原龍三郎、熊谷守一、山口薫、小糸源太郎、小林和作、坂本繁次郎、須田国太郎) 17—21 壺中居
- キャッチフレーズから生れた広告写真展 17—22 日本橋・高島屋
- 楠部弥次作陶展 17—22 日本橋・三越
- 九聲会展 17—22 上野・松坂屋
- 日本画新鋭作家5人展 17—22 新宿・伊勢丹
- 13 回全日本こども美術展 (主催-毎日新聞社・毎日中学校新聞・毎日小学校新聞) 17—22 池袋・三越

白申社日本画展 17—22 日本橋・三越
 明日の画家展 17—12月5 フォルム画廊
 新協美術会会員展 17—22 池袋・三越
 二紀会展 17—22 京都市美術館
 自由美術展 17—22 京都市美術館
 磯野三郎、井出征彦展 18—23 樫画廊
 5 回高瀬捷三油絵個展 18—21 画廊ひろし
 渥美芙峰門日本画展 18—26 産経会館・産経クラブ談話室
 グループ「アルファ」展 19—24 銀座画廊
 創軌会展 19—24 銀座画廊
 みとみ会染色工芸展 19—24 銀座画廊
 走泥社展 19—23 京都市美術館
 3 回高樹会展 20—30 京橋・中央公論社画廊
 柳田泰雲個人展 20—25 銀座・松坂屋
 絵更紗展 (主催—絵更紗美術協会) 20—25 銀座・松屋
 1 回碧星会日本画展 20—25 八重州・大丸
 教育大デザイン「go」展 20—26 なびす画廊
 竜士会小品展 20—25 銀座・松屋
 3 回江上竜介個展 21—25 村松画廊
 3 回佐藤多都夫個展 21—25 村松画廊
 フォトリエ展 21—12月5 南画廊
 宮本正彦・竹田鎮三郎2人展 21—30 みつぎ・ぎやらりい
 石田琴次個展 21—25 村松画廊
 外山雅英個展 —21 丸ビル・中央公論社画廊
 斎藤愛子小品展 23—28 養清堂
 舟木徳重小品展 23—29 いづみ・ぎやらりい
 島野重之個展 23—29 日本橋・丸善画廊
 市村司個展 23—29 銀座・サトウ画廊
 杉三郎個展 23—28 中央画廊

3 回京都美大彫刻展 23—27 美松書房画廊
 バンリアル展 23—30 京都市美術館
 藤井二郎個展 24—30 大阪・フジカワ画廊
 武者小路実篤・岩田麗子師弟展 24—29 渋谷・東横
 佐藤真一近作展 24—29 兜屋画廊
 アートクラブ「層」展 24—29 小松画廊
 福地泰蔵個展 24—29 文藝春秋社画廊
 加藤溪山新作青磁展 24—29 日本橋・高島屋
 14回公募新匠会展 24—29 日本橋・高島屋
 証宏個展 24—29 樫画廊
 松井宏個展 24—29 樫画廊
 田坂ゆたか水彩画展 24—28 丸ビル・中央公論社画廊
 西欧美術と工芸の会 24—29 日本橋・高島屋
 平山克・樋口順治3人展 24—28 銀座・サエグサ画廊
 大仲翠月漆宝陶展 24—30 日本橋・三越
 フランシスコ・オタ (Francisco. Otta) 個展 25—30 東京美術画廊
 2 回双杉会展(大山忠作、加藤東一、川本末雄、浦田正夫、野島青磁) 25—28 兼素洞
 土味川独歩個展 25—30 銀座画廊
 新象作家協会 RAS 7人展 25—30 銀座画廊
 二紀会展 25—12月4 大阪市立美術館
 自由美術展 25—12月4 大阪市立美術館
 ミニヨン展 26—12月2 日動画廊
 5 回森村惟一個展 26—30 村松画廊
 飯田庸夫個展 26—30 村松画廊
 4 人の会展(昆野勝、石川勇、深沢幸雄、馬場彬) 26—30 村松画廊
 丹野正弘個展 26—30 画廊ひろし
 1 回二紀具象展 27—12月2 銀座・松坂屋

4 回中村玲方日本画個展 27—12月2 銀座・松屋
 小野政吉・近藤喜義・柳田久3人展 27—12月1 日本橋・丸善画廊
 川端竜子「花にちなむ八題」展 27—12月2 八重洲・大丸
 東郷青児新作展 27—12月2 銀座・松屋
 4 回グループ9展 28—12月2 美松画廊
 3 回グループさなみ展 (有馬園枝、鎌滝佳子、東条剛子、中村短子、細川ケイ子) 30—12月6 銀座サトウ画廊
 1 回牧潤一画展 30—12月5 養清堂画廊
 広瀬俊恵個展 30—12月5 求竜堂画廊
 伊藤和子個展 30—12月5 樫画廊
 吉田公個展 30—12月5 樫画廊
 武林敬吉小品展 30—12月6 いづみ・ぎやらりい
 江藤哲個展 30—12月5 銀座・サエグサ画廊
 奎星会展 30—12月5 文藝春秋社画廊
 5 回彩潮展 30—12月5 造形画廊
 小林丙個展 30—12月5 中央画廊
 佐々木真夫近作油絵展 丸ビル・中央公論社画廊
 奥谷博個展 —30 日本橋・画廊マイコー

12 月

海老原喜之助個展 1—10 大阪・フジカワ画廊
 竹山博個展 1—5 京橋・中央公論社画廊
 6 回松山雅英作陶展 1—6 日本橋・高島屋
 矢部連光蠟染展 1—6 日本橋・高島屋
 榎倉省吾個展 1—6 兜屋画廊
 みのわ淳・塚本かずを2人展 1—6 村松画廊
 山田栄二絵画作品展 1—6 新宿・風月堂
 鎌倉彫新作展(主催—鎌倉市) 1—6 日本橋・白木屋

美術展覧会(12月)

熊谷直勝個展 1—6 神田・大安
画廊
太田英男個展 1—6 銀座画廊
全国ろうあ洋画展 (主催-日本ろう
あ美術家協会・毎日新聞東京社会
事業団・青島会) 1—6 池袋・
三越
浜田庄司近作陶器展 1—6 日本
橋・三越
柘榴会日本画展 1—6 上野・松
坂屋
島田澄也個展 1—6 銀座画廊
斎藤義重展 1—20 東京画廊
豊島区美術協会展 1—6 池袋・
三越
長谷川晶個展 1—6 銀座画廊
長谷川昂彫刻展 2—5 日本橋・
丸善画廊
1 回橋畔会展 (中谷泰、南大路一、森
芳雄) 2—5 兼素河
6 回佐藤多持個展 2—7 三省堂
画廊
赤穴宏・桂子小品展 5—11 画廊
なびす
大阪市立工芸高校展 5—11 大阪
市立美術館
リアリズム美術家集団美術展 5—
11 大阪市立美術館
4 回関西旺玄会展 5—11 大阪市
立美術館
蕭繁宝小品展 5—5 此花画廊
1 回国際会展 (国際展受賞作家新作
作品展) (海老原喜之助、岡鹿之助、
高島達四郎、鳥海青児、林武、福
沢一郎、山口薫、脇田和) 6—
14 国際画廊
2 回石井栄個展 6—12 東京美術
画廊
5 回三彩会展 6—6 日本橋・三彩
堂
日本俳画協会展 6—6 日比谷画廊
土居樹男個展 7—12 村松画廊
2 回一風会展 (丘人、松篁、鹿之助、
祥之助) 7—12 ギャラリー・
ボワン
宮脇愛子個展 (主催-養清堂 画廊)
7—19 養清堂画廊
3 回赤羽恒男個展 7—12 銀座画
廊

5 回桑原正昭個展 7—12 銀座・
サエグサ画廊
金森達個展 7—13 銀座・サトウ
画廊
山口きみ個展 7—12 中央画廊
吉村二生・白木博也・中谷貞彦作
品展 7—13 村松画廊
藤野一友個展 7—12 丸ビル・中
央公論社画廊
武者小路実篤個展 7—12 壺中居
1 回集団視線展 7—11 櫟画廊
岡田恒堂新水墨画展 7—10 日本
橋・丸善画廊
学藝大卒業展(書道) 7—12 銀座
画廊
竜駿介個展 7—12 銀座画廊
松雲会水墨展 8—13 日本橋・白
木屋
川端竜子日本画個展 8—13 日本
橋・三越
水月窯作陶展(荒川豊蔵指導) 8—
13 日本橋・三越
9 回芝英会展(橋本明治、加藤栄三、
高山辰雄、山田申吾、東山魁夷、
杉山寧) 8—13 日本橋・高島屋
高間惣七近作油絵個展 8—13 兜
屋画廊
東山魁夷「東京作品」展 8—12 弥
生画廊
大歳克衛個展 8—12 フォルム画
廊
爽丘会展 8—12 美松書房画廊
白道会墨絵展 8—13 上野・松坂
屋
国際学童みづゑ展 池袋・三越
カンピリ版画展 10—19 六本木画
廊
高橋安子個展 10—19 文藝春秋社
画廊
大潮会美術展 10—26 東京都美術
館
新筆会日本画新鋭作家展 10—10 画
廊ひろし
地主惣助展 11—15 日本橋・丸善
画廊
11 回年末連盟展 (美術家同志の援け
あい) (主催-日本美術家連盟)
11—16 銀座・松坂屋
清尚会日本画展 (平八郎、岳陵、蓬

春他6名) 11—16 八重州・大
丸
浅井忠水彩画展 (高野時次コレクシ
ョン) 12 東京国立文化財研究所

陳列目録

森 (コンテ素描) 明治11年頃
青梅街道 (鉛筆画) 明治20年頃
室内 (水彩画) 明治20年
火の見櫓の見
える風景 明治20年代
仁川港 明治27年
サンクルー風
景 明治33年
ルクサンブ
ール
少女立像 明治34年
フォンテンブ
ローの森
フォンテンブ
ローの森
グレーの河岸
グレーの教会
堂
モンクルの
橋
グレー風景
グレー風景
グレー牧牛
グレー洗濯場
グレー冬
グレー冬
ノメンターノ
橋
ナポリ
波濤 明治36年
聖護院の庭 明治37年頃
木曾福島 明治38年
干綱
琵琶湖 明治39年
比叡山
飛騨高山 明治40年
秋郊 明治35—
40年
永観堂
藤沢典明個展 12—18 なびす画廊
鈴木琢磨個展 12—16 櫟画廊
原叶人個展 12—16 櫟画廊
BEGO 展 (一町田弘・岩倉節・村
上詞郎) 13—18 村松画廊

岩田和子・岡村節子2人展 13—18 村松画廊
 2 回吉田堅治個展 13—18 村松画廊
 59グループフォルテ・デザイン展 13—18 銀座画廊
 早川千秋グループ展 13—18 銀座画廊
 12回勤労者美術展 (主催-東京都美術館・労働省・朝日新聞社) 14—24 東京都美術館
 伍伸会展 (山口 薫・森 芳雄・牛島憲之・香月泰男・矢橋六郎) 14—26 銀座・サエグサ画廊
 48回現代版画展 14—19 渡辺木版画廊画廊
 山本丘人素描展 14—19 中央公論社画廊
 3 回内田如風展 14—18 兜屋画廊
 佐藤努写真作品展 14—20 銀座サトウ画廊
 西嶋俊親個展 14—19 造形画廊
 瑞美会展 14—19 ギャラリー創苑
 白井勝利個展 14—19 中央画廊
 詩人による絵画展 14—19 画廊ひろし
 3 回加藤幸兵衛作陶展 15—20 日本橋・高島屋
 飯塚国雄個展 15—20 画廊ひろし
 泰西名画複製ポリマーリップロ即売展 15—20 日本橋・白木屋
 4 回VERA展 15—20 池袋・三越
 浅井忠水彩画展 (高野時次コレクション) 15—20 銀座・松屋
 清水六兵衛新作陶展 15—20 日本橋・三越
 橋本花個展 15—20 銀座・松坂屋
 イタリア巨匠2人展 (ファッティ・グレコ) 15—26 フォルム画廊
 爽竜会展 15—19 弥生画廊
 松本慎三水彩バラ展 15—19 上野・松坂屋
 鈴木保徳小品展 16—18 八重州画廊
 独立友の会油絵展 17—23 日本橋・三越
 西尾一三個展 17—23 櫛画廊
 日展 17—1月15 京都市美術館

5 回現代詩画展 18—22 美松画廊
 林鶴雄・貞子油絵小品展 18—22 東京美術画廊
 島岡実近作油絵個展 19—23 兜屋画廊
 吉仲太造・早川昌・中井勝郎3人展 19—24 村松画廊
 1 回内田光之助・辻茂2人展 19—24 村松画廊
 加藤栄三・川島理一郎展 19—30 鎌倉近代美術館
 日本画小品展 19—21 東洋美術館
 集団「版」小品展 21—26 画廊ひろし
 現代大家美術展 (キリスト能献土記念賛助) (主催-キリスト能記念事業委員会 後援-朝日新聞社) 21—25 銀座・松屋
 清野恒・田島宏行2人展 21—26 養清堂
 上社会小品展 21—27 いづみ・きやりい
 吉田穂高版画作品展 21—1月10 新宿・風月堂
 近藤竜男・友野雄二2人展 21—27 銀座サトウ画廊
 大村連個展 21—25 銀座・松坂屋
 塚本茂個展 21—26 中央画廊
 朱葉会12人展 21—26 丸ビル・中央公論社画廊
 ガイロメグループ展 22—28 日比谷画廊
 福沢一郎新作デッサン展 22—28 国際画廊
 永善堂画廊8周年記念展 22—28 銀座・永善堂
 高崎元尚個展 24—29 櫛画廊
 石原百合子個展 25—30 村松画廊
 集団30絵は高いものではありません展 25—30 村松画廊
 現代大家小品スケッチ展 25—26 日本橋・室町画廊
 グラフィック・アートクラブ展 25—26 新橋・新橋画廊
 書画骨董美術品掘出し市 26—31 銀座・松屋画廊

古美術

1 月

醍醐寺五重塔壁画模写展 (文化財保

護委員会製作) 4—15 東京国立博物館

「国華」70年展「近世絵画の展望」展 日本美術雑誌としてもつとも創刊が古く(明治22年10月)、また権威ある「国華」は800号を記念して特輯号を発行し、併せてこの展覧会を開催した。近世絵画(桃山時代より幕末に至る)各流派別に代表的作品が62点、浮世絵版画100点が陳列せられた。 6—18 日本橋・高島屋

初春大黒展 6—18 日本橋・三越
 川越文化展 (主催-川越市・後援毎日新聞社・神社本庁) 6—25 池袋・三越

桃山文化展 6—25 市立神戸美術館

第10回記念名宝展 「日本美術の流れ」(はにわより油絵まで一人間の歴史) (主催-岡山県、岡山市、岡山県教育委員会、岡山名宝会) 7—18 岡山・天満屋

浮世絵名品展 (主催-日本産業経済新聞社) 13—18 日本橋・白木屋

世界の女性美展 (名作に見る) (主催-読売新聞社) 14—21 上野・松坂屋

大山祇神社「国宝・武具の美術展」 (主催-大山祇神社、朝日新聞社) 14—25 名古屋・松坂屋

古九谷展 (やきもの教室名陶シリーズ・1回) (主催-日本陶磁協会) 27—2月1日 日本橋・白木屋

東大寺二月堂お水取り展 (主催-東大寺・大仏奉賛会・朝日新聞社) 30—2月4日 東京・大丸

2 月

南蛮美術展 1—25 市立神戸美術館

南北朝文化展 (主催-毎日新聞社) 17—3月1日 日本橋・三越

法隆寺献納宝物展 20—4月12日 東京国立博物館

日本美術名刀展覧会 (主催-高知県教育委員会・日本美術刀剣保存協会高知支部) 24—3月1日 高知・大丸

3 月

天平美術展 (主催-高岡市・北日本新聞社) 13~22 高岡市美術館
万暦赤絵展 (やきもの教室 名陶シリーズ・2回) (主催-日本陶磁協会) 17~22 日本橋・白木屋
五重塔竣工壁画奉納記念・四天王寺名宝展 24~29 日本橋・高島屋
日本文化展-千年の京都を中心とする一 (京都新聞創刊80周年記念) (主催-京都新聞社) 25~4月16日京都市美術館

4 月

天皇と美術展 (皇太子殿下御成婚記念) 1~12 上野・松坂屋
上代様古筆切と京焼の鑑賞展 1~29 大阪・逸翁美術館
日本古美術名品展 1~14 大阪・藤田美術館
神輿展(主催-東京新聞社) 7~19 第1会場・日本橋・三越 第2会場・池袋・三越
婚礼風俗史展 (主催-毎日新聞社) 7~12 渋谷・東横
伊勢神宮御神宝展 7~19 日本橋・三越
琳派秀作展 (主催-日本経済新聞社) 10~19 根津美術館
2回仏教美術入門展 仏教美術を鑑賞しようとする人々に、手引き的な陳列をする意図のもとに催された。この企画は同じ名目で昨年も行われたが、本年は極く少数のかけ替えのないもの以外は、全部新しいものに取り替え、入門展として実のあるものとなつた。

陳列は(1)釈迦関係の美術、(2)大乘(顕教)関係の美術、(3)密教関係の美術(4)浄土教関係の美術、(5)垂迹関係の美術の五種に区分し、さらに仏像変遷、寺院の形態を瞭然とするよう配置陳列された。10~5月10日 奈良国立博物館

目でみる日本の歴史展 (主催-読売新聞社) 14~19 日本橋・白木屋

新国宝・重要文化財特別展 16~26 東京国立博物館

近代木彫の流れ 17~5月17 国立近代美術館

近世美術名作展 (主催-仙台市・日本経済新聞社) 17~24 仙台・藤崎

浮世絵名作展 (主催-朝日新聞社) (大阪国際フェスティバル共賛) 18~5月3日 大阪・新朝日ビル

春季古美術と茶器展 18~27 大阪・藤田美術館

近世日本衣裳名品展 (主催-長尾美術館・毎日新聞社) 20~26 日本橋・三越

中国古代彫刻展 (主催-日本経済新聞社) 中国の本格的な彫刻と見るべき、南北朝、隋唐の仏像彫刻を中心として日本に集取された彫刻の目ばしい作品はほとんど網羅されているといつて差支えない空前の展覧であつた。

A 古代彫塑、殷代白玉像の他殷戦国・漢・齊・唐等の銅器(鏡を含む)銀器の類 16点

B 西域彫塑 塑像 4点

C 青銅像 北魏の像を主として 32点

D 檀像 2点(唐代)

E 石像 雲岡・龍門・鞏県・響堂山・天龍山等の石仏を初め宝慶寺その他より請來の石仏 51点

F 陶像 漢・北魏・隋・唐の明器の類 27点 28~5月10 日本橋・高島屋

古丹波特別展 30 東京・民藝館

ギリシャ藝術展 (主催-中部日本新聞社) 29~5月20 名古屋・松坂屋

5 月

特別陳列・海外古陶展の鑑賞展 1~31 大阪・逸翁美術館

春の南蛮美術展 1~24 市立神戸美術館

高麗茶碗展 (やきもの教室名陶シリーズ・3回) (主催-日本陶磁協会) 2~10 日本橋・白木屋

阿部コレクション中国名画・エトルスクの美術展 3~31 大阪市立美術館

故宮博物院名画写真展 (主催-朝日新聞社) 5~10 日本橋・白木屋 26~31 大阪・阪急百貨店

源氏物語展 (主催-朝日新聞社) 7~18 名古屋・オリエンタル中村百貨店

堆朱と鎌倉展 9~31 鎌倉国宝館
長谷川等伯名品展 (主催-日本経済新聞社) 美術史的な問題である長谷川信春と等伯の作品を併陳した興味ある展覧であつた。 12~21 日本橋・白木屋

2回美の美展 (黄金の藝術・裸婦の美) (主催-日本経済新聞社) 12~24 日本橋・三越

世界のガラス工芸展 (エジプト王朝時代から現代まで) (主催-毎日新聞社) 12~17 渋谷・東横百貨店

広重「東海道五十三次」展 16~23 京橋・中央公論社画廊

古硯墨と古陶磁の会 19~24 上野・松坂屋

刀装美術展 (開館一周年記念特別展) 26~6月28 秋田市美術館

柿右衛門・伊万里・鍋島名品展 (主催-日本陶磁協会) 26~6月7 日本橋・高島屋

道成寺藝術展 27~6月7 新宿・伊勢丹

南北朝文化展 (私本太平記連載記念) (主催-毎日新聞社) 29~6月10 名古屋・丸栄百貨店

6 月

初期浮世絵美人画展 (日本美術シリーズ第1回) (主催-毎日新聞社) 2~7 新宿・伊勢丹

信州の文人画家佐竹蓬平展 5~28 東京国立博物館

日枝山王名宝展 (主催-毎日新聞社) 9~14 日本橋・白木屋

旧松方コレクション浮世絵版画名作展 10~30 東京国立博物館

近世の禅画・仙厓展 (主催-朝日新聞社) 23~28 日本橋・三越

7 月

短刀名品展 (日本美術シリーズ第2回) (主催-毎日新聞社 後援-日本美術刀剣保存協会) 18~26 新宿・伊勢丹

百年記念吉田松陰遺墨展 (主催-山口県・山口県教育委員会) 18~23 日本橋・三越

古染付展 (やきもの教室名陶シリーズ4回)(主催-日本陶磁協会) 21—26 日本橋・白木屋
名刀展 (主催-盛岡市公民館) 25—31 盛岡市公民館内産業文化館
県下所蔵の名刀の展覧

8 月

水にちなむ絵展・工藝名品展 (日本美術シリーズ第3回)(主催-毎日新聞社) 4—13 新宿・伊勢丹
カメハメハ王朝文化展 (ハワイ民俗芸術)(主催-読売新聞社・後援外務省・文部省・東京国立博物館アメリカ大使館) 11—23 日本橋・白木屋
イタリア国立先史民俗博物館特別交換出品ローマ美術展 (エトルスクの彫刻と壺)(主催-読売新聞社・後援・イタリア大使館・外務省) 18—30 日本橋・高島屋
アンデス遺跡展 18—30 新宿・伊勢丹
四天王寺名宝展 (主催-四天王寺・四天王寺復興奉賛会・朝日新聞社) 19—23 大阪・近鉄デパート
開館記念展 29—9月27 萩市郷土博物館美術室 雲谷等益ら絵画4点、陶器9点、鐔20点

9 月

水戸黄門展 (主催-毎日新聞社) 1—10 新宿・伊勢丹
秘境ブータンとインド仏跡展 1—13 大阪心斎橋・大丸
源氏物語絵巻展 (徳川本)(川面義雄氏木版複製完成記念)(主催-東京国立博物館・徳川美術館 後援・東京藝術大学・朝日新聞社) 1—13 東京国立博物館
キリシタン美術展 1—25 市立神戸美術館
島根県立博物館開館記念特別展 (不昧公顕彰) 1—26 島根県立博物館
日本の原始美術展 5—10月11 神奈川県立近代美術館
日光1200年文化史展 (主催-読売新聞社・日光山輪王寺 後援-文化財保護委員会・東京国立博物館) 8—17 上野・松坂屋

岐阜県関市春日神社・能装束特別陣列 8—27 京都国立博物館
インド・中国古代彫刻展 10—30 久留米・石橋美術館
高台寺蒔絵展 (日本美術シリーズ第4回)(主催-毎日新聞社) 10—20 新宿・伊勢丹
正阿弥勝義特別陳列 15—10月18 東京国立博物館
李朝陶磁展 (やきもの教室名陶シリーズ5回)(主催-日本陶磁協会) 15—20 日本橋・白木屋
竜村上代製コレクション展 18—23 八重州・大丸
高野山秘宝展 20—10月4 大阪・藤田美術館
白鶴秋季展 (開館25周年記念) 22—11月21 白鶴美術館
趣味の古工芸品陳列即売会 22—27 日本橋・高島屋
中国古代青銅器と鏡展 22—11月30 神戸・白鶴美術館
鳥取名宝展 (主催-鳥取県教育委員会・鳥取県文化財協会 後援-日本文化財保護委員会・東京国立博物館・毎日新聞社) 29—10月4 日本橋・白木屋

10 月

車塚古墳発掘展・大阪の新発見文化財展 1—11月3 大阪市立美術館
歴史を語る名武器展 (主催-大阪市・大阪読売新聞社・大阪観光協会) 3—11月3日 大阪城天守閣
秋季古美術と茶器展 8—11月26 大阪・藤田美術館
秋季特別青磁名品展 10—11月1 根津美術館
国貞・英泉美人大首絵名作展 (日本美術シリーズ第5回)(主催-毎日新聞社) 10—18 新宿・伊勢丹
隋唐の美術展 (秋の特別展覧会) 古来日本に伝わる遺品を主とし、更に近年中国各地、わけても隋の文化の中心であつた長安、洛陽の故都の遺址から出土したものなど、いろいろな資料を広く各方面に請うて蒐集した。わが国に現存

する優れた遺品を網羅することに努力を尽された。

絵画 22点

真言七祖像の内(不空三蔵、一行) 2幅 敬王護国寺
五部心観 1巻 園城寺
十王経(煌煌煌出土)一卷
樹下人物図(吐蕃出土)一幅
伏生授經図(伝王維筆)一幅等

書蹟典籍 35点

智永真草千字文 1帖
伝教大師入唐牒 1巻
法蔵尺牘 1巻
玉篇 3巻
文館詞林 2巻
碣石調幽蘭 1巻等

彫刻 33点

隋 8点
唐 23点
西域 2点

陶影

隋 8点
唐 144点

陶甕

隋 3点
唐 81点

金工

隋 8点
唐 46点
染織 53点

11—18月8 京都国立博物館

名家模写上代名画展 (鎌倉市制20周年記念) 20—11月10 鎌倉国宝館

本邦古陶磁特別展 —25 日本民藝館

11 月

正倉院宝物展 1—20 東京国立博物館 皇太子殿下の御結婚を記念して、北・中・南の3倉、聖語蔵及び仮庫の代表的の宝物を選出しての展覧、141件。

〔北倉〕光明皇后革染穀論、紅牙撥鏝尺、犀角杯、刻彫尺八、木函紫檀双六局、双六頭(さいころ)、雜双六子(石)、紫地鳳形錦御枕、楷布屏風袋、藤縹屏風、縹縹屏風、鳥毛立女屏風、平螺鈿花鳥文背円鏡、銀薰炉、東大寺献物帳(種々藥物)、鐘乳床、没食子之風、

美術展覧会(12月)

遠志、桂心、大黃、藜蘆、甘草、芒消(葉壺共)、紫鉞藥碗、丹、螺鈿紫檀五絃琵琶、花氈、御枕刀、新羅琴、白石鎮子、

〔中倉〕 楓弓、鞆、赤漆葛胡祿、白葛平胡祿、鉾、鞍褥・鉦・簪、彈弓、金銀鈿莊唐大刀、金銀莊橫刀、銅漆作大刀、黒作大刀、無莊刀、手鉾、白瑠璃高杯、白瑠璃碗、山水図(麻布墨画)、東大寺開田地図、小乗維經帙、筆、墨、刀子、三合刀子、絵紙、色麻紙、黒柿蘇芳染小櫃、白葛箱、密陀彩絵箱、蘇芳地金銀絵箱、蘇芳地金銀絵花形几、彩絵長花形几、白檀八角箱、雉色瑠璃、雉帯残欠、斑犀合子、

天平二年紀伊国正税帳、大宝二年筑前国戸籍、天平勝宝八年具注曆、造東大寺司召文、仏像請用帳、一切經写司解、

〔南倉〕 伎楽面一治道・師子兒・師子・呉公・力士・迦楼羅・崑崙・呉女・波羅門・大狐父・醉胡王・醉胡徒4一菩薩図(麻布墨画)金銀山水背八角鏡・八角高麗錦鏡、銀平脱八角鏡箱、鳥獸花背円鏡(葡萄鏡)、漫背円鏡、花籠、漆彩絵花形皿、刻彫梧桐金銀絵花形合子、密陀絵盆2面(花喰鳥、孔雀)、白銅絵香炉(箱共)、鯨鬚金銀如意(箱共)、琥碧誦數(箱共)、黄銅合子(塔碗)、錫杖(箱共)、金銅水瓶、椿杖(卯杖)、三十足几(卯杖の几)、赤漆密陀絵雲兎形辛櫃、銀壺(狩獵文)、銅匙、佐波理加盤、二彩磁皿、三彩磁鉢、金銅鳳形裁文、鉄針、赤纒、仮斑竹竿、仮斑竹笠、呉竹横笛、大歌緑綾袍、茶蒔縹緗半臂、迦楼羅帶、迦楼羅裏、笛吹襪、履、白綾褥、袈裟付木欄染羅衣

〔仮庫〕 屏風装古裂10扇、斑璃装錦幡、同孔雀文刺繡、白布天蓋、布作面・女、同・男

〔聖語藏〕 隋大業六年賢劫經、唐永徽六年大毘婆娑論、天平十二年阿毘達磨顯宗論、景雲二年大乘悲芬陀利經、百一羯磨、

ベルシャ遺宝展(正倉院の源流をさぐる)(第二次東大イラク・イラン遺跡調査団収集品の展覧)(主催-東京大学イラク・イラン遺跡調査団 後援-朝日新聞社) 3-15
日本橋・白木屋

縄文文化展(日本美術シリーズ第6回)(主催-毎日新聞社) 6-15
新宿・伊勢丹

円山応挙展 7-12月 6 大阪市立美術館

国宝西本願寺蔵三十六家集展(主催-日本経済新聞社・根津美術館) 15-29 根津美術館

宗達「月下秋草」屏風展 19 中央公論社

織部展(やきもの教室名陶シリーズ6回)(主催-日本陶磁協会) 24-29 日本橋・白木屋

松永記念館開館式展覧(神奈川県小田原市) 29-12月 5

12 月

内外時代展 2-14 壺中居

(追補)

3 回安井賞候補新人展

出品目録

浅井光男 1926年生 光風会
回転木馬
渡瀬船
浅川英二 1927年生 旺玄会
暮色
網谷義郎 1923年生 新制作協会
四人
安喰虎雄 1931年生 春陽会
二羽のとり
さかな
五百住乙 1925年生 立軌会
虫
石嶺伝郎 1928年生 新世紀美術協会
墓
市川重治 1920年生 美術文化協会
群
古い詩
伊藤利行 1926年生 白日会
上衣をぬぐ女
靴下をはく女

今関一馬 1926年生 国画会
別離
たわむれ

今関鷺人 1936年生 春陽会
神殿
斜塔

内田克巳 1925年生 美術文化協会
作品1
作品2

梅津五郎 1920年生 東光会
酒屋の一隅

大歳克衛 1929年生 国画会
診察室
曲芸

大森朔衛 1919年生 行動美術協会
陸

忍田三子雄 1924年生 旺玄会
夜の像

角卓 1928年生 光風会
ジェームス丘
ジェームス丘

川越昭子 1927年生 立軌会
顔
鳥

菅野坊 1927年生 無所属
静物A
静物B

鬼頭輝三 1931年生 新世紀美術協会

海の詩
魚と人
楠瀬盛一 1919年生 旺玄会
鳥と貝がら

幸田佑三 1930年生 無所属
構築(一)
構築(二)

小林孝一 1932年生 太平洋美術協会
街A
街B

近馬治 1934年生 太平洋美術協会
作品A
作品B

斎藤敬一 1931年生 朗日会
鳥屋さん
狂女

斎藤正治 1919年生 行動美術協会
落陽
丘

美術展覧会(12月)

山 東 洋 ^{さん とう ひろし}	1921年生	新制作協会 ショーの女(鳥使い) ショーの女(アクロバ ット)	刀 根 真 澄	1926年生	モダンア ート協会 風 化 雲	樋 口 治 平	1922年生	創元会 運 河 の 街 街
執 行 正 夫 ^{し ぎょう しょう}	1926年生	モダンア ート協会 石 と 鳥 魔 城	内 藤 定 昭	1926年生	示現会 ひ わ く	広 瀬 功 ^{い さお}	1921年生	一水会 晩 秋 静 物
芝 田 米 三	1926年生	独立美術協 会 若 鹿 老 鹿 黒 鹿	中 島 保 彦	1921年生	自由美術家 協会 鉢山の発電所 選炭場のある風景	堀 内 千 里 ^{も ちと}	1933年生	一陽会 樹と鳥(1) 樹と鳥(2)
白 石 延 夫	1920年生	朔日会 漁 舟 白 根 遠 望	中 敬 子 ^{なか}	1923年生	創元会 鳩 舎 鳩	前 田 舜 敏	1932年生	春陽会 群 像 二 人
鈴 木 博	1930年生	第二紀会 人 間 (A) 人 間 (B)	中 野 淳	1925年生	自由美術家 協会 相 剋 走 跡	松 本 英 一 郎	1932年生	独立美術協 会 焼ける木馬 琴 ・ 牛
添 田 定 夫	1919年生	創元会 礼拝に行く聖女達	中 本 達 也	1922年生	自由美術家 協会 群 れ 窟 の 声	丸 野 幸 雄	1934年生	新象作家協 会 蝕 壁 G
曹 良 奎 ^{そう りょう けい}	1926年生	自由美術家 協会 マンホール(C) マンホール(D)	成 瀬 賢 正	1929年生	新象作家協 会 興 出 湧 出	三 上 浩	1931年生	示現会 風 景
高 橋 秀	1930年生	独立美術協 会 樹 黒い鳥と女	西 田 亨 ^{とある}	1920年生	光風会 芝畑のある風景 北多摩風景	柳 沢 淑 郎	1923年生	白日会 岩 風 景
田 中 猛 夫 ^{たけ}	1919年生	第二紀会 かまきり 漁 村	西 村 竜 介	1920年生	二科会 花	山 川 浩	1931年生	示現会 風 景
田 畑 弘	1929年生	一線美術 殉教者ステパノ 十 字 架	八 景 正 義 ^{はつ けい}	1930年生	白日会 街 (A) 街 (B)	山 本 ひ ろ の	1927年生	一陽会 チェコの馬 サーカスの馬
鶴 田 猛	1923年生	一陽会 機関車(A) 貨 車	浜 口 富 治	1921年生	新象作家協 会 人 ほら貝を吹く男	吉 田 清 志	1928年生	国画会 誕 生 無 抵 抗
寺 戸 恒 晴	1922年生	新制協会 太陽と牛と人々	林 林 男 ^{しげ}	1925年生	東光会 土塀のある家	了 正 敬 一 郎 ^{りょうしょう}	1927年生	朔日会 聖 なる 日 新 生
時 田 幸 彦	1933年生	光風会 冠 鶴 阿 修 羅	原 田 圭 司	1931年生	美術文化協 会 堰	和 田 貢	1927年生	東光会 輶 の 家

「物故者」 ページ (136～145 ページ)

個人情報保護のため非公開

Pages of the Articles of the Deceased (pp.136-145)

Cut for protection of the personal information

- ここに採録した文献はわが国において昭和34年中に発行された単行図書、定期刊行物、および諸新聞に掲載されたものである。
- 単行図書の形で刊行されたもののうち多数の論文を集録したものは単行図書としてあげたほか、その内容を定期刊行物中にも組み入れた。
- 現代美術文献目録は明治大正以後の美術に関するものを集めた。
- 建築ならびに工藝の範囲は本文最初の凡例に記した範囲にとどめた。
- 各項目内の配列は内容別順とした。
- この目録をつくるために採録した定期刊行物および新聞は下のとおりである。但し例外の特殊刊行物等は記載しなかつた。
- 雑誌の号数は主として通巻番号を採用したが、通巻番号によらない場合は括弧を用いて区別した〔例、(5)は昭和34年5月号を示す〕。なお643—645は643号、644号、645号に亘ることを示し、9・1—3は昭和34年9月1日から3日附に亘る新聞を示す。

[illegible]

目 次

〔定期刊行物所載文献〕

現代美術・西洋美術

総 説 内容別順	148
絵 画 シ	149
彫 塑 シ	153
工 藝・デザイン シ	153
建 築 シ	157
時 評 シ	159
展 覧 会 シ	160
作 家 人名別 50 音順	161
身辺雑記・随筆・紀行 シ	165
物 故 作 家 シ	168
美術関係者 シ	169
そ の 他 内容別順	170
展览会批評	172
東洋古美術	
総 説	191

絵 画	193
日 本	193
中国・其他	196
書 蹟	196
彫 刻	197
建築・庭園	198
工 藝	200
陶 磁 工	200
金 工	203
木 漆 工	204
染 織 工	204
ガラス工・玉・その他	205
考古学関係	205
歴史関係・其の他	207

〔単行図書〕

現代美術・西洋美術	208
東洋古美術	211

定期刊行物所載文献

現代美術・西洋美術文献

総 説					
世界関連の中の美術	富永 惣一	朝 日	12.14	世界を動かす批評家 (ニューヨークの美術界)	河北 倫明 藝術新潮 10の4
特集・世界美術はどう動いているか(座談会)	滝口 修造 阿部 展也 岩崎 鐸完 風間 武	藝術新潮	10の2	美術界今日の動き (上) 怒れる老人たち の不在	東野 芳明 毎 日 12.2
東西美術の苦悶(座談会)	林 東山 高山 魁夷 山口 辰雄 田近 憲三	〃	10の1	美術界今日の動き (下) エコール・ド・ パリのパスポート	瀬木 慎一 〃 12.3
彩文と信仰	三輪 福松	毎 日	10.16	ヨーロッパの青少年 藝術運動	石森 延男 〃 12.28
神話と考古学	三笠宮崇仁	朝 日	2.10	未開と文明(上)(中) (下)	川喜田二郎 東京夕刊 4.29— 5.1
視覚的 Communication のための一考察	渡辺 貞清	日本建築 学会論文 報告集	63の2	東洋と西洋(1)―(6) (座談会)	鈴木 大拙 柳 宗悦 長与 善郎 志賀 直哉 古田 紹欽 〃 1.2—7
コミュニケーション への接近の試み	ミシェル・ タビエ 芳賀 徹	三 彩	110	日中文化の交流につ いて	奥野信太郎 読売夕刊 3.2
ミシェル・タビエの 美術批評をめぐって	芳賀 徹	〃	〃	豪州と現代日本美術	岡本謙次郎 毎 日 1.7
自然と藝術	西脇順三郎	東京夕刊	2.1	日本藝術への直言	藝術新潮 10の8
幻想の病理	島崎 敏樹	産経夕刊	7.15	遺るもの滅びるもの ―日本彫刻の印象―	オシップ・ ザッキン 秋山光和訳 〃 〃
美術は生活とともに	向井 良吉	朝 日	4.15	コスミックな藝術 の発見―共感のか なたにみた日本美 術―	ルネ・ウイ グ 秋山光和訳 〃 〃
ジャンルの交流はい かにして可能か I・II	江原 順	三 彩	111. 112	日本の美(上)(下) (座談会)	オシップ・ ザッキン クロード・ ブナール ジュリア ン・デュビ エ 高田 博厚 東京夕刊 6.23.2 4
「ジャンルの交流」異 論	中原 佑介	〃	113	日本の心(日本・私は 見た・上)	ジャック・ ラクルテル 朝 日 6.22
美術の具象と抽象 (上)(中)	岡本謙次郎	東京夕刊	7.30・ 31	人と石(日本・私は見た ・中)	オシップ・ ザッキン 〃 6.23
抽象美術と大衆(下)	柳 亮	美 学	39	都会と田舎(日本・私は 見た・下)	クロード・ ブナール 〃 6.24
抽象美術についての一 考察	三井 滉	みづゑ	644	日本美術の再検討 (13)―(15)	矢代 幸雄 藝術新潮 10の1 —3
「別の藝術」の起源に おける二つの極端	M・タビエ 芳賀 徹	〃	647.64 8	アンドレ・マルロオ・ 日本美術との再会	小松 清編 〃 10の2
美と抽象 (I)(II)	高田 博厚	文 学	(5)	外から見たニッポン アート	東野 芳明 読 売 10.7
美術の非個性化につ いて	中原 佑介	藝術新潮	10の7	日本文化を見直す	谷川 徹三 朝 日 1.22
額ぶちの藝術論	佐々木六郎	近代美術 館ニュー ス	50	美術(日本のエネルギー 上・下)	今泉 篤男 東京夕刊 1.24— 25
伝統の批評の東西	マリオ・ペ ドロザ 穴沢一夫訳	〃	〃	画壇の成立と今日の 問題	竹田道太郎 文 学 (9)
いろいろな国の美術 界ギリシャ・イタリ ヤ・スペイン	土方 定一	毎 日	6.24	日本の近代化と絵画 明治への関心と現代	徳大寺公英 〃 (5)
バリ美術界の動向	高階 秀爾	藝術新潮	10の2		橋川 文三 朝 日 7.7
ソヴェート美術をみ て	木村 重夫	近代美術 研究	2の2		

近代日本アカデミズム美術の系譜	木村 重夫	近代美術研究	2の1	19世紀末期のアメリカにおける Ecole des Beaux-Arts の影響	嶋田 勝次	日本建築学会論文報告案	63—2
民衆美術以後 (大正美術研究)	〃	〃	2の2	アフリカの造形	吉阪 隆正	藝術新潮	10の11
人生派と藝術派 (大正美術の研究)	〃	〃	2の3	(ごぞんじですか)つくる態度と観る態度		美術手帖	163
天皇制美術の実体	織田 達朗	美術手帖	157	窓ガラスのなかの美学(写真と文)	阿部 展也	〃	152
戦後美術と戦争責任	針生 一郎	文学 (5)		かたちのかけ算とわり算<造形とは>	山口 正城	〃	〃
戦後の秀作		国立近代美術館ニュース	51	美の文法< 〃 >	〃	〃	153
日本画	久富 貢	〃	〃	美の「はかり」< 〃 >	〃	〃	154
洋画	嘉門 安雄	〃	〃	美の秘密< 〃 >	〃	〃	156
彫塑	中村伝三郎	〃	〃	形の心理< 〃 >	〃	〃	157
特集・現代美術を動かす11の伝統		藝術新潮	10の7	形の心理と形の生理< 〃 >	〃	〃	158
伝統と現在	高山 辰雄	〃	〃	触角の造形< 〃 >	〃	〃	160
浮世絵・光琳・縄文土器	岡本 太郎	〃	〃	光の造形< 〃 >	〃	〃	162
ひとつの振幅	東山 魁夷	〃	〃	色の世界< 〃 >	〃	〃	163
減じるもの	山口 薫	〃	〃	新しい目と新しい対象< 〃 >	〃	〃	161
無限の空間	加山 又造	〃	〃	動く造形< 〃 >	〃	〃	164
はにわ	三岸 節子	〃	〃	連続と四次元の造形< 〃 >	〃	〃	165
遺産のジャンル	三雲祥之助	〃	〃	新技法読本「垂らす」	山口 勝弘	〃	152
反り	流 政之	〃	〃	〃 「ひつ搔く」	〃	〃	153
木喰の「我」	辻 晋堂	〃	〃	〃 「貼る」	〃	〃	154
鬼の笑い	斉藤 義重	〃	〃	〃 「撒く」	〃	〃	156
伝統の足かせ	鳥海 青児	〃	〃	〃 「擦る」	〃	〃	157
特集・美の典型		〃	10の10	〃 「破る」	〃	〃	158
1. ギリシャ	寺田 透	〃	〃	〃 「焼く」	〃	〃	160
	土方 定一	〃	〃	〃 「押す」	〃	〃	161
	難波田竜起	〃	〃	〃 「動きと記号」	〃	〃	162
2. ダ・ヴィンチ	岡本謙次郎	〃	〃				
	福沢 一郎	〃	〃				
3. 原始藝術	小山田二郎	〃	〃				
	田近 憲三	〃	〃				
	山内 壮夫	〃	〃				
4. セザンヌ	宇佐見英治	〃	〃				
	針生 一郎	〃	〃				
カイエダール・未完の傑作	土方 定一	〃	〃	抽象絵画は難解か	植村鷹千代	朝 日	11.5
	秋山 光和	〃	〃	抽象と具象の間(対談)	杉山 寧	色 鳥	11
	中山 公男	〃	〃	印象藝術の抽象的展開	矢野 文夫	〃	〃
	川添 登	〃	〃	新しい抽象画の認識	堂本 印象	〃	〃
神々の変貌(1)―(8)	アンドレ・マルロオ	〃	10の5—12	モネーの再認識と抽象絵画 附児玉希望と印象派	大河内信敬	萌 春	74
世界美術史横断(1)―(4)	小松 清沢	〃	10の6—11	アクション・ペインティングをめぐる話題(I)(II)	針生 一郎	みづゑ	655.656
見えるものとの対話(1)―(6)	ルネ・ユイグ	美術手帖	160—165	描画とパーソナリティ(人物画を中心とする統計的研究)	仲谷 洋平	京都市立美大研究紀要	6
東スペイン・レヴァントの美術―制作年代を中心に―	木村 重信	京都市立美大研究紀要	6	二つのリンゴ(斜線考)	麻生 三郎	藝術新潮	10の3
エジプトの古美術	水沢 澄夫	東京夕刊	4.3	新しい水墨画	野間 清六	萌 春	64
エトルスクの美術	菊地 一雄	みづゑ	650	水墨画の本道	谷 信一	〃	〃
アンデスの古美術	寺田 和夫	萌 春	70				

美術文献目録

水と墨の形(字形から抽象へ)	篠田 桃紅	萌 春	64	児島喜久雄の日本画観(大衆と現代美術10)	三輪 福松	萌 春	66
欧米人と水墨画の魅力	平山 郁夫	ス	ス	日本画と静物画	富永 惣一	国立近代美術館ニュース	52
私の水墨画研究	ルー・ウィス・W・ルーベンス ス・W・ルーベンス ス・W・ルーベンス ス・W・ルーベンス 石沢正男訳	ス	ス	近代日本の静物画	嘉門 安雄	美術手帖	157
ルーベンスとス・W・ルーベンス	石沢 正男	ス	ス	日本画の山あれこれ	平山 郁夫	萌 春	70
漫画(考えるヒント)	小林 秀雄	文藝春秋	37—10	近代の納涼画	小高根太郎	ス	69
「本」の中に流れている絵画のもう一つの世界	滝口 修造	朝 日	2.20	日本画のベストテン	隈元謙次郎	文藝春秋	37—6
特集・児童画をめぐる混乱		芸術新潮	10の9	明治初期の洋画	ス	美術研究	206
ルポルタージュ	中原 佑介	ス	ス	浅井忠筆・グレーの秋	ス	ミュージアム	101
児童画をこう見る	宮本 三郎 岡本 太郎 小島 信夫	ス	ス	明治の石版画(取残された未開拓の明治文化)	吉田小五郎	日 経	2.11
現代の世界の版画	久保貞次郎	みづゑ	645	大観筆・柳蔭図屏風解	飯島 勇	ミュージアム	102
世界の画壇の動き	福島繁太郎	日 経	1.4	シエナ聖母画とその技法	三輪 福松	みづゑ	653
現代絵画の焦点	田近 憲三 嘉門 安雄	ス	ス	ブオンフレスコ(1)一(7)	GeorgMuche 沢柳大五郎 訳	三 彩	114— 121
アメリカ画壇の逆襲	高階 秀爾	芸術新潮	10の11	近世初期北欧絵画にみられる七大罪の表現について	前川 誠郎	美 学	39
ヨーロッパに挑戦した「新しいアメリカ絵画」展	瀬木 慎一	ス	10の12	ファン・アイクに於ける表現と技術	鈴木 健二	ス	ス
パリ画壇の反撃(パリ青年美術家展などにみる具象派のあがき)				レオナルドにおける「ミラーノ 移住」の背景	上平 貢	京都市立美大研究紀要	6
ニューヨークの画壇	河北 倫明	国立近代美術館ニュース	52	影響の論理(レオナルドの光と暗の系譜)	植田 寿蔵	美 学	38
中国農民の絵	石井 鶴三	芸術新潮	10の1	デューラーの「四人の使徒」—その意味について—	前川 誠郎	美術史	33
日本画の問題点をめぐって(座談会)	河北 倫明 竹林 賢二 吉岡 堅二 横山 操	みづゑ	653	ブリュッセルとブレダ	土方 定一	みづゑ	654
特集・世界における日本画		萌 春	72	ブリュッセルとボッシュ	ス	ス	655
現代日本画の課題	福島繁太郎	ス	ス	ヴェラスケスによるピカソの「宮女」	高橋 新吉	芸術新潮	10の3
現代日本画の断想	久富 貢	ス	ス	ゴヤとボードレー(銅版画集「気まぐれ」と詩集「悪の華」との関係)	成瀬不二雄	研 究	18
現代日本の水墨画について	ストラドネ	ス	ス	西洋画の山岳風景	陰里 鉄郎	萌 春	70
日本美術の問題点	バートン・E・マーチン	ス	ス	(名画誕生)ラファエル作「ラ・フォルナリーナ」		美術手帖	157
日本美術をみて	ルーシ・ワインスタイン	ス	ス	(名画誕生)ボッチチエルリ作「春」		ス	158
現代日本画の問題	岩崎 鐸	ス	ス	(名画誕生)ダヴィッド作「サビニ」		ス	160
曲がりかどへ来た日本画	河北 倫明	朝 日	11.23	(名画誕生)フェルメール作「アトリエの画家」		ス	161
世界における日本画	ス	日本美術	14	(名画誕生)クラナハ作「森の妖精」		ス	162
批評からみた日本画盛衰記	竹田道太郎	萌 春	63—70				

(名画誕生)ティツィアーノ作「酒神祭」	美術手帖	163	グロピウス博士75回誕生日	建築文化	147
(名画誕生)ジョット作「聖フランチェスコ貧者に外套を与へる図」	〃	164	ココシユカ会見記	飯田 善国	藝術新潮 10の2
(名画誕生)デューラー作「父の像」	〃	165	特集・ザッキン	みづゑ	653
印象派と印象主義(見直されたモネ)	柳 亮	みづゑ	ザッキンの人と作品	柳 亮	〃
ピカソの剽窃ⅠーⅡ	高階 秀爾	650—655	自作への愛情(ザッキンのこと)(発射塔)	江藤 淳	読売夕刊 7.1
シャガールの「花」	田村泰次郎	646	M. Chagall (その生涯)	窪田 般弥	美術手帖 158
シャガールの「男の肖像」	仲田定之助	三 彩 118	特異な主題・あふれる民衆感情(ジャールガルの藝術)(対談)	川口 軌匡 瀬木 慎一	〃
詩画集・ミロの「ひとり語る」	滝口 修造	藝術新潮 10の4	ジャールガルの版画	久保貞次郎	〃
詩と版画(エリュアールとミロ)	大岡 信	美術手帳 153	ジャコメッティ(人と作品Ⅱ)	矢内原伊作	みづゑ 644
ビュッフェの語る「女性像」	大島 辰雄	藝術新潮 10の2	ジャコメッティ(人と作品Ⅲ)	〃	645
ビュッフェ・近作・版画とデサン(さしえ本「キリストの受難」)	宮本 三郎	三 彩 115	酒場のジャコメッティ	石井 好子	藝術新潮 10の1
「日月両世界幻想旅行」ビュッフェの世界への案内西洋美術館の絵について	〃	〃	サルバドール・ダリ・その逆説と変貌	江原 順	美術手帖 162
増刊号・松方コレクションの絵画	〃	みづゑ 651	偏執狂的批判と性倒錯の藝術(座談会)	滝口 修造 針生 一郎 池田 竜雄	〃
フランス近代絵画の百年	高階 秀爾	〃	ダリの藝術と宗教的象徴	野村 良雄	〃
ラトゥール:聖アントワヌの誘惑	土田 文雄	〃	エスプリの遊び(何故コラージュをやるか)	J. P. ダルナ	藝術新潮 10の9
クールベ:波	中谷 泰	〃	色彩の魔術師(ジャン・デュビュッフェ)	江原 順	みづゑ 647
モネ:波立つトゥール・ヴィルの海岸	大森 啓助	〃	エドガー・ドカ(その生涯)	大島 清次	美術手帖 161
ピサロ:立ち話	大久保 泰	〃	ドガの藝術(対談)	宮本 三郎 田近 憲三	〃
ルノワール:帽子の女	伊藤 廉	〃	カミーユ・ピサロ(近代の巨匠達Ⅰ)	林 文雄	萌 春 71
ゴーガン:海辺に立つブルターニュの少女	三雲祥之助	〃	ビュッフェの近作	宮本 三郎	みづゑ 646
ロダン:緑の女	木内 克	〃	ベルナール・ビュッフェ	大島 辰雄	三 彩 112
セザンヌ:舟にて	久保 守	〃	パリで一番売れるビュッフェ	矢内原伊作	藝術新潮 10の3
モネの「睡蓮」(松方コレクション)	〃	649	フォンターナ訪問記	滝口 修造	三 彩 113
ルノワール「アルジェリア風のパリの女たち」	宮本 三郎	650	ピカソ以後の革命画家フォートリエ	東野 芳明	美術手帖 165
ルノワール「木かげ」	嘉門 安雄	652	サム・フランシスと仙崖	出光 佐三	藝術新潮 10の12
ピカソ「座る女」	富永 惣一	653	パリの新人・ブラウソンの出会い	勅使河原宏	美術手帖 163
フランシスコ・オタ氏の目	〃	産経夕刊 11.27	アンドレ・ブルトンの書斎	滝口 修造	みづゑ 646
カイ・フランク(フィンランドのデザイナー)	藤森 健次	三 彩 110	ブローネル訪問	阿部 展也	〃 655
カイ・フランクの日本印象記	加藤 達美	〃	泳ぎを好む魂 アンリ・ミショウ	飯島 耕一	〃 645
クラヴエのこと	嘉門 安雄	111	ムナリー	滝口 修造	美術手帖 158
			モーリス・ユトリロ(その生涯)	大岡 信	〃 163

美術文献目録

ユトリロの藝術(対談)	高野三三男 大久保 泰	美術手帖	163	陰のなかの光の魔術 (ボナール・ルの藝術) (対談)	柳 亮 高橋 忠弥	美術手帖	157
来日したリュルサとの対話	大島 辰雄	シ	152	フランツ・マルク	坂崎 乙郎	みづゑ	656
わが制作と日本	ジャン・リュルサ	藝術新潮	10の1	エドヴァルド・ムンク	シ	シ	646
リュルサに会うまで	久保貞次郎	シ	シ	シ (その生涯)	シ	美術手帖	160
私は推薦する(世界一流批評家の推す8人の作家)		藝術新潮	10の8	ムンクの藝術(対談)	麻生 三郎 針生 一郎	シ	シ
ラゴンの推すアトラン	高階 秀爾	シ	シ	シ の版画	小野 忠重	シ	シ
H. リードの推すベン・ニコルソン	瀬木 慎一	シ	シ	Modigliani(その生涯)	曾根 元吉	シ	154
スウィニーの推すボロック	シ	シ	シ	人間像の再発見(モジリアニ藝術の秘密を分析する)(対談)	宮本 三郎 三輪 福松	シ	シ
ボンジュの推すフォートリエ	シ	シ	シ	ジョルジュ・ルオー・その生涯	黒江 光彦	シ	165
クロード・ロアの推すザ・オウキー	シ	シ	シ	シその藝術(対談)	福島繁太郎 伊藤 廉	シ	シ
サルトルの推すカルダー	シ	シ	シ	ルオーのキリスト	寺田 透	三 彩	110
デュ・テュイの推すサム・フランシス	シ	シ	シ	アンリ・ルソオ(生涯)	松本 亮	美術手帖	153
ドリヴァルの推すマネシエ	高階 秀爾	シ	シ	ルソオの誘惑・魔法の饗宴	岡 鹿之助	シ	シ
来日する現代藝術の旗手(フォートリエと同行のポーラン・ウンガレッティ)	東野 芳明	読売夕刊	11. 14	トゥールーズ・ロートレック(その生涯)	千葉 順	シ	164
ルドヴィヒ・キルヒナー	坂崎 乙郎	みづゑ	650	トゥールーズ・ロートレック(その藝術)(対談)	富永 惣一 野口弥太郎	シ	シ
Paul Klee の生涯	和田 定夫	美術手帖	152	ロートレックのポスター	小野 忠重	シ	シ
クレエの藝術から享けるもの(座談会)	滝口 修造 駒井 徹	シ	シ	アラゴン・コクトオ美術館での対話	土方定一 解 説 室 淳介訳	藝術新潮	10の11
クレエの絵画論(作画の方針)	片山 敏彦	シ	シ	主題の位置(ごぞんじですか)		美術手帖	152
クレエの生と死	滝口 修造	みづゑ	648	油絵の透明感(シ)		シ	153
クレエ巡礼(スイス日記抄)	シ	藝術新潮	10の1	色彩の感情と秘密(シ)		シ	156
運命を占う人(オスカー・ココシュカ)	坂崎 乙郎	みづゑ	644	額縁の役割(ごぞんじですか)		シ	157
ゴッホ巡礼	里見 勝蔵	シ	644	画面の大きさのはたらき(シ)		シ	158
Paul Gauguin (その生涯)	中山 公男	美術手帖	156	油絵の保存について(シ)		シ	162
原始への憧憬と新しい造形の発見(ゴッガン藝術)(対談)	三雲祥之助 針生 一郎	シ	シ	アトリエの工夫(シ)		シ	164
エミール・ノルデ	坂崎 乙郎	みづゑ	645	臨時増刊・絵画の技法と絵画のゆくえ		シ	155
イギリスの挿絵画家ピアズレイにみられる北斎の影響	福本 和夫	ミュー ジウム	105	絵画における技術とはなにか	岡本 太郎	シ	シ
パウラ・モデーソン=ベッカー	坂崎 乙郎	みづゑ	647	絵画の技法と絵画のゆくえ	滝口 修造 山口 勝弘	シ	シ
フェルディナンド・ホドラー	シ	シ	653	技法の選択	シ	シ	シ
ピエール・ボナール(その生涯)	伊藤 海彦	美術手帖	157	より個性的な材質を求めて	阿部 展也	シ	シ
				エンコスティックを使つて	シ	シ	シ
				描写絵画から抽象の世界へ	杉全 直	シ	シ
				印刷絵画	河原 温	シ	シ

鉛筆スケッチの技法	大沢 海蔵 渡辺 武重 舟木 徳一 藤本 東良 朝比奈 文雄 西村 愿定 黒田 頼綱	アトリエ	383	ファッチーニの思い出 ヘンリー・ムアを訪ねて 国際美術展に特陳されるヘンリー・ムア ムアの示唆 空洞のなかに 石塊の再生 ムアとザッキン（かみかた通信・8） 来日したイタリアの2作家（ギャラリーとアセットオ）	長谷川路可 斎藤特派員 宇佐見英治 滝口 修造 笠置 季男 毛利武士郎 岡部伊都子 滝口 修造	みづゑ 毎 日 藝術新潮 美術手帖	652 5.7 10の5 164
絵画の基礎技法	西村 愿定	シ	386				
鉛筆からパステル迄（デッサンの技法）	宮本 三郎	シ	387				
人物画の基礎技法	藤井令太郎	シ	390				
静物画の基礎技法	仲田 好江	シ	389				
スケッチによる風景画の制作	田辺三重松	シ	388				
実習による油絵制作入門	伊藤 康	シ	391				
風景画の基礎技法	服部正一郎	シ	392				11.1—6
今日の水彩画技法	荻野 康児	シ	393				11.8—11
構図入門	藤本東一良	シ	394				11.13—17
彫 塑				東京の銅像・その歴史と作者たち（1）—（28）	東京		11.19—20
現代彫刻の方向	土方 定一	毎 日	7.23				22・23・25—30
現代彫刻五十選	シ	藝術新潮	10の3				12.2・3・7
日本の現代彫刻	本間 正義	三 彩	118				
四つ心象風景（日本の彫刻はおくらていない）	向井 良吉	藝術新潮	10の4	世界の面	芦沢 長介 南江 治郎 土方 久功 久野 健三 新関 良展 阿部 展也	アトリエ	384
日本の風土と彫刻（座談会）	朝倉 響子 木内 岬 豊福 知徳 向井 良吉	日本美術	13	工 藝 ・ デ ザ イ ン			
石と人と形	流 政之	シ	シ	二つの椅子（イームズの鋳造アルミニウムグループとネルソンの鋳造工脚グループ）		工 藝 ニ ュ ー ス	27の7
近代木彫の流れ	石井 鶴三	藝術新潮	10の6	IAN スポットライト（積み重ね小椅子）			27の6
木のいのち（木彫の近代化によせて）	本郷 新	朝 日	4.16	藤椅子の研究	IAI 意匠部	シ	27の4
伝統木彫の現在	千沢 楨治	国立近代美術館ニュース	54	ポール・キェルホルムの椅子		シ	27の6
木の魅力と現代	植木 茂	シ	シ	IAI 海外蒐集品（テーブル、ランプ、デスク）		シ	シ
木彫とは何か（新海竹蔵氏にきく）		シ	シ	竹工技術研究海外留学生のための作業用家具	IAI 九州出張所	シ	27の3
彫刻試論（ムア、ロダン、中国古代彫刻をめぐって）	岡本謙次郎	三 彩	115	クラフトデザインの使命	藤森 健次	国際建築	26の5
世界の彫刻（27）—（完）	アンドレ・マルロオ 小松 清沢	藝術新潮	10の 1—4	クラフト運動の芽ばえ（デザインの新しい分野）	渡 辺 力	読売夕刊	3.31
中世最後の彫刻家	守屋 謙二	みづゑ	648	竹張膳		工 藝 ニ ュ ー ス	27の5
ロマネスク着衣像の衣裳に関する一考察	高橋 栄一	美 学	39	岩手の樋上		シ	27の6
大理石のトルソ	市川 清	日本美術工芸	255	テクニック（梨地仕上げについて）	IAI 技術第1部	シ	27の8
エジプト彫刻の眼	水沢 澄夫	三 彩	114	現代日本の陶藝	野間 清六	国立近代美術館ニュース	55
古代の目	シ	朝 日	4.2				
ユーゴスラビアの墓石彫刻	阿部 展也	みづゑ	646				
世界の街の彫刻（対談）	本郷 新 藤本 四八	三 彩	116				

美術文献目録

志野のできあがるまで(荒川豊蔵氏の場合)		国立近代美術館ニュース	55	デザイン(プラスチック・ウエア)	IAI意匠第2部	工藝ニュース	27の5
京焼の革命	熊倉 順吉	藝術新潮	10の11	衣服収納ユニット家具	白石 勝彦 海本 小織	被服文化	55
現代人の夢(織部の評価)		カラー・デザイン	(2)	第3回雑貨デザイン・コンクール		工藝ニュース	27の8
「生きている土」(作陶第1回の言)	向井 良吉	三 彩	113	第3回輸出繊維デザイン・コンクール		カラー・デザイン	(3)
どびん		工藝ニュース	27の7	第4回輸出繊維デザイン・コンクール		シ	(11)
伊羅保の茶器と酒器		シ	シ	デザイン展—大阪 シ —東京 シ —高岡		シ	(12)
モダンアート展の陶器	磯野風船子	陶 説	75	プラス・アルファ(輸出繊維デザインへの提言)	井沢 先一	シ	(2)
彫刻家と画家の協力による陶器	福田豊四郎 脇田 和	美術手帖	156	1959年デザイン界の歩み		工藝ニュース	27の9
日本らく焼誕生	開 高 健	藝術新潮	10の4	戦後ドイツの産業デザイン		デザイン・ジャーナル	91
作品を見て	山口 勝弘	シ	シ	Den permanente		シ	88
デザイン(常滑焼器のベリセット)	IAI意匠第2部	工藝ニュース	27の7	デンマーク優秀商品総合展示施設の概要		シ	87
民藝ベストテン		文藝春秋	37—11	英国デザインセンター運営上の重要問題		シ	83
工藝の見地からのビザンチン美術の背景	元 井 能	京都市立美大研究紀要	6	最近のイタリアにみる非具象的絵画		シ	80
古代の壺	曾野 寿彦	みづゑ	654	新しいアフリカの黒人藝術		シ	100
朋百(ボンペ)の絵皿	加藤 増夫	日本美術工芸	247	1958年度の世界の広告美術		シ	(1)
エトルスク・ローマの陶器	佐藤 雅彦	陶 説	79	色彩に関する研究	勝見 勝	カラー・デザイン	27の4
アンデスの焼物	泉 靖 一	シ	80	デザイン・ポリシーの時代	河野 鷹思	シ	(1)
ガラスびん(条件、デザイン、傾向)	山本準之助	工藝ニュース	27の5	北欧と日本(理想的なデザイン環境)	ヘレンD・テラー	工藝ニュース	(1)
ガラスの魅力	岩田 藤七	日本美術	13	色をテーマとしたデザイン講習会	矢中 新	カラー・デザイン	(2)
特集・ガラスの美		藝術新潮	10の7	色いろの話	河野 鷹思	シ	(12)
デザイン(金属洋食器)	IAI意匠第2部	工藝ニュース	27の8	美しい生活をつくる(リンドバーグのデザイン)	徳田 俊三	シ	(4)
IAN スポットライト(アルミニウムの盆とコップ)		シ	シ	日本のモチーフの探究	藤井伊佐夫	シ	(6)
IAN スポットライト(小型ガスコンロ)		シ	シ	黎明期にたつ繊維デザイン	森崎 久寿	シ	(5)
カタカナ・レタリング	佐藤敬之輔	シ	27の3	境界域技術の振興(今後のテキスタイル・デザイン)	野際芳之助	シ	84
新しい緊結金具		シ	27の9	最近のシンガポール		デザイン・ジャーナル	27の6
ライター	IAI意匠第1部	シ	27の8	英国デザインの問題点	岩渕 活輝	工藝ニュース	(5)
海外のキャビネット		シ	27の4	イタリアのデザイン界	三輪 卓夫	カラー・デザイン	27の1
巡航見本市のデスクレイ	IAI指導部	シ	27の1	パリのデザイン	芳武 茂介	工藝ニュース	
日本特産品の米国市場調査(上)(下)		シ	27の2・3	工業都市コペンハーゲン			
中小企業輸出振興展より		シ	27の8				
日本手工藝品対米輸出推進計画について	藤井 左由	シ	27の6				
1959年米国車のデザイン展望	森本真佐男	シ	27の7				
最近の旅客機の室内デザイン(無名戦士墓苑のための骨壺)	豊口 克平	シ	27の8				
	IAI意匠部	シ	27の4				

ソ連圏の工業デザイン	勝見 勝	27の2	意匠権と著作権(上)(下)	高田 忠	カラー・デザイン	(5・6)
ジェイ・ダブリン	吉岡 道隆	27の7	意匠をめぐる三つの問題		27	(1)
デイブ・チャプマン		27の6	盗用今昔	秋田 収一	27	(8)
ジョン・チャペルの作品		27の5	性能とデザイン(茶の間)	亀倉 雄策	毎日夕	11.15
ジョ・ポンテイの思い出	岩淵 活輝	27の7	アイデアと表現	佐野 正男	カラー・デザイン	(10)
リンドバーグのプラスティック・デザイン	寺島祥五郎	27	アイデアとその展開	中村 健而	27	(7)
スティグ・リンドバーグ	加藤 達美	27	個性の表現と機能の表現		27	(5)
来日したスウェーデンのデザイナー・リンドバーグの2つの顔	亀倉 雄策	美術手帖 163	デザイナーの—思考—制作態度への反省	若山 茂雄	27	(9)
私見・日本のかたち	スティグ・リンドバーグ	藝術新潮 10の10	戦後日本のインダストリアル・デザイン107選		工 藝 ニュース	27の9
渦中の人(I・D.誌 Nov. 1958より)	ライト・ミルス	工 藝 ニュース 27の5	第7回新日本工業デザイン入賞作品		27	27の2
画材と技術	片岡 理	カラー・デザイン(8)	グッド・デザイン売場では何が売れているか		27	27の9
海外の論調(デザインサービスの問題、便利な時代の道具)		デザイン・ジャーナル 78	Modern economic design の成立	北根 肇	美 学	39
海外の論調(デザイン・アクセプタンスの問題)「レイモンド・ローウィー」(今後の産業デザイナー)「ミッシェル・ブラック」		27	パターンブックについて	野崎 勝臣	カラー・デザイン	(9)
デザインの功績に関する二つの論議(デザインの論議)		80	赤道アフリカのグッド・デザイン	吉阪 隆正 二川幸夫 真	美術手帖	155
デザイナーの認可制度に関する論調(海外の論調)		81	往時を顧みて	松村 景春	カラー・デザイン	(9)
スランブにあえぐランカシャー(海外の論調)		82	新しい床の素材とデザイン		27	
アブストラクトとモダンをして流行(海外の論調)		86	質感の研究とその表現方法	伊藤 武敏	27	(10)
デザインの盗用と保護(Alan Latman)(海外の論調)		89	アルハンブラ		27	(12)
デザインに関する法案、意匠と模倣、政府介入歓迎(海外の論調)		91	テキスタイル・デザインについて	山崎 幸雄	27	(8)
産業デザイナー、現代のデザイナーの責任(海外の論調)		97	テキスタイル・デザインの本質	谷川 順一	27	(7)
伝統墓穴を掘る(海外の論調)		98	再びテキスタイル・デザインの問題について	佐野 正男	27	(2)
輸出品デザイン法成立		99	デザイナー養成の問題点	井葉野為一	27	(8)
輸出品デザイン法とその効用	新井 真一	工 藝 ニュース 27の6	インスティテュート・オブ・デザインの教育(1)(2)(3)	知久 篤	工 藝 ニュース	27の1. 2. 3
			スウェーデンのデザインとストックホルム工業大学の教育	藤川 宏允	27	27の1
			デザイン指導Ⅰ(試験場のデザイン部—東北・関東・甲信地区—)		カラー・デザイン	(4)
			デザイン指導Ⅱ(試験場のデザイン部—北陸・東海・近畿・中国・四国・九州地区—)		27	(5)

美術文献目録

デザイン教育の方法について(問題点の素描)	向井 正也	京都市立美大研究紀要	6	カイ・フランクと共に中京と京都の旅	芳武 茂介	工 藝 ニュース	27の1
地方のデザイン教育		デン・ジャンナル	85	服装の美意識に関する考察(1)(2)「シック」とその周辺	釘宮 久美	被服文化	59.60
デザイン教育(三次元基礎意匠)	吉岡 道隆	工 藝 ニュース	27の4	服装文化論 I	菅原 教造	シ	60
デザイン教育 I 東京		カラー・デザイン	(1)	織物二千年史(1)―(4)		デン・ジャンナル	90.92. 97.100号
シ II 関西		シ	(2)	新しい住生活の織物		カラー・デザイン	(11)
シ III 地方		シ	(3)	ルネサンスの織物文様		デン・ジャンナル	89
海外のデザイン教育 I (アメリカ)		シ	(6)	ルーマニアの染織器		シ	99
海外のデザイン教育 II (北欧)		シ	(7)	布地の名称の由来(2)		シ	83
海外のデザイン教育 (イタリー)		シ	(8)	コブトの組紐文様		カラー・デザイン	(8)
海外のデザイン教育 IV (イギリス)		シ	(9)	イスラムの装飾文様(1)(2)		デン・ジャンナル	85.86
海外のデザイン教育 V (フランス・ベルギー)		シ	(10)	じゆうたん三題		シ	86
海外のデザイン教育 VI (ドイツ)		シ	(11)	これからの絹	松本 介	被服文化	59
海外のデザイン教育 VII		シ	(12)	混紡について	大高 直輝	シ	57
留学報告(2): シラキウス大学(1)	内村 喜之	工 藝 ニュース	27の9	レインコート地	湯原 五郎	シ	シ
アイデアからデザインまで(1)―(5) (第四回輸出繊維デザイナー講習会記録)	佐野 正男 谷川 順一	デン・ジャンナル	93-99	西洋におけるろうすもの	青木 英夫	シ	58
デザイン権の問題をめぐって	中田 満雄	被服文化	56	ろうすもの ^の の着装心理	千村 典夫	シ	シ
意匠盗用の究明(今日の問題)		朝日夕刊	6.28	タオルケットの制作から	伊東 六郎	カラー・デザイン	(2)
デザイン運動の功罪	勝見 勝	朝 日	5.28	せんいの用語(ツイード、スコッチ・ツイード、ハリス・ツイード、ドニガル・ツイード)		シ	(1)
近代感覚とデザイン	高田 忠	産経夕刊	7.20	せんいの用語(うらぎり地、織物の丈と巾、ぬき)		シ	(2)
海外デザイン界の日本調について	斉藤 重孝	被服文化	56	せんいの用語(味、風味、腰張り)		シ	(3)
1957-58 年度 COID の活動		デン・ジャンナル	89	せんいの用語(拵、 ^ひ 、 ^{おき} 、打ちこみがより、綜統)		シ	(4)
COID のデザイン・オブ・ザ・イヤー 1959		工 藝 ニュース	27の4	せんいの用語(ワッフル・ウィーヴ、ケーブル・ニット・ウィーヴ、モック・レノー、サンマー・ウィーヴ)		シ	(5)
1959 東京国際見本市から		シ	シ	せんいの用語(さらし、精練、漂白、マーセライズ)		シ	(6)
カナダのデザイン賞 1959		シ	27の5	せんいの用語(エラストティック・ファブリック、ラステックス、ラバーの織物、ラテックス)		シ	(7)
ICSID 会議に出席して	小池岩太郎	シ	27の8	せんいの用語(すけて見える織物、紗、絹、羅)		シ	(8)
留学報告(1)アメリカの一般事情	内村一喜之	シ	シ				
アメリカ通信	新庄 晃	シ	27の1				
アメリカ見たまま	長沢 金衛	カラー・デザイン	(6)				

せんいの用語 (セルフ・ストライプ、シャドウ・ストライプ、ロン・グライイン、カット)	カラー・デザイン	(9)	慶祝デザイン	カラー・デザイン	(4)
せんいの用語 (山羊毛その他、モヘヤ、トナカイの毛、キロット)	〃	(10)	現代風俗としての服装(流行史5年)	青木 英夫	被服文化 60
せんいの用語 (有毛織物、モケット、ブラッシュ、シール)	〃	(11)	女のズボンにまつわる錯覚と偏見	村上 信彦	〃 55
せんいの用語 (ナップ、ベローア、ピーパー、デザイン・カット)	〃	(12)	映画衣裳と流行について	志賀 信夫	〃 56
「はぐし」について	湯原 五郎	被服文化 55	祭と衣服	郷田 洋文	〃 58
パチック		デザイン・ジャーナル 78	礼服その意義とあり方	木村 禎夫	〃 57
パチック・サロン(階級の紋章)	寺本 こう	カラー・デザイン (7)	礼装のあれこれ	長谷川路可	〃 〃
英国の更紗		デザイン・ジャーナル 82	ゆかたの反省	カラー・デザイン (9)	
蠟染における2・3の科学的考察	水野上与志子	被服文化 55	明治以降の礼服	河鱈 実英	被服文化 57
捺染とデザイン	柴田 貢	カラー・デザイン (5)	今日の礼服	松田はる江	〃 〃
染工場のデザイナー	山村 実夫	〃 〃	農村の礼服	瀬川 清子	〃 〃
プリントに思う	永田 貞子	〃 (10)	ネクタイの歴史	デザイン・ジャーナル 87	
産地レポート		〃 (9)	〃	カラー・デザイン (7)	
明治服装年表	遠藤 武	被服文化 59	アクセサリー	〃 10	
明治の肩掛	〃	〃 〃	未開民族の帽子のいろいろ	デザイン・ジャーナル 87	
ストール・ショール・フィッシュ・マフラーなど	青木 英子	〃 〃	新しい寝具	カラー・デザイン (6)	
警察官の服装とその移り変り(職能服の変遷I)	遠藤 修三	〃 〃	夜具地意匠の変遷	塩谷 滝司	〃 10
郵便集配員の服装の移り変り(職能服の変遷II)	橋本 輝夫	〃 60	はきもの偶感	近藤 四郎	被服文化 58
消費革命時代の衣生活	高橋 繁	〃 〃	欧米における袋物(東西の袋物についてII)	青木 英夫	〃 55
色彩とデザイン(現代織物における概念)	F・E・エリス	カラー・デザイン (1)	服装研究家のプロフィール(カーニン博士夫妻のこと)	石山 彰	〃 60
美容と服飾におもう	小林 嗣幸	〃 (4)	南蛮キリシタン風俗	海老沢有造	〃 59
意匠と時代の関連性(流行を支配する経済力)	中川 義勝	〃 (12)	イタリヤの民族服	長谷川路可	〃 60
マスプロ時代の流行	今 和次郎	被服文化 60	エンジーとロンジー(ビルマの民族服)	カラー・デザイン (2)	
流行色の諸問題	細野 尚志	〃 55	世界の子供民族服(II)(III)	石山 彰	被服文化 55・56
流行つくりの旅(冥利につける話)	山田 啓吾	カラー・デザイン (6)	〃 (IV)(北欧諸国)	〃 〃	57
ジュニアとハイティーンの間のモード	志賀 信夫	〃 (8)	〃 (V)	〃 〃	58
各産地の秋冬ものの主調		デザイン・ジャーナル 92	人形(かみがた通信I)	岡部伊都子	藝術新潮 10の1
			和時計	高橋邦太郎	萌 春 72・73
			陶磁と絵	井上 昇三	〃 64
			建 築		
			都市計画の歩みと今日の問題	楠瀬正太郎	新 建 築 34の9
			明日の都市計画と建築家	奥村 胖	〃 34の9
			都市計画の再検討	秀島 乾	〃 〃
			建築と都市計画にかける橋	浜口 隆一	〃 〃
			塔状都市	菊竹 清訓	国際建築 26の1

美術文献目録

“広域計画”への前進	中沢誠一郎	読売夕刊	7.23	日本の屋根	神代雄一郎	建築文化	152
バランスを失った現代都市	神代雄一郎	シ	5.26	日本の柱	シ	日本美術	14
都市美について	大政 正隆	朝 日	4.28	柱の感触	松原 淳	三 彩	111
都心を開発する(スーパー・ブロック計画について)	尚 明	読売夕刊	3.26	昭和建築小史(大正13年—昭和20年)	明石 信道	新 建 築	34の10
都市の美観にもつと考慮を(社説)		読 売	1.26	シ (昭和20年—昭和35年)	神代雄一郎	シ	シ
ヒューマニズム・建築	川添 登	建築文化	147	幕末・明治初期洋風建築の小屋組とその発達	村松貞次郎	日本建築学会論文報告集	63—2
美と進化	山手 国弘	国際建築	26の5	明治初期洋風建築におけるヴェランダ・モチーフ	桐敷真次郎	シ	シ
工業文明下の人間の生活装置(回顧と展望)	R・ノイトラ 片岡甚太郎訳	シ	26の6	第1回国内勧業博覧会の建築について	菊地 重郎	シ	シ
多次元空間(座談会)	内田 祥哉 佐々木 達雄 清水 新三 星 浦山手 山手 国弘	シ	26の12	わが国近代における都市中流住宅改良の展開	木村 徳国	シ	シ
何が総合意欲を高めるか	神代雄一郎	みづゑ	653	日本生命保険株式会社旧館の建築について	堀口 甚吉 佐々木良一 川原真太郎	シ	シ
建築と藝術性(石筆)	福島 慶子	東京夕刊	7.19	静岡におけるE・W・CLARKの住宅とその影響について	渡辺 保忠	シ	シ
近代建築におけるANONYMITYの問題	向井 正也	日本建築学会論文報告集	63—2	富岡製桑場とその機械的伝統	関野 克 伊藤 鄭爾 松村貞次郎	シ	シ
建築作品のあり方をめぐって	伊藤 行	シ	シ	横浜居留地における中国人建築技術者について	伊藤三千雄	シ	シ
新しい黄金尺を求めて	池辺 陽	読売夕刊	10.6	三溪園・春草廬(九窓亭)	藤間 道夫	新 建 築	34の3
木造住宅の現代性	吉阪 隆正	建築文化	150	明治建築の歴史的価値とその保存	稲垣 栄三	建築雑誌	877
住み心地(オール・プラスティック住宅)	井上彦之助	読 売	2.26	サヴォイ邸と帝国ホテルの荒廃	佐々木 宏 小能林宏城 山田 弘康	国際建築	26の11
アパートか、郊外小住宅か	大高 正人	朝 日	2.9	帝国ホテルを壊すな・文化的モニュメント	森口 多里	東京夕刊	7.19
これからのホテル建築	川添 登	読売夕刊	12.5	帝国ホテルの歴史的な価値	天野 太郎	建築雑誌	877
アパートと地方性(新しい住居様式が当面するもの)	浜口 隆一	シ	3.3	明治神宮神殿の復興計画について	角南 隆	新 建 築	34—3
インランド・スティールビルと藝術	エドガー・E・カウフマン 斎藤英彦訳	国際建築	26の5	明治神宮成る	岸田日出刀	シ	シ
スカイ・ハウスのみどころ	神代雄一郎	建築文化	147	神社建築史における流造り	福山 敏男	シ	シ
すまいの内と外	シ	日本美術	13	都市と森と神社	浜口 隆一	シ	シ
ブラジルと日本(批評家と建築家の対談)	M・ペドロ ーザ 吉阪 隆正	国立近代美術館 ニュース	52	東京タワー	渡辺 力	朝 日	3.1
日本の伝統の変革	丹下 健三	朝 日	4.21	私はマンモス貝殻建築・東京国際見本市二号館	坪井 善勝	シ	4.27
伝統をふまえた抽象化(超近代的な日本の庭園)	藤島亥治郎	日 経	3.13	松方コレクション・国立西洋美術館		国際建築	26の8
庭園の近代化を阻むもの	上野 泰	国際建築	26の11	設計者の弁(三島由紀夫邸のもめごと)オーナーの弁(三島由紀夫邸のもめごと)	鉾之原捷夫 三島由紀夫	藝術新潮	10の7
日本の庭園の中で	クリスト・クッツシア	読売夕刊	11.18	陶壁・大多喜町新庁舎	今井 兼次	建築文化	153

建築空間の伝承（島根県立博物館の設計に際して）	菊竹 清訓	建築文化	154	第5回日本国際美術展・ヨーロッパの作品	徳大寺公英	毎日夕刊	5.30
石川県美術館	谷口 吉郎	新 建 築	34の12	美術鑑賞への一提案（土曜評論）	阿部真之助	毎 日	6.13
商店特集・1		建築文化	臨時増刊(11)	松方氏の宿願（放射線）		東京夕刊	6.15
国民的建築・最近の作品に探る	川添 登	朝 日	1.21	国際交流に根本的施策を（バリのビエンナーレ開催に思う）	滝口 修造	読売夕刊	7.13
特集・日本現代建築ベスト・テン	(選者)清水一、森田茂介ら9氏（ルポルタージュ）流政之	藝術新潮	10の4	築城ブームの背景	城戸 久	毎 日	9.9
ブラジリア・ブラジルの首都建設		国際建築	26の1	能画家の低俗精神（うの目たかの目）	大河内俊輝	東京夕刊	9.18
アウシュヴィッツのモニュメント		シ	26の8	古美術の保存（石筆）	五島 昇	東 京	10.23
ベルリン1957 インターバウ	山田 稔	シ	シ	急速に動く世界美術（サンパウロ・ビエンナーレ展を見て）	徳大寺公英	読売夕刊	10.19
バリのユネスコ館		シ	26の10	パリ・ビエンナーレ展	瀬木 慎一	朝 日	10.30
アントニオ・ガウディ	今井 兼次	新 建 築	34の7	すぐれた工芸品（石筆）	荒川 昌二	東 京	11.25
ガウディ撮影記	勅使河原宏	藝術新潮	10の8	盛況つづける西洋美術館（美術時評）	嘉門 安雄	朝 日	12.17
建築家らしからぬわが生涯（自叙伝より）	フランク・ロイド・ライト 天野太郎・樋口清・訳編	シ	10の6	インテリア・デザイナールの資格に免許制を	ウイリアム・シュラーガー 藤森健次訳	国際建築	26の12
偉大な人物の死を悼んで（F・L・ライト）	R・ノイトラ樋口清訳	国際建築	26の7	西洋美術館は開館したけれど（ルポルタージュ）	久保貞次郎	藝術新潮	10の8
ライト追悼	天野 太郎	シ	26の5	建築への不満	江崎 誠致	シ	シ
ライトの死に想ふ	アントニン・レイモンド 天野 太郎 星島 光平	新 建 築	34の5	美術時評・僕の空想美術館	松江 知次	萌 春	63
都市のスカイライン	徳永 正三	建築文化	151	美術時評	桑原 住雄	シ	64
世界の建築と美術（その2）彫刻とレリーフ		商店建築	(11)	美術団体批判	藤沢 逸哉	シ	66
時 評				(1) 独立美術協会		東京夕刊	
一品制作とマスコミ（59年の課題・美術）	滝口 修造	読売夕刊	1.13	(2) 春陽会		シ	3.7
日本美術館を（きのうきよう）	山本 松代	朝 日	1.31	(3) 日本美術院		シ	3.8
日本の文化	村松 剛	日 経	2.12	(4) 二科会		シ	3.9
藝術院に望む（論壇）	今泉 篤男	朝 日	2.13	(5) 一水会		シ	3.15
デザイン盗用への反省（社説）		毎 日	2.2	(6) 一陽会・モダンアート協会		シ	3.17
日本業者とデザイン		シ	2.25	(7) 新制作協会		シ	3.18
お城はもう沢山（きのうきよう）	山本 松代	朝 日	4.4	(8) 光風会		シ	3.20
文化財の国外流出（保護にもつと熱意を）	安藤 更生	毎 日	4.15	(9) 国画会		シ	3.22
失はれる埋蔵文化財		シ	5.13	(10) 青龍社		シ	3.27
				(11) 第二紀会		シ	3.28
				(12) 自由美術協会		シ	4.1
				(13) 行動美術協会・美術文化協会		シ	4.2
				中間団体のゆくえ	徳大寺公英	読売夕刊	4.3
				所蔵美術品の寄託を（私の意見）	河北 倫明	毎 日	4.1
				日本の伝統工藝会に敢て問う	岡部 敢	陶 説	5.1
							8

展 覧 会

特集・「秀作展」への疑問	寺田 透 宇佐見英治	藝術新潮	10の3	制作年譜 建築と美術の複縁 (世界の建築と美術 の総合展をみて)	向井 良吉	藝術新潮	10の10
特集記事・「秀作」はいかに選ばれたか		〃	〃	ビエンナーレの危機	辻 茂	〃	10の2
特集記事・グループより自分が大事(個展に食はれる団体展)		〃	10の6	第5回サンパウロ・ビエンナーレ出品作	和田伊都夫	美術手帖	158
第3回安井賞候補新人展		国立近代美術館 ニュース	61	第5回サンパウロ・ビエンナーレ展出品作家について	徳大寺公英	国立近代美術館 ニュース	53
第3回安井賞の選考について	富永 惣一	〃	〃	美術の国際的あり方 (サンパウロ国際展 出品作家の選考をめぐる問題)	瀬木 慎一	毎 日	4.6
受賞の言葉	中本 達也	〃	〃	第3回カンツー国際家具競技設計		国際建築	26の12
出品者一覧		〃	〃	「新しい日本絵画展」への提唱	東野 芳明	美術手帖	154
特集・第5回日本国際美術展	今泉 篤男			国際前衛美術展プレミオ・リソーネ	瀬木 慎一	みづゑ	647
第5回日本国際美術展をめぐって(座談会)	海老原喜之助 福原 一郎 向井 良吉	・ ・ ・	6.49	プレミオ・リソーネと日本の参加	滝口 修造	美術手帖	162
特集・5回日本国際美術展		美術手帖	160	国際美術展の季節	ミッシェル・タビエ	読売夕刊	10.14
国際展の与えるものと日本の方向	瀬木 慎一	〃	〃	グッゲンハイム美術賞と受賞作	和田 定夫	美術手帖	152
作家の見た国際美術展(座談会)	柳 亮 植村 鷹次郎 岡本 謙次郎 針生 慎一 瀬木 原佑一 福沢 正樹 末松 鐸 岩崎 鐸	〃	〃	ニューヨークで岡田謙三の個展	大田特派員	毎 日	11.28
彫刻・ヘンリー・ムア(グラフィア)	写真大辻清司	〃	〃	巨象と群盲(マルセーユのピカソ展)	高階 秀爾	美術手帖	161
えぐられた空間による実体の充実	建畠 寛造	〃	〃	バリ・コラージュ3人展	浜田 浜雄	〃	162
第5回日本国際美術展	江原 順	三 彩	115	〃	滝口 修造	みづゑ	652
第5回日本国際美術展ベスト・テン(座談会)	今泉 篤男 田近 憲三 河北 倫明 岡本 謙次郎 瀬木 慎一	藝術新潮	10の6	ダダ回顧展	東野 芳明	〃	646
松方コレクションを観て(上) 絵画	伊藤 廉	東京夕刊	4.28	ビュッフェエのニューヨーク展	関口 俊吾	〃	648
松方コレクションを観て(下) 彫刻	本郷 新	〃	4.30	バルラッハの遺作展	石川 公一	国立近代美術館 ニュース	60
木村荘八遺作展をみて	河北 倫明	みづゑ	647	59年度グロッセ・クンストアウスシュテ ルンクならびにジャ コモ・マンツォ特集	〃	〃	61
特集・福田平八郎自選展		萌 春	67	日本展濠州行	岡本謙次郎	藝術新潮	10の4
福田平八郎	加藤 一雄	〃	〃	シャルトルと法隆寺 (日本古美術展を海外 に見て)	森 有正	〃	10の3
ある日ある時の福田平八郎	横川毅一郎	〃	〃	ヨーロッパ巡回「日本古美術展」の総決算	秋山 光和	〃	10の5
初期の作品について	関 千代	〃	〃	ヨーロッパ巡回「日本古美術展」うらばなし	倉田 文作	萌 春	67
				転換期にある現代彫刻 (アントワープ国際 野外彫刻展を見て)	土方 定一	藝術新潮	10の9
				中国での光琳展	谷 信一	〃	10の1
				ウィーンに行つた禅 画展	クルト・ブ ラッシュ	〃	10の4
				特集・海外における 日本美術の反響			

ヴェニス・ビエンナーレ展雑感	滝口 修造	国立近代美術館ニュース	59	井上良斎(作家訪問)	友部 直	萌 春	70
サンパウロ・ビエンナーレ展	栗原 信	〃	〃	欧米三ヶ月	伊東 深水	三 彩	111
オーストラリア、ニュージーランド巡回現代日本美術展	岡本謙次郎	国立近代美術館ニュース	59	欧米行脚で自信を得た伊東深水氏	K	東京夕刊	1.4
ヨーロッパ巡回の日本古美術展	秋山 光和	〃	〃	毎日演劇賞で美術賞を受けた伊藤亀太郎(時の人)		毎 日	2.23
ハニワ海を渡る(ブームのアメリカで巡回展)	野間 清六	日 経	12.9	石井鶴三(美術藝談)		毎日夕刊	12.8
足し算の藝術(中国殷周銅器展をみて)	池田 龍雄	藝術新潮	10の1	石井元子(あすの女性)		朝 日	10.4
末世の好奇心(お水取展を叱る)	若杉 慧	〃	10の3	板谷波山先生の人と作品	鷹巣 豊治	萌 春	74
信仰の藝術(法隆寺献納国宝展)	竹山 道雄	〃	10の4	板谷波山	〃	産経夕刊	11.9
生命の躍動(中国古代彫刻展をみて)	三雲祥之助	〃	10の6	新制作日本画部会員になつた上野泰郎(横顔)		産 経	9.27
正倉院展に何を見るか	谷川 徹三 福田豊四郎	〃	10の11	上村松篁の作品	鈴木 進	三 彩	120
正倉院展をみて	高橋 新吉	〃	10の12	上村松篁(人物点描)		美術手帖	158
人間国宝展と作品評(陶藝)	上口 愚朗	陶 説	81	植物派のひとりごと(シュール新人賞受賞者の弁)	上村 次敏	藝術新潮	10の12
国際見本市をみて	向井 良吉	読売夕刊	5.13	ヴェニスの梅原(撮影記)	小野田ハルノ	〃	10の1
東京国際見本市		カラー・デザイン	6月号	梅原龍三郎の滞欧作	益田 義信	〃	10の6
中南米巡航見本市おぼえがき	植松 久	工 藝 ニュース	27の7	梅原龍三郎氏・滞欧の印象		朝 日	2.8
三菱ショウ・ルーム	剣持デザイン研究所	〃	27の2	梅原龍三郎(ぶらり見参)	竹林 賢	美術手帖	156
クラフト・センター・ジャパン	〃	〃	27の3	梅原龍三郎の滞欧近作をめぐつて(対談)	梅原龍三郎 今泉 篤男	みづゑ	647
ノックダウン構造によるデイス・プレイ(加州国際見本市産業博覧会出品の日本楽器のブース)	〃	〃	〃	第5回日本国際美術展の最優秀賞海老原喜之助(時の人)		毎 日	5.24
第9回日宣美展・抬頭する新人群とグラフィック・デザイン	浜村 順	美術手帖	163	海老原喜之助(ぶらり見参)	竹林 賢	美術手帖	161
作 家				べつ甲作りの江崎徳一さん(ひとすじ)		読 売	6.28
麻田鷹司(明日を創る人・12)	白畑 よし	藝術新潮	10の12	日展新会員になつた大河内信敬(横顔)		産業経済	6.11
麻生三郎(美術藝談)		東京夕刊	10.21	大久保泰(ぶらり見参)	〃	美術手帖	153
麻生三郎(ぶらり見参)	竹林 賢	美術手帖	165	小野忠弘(明日を創る人・7)	宗 左近	藝術新潮	10の7
麻生三郎(これから始まる)		三 彩	110	小野さんとの交友録	三好 達治	〃	〃
喜寿以後(茶の間)	朝倉 文夫	毎日夕刊	6.17	奥村土牛訪問	藤本 韶三	三 彩	120
淡島雅吉(美術藝談)		東京夕刊	6.9	岡田謙三	三宅正太郎	美術手帖	152
岩崎巴人(明日を創る人・8)	高橋 新吉	藝術新潮	10の8	岡本太郎(ぶらり見参)	竹林 賢	〃	〃
岩橋英遠小論	友部 直	萌 春	71	加納三楽輝(美術藝談)		東京夕刊	7.21
井上三綱について	岡本謙次郎	みづゑ	650	加山四郎	三宅正太郎	美術手帖	164
井上長三郎	三宅正太郎	美術手帖	161	加山又造(明日を創る人・2)	寺田 透	藝術新潮	10の2
				加山又造の診断書	武見 太郎	〃	〃
				片岡球子	柳 亮	三 彩	110
				片岡球子(美術藝談)		東京夕刊	8.19
				特集・金島桂華		造 形	50
				金島桂華(美術藝談)		東京夕刊	3.31

美術文献目録

藝術院会員になつた 金島桂華(人寸描)		朝 日	3.28	私の新しい出発	兄玉 希望	萌 春	73
亀倉雄策(ぶらり見参)	竹林 賢	美術手帖	162	希望藝術の新展開 (新しい水墨画の創造)	荒城 季夫	造 形	44
清方の下絵とスケッチについて(錦木清方下絵・写生展)	北川 桃雄	萌 春	72	絵からカタチを失つて(きのうきょう)	兄玉 希望	読売夕刊	11.28
雪の下関日(清方面伯を訪ねて)	〃	三 彩	112	駒井哲郎(明日を創る人・1)	宇佐見英治	藝術新潮	10の1
清方の下絵とスケッチ	〃	〃	120	駒井哲郎とマルドロオルの歌	青柳 瑞穂	〃	〃
木版複製にかけた一生(『源氏絵巻川面版』作者の回想)	川面 義雄	藝術新潮	10の10	駒井哲郎(美術藝談)		東京夕刊	4.14
川上澄生(美術藝談)		東京夕刊	3.10	特集・郷倉千靱		造 形	45
川端実(人物点描)		美術手帖	152	斎藤義重論	針生 一郎	三 彩	112
私の履歴書(1)―(24)	川端 龍子	日 経	4.13―5.7	斎藤義重(人物点描)		美術手帖	153
絵筆とともに50年	〃	産経夕刊	10.17	〃 (美術藝談)		東京夕刊	5.12
川端龍子訪問	北川 桃雄	三 彩	114	坂本繁二郎の作品	矢野 文夫	色 鳥	10
断章・川端先生について	福田豊四郎	〃	120	坂本繁二郎(人)		読 売	11.22
川端龍子氏(文化勲章受賞者)		〃	〃	手さぐりでさがす家の伝統(13代柿右衛門)	酒井田柿右衛門	日 経	5.22
辻永氏(文化功労者)		〃	120	沢田政広(美術藝談)		東京夕刊	11.17
文化勲章を受ける川端龍子氏(渦中の人)		東 京	10.15	清水多嘉示	三宅正太郎	美術手帖	157
川端龍子氏(文化勲章の人々・2)		毎 日	10.16	清水多嘉示(美術藝談)		東京夕刊	1.3
河原温(人物点描)		美術手帖	162	篠田桃紅(人物点描)		美術手帖	156
木内克氏を訪ねて	山崎 始子	日本美術	10	須田国太郎とその作品	田近 憲三	みづゑ	8月
木下孝則(美術藝談)		東京夕刊	11.24	須田国太郎(人物点描)		美術手帖	154
あれから三十年(絵と文)	岸田 麗子	東 京	7.19	杉本健吉(美術藝談)		東京夕刊	3.24
壁画をつくる(秋の問題作を探る)	北川 民次	藝術新潮	10の9	鈴木信太郎(美術藝談)		〃	7.14
北川民次(美術藝談)		東京夕刊	9.9	末松正樹	三宅正太郎	美術手帖	165
清水六兵衛(美術藝談)		東 京	12.22	菅井汲(明日を創る人・5)	東野 芳明	藝術新潮	10の5
久保守(美術藝談)		東京夕刊	1.27	菅井汲の答案	矢内原伊作	〃	〃
楠部弼弼個展	井上 昇三	萌 春	74	ランペールの詩集「はてしなき探索」(菅井汲の挿絵本)	大岡 信	みづゑ	652
楠部弼弼小論	友部 直	〃	〃	杉本健吉のデッサン	北川 桃雄	三 彩	113
小磯良平のデッサン	植村鷹千代	三 彩	117	第3回ビシー(フランス)国際美術展で受賞した関口俊吾(時の人)	〃	毎 日	9.6
日本藝術院会員になつた小糸源太郎(横顔)		産 経	3.24	関野準一郎(美術藝談)		東京夕刊	9.1
小山敬三(人物点描)		美術手帖	157	エッセイスト・クラブ賞を受けた曾宮一念(横顔)		産 経	5.28
小山敬三(美術藝談)		東京夕刊	12.15	田村一男(美術藝談)		東京夕刊	2.3
兄島善三郎の人と藝術	大久保 泰	三 彩	120	日展で文部大臣賞を受けた田村一男(横顔)		産経夕刊	11.8
画業40年の自選展を開いた兄島善三郎(人)		朝 日	10.20	高野三三男	三宅正太郎	美術手帖	156
兄島善三郎の藝術	田近 憲三	みづゑ	654	高島達四郎(美術藝談)		東京夕刊	10.13
兄島善三郎・その藝術の展望	大久保 泰	美術手帖	164	高山辰雄の藝術	中村 溪男	三 彩	116
藝術院会員になつた兄玉希望(人寸描)		朝 日	3.24	高山辰雄(美術藝談)		東京夕刊	6.30
				武井武雄(〃)		〃	11.4

美術文献目録

竹谷富士雄(美術藝談)		東京夕刊	9.29	仲田好江(美術藝談)	ス	6.2
東宮御所を設計する谷口吉郎(時の人)		毎 日	1.5	長浜光女史の創作墨画(新しい墨象)	高橋邦太郎	萌 春 70
玉置正敏(明日を創る人・3)	金子 光晴	藝術新潮	10の3	流政之論	中原 佑介	三 彩 111
辻永訪問	藤本 韶三	三 彩	121	難波田竜起小論	ス	ス 114
第1回建築グラン・プリ(仏)受賞の丹下健三(時の人)		毎 日	3.22	ある戴金師(西出大三)	宇佐美英治	藝術新潮 10の12
花と落葉に追われて	辻 永	産経夕刊	5.26	二科金賞に輝く西村龍介(今週の顔)		産経夕刊 9.6
鳥海青児の軌近	寺田 透	みづゑ	646	野口弥太郎	三宅正太郎	美術手帖 163
鳥海青児(ぶらり見参)	竹林 賢	美術手帖	154	野口弥太郎(美術藝談)		東京夕刊 1.20
鳥海青児の「凝念」	矢野 文夫	色 鳥	10	野間仁根氏(朝の1時間)		毎 日 9.27
毎日美術賞を受けた鳥海青児(時の人)		毎 日	1.17	自叙伝(Ⅲ)	林 武	みづゑ 646
勅使河原蒼風(美術藝談)		東京夕刊	10.6	藝術院賞を受賞した林武(横顔)		産経時事 2.26
アンデパンダン展に賭ける(十年の歩みのなかから)	利根山光人	藝術新潮	10の4	日曜対談・林武氏と宮城まり子さん		日 経 8.2
堂本印象氏の抽象作品の宣言		三 彩	120	長谷川潔について	シャルル・クスレール堀口大学訳	三 彩 110
日本画のこころ(対談)	堂本 印象 中山伊知郎	読 売	8.9	長谷川潔先生の藝術	北岡 文雄	ス ス
堂本尚郎(人物点描)		美術手帖	156	長谷川潔アトリエ訪問	駒井 哲郎	みづゑ 645
特集・徳岡神泉		色 鳥	10	長谷川潔の銅版画	ス	美術手帖 153
神泉藝術の魅力	山口 玄珠	ス	ス	原弘(美術藝談)		東京夕刊 8.14
徳岡神泉さんのこと	小森 盛	ス	ス	土方久功(美術藝談)		ス 8.11
オーストラリアの「神泉」	岡本謙次郎	ス	ス	比田井南谷を眺めて	上田 桑鳩	墨 美 87
豊福知徳(明日を創る人・6)	江崎 誠致	藝術新潮	10の6	南谷と子龍を語る(対談)	手島 右郷 岡部 蒼風	ス ス
豊福知徳の彫刻	河北 倫明	ス	ス	平櫛田中訪問	藤本 韶三	三 彩 118
豊福知徳(人物点描)		美術手帖	157	米寿を祝ふ平櫛田中(横顔)		産 経 5.19
豊福知徳(美術藝談)		東京夕刊	2.24	私の歩いて来た道	平櫛 田中	日本美術 14
浜本浩と東郷青児	竹久虹之助	読売夕刊	10.30	鏡獅子(平櫛田中作)	菅沼 貞三	大和文華 31
中川一政(人物点描)		美術手帖	153	福沢一郎の変貌	江原 順	三 彩 121
素人画礼賛(中垣虎児郎の絵)	江崎 誠致	藝術新潮	10の9	「脱皮」する作風	福沢 一郎	読売夕刊 6.24
中沢弘光訪問	藤本 韶三	三 彩	119	カメラで描いた絵	ス	藝術新潮 10の5
特集・中野和高		造 形	46	福田豊四郎(美術藝談)		東京夕刊 9.15
恩師中村岳陵先生	中村 正義	萌 春	63	福田平八郎自選展	鈴木 進	三 彩 116
その頃のことなぞ	小糸源太郎	ス	ス	特集・福田平八郎自選展		萌 春 67
岳陵さんの古稀を寿ぐ	山口 蓬春	ス	ス	福田平八郎	加藤 一雄	ス ス
父岳陵のこと	中村 溪男	ス	ス	ある日ある時の福田平八郎	横川毅一郎	ス ス
中村岳陵制作年譜	ス	ス	ス	初期の作品について	関 千代	ス ス
画家・中村岳陵氏(父の一面)	ス	朝 日	10.18	制作年譜		ス
藝術院賞を受けた建築家・中村順平氏	樋口 清	国際建築	26の4	池田遙邨素描展	中村 溪男	ス ス
中村琢二(美術藝談)		東京夕刊	9.22	古家新(美術藝談)		東京夕刊 6.16
中本達也(人物点描)		美術手帖	161	本郷新(ぶらり見参)	竹林 賢	美術手帖 163
中山嶺(美術藝談)		東京夕刊	7.27	前田青邨訪問	鈴木 進	三 彩 117
				「御水取」絵巻を描く(秋の問題作を探る)	前田 青邨	藝術新潮 10の9
				前田常作(明日を創る人・9)	滝口 修造	ス ス

美術文献目録

前田栄作と曼陀羅の世界	K. A. ジェ レンスキー 高階秀爾訳	藝術新潮	10の9	ローマの日本アカデ ミアを設計する吉田 五十八(時の人)	毎 日	5.18
松田権六(時の人)		毎 日	3.21	吉田穂高(明日を創 る人・10)	庄野 潤三	藝術新潮 10の10
人間国宝の怒り	松原 福与	藝術新潮	10の9	吉田穂高の抵抗	中原 佑介	造 形
特集・松林桂月		造 形	47	吉原治良(ぶらり見 参)	竹林 賢	美術手帖 164
松本弘二(美術藝談)		東京夕刊	8.25	脇田和	三宅正太郎	美術手帖 162
三雲祥之助	三宅正太郎	美術手帖	153	独自の試み(秋の問 題作を探る)	福沢 一郎	藝術新潮 10の9
南大路一(人物点描)		造 形	158	「風景」の発酵(秋の 問題作を探る)	鳥海 青児	造 形 10の9
向井潤吉	造 形	造 形	154	佇立する「モノ」(秋 の問題作を探る)	林 武	造 形
アメリカの棟方志功 氏		毎 日	6.19	特集・斑会(金子博 信、常岡卯三郎、高 森捷三、野崎利喜男、 丸野豊司、片山芳樹、 三角嘉寿男、渡辺正 一、金丸重衛)		造 形 48
誕生したムナカタ・ ギャラリー		東京夕刊	6.21	特集・福田新生・兄 玉三鈴		造 形 49
ニューヨークでの個 展	棟方 志功	藝術新潮	10の5	「印象と平八郎」覚書	大河内信敬	日本美術 10
棟方志功(人)		読 売	12.13	対象作家論・山口薫 と村井正誠	植村鷹千代	美術手帖 163
造 形(ことし言い 残したこと・2)		東京夕刊	造 形	川合さん吉賀さん	磯野風船子	陶 説 81
村井正誠(美術藝談)		造 形	2.18	本郷新・岡鹿之助・ 鶴岡政男・久保守 (もう一つの顔)		美術手帖 152
村山知義(人寸描)		朝 日	1.17	鳥海青児、高岡惣七、 小山良修、益田義信 (もう一つの顔)		造 形 153
毛利武士郎(明日を 創る人・11)	関高 健	藝術新潮	10の11	野間仁根、中神潔、 伊東万燿、笠木実 (もう一つの顔)		造 形 154
無言の抵抗	東野 芳明	造 形	造 形	朝倉摂、伊東深水、 有岡一郎、熊谷守 一(もう一つの顔)		造 形 156
森田沙伊(美術藝談)		東京夕刊	3.4	沢田哲郎、東山魁夷、 小泉清、赤塚徹(も う一つの顔)		造 形 157
森田沙伊の横顔	小野田竜彦	日本美術	14	長谷川路可、山崎隆 夫、風間完、倉田三 郎(もう一つの顔)		造 形 158
森田沙伊小論		萌 春	66	新藝術院会員の作品	田近 憲三	藝術新潮 10の5
子龍足跡術	池田 水城	墨 美	87	現代日本画家の消 息文(2)-(7)	喜田幾久夫	日本美術 工芸 247— 251
山崎覚太郎(美術藝 談)		東京夕刊	12.1	近代日本画の名家 たち	竹田道太郎	萌 春 74
山口薫(人物点描)		美術手帖	154	抽象画へ走る日本 画家	富永 惣一	読 売 10.28
山口薫	三宅正太郎	造 形	160	僕らはこう考える (京都青年画家の座 談会)	池田 道夫 堂本阿岐羅 堂本元次 上村 淳 山本 知克 山下 昭 保三 良平 小野 忠弘 曾宮 一念 小林 和作 井上 三綱 浜田 知明	日本美術 10
山口源の木版画	植村鷹千代	三 彩	118	地方画家白書		藝術新潮 10の10
山口長男	三宅正太郎	美術手帖	158			
色いろの告白	山口 長男	藝術新潮	10の6			
山本平八さんの画業	大仏 次郎	造 形	10の1			
第二の人生	山本 平八	造 形	造 形			
山本常一(美術藝談)		東京夕刊	4.21			
屑鉄のうた(鉄工場 で壁彫をつくる)	山本 常一	藝術新潮	10の5			
柳宗理(美術藝談)		東京夕刊	7.7			
鉄山の山水(進境を 見せた個展)	山口 玄珠	萌 春	72			
柳田泰雲(美術藝談)		東京夕刊	2.11			
安田靉彦訪問	鈴木 進	三 彩	113			
横山操(明日を創る 人・4)	小島 信夫	藝術新潮	10の4			
横山操(人物点描)		美術手帖	160			
吉岡堅二(ぶらり見 参)	竹村 賢	造 形	157			
吉岡堅二診療簿の余 白	武見 太郎	三 彩	113			
吉岡堅二(美術藝談)		東京夕刊	5.19			
東京藝大教授に内定 した吉岡堅二(時の 人)		毎 日	2.15			

洋画家10傑コンクール

帰つてこない藝術家たち

アジア美術家連合の弱さ

日本の建築家

漫画家の知性を探す

特集・新人

特集・追いつめられた新人

1. 絵で食えない新人たち〈ルポルタージュ〉

2. 新人の発言

3. 「新人」と共に30年

4. 何が「新しい」か? (現代画家・変貌論)

特集・作られた新人の運命

1. 秋の美術団体の新人たち

2. 新人はこうして作られる

3. 新人モード論

狂気とスキャンダル (型破りの新人たち)

「瞬間の美」を作る人 (パリの実験美術スケッチ)

国際美術展で見られなかつた世界の鋭

現代のアトリエ・世界にみる現代作家 (写真と文)

今日の作家 (フォートインタビュー)

特集・国際賞画家氾濫時代

1. 国際美術賞の変遷

2. 三人の受賞者

3. 受賞者はこうして選ばれた (ブレミオ・リソー展報告)

大賞作家の盛衰 (座談会)

文藝春秋 37-8

読売夕刊 7.14

毎日 4.17

建築文化 149

藝術新潮 10の3

〃 10の1

〃 10の7

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃

身辺雑記・随筆・紀行

井の頭彫刻園 (絵と文) 青柳 暢夫 産経夕刊 8.9

木米の急須とバラの絵 (絵と文) 朝井閑右衛門 東京夕刊 3.11

科学時代 朝倉 摂 三 彩 111

とらわれ人 (絵と文) 〃 毎日 4.29

潮がつくる顔 (思い出の土地) 朝倉 響子 朝 日 6.14

シベリアの農婦 (旅でみた女性・絵と文) 朝倉 摂 毎日 7.31

駅のアイスクリュー売り (旅でみた女性・絵と文) 〃 〃 8.1

ウィーンの町で (旅でみた女性・絵と文) 〃 〃 8.28

インドネシアの婦人 (旅でみた女性・絵と文) 〃 〃 9.2

バリジェンヌ (旅でみた女性・絵と文) 〃 〃 9.4

各国美術家の真の交流 (世界平和交友祭に参加して) 〃 〃 9.3

歳末風景 (絵と文) 〃 〃 12.30

世界の民族の生きた絵巻 (平和交友祭に参加して) 〃 美術手帖 164

世界の歳末・インド (絵と文) 阿部 展也 朝 日 12.28

おとなしい画家 (茶の間) 有島 生馬 毎日夕刊 11.2

柳橋 (絵と文) 安西 啓明 産経夕刊 7.17

テレビでの対談 (言いそびれた話) 伊勢 正義 〃 〃

欧米美術紀行 伊東 深水 萌 春 64

美人随想 〃 色 鳥 11

路面電車 (茶の間) 伊藤 憲治 毎日夕刊 7.26

パリの街角 伊藤 整 藝術新潮 10の5

展覧会で想うこと 井垣 春雄 萌 春 74

公德 (茶の間) 井手 宣通 毎日夕刊 2.8

アメ屋横丁 (絵と文) 石川 重信 産経夕刊 5.26

あぶらやさん (茶の間) 石川 滋彦 毎日夕刊 6.9

モスクワ土産話 石川 達三 毎日 6.2

鳴門 (絵と文) 池田 遙邨 朝 日 8.11

パリの休日 (1)-(6) 今村 寅士 日 経 8.14-19

スケッチ放浪記 (イタリー) 岩崎 鐸 美術手帖 153

イタリアの女 (1)-(5) 〃 毎日 2.5-15

世界の歳末・ローマ (絵と文) 〃 朝 日 12.31

微笑 (茶の間) 岩田 藤七 毎日 1.25

町の野鳥 上村 松篁 朝 日 5.12

美術文献目録

ヨーロッパのあれこれ	梅原竜三郎	毎 日	2.8	石廊岬の旅と長与先生(絵と文)	北岡 文雄	東京夕刊	3.29
テラスで(夏のいい場所・絵と文)	小川 マリ	シ	8.12	峰也	北川 桃雄	三 彩	119
オーストラリア雑感	岡本謙次郎	美術手帖	156	昭和34年の夏	北村 西望	萌 春	71
パファロー	岡本 太郎	毎 日	3.10	空間と時間(絵と文)	久保 守	毎 日	1.6
お化け映画の愉しみ	シ	朝 日	7.12	辰年の意地(云ひそびれた話)	久里 洋二	読売夕刊	6.25
浦島太郎物語(憂楽帳)	シ	毎 日	12.21	秋晴れ(茶の間)	栗原 信	毎日夕刊	10.9
ちおとなシの国(憂楽帳)	シ	毎日夕刊	12.28	町の川(絵と文)	小糸源太郎	毎 日	7.28
メモと録音機(きのりきよう)	岡部 冬彦	読売夕刊	10.27	雪(絵と文)	シ	産経時事	1.9
アデュイル・ド・フランス(かみがた通信・7)	岡部伊都子	藝術新潮	10の7	うぐいす(絵と文)	シ	朝 日	1.6
かみがた(かみがた通信・終回)	シ	シ	12の12	大変だなあ(言いそびれた話)	小島 功	産経夕刊	6.7
中世的なロマン(絵と文)	大久保 泰	産経夕刊	7.19	ネコの眼(きのりきよう)	シ	読売夕刊	10.6
老いたるロマンチスト(絵と文)	シ	東京夕刊	12.19	顔と調和美(茶の間)	小林 英三	毎日夕刊	9.12
セザンヌ断想(清方の線とセザンヌの線)	大河内信敬	萌 春	73	ノロンのことども	小堀 徹	みづゑ	655
春の動物園(絵と文)	大内田茂士	産 経 夕	3.12	日本の屋根(1)~(5)(絵と文)	小堀 四郎	読売夕刊	7.14—30
松蘿居の記	奥野信太郎	萌 春	72	古代美の世界(三度目のギリシャ旅行から帰つて)	高津 春繁	シ	10.27
現代の客	何 初彦	シ	73	かすれ(風神)	幸田 文	産経夕刊	7.27
花簪と山水(わが美術史・7)	加藤 一雄	三 彩	111	わが家の勤評(茶の間)	近藤市太郎	毎日夕刊	3.20
渡月橋の雨(上)(下)(京都の自然と藝術)	シ	萌 春	69.70	農村の日曜日(茶の間)	今 和次郎	シ	3.26
黒谷墓地(上)(中)(下)(京都の自然と藝術)	シ	シ	71—73	あたらしい人間像(北鮮・中国の旅みたま)	佐藤 忠良	美術手帖	152
赤目四十八滝(夏のいい場所・絵と文)	加藤 敏子	毎 日	8.5	アトリエにて(夏のいい場所・絵と文)	佐伯 米子	毎 日	8.4
イキのいいモデル(心をひかれる蒲団の魚)	加山 四郎	日 経	1.29	日本的(茶の間)	斎藤 清	毎日夕刊	10.1
山居新話(1)~(8)	貝塚 茂樹	東京夕刊	9.8,15,22,29,10.6,13,20,27	北海道のトウキビと南瓜(絵と文)	坂本 直行	東京夕刊	8.23
創造的な思い出	片山 敏彦	シ	2.5	夢(茶の間)	沢田 政広	毎 日	5.14
あるユダヤ人の死	桂 ユキ子	藝術新潮	10の8	八重洲口の周辺(絵と文)	清水 鍊徳	産経夕刊	3.29
オバケ(きのりきよう)	亀倉 雄策	読売夕刊	11.18	文明・わびしい話	清水 一	産経夕刊	3.16
ストックホルムの驚異	河野 鷹思	藝術新潮	10の1	しぐさ	篠田 桃紅	東京夕刊	7.31
ニューヨーク(絵と文)	川端 実	毎 日	11.10	神田明神(絵と文)	島村三七雄	産経夕刊	3.8
褒賞	鎗木 清方	文藝春秋	27—1	竜安寺の石庭(石筆)	白洲 正子	東 京	11.22
かちどきばし(絵と文)	春日部たすく	産経夕刊	7.14	池袋(絵と文)	新道 繁	産経時事	2.22
父の遺してくれたもの	岸田 麗子	藝術新潮	10の9	絵かきと蒐集	須磨弥吉郎	三 彩	119
				夜のチョウの昇天(云ひそびれた話)	杉浦 幸雄	産経夕刊	7.19
				暑中奈良	杉本 健吉	文藝春秋	37—9
				画室(絵と文)	杉山 寧	毎 日	1.11
				なすべきこと	勝呂 忠	三 彩	110
				落した眼鏡と運転手	鈴木信太郎	産 経	7.12
				札幌北大構内(絵と文)	シ	毎 日	9.24
				東と西の交差点(イドラ島にて)	清家 清	藝術新潮	19の9

勉強室(茶の間)	清家 清	毎日夕刊	12.27	ネオンの世界・銀座	西山 真一	産経夕刊	6.21
日曜随筆家	曾宮 一念	朝 日	6.2	初恋(茶の間)	野口 真造	毎日夕刊	2.27
広告板退治	シ	読売夕刊	6.17	長崎の春(絵と文)	野口弥太郎	朝 日	3.3
山海の珍味	シ	文藝春秋	37—8	海辺の裸女(絵と文)	シ	毎 日	7.16
むさしの(絵と文)	田崎 広助	産経時事	2.1	水上バスのりば	野村 守夫	産経夕刊	8.29
おちつかぬ三猿	田中 岑	三 彩	111	ヨーロッパの修道院	野村 良雄	美術手帖	153
物と事	田中 忠雄	シ	119	に藝術をたずねて	野間 仁根	産経夕刊	7.26
哲学堂公園(絵と文)	田村 一男	産経夕刊	8.2	不忍池(絵と文)	シ	毎日夕刊	10.19
私は画商になりたい	田村泰次郎	文藝春秋	37—2	太海の黒ダイ(茶の間)	シ	産経夕刊	12.29
私は魚のお医者さん	田中秀之助	日 経	7.16	歳末の浅草(絵と文)	長谷川 潔	芸術新潮	10の1
西洋蚤の市あるき	高橋邦太郎	萌 春	70	故国への抗議	橋本 明治	朝 日	3.14
らびあつあいり あな(イタリヤの広場)(文・写真)	高浜 和秀	新 建 築	34の6	紅梅(絵と文)	原田 実	ミュージアム	94
熱海の写生(絵と文)	高島達四郎	朝 日	3.6	ゴッホ展随想“暗い絵と明るい絵”	早川 治平	毎日夕刊	9.11
マロニエ(絵と文)	シ	毎 日	6.18	西洋うどん(茶の間)	東山 魁夷	毎 日	1.9
石川綴長(茶の間)	シ	毎日夕刊	8.12	窓(絵と文)	林 房雄	芸術新潮	10の1
感激好き	高見 順	読売夕刊	3.28	スラム街のコレクター(メキシコ日記抄)	土方 定一	読売夕刊	7.29
馬車道を拝見して(絵と文)	高島達四郎	日 経	4.11	市民の中の美術館(欧州旅行から帰つて)	土方 久功	毎日夕刊	9.22
古い絵筆(きのうきより)	シ	読 売	10.21	世界は広く(茶の間)	平塚 運一	産経夕刊	3.15
アトミウムの下で(旅の青い手帖から)	滝口 修造	美術手帖	160	哲学堂三学亭(絵と文)	広田 多津	毎 日	8.11
新中国美術旅行記(3)―(6)	谷 信一	萌 春	63—66	ルーム・クーラー(夏のいこい場・絵と文)	二見 秀雄	日 経	3.20
Bさんと総入園(云ひそびれた話)	谷内 六郎	産経夕刊	3.27	某月某日	福沢 一郎	毎 日	1.5
箸と彫刻	レオン・ターナー	芸術新潮	10の5	古いもの新しいもの	シ	東京夕刊	7.10
家の修理	島海 青児	三 彩	120	ウィーン(世界の旅)	シ	美術手帖	154
人種的な親近感(メキシコ通信)	利根山光人	読売夕刊	9.12	ヒンズウの幻想(インド紀行・コナラックの旅から)	福島 正雄	産経夕刊	10.27
メキシコ遺跡巡礼	シ	芸術新潮	10の11	天山南路(思うこと)	福田豊四郎	シ	3.1
人ちがい(言いそびれた話)	富田 英三	産経夕刊	4.26	新宿の呑み屋変遷史(絵と文)	藤川 栄子	毎 日	8.13
写真家の外遊	土門 拳	芸術新潮	10の8	仕事のあい間に(夏のいこい場・絵と文)	堀 文子	産 経	7.12
墨色(茶の間)	中谷宇吉郎	毎日夕刊	4.2	めくら蛇(云ひそびれた話)	シ	読売夕刊	11.14
子なし	中村 研一	文藝春秋	37—4	カラスのきげん(きのうきより)	本郷 新	東京夕刊	8.21
縁切寺の今昔(絵と文)	中村 琢二	毎 日	6.14	中国(世界の夏)	益田 義信	朝 日	12.29
ゴッホ展随想・ゴッホに学ぶもの	中村 溪男	ミュージアム	94	世界の歳末・パリ(絵と文)	松野 一夫	毎日夕刊	3.30
正倉院の宝物返還(きのうきより)	シ	読売夕刊	12.9	帰郷(茶の間)	松本 弘二	産経夕刊	5.15
パリ通信	中村 直人	東京夕刊	6.6	国会議事堂附近(絵と文)	シ	三 彩	117
世界コレクション行脚	仲 省吾	芸術新潮	10の5	我等の仲間	三岸 節子	文藝春秋	37—7
赤ん坊誕生(絵と文)	仲田 好江	朝日夕刊	6.5	車の旅	シ	朝 日	12.24
長崎の家(絵と文)	鍋井 克之	朝 日	8.18	南仏のクリスマス(絵と文)	三雲祥之助	東京夕刊	3.5
マラガの空	西村 孝次	東京夕刊	11.6	火の藝術	三輪 晃勢	萌 春	74
早春の小豆島の石切場(絵と文)	西村 愿定	シ	2.26	美しい夫人と絵			
わが家も避暑地(夏のいこい場・絵と文)	西原 昭子	毎 日	8.6				

美術文献目録

冷汗(茶の間)	水沢 澄夫	毎日夕刊	5.19
ルクソール(エジプト古代美術紀行)	〃	みづゑ	649
エジプト記	〃	美術手帖	160
江戸のともしび	溝口 三郎	萌 春	63
フレール・ジャック(茶の間)	宮田 重雄	毎日夕刊	3.8
月は無情(若気のあやまち)	〃	産経夕刊	3.29
世記の祝典テレビ見物記(絵と文)	〃	毎 日	4.11
フランスの子供(茶の間)	〃	毎日夕刊	12.5
パリの裏町	宮田 武彦	美術手帖	156
ローマで(絵と文)	〃	毎 日	7.18
娘と孫(絵と文)	宮本 三郎	朝日夕刊	1.4
「ご結婚の朝に贈る」の絵	〃	毎 日	4.10
水流健康法(絵と文)	〃	〃	10.21
世界の歳末・アテネ(絵と文)	〃	朝 日	12.30
民家寸感	向井 潤吉	三 彩	113
墓を買った話	村松 剛	萌 春	74
小屋がけ芝居(絵と文)	森田 茂	産経時事	2.15
私は京都を歩く(夏のいい場所・絵と文)	森田 元子	毎 日	8.3
少年と提督	矢代 幸雄	文藝春秋	37—9
三度目のパリ(上)(中)(下)	矢内原伊作	東京夕刊	10.8—10
三たびジャコメッティのモデルになつて	〃	読売夕刊	10.10
数学的美術論	矢野健太郎	藝術新潮	10の6
乱世について	山口 源	三 彩	110
早く忘れた(茶の間)	山室百世以	毎 日	11.28
ヨーロッパ駆けめぐり	由良 玲吉	美術手帖	157
屋久島	吉井 淳二	三 彩	119
水鳥(絵と文)	吉岡 堅二	日経夕刊	3.8
ピラミッドとパチンコ	吉岡 達也	東京夕刊	5.8
エジプト美術大学留学記	〃	藝術新潮	10の10
アフリカ(世界の夏)	吉阪 隆正	東京夕刊	7.30
ナイルの石	吉田 穂高	藝術新潮	10の6
たそがれの絵	吉屋 信子	産 経	6.7
かますご	横山 隆一	毎日夕刊	2.22
あの人	〃	毎 日	3.22
いのししの思い出(絵と文)	奥村 土牛	日 経	1.1
マンガと文	横山 隆一	〃	〃
山の随想	〃	萌 春	70
八甲田高原	深田 久弥	〃	〃
劔岳の天狗	三輪 孝	〃	〃

物 故 作 家

追悼・石井柏亭	嘉門 安雄	美術手帖	154
石井柏亭先生	藤本 韶三	三 彩	111
追悼・石井柏亭	有島 生馬	みづゑ	645
石井柏亭と和田英作(座談会)	宮本 三郎 向井 潤吉 徳大寺公英	三 彩	111
小川芋銭(近代日本画の先覚者たち)	中村 溪男	日本美術	14
藝術家は長生きを(若い画家 金山 康喜君の友の死に接して思う)	芹沢光治良	日 経	7.5
追悼・木村荘八	みづゑ編集部	みづゑ	644
特集・ある青年画家の死(具象絵画に殉じた金山 康喜)	今泉 篤男 田村 泰次郎 佐野 繁次郎 石原 竜一 船戸 弘子 中島 弘子	藝術新潮	10の8
金山康喜の作品	今泉 篤男	みづゑ	648
木村荘八逝く	岡 鹿之助	美術手帖	152
木村荘八をいたむ	中川 一政	三 彩	110
六潮会時代の回想	横川毅一郎	〃	〃
追憶の父契月	菊池 一雄	大和文華	30
魯山人をおもう(石筆)	白洲 正子	東 京	12.27
ああ、魯山人先生	小島政二郎	東京夕刊	12.23
魯山人秘話(きのうきょう)	真野 烈児	読売夕刊	12.23
古怪さんの手紙	山内金三郎	大和文華	31
齊藤与里氏を悼む	〃	造 形	47
下村観山	鷹巣 豊治	萌 春	71
観山の前後(藝術家の指導者と後援者)	下村 英時	〃	〃
観山先生の遺作	川端 竜子	三 彩	118
下村観山を語る(座談会)	河北 倫明 下村 英時 福田 豊四郎	〃	〃
下村観山の藝術	河北 倫明	朝 日	7.25
下村観山への回想(30年記念代表作展をみて)	野間 清六	読売夕刊	8.1
父夢二のこと	竹久虹之助	東京夕刊	9.17
高村光太郎(文学碑めぐり・16)	伊藤 信吉	東京夕刊	10.22
長谷川三郎と日本の古典	難波田竜起	三 彩	115
長谷川三郎とそのアメリカにおける業績	エリーゼ・グリリー	みづゑ	649
長谷川利行の奇怪さ	小森 盛	色 鳥	10
利行の孤絶と純粋	矢野 文夫	〃	〃
菱田春草(近代日本画の先覚者たち)	中村 溪男	日本美術	13

松本竣介のこと 特集・村上華岳	麻生 三郎	三 彩	113	私設“田中大学”(田中親美)(ある民間研究家のプロフィール)	竹田道太郎	藝術新潮	10の 8
華岳の生涯	隈元謙次郎	シ	シ	谷川徹三氏(教養派列伝・7)		東京夕刊	1.23
華岳さん	富永 覚	シ	シ	団伊能(ぶらり見参)	竹 林 賢	美術手帖	160
父華岳の事	村上常一郎	シ	シ	徳大寺公英(人物点描)		シ	163
華岳雑感	加藤 一雄	シ	シ	国立西洋美術館長に決った富永惣一(時の人)		毎 日	4.4
華岳聞き書	菅瀬 正	シ	シ	国立西洋美術館長になつた富永惣一(時の人)		読 売	シ
華岳の藝術 年譜	山口 玄珠	シ	シ	国立西洋美術館長に決定した富永惣一(横顔)		産 経	シ
山川秀峰の遺作とモデルの対面		産 経	9.23	日曜対談	岸田今日子 富永 惣一	日経夕刊	5.24
特集・横山大観遺作展		国立近代美術館ニュース	58	富永惣一(ぶらり見参)	竹 林 賢	美術手帖	158
大観先生の思い出	細川 護立	シ	シ	日本建築学会会長になつた二見秀雄(時の人)		毎 日	1.23
美術院再興のころ	坂崎 坦	シ	シ	水野清一(人寸描)		朝 日	2.8
横山大観先生の追想	松林 桂月	シ	シ	山田智三郎(人寸描)		シ	2.25
大観先生	安田 靱彦	シ	シ	パリ大学都市日本館館長になる吉川逸治(人寸描)		シ	1.16
横山先生の印象	遠山 孝	シ	シ	パリ日本学生会館館長に就任した吉川逸治(時の人)		毎 日	1.26
大観遺作展鑑賞案内	河北 倫明	シ	シ	日本文化をアメリカに紹介するオーバートン氏(十字路)		毎日夕刊	1.25
大観とモウロウ体	シ	毎 日	4.12	ギルシュマン博士・その人と業績	江上 好夫	朝 日	11.27
五浦の大観と春草	野間 清六	ミュージアム	102	阿部次郎君を悼む	小宮 豊隆	東京夕刊	10.22
大観の藝術	河北 倫明	シ	シ	シの死	シ	産経夕刊	10.27
横山大観遺作展によせて	細川 護立	東京夕刊	9.18	秋草道人(会津八一)の恋	浅見 淵	シ	7.19
大観の腰湯(茶の間)	桜井 猶司	毎日夕刊	9.28	川路柳虹さんを憶う	西条 八十	シ	4.19
大観先生のこと	安田 靱彦	朝 日	9.12	田中豊蔵(倉琅子)の南画新論	三輪 福松	萌 春	64
大観藝術の魅力(遺作展をみて)	北川 桃雄	シ	9.18	ベレンソンの死	シ	藝術新潮	10の12
横山大観	村松 梢風	日 経	9.16	イギリスの建築史家(1)	桐敷直次郎	建築史研究	27
現代からみた横山大観(座談会)	土方 定一 宇佐見英治 吉沢 忠	藝術新潮	10の11	福沢諭吉と岡倉天心一九鬼隆一をめぐる両者の立場について	伊藤 正雄	甲南大学文学史会論集	10
横山大観(少年よみもの・若葉物語)	村松 梢風	日経夕刊	11.13	画商いまむかし	長谷川 仁	日 経	6.3
奇才横井金谷	藤森 成吉	萌 春	69	戦後派画商の反省	山本 孝	藝術新潮	10の 1
米沢蘇峯氏を偲んで(対談)	内藤 匡 黒田 領治	陶 説	78	新聞美術記者新春放談(座談会)	小川 正隆 船戸 洪吉 桑原 住雄 松江 知次 和田伊都夫	日本美術	10
追悼・和田英作	隈元謙次郎	美術手帖	154	特集・こんな美術批評家たち		藝術新潮	10の8
追悼・和田英作	坂崎 坦	みづゑ	645	二つの世代を斬る	芳賀 徹	シ	シ
滝拙庵の芳屋・雅邦論	三輪 福松	萌 春	63				
美術関係者							
国立西洋美術館の事業課長になつた嘉門安雄(時の人)		毎 日	6.11				
ジュリアン賞を受ける神田喜一郎(時の人)		シ	5.31				
瀬木慎一(人物点描)		美術手帖	164				

美術文献目録

美術批評三つの盲点 美術批評はここにはない 「こんな美術批評家たち」に答える	宗 左近 生野 幸吉 針生 一郎 瀬木 慎一	藝術新潮 〃 〃	10の8 〃 10の9	特集・国宝修理を現場検証する 1 ホームズ国宝修理は挑む 特集・国宝修理を現場検証する 2 修理の問題点を衝く	〃 福田 恆存 〃 〃	10の1 〃 〃 〃
その他						
新薬師寺の国宝を預る	菅原 通済	藝術新潮	10の6	古都はかく語られて(古寺巡礼と一つの現代の眼)	宇佐見英治	〃 10の2
正倉院の品々	中村 汀女	読売夕刊	11.5	特集・国宝をもてあます奈良の貧乏寺	〃	〃 10の7
〃 宝物に似たカット・グラス	深井 晋司	朝 日	11.11	特集・調査ブームは何を発見したか(戦後の文化財調査総決算)	〃	〃 10の9
三十六人家集とわたし	伊藤忠兵衛	日 経	11.25	1. 新発見・発掘ベスト・テン	〃	〃
珍書再会残つていた「大和絵のこんげん」	小池藤五郎	〃	10.28	2. どの様に調査されたか	〃	〃
これだけは世界に誇れる(「国華」70年の風雪)	竹田道太郎	藝術新潮	10の3	3. 調査団の内幕	〃	〃
「国華」をこらみる	谷 信一 鈴木 進 河北 倫明	〃	〃	人間文化財	毎 日	7.28
現代日本画家の消息文	喜田幾久夫	日本美術工芸	245	人間国宝制度の現状と問題点	産 経	7.31
スキラ版とゴッホ(対談)	山田三郎太 矢野 文夫	色 鳥	11	巨匠バリーに競う(美の殿堂・ユネスコ本部)	ジョルジュ・サール イサム野口 高階 秀爾	藝術新潮 10の1
にせもの礼讃	田中 一松	国立近代美術館ニュース	60	今日の日本	エドモンド・ブランデン	読売夕刊 7.4
真贋の話	隈元謙次郎	〃	〃	日本の第一印象	ルドルフ・アルンハイム	朝 日 12.17
鉄斎のにせもの	小高根太郎	〃	〃	私のコレクションと日本	B・トレ メーン夫人	藝術新潮 10の12
彫刻の真贋について	千沢 楨治	〃	〃	歴史のリレー	永野 重雄	読売夕刊 10.23
にせもの奇談	小高根太郎	萌 春	65	欧州における文化財保存事業の動向とユネスコの活動	関 野 克	建築雑誌 877
鑑識の話	田中 一松	〃	71	高まる東西文化交流熱(ユネスコ諮問委員会に出席して)	前田 陽一	毎 日 7.4
鑑定といふこと(座談会・にせものとはなんもの)	今泉 徳男 野間 清六 谷 信一	三 彩	110	国際的協同研究が必要(極北の人間と文化の研究のために)	泉 清 一	〃 11.4
偽物売捌法	松下 英麿	藝術新潮	10の8	ヨーロッパにおける絵画の修復(保存技術の現状)	山 下 登	みづゑ 644
重要民俗資料に指定されたアイヌ土俗品採集の裏話	馬 場 脩	毎 日	4.2	皇居開放論	加納 久朗	文藝春秋 37の1
転換期の民俗学(新しい研究方法への前進)	関 敬 吾	〃	4.13	破壊される風景(観光ブームによせて)	亀井勝一郎	読売夕刊 6.10
文化財を大切にしよう(発掘・調査・売買はかならず届出を)	江坂 輝弥	朝 日	3.7	化石した美術界(日本表現派の発生)	岩崎 巴人	藝術新潮 10の4
青い眼がねらう文化財	竹田道太郎	藝術新潮	10の1	美術この半年	〃	毎 日 7.18
特集記事・〃重美〃を持ち出したアメリカ人(バックカード氏とその周囲)	〃	〃	10の6	美術界 1959年(座談会)	嘉門 安雄 鈴木 進 長谷川 仁	産経夕刊 12.22
私は何故日本美術を学ぶか	ハリー・バックカード(談話)	〃	〃	ことしの読売ベスト・スリー・美術	読売夕刊	〃
「皇居」文化財指定の内幕	山花 孝男	〃	10の3			
新・重文指定の背景	〃	〃	10の5			

ことしの波紋・美術界	朝 日	12.24	1. ニューヨークに直行する版画	美術新潮	10の5
美術界・ことしの回顧	毎 日	12.30	2. 国際的「民藝」の行方	〃	〃
「文化の谷間」の前衛運動(福井県)	土岡秀太郎	美術新潮	10の2	実験美学ノート「LSD」服用実験をみて	阿部 公房 〃 10の3
沖縄の藝術地図	山之口 貌	〃	10の8	アメリカの風変わりな日本人	岩崎 鐸 〃 10の7
複製コンプレックス	風 間 完	〃	10の3	街で拾った不思議な造形	阿部 展也 美術手帖 153
物真似藝術・もう結構	大岡 昇平	〃	10の5	アブストラクト公園(絵と文)	谷内 六郎 美術新潮 10の11
特集・藝術はどこにでもなくルポルタージュ	〃	〃	10の2	民藝と貿易	柳 宗悦 朝 日 2.23
都市計画	安岡章太郎	〃	〃	漆原料の欠乏	松田 権六 〃 1.16
街のデザイン	開高 健	〃	〃	うちわとせんすのむかしむかし	石橋豊三郎 日 経 6.10
モニュマン	宗 左近	〃	〃	サインのある自動車	由良 玲吉 美術新潮 10の5
模倣藝術	飯沢 匡	〃	〃	青森の風絵	棟方 志功 三 彩 110
特集・彼の時代は去った	〃	〃	10の4	纏	柳 宗理 〃 111
特集記事・卒業制作エレジー(藝術大学美術学部の場合)	〃	〃	〃	2つの美術映画(ロダンとビュッフェ)を見て	久保 守 東京夕刊 9.2
特集記事・天才はどこへ行つた	〃	〃	10の8	チュッコの人形映画	岡田 晋 美術手帖 162
特集記事・東郷代作問題の真相	〃	〃	10の10	写真と幻想	難波田龍起 三 彩 110
「ヴァイオリンを持てる裸婦」(劇作)	ノエル・カワード 松原正・林克巳・訳編	〃	〃	写真界上半期の成果	伊奈 信男 朝 日 7.14
VitruviusとPalladioの建築書におけるオーダーの比較	相川 浩	日本建築学会論文報告集	63—2	碧い眼でみた日本の色彩	福村 耕雄 産 経 2.22
高松政雄の建築家の修養について	三木 正己	〃	63の2	古い色・新しい色(印刷刷現の魅力)	河野 鷹思 読売夕刊 2.23
パリの画廊(サン・ブラシッド画廊)	関口 俊吾	みづゑ	644	新しい色彩教育	〃 3.27
パリの画廊(ヴェルグエン画廊)	〃	〃	645	原色恐怖症(日本の色)	岡本 太郎 産経夕刊 5.11
〃(アール・ヴィヴァン画廊)	〃	〃	655	アメリカの色彩	稲村 耕雄 毎 日 6.11
ニューヨークの画廊	河北 倫明	〃	652	色彩管理の再検討(学会余滴)	山崎 勝弘 朝 日 7.4
画題のうつりかわり(ごぞんじですか)	〃	美術手帖	161	水色測定法	田口 湧三郎 東京夕刊 7.18
線のもつ意味(ごぞんじですか)	〃	〃	160	ネオンの都	亀倉 雄策 読売夕刊 7.4
アルバムから三つの話	滝口 修造	〃	161	帰つて来る松方コレクション	朝 日 3.27
詩によるタイポグラフィの試み	北園 克衛 田中 杉浦 康平	〃	162	国立西洋美術館の開館	嘉門 安雄 萌 春 67
パシフィック・スタイル(本格化した日本ブーム)	芦原 義信	美術新潮	10の7	〃に	ル・コルビジェ 新 建 築 34の7
政治漫画批判	伊藤 逸平	美術手帖	156	よせて	坂倉 準三 〃 34の7
特集記事・日本ブームの代表選手	〃	美術新潮	10の5	国立西洋美術館の開館に際して	〃 10の4
				特集・国立西洋美術館の全貌	美術新潮 10の4
				(1) 松方コレクションの意義	矢代 幸雄 〃 〃
				(2) 新設美術館に思う	土方 定一 田近 憲三 菊村 到 久保貞次郎 美術新潮 10の4
				(3) 開館までの8年(特集記事)	〃 〃
				国立西洋美術館をみて	神代雄一郎 みづゑ 649

美術文献目録

西洋美術館の印象	宮本 三郎	読売夕刊	4.23	特集記事・藝術院賞の価値	藝術新潮	10の4
見にくい国立西洋美術館	益田 義信	朝 日	7.1	特集記事・文化勲章のおぜんだて	〃	10の11
開館1カ月の西洋美術館	古谷 糸子	毎 日	7.12	建築年鑑賞設定をめぐって	吉阪 隆正	読 売 12.15
松方コレクション		美術手帖(増刊)	159	習字選択制に疑点(賛成できる新学習指導要領)	豊道 慶中	朝 日 7.6
松方幸次郎とそのコレクション	松方 三郎	〃	〃	墨画と書	内山 雨海	東京夕刊 12.7
ロダンとブルデル	佐藤 忠良	〃	〃	特集記事・書道界	藝術新潮	10の6
19世紀西洋美術史上の位置づけ		〃	〃	モダニズム書道批判(現代詩・書展をみて)	宇佐見英治	
I 写実主義まで	嘉門 安雄	〃	〃	何をどう考へているか(鼎談)	徳大寺公英 比田井南谷 森田 子龍	墨 美 87
II 印象派以後	中山 公男	〃	〃			
印刷解説	高橋 忠弥	〃	〃			
国立西洋美術館の完成まで	坂倉 準三	〃	〃			
松方コレクションを迎えて(鼎談)	富永・三雲・瀬木	〃	〃			
松方コレクション		毎日グラフ(臨時増刊)	6.3			
松方コレクションの謎		週間東京	6.20			
松方コレクションが初めて将来された時の憶い出	佐藤 久二	三 彩	116			
松方コレクション3千万円の秘密	矢田三千男	藝術新聞	10の6			
返された文化財(松方コレクションと韓国の場合)	森口 多里	東京夕刊	2.12			
国立西洋美術館とブリッヂストン美術館(上)(中)(下)	船戸 洪吉	毎 日	7.2—4			
ブリッヂストン美術館新装に際して	石橋正二郎	み づ ゑ	649			
ブリッヂストン美術館新装記念展		萌 春	67			
私設美術館の8年(ブリッヂストン美術館の歩み)	伊藤 廉	藝術新潮	10の6			
地方美術館白書(本間美術館の一年)	佐藤 七郎	〃	10の1			
欧州の古文書館	坂本 太郎	朝 日	9.26			
歴史美術館	嘉門 安雄	文藝春秋	37の7—12			
空想・浅野美術館	浅野 長武	〃	37の4			
空想・松方美術館	松方 三郎	〃	37の1—3			
失われた黄金の王杖(カイロ博物館盗難事件)	吉岡 達也	藝術新潮	10の12			
日本における近代美術館設立運動史(18)一(26)	隈元謙次郎	国立近代美術館ニュース	50—55 57—59 〃 57			
特集・美術館と画廊		読売夕刊	10.24			
世界デザイン会議・日本で開催の意義	浅田 孝	読売夕刊	10.24			
特集記事・Gマーク選定の内幕		藝術新潮	10の2			
				現代書道20人展	野間 清六	朝 日 1.8
				東郷青児素描展	桑 日野 船戸 洪吉 田近 憲三 隆	東京夕刊 1.7 産 経 日 1.9 毎 日 1.10 朝 日 1.11 朝 日 1.12
				選抜秀作美術展	嘉門 安雄 中原 佑介 船戸 洪吉	朝 日 1.13 読売夕刊 1.15 毎 日 1.16
				世界の女性美展	近藤市太郎	読売夕刊 1.16
				日本洋画商連盟主催「1959年展」	石 日野 船戸 洪吉	東京夕刊 1.14 産 経 日 1.16 毎 日 1.17
				篠田桃紅個展	隆	朝 日 1.19
				松木重雄滞欧油絵展	日 桑 桑 隆 隆	産 経 日 1.20 東 京 日 1.21 朝 日 1.22
				日境交歓版画展	桑	東 京 1.21
				川端竜子「魚竜7題展」	桑 隆 隆 横 船戸 洪吉	東 京 日 1.21 朝 産 日 1.22 産 経 日 1.23 毎 日 1.24
				森田恒友展(異色作家シリーズ第10回)	船戸 洪吉	毎 日 1.23
				第25回日本写真美術展	S. S	〃 1.25
				「藝術家の見た産業」美術展	船戸 洪吉	〃 1.25
				具象国際小品展	隆 福島繁太郎	朝 日 日 1.26 日 経 1.29
				加納光於個展	隆	朝 日 日 1.26
				十一会小品展	日 隆	産 朝 日 1.27 朝 日 1.30
				高間惣七淡彩展	日 桑 桑 隆	産 朝 日 1.27 東 京 夕 刊 日 1.28 朝 日 1.30
				小川マリ油絵近作展	桑 日 隆 野	東 京 夕 刊 日 1.28 産 朝 日 1.30 朝 日 1.30
				小山田二郎個展	隆 船戸 桑 洪吉	朝 日 1.30 朝 日 1.29 東京夕刊 1.28

展覧会批評(主要新聞雑誌所載)

美術文献目録

スペインに行く「日本の版画」	宇佐見英治	読売夕刊	1.27	ビュッフェ展	岡本謙次郎	東京夕刊	2.28
戦後の秀作展	隆	朝日	2.7		土方定一	毎日	3.2
	河北倫明	読売夕刊	1.27	羽田敏雄「スード」写真展	開高健	毎日	3.9
	中原佑野	産経夕刊	2.2		S. S	〃	3.2
	中山道雄	産経夕刊	2.3	読売アンデパンダン展	富永徳	読売夕刊	〃
	船戸洪吉	産経夕刊	2.23		瀬木慎一	〃	3.3
17回青々会展	桑日野	東京夕刊	1.29		大寺公修	〃	3.4
	桑日野	産経	1.30		瀧口修造	〃	3.5
12回陷青会展	桑日野	東京夕刊	1.29		針生定一	〃	3.5
	桑日野	産経	1.30		土方隆	〃	3.7
松村桂月作品展	飯沢匡	産経	1.30		隆日野	朝日	3.10
国際政治漫画展	船戸洪吉	朝日	1.31	藝術院会院スケッチ展	横川	産経夕刊	3.12
	船戸洪吉	毎日	2.1		船戸洪吉	産経夕刊	3.2
伊藤深水欧米スケッチ展	桑日野	東京夕刊	2.4	風間完滞仏作品展	船戸洪吉	毎日	3.4
	船戸洪吉	産経	2.6		隆	〃	〃
	嘉門安雄	毎日	2.12	安孫子荻声個展	〃	〃	〃
	嘉門安雄	産経	2.7	中央公論新人展	〃	〃	〃
春陽会選抜新人展	日野	産経	2.6		船戸洪吉	毎日	3.5
春陽会新人展	船戸洪吉	毎日	2.5		桑	東京夕刊	〃
	船戸洪吉	朝日	〃	6回成和会	船戸洪吉	毎日	〃
集団「30」第1回展	船戸洪吉	読売夕刊	〃		隆	毎日	〃
	中原佑介	読売夕刊	〃		桑	東京夕刊	〃
名井万亀個展	〃	〃	〃		嘉門安雄	毎日	3.6
近藤竜男個展	〃	〃	〃	小林渠居人個展	日野	産経夕刊	3.4
「JAN」7人展	〃	〃	〃	「火の藝術の会」作品展	W隆	朝日	3.5
長浜光書展	日野	産経夕刊	2.6		三雲祥之助	東京夕刊	〃
ユーゴスラビア中世墓石彫刻拓刷展	阿部展也	毎日	〃	涼葉会第1回展	桑	〃	〃
第4回富士百景写真展	S. S	〃	2.11	富士名作展	日野	産経	3.6
日本表現派展	隆	朝日	2.13	杉本健吉素描展	桑隆	東京夕刊	3.7
下村良之介個展	〃	〃	〃		隆	朝日	{3.7 3.11
	船戸洪吉	毎日	〃		船戸洪吉	毎日	{3.11 3.12
岩崎鐸個展	隆	朝日	〃		福島繁太郎	毎日	3.13
	中原佑介	読売夕刊	〃		中原佑介	読売夕刊	3.7
	船戸洪吉	毎日	〃	木村賢太郎彫刻展	隆	朝日	3.7
新写真派展	S. S	〃	2.18		船戸洪吉	毎日	3.11
2回九阜会展	桑	東京夕刊	〃		中原佑介	読売夕刊	3.7
〃	隆	朝日	2.21	杉本健吉素描展	福島繁太郎	毎日	3.13
木村荘八遺作展	〃	〃	2.19		桑隆	東京夕刊	3.7
	奥野信太郎	東京夕刊	〃		隆	朝日	3.11
	日野	産経	2.20		船戸洪吉	毎日	3.12
	岡鹿之助	毎日	〃	女流版画展	隆	朝日	3.7
矢柳剛個展	中原佑介	読売夕刊	2.19		中原佑介	読売夕刊	3.9
本田克己個展	〃	〃	〃	レオン・ターナー個展	〃	〃	〃
12回「いけばな」美術展	河北倫明	読売	2.21	三軌会展	日野	産経夕刊	3.12
弥生会展	隆	朝日	〃	新世紀会展	〃	〃	〃
向井潤吉「民家スケッチ展」	船戸洪吉	毎日	2.23	黒土会展	〃	〃	〃
	桑隆	東京夕刊	2.22		桑隆	東京夕刊	〃
	隆	朝日	2.23		船戸洪吉	毎日	3.13
	福島繁太郎	毎日	2.25	麻生良方個展	日野	産経夕刊	3.12
6人展(岩宮・植田・堀内・緑川・林・秋山)	S. S	毎日	2.24	三枝会展	船戸洪吉	毎日	3.13
12回日本アンデパンダン展	隆	朝日	2.25	山本正個展	桑	東京夕刊	3.16
	中原佑介	読売夕刊	2.27		船戸洪吉	毎日	3.18
	船戸洪吉	毎日	2.26		隆	産経夕刊	〃
						朝日	〃

美術文献目録

脇田和個展	隆 中原 船戸 桑日	佑介 洪吉 野	朝 読売 毎東 京夕 産	日刊 日刊 経	3.18 3.19 3.20
2回学生美術展	船戸	洪吉	毎日	夕刊	3.16
ブラジル近代建築展	清家 芦原 浜口	清義 信隆一	東京 朝日 毎	夕刊 日日	3.17 3.22
英照・昭憲・貞明3代皇后展	岡田	譲	毎	日	3.18
「近代日本の静物画」展	岡本謙次郎 船戸洪吉		東京 毎	夕刊 日日	3.19 3.26
春の青竜展	桑隆横	川	東京 朝産	夕刊 日日 経	3.19 3.23 3.26
一采社展	〃		〃		3.20
4回雨晴会展	横隆	川	産朝	経日	3.20 〃
林謙一油絵展	船戸	洪吉	毎	日	〃
白日会展	桑		東京	夕刊	3.22
示現会展	〃		〃		〃
水彩連盟展	〃		〃		〃
美術文化展	〃		〃		〃
横山泰三作品展	中原隆 船戸飯	佑介 洪吉 匡	讀朝 毎東 京夕 産	刊日 日日 刊	3.27 〃 〃 3.28 4.4
虹原会展	隆		朝	日	3.27
金山康喜作品展	船戸今泉	洪吉 篤男	毎東 東京	日日 夕刊	3.29 3.31
曹良奎個展	中原	佑介	〃		3.27
難波田竜起展	船戸桑隆	洪吉	毎東 東京 朝	日日 夕刊 日	4.3 4.1 〃
美術家会館建設展	船戸	洪吉	毎	日	4.1
東京都美術館増築資金募集日本画・洋画・彫刻・工芸展	〃		〃		〃
伊東深水・堅山南風2人展	隆		朝	日	4.4
久野真「鋼鉄による作品」展	中原	佑介	読売 毎	夕刊	4.2
1回静芳社展	日	野	産	経	4.4
第5回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展国内展示	田村泰次郎 岡本謙次郎 〃		読売 東京 毎	夕刊 夕刊 日	〃 4.9 4.21
5回光風会展	日岡本謙次郎 船戸洪吉 嘉門安雄 福島繁太郎	野 洪吉 雄 太郎	産經 東京 毎朝 日日	夕刊 夕刊 日日 経	4.7 4.8 〃 4.10 4.18
18回創元会	日岡本謙次郎 船戸洪吉 嘉門安雄 福島繁太郎	野 洪吉 雄 太郎	産經 東京 毎朝 日日	夕刊 夕刊 日日 経	4.7 4.8 〃 4.10 4.22

27回 日本版画協会展	日岡本謙次郎	野	産経	夕刊	4.7
	シ	隆	東京	夕刊	4.8
	徳大寺公英	読	読売	夕刊	4.9
	隆	毎朝	毎日	夕刊	4.10
	福島繁太郎	日	日	夕刊	4.13
			経	夕刊	4.17
9回 モダン・アート展	日岡本謙次郎	野	産経	夕刊	4.7
	隆	朝	東京	夕刊	シ
	徳大寺公英	毎	読売	夕刊	4.8
	中原 佑介	読	読売	夕刊	4.10
第9回 全日本学生油絵コンクール	船戸 洪吉	毎	日		4.9
木田金次郎作品展	桑		東京	夕刊	シ
新制作協会東京春季日本画展	シ		シ		シ
第1回 斎藤清版画展	シ		シ		シ
	日	野	産	経	4.14
川端竜子「紅白」個展	桑		東京	夕刊	4.9
1回「鷹の会」展	シ		シ		4.11
	隆		朝	日	4.14
アメリカ抽象6人展	船戸 洪吉	毎	日		4.19
サロン・ド・アブリユ	シ		シ		シ
8回 グループ「JUNE」展	中原 佑介	読	読売	夕刊	4.16
真珠会ミニアチュール展	船戸 洪吉	毎	日		シ
版画展	福島繁太郎	日	経		4.17
未更会展	隆	朝	日	経	シ
	河北 倫明	日	日	経	4.21
渋谷高弘写真展	S. S.	毎	日		シ
6回 全毎日報道写真展	シ		シ		シ
ベラ・ストラピンスキー個展	日	野	産	経	4.21
香月泰男個展	桑隆		東京	夕刊	4.22
	船戸 洪吉	毎	朝	日	4.29
斎藤正夫個展	桑		東京	夕刊	4.22
	船戸 洪吉	毎	朝	日	4.23
長谷川三郎展（異色作家シリーズ第12回）	船戸 洪吉	毎	日		シ
工藤哲己個展	中原 佑介	読	読売	夕刊	4.24
山川秀峰名作展	横 川	産	経		4.22
森田正治個展	隆	朝	日		4.24
	船戸 洪吉	毎	日		4.29
「近代木彫の流れ」を見て	高田 博厚	東京	夕刊		4.24
	山口 勝弘	読	読売	夕刊	5.2
36回 春陽会展	岡本謙次郎	東京	夕刊		4.25
	隆	朝	日		4.27
	日 野	産	日	経	4.29
	瀬木 慎一	毎	読	夕刊	4.30
	中原 佑介	読	読売	夕刊	シ
33回 国画会展	岡本謙次郎	東京	夕刊		4.25
	福島繁太郎	日	日	経	シ
	針生 一郎	朝	産	日	4.29
	日 野	産	日	経	シ
	瀬木 慎一	毎	読	夕刊	4.30
	中原 佑介	読	読売	夕刊	シ

美術文献目録

25 回東光会	岡本謙次郎	東京夕刊	4.25	那須良輔版画展	船戸 洪吉	毎 日	6.4
5 回国際美術展	日野 一介	産 経	4.29	吉田穂高個展	隆 中 原 佑介	朝 読 売 夕 刊	6.5
	加藤淳之	毎 日 夕 刊	5.4	13 回女流画家協会展	桑 船 戸 洪吉	東京夕刊	6.13
	吉島信太郎	産 経	5.9		日 隆	毎 産 経 夕 刊	6.14
	小安菊村	毎 日 夕 刊	5.11		隆	朝	6.15
	日野 安倫	産 経	5.12	三珠会展	隆	産 経	6.6
	嘉河北東	毎 産 経	5.13	緑樹会展	隆	産 経	6.7
	伊東瀬口	毎 産 経	5.14	池田遙邨素描展	桑 隆	東京夕刊	6.11
	高瀬木	毎 産 経	5.15	全日本女流人形展	堀 柳 女	朝 読 売	6.8
	瀬木 慎一	産 経	5.18	新しい水彩15人展	瀬 木 隆 慎一	毎 日	6.9
	富永橋田	産 経	5.21	須田国太郎自選展	中 原 佑介	朝 読 売 夕 刊	6.12
	掛紫河北	産 経	5.22		船 戸 洪吉	毎 朝	6.13
	徳寺公修	産 経	5.23	七象会展	船 戸 洪吉	毎 日	6.13
	滝今泉	産 経	5.25	朱葉会展	日 野	産 経 夕 刊	6.14
	福島繁太郎	産 経	5.26	川田喜久治写真展	S ・ S	毎 日	6.16
	植村鷹千代	産 経	5.30	現代日本の陶藝展	隆 田 地 文子	朝 読 売 夕 刊	6.16
3 回龍会展	桑 野	東京夕刊	4.28		勝 見	毎 産 経 夕 刊	6.20
現代写実派百人展	日 野	産 経 夕 刊	4.27	高山辰雄新作展	船 戸 洪吉	毎 朝	6.18
	隆 桑 船 戸 洪吉	産 経	4.28		隆 横 北 倫明	朝 産 経 夕 刊	6.19
宮本三郎素描展	隆 桑 船 戸 洪吉	朝 読 売 夕 刊	5.4	近代人形工芸展	神 成 澤作	日 産 経 夕 刊	6.20
寺田竹雄個展	隆	朝 読 売 夕 刊	5.3	土橋鋳造個展	中 原 佑介	読 売 夕 刊	6.18
福田翠光個展	隆	朝 読 売 夕 刊	5.7	小林和作小品展	桑 船 戸 洪吉	東京夕刊	6.19
稻田三郎個展	中 原 佑介	読 売 夕 刊	5.2		桑 隆 横 川	毎 朝	6.25
津高和一個展	桑 隆	東京夕刊	5.9	片岡球子日本画展	桑 隆 横 川	東京夕刊	6.27
水谷清外遊作品展	隆	朝 読 売 夕 刊	5.13		桑 隆 横 川	東京夕刊	6.25
叢会第1回展	隆	朝 読 売 夕 刊	5.15	梅原龍三郎ストレーザ作品展	桑 船 戸 洪吉	東京夕刊	6.25
岩田藤七ガラス器展	隆 日 野	朝 産 経 夕 刊	5.15		桑 隆 横 川	毎 朝	6.17
宮坂房衛彫金展	日 野	産 経	5.15	生活と美術展	桑 隆 中 原 佑介	東京夕刊	6.19
渡辺恂三個展	中 原 佑介	読 売 夕 刊	5.16	中山爾郎個展	隆 桑 隆 中 原 佑介	朝 読 売 夕 刊	6.24
世界の中の抽象美術展	隆	朝 読 売 夕 刊	5.16		隆 桑 隆 中 原 佑介	朝 読 売 夕 刊	6.25
阿部合成個展	隆	朝 読 売 夕 刊	5.19	辻光典作品展	隆 桑 隆 中 原 佑介	朝 読 売 夕 刊	6.26
福田平八郎自選展	桑 鈴木 進 倫明 佑介 川	東京夕刊	5.24	森堯茂個展	隆 桑 隆 中 原 佑介	朝 読 売 夕 刊	6.27
	日 隆 桑 船 戸 洪吉	朝 読 売 夕 刊	5.26	阿部金剛展	隆 桑 隆 中 原 佑介	朝 読 売 夕 刊	6.28
佐藤泰治個展	日 隆 桑 船 戸 洪吉	朝 読 売 夕 刊	5.29	三岸好太郎遺作展	隆 桑 隆 中 原 佑介	朝 読 売 夕 刊	6.29
	日 隆 桑 船 戸 洪吉	朝 読 売 夕 刊	5.31	向井久万展	隆 桑 隆 中 原 佑介	朝 読 売 夕 刊	7.1
カレル・アペルの個展	日 隆 桑 船 戸 洪吉	朝 読 売 夕 刊	5.26	大須賀力・黒田嘉治彫刻展	隆 桑 隆 中 原 佑介	朝 読 売 夕 刊	7.3
	日 隆 桑 船 戸 洪吉	朝 読 売 夕 刊	5.28	青羊会展	隆 桑 隆 中 原 佑介	朝 読 売 夕 刊	7.1
井上三綱個展	日 隆 桑 船 戸 洪吉	朝 読 売 夕 刊	5.28	尚美会展	隆 桑 隆 中 原 佑介	朝 読 売 夕 刊	7.3
古家新個展	日 隆 桑 船 戸 洪吉	朝 読 売 夕 刊	5.28	薔薇会展	隆 桑 隆 中 原 佑介	朝 読 売 夕 刊	7.1
朔日会展	日 隆 桑 船 戸 洪吉	朝 読 売 夕 刊	5.27	旺玄会展	隆 桑 隆 中 原 佑介	朝 読 売 夕 刊	7.3
第1美術展	日 隆 桑 船 戸 洪吉	朝 読 売 夕 刊	6.4	平和美術展	隆 桑 隆 中 原 佑介	朝 読 売 夕 刊	7.1

美術文献目録

新エコール・ド・ト ウキョウ	隆 中原 佑介	朝 読売夕刊	日 7.4 7.3
三岸節子はり絵展	隆	朝 日	7.4
小磯良平素描展	桑 隆 船戸 洪吉	東京夕刊 朝 毎 日	7.7 7.9
写真展「10人の眼」	S. S.	7.7	
熊谷守一・中川一政 2人展	桑	東京夕刊	7.9
2回孔雀会展	隆	朝 日	7.9
パリ・コラージュ 3 人展	隆 山口 勝弘	朝 読売夕刊	7.9 7.10
暖話会展	桑	東京夕刊	7.9
新象作家協会展	隆	朝 日	7.11
ニッポン展	7.12	7.12	
依岡慶樹個展	横 川	産経夕刊	7.12
棕櫚会展	中村伝三郎	東京夕刊	7.14
ブレリオ・リゾーネ 国内展	高階 秀爾	読売夕刊	7.17
世界商業デザイン展	隆 中原 佑介	朝 読売夕刊	7.18
日英水彩画展	日 野	産経夕刊 朝 日	7.24 7.24
メキシコ・日本現代 版画展	7.25	7.25	
下村観山代表作展	鈴木 進 河北 倫明 中村 溪男 野間 清六	東京夕刊 朝 毎 日 読 売	7.25 7.30 8.1
5回「野火」グループ 展	中原 佑介	読売夕刊	7.24
双元会展	隆	朝 日	7.27
夏日会展	7.30	7.30	
清流会展(11回)	桑 嘉門 安雄	東京夕刊 日 経	7.30 7.31
連袖会展	日 野	産 経	7.31
懸星会展	7.31	7.31	
清川泰次作品展	船戸 洪吉 桑	毎 日 東京夕刊	8.1
三木富雄個展	中原 佑介	読売夕刊	7.31
北斗会展	船戸 洪吉 藤木 藤一郎 日 野	毎 日 東京夕刊 産経夕刊	8.1 8.5
1回「NAVA」グ ループ展	中原 佑介	読売夕刊	7.31
毎日書道展	河北 倫明	毎 日	7.31
前衛書展	7.31	7.31	
9回日宜美術展	岡本謙次郎 船戸 洪吉 隆 浜口 隆一	東京夕刊 毎 日 朝 読売夕刊	8.6 8.7 8.8
山口源版画展	桑 隆 船戸 洪吉	東京夕刊 朝 毎 日	8.9 8.10 8.12
13回新樹会展	桑 隆 日 野 船戸 洪吉 田近 憲三	東京夕刊 朝 産経夕刊 毎 日 経	8.14 8.15

2回十一会展	桑 船戸 洪吉 日 野 田近 憲三 隆	東京夕刊 毎 日 産経夕刊 朝 日	8.14 8.15
山口薫・村井正誠 2 人展	中原 佑介	読売夕刊	8.18
ハワイ美術展	由良 玲吉 岡本謙次郎	7.18	8.20
ローマ古美術展	7.19	7.19	
現代生活美術展	片山 敏彦 富永 惣一 杉山 寧	東京夕刊 読売夕刊 朝 日	8.23 8.26
デュ・ピュ・ツフェ新作 石版画展	船戸 洪吉 隆 桑 中原 佑介	毎 日 朝 東京夕刊 読売夕刊	8.19 8.20 8.21
11回立軌会展	桑 船戸 洪吉 隆 中原 佑介 田近 憲三 中原 佑介	東京夕刊 毎 日 朝 読売夕刊 日 経	8.20 8.21 8.22 8.21 8.22
グループ「人間」展	7.21	7.21	
豊田一男個展	桑	東京夕刊	8.26
ゲフ会展	日 野	産経夕刊	8.27
日本水墨派展	7.27	7.27	
関野準一郎滞米作品 展	船戸 洪吉	毎 日	8.28
世界の建築と美術の 総合展	7.28	7.28	
「九州派」グループ展	中原 佑介	読売夕刊	8.28
福島秀子個展	7.28	7.28	
漫画集団展	桑 岩	東京夕刊 産経夕刊	9.3
31回青龍会展	横川 毅一郎 河北 倫明 久富 貢 鈴木 進 嘉門 安雄 中原 佑介	朝 日 東京夕刊 毎 日 産経夕刊	9.5 9.8 9.14
44回二科展	岡本謙次郎 日 野 7.10	東京夕刊 産経夕刊	9.3 9.5
14回行動美術展	本間 正義 中原 佑介 土方 定一 瀬木 慎一 嘉門 安雄	東京夕刊 読売夕刊 毎 日 朝 日 経	9.6 9.7 9.9 9.10 9.12
44回院展	岡本謙次郎 日 野 本間 正義 中原 佑介 土方 定一 瀬木 慎一 久富 貢 本間 正義 鈴木 進 河北 倫明 横川 毅一郎 嘉門 安雄 日 野 中原 佑介 野間 清六	東京夕刊 産経夕刊 東京夕刊 読売夕刊 毎 日 産経夕刊 朝 日 東京夕刊 東京夕刊 毎 日 朝 日 産経夕刊 読売夕刊 東京夕刊	9.3 9.5 9.6 9.7 9.9 9.10 9.11 9.15 9.5 9.6 9.8 9.8 9.9 9.10 9.14 9.8

美術文獻目録

小茂田青樹展(異色作家シリーズ14回)	船戸 洪吉	毎 日	9.4
2回新実派選抜百人展	田近 憲三	産経夕刊	9.9
限定版蔵書展	杉森 久英	東京夕刊	9.10
明治・大正・昭和美術回顧展	嘉門 安雄	毎 日	9.12
海老原喜之助素描展	桑 土方 定一 田近 憲三 瀬木 慎一	東京夕刊 朝 日 経 日 毎 日	9.16 9.17 9.19
佐田勝個展	日 野 産 経	産 経	9.17
ガレリイ彫刻展	高階 秀爾 船戸 洪吉	読売夕刊 毎 日	9.16 9.17
8回「具体」展	中原 佑介	読 売	9.18
工藤哲己展	シ	シ	シ
10回グループ「ラ・ヴィ」展	シ	シ	シ
シャガール石版画展	田村孝之介 田近 憲三 桑	毎 日 経 日 日 東京夕刊	9.26 9.23 シ
野田好子個展	シ	シ	シ
福田新生滞欧作品展	シ	シ	シ
大観遺作展をみて	中村 溪男	読 売 夕	9.26
21回一水会展	岡本謙次郎 日 野 産 経 中原 佑介 岡田 護 亮 柳 土方 定一 嘉門 安雄	東京夕刊 産経夕刊 読売夕刊 東京夕刊 朝 日 経 日 毎 日	9.26 9.26 9.30 シ シ 10.2 シ
23回新制作協会展	岡本謙次郎 日 野 産 経 河北 倫明 中原 佑介 本間 正者 土方 定一 嘉門 安雄 横川 毅一郎	東京夕刊 産経夕刊 朝 日 経 日 読売夕刊 東京夕刊 毎 日 毎 日 産 経	9.26 シ 9.28 9.30 シ 10.2 10.3 10.6
4回一陽会展	岡本謙次郎 日 野 産 経 中原 佑介 本間 正義 嘉門 安雄 土方 定一 針生 一郎	東京夕刊 産経夕刊 読売夕刊 東京夕刊 毎 日 毎 日 朝 日	9.26 シ 9.30 シ 10.1 10.2 シ
現代彫刻10人展	隆	シ	9.29
小野忠弘個展	桑 岡本謙次郎	東京夕刊 毎 日	10.1 10.10
青季会展	桑	東京夕刊	10.1
在仏日本人画家展	シ	シ	10.3
帰山窯新作陶展	横 川 産 経	産 経	シ
勅使河原蒼風・宏2人展	中原 佑介 船戸 洪吉	読売夕刊 毎 日	10.7 シ
ホワン・ミロ版画展	桑	東京夕刊	10.8
明治・大正・昭和3代名画展	シ 河北 倫明 広津 和郎	シ 朝 日 シ	シ 10.9 10.10
岩崎巴人展	桑 岡本謙次郎	東京夕刊 毎 日	10.8 10.10

藤井令太郎個展	桑 船戸 洪吉	東京夕刊 毎 日	10.8 シ
財界人洋画展	大久保 泰	日 経	10.9
稀星会展	日 野 産 経	産 経	シ
鏡木清方「下絵と写生」展	桑 北川 桃雄 岩田 藤七	東京夕刊 朝 日 経 日 毎 日	10.10 10.12 10.14
日本伝統工芸展	蔵田 蔵 護 岡田 朝 日	東京夕刊 朝 日 経 日 産 経 夕 刊	10.11 10.14 シ
児島善三郎自選展	田近 憲三 日 柳 亮 泰 大久保 次郎 岡本謙次郎	東京夕刊 日 経 日 毎 日 読売夕刊	10.13 シ 10.14 シ 10.20 10.20
岡本半三個展	桑	東京夕刊	10.14
国松登個展	シ	シ	シ
山田栄二個展	シ	シ	シ
伊藤研之近作個展	シ	シ	シ
須磨弥吉郎個展	日 野 産 経	産 経	シ
27回独立美術展	岡本謙次郎 柳 亮 泰 嘉門 安雄 日 野 産 経 土方 定一 中原 佑介	東京夕刊 朝 日 経 日 産 経 夕 刊 毎 日 読売夕刊	10.16 10.19 10.22 シ シ 10.24
23回自由美術展	岡本謙次郎 本間 正義 日 野 産 経 土方 定一 嘉門 安雄 針生 一郎	東京夕刊 朝 日 経 日 産 経 夕 刊 毎 日 読売夕刊 朝 日 経 日	10.16 10.18 10.22 シ 10.24 10.27 10.28
13回第二紀会展	岡本謙次郎 本間 正義 東野 芳明 日 野 産 経 土方 定一 嘉門 安雄 中原 佑介	東京夕刊 朝 日 経 日 産 経 夕 刊 毎 日 読売夕刊	10.16 10.18 10.20 シ 10.24 シ
クリスト・クッツシア展	シ	シ	10.17
小野末個展	桑 隆 船戸 洪吉	東京夕刊 朝 日 経 日 毎 日	10.20 10.27 10.28
長谷川利行遺作小品展	桑	東京夕刊	10.20
1回青炎会展	シ	シ	シ
「ヨーロッパ巡回」棟方志功展	河北 倫明 岡本謙次郎 針生 一郎	日 経 日 毎 日 東京夕刊	10.22 11.2 11.7
万鉄五郎展(異色作家シリーズ)	船戸 洪吉	毎 日	10.24
児玉希望水墨画展	桑 船戸 洪吉 隆 横 川	東京夕刊 毎 日 朝 日 経 日 産 経 夕 刊	10.28 10.31 10.27 10.31
山崎隆夫・植木茂2人展	隆 中原 佑介	朝 日 経 日 読売夕刊	10.29 10.31
毎日美術賞10周年展	桑 植村鷹千代 隆	東京夕刊 毎 日	11.5 シ 11.6

美術文献目録

入江波光展	船戸 洪吉	毎日	11.6	長谷川昂彫刻展	日 野	産経夕刊	12.4
2回日展	日 野	産経夕刊	11.7	鳥海青児・野口弥太郎2人展	植村鷹千代	読売夕刊	12.9
	北川 桃雄	朝日	11.9		隆大久保 泰野	朝日	12.4
	久富 貢	東京夕刊	11.7		大日	産経夕刊	12.4
	本間 正義	毎日	11.11	1回橋畔会展	桑	東京夕刊	12.3
	土方 定一	毎日	11.12	高間惣七近作油絵個展	桑	産経夕刊	12.9
	嘉門 安雄	毎日	11.13		船戸 洪吉	毎日	12.10
	岡本謙次郎	東京夕刊	11.14		日 野	産経夕刊	12.10
	横川 毅一郎	産経夕刊	11.14	東山魁夷「東京」展	桑	東京夕刊	12.9
	堀江 知彦	東京夕刊	11.18		日 野	産経夕刊	12.11
10回檀会展	桑	東京夕刊	11.11		隆河北 倫明	朝日	12.12
1回「野火会」展	横 川	産経夕刊	11.12		船戸 洪吉	毎日	12.12
板谷波山米寿記念展	桑	東京夕刊	11.12	川端竜子作品展	桑	産経夕刊	12.18
	小山富士夫	産経夕刊	11.12	東都六大学写真展	渡辺 勉	読売夕刊	12.18
	谷川 徹三	読売夕刊	11.14	立命館大学写真展「北野線」	S・S・	毎日	12.14
	鷹巣 豊治	産経夕刊	11.9	クラーベ版画展	隆	朝日	12.15
福沢一郎個展	桑	東京夕刊	11.12	カンピリ版画展	桑	毎日	12.18
	中原 佑介	読売夕刊	11.13	山本丘人素描展	桑	東京夕刊	12.16
	隆 洪吉	毎日	11.14	五伸会展	桑	毎日	12.19
	船戸 憲三	毎日	11.14		船戸 洪吉	毎日	12.24
	田近 憲三	毎日	11.14	轟会展	桑	毎日	12.20
ペルシャ貴宝展	尾崎 喜八	東京夕刊	11.11	イタリヤの巨匠2人展	桑	東京夕刊	12.20
鈴木信太郎個展	桑	東京夕刊	11.12		隆 洪吉	朝日	12.20
	日 野	産経夕刊	11.13	今日のクラフト展	船戸 洪吉	毎日	12.25
	田近 憲三	毎日	11.14	東都三工大写真展	浜口 隆一	読売夕刊	12.21
	堀江 知彦	東京夕刊	11.18	近藤竜雄・友野友二2人展	S・S	毎日	12.24
朱影会人形展	日 野	産経	11.14	福沢一郎新作デッサン展	中原 佑介	読売夕刊	12.24
海老原喜之助個展	隆 洪吉	朝日	11.13		桑	毎日	12.29
	船戸 洪吉	毎日	11.14		近藤市太郎	読売	1.8
「アメリカの詩」写真展	名取洋之助	朝日	11.16	国華70年展	北川 桃雄	朝日	1.10
	北園 克衛	産経夕刊	11.19		野間 清六	東京	1.13
安井賞候補作家展	中原 佑介	読売夕刊	11.16	南北朝文化展	鈴木 進	毎日	1.14
	船戸 洪吉	毎日	12.10	法隆寺献納宝物展	吉川 英治	毎日	2.22
川口軌厓デッサン展	桑	東京夕刊	11.18		岡田 譲	毎日	2.25
矢橋六郎瀟欧作品展	桑	毎日	11.20	法隆寺と四天王寺の宝物展	岡田 譲	毎日	3.12
尚美会油絵展	桑	東京夕刊	11.18		東山 魁夷	東京夕刊	3.13
8回「集団フォート」展	渡辺 勉	読売夕刊	11.21	英照・昭憲・貞明三代皇后展	河北 倫明	産経	3.26
後藤敬一郎個展	桑	毎日	11.22		岡田 譲	毎日	3.18
フォトリエ展	岡本謙次郎	東京	11.27	法隆寺と四天王寺の宝物展	鈴木 進	朝日	3.28
	隆 修造	毎日	11.27	天皇と美術展	岡田 譲	毎日	4.5
木村・渡辺自選作品2人展	名取洋之助	朝日	11.24	琳派秀作展	野間 清六	毎日	4.10
	S・S・	毎日	11.25		山根 有三	毎日	4.11
ヤロスラフ・セルバン個展	中原 佑介	読売夕刊	11.24		松下 隆三	毎日	4.12
高樹会展	日 野	産経夕刊	11.25		溝口 三郎	毎日	4.13
佐藤真一近作展	桑	東京夕刊	11.25		千沢 植治	毎日	4.14
2回双杉会展	河北 倫明	毎日	11.28		松下 隆三	毎日	4.16
バントゥル・ドゥ・ドゥマン展	桑	東京夕刊	11.25		近藤市太郎	毎日	4.15
新匠会工芸展	船戸 洪吉	毎日	11.26	婚礼風俗史展	近藤市太郎	毎日	4.7
1回二紀具象展	桑	東京夕刊	11.28	伊勢神宮御神宝展	野間 清六	毎日	4.14
「若い画家4人の会」展	中原 佑介	読売夕刊	11.28	近世日本衣裳名品展	毛利 登	毎日	4.21

美術文献目録

中国古代彫刻展	水野杉村北野千水福沢水野若藤東小山	清一丁男正植清一郎清六慧雄夷夫	日経読売毎日朝東京夕	4.27 4.28 4.30 5.1 5.2 5.4 5.5 5.5 5.6 5.7 5.8 5.9	三十八人家集展	田中白畑東堀田中町土窪	親よし夷知彦親美草善空	日経読売毎日朝東京夕	11.14 11.15 11.16 11.17 11.18 11.19 11.20 11.24
故宮博物院名画写真展 美の美展	中村中村野間蔵岡田小山佐藤	溪男 清六蔵護富士夫進三	朝日経読売毎日朝東京夕	5.8 5.12 5.13 5.14 5.21 5.23 5.30	斎藤義重個展 仲田好江個展 中谷泰・朝倉振・佐藤忠良3人展 集団「30」展 NABEL グループ展 本田克己個展 河野通紀個展 日本アンデパンダン展 春陽会新人展 岩崎鐸「壁によせる」個展 黒田頼綱・久美子2人展 名井万亀個展 イトウ・ヒロ・フォトグラム展 下村良之介個展 読売アンデパンダン展 脇田和発表展 山本正個展 風間完個展 エドワード・ズトロ個展 柳頼雅作品展 曹良奎個展 女流版画展 「黒土会」展 雨晴会展 サン・シュマン展 「火の藝術の会」展 木村賢太郎彫刻個展 レオン・ターナー個展 横山泰三個展 45回光風会展 18回創元会展 9回モダンアート協会展 36回春陽会展 33回国画会展 27回日本版画協会展	江川和彦アトリエ	383 386 387 388		
長谷川等伯展	土居北川山根近藤	次義 桃雄有三市太郎	日朝日	5.16 5.18 5.19 5.20					
初期浮世絵美人画展	近藤市太郎		毎日	6.3					
日枝山王美術展	景山 春樹			6.11					
禅画・仙厓展	鈴木 進		朝日	6.25					
短刀名品展	佐藤 貫一		毎日	7.24					
水に因む絵画工藝名品展	北川 桃雄			8.6					
水戸黄門展	村上 元三			9.3					
川面版完成記念源氏物語絵巻展	鈴木 進 近藤市太郎		読売	9.7 9.8		浜村 順			387
高台寺蒔絵展	岡田 譲		毎日	9.14					
国貞・英泉・美人大首絵展	菊地 貞夫			10.17					
正倉院宝物展	野間山辺野間蔵岡田堀江野間岡田浅野岡田蔵田蔵岡田岡田蔵田岡田亀井谷川蔵田吉川岡田蔵田武者井上	清六知行清六蔵護清三郎護彦清六護武長蔵護知行蔵護雄一郎徹三英治護行蔵護実篤	産経夕刊朝東京夕刊毎日産経夕刊読売東京夕刊毎日朝東京夕刊毎日	10.16 10.20 10.21 10.22 10.23 10.24 10.27 10.28 10.29 10.30 10.31 11.1 11.2 11.4 11.4・5 11.6 11.7 11.10 11.13 11.15 11.19					
縄文文化展	八幡 一郎			11.9					

美術文献目録

25 回東光会展	江川 和彦	アトリエ	388	仲田好江個展	針生 一郎	藝術新潮	10の1
梅原竜三郎ストレーザ作品展	浜村 順	シ	390	森田元子個展	シ	シ	シ
小林和作小品展	シ	シ	シ	山崎隆夫・植木茂2人展	シ	シ	シ
新しい水彩15人展	シ	シ	シ	井手則雄個展(彫刻)	シ	シ	シ
中山爾郎個展	シ	シ	シ	佐藤多都夫個展	シ	シ	シ
森堯茂個展	シ	シ	シ	塩津誠一個展	シ	シ	シ
阿部金剛近作個展	竹中 久七	シ	シ	富ノ井政文個展	シ	シ	シ
「プレミオ・リソーネ国際展」国内展示会	浜村 順	シ	391	彫刻5人展	シ	シ	シ
連袖会展	シ	シ	シ	グループ(麻)展	シ	シ	シ
北斗会展	シ	シ	シ	宮本三郎個展	シ	シ	10の2
小磯良平スケッチ展(スケッチ展シリーズ28回)	シ	シ	シ	佐藤真一個展	シ	シ	シ
棕櫚会展	シ	シ	シ	チャリティ・アート展	シ	シ	10の2
メキシコ・日本現代版画展	シ	シ	シ	集団「30」展	シ	シ	シ
清川泰次個展	シ	シ	シ	長谷川潔銅版画展	シ	シ	シ
新樹会展	シ	シ	392	駒井哲郎銅版画展	シ	シ	シ
立軌会展	シ	シ	シ	ミロの版画展	シ	シ	シ
十一会展	シ	シ	シ	非具象作家グループ「ファーズ」展	シ	シ	シ
44 回二科会展	シ	シ	393	杉全直「風道による連作」個展	シ	シ	シ
14 回 行動美術協会展	シ	シ	シ	山口勝弘「光とガラス」の作品展	シ	シ	シ
44 回日本美術院展	シ	シ	シ	藤井多鶴子個展	シ	シ	シ
23 回新制作協会展	シ	シ	シ	吉田堅治個展	シ	シ	シ
5 回一陽会展	シ	シ	シ	乾龍平個展	シ	シ	シ
21 回一水会展	シ	シ	シ	吉村二三生個展	シ	シ	シ
小野忠弘個展	シ	シ	シ	中谷貞彦個展	シ	シ	シ
工藤哲己個展	シ	シ	シ	大歳克衛個展	シ	シ	シ
小山田二郎展	シ	シ	シ	2 回田村泰次郎個展	シ	シ	シ
長谷川彰一個展	シ	シ	シ	日本洋画商連盟展をみて	江崎 誠致	シ	10の3
中村真個展	シ	シ	シ	東大寺二月堂お水取展を叱る	若杉 慧	シ	シ
野田好子個展	シ	シ	シ	「国華」70年の風雪	竹田道太郎 谷 信一 鈴木 進 河北 倫明	シ	シ
海老原喜之助素描展	シ	シ	シ	国際政治漫画展	宗 左近	シ	シ
27 回 独立美術協会展	シ	シ	394	木内克彫刻展	針生 一郎	シ	シ
23 回 自由美術家協会展	シ	シ	シ	秀作美術展	シ	シ	シ
13 回第二紀会	シ	シ	シ	洋画商連盟主催1959年展	シ	シ	シ
小野末個展	シ	シ	シ	春陽会選抜新人展	シ	シ	シ
岡本半三個展	シ	シ	シ	JAN 7 人展	シ	シ	シ
植木茂・山崎隆夫2人展	シ	シ	シ	加納光於展	シ	シ	シ
中国殷周銅器展をみて	池田 龍雄 吉田 穂高	藝術新潮	10の1	野中ユリ個展	シ	シ	シ
斎藤義重個展	針生 一郎	シ	シ	織田繁個展	シ	シ	シ
ジャコメッティ版画展	シ	シ	シ	銅版画展	シ	シ	シ
リュルサの作品展	シ	シ	シ	広重昌子彫刻展	シ	シ	シ
石垣栄太郎個展	シ	シ	シ	篠田桃紅個展	シ	シ	シ
檀会展	シ	シ	シ	小川マリ個展	シ	シ	シ
杼栗会展	シ	シ	シ				

美術文獻目録

田中登代子個展	針生 一郎	藝術新潮	10の3	昆野勝個展	針生 一郎	藝術新潮	10の5
佐藤省三郎個展	〃	〃	〃	脇田和個展	〃	〃	〃
「戦後の秀作」展「選 抜秀作美術」展	寺田透 宇佐見英治 嘉門安雄 田近憲三 野岡清六 北川桃雄 久富貢 河北倫明 富永惣一 滝口修造 植村鷹千代	〃	〃	磯村敏之個展	〃	〃	〃
		〃	〃	尾内健治個展	〃	〃	〃
		〃	〃	須摩とをる個展	〃	〃	〃
		〃	〃	曹良奎個展	〃	〃	〃
		〃	〃	「黒土会」グループ展	〃	〃	〃
		〃	〃	集団「コ」展	〃	〃	〃
		〃	〃	ブラジル新主都建設 展をみて	加納 久朗	〃	〃
第11回アンデパンダ ン展		〃	10の4	「近代木彫の流れ」展	石井 鶴三	〃	10の6
火の藝術		〃	〃	5回梅原龍三郎滞欧 作	益田 義信	〃	〃
法隆寺献納国宝展	竹山 道雄	〃	〃	日本国際美術展ベス トテン(座談会)	今泉 篤男 田近憲三 河北倫明 岡本謙次郎 瀬木 慎一	〃	〃
アンデパンダンに賭 ける	利根山光人	〃	〃			〃	〃
木村荘八遺作展	岡本謙次郎	〃	〃	中国古代彫刻展をみ て	三雲祥之助	〃	〃
風間完滞欧作展	針生 一郎	〃	〃	斎藤正夫個展	岡本謙次郎	〃	〃
岩崎鐸滞欧作展	〃	〃	〃	独立美術「鷹の会」展	針生 一郎	〃	〃
下村良之助個展	〃	〃	〃	「サロン・ド・アヴ リュ」展	〃	〃	〃
日本表現派「兆」展	〃	〃	〃	香月泰男個展	〃	〃	〃
安孫子菰声個展	〃	〃	〃	田辺栄次郎個展	〃	〃	〃
木村賢太郎彫刻展	〃	〃	〃	若狭暁男個展	〃	〃	〃
「ナーベル」展	〃	〃	〃	神谷信子個展	〃	〃	〃
「火の藝術の会」展	〃	〃	〃	東真美個展	〃	〃	〃
川上澄生版画展	〃	〃	〃	グループ「JUNE」展	〃	〃	〃
本田克己個展	〃	〃	〃	森田正治個展	〃	〃	〃
寺田健一郎・菊畑茂 久馬2人展	〃	〃	〃	鷗野政個展	〃	〃	〃
近藤竜男個展	〃	〃	〃	木田金次郎個展	〃	〃	〃
ふたり展(林口悦子・ 山田三千子)	〃	〃	〃	カレル・アペル個展	〃	〃	10の7
松井宏個展	〃	〃	〃	「世界の中の抽象画」 展	〃	〃	〃
荒木道之個展	〃	〃	〃	福田平八郎白選展	〃	〃	〃
きずな会展	〃	〃	〃	田口安男個展	〃	〃	〃
サンパウロに行く日 本美術	〃	〃	10の5	今関篤人個展	〃	〃	〃
山本正個展	〃	〃	〃	新作家展	〃	〃	〃
金山康喜個展	〃	〃	〃	渡辺徇三個展	〃	〃	〃
難波田龍起個展	〃	〃	〃	今野史輔個展	〃	〃	〃
恩地邦郎個展	〃	〃	〃	吉田穂高(新進作家 シリーズ)展	〃	〃	〃
久野真個展	〃	〃	〃	佐藤昭一個展	〃	〃	〃
伊原通夫個展	〃	〃	〃	森省一郎個展	〃	〃	〃
宮下芳「染色による 壁画」	〃	〃	〃	オノザト・トシノブ 個展	〃	〃	〃
福室利一個展	〃	〃	〃	堀江万寿男個展	〃	〃	〃
北山満美個展	〃	〃	〃	古賀文子個展	〃	〃	〃
北形きよし個展	〃	〃	〃	4人展	〃	〃	〃
小本昌章個展	〃	〃	〃	仙厓展をみて	C. S. テー リ	〃	10の8
島田晃宏個展	〃	〃	〃				
針生鎮郎個展	〃	〃	〃				

美術文献目録

行動美術「生活と美術」展をみて	安岡章太郎	藝術新潮	10の8	岸間正男個展	針生 一郎	藝術新潮	10の10
須田国太郎自選展	針生 一郎	〃	〃	新樹会展	〃	〃	〃
三岸好太郎遺作展	〃	〃	〃	立軌会展	〃	〃	〃
梅原竜三郎小品展	〃	〃	〃	グループ「九州派」展	〃	〃	〃
小林和作小品展	〃	〃	〃	北美展	〃	〃	〃
高山辰雄個展	〃	〃	〃	世界の建築と美術の総合展をみて	向井 良吉	〃	〃
阿部金剛個展	〃	〃	〃	正倉院展に何を見るか	谷川徹三・福田豊四郎	〃	10の11
早川重昌「新進作家展」	〃	〃	〃	海老原喜之助デッサン展	針生 一郎	〃	〃
土橋鑑造展	〃	〃	〃	小山田二郎個展	〃	〃	〃
森堯茂展	〃	〃	〃	ギャラリー彫刻展	〃	〃	〃
中山爾郎個展	〃	〃	〃	勅使河原蒼風・宏2人展	〃	〃	〃
平野遼個展	〃	〃	〃	8回グループ「具体」展 工藤哲己個展	〃	〃	〃
郭仁個展	〃	〃	〃	タビエの推す「現代日本15人展」	〃	〃	〃
川端静個展	〃	〃	〃	小野忠弘個展	〃	〃	〃
森山裕之個展	〃	〃	〃	集団「30」展	〃	〃	〃
藤野貴久子・坂野里子2人展	〃	〃	〃	中村宏・尾藤豊・桂川寛3人展	〃	〃	〃
田崎昭作個展	〃	〃	〃	多賀谷伊徳個展	〃	〃	〃
ノヴァ展	〃	〃	〃	古川吉重個展	〃	〃	〃
「新エコール・ド・トーキョウ」	〃	〃	〃	藤井多鶴子・江藤環子2人展	〃	〃	〃
観山展所感	寺田 透	〃	10の9	佐田勝個展	〃	〃	〃
熊谷守一・中川一政2人展	針生 一郎	〃	〃	第10回展「ラ・ヴィ」	〃	〃	〃
「プレミオ・リソーネ」第10回展	〃	〃	〃	田辺竹次個展	〃	〃	〃
棕櫚会展	〃	〃	〃	行動美術・二科・日本美術院・一陽会展をみて	小島満信夫・大橋嘉一・芳賀徹B. カリア	〃	〃
抽象8人展	〃	〃	〃	正倉院展をみて	高橋 新吉	〃	10の12
北斗会展	〃	〃	〃	13回毎日美術賞展(座談会)	富永 惣一・寺田透・針生 一郎	〃	〃
ネオ・フィーギュラチーフ展	〃	〃	〃	児島善三郎自選展	針生 一郎	〃	〃
清川泰次個展	〃	〃	〃	棟方志功展	〃	〃	〃
後藤愛彦個展	〃	〃	〃	岩崎巴人個展	〃	〃	〃
吉留要個展	〃	〃	〃	日本表現派展	〃	〃	〃
西山松久個展	〃	〃	〃	国松登個展	〃	〃	〃
首代俊夫個展	〃	〃	〃	宇治山哲平個展	〃	〃	〃
上村宏幸個展	〃	〃	〃	地主梯助個展	〃	〃	〃
中島保彦個展	〃	〃	〃	伊藤敏博個展	〃	〃	〃
現代詩・書展をみて	宇佐見英治	〃	〃	小野末個展	〃	〃	〃
山口薫・村井正誠2人展	針生 一郎	〃	10の10	大森朔衛個展	〃	〃	〃
デュビュッフェ個展	〃	〃	〃	藤井令太郎個展	〃	〃	〃
アセッソー個展	〃	〃	〃	岡本半三個展	〃	〃	〃
中村真個展	〃	〃	〃	クッシャ個展	〃	〃	〃
豊田一男個展	〃	〃	〃	松原亜也フォートデッサン個展	〃	〃	〃
福島秀子個展	〃	〃	〃	久保孝雄個展	〃	〃	〃
長瀬子個展	〃	〃	〃				
山口源個展	〃	〃	〃				
小野忠重個展	〃	〃	〃				
桜井孝男個展	〃	〃	〃				

対象展	工藝ニ ュース	27の1	新しい貨物輸送展	工藝ニ ュース	27の11
サンダラ染色グルー プ展	〃	〃	7回優良製材木工機 械展	〃	〃
1回新グループ工藝 展	〃	〃	繊維デザイングルー プ展	〃	〃
2つの郷土玩具展	〃	〃	正倉院宝物展	〃	27の12
6回全国試験所作品 展	〃	27の2	林康夫作陶展	〃	〃
各校デザイン科卒業 制作展(多摩美大図 案科・教育大構成学 科・教育大工業建築 科・千葉大工業意匠 学科・東京藝大図案 計画科)	〃	〃	秋田県観光土産品展	野口	〃
8回生活と工藝展	〃	27の3	石垣栄太郎遺作展	植村鷹千代	三彩 110
2回「輸出陶磁器デ ザイン・コンクール 入選作品」展示会	〃	〃	仲田好江と森田元子 の個展	〃	〃
全国優良家具展	〃	〃	野中進個展	〃	〃
辻弘徳作陶個展	〃	〃	抽象作家 58 年度展	〃	〃
女性のためのインテ リア・デザイン展	〃	〃	勝田寛一個展	〃	〃
各務のクリスタル 5 人展	〃	27の7	杉全直個展	〃	〃
青のグループ工藝展	〃	〃	藤井多鶴子個展	〃	〃
UR アクセサリー展	〃	〃	新晴会展	多田 信一	〃
淡島雅吉新作ガラス 展	〃	〃	高樹会第2回展	〃	〃
守田哲郎ガラス展	〃	〃	啓明・冊子2人展	〃	〃
8回新工藝協会展	〃	〃	双杉会第1回展	〃	〃
4回アルファー展	〃	27の8	稗田一穂個展	〃	〃
ホリゾングループ展	〃	〃	芝英会第8回展	〃	〃
フィンランド展	〃	〃	川端竜子個展	〃	〃
P I V O T ガラス工 藝展	〃	〃	石橋和美個展	中原 佑介	〃
新しい包装展	〃	〃	みのゐ淳個展	〃	〃
東西古今はきもの展	〃	〃	富之井政文個展	〃	〃
現代生活デザイン展	〃	27の9	浜田庄司個展	多田 信一	111
相生金工展	〃	〃	三彩会第4回展	〃	〃
陶器小品展	〃	〃	丹慶俊二個展	〃	〃
2回広島県家具見本 市	榎 田	〃	横堀角次郎滞欧作品 展	〃	〃
リンドバーグ作品展	寺島祥五郎	27の10	五祥会第1回展	〃	〃
中小企業輸出振興展	藤 井	27の11	山田申吾個展	〃	〃
23回新制作展 建築 部	〃	〃	龍子魚龍七題展	〃	〃
59年新設計 家具陳 列会	〃	〃	彫刻3人展	中原 佑介	〃
高島屋新作家具発表 会	〃	〃	駒井哲郎銅版画個展	〃	〃
7回鳥取民藝協団新 作展	〃	〃	佐藤真一個展	植村鷹千代	〃
10回輸出品 包装展	〃	〃	宮本三郎個展	〃	〃
6回国産経営機械展	〃	〃	宮地龍個展	〃	〃
			後藤又兵衛・内間安 塚2人展	〃	〃
			田中登代子個展	〃	〃
			山口勝弘作品展	〃	〃
			山口勝弘個展	〃	〃
			青々会と青踏会	多田 信一	112
			加納白子漆絵展	〃	〃
			松林桂月個展	〃	〃
			集団「30」第1回展	中原 佑介	〃
			春陽会新人選抜展	〃	〃
			JAN 新人展	〃	〃
			新表現主義展	〃	〃

美術文献目録

佐藤省三郎個展	中原 佑介	三 彩	112	燦樹社第1回展	多田 信一	三 彩	114
近藤龍男個展	〃	〃	〃	一采社展	〃	〃	〃
矢柳剛個展	〃	〃	〃	日経主催中国古代彫刻展(対談)	白川 一郎 町田 甲一	〃	115
斎藤義重・清野恒2人展	〃	〃	〃	第5回日本国際美術展	江原 順	〃	〃
名井万亀個展	〃	〃	〃	春陽展	植村鷹千代	〃	〃
下村良之介個展	〃	〃	〃	国展	〃	〃	〃
	以下・中原佑介・多田信一	〃	113	サロン・ド・サテリット	〃	〃	〃
1回風日会展	〃	〃	〃	田名網敬一のメタリックアート展	〃	〃	〃
中央公論新人展	〃	〃	〃	梶山俊夫個展	〃	〃	〃
燦光展	〃	〃	〃	西尾一三三回展	〃	〃	〃
日本表現派第2回展	〃	〃	〃	田口安男個展	〃	〃	〃
新制作3人展	〃	〃	〃	長谷川三郎と日本の古典	難波田竜起	〃	〃
成和会第6回展	〃	〃	〃	宮本三郎素描展	北川 桃雄	〃	〃
弥生会	〃	〃	〃	山川秀峰遺作展	〃	〃	〃
日本アンデパンダン展	〃	〃	〃	福田翠光個展	〃	〃	〃
読売アンデパンダン展	〃	〃	〃	未更会展	中村 溪男	〃	〃
第4回京都アンデパンダン展	〃	〃	〃	彩交会	多田 信一	〃	〃
第4回女流版画展	〃	〃	〃	相和会第2回展	〃	〃	〃
木村賢太郎個展	〃	〃	〃	双美会	〃	〃	〃
レオン・ターナー個展	〃	〃	〃	麓会	〃	〃	〃
火の藝術の会	〃	〃	〃	土曜会	〃	〃	〃
新象作家協会春季展	〃	〃	〃	双樹社第1回展	〃	〃	〃
木版・銅版・石版・版画6人展	〃	〃	〃	村松乙彦個展	〃	〃	〃
第3回集団「画」	〃	〃	〃	上野泰郎第2回展	〃	〃	〃
牛政健治のうるし版による個展	〃	〃	〃	青木大乘個展	〃	〃	〃
モダンアート展	植村鷹千代	〃	114	日本美術院展	〃	〃	〃
日本版画協会展	〃	〃	〃	日本美術協会展	〃	〃	〃
光風会	〃	〃	〃	高山辰雄新作展	中村 溪男	〃	116
創元会	〃	〃	〃	薫風会第7回展	多田 信一	〃	〃
一陽会春季展	〃	〃	〃	彩尚会10回展	〃	〃	〃
サロン・ド・アヴリル	〃	〃	〃	三珠会第3回展	〃	〃	〃
若狭暁男個展	〃	〃	〃	群青会第3回展	〃	〃	〃
長野静司個展	〃	〃	〃	春秋会展	〃	〃	〃
山口きみ個展	〃	〃	〃	緑樹会第1回展	〃	〃	〃
ジュン展	〃	〃	〃	日月社第10回展	〃	〃	〃
須磨とおる・宮嶋美明2人展	〃	〃	〃	百合会展	〃	〃	〃
鷹の会展	〃	〃	〃	恵下会第3回展	〃	〃	〃
曾良奎個展	江原 順	〃	〃	武田範芳個展	〃	〃	〃
伊原通夫作品展	〃	〃	〃	水谷清個展	〃	〃	〃
栗居人個展	北川 桃雄	〃	〃	新興美術展	〃	〃	〃
春の青龍展	多田 信一	〃	〃	福田平八郎自選展	鈴木 進	〃	〃
雨晴会第4回展	〃	〃	〃	池田遙邨素描展	中村 溪男	〃	〃
虹原会第3回展	〃	〃	〃	女流画家協会展	植村鷹千代	〃	〃
				稲田三郎個展	〃	〃	〃
				津高和一個展	〃	〃	〃
				平野遼個展	〃	〃	〃

59年度新進作家展	植村鷹千代	三	彩	116
吉田穂高個展	〃	〃	〃	〃
早川重章個展	〃	〃	〃	〃
土橋敏造個展	〃	〃	〃	〃
オノサト・トシノブ 個展	〃	〃	〃	〃
阿部合成個展	〃	〃	〃	〃
角谷光生個展	〃	〃	〃	〃
小磯良平素描展	〃	〃	〃	〃
第2回新象展	以下 植村鷹千代 北川桃雄 多田信一	〃	〃	117
第1回新エコール・ ド・トウキョウ展	〃	〃	〃	〃
現代美術家協会展	〃	〃	〃	〃
旺玄会展	〃	〃	〃	〃
郭仁個展	〃	〃	〃	〃
中山爾郎個展	〃	〃	〃	〃
森堯茂個展	〃	〃	〃	〃
吉田政次個展	〃	〃	〃	〃
三岸節子はり絵展	〃	〃	〃	〃
米山信子個展	〃	〃	〃	〃
第3回棕櫚会彫刻展	〃	〃	〃	〃
プレミオ・リソーネ 国際展参加作品展	〃	〃	〃	〃
梅原龍三郎「スト レーザ」展	〃	〃	〃	〃
伊東深水「小唄に因 む新作」展	〃	〃	〃	〃
青羊会	〃	〃	〃	〃
薔薇会	〃	〃	〃	〃
尚美展	〃	〃	〃	〃
高田誠個展	〃	〃	〃	〃
伊川鷹治個展	〃	〃	〃	〃
一政・守一2人展	〃	〃	〃	〃
第2回孔雀会	〃	〃	〃	〃
矢野茫土の個展	〃	〃	〃	〃
片岡球子個展	〃	〃	〃	〃
下村観山遺作展(座 談会)	河北 倫明 下村 英時 福田豊四郎	〃	〃	118
観山先生の遺作	川端 龍子	〃	〃	〃
山口源の木版画	植村鷹千代	〃	〃	〃
第11回立軌展	以下・植村 鷹千代・中 村溪男	〃	〃	〃
小野忠重版画展	〃	〃	〃	〃
宮地龍個展	〃	〃	〃	〃
林田セツ子・小川阿 屋子・園房江3人展	〃	〃	〃	〃
野間伝治個展	〃	〃	〃	〃
第9回日宣美展	〃	〃	〃	〃

無限大第1回展	植村鷹千代 中村 溪男	三	彩	118
清流会展	〃	〃	〃	〃
9人展	〃	〃	〃	〃
44回院展	鈴木 進	〃	〃	119
31回青龍展	〃	〃	〃	〃
二科展	植村鷹千代	〃	〃	〃
行動展	〃	〃	〃	〃
二科・行動・院展彫 刻評	柳 亮	〃	〃	〃
院展・青龍社・二科 行動展	谷 信一 久保貞次郎 嘉門安雄 三宅正太郎 桑原住雄 久富貢 中村 溪男 大久保泰 大竹 賢 江川 和彦 浜村 順 和田伊都夫	〃	〃	〃
清水康雄個展	植村鷹千代	〃	〃	〃
中村真個展	〃	〃	〃	〃
福島秀子個展	〃	〃	〃	〃
グループ「ラ・ヴィ」 展	〃	〃	〃	〃
海老原喜之助素描展	〃	〃	〃	〃
集団30と集団「画」展	〃	〃	〃	〃
江藤環子・藤井多鶴 子2人展	〃	〃	〃	〃
工藤哲己個展	〃	〃	〃	〃
多賀谷伊徳個展	〃	〃	〃	〃
モンテグループ纖維 デザイン展	〃	〃	〃	〃
燦光会第5回展	多田 信一	〃	〃	〃
銀二会第1回展	〃	〃	〃	〃
辰辰会第3回展	〃	〃	〃	〃
9月会日本画展	〃	〃	〃	〃
一陽会・新制作・一 水会展	中原 佑介	〃	〃	120
独立・自由・二紀展	江原 順	〃	〃	〃
児島善三郎自選展	大久保 泰	〃	〃	〃
清方の下絵とスケッ チ	北川 桃雄	〃	〃	〃
工藤哲己個展	中原 佑介	〃	〃	〃
小野忠弘個展	〃	〃	〃	〃
クリスト・クツッ ンヤ個展	〃	〃	〃	〃
山口源個展	植村鷹千代	〃	〃	〃
長谷川彰一個展	〃	〃	〃	〃
松原亜也個展	〃	〃	〃	〃
立花みどり個展	〃	〃	〃	〃
野田好子個展	〃	〃	〃	〃
藤井令太郎個展	〃	〃	〃	〃
伊藤研之個展	〃	〃	〃	〃

美術文献目録

高沢万起個展	植村鷹千代	三	彩	120	日本洋画商連盟「1959年展」	船戸 洪	美術手帖	154
ネオ・エスパース展	〃	〃	〃	〃	「国華」70年記念「近世名画の展望」展	吉沢 忠	〃	〃
日動画廊改装記念展	多田 信一	〃	〃	〃	広重昌子個展	中原 佑介	〃	〃
伊藤敏博個展	〃	〃	〃	〃	清野恒・斎藤義重2人展	植村鷹千代	〃	〃
長谷川利行遺作展	〃	〃	〃	〃	篠田桃紅個展	ショーカー	〃	156
岩崎巴人個展	〃	〃	〃	〃	春陽会選抜新人展	徳大寺公英	〃	〃
八重州日本画展	〃	〃	〃	〃	小川マリ子個展	植村鷹千代	〃	〃
啓明・鼎子2人展	〃	〃	〃	〃	佐藤省三郎個展	中原 佑介	〃	〃
日展の日本画	北川 桃雄	〃	〃	121	岩崎鐸個展	瀬木 慎一	〃	〃
日展の工藝	〃	〃	〃	〃	下村良之助個展	〃	〃	〃
日展の油絵をみた所感	三輪 福松	〃	〃	〃	第12回日本アンデパンダン展	中原 佑介	〃	〃
日展の彫塑雑感	中村伝三郎	〃	〃	〃	牛玖健治個展	植村鷹千代	〃	157
丹阿弥個展	北川 桃雄	〃	〃	〃	第4回女流版画展	中原 佑介	〃	〃
鈴木信太郎個展	〃	〃	〃	〃	山本正個展	瀬木 慎一	〃	〃
第6回冊会	多田 信一	〃	〃	〃	脇田和個展	〃	〃	〃
野火会	〃	〃	〃	〃	曹良奎個展	織田 達朗	〃	〃
山燦会	〃	〃	〃	〃	第11回読売アンデパンダン展	針生 一郎	〃	〃
凡樹画社第5回展	〃	〃	〃	〃	第1回黒土会展	瀬木 慎一	〃	〃
新制作日本画部会員展	〃	〃	〃	〃	第19回美術文化展	植村鷹千代	〃	〃
岡本半三個展	〃	〃	〃	〃	第9回モダンアート展	〃	〃	158
第3回日本表現派展	江川 和彦	〃	〃	〃	第36回春陽会展	岡本謙次郎	〃	〃
池田龍雄個展	中原 佑介	〃	〃	〃	国画会展	〃	〃	〃
中山正個展	〃	〃	〃	〃	久野真個展	中原 佑介	〃	〃
内藤圭介個展	〃	〃	〃	〃	難波田龍起個展	針生 一郎	〃	〃
富之井政文個展	〃	〃	〃	〃	「サンパウロ・ビエンナーレ」出品をめぐって	和田伊都夫	〃	〃
JUNE展	〃	〃	〃	〃	特集・第5回日本国際美術展	瀬木・柳 植村・岡本 針生・中原 福沢・末松 岩崎・建昌	〃	160
志賀健蔵個展	〃	〃	〃	〃	世界の中の抽象イタリヤ日本美術展	〃	〃	〃
沢田重隆個展	〃	〃	〃	〃	山口正城「作品59の7」	植村鷹千代	〃	〃
海老原喜之助個展	植村鷹千代	〃	〃	〃	津高和一個展	徳大寺公英	〃	〃
矢橋六郎個展	〃	〃	〃	〃	みづゑ賞選抜「新しい水彩15人展」	河北 倫明	〃	161
宇治山哲平個展	〃	〃	〃	〃	吉田穂高個展	中原 佑介	〃	〃
川口軌匡デッサン展	〃	〃	〃	〃	平野遼個展	滝口 修造	〃	〃
島海青兄・野口弥太郎2人展	〃	〃	〃	〃	中山爾郎個展	瀬木 慎一	〃	〃
日展・展望と選評	柳 亮	美術手帖	152	〃	プレミオ・リゾーネ国際展参加作品の国内展	滝口 修造	〃	162
斎藤義重個展	徳大寺公英	〃	〃	〃	第2回新象展	瀬木 慎一	〃	〃
山崎隆夫・植木茂2人展	植村鷹千代	〃	〃	〃	第7回日本展	織田 達朗	〃	〃
第2回安井賞候補作展受賞とその経緯	徳大寺公英	〃	〃	〃	第5回グループ「野火」展	中原 佑介	〃	〃
石垣栄太郎遺作展	植村鷹千代	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
藤井多鶴子個展	中原 佑介	〃	〃	153	〃	〃	〃	〃
杉全直「風道による連作」第7回個展	植村鷹千代	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
駒井哲郎個展	滝口 修造	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
長谷川潔・創作銅版画展を視て	駒井 哲郎	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
ビュッフェの世界への案内	大島 辰雄	〃	〃	154	〃	〃	〃	〃
「新しい日本絵画展」への提唱	東野 芳明	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

山口薫・村井正誠2人展	植村鷹千代	美術手帖	163	川端竜子「魚龍七題」展	萌	春	64
清川泰次個展	瀬木 慎一	〃	〃	青々会日本画展	〃	〃	〃
第1回 VAVA グループ展	中原 佑介	〃	〃	踏青会展	〃	〃	〃
長頼子個展	針生 一郎	〃	〃	双光会展	〃	〃	〃
福島秀子個展	中原 佑介	〃	〃	第3回陽門会人形展	〃	〃	〃
二科展	〃	〃	164	深水日本画展をみて	友部 直	〃	65
院展	鈴木 進	〃	〃	松林桂月個展	〃	〃	〃
青龍展	〃	〃	〃	丘人・松篁・賢二3人展	〃	〃	〃
行動展	針生 一郎	〃	〃	皕々会展	〃	〃	〃
一陽会	植村鷹千代	〃	〃	九阜会展	〃	〃	〃
新制作展	柳 亮	〃	〃	弥生会展	〃	〃	〃
一水会展	〃	〃	〃	田中案山子個展	〃	〃	〃
集団「30」展	織田 達朗	〃	〃	日本画府展	〃	〃	〃
中村真個展	植村鷹千代	〃	〃	好流会展	〃	〃	〃
多賀谷伊徳個展	瀬木 慎一	〃	〃	黎会展	〃	〃	〃
江藤環子・藤井多鶴子2人展	植村鷹千代	〃	〃	三光会展	〃	〃	〃
工藤哲己個展	東野 芳明	〃	〃	戦後の秀作展	〃	〃	66
独立展	針生 一郎	〃	165	淙葉会1回展	〃	〃	〃
二紀会	中原 佑介	〃	〃	小林渠居人個展	〃	〃	〃
自由美術展	岡本謙次郎	〃	〃	安孫子荻声個展	〃	〃	〃
児島善三郎・自選展	大久保 泰	〃	〃	十朱会展	〃	〃	〃
シェル美術賞展	嘉門 安雄	〃	〃	第6回成和会展	〃	〃	〃
クツシア個展	滝口 修造	〃	〃	無門会展	〃	〃	〃
山崎隆夫・植木茂2人展	植村鷹千代	〃	〃	旦生会展	〃	〃	〃
高樹会展		萌	春 63	生閃社展	〃	〃	〃
川端竜子個人展		〃	〃	第2回中央公論新人展	〃	〃	〃
芝英会展		〃	〃	五都連合展	〃	〃	〃
尚美展		〃	〃	琳派秀作展	村松 剛	〃	67
東西大家日本画小品展		〃	〃	ブリヂストン美術館新装記念展	〃	〃	〃
山田申吾新作展		〃	〃	春の青龍展	〃	〃	〃
新興五祥会展		〃	〃	一采社展	〃	〃	〃
日本画小品展		〃	〃	龍子個展「紅白を課題として」	〃	〃	〃
遙邨・華楊・松篁3人展		〃	〃	新制作春季日本画展	〃	〃	〃
百二会第6回展		〃	〃	深水・南風2人展	〃	〃	〃
栗田九品庵展		〃	〃	再興第1回煌土社展	〃	〃	〃
対象第5回展		〃	〃	浜田台児・浦田正夫川本末雄3人展	〃	〃	〃
東陶会秋季展		〃	〃	龍土会展評	〃	〃	〃
永楽善五郎名作展		〃	〃	燦樹社第1回展	〃	〃	〃
京都名匠陶藝展		〃	〃	村松乙彦個展	〃	〃	〃
国華70年展評		〃	64	第4回雨晴会展	〃	〃	〃
深水スケッチ展の感想	三輪 福松	〃	〃	寿会展	〃	〃	〃
第10回選抜秀作美術展をみて	久富 貢	〃	〃	五都連合展	〃	〃	〃
古川北華展		〃	〃	未更会展	〃	〃	〃
日下部道寿小品展		〃	〃	近藤弘明個展	〃	〃	〃
		〃	〃	八木正風個展	〃	〃	〃
		〃	〃	虹原会展	〃	〃	〃

美術文献目録

住谷磐根個展	萌	春	67	第11回清流会展	萌	春	70
日本画院展評	〃		68	第13回墨心会展	〃		〃
新興美術院展評	〃		〃	青嵐会・新鋭作家日本画30人展	〃		〃
日本美術院春季展	〃		〃	京都府推薦第3回日本画新人展	〃		〃
日本美術協会展	〃		〃	上条静光東京百景個展	〃		〃
日本国際美術展	〃		〃	肅祭宝個展	〃		〃
矢野知道人個展	〃		〃	百合会第9回展	〃		〃
青太大乘個展	〃		〃	日下部道寿南画個展	〃		〃
福田翠光個展	〃		〃	第4回春秋会展	〃		〃
彩交会	〃		〃	祇園会展	〃		〃
洗々会日本画展	〃		〃	第3回陶藝燦匠会	〃		〃
第3回恵下会展	〃		〃	第44回院展の感想	久富 貢	〃	71
青桐会日本画展	〃		〃	院展評	〃		〃
明窓会第3回展	〃		〃	青龍社展を見て	中村 溪男	〃	〃
北村明道大和絵展	〃		〃	宮原明良新作日本画展	〃		〃
国土社展	〃		〃	戸田浩堂日本画個展	〃		〃
児玉三鈴、早坂土鈴日本画2人展	〃		〃	辰辰会日本画展	〃		〃
麓会展	〃		〃	依岡慶樹個展	〃		〃
新作日本画展	〃		〃	東洋画住谷磐根個展	〃		〃
土曜会展	〃		〃	第6回新美術協会展	〃		〃
東陶会第12回展	〃		〃	22回新制作展評(1)	岡本謙次郎	〃	72
平田郷陽人形新作展	〃		〃	「新制作の日本画」	〃		〃
宮坂房衛彫金展	〃		〃	22回新制作展評(2)	鈴木 進	〃	〃
第11回京展	藤田 猛	〃	〃	「新制作の日本画」	〃		〃
日月社展	〃		69	源氏物語絵巻展雄惑	高崎富士彦	〃	〃
池田遙邨素描展	山口 玄珠	〃	〃	鶴木清方下絵・写生展	北川 桃雄	〃	〃
高山辰雄新作展	〃		〃	銀二会展	〃		〃
現代日本の陶藝展所惑	井上 昇三	〃	〃	清瓊会第9回展	〃		〃
中島清之個展	〃		〃	松籟会日本画展	〃		〃
薫風会展	〃		〃	島田洗耳日本画展	〃		〃
青羊会展	〃		〃	磯部草丘日本画展	〃		〃
第3回三珠会日本画展	〃		〃	以白会表装展	〃		〃
皐月会第7回展	〃		〃	静賞会日本画展	〃		〃
彩尚会展	〃		〃	新興美術院秋季小品展	〃		〃
群青会日本画展	〃		〃	入重洲日本画展	〃		〃
百合会日本画展	〃		〃	田村耕一作陶展	〃		〃
悠々会展	〃		〃	第2回日展について	鈴木 進	〃	73
九品庵展	〃		〃	日展総評	山口 玄珠	〃	〃
椽(つるばみ)会展	〃		〃	日展の新人から	竹田道太郎	〃	〃
枇杷会展	〃		〃	日展日本画評	北村 友彦	〃	〃
青陶会展	〃		〃	日展の工藝	井上 昇三	〃	〃
葵班会展	〃		〃	児玉希望の新水墨画展について	林 文雄	〃	〃
第1回朴土社展	〃		〃	堂本印象抽象画展	藤田 猛	〃	〃
丁酉会第3回展	〃		70	肅祭宝水墨展	山口 玄珠	〃	〃
伊東深水「小唄に因む新作画展」	〃		〃	冊会展	〃		〃
尚美展	〃		〃	七三会第3回作品展	〃		〃
薔薇会展	〃		〃				
第2回孔雀会展	〃		〃				

九品庵展	萌	春	73	塩津誠一個展	柳	亮	みづゑ	644
啓明・鼎子日本画2人展	〃	〃	〃	石垣栄太郎遺作展	植村鷹千代	〃	〃	〃
青炎会日本画展	〃	〃	〃	ホワン・ミロ版画展	針生 一郎	〃	〃	645
北斗会第10会記念展	〃	〃	〃	抽象作家'58年展,	植村鷹千代	〃	〃	〃
風霜会日本画展	〃	〃	〃	勝田寛一個展	〃	〃	〃	〃
翌檜(あすなろう)会日本画展	〃	〃	〃	山口勝弘・光とガラスによる作品展	針生 一郎	〃	〃	〃
新喬会日本画展	〃	〃	〃	杉全直個展	植村鷹千代	〃	〃	〃
県治朗近作展	〃	〃	〃	新しい空間「ファーズ」展	針生 一郎	〃	〃	〃
第5回凡樹画社展	〃	〃	〃	駒井哲郎銅版画個展	関野準一郎	〃	〃	〃
三様会日本画展	〃	〃	〃	伍伸会展	中原 佑介	〃	〃	〃
桝原始更個展	〃	〃	〃	宮本三郎個展	植村鷹千代	〃	〃	〃
日展日本画雑感	〃	〃	74	佐藤真一個展	〃	〃	〃	〃
伝統工藝展	渡辺 素舟	〃	〃	斎藤博志個展	針生 一郎	〃	〃	〃
楠部弥弼個展	井上 昇三	〃	〃	山口勝弘個展	中原 佑介	〃	〃	646
第1回杜土社東京展	〃	〃	〃	銅版画展	〃	〃	〃	〃
杼栗会4回展	〃	〃	〃	内間安雄・後藤又兵衛2人展	〃	〃	〃	〃
白寿会展	〃	〃	〃	広重昌子彫刻作品展	江原 順	〃	〃	〃
第1回山燦会展	〃	〃	〃	斎藤義重・清野恒2人展	中原 佑介	〃	〃	〃
第5回白流会	〃	〃	〃	新表現主義展	〃	〃	〃	〃
野火会	〃	〃	〃	具象国際小品展	江原 順	〃	〃	〃
青徑会展	〃	〃	〃	松本重雄滞欧油絵展	〃	〃	〃	〃
高樹会展	〃	〃	〃	春陽会選抜新人展	中原 佑介	〃	〃	〃
白申社展	〃	〃	〃	名井万亀個展	植村鷹千代	〃	〃	647
第19回丹阿弥個展	〃	〃	〃	野中ユリ銅版画展	江原 順	〃	〃	〃
碧星会第1回展	〃	〃	〃	岩崎鐸個展	植村鷹千代	〃	〃	〃
可枉会展	〃	〃	〃	小口益一個展	〃	〃	〃	〃
新匠工藝展	〃	〃	〃	下村良之介個展	〃	〃	〃	〃
柏光会第2回展	〃	〃	〃	本田克己個展	中原 佑介	〃	〃	〃
桂月山人新作展	〃	〃	〃	第12回アンデパンダン展	江原 順	〃	〃	〃
第3回明美会展	〃	〃	〃	グルッペ「ナベル」展	〃	〃	〃	〃
ジャン・リュルサ作品展	片山 敏彦	みづゑ	644	河野通紀個展	植村鷹千代	〃	〃	〃
第2回安井記念賞候補新人展	今泉 篤男	〃	〃	川上澄生版画展	小野 忠重	〃	〃	〃
斎藤義重個展	針生 一郎	〃	〃	第11回読売アンデパンダン展	植村鷹千代	〃	〃	〃
三岸好太郎回顧展	植村鷹千代	〃	〃	火の藝術の会	〃	〃	〃	〃
井手則雄彫刻展	針生 一郎	〃	〃	杉本健吉素描展	〃	〃	〃	〃
木内岬・木内広・西田勝3人展	中原 佑介	〃	〃	木村賢太郎個展	中原 佑介	〃	〃	〃
赤羽良知個展	植村鷹千代	〃	〃	女流版画展	〃	〃	〃	〃
森田元子油絵個展	〃	〃	〃	梅原龍三郎の滞欧作をめぐって(対談)	梅原龍三郎 今泉 篤男	〃	〃	〃
小野裏第3回作品展	中原 佑介	〃	〃	瀬戸ユリ個展	江原 順	〃	〃	648
仲田好江個展	柳 亮	〃	〃	風間完個展	植村鷹千代	〃	〃	〃
山崎隆夫・植木茂2人展	針生 一郎	〃	〃	牛込健治個展	瀬木 慎一	〃	〃	〃
松本竣介回顧展	植村鷹千代	〃	〃	萩原英雄木版画展	江原 順	〃	〃	〃
みのわ淳個展	中原 佑介	〃	〃	第1回黒土会展	植村鷹千代	〃	〃	〃
泉茂水彩画展	〃	〃	〃	山本正滞欧作品展	江原 順	〃	〃	〃
彫刻5人展	柳 亮	〃	〃	脇田和個展	〃	〃	〃	〃
大宰澄個展	〃	〃	〃					

美術文献目録

第3回集団個展	瀬木 慎一	みづゑ	648	オノサト・トシノブ	江 原 順	みづゑ	652
曹良奎個展	江 原 順	〃	〃	個展	〃	〃	〃
横山泰三個展	瀬木 慎一	〃	〃	吉田總高版画展	〃	〃	〃
萩野康児個展	大久保 泰	〃	〃	比田井南谷墨象近作展	〃	〃	〃
難波田龍起個展	江 原 順	〃	〃	戸張孤雁展	小野 忠重	〃	〃
第18回水彩連盟展	植村鷹千代	〃	〃	サロン・ド・シュマン	江 原 順	〃	〃
第19回美術文化展	瀬木 慎一	〃	〃	平野遼個展	植村鷹千代	〃	〃
第45回光風会展	植村鷹千代	〃	〃	土橋鋳造個展	江 原 順	〃	〃
第9回モダンアート展	江 原 順	〃	〃	高山辰雄近作展	北川 桃雄	〃	〃
第27回日本版画協会展	〃	〃	〃	行動美術・生活と美術展	植村鷹千代	〃	〃
第18回創元会展	大岡 信	〃	〃	ジャン・ブスケ漆絵展	〃	〃	〃
第5回日本国際美術展をめぐって(座談会)	今泉 篤男 海老原喜之助 福沢 一郎 向井 良吉	〃	649	森菟茂個展	江 原 順	〃	〃
第36回春陽会展	柳 亮	〃	〃	三つの壁・第1回展	植村鷹千代	〃	〃
第33回国画会展	植村鷹千代	〃	〃	小林和作小品展	田近 憲三	〃	〃
第30回東光会展	江川 和彦	〃	〃	三岸節子はり紙絵展	植村鷹千代	〃	〃
久野真作品展	江 原 順	〃	〃	小磯良平素描展	〃	〃	〃
アメリカ抽象6人展	植村鷹千代	〃	〃	写真による「世界の建築と美術の総合」展をみて	神代雄一郎	〃	653
木田金次郎作品展	針生 一郎	〃	〃	第9回日宣美展をみて	中原 佑介	〃	〃
岩田ちよ個展	江 原 順	〃	〃	新エコール・ド・トーキョー展	瀬木 慎一	〃	〃
鷹の会展	針生 一郎	〃	〃	第7回ニッポン展	江 原 順	〃	〃
サロン・ド・アヴリエ	植村鷹千代	〃	〃	米山信子個展	植村鷹千代	〃	〃
工藤哲己個展	〃	〃	〃	第2回孔雀会展	中村 溪男	〃	〃
森田正二個展	江 原 順	〃	〃	第3回棕櫚会彫刻展	植村鷹千代	〃	〃
斎藤正夫個展	〃	〃	〃	吉留要個展	〃	〃	〃
香月泰男個展	〃	〃	〃	プレミオ・リゾーネ展参加作品展	〃	〃	〃
宮本三郎デッサン展	植村鷹千代	〃	〃	柳沢安雄個展	〃	〃	〃
加藤昭男テラコッタ展	江 原 順	〃	650	中山正実カラーエッチング展	〃	〃	〃
梶山俊夫個展	植村鷹千代	〃	〃	清川泰次個展	江 原 順	〃	〃
黄芽会展	柳 亮	〃	〃	児島善三郎の藝術	田近 憲三	〃	654
イタリア・日本美術展	植村鷹千代	〃	〃	秋の公募展を見て—二科・行動・青竜・院展—(対談)	柳 亮 針生 一郎	〃	〃
津高和一個展	〃	〃	〃	野火第5回展	江 原 順	〃	〃
片岡誓個展	〃	〃	〃	北斗会展	柳 亮	〃	〃
サロン・ド・サテリット	〃	〃	〃	岸田麗子個展	中村 溪男	〃	〃
カレル・アペル展	瀬木 慎一	〃	〃	村井正誠・山口薫展	中原 佑介	〃	〃
福田平八郎自選展	中村 溪男	〃	〃	第11回毎日書道展	田辺三重松	〃	〃
今野央輔版画個展	江 原 順	〃	〃	第2回毎日前衛書展	〃	〃	〃
元川嘉津美個展	植村鷹千代	〃	〃	第1回VAVAグループ展	植村鷹千代	〃	〃
佐藤昭一個展	江 原 順	〃	〃	宮地竜個展	江 原 順	〃	〃
井上三綱個展	エリーゼ・グリリー (訳)恩地三保子	〃	〃	山口源版画展	〃	〃	〃
須田国太郎とその作品	田近 憲三	〃	652	第13回新樹会	植村鷹千代	〃	〃

豊田一男個展	植村鷹千代	みづゑ	654
デュビュッフェ新作 版画展	江 原 順	シ	シ
小野忠重版画展	シ	シ	シ
第11回立軌展	植村鷹千代	シ	シ
羽田良美個展	高階 秀爾	シ	シ
長頼子個展	江 原 順	シ	シ
福島秀子個展	シ	シ	シ
中村真展	シ	シ	シ
末松正樹個展	シ	シ	シ
秋の公募展を見て一 新制作・一陽・一水 会展一(対談)	嘉門 安雄 中原 佑介	シ	655
伊藤隆康個展	高階 秀爾	シ	シ
アセットオ個展	江 原 順	シ	シ
深沢幸雄銅版画展	シ	シ	シ
ギャラリー個展	シ	シ	シ
海老原喜之助デッサ ン展	植村鷹千代	シ	シ
藤井多鶴子・江藤環 子2人展	江 原 順	シ	シ
久里洋二版画展	シ	シ	シ
工藤哲己個展	シ	シ	シ
野田好子個展	シ	シ	シ
シャガール石版画展	シ	シ	シ
タピエの推す「現代 日本15人展」	シ	シ	シ
ホワン・ミロ版画展	シ	シ	シ
第2回日展評一洋 画・日本画・彫刻一	柳 亮	シ	656
秋の公募展を見て一 独立・自由・二紀 一(対談)	岡本謙次郎 東野 芳明	シ	シ
小野忠弘個展	江 原 順	シ	シ
井上悟個展	シ	シ	シ
岩崎巴人個展	植村鷹千代	シ	シ
藤井令太郎個展	シ	シ	シ
伊藤敏博個展	江 原 順	シ	シ
岡本半三個展	シ	シ	シ
長谷川彰一画展	植村鷹千代	シ	シ
松原亜也フォト・ス クラッチ展	江 原 順	シ	シ
シエル美術賞展	東野 芳明	シ	シ
クリスト・クッツシ ア個展	シ	シ	シ
池田竜雄個展	江 原 順	シ	シ
小野末個展	シ	シ	シ
吉田政次版画個展	シ	シ	シ
宇治山哲平個展	植村鷹千代	シ	シ
山崎隆夫・植木茂2 人展	江 原 順	シ	シ
児玉希望水墨画展	シ	シ	シ

東洋古美術文献

総 説

美術史観と時代区分	小川 光陽	文化学年報	9
文化財指定の盲点	山花 孝男	藝術新潮	10—12
日本美術の再検討			
13 光琳と中国の 干渉	矢代 幸雄	シ	10—1
14 光琳派と欧米 の評価	シ	シ	10—2
15 インテルメッ ツォ	シ	シ	10—3
上代美術に於ける作 家の問題—飛鳥・白 鳳前期—	佐和 隆研	京都市立 美大研究 紀要	6
海外にある日本の名 品		萌 春	72
西欧人のみる日本美 術	中村 二柄	仏教藝術	38
アンドレ・マルロオ 日本美術との再会	小松 清編	藝術新潮	10—2
コスミックな藝術の 発見—共感のなかに みた日本美術—	ルネ・ウィ グ	シ	10—8
鑑識の話	田中 一松	萌 春	71
鑑定ということ(座 談会)	今泉 篤男 野間 清六 谷 信一	三 彩	110
贋せ物の見破り方一 二	内藤 匡	日本美術 工藝	253. 254
十三仏発生期の問題	脇 綾子	史 論	7
仏説観無量寿經に於 ける白毫相について	嶋 善一郎	竜谷大学 論集	361
Les Deux Grands Mañālas et la Doctrine de Eso- térisme Shingon	Ryūjun TAJIMA	日仏会館 学報	6
葡萄唐草文新考— イーラーン系瑞果文 の東漸—	林 良一	美術史	33
葡萄唐草の系譜—西 域における二、三の 遺品について—	熊谷 宣夫	ミュージ アム	102
広東幡文様への一私 見	野間 清六	シ	97
有職文様	日野西資孝	カラーデ ザイン	5—4
吉祥文様	渡辺 素舟	シ	シ
新発見・発掘ベスト ・テン	安藤・和歌 森・森田・ 亀井	藝術新潮	10—9
未完の傑作			
北野天神縁起絵巻	秋山 光和	シ	10—10
雪舟 天橋立図	シ	シ	シ
雲崗石窟第三洞	シ	シ	シ

美術文献目録

護国寺本諸寺縁起集について	大賀 一郎	日本歴史	129	十大弟子像	上野 照夫	仏教藝術	40
法隆寺献納の宝物類	矢島 恭介	萌 春	65	華原啓	元井 能	〃	〃
法隆寺宝物の献納—そのいきさつと歩み—	〃	国立博物館ニュース	141	北円堂四天王像	上原 照一	〃	〃
法隆寺献納宝物類の来歴とその目録(一)・(二)	〃	ミュージアム	95.96	板彫十二神将像	佐和 隆研	〃	〃
東京国立博物館蔵法隆寺関係資料	樋口 秀雄	〃	97	運慶作の諸像—弥勒・無著・世親・四天王—	〃	〃	〃
聖徳太子伝古今目録抄について	小松 茂美	〃	96	金剛二力士像	上野 照夫	〃	〃
元祿・天保法隆寺霊宝の江戸開帳—その経過と意義について—	樋口 秀雄	〃	99	天燈鬼・龍燈鬼像	田村 隆照	〃	〃
旧法隆寺献納宝物の展覧によせて	原田 淑人	〃	95	南円堂銅燈台銘	中田勇次郎	〃	〃
法隆寺献納御物展	竹山 道雄	藝術新潮	10—4	大和和邇願興寺について	田村 吉永	史迹と美術	297
東大寺創立に於ける光明皇后の御立場	山本 栄吾	南都仏教	6	朝妻寺考	〃	〃	296
光明皇后と正倉院	和田 軍一	〃	〃	永福寺について	赤星 直忠	鎌倉	1
東西美術の交流—正倉院宝物を通してみた—	増田 精一	みづゑ	656	24年度における平城宮跡の発掘調査	榎本 杜人	国立博物館ニュース	150
正倉院宝物における形の感覚	岡田 譲	萌 春	73	古都はかく語られて—古寺巡礼と一つの現代の眼	宇佐見英治	藝術新潮	10—2
正倉院宝物の文様	蔵田 蔵	〃	〃	新古寺巡礼	〃	〃	〃
正倉院のファンタジー	上野 直昭	ミュージアム	104	61 松ヶ岡東慶寺	杉村 丁	ミュージアム	94
正倉院宝物と排気ガス	江本 義理	国立博物館ニュース	151	62 瑞竜寺(富山県)	伊藤 延男	〃	105
正倉院文献目録抄	樋口 秀雄	ミュージアム	103	古寺巡礼	〃	〃	〃
正倉院宝物展開催にあたって	浅野 長武	国立博物館ニュース	150	11 古保利薬師堂の諸仏	佐和 隆研	仏教藝術	38
正倉院展の雄観	野間 清六	〃	151	12 河内長野の四ヶ寺	加藤三之雄	〃	39
正倉院展をみて	高橋 新吉	藝術新潮	10—12	京阪神カメラ紀行	〃	〃	〃
正倉院展に何を見るか	谷川 徹三 福田豊四郎	〃	10—11	獅子窟寺	三村 幸一 熊野 紀一	日本美術工芸	250
法隆寺と海龍王寺	田村 吉永	南都仏教	6	遊女の里—江口—	〃	〃	252
法隆寺と仏像	久野 健 水野敬三郎	〃	〃	加島・神崎あたり	〃	〃	253
興福寺の歴史	永島福太郎	仏教藝術	40	尊鉢	〃	〃	254
平城京と興福寺の寺地	大岡 実	〃	〃	栄根寺	〃	〃	255
興福寺伽藍の成立と造像	毛利 久	〃	〃	藝苑紀行	〃	〃	〃
興福寺沿革年表	小林 剛	〃	〃	鳥羽の大仏附近	川勝政太郎	史迹と美術	294
興福寺関係文献目録	杉山 二郎	〃	〃	上鳥羽の刈萱堂と行住院	〃	〃	295
興福寺鑑賞 仏像・絵画・工芸・書	〃	〃	〃	美術館めぐり	〃	〃	〃
仏頭	佐和 隆研	〃	〃	26 倉敷考古館	村松 寛	日本美術工芸	244
八部衆像	上野 照夫	〃	〃	27 耕三寺美術館(1)	〃	〃	245
				28 〃(2)	〃	〃	246
				29 神宮徴古館	〃	〃	247
				30 三重県立博物館	〃	〃	248
				31 寧楽美術館	〃	〃	249
				32 大阪城天守閣	〃	〃	251
				33 逸翁美術館	〃	〃	252
				松江と金沢の美術館	佐藤 進三	陶 説	81

訪欧余話

2	肖像画の美術館	松下 隆章	国立博物館ニュー	142
3	ロビンソン・コレクション	〃	〃	143
4	模造美術館	〃	〃	144
5	守衛さん気質	〃	〃	145
6	大英博物館の頼朝像	〃	〃	146
7	考えられぬ人	〃	〃	147
8	ユトレヒトの秋	〃	〃	149

欧州博物館めぐり

1	ブリュージュ の博物館	岡田 譲	ミュージ アム	101
2	ストックホル ムの博物館	〃	〃	102
米美術細見記1—	古 香 庵	日本美術 工芸	244—2 49	
米美術細見追記	細見古香庵	〃	253	

愛蔵弁あり

66	反町茂作氏	邑木 千以	〃	244
67	山口蓬春氏	〃	〃	245
68	鳥海青児氏	〃	〃	246
69	野村与曾市氏	〃	〃	247
70	上田堪一郎氏	〃	〃	248
71	内田勇次氏	〃	〃	249
72	白川一郎氏	〃	〃	250
73	山田惣吾氏	〃	〃	251
74	稻生平八氏	〃	〃	252
75	黒田領治氏	〃	〃	254
76	堀英吉氏	〃	〃	255

美術時評

美術を味う心	野間 清六	国立博物館ニュー	140
法隆寺献納宝物の価値	岡田 譲	〃	141
法隆寺展に寄せる	杉村 勇造	〃	142
法隆寺献納宝物について	蔵田 蔵	〃	143
われわれにはなにかが欠けている	石沢 正男	〃	144
最近の古美術品の展覧	田中作太郎	〃	145
疑問	堀江 知彦	〃	146
ある青年の言葉	奥平 英雄	〃	147
美術教育の問題点	千沢 楨治	〃	148
正倉院展を迎えるにあたって	原田 淑人	〃	149
正倉院宝物展を迎える	矢島 恭介	〃	150
正倉院宝物展についての一、二の反省	飯島 勇	〃	151
古筆と講座との間	福井利吉郎	〃	〃

日本古美術展うらばなし

倉田 文作	萌 春	67
秋山 光和	藝術新潮	10—5
谷 信一	萌 春	63—66
杭州・浄慈寺	ミュージアム	98
中国人の蒐集と財宝	杉村 丁	陶 説 80
雲南に於けるドンソン文化の問題—晉寧石寨山遺蹟—	近森 正	史 学 32—1
インドの美術と宗教	梶山 雄一	仏教藝術 41
インドの仏蹟	長広 敏雄	〃 〃
インド仏蹟踏査記	長尾 雅人	〃 〃
ガンダーラ美術の年代—いろいろの意味と私の考え(二)—	山本 智教	密教文化 43・44
美男「ナンド」の文学と美術	木村 秀雄	仏教藝術 38
東京大学第2次イラク・イラン遺跡調査団の動向	江上 波夫	考古学雑誌 45—3
1959年の回顧		
今年をふりかえる—東京国立博物館の展覧と事業	三浦 勇助	ミュージアム 105
本年の美術史学界を顧みて	川上 涇	〃 〃
古美術界	中村 溪男	〃 〃

絵 画

東洋の山水画	谷 信一	萌 春 70
南画の研究について—入門書のいろいろ	鷹巣 豊治	国立博物館ニュー 140

〔日 本〕

日本画の山あれこれ	平山 郁夫	萌 春 70
日本画断章		
1 霧・霞・霽	奥平 英雄	三 彩 114
2 恋愛	〃	〃 115
3 夜	〃	〃 116
4 雨	〃	〃 117
日本画に涼を求めて		
古画の中から	奥平 英雄	萌 春 69
近世納涼図拾遺	飯島 勇	〃 〃
近世絵画より	鈴木 進	〃 〃
近代の納涼画	小高根太郎	〃 〃
東海道五十三次と絵の旅	池田 遙邨	〃 68
窯業用顔料の絵画の絵具への転用—稀有元素顔料について—	弘津友三郎	京都市立美大研究紀要 6

美術文献目録

日本最古の壁画—北九州の古墳壁画群—	日下 八光	藝術新潮	10—3	木版複製にかけた一生—「源氏絵巻川面版」作者の回想—	川面 義雄	藝術新潮	10—10
絵画における空間の問題—古代絵画の遠近法—	乾 由明	美 学	38	光明大師絵詞伝について 同詞書	三山 進	国 華	804
古代の没骨画	小高根太郎	萌 春	71	地獄草紙	村松 剛	みづゑ	653
鳥毛立女屏風の問題点—樹幹・巖石における羽毛貼成の否定を中心に—	飯島 勇	ミュージアム	105	將軍塚絵巻	奥平 英雄	三 彩	112
鳥毛立女屏風部分解説	野間 清六	シ	103	浄土五祖絵伝 解説	水尾 博	国 華	808
鳥毛立女図の姉妹たち—樹下美人図の系譜—	秋山 光和	シ	104	播磨国書 写山 縁起 (新補)		史学文学	188
布作面	松村 政雄	シ	シ	東大寺本善財童子絵巻私考	梅津 次郎	大和文華	29
観経十六観變相図	高崎富士彦	シ	100	鳥獸戯画の作風	源 豊宗	人文論究	10—2
春日曼荼羅	松村 政雄	シ	98	鳥獸戯画卷 (名画物語 2)	谷 信一	萌 春	69
春日宮曼荼羅 解説	望月 信成	国 華	808	年中行事絵巻「内宴」について	鈴木 敬三	日本歴史	134
讃岐道隆寺蔵星曼荼羅	福家 惣衛	史迹と美術	295	天平文壇の一側面—長谷寺縁起について—	植松 茂	日本文学	75
大日如来像 解説	望月 信成	国 華	809	福富草紙 解説	橋崎 宗重	国 華	807
五大力菩薩像図と高野山国宝像	浜田 隆	シ	807	法相宗秘事絵詞について	源 豊宗	大和文華	30
国宝不動明王図 (醍醐寺蔵) 解説	佐和 隆研	仏教藝術	39	紫式部日記絵巻の研究	シ	墨 美	84
感応院神宮寺蔵不動明王画像に就て	辻合喜代太郎	史迹と美術	293	「目なし経」下絵と「有明の別」物語(上)	小松 茂美	三 彩	121
大威徳明王像 解説	浜田 隆	国 華	803	聖徳太子絵伝 (掛幅絵伝) について	奥平 英雄	ミュージアム	96
資料紹介「正智院什宝・成身会三昧耶形図像」	シ	仏教藝術	38	聖徳太子及二王子像—「古今目録抄」記載の解釈と補筆の問題を中心に—	飯島 勇	シ	97
稚児文殊出現図 (金剛般若波羅蜜經見返絵) 解説	松下 隆章	美術研究	203	聖徳太子及二王子像 解説	シ	シ	96
春日若宮影現図 解説	近藤 喜博	国 華	802	後水尾天皇の御画像	是沢 恭三	シ	98
稚児大師像 解説	柳沢 孝	シ	810	高野大師の像		日本美術工芸	244
法界寺壁画 (飛天) の製作期に関する推察	白畑 よし	美術史	32	文覚上人の画像について	森 暢	美術史	32
当麻寺曼荼羅堂の落書について	松村 政雄	ミュージアム	99	一向上人像 解説	飯島 勇	ミュージアム	100
興福寺の絵画と絵所絵師	亀田 孜	仏教藝術	40	足利義尚像 (名画物語 3)	谷 信一	萌 春	71
吉祥寺厨子絵より見た南都絵所座の一考察	松村 政雄	シ	シ	長谷川信春筆武田信玄像 解説	水尾 博	国 華	810
絵巻における鎌倉派	水尾 博	国 華	808	聖徳太子像と太子絵伝屏風	高崎富士彦	萌 春	65
異本伊勢物語絵巻について	片桐 洋一	国語国文	299	舍利殿屏風について	飯島 勇	ミュージアム	95
一遍聖絵と円伊	宮 次男	美術研究	205	古画屏風について	高崎富士彦	シ	シ
因幡堂縁起の成立	宮地 崇邦	国学院雑誌	60—1, 2	水墨画の本道	谷 信一	萌 春	64
勝利寺本絵因果経について	田中 一松	国 華	810	入元禅僧画家黙庵靈淵	衛藤 駿	大和文華	31
「北野天神縁起絵巻」の問題点	むしやこうじみのる	日本文学	75	黙庵筆平石賛白衣観音図を中心として (上・下) —特に黙庵の「笑」について—	蓮実 重康	国 華	806
源氏物語絵巻展雄感	高崎富士彦	萌 春	72				

赤脚子筆牧童図 解説	米沢 嘉圃	国 華	802	宗達私論	松村 剛	みづゑ	648
与可心交賛文殊像について	田中 一松	ス	812	俵屋宗達と草花絵一武蔵野図屏風をめぐる	水尾 博	国 華	805
与可心交賛木筆蓮衣文殊像 解説	ス	ス	813	伝宗達筆の保元・平治物語絵扇面について	山根 有三	大和文華	30
松雪山房図華岳建胃賛解説	衛藤 駿	大和文華	31	「宗達・秋野図屏風について」の訂正	梅津 次郎	美術史	33
雪舟	山口桂三郎	駿台史学	9	光琳断想	千沢 楨治	ミュージアム	94
雪村の自画像	衛藤 駿	大和文華	30	光琳東下考	相見 香雨	大和文華	29
鉄舟徳済の画事	中村 溪男	ミュージアム	98	光琳筆・秋草図屏風について	山根 有三	美術研究	206
鑑真筆山水図 解説	楢崎 宗重	国 華	810	光琳筆・伊勢物語図解説	高崎富士彦	ミュージアム	94
雪谷等顔筆嵯峨山水図屏風 解説	ス	ス	807	中国の光琳展	谷 信一	藝術新潮	10—1
等伯研究あれこれ	土居 次義	萌 春	68	乾山画雑感	相見 香雨	陶 説	71
等伯の水墨美	北川 桃雄	三 彩	116	深江蘆舟の墳墓発見をめぐる	ス	大和文華	31
2人等伯	森 暢	藝術新潮	10—7	渡辺始興について	谷 信一	萌 春	71
長谷川久蔵と長谷川信春	土居 次義	淡 交	136	風流の巨魁抱一上人抱一の抱負	麻生 磯次	ス	63
新出の善雪画について	中村 溪男	大和文華	30	抱一雑考	望月 信成	ス	ス
金鶏障屏画について—美術史の方法論に即して—	藤江 正通	美 学	39	酒井抱一筆三十六歌仙図解説	鈴木 進	ス	ス
四季山水図屏風 解説	楢崎 宗重	国 華	812	抱一略年譜	水尾 博	国 華	802
旧天祥院群仙梅樹図襖 解説	ス	ス	806	植松家の応挙と大雅	相見 香雨	萌 春	63
浜松図屏風 解説	水尾 博	ス	ス	円山応挙筆・風竹雨竹図屏風解説	菅沼 貞三	大和文華	30
金剛寺日月屏風を見て	宇佐見英治	三 彩	117	円山応挙筆・藤花図屏風解説	水尾 博	国 華	807
花鳥図六曲屏風半双・蘇鉄図六曲屏風半双	原田 太一	金沢美術工芸大学学報	3	応挙のかわり印「比叡難忘」	ス	ス	809
豊国祭図屏風 解説	田能村忠雄	国 華	805	谷文晁筆・木村蕪葭堂像解説	猪熊 信男	日本美術工芸	253
廐図屏風 解説	楢崎 宗重	ス	803	祇園南海	吉 沢 忠	国 華	805
遊楽風俗図屏風解説	ス	ス	804	祇園南海筆・蘆荻隠図解説	脇田秀太郎	美術史	34
誰ヶ袖屏風解説	中村 溪男	ス	ス	祇園南海年譜	森 暢	ス	ス
狩野派について（鑑定講座4）	鷹巣 豊治	三 彩	113	池大雅における様式転換—二十代・三十代の作品を中心として—	植谷 元	国 華	811
狩野玉染について（新資料紹介）	中村 溪男	ミュージアム	101	彭城百川筆前後赤壁図屏風解説	吉 沢 忠	ス	ス
東博本・探幽筆新三十六歌仙帖追補	竹内 尚次	ス	100	天倫寺と大雅	楢崎 宗重	国 華	808
久隅守景筆四季山水図解説	吉沢 忠	国 華	809	大雅筆日本十二景ノ内宮島、松島、錦帯橋、舟橋図解説	竹内 尚次	美術史	34
近世三十六歌仙絵の二、三	竹内 尚次	ミュージアム	99	池大雅筆日本十二景ノ内玄海灘、妙義山、三保浦、高砂図解説	吉沢 忠	国 華	802
素軒の定家詠花鳥倭歌絵上・下—素軒と光琳乾山の関係—	田能村忠雄	国 華	802・803	池大雅筆日本十二景ノ内逢坂関、箱根湯本、華嚴瀑布、東尋坊図解説	ス	ス	803
琳派・その時代	奥田 直栄	三 彩	114	池大雅筆陸奥奇勝図解説	ス	ス	804
琳派の展開	飯島 勇	萌 春	63		ス	ス	811
琳派・宗達光琳について	村松 剛	ス	67				
琳派真贋拾説	谷 信一	三 彩	114				

美術文献目録

池大雅筆山水図巻解説	吉 沢 忠 国 華	811							
池大雅筆箕山瀑布図解説	〃	〃	〃						
池大雅筆呂洞賓図解説	〃	〃	〃						
池大雅筆雲林清暉図解説	〃	〃	〃						
池大雅筆梅花書屋図屏風解説	〃	〃	〃						
与謝蕪村筆秋林比屋図屏風解説	水 尾 博	〃	812						
与謝蕪村筆冬江斜日春山馬行図屏風解説	〃	〃	813						
浦上玉堂筆山雨染衣図解説	吉 沢 忠	〃	807						
浦上玉堂筆青山雨後図解説	鈴 木 進	〃	810						
田能村竹田筆梅花書屋図解説	吉 沢 忠	〃	813						
帆足杏雨筆山水面帖解説	望月 信成	〃	803						
渡辺崋山筆一掃百態図について	吉 沢 忠	〃	812						
佐竹蓬平の藝術	脇本楽之軒	ミュージアム	100						
佐竹蓬平と地方画家	石井 鶴三	藝術新潮	10—8						
白隠慧鶴圖序説(上・中・下)	竹内 尚次	国 華	803・804・808						
白隠の絵画私感	〃	萌 春	65						
仙屋の藝術	鈴木 進	三 彩	117						
仙屋展を見て	安藤 榻石	書 品	101						
禅の笑い—仙屋展をみて—	C. S. テーラー	藝術新潮	10—8						
奈良絵本について—その形成を中心として—	赤井 達郎	国 華	813						
鑑定講座真贋の境	近藤市太郎	三 彩	117						
菱川師宣筆雑画巻解説	橋崎 宗重	国 華	813						
版画のなかの東海道	小野 忠重	萌 春	68						
北斎の読本挿絵にみられる絵巻画法の影響	福本 和夫	ミュージアム	98						
北斎から広重へ	橋崎 宗重	萌 春	68						
広重小惑	石井 鶴三	〃	〃						
広重版画と四十余年	高見沢忠雄	〃	〃						
新収品紹介・昇亭北斎の風景版画	菊地 貞夫	ミュージアム	102						
下総銚子浦鯉釣舟之図(昇亭北斎筆大判錦絵)解説	〃	〃	99						
大津絵の展開	小野 忠重	みづゑ	648						
ビイドロ絵考—特に荒木如元筆について—	三隅 貞吉	日本美術工芸	250						
国華70年展評		萌 春	64						
〔中 国〕									
漱芳齋観画	北川 桃雄	国立博物館ニュース	148						
作品鑑賞の態度—中国画の研究(1)—	鈴木 敬	〃	147						
絵画史の基本文献—中国画の研究(2)(3)—	〃	〃	148, 149						
閻立德と閻立本	長広 敏雄	東方学報京都	29						
伝王維筆長江積雪図について	米沢 嘉圃	美術研究	205						
清明上河図の研究(上・下)	鄭 振 鐸	国 華	809, 807						
伝趙大年筆山水図	鈴木 敬	ミュージアム	100						
伝趙令穰筆秋塘図について	米沢 嘉圃	大和文華	31						
研究余録・李迪の生存年代についての疑問	〃	国 華	804						
馬麟筆夕陽図(名画物語5)	谷 信一	萌 春	74						
於子明筆蓮池水禽図	鈴木 敬	大和文華	31						
藻魚図解説	米沢 嘉圃	国 華	808						
偃谿黄聞贊白衣観音図解説	〃	〃	813						
簡翁贊鼓腹布袋図解説	橋崎 宗重	〃	802						
牧溪筆観音猿鶴図(名画物語1)	谷 信一	萌 春	68						
牧溪筆はは鳥図(名画物語4)	〃	〃	72						
直翁筆六祖挾担図(広聞贊)について	鈴木 敬	かがみ	2						
元画美人盥洗図	米沢 嘉圃	国 華	809						
文徵明とその環境	杉村 勇造	大和文華	29						
文徵明の停雲印について	中村 素堂	書 品	102						
惲道生筆山水図解説	米沢 嘉圃	国 華	810						
査士標筆秋景山水図	今村 龍一	〃	804						
楊文聰筆傲古山水画冊解説	米沢 嘉圃	〃	806						
馬元駒筆花卉図解説	〃	〃	812						
上官周筆漁楽図巻解説	鈴木 敬	〃	807						
金農筆墨竹図解説	米沢 嘉圃	〃	803						
乾隆皇帝の画と書	杉村 丁	ミュージアム	105						
田中豊蔵氏の南画新論	三輪 福松	萌 春	64						
書 蹟									
実践第一主義—漢字の研究—	堀江 知彦	国立博物館ニュース	146						

法華義疏	堀江 知彦	萌 春	65	文化と伝統について—良寛と会津秋艸にちなんで—	吉野 秀雄	墨 美	88
法華義疏	〃	ミュージアム	96	かなに見る男性美	堀江 知彦	ミュージアム	101
正倉院の書—光明皇后の御書をめぐって—	〃	南都仏教	6	法隆寺印	矢島 恭介	〃	97
大東急記念文庫所蔵大方広伝華嚴經卷三四の草仮名	小林 芳規	かがみ	3	阿波半国銘硯行衛	相沢 春洋	書 品	105
藤原佐理	春名 好重	墨 美	91	臨淄封泥文字について	小林 斗庵	〃	102
藤原佐理の詩懷紙について	大河内晃東	〃	〃	臨淄封泥文字目録(2)	王献 唐著 小林斗庵訳	〃	96
行成のかなはかくあるべし	田中 塊堂	書 品	100	北魏・崔敬邕墓誌同釈文	松井 如流	〃	99
播磨加東郡社町(旧上福田村)馬瀬住吉神社大般若經について	田岡 香逸	史迹と美術	290	北魏造像銘四種	〃	〃	97
源氏絵間紙可調進—「長秋記」の読解をめぐって—	小松 茂美	ミュージアム	105	居延の早期簡	森 鹿三	墨 美	92
西行の人と書	春名 好重	墨 美	83	木簡の字すがた	藤枝 晃	〃	92
小倉色紙の尊重	〃	陶 説	73	喪乱帖を中心に	真田 但馬	ミュージアム	104
日蓮聖人自筆書状三卷	田山 方南	ミュージアム	101	真草千字文真蹟本・同釈文	松井 如流	書 品	96
光悦活画下絵歌卷一本阿弥光悦論その1—	伊東 卓治	美術研究	204	景龍観鐘銘	〃	〃	104
本阿弥光悦と加賀藩	渡辺良次郎	国学院雑誌	60—12	油素鈎本絶交書	伏見 冲敬	〃	98
本阿弥光悦伝小論	〃	〃	60—5	油素鈎本絶交書釈文并校記	〃	〃	〃
光広の藝術	小松 茂美	三 彩	118	元・興璫・宣城詩卷	松井 如流	〃	99
飯田の白隠展の感激を語る	西村 南岳	墨 美	90	呉昌碩臨石鼓文	伏見 冲敬	〃	101
良寛の書同釈文—読めないことのおもしろさ—	東郷 豊治	〃	89	澄清堂帖暫記(1)―(4)	〃	〃	102—105
良寛の書について—越後解良家旧蔵卷子解説—	原田 勘平	〃	85	来禽館本澄清堂帖釈文	〃	〃	103
良寛さま覚え書(17)	山崎 安雄	書 品	96	唐の文房具	杉村 勇造	〃	95
池大雅書飲中八仙歌屏風	〃	〃	86	好太王碑小引	松井 如流	〃	100
書家としての米庵	堀江 知彦	ミュージアム	94	好太王碑考	水谷悌二郎	〃	〃
慈雲の書について—慈雲の書は「尊者の書」—	吉田 紹欽	三 彩	112	好太王碑釈文	〃	〃	〃
古筆手帖(5)―(11)	飯島 春敬	陶 説	71・72・75・77・79・81	粘蟬碑文考	〃	〃	104
手鑑	春名 好重	〃	78・79	彫 刻			
墨跡の値段	〃	〃	80	仏教彫刻の東漸と48体仏	佐藤 昭夫	萌 春	65
短冊覚え書21―31	多賀 博	日本美術工芸	245—255	上代彫刻史上における様式区分の問題	町田 甲一	仏教藝術	38
草書の藝術性	中田勇次郎	仏教藝術	39	上代彫刻史上における様式時期区分の問題(承前)	〃	〃	39
鑑賞・日本の草書	〃	〃	〃	金銅仏の研究について—より多くの作例をみて—	佐藤 昭夫	国立博物館ニュース	141
杜甫飲中八仙歌訳註	入矢 義高	墨 美	86	美術史家の盲点	松原 正業	藝術新潮	10—6
				遺るもの滅びるもの—日本彫刻の印象—	オシップ・ザッキン	〃	10—8
				仏像彫刻における観音思想の成立	金子 良運	ミュージアム	94
				高野山龍光院蔵・屏風本尊	田村 隆照	仏教藝術	38

美術文献目録

金剛寺観音菩薩立像考	岡 直巳	大和文華	29	竹田内畑町の四方三尊仏石	川勝政太郎	史迹と美術	298
宝菩提院菩薩半跏像考	〃	美術史	32	佐度・宿根木の窟堂石窟仏	藤原 良志	〃	294
観世音寺馬頭観音造蹟考追記	猪川 和子	美術研究	204	華嚴寺舍利塔彫像考附法蔵法師の尺牘	中吉 功	朝鮮学報	14
東大寺俊乗堂阿弥陀如来立像解説	井上 正	国 華	802	東魏彫刻論—その特性とわが飛鳥止利様式との関係—	松原 三郎	美術研究	202
大円寺の清凉寺式釈迦像	西川 新次	ミュージアム	100	中国初期金銅仏の二三の資料	熊谷 宣夫	〃	203
興福寺旧食堂の千手観音像	小林 剛	仏教藝術	40	盧舎那法界人中像の研究	吉村 怜	〃	〃
玉依姫像(吉野水分神社安置)解説	岡 直巳	大和文華	29	中国の金銅二仏並坐像	松原 三郎	仏教藝術	38
天理市桂林寺文殊獅子像胎内奉籠の茶吉尼天画像等	太田 古朴	史迹と美術	293	石と金と土の藝術—中国古代彫刻—	〃	萌 春	68
明王寺不動明王及二童子像解説	西川 新次	国 華	809	中国古代彫刻展	三雲祥之助	藝術新潮	10—6
元興寺極楽坊聖徳太子像	杉山 二郎	仏教藝術	39	中国彫刻について(座談会)	白川 一郎 町田 甲一	三 彩	115
鉦彫と未完成像	久野 健	美術研究	203	中国古代彫刻展見たままの記	白川 一郎	陶 説	76
みちのくの仏像	〃	仏教藝術	39	龍門石窟を発見した日本人	〃	藝術新潮	10—7
房総の仏たち	佐藤 昭夫	国立博物館ニュース	148	五代造像考	松原 三郎	美術研究	207
研究資料・仏師康助資料	水野敬三郎	美術研究	206	古代初期のインド彫刻	上野 照夫	仏教藝術	41
浄楽寺の仏像と運慶	久野 健	〃	204	サーンチー大塔東門菩提樹下成道図解説	〃	美術史	33
浄楽寺諸像の胎内納入物と墨書	猪川 和子	〃	〃	バンテアイ・スレイの女神	高田 修	美術研究	207
運慶銘札のある仏像	渋谷 二郎	鎌 倉	2	建築・庭園			
鎌倉大仏調査私記	西川 新次	〃	3	建築と地表との間の古代的造型—日本建築の方法(6)—	篠原 一男	日本建築学会論文報告集	63—2
鎮大師尊像始末記	渋谷 二郎	〃	1	文化財(建造物)保護事業の概要	文化財保護委員会事務局建造物課	建築雑誌	877
16,7世紀の鎌倉仏師覚書	三山 進	ミュージアム	98	国宝・重要文化財建造物(グラフ)	〃	〃	〃
仏師快円について	〃	鎌 倉	1	建造物保護事業のスコープと方法	桐敷真次郎	〃	〃
仏師弘円について	〃	〃	3	文化財の破壊の現状とその根本対策	大岡 実	〃	〃
埋められた日本彫刻史の空白(円空上人の彫刻)	榎本 建規	藝術新潮	10—11	奈良時代の尺度について	榎本 杜人	ミュージアム	99
円空上人と飛騨地方の遺作について	辻合喜代太郎	史迹と美術	299	奈良時代の尺度について(承前)	〃	〃	100
攷古抄(2)日吉山王社の懸仏	景山 春樹	〃	293	規矩の新考察	上田 虎介	日本建築学会論文報告集	63—2
法隆寺献納伎楽面	金子 良運	ミュージアム	97	日本の柱	神代雄一郎	日本美術	14
法隆寺献納宝物中の舟形光背について	周野 清六	〃	〃	仏舎利をまつる建築	村田 治郎	仏教藝術	38
透彫の光背と灌頂幡	岡田 譲	三 彩	112				
薬師寺本尊台座の葡萄唐草文	林 良一	国 華	810				
「薬師寺仏足石銘文」存疑	橋 健二	南都仏教	6				
奈良時代四方仏石の一遺例	川勝政太郎	大和文華	30				
日石寺磨崖仏の追刻像について—垂迹像の一例として—	藤原 良志	史迹と美術	298				

墓廟と宝形造り	井上 充夫	日本建築学会論文報告集	61	鎌倉時代における番匠の血縁組織について	大内 直躬	日本建築学会論文報告集	63—2
平安時代における仏堂平面について(1)	伊藤 延男	建築史研究	27	飛騨工について	遠藤 元男	日本歴史	134
中世仏堂の小屋構造	川上 貢	日本建築学会論文報告集	63—2	城郭と茶室の壁を通してみた近世初期の左官工事について	山田 幸一	日本建築学会論文報告集	63—2
密教本堂の厨子について	伊藤 延男	〃	〃	寛延年間日光東照宮修理における徳島藩の助役造営組織について	鈴木 解雄	〃	〃
九軌阿弥陀堂造立一覧表の補遺	杉山 信三	史迹と美術	290	紫香楽宮	井上 薫	南都仏教	6
真宗寺院の形態	石田 茂作	龍谷史壇	45	近世に於ける仙洞御所の沿革	平井 聖	日本建築学会論文報告集	61
羽黒山出羽神社の修験寺院について	横山 秀哉	日本建築学会論文報告集	63—2	江戸時代における禁裡、仙洞・女院御所における常御殿について	〃	〃	62
武蔵国分寺跡発掘調査概要—昭和三十三年—	大島 恭介	考古学雑誌	44—3	近世仁和寺御所の寝殿について	島田 武彦	〃	63—2
浄光明寺境内やぐら調査概要	赤星 直忠	鎌倉	2	京都御所内「小御所」の復元について	石川 忠	新建築	34—3
鳳凰堂式寺院に関する一考察—仁和寺・醍醐寺を中心として—	井上 充夫	日本建築学会論文報告集	63—2	平安時代後期における下級貴族の住居について(文学作品を通してみた寝殿造の研究)	多淵 敏樹	日本建築学会論文報告集	63—2
法界寺阿弥陀堂について	杉山 信三	史迹と美術	299	近世に於ける摂家住宅の寝殿について	平井 聖	〃	〃
海住山寺五重塔	福山 敏男	美術研究	202	書院造遺構における柱間寸尺の基準単位について—一周の建築的研究(18)—	内藤 昌	〃	〃
丹波国岡山廃寺	石田 茂作 三宅 敏之	考古学雑誌	45—2	江戸大名居館の構成と家臣団の集団居住	西川 幸治	〃	〃
伊丹廃寺址発掘調査概報	田岡 香逸	史迹と美術	292	武家住宅に於ける玄関に就いて	佐藤 巧	〃	〃
元和造営の住吉神宮寺西塔について	藤原 義一 中村 昌生 小野 木重勝	日本建築学会論文報告集	63—2	茶室と茶庭の研究 1—6	中村 昌生	淡交	130—5
奈良一条高校敷地の一寺趾—大后天寺跡か—	田村 吉永	史迹と美術	291	利休の聚楽屋敷考	鈴木 半茶	日本美術工芸	255
川原寺の発掘	浅野 清	仏教藝術	38	春草廬(九窓亭)—三溪園	藤岡 通夫	新建築	34—3
東大寺講堂院の平面復原	山本 栄吾	日本建築学会論文報告集	63—2	清風荘	〃	〃	〃
正倉院の建物	福山 敏男	ミュージアム	104	農村茶室の記	藤島 支治郎	淡文	143
正倉院宝庫	浅野 清	新建築	34—3	城よもやま話	城戸 久	建築雑誌	868
興福寺の伽藍	鈴木 嘉吉	仏教藝術	40	名古屋城の軍用金	〃	〃	866
中世興福寺の住房	森 蘊	〃	〃	江戸城の官僚設計チームとモジュール	内藤 昌	国際建築	26—11
興福寺の国宝建造物	浅野 清	〃	〃	万延度御普請江戸城本丸大広間の設計について	〃	日本建築学会論文報告集	61
拝殿の起原について	井上 充夫	日本建築学会論文報告集	62	万延度御普請江戸城本丸白書院について	〃	〃	62
神社建築史における流造り	福山 敏男	新建築	34—3	近世に於ける「中門造」民家々構について	白木小三郎	〃	63—2
資料・旧官国幣社における式年造替制の調査	谷 重雄	建築史研究	27	民家の保存についての感想	大河 直躬	建築雑誌	877
大工職成立についての覚書(附:鎌倉時代大和番匠名一覧表)	大河 直躬	〃	〃	本棟造の民家	錦織 本尚 内藤 昌	新建築	34—1
				奈良今井町と今西邸	大河 直躬	〃	34—6

美術文献目録

奈良県五条市町家の 編年と建築の変遷	浅野 清 扇田 孝 林野 吉 鈴木 章 工藤 信 青山 賢	日本建築 学会論文 報告集	63—2	塩尻市下大門の瓦塔 遺跡	一志 茂樹 小松 虔	信 濃	11—8
奈良県五条市町家平 面の型	浅野 清 扇田 孝 林野 吉 鈴木 章 工藤 信 青山 賢	〃	〃	史料紹介・唐招提寺 出土瓦塔片	丸子 亘	立正史学	23
大庄屋万波家の家構 とその変遷	洪谷 泰彦	〃	〃	肥後国陳内廃寺の瓦 塔	小林 久雄 松本 雅明	東方古代 研究	9
元祿期特権町人の住 宅—銀座元年寄中村 内蔵助闕所屋敷につ いて—	川上 貢	史迹と美 術	298	攷古抄(1)—印仏、 印塔の瓦経	景山 春樹	史迹と美 術	291
富士川流域に於ける 民家について	鈴木ツトム	日本建築 学会論文 報告集	63—2	攷古抄(4)瓦経の一 資料	〃	〃	299
鹿児島県民家の「カ ナエ」に就いて	野村 孝文	〃	61	常陸台渡廃寺址出土 の文字瓦—西田直二 郎先生の几下に献—	高井悌三郎	〃	297
構造上で三種に大別 —校倉建築の研究—	石田 茂作	国立博物 館ニュー ス	150	下野上神主庵寺とそ の人名瓦小考(上) (下)	石村 喜英	〃	294. 29 5
高倉よせて	野口 義麿	ミュー ジ アム	94	長野県下伊那地方出 土の古瓦について	市村 威人	信 濃	11—1
文倉と防火対策	太田 静六	日本建築 学会論文 報告集	63—2	飯田市開善寺境内出 土の鏡瓦	大沢 和夫	〃	11—8
琵琶湖東地域のホシ 小屋—原初的建築様 式の—	石野 博信	考古学雑 誌	45—2	中国式塔姿の起因に ついての一考察	原田 淑人	考古学雑 誌	44—3
近世における日本の 農村舞台群について	松崎 茂	日本建築 学会論文 報告集	63—2	中国古代の城につい て	大島 利一	東方学報 京都	30
西南諸島のサス構造 講座・石造美術講義 (17・18)	野村 孝文 川勝政太郎	〃 史迹と美 術	62 293. 29 4	世室・明堂の意匠に ついて—「考工記」に あらわれた造形的形 式の研究—	高田 克己	日本建築 学会論文 報告集	63—2
西賀茂の石仏と岩門 国東型宝塔に就いて —在国東部の鎌倉時 代遺品—	〃 望月 友善	〃 〃	292 291	円明園の研究	後藤 末雄	史 学	32—3
北陸に於ける宝篋印 塔の形式	藤原 良志	〃	290	インドの石窟寺院	高田 修	仏教藝術	41
忍性塔と覚賢塔	安田 三郎	鎌 倉	1	Silpa—Śāstraの研 究—古代印度の文献 に表された建築の五 様式—	辻合喜代太 郎	日本建築 学会論文 報告集	63—2
紀伊金屋興善寺石造 層塔	田中 重雄	史迹と美 術	297	工 藝			
神社石燈籠について の考察	川勝政太郎	国学院雑 誌	60—11	古代の工藝(8)— (16)	奥田 直栄	陶 説	70—73. 75—79. 81
播磨加西郡北条町畑 出土石製鬼瓦につい て	田岡 香逸	史迹と美 術	298	献納宝物の工藝	蔵田 蔵	萌 春	65
建長寺出土の経石	赤星 直忠	鎌 倉	3	君台観左右帖記輪講 筆記(8)—(19)	左 右 会	淡 交	130—1 43
石風呂雑考	川勝政太郎	史迹と美 術	296	歴代好物集(35)— (46)	目方 宗允	〃	〃
下総石下・古不動板 碑	高井悌三郎	〃	293	京都御所をめぐる古 典的伝統文化とその 技術	猪熊 兼繁	〃	140
大阪府泉南郡の板碑 類資料	天岸 正男	〃	297	伝統を伝える人々	小原源一郎	〃	〃
淡路板碑について	沖野 舜二	〃	299	陶磁工			
				此君亭緑窓陶談	伊東 深水 三上 次男 梅沢 彦太郎 黒田 領治 磯野 風船子	陶 説	77
				やきものかんじんか なめ			

26. ノンカウかー入か	磯野風船子	陶	説	70	茶わん談義(1)、(2)	岡部 敢	陶	説	78. 79
27. 明朝物と清朝物	久志 卓真	シ		72	やきもの講座・茶碗の見方と種類(14)―(19)	佐藤 進三	シ		70-73. 76. 77
28. 今焼名工作品	R. K. 生	シ		73	面白い曲線	石川 道雄	シ		76
29. 井戸茶碗の形態	佐藤 進三	シ		75	青磁の美しさ	林屋 晴三	三	彩	119
30. 柿右衛門と色鍋島	久志 卓真	シ		76	擒采庵覚書	岡田 宗叡	陶	説	72
31. 鉄彩手	岡田 宗叡	シ		77	林原コレクション寸描	シ	シ		74
32. 伊賀焼今と昔	黒田 領治	シ		78	日 本				
33. 現川といふものの	佐藤 進三	シ		79	日本の陶磁器について	J・フォンティン	陶	説	75
34. 古備前徳利	未央堂主人	シ		80	江戸期日本陶磁年表	磯野風船子	シ		74
名 陶 談 叢					土師器のことなど	シ	シ		81
7. 名物水指、水懸	桑田 忠親	シ		75	三彩磁鉢など	田中作太郎	ミューズ アム		103
8. 名物香炉	シ	シ		78	攷古抄(3)―四王寺山出土の一經筒―天永元年墨書の陶筒―	景山 春樹	史迹と美術		296
随筆・陶片と共に					益子焼のうち	藤倉 孝吉	日本美術工		246
12. 焼物と時代(中)	米内山庸夫	日本美術 工芸		244	鹿島の狛犬	本多 静雄	陶	説	76
13. シ (下)	シ	シ		245	黄瀬戸たて粉茶碗	小林 宗一	シ		81
14. 染付の発祥と発達(上)	シ	シ		246	中興名物三笠山茶入解説	三 味 淡	交		139
15. シ (中)	シ	シ		247	伯庵談議	十和田湖月	陶	説	76
16. シ (下)	シ	シ		248	伯庵茶碗(黒田家伝来)解説	小田 栄作	シ	シ	
17. 杭州出土の染付	シ	シ		249	山々への想い―志野・黄瀬戸再認識時代を願ふ―	井上吉次郎	大和文華		29
18. シ (続)	シ	シ		250	古志野焼成技法と荒川志野	上口 愚郎	陶	説	73
19. 赤絵と釉裏紅	シ	シ		251	志野茶碗	田中作太郎	ミューズ アム		101
20. シ (続)	シ	シ		252	織部―古陶みちしるべ―	岡田 宗叡	陶	説	80
21. 柴窯と影青(上)	シ	シ		253	織部好みの特徴	桑田 忠親	シ	シ	
22. シ (中)	シ	シ		254	織部の南蛮趣味	西村 貞	シ	シ	
23. シ (下)	シ	シ		255	現代人の夢―織部の評価―		カラー・ デザイン		5-2
ちやわん抄					織部随想	長谷川己之吉	陶	説	80
120. 瀬戸黒歌銘氷	加藤義一郎	日本美術 工芸		244	思い出の織部焼	養半 農軒	シ	シ	
121. 唐津石はぜ	シ	シ		245	織部獅子香炉解説	佐藤 進三	シ	シ	
122. 宋柿釉筒	シ	シ		246	九谷窯跡発掘抄	寺前 為一	シ		79
123. 御本藍絵山水	シ	シ		247	いわゆる祥瑞丸文装飾のある古九谷について	中川 千咲	美術研究		207
124. 磁青磁しのぎ	シ	シ		248	高い山から谷底見れば―古九谷の観賞―	米山 倉造	陶	説	79
125. 呉州赤絵唐子文	シ	シ		249	古九谷の真贋	磯野風船子	三	彩	112
126. 高麗玉子手銘樺花	シ	シ		250	ふる里の土肌恋うる乙女達	シ	陶	説	73
127. 膳所焼 平	シ	シ		251	古九谷虎香炉その他	管 瀬 正	シ		70
128. 織部 いろ杓	シ	シ		252	古九谷色絵宝珠丸文山水図大皿解説	磯野風船子	シ		73
129. 絵志野 呼継	シ	シ		253	万古焼の名称について	小林 宗一	シ		77
130. 青井戸 碗形	シ	シ		254					
131. 志戸呂 とび口	シ	シ		255					

美術文献目録

古伊賀花入解説	三 味 淡 交	135	有田磁器からみた古九谷の再検討	今泉 元佑 陶 説	74
京焼(三)	保田 憲司 陶 説	70	柿右衛門・古伊万里・鍋島の文様	中川 千咲	77
仁清作色絵罍粟文茶壺解説	小山富士夫 国 華	813	東京=福岡一ふたつの柿右衛門・伊万里・鍋島名品展をみて	清原 土郎	77
仁清色絵鱗紋茶盃解説	三 味 淡 交	143	古伊万里と柿右衛門の再検討(下)	今泉 元佑	70
仁清作流れ袖管耳の水指(共蓋)解説	久志 卓真 陶 説	71	柿右衛門色絵花鳥文瓶	鷹巢 豊治	74
乾山の系統の筋道	鈴木 半茶	76・78-80	柿右衛門色絵葵文大蓋物	田中作太郎 大和文華	30
大乾山四題——新資料を拾つて——	磯野風船子	71	創始期の伊万里	佐藤 進三 陶 説	81
藝術企業家乾山	鈴木 半茶	71	伊万里焼	水町和三郎	74
大乾山からリーチまで(1)~(4)	小田 栄作	71-73	伊万里辰砂に就いて	鷹巢 豊治	77
乾山の鑑賞と疑点に就て	保田 憲司	70	伊万里色絵六角面取美人草花文壺解説	佐藤 進三	77
乾山偽物考(1)~(3)	桂 又三郎	71	青花二彩包絵壺解説	鷹巢 豊治 ミュージアム	105
楕円輪郭乾山押印について	保田 憲司	34	伊万里の染付	瀬良 陽介 日本美術工芸	248
桂さんに答へ——楕円輪郭乾山押印に就いて	小林太市郎 美術 史	81	色鍋島	田中作太郎 陶 説	74
乾山「過凹凸窠記」訳註考証	久志 卓真 陶 説	808	道米元年銘顧少虎山水図三河内染付皿	久志 卓真	77
乾山の楽茶碗	林屋 晴三 国 華	34	朝鮮・中国・その他		
尾形乾山作蓮にかわせみ文様黒茶碗解説	満岡 忠成 美術 史	71	鷄龍山三島と官窯について 2、3	福島 良美 陶 説	70. 72
乾山菊絵手炉解説	磯野風船子 説 陶	71	柿の蒂茶碗(鴻池家伝来)解説	佐藤 進三	79
色絵藤文手鉢解説	満岡 忠成	71	大井戸茶盃 銘常夏解説	三 味 淡 交	136
兼好閑居図	篠崎 源三	80	朝鮮唐津壺形水指解説	久志 卓真 陶 説	78
白鳥の歌・佐野乾山	佐藤 進三	81	李朝陶器	佐藤 千寿	79
乾山展と犬山乾山	大川 英三	70	李朝の蠶惑	梅沢 曙軒	78
乾山展を見る	佐羽 未央	70	李朝辰砂蓮花文壺解説	久志 卓真	79
楽焼道草	磯野風船子	70	李朝陶磁展を見て	久志 卓真	79
楽焼道草(続)	鈴木 半茶 陶 説	70	近年中国に於ける古陶磁に関する調査報告について(1)~(6)	尾崎 洵盛	72. 73. 75-78
光悦赤楽茶碗銘独座解説	杉本 捷雄	79	戦国時代の明器陶像に就いて	梅原 末治 大和文華	29
丹波の茶陶——利久と丹波茶碗	藤野 勝弥	81	漢代明器泥象と生活様式——長沙・広州・貴州の場合——	岡崎 敬 史 林	174
丹波新橋(続)	三 味 淡 交	140	青磁四耳壺	田中作太郎 ミュージアム	95
新発見の丹波大部谷窯其他	田中 直彦 陶 説	70	宋磁の研究について——研究書のいろいろ——	長谷部楽爾 国立博物館	142
摂津三田焼三輪窯の消長	佐藤 進三	75			
古備前花入解説	長谷川己之吉	81			
姫谷焼	永竹 威	74			
奥高麗茶碗	三 味 淡 交	135			
良寛と唐津	鈴木 半茶 陶 説	70			
肥前赤絵の三様式・古窯跡探訪余話	杉本 捷雄	79			
肥前赤絵のパレード——肥前磁器研究の諸問題——	藤野 勝弥	81			
有田古窯址の調査について	三 味 淡 交	140			

汝窯址の調査と麗和店の発掘	久卓 志真	陶 説	72	正倉院宝物の刀剣類	辻本 直男	刀剣美術	60
「広州西村古窯遺址」について	長谷部楽爾	シ	73	正倉院の武器武具	佐藤 貫山	シ	シ
景德鎮陶磁工業の起源とその発展 (1)	中国江西省陶磁研究所	シ	81	菊御作と御番鍛冶に就いて	三矢 宮松	シ	56
青磁と白磁の起源	郭 仁	シ	79	観世正宗	佐藤 貫一	ミュージアム	100
青白磁器に対する私見	陳 万里	シ	81	見どころ抄(7)―(12)	薫 山	刀剣美術	55―60
青磁雑考(続)―蟹爪紋及魚子紋について―	中村万次郎	シ	78	南宮神社の宝刀	辻本 直男	シ	59
砧青磁	小山富士夫	シ	73	馬来住吉綱の太刀	シ	シ	57
砧青磁について上・中・下	米内山庸夫	シ	78 80	長滝白山神社の武器類	久山 峻	シ	シ
きぬた一龍泉窯と修内司官窯―	森田 規靖	シ	76	勢州桑名の刀匠	稲垣 善次	シ	シ
修内司官窯青磁鳳凰耳花生	小山富士夫	大和文華	30	美作国黒板に駐槌の則光・永光	豊田 保穂	シ	60
飛青磁八仙浮彫瓶	藤岡 了一	シ	29	脇指の剣を讀んで所持の剣	安部 吉弘	シ	56
汝窯牡丹唐草文瓶解説	藤山 順吉	陶 説	72	「前」と「前―」	辻本 直男	シ	シ
天目(てんもく)(用語解説・陶磁)	長谷部楽爾	ミュージアム	99	伊賀兎毛の手控より瑞龍寺の奉納刀二十二振の行方	三枝 啓助	シ	59
法花茄菜地牡丹孔雀文壺	中川 千咲	大和文華	31	筑前新刀の研究(4)―(6)	黒田義太郎	シ	60
やきもの教室―万暦赤絵展のために―	久志 卓真	陶 説	72	津田近江守助直の研究	久野 繁樹	シ	55・57・58
呉須十二角水指「騎馬人物の絵」解説	三 味	淡 交	141	助直に関する資料より	佐藤 寒山	シ	55
古染付	佐藤 千寿	陶 説	77	刀剣の地肌について	勝部 継生	シ	59
多彩牡丹文の鉢(ニシヤブール手)解説	三上 次男	シ	シ	刀剣について	久我 春	シ	シ
金 工				美術日本刀の鑑賞	本間 順治	シ	60
和風意匠成立の場―和鏡意匠の構図に就いて―	吉村 元雄	人文論究	10―2	細川五代年譜と刀剣	佐藤 寒山	シ	58
古代和鏡の研究(1・2)	中村 鉄青	日本美術工藝	248・249	鎌田魚妙の伝記	村上 孝介	シ	57
柄香炉	蔵田 蔵	ミュージアム	97	柄巻(用語解説・刀剣)	福永 醇剣	シ	59
九州の三古鏡	坪井 良平	史迹と美術	298	名刀の行方をたずねて	沼田 鎌次	ミュージアム	94
佐波理(用語解説・金工)	中野 政樹	ミュージアム	104	ボストン美術館刀剣目録	佐藤 醇造	刀剣美術	59
古芦屋源氏釜の喜び	細見古香庵	日本美術工藝	254	ボストン美術館蔵刀剣分類目録	佐藤 寒山	シ	56
長野県上伊那地方における金工品年表とその文化史的考察	赤羽 篤	信 濃	11―9	ボストン美術館の刀剣について	石原 俊輝	シ	シ
大和河内の鋳物師	永島福太郎	大和文華	30	信家に関する諸論を讀んで	鳥越 在耶	シ	55
鋳と鎌	三木 文雄	ミュージアム	95	「信家鑑が明珍 信家と無関係だ」とはにわかに断定できない	斎藤 直芳	シ	58
法隆寺伝来の七曜剣及び銅剣	佐藤 貫一	シ	96	信家論追補	勝矢 俊一	シ	59
				加賀後藤について	八田 吉郎	シ	57
				庄内金工の討究	相沢 寧	シ	シ
				後藤一乗作・草花虫類図三所物	佐藤 貫一	ミュージアム	101
				土屋安親の研究と批判	川口 陟	刀剣史料	4
				正阿弥勝義とその作品	佐藤 寒山	刀剣美術	59

美術文献目録

正阿弥勝義について —東京国立博物館の 特別展に寄せる—	佐藤 貫一	ミュージ アム	102
鐔・小道具について —研究書のいろい ろ—	シ	国立博物 館ニュー ス	145
「装剣奇賞」、「鮫皮精 義」と稲葉通龍	大臣人山人	刀剣史料	4
鐔名作展の回想	上森 岱乗	刀剣美術	55
沢渦威鑑難形(解説)	尾崎 元春	ミュージ アム	97
清正が秀吉から拝領 した鎧	原田 三也	刀剣美術	60
天草の乱奮戦の兜	久山 峻	シ	59
「脳戸」銘の兜	シ	シ	58
「信家の籠手」につい て	上森 岱乗	シ	60
高麗鐘の銘文	藤田 亮策	朝鮮学報	14
中国古代の金属技術	吉田 光邦	東方学報 京 都	29
殷周の銅器	小杉 一雄	みづゑ	644
八等身美学をこえた もの—中国殷・周銅 器展をみて—	岡本 太郎	シ	シ
殷・周銅器展をみて	池田龍雄他	藝術新潮 国学院雑 誌	10—1 60—1.2
巴形銅器	鈴木 恒男	史 林	176
中国殷周の古鏡	梅原 末治	ミュージ アム	95
いわゆる伯牙彈琴鏡 について	尾崎 洵盛	シ	96
伯牙彈琴鏡	矢島 恭介	シ	104
銀張山水図入稜鏡	シ	国 華	805
龍文毛彫水瓶解説	蔵田 蔵		

木 漆 工

玉虫厨子制作年代考 (1)、(2)—文獻上 より見た玉虫厨子の 制作年代について—	上原 和	成城文藝	17.18
木画の伝播	岡田 譲	ミュージ アム	103
法隆寺献納宝物童子 図木画箱について	シ	国 華	806
撥鏝の針筒について	木内 武男	ミュージ アム	95
経台と透絵の意匠	榎本 杜人	シ	シ
平脱と平文	溝口 三郎	シ	103
螺鈿—意義・技法・ 源流—(用語解説・ 漆工)	荒川 浩和	シ	96
螺鈿—その 歴 史— (用語解説・漆工)	シ	シ	105
鳳凰円紋螺鈿唐櫃	溝口 三郎	シ	96
秋草蒔絵見台解説	荒川 浩和	シ	101
秋草蒔絵見台	溝口 三郎	シ	シ

ぬりものの飲食器	岡田 譲	淡 交	136
金銀泥絵漆皮箱	溝口 三郎	ミュージ アム	96
沖縄の漆器—デイ ゴ・とんけつ・つい きん—	荒川 浩和	シ	99

染 織 工

日本服飾史 1~10	遠藤 武	歴史教育	67—76
日本における染織の 発達と文様の特 質 (3)—(5)	明石 国助	デザイ ン・ジャ ーナル	77.79. 81
日本の染織模様(1) —(3)	中田 満雄	被服文化	58—60
日本の絹織物と西陣 (1)(2)	明石 染人	淡 交	130. 131
工藝随筆「錦」と「ぼ ろ」の話(1)—(8)	龍村 謙	日本美術 工藝	244— 246 251— 255
勸修寺繡帳と高句麗 の壁画文様	小泉 顕夫	朝鮮学報	14
時代裂	小林 宗一	陶 説	79
広東錦(法隆寺献納 宝物)解説	山辺 知行	ミュージ アム	95
正倉院綾とその模様	西村 兵部	シ	103
正倉院ギレと模 様 二、三について	シ	被服文化	60
赤地花文錦幡頭(正 倉院宝物)解説	山辺 知行	ミュージ アム	104
織物の愛玩(御所の 工藝)	喜多川平朗	淡 交	140
日本における“うす もの”	遠藤 武	被服文化	58
“うすもの”の布地 について	湯原 五郎	シ	シ
博多織考		デザイ ン・ジャ ーナル	95
博多織		カラー・ デザイン	5—9
条帯(法隆寺献納宝 物)	日野西資孝	ミュージ アム	98
日本の組紐	道明新兵衛	カラー・ デザイン	5—4
こぎんの模様		シ	5—6
こぎん		デザイ ン・ジャ ーナル	88
しほり—鳴海有松絞 りの周辺—	神谷 栄子	カラー・ デザイン	5—7
南部の紫根染	片倉 信光	被服文化	55
伊勢型織	山辺 知行	シ	58
白石に残る古い染型 織	片倉 信光	シ	57
摺布—摺衣—(用語 解説・染織)	日野西資孝	ミュージ アム	103

太子絹笠について	山辺 知行	ミュージアム	96
熱田神宮御神服の裁縫について—十襲御衣と纏の装—	〃	〃	94
伝太閤所領帷子	〃	〃	102
有職文様	日野西資孝	カラー・デザイン	5—4
吉祥文様	渡辺 素舟	〃	〃
職業と着物—商人のきもの—	遠藤 武	被服文化	57
庶民の婚礼衣裳	〃	〃	56
武家の婚礼衣裳	相馬 皓	〃	〃
公家の婚礼衣裳	河鱈 実英	〃	〃
服飾史上よりみた農民衣服	遠藤 武	〃	55
地方在来の防寒服物	宮本馨太郎	〃	60
町火消	〃	カラー・デザイン	5—10
「ひとえ」から「あわせ」へ	日野西資孝	被服文化	58
歌舞伎衣裳の見方	相馬 皓	〃	57
文楽人形衣裳について	吉田 文雄	〃	56
アイヌ民族の衣類	村中智恵子 荒井 純子	〃	〃
所謂クックルケンについて	児玉作左衛門 大場 利夫	北方文化 研究報告	14
中国古代服喪における深衣について	谷田 孝之	東方学	19
東南アジアの民族服と模様(3)(4)	宮下 孝雄	被服文化	55, 56
東南アジアの民族服と模様(5)—ハワイアン羽毛布—	〃	〃	57
十二単のくつ	日野西資孝	〃	〃
いのしし皮の靴	片倉 信光	〃	55
宮中の式服の色目について	上村 六郎	カラー・デザイン	5—4
お細工もの	熊谷大次郎	被服文化	59
日本のバッグの変遷	中村 恭子	〃	55
三つ折れ人形	山辺 知行	ミュージアム	101
征矢野矢的矢考	鈴木 敬三	国学院雑誌	60—11

(ガラス・玉・その他)

東洋のガラス器—正倉院ガラスの研究など—	岡田 譲	国立博物館ニュー	151
ぎやまん・びいどろ瑣談	出井 朱有	日本美術工藝	250
中国古代の琉璃	蔣 玄 治	陶 説	80
正倉院宝物白琉璃碗考—ギョーラン州出土の琉璃碗に対する私見—	深井 晉司	国 華	812

中部ウラル出土の切子ガラス碗—正倉院宝物及び伝安閑陵出土の琉璃碗と類似の新例—	平井 尚志	ミュージアム	104
---	-------	--------	-----

八臣瓢	木内 武男	〃	97
江戸時代のかんざし	橋本 澄子	〃	100
三つ折れ人形	山辺 知行	〃	101
竹花入の初め	佐羽 未央	陶 説	78
江戸のともしび	溝口 三郎	萌 春	63
和時計(続)	高橋邦太郎	〃	73

考古学関係

最近における日本考古学界の動向	編集部	歴史教育	67
歴史考古学上の新課題	斎藤 忠	日本歴史	129
日本考古学研究参考資料便覧	立教大学考古学研究会編	歴史教育	67
史跡の保存と考古学	藤田 亮策	考古学雑誌	44—3
遺跡及遺物の遺存について	酒詰 仲男	文化学年報	9
考古漫筆(1)	藤田 亮策	考古学雑誌	44—4
発掘巡歴(3)雄基貝塚のはなし・15体の人骨を発掘	榎本 杜人	国立博物館ニュー	140
(4)金海貝塚の発掘(1)	〃	〃	141
(5)住居址・貝塚と墳墓群の時代差	〃	〃	142
(6)支石墓とその時代	〃	〃	143
(7)金属文明の曙光	榎本 杜人	〃	144
(8)—(10)楽浪古墳の発掘	〃	〃	145—147
群馬県の考古学界の昨今	柳井 繁三	歴史教育	67
考古学上より見たる神武天皇東征の実年代	中山平次郎	古代学	30
言語から見た土器文化の系統(1)・(2)	斎藤 正雄	陶 説	73・75
東京都茂呂における関東ローマ層中の石器文化	杉原 荘介 吉田 格 芹沢 長介	駿台史学	9
長野県野辺山の石器(資料紹介)	佐藤 達夫	考古学雑誌	44—3
太曾開田高原の無土器文化遺跡(柳又遺跡を中心として)	樋口 昇一 森島 稔	信 濃	11—11

美術文献目録

岐阜県海老山遺跡における無土器文化の石器について	河合喜代治 吉田英敏 紅村弘	考古学雑誌	44—4	新潟県中魚沼郡津南町貝坂遺跡	中村孝三郎 小林達雄	上代文化	29
北海道地方貝塚地名表	酒詰 伸男	人文学	41	新潟県中頸城郡柿崎町鍋屋町遺跡概報	寺村光晴 三井田忠雅之 関	〃	〃
陸前沼津貝塚出土人形骨角製品(資料紹介)	楠本 政助	考古学雑誌	44—3	石川県鹿島郡能登島町佐渡遺跡略報	橋本 澄夫	考古学雑誌	44—4
秋田県能代市柏子所貝塚出土の骨角器	大和又震平	〃	44—4	島原半島景花園の遺物(資料紹介)	小田富士雄	〃	45—3
千葉県八日市場市宿井下貝塚発掘報告	清水潤三 近森 正	史学	32—2	原始住居の復原について	太田博太郎	〃	45—2
徳之島縄文貝塚調査報告一面縄第二貝塚と附近の貝塚一	三友国五郎 国分直一	古代学	31	環溝住居趾小論(4)	鏡山 猛	史 淵	78
縄文文化の起源の研究	江坂 輝弥	歴史教育	67	古代アイヌの堅穴住居址	駒井 和愛	考古学雑誌	44—3
縄文文化における特殊葬法	坂詰 秀一	〃	〃	佐倉市上座貝塚発見の住居址と炉穴	麻生 優	駿台史学	9
海進・海退期と縄文文化の展開一茨城県北部における一	志田 淳一	〃	〃	古墳とその文化	下津谷達男	歴史教育	67
熊本県阿蘇郡山西村布田出土の縄文式小児墓棺(資料紹介)	乙益重隆 坂田義広	考古学雑誌	45—2	古墳一研究書のいろいろ	村井 崑雄	国立博物館ニュース	144
下郷氏収集縄文式土器時代遺物について	望月 信成	大和文華	31	前方後円墳起原論について	網千 善教	龍谷史壇	45
縄文とペルシャ	郡山 三郎	中 美	12	前方後円墳に附設する周堀について	梅沢 重昭	考古学雑誌	45—3
信濃の押型文土器	藤沢 宗平	信 濃	11—1	石梁一後期古墳研究資料一	金谷 克己	上代文化	29
弥生式時代の住居と生産業	大西 正男	歴史教育	67	角田市鱸沼古墳	志岡 泰治	考古学雑誌	45—3
東日本弥生式文化の墓制	亀井 正道	〃	〃	千葉県東葛飾郡我孫子町白山古墳の発掘	吉田章一郎 甘粕 健	〃	44—4
群馬県上久保弥生式遺跡調査報告	山崎 義男	考古学雑誌	44—3	長野県須坂市鎧塚古墳の調査	永峰 光一 亀井 正道	〃	45—1
神奈川県小田原市町畑出土の弥生式土器に就いて	坂詰 秀一	上代文化	29	遠江国磐田市藤上古墳出土土器について	平野 和男	〃	45—3
石器よりみた信濃弥生式文化の模様	桐原 健	信 濃	11—12	佐賀県大和村小隈古墳調査報告	木下 之治	〃	44—3
長野県篠ノ井市伊勢宮遺跡の古式弥生式土器	磯崎 正彦	〃	11—6	王塚古墳を訪ねて	佐藤 進三	陶 説	78
北信長峰丘陵における弥生式遺跡	桐原 健	考古学雑誌	45—1	遠賀川遺跡出土の小孔石庖丁	中山平次郎	古代学	30
山陽地方における弥生時代の墓制	潮見 浩	古代学	31	ニッ釜遺跡の土器について(資料紹介)	中村 五郎	考古学雑誌	45—2
無紋系弥生式土器の陽飾	中山平次郎	〃	30	青森県上北郡六ヶ所村出土陶器	成田 秀治	〃	44—3
弥生式壺棺	末永 雅雄	大和文華	31	日本の先史上偶	八幡 一郎	ミュージアム	99
北海道根川・十兵衛沢・勝山館遺跡	松崎岩穂 渡辺兼庸	考古学雑誌	44—4	駿豆地方に於ける土偶と顔面把手	小野 真一	上代文化	29
天塩国豊富遺跡の発掘について	兒玉作左衛門 大場 利夫	北方文化研究報告	14	古墳石人の行方	原口 長之	東方古代研究	9
余市郡赤井川村曲川遺跡調査報告(第一報)	名取武光 松下 亘	〃	〃	埴輪	金谷 克己	歴史教育	67
				円筒埴輪に描かれた舟画の新例	堅田 直	考古学雑誌	45—2
				埴輪・鳥など	三木 文雄	ミュージアム	100
				壺により憑くもの	佐野 大和	国学院雑誌	60—11
				埴輪の真贋(鑑定講座)	松原 正業	三 彩	111

古代生産制の特色— 窯業遺跡研究の現状—	大川 清	歴史教育	67	慶州月城・大邱達城の 城壁下の遺跡について	有光 教一	朝鮮学報	14
古墳出土の陶器—研 究書のいろいろ—	増田 精一	国立博物 館ニュー ス	143	漢六朝墓制における 陵墓の周辺	光永 俊介	東方古代 研究	9
土師雑考	小出 義治	国学院雑 誌	60—11	インド考古学とブダ ガヤ発掘	樋口 隆康	仏教藝術	41
土師研究の成果	高島 正人	歴史教育	67	南方亜細亜古代学界 の展望(2)—スル フ・コタルの神殿—	葛野 豊	古代学	29
藤沢発見の土師器	寺田 兼方	上代文化	29	西方亜細亜古代学界 の展望(8)ジエム デット・ナスル文化	糸賀 昌昭	ミュー ジ アム	31
須恵器について	三木 文雄	ミュー ジ アム	103	第二回東大イラク・ イラン遺跡調査記	増田 精一	国立博物 館ニュー ス	149
埼玉県白鉄遺跡の須 恵器	大塚 初重 坂本 明美	駿台史学	9	タルクニア考古遊 記	藤田 国雄	ミュー ジ アム	102
銅鐸銅劍出土地附近 発見の勾玉(資料紹 介)	佐野 大和	考古学雑 誌	45—1	歴史関係・その他			
大珠と製玦状耳飾の 新例(資料紹介)	沢 四郎	ミュー ジ アム	45—3	日本人の起源	鈴木 尚	歴史教育	67
委奴国と金印の遺跡	榎本 杜人	ミュー ジ アム	45—3	日本文化の研究—そ の態度のあり方につ いての一試論—	浅子勝二郎	史 学	32—3
金印「漢王之印」と 「魏志」夫余伝にみえ る「蔵王之印」とにつ いて	栗原 朋信	古 代 学	29	我国に於ける所謂古 代年号に関する二、 三の問題	久保 常晴	立正大学 文学部論 叢	11
筑前須玖遺跡出土の 夔鳳鏡に就いて	梅原 末治	ミュー ジ アム	30	黎明期における九州 文化の性格	乙益 重隆	国学院雑 誌	60—11
京都国立博物館新収 品 球形骨蔵器につ いて	景山 春樹	陶 説	98	正倉院文書に見える 日唐関係の二、三	小野 勝年	ミュー ジ アム	103
増上寺二荒山の発掘 品の一部より	笹川 玉庭	立正史学	87	飛鳥仏教雑考	田村 円澄	史 淵	79
千葉県天南廟山祭祀 遺跡	坂詰 秀一	歴史教育	23	奈良時代に於ける尼 寺・尼僧に就いて	堀池 春峰	南都仏教	6
岸宮祭祀遺跡	金谷 克己	国学院雑 誌	72	熊野信仰の源流	加藤 隆久	甲南大学 文学会論 集	10
「沖の島—宗像神社 沖津宮祭祀遺跡—」 から見た古代祭祀遺 跡の意義	大場 磐雄	立教大学 文学部史 学科調査 報告	60—5	日宋交渉と南都浄土 教	岡 玄雄	仏教史学	8—1.2 合併
越後華厳寺中世墓址 群の調査—中世禪僧 墓制の考古学的研究 (1)—	中川 成夫 岡本 勇	考古学雑 誌	4	禪宗と天台宗との交 渉	関口 真大	大正大学 研究紀要	44
室町時代の円墳式火 葬墓—埼玉県入間郡 越生町上野—(資料 紹介)	大護 八郎	北山石不動とその信 仰(上)(下)	45—2	太子伝と思託伝のこ と	川勝政太郎	史迹と美 術	290.29 1
徳川霊廟の調査—六 代将軍家宣墓の調査—	矢島 恭介	善導大師管見(文学 的立場より)	44—4	弘法大師の生活と思 想—特に遍照発願性 靈集を中心として—	田中 重久	龍谷大学 論集	291
昭徳院徳川家茂の墓 調査	ミュー ジ アム	建礼門院伝の考証と 冠光院創始の推測 (上)(下)	98	安積親王の死とその 前後	藤野 立然	密教文化	360
戦後の朝鮮考古学の 発展—初期金属文化 期—	李 進 熙	秦河勝と播州大避社	45—1	北嵯峨と海事氏族 (上)(中)(下の 上)(下の 中)	中野 義照	史迹と美 術	45・46 合併
解放後朝鮮考古学の 発掘(続)—高句麗壁 画古墳の研究—	ミュー ジ アム	今井 啓一	45—3	北嵯峨と海事氏族 (上)(中)(下の 上)(下の 中)	田中 重久	史迹と美 術	295・29 6
朝鮮における有紋土 器の分布とその文化 の拡がりについて	三上 次男	朝鮮学報	14	北嵯峨と海事氏族 (上)(中)(下の 上)(下の 中)	横田 健一	南都仏教	6
					今井 啓一	史迹と美 術	292
					藪田嘉一郎	ミュー ジ アム	292—2 94・296

美術文献目録

晩秋の大和路	吉野 秀雄	大和文華	29
龍野市福田の笹山について	米谷 利夫	史迹と美術	297
武庫郡条星考	田岡 香逸	ス	295
伎楽の源流に遡る	小野 勝年	仏教藝術	39
宗珠と珠光茶秘書	永島福太郎	美術研究	202
「利休論はしがき」に答ふ	桑田 忠親	陶 説	73
由伽山の打懸札残片	多和 和彦	史迹と美術	291

鎌倉紙魚風土記(2)	松谷 文吾	鎌 倉	2
樺太アイヌの偶像	和田 完	北方文化研究報告	14
朝鮮における伎楽の末裔	野間 清六	ミュージアム	104
中国先秦時代の馬車	林 已奈夫	東方学報京都	29
中国民間における目述説話の性格	金岡 照光	仏教史学	7-4
チベット仏教の風土	芳村 修基	ス	ス

現代美術 単 行 図 書
西洋美術

総 説

美学<文庫クセジュ>	D・ユイス マン、久保 平治訳	白 水 社
美学 上	大西 克礼	弘 文 堂
藝術社会学叙説	貫 伝松	アサヒ書房
藝術とは何か(その本質的理解のために)	北条 元一	造形藝術研究会
藝術批評<文庫クセジュ>	A・リシャ ール、村松 剛訳	白 水 社
藝術の意味<みすず・ぶつ くす>	H・リード、 滝口修造訳	みすず書房
藝術とは何か<新潮文庫>	福田 恒存	新 潮 社
美学的空間(機能と実存と 組織の美学)<現代藝術論 叢書>	中井 正一	弘 文 堂
アリストテレスの藝術理論	竹内 敏雄	ス
抽象藝術	M・ブリヨ ン、滝口修 造・大岡信・ 東野芳明訳	紀伊国屋書房
点・線・面(抽象藝術の基礎)	カンディン スキー・西 田秀穂訳	美術出版社
見者の美学(アポリネール・ ダダ・シュルレアリスム) <現代藝術論叢書>	江原 順	弘 文 堂
ダダの冒険	G・ユニエ、 江原 順訳	美術出版社
私のダダ(戦後藝術の座標) <現代藝術論叢書>	江原 順	弘 文 堂
現代文化と性	H・シュマ イドラー・ 清水朝雄訳	荒地出版社
家元の研究	西山松之助	校 倉 書 房
黒い太陽	岡本 太郎	美術出版社
第十のミュージーズ	H・リード 宇佐見英治 安川定男訳	みすず書房

コミュニケーションの歴史 (洞窟画から現代漫画まで)	L・ホグベ ン、寿岳文 章・林達夫・ 平田寛・南 博訳	岩 波 書 店
世界史大系		
1. 先史時代	八幡一郎・ 石田英一郎 編	誠文堂新光社
4. ギリシャとローマ	村川堅太郎 編	ス
7. イスラーム	榎 一雄編	ス
15. ロシア革命とヴェル サイユ体制	江口朴郎編	ス
16. 全体主義・民主主義 の対立と第二次世界 大戦	中屋健一編	ス
図説世界文化史大系		
4. オリエントⅡ	前島信次 蒲生礼一編	角 川 書 房
7. ヨーロッパ中世	増田四郎、 柳 宗女編	ス
8. ルネサンス	松田智雄、 摩蔵善郎編	ス
9. ヨーロッパ近世	富永惣一、 紫田三千雄 編	ス
10. ヨーロッパ近代	村瀬興雄、 富永惣一編	ス
11. アメリカ大陸	石田英一郎 清水 博編	ス
12. 東欧・ロシア	梅田良忠、 岩間 徹編	ス
狭い谷・黒い山	C・W・ツ ェーラム、辻 堀訳	みすず書房
歴史はスモールに始まる	N・クレマ ー、佐藤頼 夫、植田重 雄訳	新 潮 社
原始美術論<三一新書>	木村 重信	三 一 書 房
古代文明の開花(人間と文 明の発見シリーズ)	H・キユー ン、角田文 衛訳	みすず書房

アンデスを越えて	産経新聞社 南米踏査班 編	角川書房	現代絵画〈文庫クセジュ〉	M・ジュー ル、末松正 樹・日向あ き子訳	白水社
アラウカーノ文化史	岡田 峻	北星堂書店	近代日本の画家たち	土方 定一	美術出版社
アメリカ大陸の古代文明 〈文庫クセジュ〉	アンリ・レ ーマン、川 田順造訳	白水社	近代の洋画人	河北倫明他	中央公論美術 出版
インカ帝国〈岩波新書〉	泉 靖一	岩波書店	絵画とその周辺	寺田 透著	弘文堂
失われた都市を求めて1・ 2(人と自然叢書)	D・G・ラ ム、黒沼健 訳	新潮社	現代の漫画〈現代教養文 庫〉	伊藤逸平編	社会思想研究 会出版部
大平洋の謎を探る	H・レイト、 富永斉訳	法政大学出版 部	日本の漫画家	伊藤逸平 編・著	産経新聞社
アク・アク(イースター島 の石像の秘密)上・下	トール・ヘ イエルダー ル、山田晃 訳	光文社	畦地梅太郎画集(限定版)	畦地梅太郎 O・スタ ラー解説	文元社
西洋美術史	大沢 武雄	造形藝術研究 会	石垣栄太郎	立石鉄臣編	刊行・石垣綾 子発売美術出 版社
世界美術の歴史	柳 亮	美術出版社	井上三綱画集	井上 三綱	美術出版社
西洋美術史要説	嘉門安雄編	吉川弘文館	山の画帖	茨木猪之吉	明文堂
北欧の美神〈角川新書〉	嘉門 安雄	角川書房	クロード・岡本	クロード・ 岡本	みすず書房
日本の美術〈現代教養文 庫〉	河北 倫明	社会思想研究 会出版部	版画	川上 澄生	東峰書院
美術における東西の出会い 〈日本文化研究3〉	山田智三郎	新潮社	絵と言葉	清川 泰次	美術出版社
日本人の生活空間〈日本文 化研究4〉	浜口 隆一	シ	風景画と随筆	小林 和作	シ
器用者の世界〈日本文化研 究6〉	河北 倫明	シ	画集・杉山寧	河北倫明、 中村溪男	三彩社
現代の美術〈現代教養文 庫〉	瀬木 慎一	社会思想研究 会出版部	海辺の熔岩(画文集)	曾宮 一念	創元社
現代社会の藝術〈三一書 房〉	シ	三一書房	風のように	竹久 夢二	龍星閣
現代藝術はどうなるか〈ミ リオン・ブックス〉	佐々木基一	講談社	吉田から岸へ	那須 良輔	毎日新聞社
美術の変革(藝術とその社 会的背景)〈三一新書〉	井手 則雄	三一書房	大阪繁盛記	鍋井 克之	布井書房
講座・現代藝術 7. 今日の藝術		勁草書房	歌舞伎のかつら	松田 青風	演劇出版社
西洋文学の日本発見	E・マイナ ー、村上至 孝・大浦幸 男訳	筑摩書房	動物園1	真鍋 博	書肆ユリイカ
キリスト(美術にみる生涯) 〈現代教養文庫〉	柳 宗玄	社会思想研究 会出版部	画集「原爆の図」	丸木位里・ 丸木俊子	虹書房
国立西洋美術館(松方コレ クション)〈現代教養文 庫〉	シ	シ	皆見鵬三画集ヒマラヤ画集	備後景会刊 山川勇一郎	山と溪谷社
現代の造形(ヨーロッパの 藝術家たち)	阿部 徹雄	毎日新聞社	山口蓬春自撰画集(日本画 自撰画集2)	山口 蓬春	日本美術新報 社
'60 美術年鑑		美術出版社	生々流転の研究	木村 重夫	近代美術研究 会
絵 画			大観印譜	横山大観画	清水澄編 美 術倶楽部出版 部
幻想画家論	滝口 修造	新潮社	横山大観伝	海老原喜之 助	茨城県編・刊
ヨーロッパの風俗画集〈風 俗の歴史〉別巻	フックス、 安田徳太郎 訳	光文社	現代作家デッサン・海老原 喜之助	海老原喜之 助	芸艸堂
			現代作家デッサン・小磯良 平	小磯 良平	シ
			現代作家デッサン・杉本健 吉	杉本 健吉	シ
			現代作家デッサン・東郷青 児	東郷 青児	シ
			現代作家デッサン・宮本三 郎	宮本 三郎	シ
			現代作家デッサン・向井潤 吉	向井 潤吉	シ

美術文献目録

高山辰雄(現代美術家シリーズ)	時の美術社編	時の美術社	現代彫刻の10人	日動画廊編 柳亮 解説	日動画廊
林武(現代美術家シリーズ)	林 武 菊地芳一郎 編・解説	ミ	私の履歴書第9集	朝倉文夫他	日本経済新聞社
図説・西洋絵画年表	三輪福松編	誠文堂新光社	思い出と人々くみずず・ぶつくす	高田 博厚	みすず書房
世界名画全集		平凡社	高村光太郎研究	草野心平編	筑摩書房
4. イタリアルネサンスの開花		ミ	高村光太郎書	奥平 英雄 北川太一編	三玄社
5. イタリアルネサンスの展開		ミ	ミケランジェロ(小学生伝記全集1・2)	富永 二郎	あかね書房
9. イギリス・近代		ミ	ロダンの彫刻(別冊みづるNo. 24)		美術出版社
12. 印象派・スーラ・セザンヌ・ゴッホ・ゴーガン		ミ	ロダンの言葉<新潮文庫>	高村光太郎 訳・著	新潮社
13. ロートレック・ルドン・ドラクロワ	坂崎 坦	美術出版社	日曜木彫	牧田 正雄	池田書房
彼女らの肉体の黄金(小説 ゴーガン)	Ch. コーガン・浅田光彦訳	白水社	工 藝 ・ デ ザ イ ン		
ファン・ゴッホ	読売新聞社編	読売新聞社	工藝概論	西田 虎一	共立出版KK
ストリンドベルクとファン・ゴッホ (芸術家の病誌シリーズ3)	K. ヤス バース 村上 仁訳	みすず書房	工藝概論	前田 泰次	東京堂
ゴヤ(小説)	フォイト ヴァンガー 坂崎乙郎訳	美術出版社	デザイン盗用	高田 忠	日本発明新聞社
ロートレック(限定版)	式場隆三郎	日本書房	百万人のデザイン	Nドレフェ 勝見 勝訳	ダビッド社
ロートレック(現代伝記全集30)	ミ	ミ	近代デザイン感覚入門	大智 浩	春秋社
ミレー(岩波文庫)	R・ロラン 蛸原徳夫訳	岩波書店	今日の人形	近代人形美術会編	日本経済新聞社
ブラック(紀伊国屋アート ギャラリー)	F・エルガー	紀伊国屋書店	河合卯之助陶器集		美術出版社
セザンヌ(紀伊国屋アート ギャラリー)	J・リウオルド	ミ	日本の紙(東日本)	後藤 清郎	ミ
クレイ(現代美術7)	片山 敏考	みすず書房	西洋被服文化史	元井 能	光生館
ロートレック(紀伊国屋アート・ギャラリー)	E・ジュリアン	紀伊国屋書店	ポール・ランド作品集 (デザイン)	亀倉雄策編	造形社
モンドリアン(紀伊国屋アート・ギャラリー)	M・スーフ オール	ミ	59年鑑広告美術		美術出版社
版画(日本のくらしの絵)	小野 忠重	ダヴィット社	現代色彩講座(全5巻)		修道社
いろいろな版画的作り方 (図解模型工作文庫)	森 田 久	誠文堂新光社	1. 工業と色彩		
油絵のファクテュール	寺田 春式	ダヴィッド社	2. 商業と色彩		
技法問答	美術出版社編	美術出版社	3. 生活と色彩		
スケッチの技法	田村孝之助	ミ	4. 服飾美容と色彩		
人物の描き方	宮本 三郎	ミ	5. 藝術と色彩		
日本画の技法	美術出版社編	ミ	草木染百色鑑	山崎 斌	鎌倉・月明会
墨絵の描き方	渡辺 聖空	鳳山社	こけしガイド	土橋 慶三	美術出版社
日曜俳画	内山 雨海	池田書店	中国の図案	庵原 謐編	朝日新聞社
彫 塑			中国の民間工藝	能智 修弥	毎日新聞社
現代彫刻入門	井手 則雄	造形藝術研究会	建 築		
			建築(百万人の藝術)	T. ハムリン、西沢龍 生訳	彰 国 社
			現代の都市	S. リー マー、磯村・奥田訳	誠信書房

美術文献目録

裏からみた現代住宅	B. ルドフスキー、小池新二・村山清訳	彰 国 社	感想	小林 秀雄	創 元 社
続・モデュロール	ル・コルビュジェ、吉阪隆正訳	美術出版社	私の小便小僧たち	吉田小五都	コスモポリタン社
日本の現代建築（その成立過程）	稲垣 栄三	丸 善	藝術による教育	H・リード、植村鷹千代、水沢孝訳（改訂訳）	美術出版社
郵政省の建築	田中 孝編	日刊建設通信社	創造的発達論（成長のための図工科教育）	竹内 清	黎明書房
茶室の造形美をさぐる	龍居、木村	新 樹 社	児童画の評価	竹野谷仁重	造形藝術研究会
民家（今和次郎先生古稀記念文集）	今和次郎、竹内芳太郎編	相模書房	私はこの絵を選ぶ（児童画評価シリーズ）	小磯良平他	黎明書房
日本の民家	写真、二川幸夫、文、伊藤ていじ	美術出版社	形の工夫・たのしい工作	高橋 春雄	泰 光 堂
民家の庭	写真、入江泰吉、文、西村貞	シ	現場の図画工作科	阿部広司編	東洋館出版社
日本の庭園	吉村 徹	朝倉書房	農村の図画工作（現場の共同研究7）	熊本高工、堀内孝恵編	明治図書出版
石の造形	北尾 春道	彰 国 社	絵にみる子どもの心理	霜田 静志	東 都 書 房
石にたずねる	沢野井信夫	大阪創元社	幼児の絵画製法 12 ヶ月		黎明書房
職人・一建築家の回想	竹田 米吉	工 作 社	幼児期の工作は生活している		シ
建築の誕生（メソポタミアにおける古拙建築の成立と展開）	小林 文次	相模書房	幼児の絵（増訂版）	岡田 清編	創 元 社
ヨーロッパの風物と建築	徳永 正三	弥生書房	思春期の美術（子供の美術から大人の美術へ）	W・ジョンストン、周郷博、熊谷泰子訳	黎明書房
ヨーロッパの生活と建築	シ	美術出版社	ゴンクール日記 1	大西克和訳	角 川 書 店
ヨーロッパの劇場	佐藤 武夫	相模書房	サド復活＜現代藝術論叢書＞	沢沢 龍彦	弘 文 堂
世界建築全集		平凡社	アポリネール全集	鈴木信太郎、渡辺一民訳	紀伊国屋書店
6. 西洋・古代	森田慶一編		バリ物語	河盛 好蔵	角 川 書 店
14. 現代5住宅とアパート	浜口隆一、神代雄一郎編		敦煌紀行	北川 桃雄	小山書店新社
美術随筆・教育・紀行その他			未開の顔・文明の顔	中根 千枝	中央公論社
日本のアウトサイダー	河上徹太郎	中央公論社	飢えと光り（中近東歴史紀行）	J・ハックスレー、古川安二郎訳	新 潮 社
調和の感覚	谷川 徹三	シ	色彩の秘密＜文庫クセジュ＞	ボル他著、稲村耕雄訳	白 水 社

東洋古美術単行図書

総説・総録			法隆寺献納宝物図録	東京国立博物館編	東京国立博物館
日本美術史	吉沢 忠	造 形 社	東京国立博物館名品百選	シ	シ
日本美術史入門	森 暢	創 元 社	光悦の藝術	平木 清光	光悦刊行会
日本美術全史 上巻		美術出版社	修学院離宮（朝日写真ブック）		朝日新聞社
日本美術大系 II 彫刻		講 談 社	金閣・銀閣（シ）		シ
シ V 近世絵画		シ	日本の寺		美術出版社
近江古美術大観 1～10	同刊行会編	山本湖舟写真工芸部	中尊寺、平等院、浄瑠璃寺、薬師寺 西芳寺・龍安寺		
国宝図録 5	文化財保護委員会編	文化財保護委員会	中尊寺	石田茂作監修	朝日新聞社

美術文献目録

東大寺と国分寺	石田 茂作	至 文 堂
鳳凰堂図譜 壁画篇、建築彩色篇	文化財保護委員会編	文化財保護委員会
山形県文化財調査報告書 9		山形県教育委員会
山形県指定文化財図録 1		本間 美術館
福島県文化財調査報告書 7		福島県教育委員会
東京都文化財調査報告書 7		東京都教育委員会
神奈川県文化財調査報告書 25		神奈川県教育委員会
文化財のしおり		大阪府教育委員会
山口県文化財概要 3		山口県教育委員会
徳島県文化財調査報告書 3		徳島県教育委員会
高知県文化財調査報告書 10		高知県教育委員会
福岡県文化財調査報告 19		福岡県教育委員会
大分県の文化財 2		大分県教育委員会
朝鮮古文化綜鑑 3	梅原 末治 藤田 亮策	養 徳 社
隋唐の美術	京都国立博物館編	便 利 堂

絵 画

世界名画全集		平 凡 社
16. 西域・インド・イスラム		
21. 日本装飾画—永徳から宗達・光琳		
22. 日本浮世絵の世界		
日本の絵画	中村 溪男	社会思想研究会
樹下美人	志賀 直哉	河 出 書 房
醍醐寺五重塔の壁画	高田 修編	吉川弘文館
絵巻の世界	奥平 英雄	創 元 社
日本絵巻物全集		角 川 書 店
3 鳥獣戯画, 7 華嚴縁起, 8 北野天神縁起		
墨絵の美	中村 溪男	明 治 書 房
桑山玉州	松下 英麿	中央公論社
池大雅画譜 23~28		シ
琳派秀作集	日本経済新聞社編	日本経済新聞社
光琳	田中一松編	シ
浮世絵	近藤市太郎	至 文 堂
浮世絵	菊地 貞夫	社会思想研究会
浮世絵談義	吉田 映二	東西五月社
江の島の錦絵(鎌倉国宝館論集3)	橋崎 宗重	鎌倉市教育委員会・鎌倉国宝館

松浦屏風	矢代 幸雄	美術出版社
歌麿(原色版美術ライブラリ-116)	山口 逢春	みすず書房
北斎「富岳三十六景」	洪井 清蔵	
	浜村 米蔵	
	C. S. テーリ	文 元 社

書 跡

書道全集		平 凡 社
3 中国Ⅲ、22 日本Ⅱ		
書道名品大系		書 藝 文 化 院
2 の 6、続の 1、11		
日本名筆全集		シ
3 の 1、4、5、7、9、10		
中国書法の二大潮流(東方文化講座 13)	神田喜一郎	ハーバート・燕京・同志社東方文化講座委員会

彫 刻

日本の彫刻	久野 健	吉川弘文館
仏像ガイド		美術出版社
薬師寺国宝薬師三尊等修理工事報告書		薬師寺修理委員会
庚申塔の研究	清水 長輝	大 日 洞

建 築

重文八幡宮本殿修理工事報告書		同修理委員会
国宝・重文苗村神社東西本殿修理工事報告書		滋賀県教育委員会
重文雲峯寺庫裡修理工事報告書		同修理委員会
国宝園城寺勸学院客殿・重文毘沙門堂修理工事報告書		滋賀県教育委員会
重文妙心寺大方丈修理工事報告書		京都府教育庁
興福寺食堂発掘調査報告(奈良国立文化財研究所学報 7)		奈良国立文化財研究所
重文円教寺金剛堂修理工事報告書		同修理委員会
重文屋島寺本堂修理工事報告書		同修理委員会
重文丈六寺三門・観音堂・本堂修理工事報告書		同修理委員会
重文竜岩寺奥院礼堂修理工事報告書		同修理委員会
日本の城	井上宗和編	日本城郭協会
日本の名城	文化財調査会編	人物往来社
日本の城と歴史	藤沢 衛彦	報 道 社
城郭の歴史	鳥羽 正雄	雄 山 閣
重文高知城修理工事報告書第二期、第三期		高知県教育委員会

桂離宮一島田貫一郎写真集
日本の民家
北陸路、西海路、京・山城
中世庭園文化史（奈良国立文化財研究所学報 6）

岩波書店
美術出版社

日本の土偶

滝口修造
野口善磨
田枝幹宏
紀伊国屋書店
東洋文化研究所
江上波夫編

テル・サラサート I

歴史・其他

世界史大系
1 先史時代、4 ギリシャとローマ、6 印度東南アジア、7 イスラーム、15 ロシア革命とヴェルサイユ体制、16 全体主義民主主義の対立と第二次世界大戦

誠文堂新光社

世界文化史大系
4 オリエンタルⅡ、8 ルネサンス、9 ヨーロッパ近代、10 ヨーロッパ近代、11 アメリカ大陸、12 東欧ロシア、16 中国Ⅱ、17 中国Ⅲ、19 朝鮮・東北アジア、21 日本Ⅱ、22 日本Ⅲ、23 日本Ⅳ

角川書店

日本の歴史 1～10

読売新聞社

日本文化史

家永 三郎

岩波書店

日本文化史講座 1、5、6

明治書院

日本文化研究 2～7

新潮社

日蘭文化交渉史の研究

板沢 武雄

吉川弘文館

日本歴史大辞典 14～18

河出書房

日本古代人名辞典 2

吉川弘文館

大日本史料
3—15、6—32、8—22
11—11、別巻1、12—40

史料編纂所
編

東大出版会

大日本古文書
東福寺文書3、幕末外国
関係文書29、東寺文書6

〃

〃

大日本古記録
小右記1、言経卿記1、
梅津政景日記5

〃

岩波書店

大日本近世史料
諸問屋再興調2、市中取
締類集1

〃

東大出版会

大日本維新史料
井伊家史料1

〃

〃

国史大系59 尊卑分脈2

古川弘文館

実隆公記10、11

続群書類完成会

隔其記2
鎌倉市史 総説篇、社寺篇
考古篇

赤松俊秀校
鎌倉市史編
纂委員会編

鹿苑寺
鎌倉市

西宮市史1
アジア歴史事典1、2

西宮市役所

西宮市役所

昭和32年度東洋史研究文献
類目

〃

平凡社

西域文化研究2

西域文化研
究会編

京大人文科学
研究所

漢字の形と文化（東方文化
講座14）

平岡 武夫

法蔵館

ハーバード・燕京・同志社
東方文化講座
委員会

〃

〃

工 藝

工藝概論

西田 虎一

共立出版株式
会社
平 凡 社

陶器全集

2 上代の壺

田中作太郎

4 志野

荒川 豊蔵

5 織部

加藤土師蒨

12 唐宋の白磁

小林太市郎

15 古染付

斎藤菊太郎

やきもの談義

永竹 威

五 月 書 房
社会思想研究
会

日本の陶磁器

林屋 晴三

古伊万里

古伊万里調
査委員会編

金 華 堂

古伊万里染付図譜

瀬良陽介編

平安堂書店

唐物茶碗

千 宗興

淡 交 新 社

日本染織文様集Ⅰ、Ⅱ

小杉 一雄

日本纖維意匠
センター
新 樹 社

中国文様史の研究

水野 清一

日本経済新聞
社

殷周青銅器と玉

梅原末治編

山 中 商 会

日本蒐儲支那古銅精華1

考 古 学

考古学の研究法

斎藤 忠

吉川弘文館

図解考古学辞典

小林 行雄
水野 清一

創 元 社

日本考古学年報 8

日本考古学
協会編

誠文堂新光社

埋蔵文化財要覧 2

文化財保護
委員会編

吉川弘文館

名神高速道路路線地域内埋
蔵文化財調査報告

三田史学会

京都府教育委
員会

亀ヶ岡遺跡

小林 行雄

有 隣 堂 出 版

古墳の話

大場 磐雄

岩 波 書 店

松戸河原塚古墳

小出 義治

国学院大学
大場研究室

吉原市の古墳

吉原市教育委
員会

福井市教育委
員会

足羽山の古墳

京大考古学
研究室編

和歌山市教育
委員会

大谷古墳

網干 善教
秋山日出雄

橿原考古学研
究所

室大墓

西谷 真治
鎌木 義昌

倉敷考古館

金蔵山古墳

神林 淳雄

国学院大学考
古学資料室

土の文化

便 覧

- 美術関係法規は当年鑑の体裁上、横組にくみなおしたことをことわ
つておく。従つて数字も算用数字を用いた。

最近、電話局の新設、編成替え等が多く、記載電話の局名、番号に
変動があることと思います。御了承下さい。

(昭和 35 年 11 月現在)

美術関係法規

文化財保護法(昭和25年5月30日 法律第214号)

沿革 昭和26年12月24日法律第318号、27年7月31日第272号、28年8月10日第194号、15日第213号、29年5月29日第131号、31年6月12日第148号、30日第163号、33年4月25日第86号、34年4月20日第148号改正

文化財保護法をここに公布する。

文化財保護法

目次

第1章 総則(第1条—第4条)

第2章 文化財保護委員会

第1節 総則(第5条—第15条)

第2節 事務局(第16条—第19条)

第3節 附属機関及び事務局出張所(第20条—第24条)

第4節 職員(第25条—第26条)

第3章 有形文化財

第1節 重要文化財(第27条—第56条)

第1款 指定(第27条—第29条)

第2款 管理(第30条—第34条)

第3款 保護(第34条の2—第47条)

第4款 公開(第47条の2—第53条)

第5款 調査(第54条—第55条)

第6款 雑則(第56条)

第2節 重要文化財以外の有形文化財(第56条の2)

第3章の2 無形文化財(第56条の3—第56条の9)

第3章の3 民俗資料(第56条の10—第56条の18)

第4章 埋蔵文化財(第57条—第68条)

第5章 史跡名勝天然記念物(第69条—第84条)

第6章 補則

第1節 聴聞及び異議の申立(第85条—第85条の9)

第2節 国に関する特例(第86条—第97条)

第3節 地方公共団体及び教育委員会(第98条—第105条)

第7章 罰則(第106条—第112条)

附 則(第113条—第130条)

第1章 総 則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。

(文化財の定義)

第2条 この法律で「文化財」とは、左に掲げるものをいう。

一 建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的所産でわが国にとつて歴史上又は藝術上価値の高いもの及び考古資料(以下「有形文化財」という。)

二 演劇、音楽、工芸技術その他の無形の文化的所産でわが国にとつて歴史上又は藝術上価値の高いもの(以下「無形文化財」という。)

三 衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習及びこれに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件でわが国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの(以下「民俗資料」という。)

四 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡でわが国にとつて歴史上又は学術上価値の高いもの庭園、橋りょう、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地でわが国にとつて藝術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む。)、植物(自生地を含む。))及び地質鉱物(特異な自然の現象の生じている土地を含む。))でわが国にとつて学術上価値の高いもの(以下「記念物」という。)

2 この法律の規定(第21条第2項第1号、第27条から第29条まで、第37条、第56条、第1項第4号、第88条、第94条及び第115条の規定を除く。)中「重要文化財」には、国宝を含むものとする。

3 この法律の規定(第21条第2項第15号及び第16号第69条、第70条、第71条、第77条、第83条第1項第4号、第88条並びに第94条の規定を除く。)中「史跡名勝天然記念物」には、特別史跡名勝天然記念物を含むものとする。

(政府及び地方公共団体の任務)

第3条 政府及び地方公共団体は、文化財がわが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、且つ、将来の文化の向上発展の基礎をなすものであることを認識し、その保存が適切に行われるように、周到の注意をもつてこの法律の趣旨の徹底に努めなければならない。

(国民、所有者等の心構)

第4条 一般国民は、政府及び地方公共団体がこの法律の目的を達成するために行う措置に誠実に協力しなければならない。

2 文化財の所有者その他の関係者は、文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、できるだけこれを公開する等その文化的活用にも努めなければならない。

3 政府及び地方公共団体は、この法律の執行に当つて

美術関係法規

関係者の所有権その他の財産権を尊重しなければならない。

第2章 文化財保護委員会

第1節 総 則

(設置)

第5条 国家行政組織法(昭和23年法律第120号)第3条第2項の規定に基づいて、文部省の外局として、文化財保護委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2 委員会の委員は、独立してその職権を行う。

(任務)

第6条 委員会は、文化財の保存及び活用、文化財に関する調査研究その他第1条の目的を達成するため必要な事務を行うことを任務とする。

(権限)

第7条 委員会は、その所掌事務を遂行するため、左に掲げる権限を有する。但し、その権限の行使は、法律(これに基く命令を含む。)に従つてなされなければならない。

- 一 予算の範囲内で、所掌事務の遂行に必要な支出負担行為をすること。
- 二 収入金を徴収し、所掌事務の遂行に必要な支払をすること。
- 三 所掌事務の遂行に直接必要な事務所等の施設を設置し、及び管理すること。
- 四 所掌事務の遂行に直接必要な業務用資材、図書その他研究用資材、事務用品等を調達すること。
- 五 職員の任免及び賞罰を行い、その他職員の人事を管理すること。
- 六 職員の厚生及び保健のため必要な施設をなし、及び管理すること。
- 七 所掌事務の監察を行い、法令の定めるところに従い、必要な措置をとること。
- 八 所掌事務の周知宣伝を行うこと。
- 九 委員会の公印を制定すること。
- 十 広く利用に供する適当な記録を整備すること。
- 十一 所掌事務に係る公益法人について許可若しくは認可を与え、又はその許可を取り消すこと。
- 十二 所掌事務に関する国庫支出金を割り当て、配分すること。
- 十三 所掌事務に関する物資の確保について援助すること。
- 十四 所掌事務に関する統計調査の資料及び結果を収集し、解釈し、及び刊行頒布すること。
- 十五 所掌事務に関する国家的又は国際的関心のある題目について会議、研究会、討論会等を主催すること。
- 十六 文化財の保護に関する法令案を作成すること。
- 十七 前各号に掲げるものの外、法律(これに基く命令を含む。)に基き委員会に属せしめられた権限。

2 委員会は、その権限の行使に当つて、法律(法律に

基く命令を含む。)に別段の定がある場合を除いては、行政上及び運営上の監督を行わないものとする。

(構成)

第8条 委員会は、5人の委員をもつて組織する。

(委員の任命及び欠格事由)

第9条 委員は、文化に関し高い識見を有する者のうちから両議院の同意を経て、文部大臣が任命する。

2 左の各号の一に該当する者は、委員となることができない。

一 禁治産者若しくは準禁治産者又は破産者で復権を得ない者

二 禁こ以上の刑に処せられた者

3 委員は、そのうち3人以上が同一政党に属する者となることとなつてはならない。

4 委員(委員長である委員を除く。)は、非常勤とする。

(委員の任期)

第10条 委員の任期は、3年とする。但し、補欠の委員は、前任者の残任期間在任する。

2 委員は、再任されることができる。

3 第1項の規定にかかわらず委員は、国会の閉会又は衆議院の解散の場合に任期が満了したときは、その後最初に召集された国会において両議院の同意を経て文部文臣が委員を任命するまでの間、なお在任するものとする。

(委員の失職及び罷免)

第11条 委員は、第9条第2項各号の一に該当するに至つた場合及び既に委員中二人が所属している政党にあらたに所属するに至つた場合においては、その職を失う。

2 文部大臣は、委員が心身の故障のため職務の執行ができないと認める場合又は委員に職務上の業務違反その他委員たるに適しない行為があると認める場合においては、両議院の同意を経て、これを罷免することができる。

3 文部大臣は、両議院の同意を経て、左に掲げる委員を罷免する。

一 委員中何人も所属していなかつた一の政党にあらたに3人以上の委員が所属するに至つた場合、これらの者のうち2人をこえる員数の委員

二 委員中1人が既に所属している政党にあらたに2人以上の委員が所属するに至つた場合、これらの者のうち1人をこえる員数の委員

4 両議院は、前項各号に規定する事実があると認めるときは、同項各号の規定により罷免すべき員数の委員の罷免の同意を与えるべきものとする。

5 国会の閉会又は衆議院の解散のため、第2項又は第3項の規定による罷免につき両議院の同意を経ることができないときは、その後最初に召集された国会において両議院の承認を得れば足りる。

(委員長)

第12条 委員会に委員長を置く。委員長は、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員会は、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときにその職務を代表する委員を、あらかじめ、定めて置かなければならない。

(委員の給与)

第13条 委員長及び委員は、別に法律の定めるところにより相当額の給与を受ける。

(委員長の兼職等の制限)

第13条の2 委員長は、在任中、文部大臣の許可のある場合を除くほか、報酬を得て他の職務に従事し、又は営利事業を営み、その他金銭上の利益を目的とする業務を行つてはならない。

(会議)

第14条 委員会は、委員長が招集する。2人以上の委員から請求があるときは、委員長は、委員会を招集しなければならない。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(文化財保護委員会規則)

第15条 委員会は、法律(これに基く政令を含む。)で特に定める場合の外、その権限に属する事項を執行するため必要な手続について、文化財保護委員会規則(以下「委員会規則」という。)を定めることができる。

2 委員会規則は、官報で公布する。

第2節 事務局

(事務局)

第16条 委員会に、その所掌事務を遂行するため、国家行政組織法第7条第4項の規定に従い、事務局を置く。

第17条及び第18条 削除

(事務局長及び次長)

第19条 委員会の事務局に事務局長及び次長1人を置く。

2 事務局長は、委員長の指揮監督を受けて事務局の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

3 次長は、事務局長を助け、事務局の事務を整理する。

第3節 附属機関及び事務局出張所

(附属機関)

第20条 委員会の附属機関として、文化財専門審議会、国立博物館及び国立文化財研究所を置く。

(文化財専門審議会)

第21条 文化財専門審議会は、委員会の諮問に応じて文化財の保存及び活用に関する専門的及び技術的事項を調査審議し、且つ、これらの事項に関し必要と認める事項を委員会に建議する。

2 委員会は、左に掲げる事項については、あらかじめ

め、文化財専門審議会に諮問しなければならない。

一 国宝又は重要文化財の指定及びその指定の解除

二 重要文化財管理又は国宝の修理に関する命令

三 委員会による国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行

四 重要文化財の現状変更又は輸出の許可

五 重要文化財の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令

六 重要文化財の買取

七 重要無形文化財の指定及びその指定の解除

八 重要無形文化財の保持者の認定及びその認定の解除

九 重要無形文化財以外の無形文化財のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきものの選択

十 重要民俗資料の指定及びその指定の解除

十一 重要民俗資料の管理に関する命令

十二 重要民俗資料の買取

十三 無形の民俗資料のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきものの選択

十四 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行

十五 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の指定及びその指定の解除

十六 史跡名勝天然記念物の仮指定の解除

十七 史跡名勝天然記念物の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に関する命令

十八 委員会による特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、衰亡若しくは盗難の防止の措置の施行

十九 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可

二十 史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令

二十一 史跡名勝天然記念物の現状変更等を許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わない場合又は史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止に違反した場合の原状回復の命令

二十二 重要文化財の現状変更若しくは史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可又はその許可の取消の権限の都道府県の教育委員会への委任

3 委員会は、前項各号に掲げる事項の外、文化財の保存又は活用に関する専門的又は技術的事項で重要と認めるものについては、文化財専門審議会に諮問するものとする。

4 前3項の規定により所掌する事項を分掌させるため、文化財専門審議会に分科会を置く。

5 文化財専門審議会及びその分科会の組織及び所掌事務並びに専門委員、臨時専門委員その他の職員につい

美術関係法規

ては、他の法律(これに基く命令を含む。)に特別の定がある場合を除く外、政令で定める。

(国立博物館)

第22条 国立博物館は、有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれに関連する事業を行う。

2 国立博物館の名称及び位置は、左の通りとする。

名 称	位 置
東京国立博物館	東京都
京都国立博物館	京都市
奈良国立博物館	奈良市

3 国立博物館の内部組織は、委員会規則で定める。

(国立文化財研究所)

第23条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う。

2 国立文化財研究所の名称及び位置は、左の通りとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東京都
奈良国立文化財研究所	奈良市

3 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

4 国立文化財研究所及びその支所の内部組織は、委員会規則で定める。

(事務局出張所)

第24条 委員会は、その所掌事務の一部を分掌させるため、所要の地に事務局出張所を設置することができる。その名称、位置、所掌事務の範囲は、委員会規則で定める。

第4節 職員

(職員)

第25条 委員会に置かれる職員の任免、昇任、懲戒その他人事管理に関する事務については、国家公務員法(昭和22年法律第120号)及びその特例に関して規定する法律の定めるところによる。

(定員)

第26条 委員会に置かれる職員の定員は、別に法律で定める。

第3章 有形文化財

第1節 重要文化財

第1款 指定

(指定)

第27条 委員会は、有形文化財のうち重要なものを重要文化財に指定することができる。

2 委員会は、重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいなき国民の宝たるものを国宝に指定することができる。

(告示、通知及び指定書の交付)

第28条 前条の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該国宝又は重要文化財の所有者に通知してする。

2 前条の規定による指定は、前項の規定による官報の告示があつた日からその効力を生ずる。但し、当該国宝又は重要文化財の所有者に対しては、同項の規定による通知が当該所有者に到達した時からその効力を生ずる。

3 前条の規定による指定をしたときは、委員会は、当該国宝又は重要文化財の所有者に指定書を交付しなければならない。

4 指定書に記載すべき事項その他指定書に関し必要な事項は、委員会規則で定める。

5 第3項の規定により国宝の指定書の交付を受けたときは、所有者は30日以内に国宝に指定された重要文化財の指定書を委員会に返付しなければならない。

(解除)

第29条 国宝又は重要文化財が国宝又は重要文化財としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、国宝又は重要文化財の指定を解除することができる。

2 前項の規定による指定の解除は、その旨を官報で告示するとともに、当該国宝又は重要文化財の所有者に通知してする。

3 第1項の規定による指定の解除には、前条第2項の規定を準用する。

4 第2項の通知を受けたときは、所有者は、30日以内に指定書を委員会に返付しなければならない。

5 第1項の規定により国宝の指定を解除した場合において当該有形文化財につき重要文化財の指定を解除しないときは、委員会は、直ちに重要文化財の指定書を所有者に交付しなければならない。

第2款 管理

(管理方法の指示)

第30条 委員会は、重要文化財の所有者に対し、重要文化財の管理に関し必要な指示をすることができる。

(所有者の管理義務及び管理責任者)

第31条 重要文化財の所有者は、この法律並びにこれに基いて発する委員会規則及び委員会の指示に従い、重要文化財を管理しなければならない。

2 重要文化財の所有者は、特別の事情があるときは、適当な者をもつば自己に代り当該重要文化財の管理の責に任すべき者(以下この節及び第6章において「管理責任者」という。)に選任することができる。

3 前項の規定により管理責任者を選任したときは、重要文化財の所有者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、当該管理責任者と連署の上20日以内に委員会に届け出なければならない。管理責任者を解任した場合も同様とする。

- 4 管理責任者には、前条及び第1項の規定を準用する。

(所有者又は管理責任者の変更)

第32条 重要文化財の所有者が変更したときは、新所有者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、且つ、旧所有者に対し交付された指定書を添えて、20日以内に委員会に届け出なければならない。

- 2 重要文化財の所有者は、管理責任者を変更したときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、新管理責任者と連署の上20日以内に委員会に届け出なければならない。この場合には、前条第3項の規定は、適用しない。

- 3 重要文化財の所有者又は管理責任者は、その氏名若しくは名称又は住所を変更したときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、20日以内に委員会に届け出なければならない。氏名若しくは名称又は住所の変更が重要文化財の所有者に係るときは、届出の際指定書を添えなければならない。

(管理団体による管理)

第32条の2 重要文化財につき、所有者が判明しない場合又は所有者若しくは管理責任者による管理が著しく困難若しくは不相当であると明らかに認められる場合には、委員会は、適当な地方公共団体その他の法人を指定して、当該重要文化財の保存のため必要な管理(当該重要文化財の保存のため必要な施設、設備その他の物件で当該重要文化財の所有者の所有又は管理に属するものの管理を含む。)を行わせることができる。

- 2 前項の規定による指定をするには、委員会は、あらかじめ、当該重要文化財の所有者(所有者が判明しない場合を除く。)及び権原に基く占有者並びに指定しようとする地方公共団体その他の法人の同意を得なければならない。

- 3 第1項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、前項に規定する所有者、占有者及び地方公共団体その他の法人に通知してする。

- 4 第1項の規定による指定には、第28条第2項の規定を準用する。

- 5 重要文化財の所有者又は占有者は、正当な理由がなく、第1項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人(以下この節及び第6章において「管理団体」という。)が行う管理又はその管理のため必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避してはならない。

- 6 管理団体には、第30条及び第31条第1項の規定を準用する。

第32条の3 前条第1項に規定する事由が消滅した場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、管理団体の指定を解除することができる。

- 2 前項の規定による解除には、前条第3項及び第28条第2項の規定を準用する。

第32条の4 管理団体が行う管理に要する費用は、この法律に特別の定のある場合を除いて、管理団体の負担とする。

- 2 前項の規定は、管理団体と所有者との協議により、管理団体が行う管理により所有者の受ける利益の限度において、管理に要する費用の一部を所有者の負担とすることを妨げるものではない。

(滅失、き損等)

第33条 重要文化財の全部又は一部が滅失し、若しくはき損し、又はこれを亡失し、若しくは盗み取られたときは、所有者(管理責任者又は管理団体がある場合は、その者)は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、その事実を知った日から10日以内に委員会に届け出なければならない。

(所在の変更)

第34条 重要文化財の所在の場所を変更しようとするときは、重要文化財の所有者(管理責任者又は管理団体がある場合は、その者)は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、且つ、指定書を添えて、所在の場所を変更しようとする日の20日前までに委員会に届け出なければならない。但し、委員会規則の定める場合には、届出を要せず、若しくは届出の際指定書の添付を要せず、又は委員会規則の定めるところにより所在の場所を変更した後届け出ることをもつて足りる。

第3款 保護

(修理)

第34条の2 重要文化財の修理は、所有者が行うものとする。但し、管理団体がある場合は、管理団体が行うものとする。

(管理団体による修理)

第34条の3 管理団体が修理を行う場合は、管理団体はあらかじめ、その修理の方法及び時期について当該重要文化財の所有者(所有者が判明しない場合を除く。)及び権原に基く占有者の意見を聞かなければならない。

- 2 管理団体が修理を行う場合には、第32条の2第5項第32条の4の規定を準用する。

(管理又は修理の補助)

第35条 重要文化財の管理又は修理につき多額の経費を要し、重要文化財の所有者又は管理団体がその負担に堪えない場合その他特別の事情がある場合には、政府は、その経費の一部に充てさせるため、重要文化財の所有者又は管理団体に対し補助金を交付することができる。

- 2 前項の補助金を交付する場合には、委員会は、その補助の条件として管理又は修理に関し必要な事項を指示することができる。

- 3 委員会は、必要があると認めるときは、第1項の補助金を交付する重要文化財の管理又は修理について指揮監督することができる。

(管理に関する命令又は勧告)

第36条 重要文化財を管理する者が不適任なため又は管理が適当でないため重要文化財が滅失し、き損し、又は盗み取られる虞があると認めるときは、委員会は、所有者、管理責任者又は管理団体に対し、重要文化財の管理をする者の選任又は変更、管理方法の改善、防火施設その他保存施設の設置その他管理に関し必要な措置を命じ、又は勧告することができる。

- 2 前項の規定による命令又は勧告に基いてする措置のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、その全部又は一部を国庫の負担とすることができる。

- 3 前項の規定により国庫が費用の全部又は一部を負担する場合には、前条第3項の規定を準用する。

(修理に関する命令又は勧告)

第37条 委員会は、国宝がき損している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、所有者又は管理団体に対し、その修理について必要な命令又は勧告をすることができる。

- 2 委員会は、国宝以外の重要文化財がき損している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、所有者又は管理団体に対し、その修理について必要な勧告をすることができる。

- 3 第2項規定による命令又は勧告に基いてする修理のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、その全部又は一部を国庫の負担とすることができる。

- 4 前項の規定により国庫が費用の全部又は一部を負担する場合には、第35条第3項の規定を準用する。

(委員会による国宝の修理等の施行)

第38条 委員会は、左の各号の一に該当する場合においては、国宝につき自ら修理を行い、又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置をすることができる。

- 一 所有者、管理責任者又は管理団体が前2条の規定による命令に従わないとき。

- 二 国宝がき損している場合又は滅失し、き損し、若しくは盗み取られる虞がある場合において、所有者、管理責任者又は管理団体に修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置をさせることが適当でないとき。

- 2 前項の規定による修理又は措置をしようとするときは、委員会は、あらかじめ、所有者、管理責任者又は管理団体に対し、当該国宝の名称、修理又は措置の内容、着手の時期その他必要と認める事項を記載した令書を交付するとともに、権原に基づく占有者にこれらの事項を通知しなければならない。

第39条 委員会は、前条第1項の規定による修理又は措置をするときは、その職員のうちから、当該修理又は措置の施行及び当該国宝の管理の責に任ずべき者を定めなければならない。

- 2 前項の規定により責に任ずべき者と定められた者は、当該修理又は措置の施行に当たるときは、その身分を証明する証票を携帯し、関係者の請求があつたときは、これを示し、且つ、その正当な意見を十分に尊重しなければならない。

- 3 前条第1項の規定による修理又は措置の施行には、第32条の2第5項の規定を準用する。

第40条 第38条第1項の規定による修理又は措置のために要する費用は、国庫の負担とする。

- 2 委員会は、委員会規則の定めるところにより、第38条第1項の規定による修理又は措置のために要した費用の一部を所有者(管理団体がある場合は、その者)から徴収することができる。但し、同条第1項第二号の場合には、修理又は措置を要するに至つた事由が所有者、管理責任者若しくは管理団体の責に帰すべきとき、又は所有者若しくは管理団体がその費用の一部を負担する能力があるときに限る。

- 3 前項の規定による徴収については、行政代執行法(昭和23年法律第43号)第5条から第7条までの規定を準用する。

第41条 第38条第1項の規定による修理又は措置によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

- 2 前項の規定による補償額に不服のある者は、訴をもつてその増額を請求することができる。但し、前項の補償の決定の通知を受えた日から6箇月を経過したときは、この限りでない。

(補助等に係る重要文化財譲渡の場合の納付金)

第42条 国が修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置(以下この条において、「修理等」という。)につき第35条第1項の規定により補助金を交付し、又は第36条第2項、第37条第3項若しくは第40条第1項の規定により費用を負担した重要文化財のその当時における所有者又はその相続人、受遺者若しくは受贈者(第2次以下の相続人、受遺者又は受贈者を含む。)(以下この条において同じ。)(以下この条において、「所有者等」という。)は、補助又は費用負担に係る修理等が行われた後当該重要文化財を有償で譲り渡した場合においては、当該補助金又は負担金の額(第40条第1項の規定による負担金については、同条第2項の規定により所有者から徴収した部分を控除した額をいう。以下この条において同じ。)の合計額から当該修理等が行われた後重要文化財の修理等のため自己の費した金額を控除して得た金額(以下この条において、「納付金額」という。)を、委員会規則の定めるところにより国

庫に納付しなければならない。

- 2 前項に規定する「補助金又は負担金の額」とは、補助金又は負担金の額を、補助又は費用負担に係る修理等を施した重要文化財又はその部分につき委員会が個別的に定める耐用年数で除して得た金額に、更に当該耐用年数から修理等を行つた時以後重要文化財の譲渡の時までの年数を控除した残余の年数（1年に満たない部分があるときは、これを切り捨てる。）を乗じて得た金額に相当する金額とする。
- 3 補助又は費用負担に係る修理等が行われた後、当該重要文化財が所有者等の責に帰することのできない事由により著しくその価値を減じた場合又は当該重要文化財を国に譲り渡した場合には、委員会は、納付金額の全部又は一部の納付を免除することができる。
- 4 委員会の指定する期限までに納付金額を完納しないときは、国税滞納処分の例により、これを徴取することができる。この場合における徴収金の先取特権の順位は、国税及び地方税に次ぐものとする。
- 5 納付金額を納付する者が相続人、受遺者又は受贈者であるときは、第1号に定める相続税額又は贈与税額と第2号に定める額との差額に相当する金額を第3号に定める年数で除して得た金額に第4号に定める年数を乗じて得た金額をその者が納付すべき金額から控除するものとする。
 - 一 当該重要文化財の取得につきその者が納付した、又は納付すべき相続税額又は贈与税額。
 - 二 前号の相続税額又は贈与税額の計算の基礎となつた課税価格に算入された当該重要文化財又は納付すべき相続税はその部分につき当該相続、遺贈又は贈与の時までに行つた修理等に係る第1項の補助金又は負担金の額の合計額を当該課税価格から控除して得た金額を課税価格として計算した場合に当該重要文化財又はその部分につき納付すべきこととなる相続税額又は贈与税額に相当する額。
- 三 第2項の規定により当該重要文化財又はその部分につき委員会が定めた耐用年数から当該重要文化財又はその部分の修理等を行つた時以後当該重要文化財の相続、遺贈又は贈与の時までの年数を控除した残余の年数（1年に満たない部分があるときは、これを切り捨てる。）
- 四 第2項に規定する当該重要文化財又はその部分についての残余の耐用年数
- 6 前項第二号に掲げる第1項の補助金又は負担金の額については、第2項の規定を準用する。この場合において、同項中「譲渡の時」と時とあるのは、「相続、遺贈又は贈与の時」と読み替えるものとする。
- 7 第1項の規定により納付金額を納付する者の同項に規定する譲渡に係る所得税法(昭和22年法律第27号)第9条第八号に規定する譲渡所得の計算については、

第1項の規定により納付する金額は、同法第9条第八号に規定する譲渡に関する経費とする。

(現状変更の制限)

- 第43条 重要文化財の現状を変更しようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、その維持の措置をする場合は、この限りでない。
- 2 前項但書に規定する維持の措置の範囲は、委員会規則で定める。
- 3 委員会は、第1項の許可を与える場合において、その許可の条件として同項の現行の変更に関し必要な指示をすることができる。
- 4 第1項の許可を受けた者が前項の許可の条件に従わなかつたときは、委員会は、許可に係る現状の変更の停止を命じ、又は許可を取り消すことができる。

(修理の届出等)

- 第43条の2 重要文化財を修理しようとするときは、所有者又は管理団体は、修理に着手しようとする日の30日前までに、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。但し、前条第1項の規定により許可を受けなければならない場合その他委員会規則の定める場合は、この限りでない。
- 2 重要文化財の保護上必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る重要文化財の修理に関し技術的な指導と助言を与えることができる。

(輸出の禁止)

- 第44条 重要文化財は、輸出してはならない。但し、委員会が文化の国際的交流その他の事由により特に必要と認めて許可した場合は、この限りでない。

(環境保全)

- 第45条 委員会は、重要文化財の保存のため必要があると認めるときは、地域を定めて一定の行為を制限し、若しくは禁止し、又は必要な施設をすることを命ずることができる。
- 2 前項の規定による処分によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。
- 3 前項の場合には、第41条第2項の規定を準用する。

(国に対する売渡の申出)

- 第46条 重要文化財を有償で譲り渡そうとする者は、譲渡の相手方、予定対価の額（予定対価が金銭以外のものであるときは、これを時価を基準として金銭に見積つた額。以下同じ。）その他委員会規則で定める事項を記載した書面をもつて、まず委員会に国に対する売渡の申出をしなければならない。但し、当該譲受人に対して特に譲り渡したい特別の事情がある場合において委員会の承認を受けたときは、この限りでない。
- 2 前項の規定による売渡の申出のあつた後30日以内に委員会が当該重要文化財を国において買い取るべき旨の通知をしたときは、前項の規定による申出書に記

載された予定対価の額に相当する代金で、売買が成立したものとみなす。

- 3 第1項に規定する者は、前項の期間（その期間内に委員会が当該重要文化財を買い取らない旨の通知をしたときは、その時までの期間）内は、当該重要文化財を譲り渡してはならない。
- 4 委員会が第1項但書の規定による承認をしない旨の処分をした場合において、その処分に不服のある者は、委員会に対し、異議の申立をすることができる。
（管理又は修理の受託又は技術的指導）

第47条 重要文化財の所有者（管理団体がある場合は、その者）は、委員会の定める条件により、委員会に重要文化財の管理（管理団体がある場合を除く。）又は修理を委託することができる。

- 2 委員会は、重要文化財の保存上必要があると認めるときは、所有者（管理団体がある場合は、その者）に対し、条件を示して、委員会にその管理（管理団体がある場合を除く。）又は修理を委託するように勧告することができる。
- 3 前2項の規定により委員会が管理又は修理の委託を受けた場合には、第39条第1項及び第2項の規定を準用する。
- 4 重要文化財の所有者、管理責任者又は管理団体は、委員会規則の定めるところにより、委員会に重要文化財の管理又は修理に関し技術的指導を求めることができる。

第4款 公開

（公開）

第47条の2 重要文化財の公開は、所有者が行うものとする。但し、管理団体がある場合は、管理団体が行うものとする。

- 2 前項の規定は、所有者又は管理団体の出品に係る重要文化財を、所有者及び管理団体以外の者が、この法律の規定により行う公開の用に供することを妨げるものではない。
- 3 管理団体は、その管理する重要文化財を公開する場合には、当該重要文化財につき観覧料を徴収することができる。

（委員会による公開）

第48条 委員会は、重要文化財の所有者（管理団体がある場合は、その者）に対し、1年以内の期間を限って国立博物館その他の施設において委員会の行う公開の用に供するため重要文化財を出品することを勧告することができる。

- 2 委員会は、国庫が管理又は修理につきその費用の全部若しくは一部を負担し、又は補助金を交付した重要文化財の所有者（管理団体がある場合は、その者）に対し、1年以内の期間を限って、国立博物館その他の施設において委員会の行う公開の用に供するため当該重要文化財を出品することを命ずることができる。

3 委員会は、前項の場合において必要があると認めるときは、1年以内の期間を限って、出品の期間を更新することができる。但し、引き続き5年をこえてはならない。

4 第2項の命令又は前項の更新があつたときは、重要文化財の所有者又は管理団体は、その重要文化財を出品しなければならない。但し、委員会が所有者又は管理団体の申請によりやむを得ない事由があるものと認める場合は、この限りでない。

5 前4項に規定する場合の外、委員会は、重要文化財の所有者（管理団体がある場合は、その者）から国立博物館その他の施設において委員会の行う公開の用に供するため重要文化財を出品したい旨の申出があつた場合において適当と認めるときは、その出品を承認することができる。

第49条 委員会は、前条の規定により重要文化財が出品されたときは、第100条の規定する場合を除いて、国立博物館所属の職員その他委員会の職員のうちから、その重要文化財の管理の責に任すべき者を定めなければならない。

第50条 第48条の規定による出品のために要する費用は、委員会規則の定める基準により、国庫の負担とする。

2 政府は、第48条の規定により出品した所有者又は管理団体に対し、委員会規則の定める基準により、給与金を支給する。

（所有者等による公開）

第51条 委員会は、重要文化財の所有者又は管理団体に対し、3箇月以内の期間を限って、重要文化財の公開を勧告することができる。

2 委員会は、国庫が管理又は修理につき、その費用の全部若しくは一部を負担し、又は補助金を交付した重要文化財の所有者又は管理団体に対し、3箇月以内の期間を限って、その公開を命ずることができる。

3 前項の場合には、第48条第4項の規定を準用する。

4 委員会は、重要文化財の所有者又は管理団体に対し前3項の規定による公開及び当該公開に係る重要文化財の管理に関し必要な指示をすることができる。

5 重要文化財の所有者、管理責任者又は管理団体が前項の指示に従わない場合には、委員会は、公開の停止又は中止を命ずることができる。

6 第2項及び第3項の規定による公開のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、その全部又は一部を国庫の負担とすることができる。

7 前項の規定する場合の外、重要文化財の所有者又は管理団体から、その所有又は管理に係る重要文化財を国庫の費用負担において公開したい旨の申出があつた場合において、委員会が適当と認めてこれを承認したときは、委員会規則の定めるところにより、その公開のために要する費用の全部又は一部を国庫の負担と

することができる。この場合には、第4項及び第5項の規定を準用する。

第51条の2 前条の規定による公開の場合を除き、重要文化財の所在の場所を変更してこれを公衆の観覧に供するため第34条の規定による届出があつた場合には、前条第4項及び第5項の規定を準用する。

(損害の補償)

第52条 第48条又は第51条の規定により出品し、又は公開したことに起因して当該重要文化財が滅失し、又はき損したときは、政府は、その重要文化財の所有者に対し、通常生ずべき損害を補償する。但し、重要文化財が所有者、管理責任者又は管理団体の責に帰すべき事由によつて滅失し、又はき損した場合は、この限りでない。

2 前項の場合には、第41条第2項の規定を準用する。

(所有者等以外の者による公開)

第53条 重要文化財の所有者及び管理団体以外の者がその主催する展覧会その他の催しにおいて重要文化財を公衆の観覧に供しようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、あらかじめ、委員会の承認を受けた博物館その他の施設において、委員会以外の国の機関又は地方公共団体が主催する場合は、委員会に届け出ることをもつて足りる。

2 委員会は、前項の許可を与える場合において、その許可の条件として、許可に係る公開及び当該公開に係る重要文化財の管理に関し必要な指示をすることができる。

3 第1項の許可を受けた者が前項の許可の条件に従わなかつたときは、委員会は、許可に係る公開の停止を命じ、又は許可を取り消すことができる。

第5款 調査

(保存のための調査)

第54条 委員会は、必要があると認めるときは、重要文化財の所有者、管理責任者又は管理団体に対し、重要文化財の現状又は管理、修理若しくは環境保全の状況につき報告を求めることができる。

第55条 委員会は、左の各号の1に該当する場合において、前条の報告によつてもなお重要文化財に関する状況を確認することができず、且つ、その確認のため他に方法がないと認めるときは、調査に当る者を定め、その所在する場所に立ち入つてその現状又は管理、修理若しくは環境保全の状況につき実地調査をさせることができる。

一 重要文化財の現状変更の許可の申請があつたとき。

二 重要文化財がき損しているとき又はその現状若しくは所在の場所につき変更があつたとき。

三 重要文化財が滅失し、き損し、又は盗み取られる虞のあるとき。

四 特別の事情によりあらためて国宝又は重要文化財としての価値を鑑査する必要があるとき。

2 前項の規定により立ち入り、調査する場合においては、当該調査に当る者は、その身分を証明する証票を携帯し、関係者の請求があつたときは、これを示し、且つ、その正当な意見を十分尊重しなければならない。

3 第1項の規定による調査によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

4 前項の場合には、第41条第2項の規定を準用する。

第6款 雑則

(所有者変更等に伴う権利義務の承継)

第56条 重要文化財の所有者が変更したときは、新所有者は、当該重要文化財に関しこの法律に基いてする委員会の命令、勧告、指示その他の処分による旧所有者の権利義務を承継する。

2 前項の場合には、旧所有者は当該重要文化財の引渡と同時にその指定書を新所有者に引き渡さなければならない。

3 管理団体が指定され、又はその指定が解除された場合には、第1項の規定を準用する。但し、管理団体が指定された場合には、もつぱら所有者に属すべき権利義務については、この限りでない。

第2節 重要文化財以外の有形文化財

(技術的指導)

第56条の2 重要文化財以外の有形文化財の所有者は、委員会規則の定めるところにより、委員会に有形文化財の管理又は修理に関し技術的指導を求めることができる。

第3章の2 無形文化財

(重要無形文化財の指定等)

第56条の3 委員会は、無形文化財のうち重要なものを重要無形文化財に指定することができる。

2 委員会は、前項の規定による指定をするに当つては、当該重要無形文化財の保持者を認定しなければならない。

3 第1項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該重要無形文化財の保持者として認定しようとする者に通知してする。

4 委員会は、第1項の規定による指定をした後においても、当該重要無形文化財の保持者として認定するに足りる者があると認めるときは、その者を保持者として追加認定することができる。

5 前項の規定による追加認定には、第3項の規定を準用する。

(重要無形文化財の指定等の解除)

第56条の4 重要無形文化財が重要無形文化財としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委

員会は、重要無形文化財の指定を解除することができる。

- 2 保持者が心身の故障のため保持者として適当でなくなつたと認められる場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、保持者の認定を解除することができる。
- 3 第1項の規定による指定の解除又は前項の規定による認定の解除は、その旨を官報で告示するとともに、当該重要無形文化財の保持者に通知してする。
- 4 保持者が死亡したときは、保持者の認定は解除されたものとし、保持者のすべてが死亡したときは、重要無形文化財の指定は解除されたものとする。この場合には、委員会は、その旨を官報で告示しなければならない。

(保持者の氏名変更等)

- 第56条の5 保持者が氏名若しくは住所を変更し、又は死亡したとき、その他委員会規則の定める事由があるときは、保持者又はその相続人は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、その事由の生じた日(保持者の死亡に係る場合は、相続人がその事実を知つた日)から10日以内に委員会に届け出なければならない。

(重要無形文化財の保存)

- 第56条の6 委員会は、重要無形文化財の保存のため必要があると認めるときは、重要無形文化財について自ら記録の作成、伝承者の養成その他その保存のため適当な措置を行い、又は保持者若しくは地方公共団体その他その保存に当ることを適当と認める者に対し、その保存に要する経費の一部を補助することができる。
- 2 前項の規定により補助金を交付する場合には、第35条第2項及び第3項の規定を準用する。

(重要無形文化財の公開)

- 第56条の7 委員会は、重要無形文化財の保持者に対し重要無形文化財の公開を、重要無形文化財の記録の所有者に対しその記録の公開を勧告することができる。
- 2 重要無形文化財の保持者又は重要無形文化財の記録の所有者から、重要無形文化財又は重要無形文化財の記録を国庫の費用負担において公開したい旨の申出があつた場合には、第51条第7項の規定を準用する。
 - 3 前項の規定により公開したことに起因して当該重要無形文化財の記録が滅失し、又はき損した場合には、第52条の規定を準用する。

(重要無形文化財の保存に関する助言又は勧告)

- 第56条の8 委員会は、重要無形文化財の保持者又は地方公共団体その他その保存に当ることを適当と認める者に対し、重要無形文化財の保存のため必要な助言又は勧告をすることができる。

(重要無形文化財以外の無形文化財の記録の作成等)

- 第56条の9 委員会は、重要無形文化財以外の無形文化財のうち特に必要のあるものを選択して、自らその記

録を作成し、保存し、若しくは公開し、又は適当な者に対し、当該無形文化財の公開若しくはその記録の作成、保存若しくは公開に要する経費の一部を補助することができる。

- 2 前項の規定により補助金を交付する場合には、第35条第2項及び第3項の規定を準用する。

第3章の3 民俗資料

(重要民俗資料の指定)

第56条の10 委員会は、有形の民俗資料のうち特に重要なものを重要民俗資料に指定することができる。

- 2 前項の規定による指定には、第28条第1項から第4項までの規定を準用する。

(重要民俗資料の指定の解除)

第56条の11 重要民俗資料が重要民俗資料としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、重要民俗資料の指定を解除することができる。

- 2 前項の規定による指定の解除には、第29条第2項から第4項までの規定を準用する。

(重要民俗資料の管理)

第56条の12 重要民俗資料の管理には、第30条から第34条までの規定を準用する。

(重要民俗資料の保護)

第56条の13 重要民俗資料の現状を変更し、又はこれを輸出しようとする者は、現状を変更し、又は輸出しようとする日の20日前までに、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。但し、委員会規則の定める場合は、この限りでない。

- 2 重要民俗資料の保護上必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る重要民俗資料の現状変更又は輸出に関し必要な事項を指示することができる。

第56条の14 重要民俗資料の保護には、第34条の2から第36条まで、第37条第2項から第4項まで、第42条、第46条及び第47条の規定を準用する。

(重要民俗資料の公開)

第56条の15 重要民俗資料の所有者及び管理団体(第56条の12で準用する第32条の2第1項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人をいう。以下この章及び第6章において同じ。)以外の者がその主催する展覧会その他の催しにおいて重要民俗資料を公衆の観覧に供しようとするときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、観覧に供しようとする最初の日の30日前までに、委員会に届け出なければならない。

- 2 前項の届出に係る公開には、第51条第4項及び第5項の規定を準用する。

第56条の16 重要民俗資料の公開には、第47条の2から第52条までの規定を準用する。

(重要民俗資料の保存のための調査及び所有者変更等に伴う権利義務の承継)

第56条の17 重要民俗資料の保存のための調査には、第54条の規定を、重要民俗資料の所有者が変更し、又は重要民俗資料の管理団体が指定され、若しくはその指定が解除された場合には、第56条の規定を準用する。

(無形の民俗資料の記録の作成等)

第56条の18 無形の民俗資料には、第56条の9の規定を準用する。

第4章 埋蔵文化財

(発掘に関する届出、指示及び命令)

第57条 土地を発掘して埋蔵物である文化財(以下「埋蔵文化財」という。)について調査しようとする者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、発掘に着手しようとする日の30日前までに委員会に届け出なければならない。但し、委員会規則の定める場合は、この限りでない。

2 埋蔵文化財の保護上特に必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る発掘に関し必要な事項を指示し、又はその発掘の禁止、停止若しくは中止を命ずることができる。

第57条の2 土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で、貝塚、古墳その他埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地を発掘しようとする場合には、前条第1項の規定を準用する。

2 埋蔵文化財の保護上特に必要があると認めるときは、委員会は、前項で準用する前条第1項の届出に係る発掘に関し必要な事項を指示することができる。

(委員会による発掘の施行)

第58条 委員会は、埋蔵文化財について調査する必要があると認めるときは、自ら埋蔵文化財を包蔵すると認められる土地の発掘を施行することができる。

2 前項の規定により発掘を自ら施行しようとするときは、委員会は、あらかじめ、当該土地の所有者及び権原に基く占有者に対し、発掘の目的、方法、着手の時期その他必要と認める事項を記載した令書を交付しなければならない。

3 第1項の場合には、第39条及び第41条の規定を準用する。

第59条 前条第1項の規定による発掘により文化財を発見した場合において、委員会は、当該文化財の所有者が判明しているときはこれを所有者に返還し、所有者が判明しないときは、遺失物法(明治32年法律第87号)第13条で準用する同法第1条第1項の規定にかかわらず、警察署長にその旨を通知することをもつて足りる。

2 前項の通知を受けたときは、警察署長は、直ちに当該文化財につき遺失物法第13条で準用する同法第1条第2項の規定による公告をしなければならない。

(提出)

第60条 遺失物法第13条で準用する同法第1条第1項

の規定により、埋蔵物として差し出された物件が文化財と認められるときは、警察署長は、直ちに当該物件を委員会に提出しなければならない。但し、所有者の判明している場合は、この限りでない。

(鑑査)

第61条 前条の規定により物件が提出されたときは、委員会は、当該物件が文化財であるかどうかを鑑査しなければならない。

2 委員会は、前項の鑑査の結果当該物件を文化財と認めたときは、その旨を警察署長に通知し、文化財でないと認めたときは、当該物件を警察署長に差し戻さなければならない。

(引渡)

第62条 第59条第1項又は前条第2項に規定する文化財の所有者から、警察署長に対し、その文化財の返還の請求があつたときは、委員会は、当該警察署長にこれを引き渡さなければならない。

(国庫帰属及び報償金)

第63条 第59条第1項又は第61条第2項に規定する文化財でその所有者が判明しないものの所有権は、国庫に帰属する。この場合においては、委員会は、当該文化財の発見者及びその発見された土地の所有者にその旨を通知し、且つ、その価格に相当する額の報償金を支給する。

2 前項に規定する発見者と土地所有者とが異なるときは、前項の報償金は、折半して支給する。

3 前2項の場合には、第41条第2項の規定を準用する。

(譲与等)

第64条 政府は、前条第1項の規定により国庫に帰属した文化財の保存のため又はその効用から見て国が保有する必要がある場合を除いて、当該文化財の発見者又はその発見された土地の所有者に、その者が前条の規定により受けるべき報償金の額に相当するものの範囲内でこれを譲与することができる。

2 前項の場合には、その譲与した文化財の価格に相当する金額は、前条に規定する報償金の額から控除するものとする。

3 政府は、前条第1項の規定により国庫に帰属した文化財の保存のため又はその効用から見て国が保有する必要がある場合を除いて、当該文化財の発見された土地を管轄する地方公共団体に対し、その申請に基き、当該文化財を譲与し、又は時価よりも低い対価で譲渡することができる。

(遺失物法の適用)

第65条 埋蔵文化財に関しては、この法律に特別の定めがある場合の外、遺失物法第13条の規定の適用があるものとする。

第66条から第68条まで 削除。

第5章 史跡名勝天然記念物

(指定)

第69条 委員会は、記念物のうち重要なものを史跡、名勝又は天然記念物（以下「史跡名勝天然記念物」と総称するに指定する。）ことができる。

2 委員会は、前項の規定により指定された史跡名勝天然記念物のうち特に重要なものを特別史跡、特別名勝又は特別天然記念物（以下「特別史跡名勝天然記念物」と総称する。）に指定することができる。

3 前2項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所有者及び権原に基く占有者に通知しする。

4 前項の規定により通知すべき相手方が著しく多数で個別に通知し難い事情がある場合には、委員会は、同項の規定による通知に代えて、その通知すべき事項を当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所在地の市町村の事務所又はこれに準ずる施設の掲示場に掲示することができる。この場合においては、その掲示を始めた日から二週間を経過した時に前項の規定による通知が相手方に到達したものとみなす。

5 第1項又は第2項の規定による指定は、第3項の規定による官報の告示があつた日からその効力を生ずる。但し、当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所有者又は権原に基く占有者に対しては、第3項の規定による通知が到達した時又は前項の規定によりその通知が到達したものとみなされる時からその効力を生ずる。

(仮指定)

第70条 前条第1項の規定による規定前において緊急の必要があると認めるときは、都道府県教育委員会は、史跡名勝天然記念物の仮指定を行うことができる。

2 前項の規定により仮指定を行つたときは、都道府県教育委員会は、直ちにその旨を委員会に報告しなければならない。

3 第1項の規定による仮指定には、前条第3項から第5項までの規定を準用する。

(所有権等の尊重及び他の公益との調整)

第70条の2 委員会又は都道府県教育委員会は、第69条第1項若しくは第2項の規定による指定又は前条第1項の規定による仮指定を行うに当つては、特に、関係者の所有権、鉱業権その他の財産権を尊重するとともに、国土の開発その他の公益との調整に留意しなければならない。

(解除)

第71条 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物がその価値を失つた場合その他特殊の事由のあるときは、委員会又は都道府県教育委員会は、その指定又は仮指定を解除することができる。

2 第70条第1項の規定により仮指定された史跡名勝天然記念物につき第69条第1項の規定による指定があつたとき、又は仮指定があつた日から2年以内に同条同項の規定による指定がなかつたときは、仮指定は、その効力を失う。

3 第70条第1項の規定による仮指定が適当でないと認めるときは、委員会は、これを解除することができる。

4 第1項又は前項の規定による指定又は仮指定の解除には、第69条第3項から第5項までの規定を準用する。

(管理団体による管理及び復旧)

第71条の2 史跡名勝天然記念物につき、所有者がないか若しくは判明しない場合又は所有者若しくは第74条第2項の規定により選任された管理の責に任すべき者による管理が著しく困難若しくは不適当であると明らかに認められる場合には、委員会は、適当な地方公共団体その他の法人を指定して、当該史跡名勝天然記念物の保存のために必要な管理及び復旧（当該史跡名勝天然記念物の保存のために必要な施設、設備その他の物件で当該史跡名勝天然記念物の所有者の所有又は管理に属するものの管理及び復旧を含む。）を行わせることができる。

2 前項の規定による指定をするには、委員会は、あらかじめ、指定しようとする地方公共団体その他の法人の同意を得なければならない。

3 第1項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該史跡名勝天然記念物の所有者及び権原に基く占有者並びに指定しようとする地方公共団体、その他の法人に通知しする。

4 第1項の規定による指定には、第69条第4項及び第5項の規定を準用する。

第71条の3 前条第1項に規定する事由が消滅した場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、管理団体の指定を解除することができる。

2 前項の規定による解除には、前条第3項並びに第69条第4項及び第5項の規定を準用する。

第72条 第71条の2第1項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人（以下この章及び第6章において「管理団体」という。）は、委員会規則の定める基準により、史跡名勝天然記念物の管理に必要な標識、説明板、境界板、囲さくその他の施設を設置しなければならない。

2 史跡名勝天然記念物の指定地域内の土地について、その土地の所在、地番、地目又は地積に異動があつたときは、管理団体は、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。

3 管理団体が復旧を行う場合は、管理団体は、あらかじめ、その復旧の方法及び時期について当該史跡名勝天然記念物の所有者（所有者が判明しない場合を除

く。)及び権原に基く占有者の意見を聞かなければならない。

- 4 史跡名勝天然記念物の所有者又は占有者は、正当な理由がなくて、管理団体が行う管理若しくは復旧又はその管理若しくは復旧のため必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避してはならない。

第72条の2 管理団体が行う管理及び復旧に要する費用は、この法律に特別の定のある場合を除いて、管理団体の負担とする。

- 2 前項の規定は、管理団体と所有者との協議により、管理団体が行う管理又は復旧により所有者の受ける利益の限度において、管理又は復旧に要する費用の一部を所有者の負担とすることを妨げるものではない。

- 3 管理団体は、その管理する史跡名勝天然記念物につき観覧料を徴収することができる。

第73条 管理団体が行う管理又は復旧によつて損害を受けた者に対しては、当該管理団体は、その通常生ずべき損害を補償しなければならない。

- 2 前項の場合には、第41条第2項の規定を準用する。

第73条の2 管理団体が行う管理には、第30条、第31条第1項及び第33条の規定を、管理団体が行う管理及び復旧には、第35条及び第47条の規定を、管理団体が指定され、又はその指定が解除された場合には、第56条第3項の規定を準用する。

(所有者による管理及び復旧)

第74条 管理団体がある場合を除いて、史跡名勝天然記念物の所有者は、当該史跡名勝天然記念物の管理及び復旧に当るものとする。

- 2 前項の規定により史跡名勝天然記念物の管理に当る所有者は、特別の事情があるときは、適当な者をもつばら自己に代り当該史跡名勝天然記念物の管理の責に任すべき者(以下この章及び第6章において「管理責任者」という。)に選任することができる。この場合には、第31条第3項の規定を準用する。

第75条 所有者が行う管理には、第30条、第31条第1項、第32条、第33条並びに第72条第1項及び第2項(同条第2項については、管理責任者がある場合を除く。)の規定を、所有者が行う管理及び復旧には、第35条及び第47条の規定を、所有者が変更した場合の権利義務の承継には、第56条第1項の規定を、管理責任者が行う管理には、第30条、第31条第1項、第32条第3項、第33条、第47条第4項及び第72条第2項の規定を準用する。

(管理に関する命令又は勧告)

第76条 管理が適当でないため史跡名勝天然記念物が滅失し、き損し、喪失し、又は盗み取られる虞があると認めるときは、委員会は、管理団体、所有者又は管理責任者に対し、管理方法の改善、保存施設の設置その他管理に関し必要な措置を命じ、又は勧告することが

できる。

- 2 前項の場合には、第36条第2項及び第3項の規定を準用する。

(復旧に関する命令又は勧告)

第77条 委員会は、特別史跡名勝天然記念物がき損し、又は喪失している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、管理団体又は所有者に対し、その復旧について必要な命令又は勧告をすることができる。

- 2 委員会は、特別史跡名勝天然記念物以外の史跡名勝天然記念物がき損し、又は喪失している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、管理団体又は所有者に対し、その復旧について必要な勧告をすることができる。

- 3 前2項の場合には、第37条第3項及び第4項の規定を準用する。

(委員会による特別史跡名勝天然記念物の復旧等の施行)

第78条 委員会は、左の各号の1に該当する場合においては、特別史跡名勝天然記念物につき自ら復旧を行い、又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置をすることができる。

- 一 管理団体、所有者又は管理責任者が前2条の規定による命令に従わないとき。

- 二 特別史跡名勝天然記念物がき損し、若しくは喪失している場合又は滅失し、き損し、喪失し、若しくは盗み取られる虞のある場合において、管理団体、所有者又は管理責任者に復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置をさせることが適当でないとき。

- 2 前項の場合には、第38条第2項及び第39条から第41条までの規定を準用する。

(補助等に係る史跡名勝天然記念物譲渡の納付金)

第79条 国が復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置につき第73条の2及び第75条で準用する第35条第1項の規定により補助金を交付し、又は第76条第2項で準用する第36条第2項、第77条第3項で準用する第37条第3項若しくは前条第2項で準用する第40条第1項の規定により費用を負担した史跡名勝天然記念物については、第42条の規定を準用する。

(現状変更等の制限及び原状回復の命令)

第80条 史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、現状変更については維持の措置をする場合、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りでない。

- 2 前項但書に規定する維持の措置の範囲は、委員会規則で定める。
- 3 第1項の規定による許可を与える場合には、第43条第3項の規定を、第1項の規定による許可を受けた者には、同条第4項の規定を準用する。
- 4 委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の第1項の規定による処分には、第70条の2の規定を準用する。
- 5 第1項の規定による許可を受けず、又は第3項で準用する第43条第3項の規定による許可の条件に従わないで、史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をした者に対しては、委員会は、原状回復を命ずることができる。この場合には、委員会は原状回復に関し必要な指示をすることができる。

(復旧の届出等)

第80条の2 史跡名勝天然記念物を復旧しようとするときは、管理団体又は所有者は、復旧に着手しようとする日の30日前までに、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。但し、前条第1項の規定により許可を受けなければならない場合その他委員会規則の定める場合は、この限りでない。

- 2 史跡名勝天然記念物の保護上必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る史跡名勝天然記念物の復旧に関し技術的な指導と助言を与えることができる。

(環境保全)

第81条 委員会は、史跡名勝天然記念物の保存のため必要があると認めるときは、地域を定めて一定の行為を制限し、若しくは禁止し、又は必要な施設をすることを命ずることができる。

- 2 前項の規定による処分によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。
- 3 第1項の規定による制限又は禁止に違反した者には、第80条第5項の規定を、前項の場合には、第41条第2項の規定を準用する。

(保存のための調査)

第82条 委員会は、必要があると認めるときは、管理団体、所有者又は管理責任者に対し、史跡名勝天然記念物の現状又は管理、復旧若しくは環境保全の状況につき報告を求めることができる。

第83条 委員会は、左の各号の1に該当する場合において、前条の報告によつてもなお史跡名勝天然記念物に関する状況を確認することができず、且つ、その確認のため他に方法がないと認めるときは、調査に当る者を定め、その所在する土地又はその隣接地に立ち入つてその現状又は管理、復旧若しくは環境保全の状況につき実地調査及び土地の発掘、障害物の除去その他調査のため必要な措置をさせることができる。但し、当

該土地の所有者、占有者その他の関係者に対し、著しく損害を及ぼす虞のある措置は、させてはならない。

- 一 史跡名勝天然記念物に関する現状変更又は保存に影響を及ぼす行為の許可の申請があつたとき。
- 二 史跡名勝天然記念物がき損し、又は喪失しているとき。
- 三 史跡名勝天然記念物が滅失し、き損し、喪失し、又は盗み取られる虞のあるとき。
- 四 特別の事情によりあらためて特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物としての価値を調査する必要があるとき。

- 2 前項の規定による調査又は措置によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

- 3 第1項の規定により立ち入り、調査する場合には、第55条第2項の規定を、前項の場合には、第41条第2項の規定を準用する。

(遺跡発見の届出)

第84条 土地の所有者又は占有者が貝づか、住宅跡、古墳その他遺跡と認められるものを発見したときは、その現状を変更することなく、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、発見の日から10日以内に委員会に届け出なければならない。但し、第57条第1項の規定による届出をした場合は、この限りでない。

- 2 前項の規定による届出があつた場合には、委員会は、当該遺跡の保護上必要な事項を指示することができる。

第6章 補則

第1節 聴聞及び異議の申立

(聴聞)

第85条 委員会が左に掲げる処分又は措置を行おうとするときは、関係者又はその代理人の出頭を求めて、公開による聴聞を行わなければならない。

- 一 第38条第1項又は第78条第1項の規定による修理若しくは復旧又は措置の施行
- 二 第43条第4項(第80条第3項で準用する場合を含む。)又は第53条第3項の規定による許可の取消
- 三 第45条第1項又は第81条第1項の規定による制限、禁止又は命令で特定の者に対して行われるもの
- 四 第51条第5項(同条第7項(第56条の7第2項で準用する場合を含む。)、第51条の2、第56条の15第2項及び第56条の16で準用する場合を含む。))の規定による公開の中止命令
- 五 第55条第1項又は第83条第1項の規定による立入調査又は調査のため必要な措置の施行
- 六 第57条第2項の規定による発掘の禁止又は中止命令
- 七 第58条第1項の規定による発掘の施行

八 第80条第5項(第81条第3項で準用する場合を含む。)の規定による原状回復の命令

2 委員会は、前項の聴聞を行おうとするときは、前項各号に規定する処分又は措置を行おうとする理由、その処分又は措置の内容並びに聴聞の期日及び場所をその期日の10日前までに当該関係者に通告し、且つ、その処分又は措置の内容並びに聴聞の期日及び場所を公示しなければならない。

3 聴聞においては、当該関係者又はその代理人は、自己又は本人のために意見を述べ、又は釈明し、且つ、証拠を提出することができる。

4 当該関係者又はその代理人が正当な理由がなく聴聞に応じなかつたときは、委員会は、聴聞を行わないで第1項に規定する処分又は措置をすることができる。

(異議の申立)

第85条の2 委員会又はその権限の委任を受けた都道府県教育委員会がした左に掲げる処分不服のある者は、委員会に対し、異議の申立をすることができる。

一 第43条第1項又は第80条第1項の規定による現状変更等の許可又は不許可

二 第45条第1項又は第81条第1項の規定による制限、禁止又は命令で特定の者に対して行われるもの

三 第71条の2第1項の規定による管理団体の指定

2 前項の規定による異議の申立は、処分の相手方及び処分を受けるべき者にあつては処分のあつた日又は処分の通知を受けた日から、その他の者にあつては処分のあつたことを知つた日から30日以内に、委員会規則の定める事項を記載した申立書を委員会に提出して、行わなければならない。

3 正当な事由により前項の期間内に異議の申立をすることができなかつたことを疎明した者は、同項の期間の経過後でも、異議の申立をすることができる。

(却下)

第85条の3 委員会は、異議の申立が不相当であると認めるときは、申立を却下しなければならない。

(異議の申立のあつた場合の聴聞)

第85条の4 異議の申立があつたときは、第85条の2第1項第2号の事案に係る場合及び申立を却下する場合を除き、委員会は、申立を受理した日から30日以内に、公開による聴聞を開始しなければならない。

2 委員会は、前項の聴聞を行おうとするときは、聴聞の期日及び場所をその期日の10日前までに異議の申立をした者に通告し、且つ、事案の要旨並びに聴聞の期日及び場所を公示しなければならない。

(参加)

第85条の5 異議の申立をした者の外、当該処分について利害関係を有する者で聴聞に参加して意見を述べようとするものは、委員会規則の定める事項を記載した

書面をもつて、委員会にその旨を申し出て、その許可を受けなければならない。

(証拠の提示等)

第85条の6 第85条の4の規定による聴聞においては、異議の申立をした者、処分の相手方、処分の通知を受けるべき者及び前条の規定による聴聞に参加した者又はこれらの者の代理人に対して、当該事案について、証拠を提示し、且つ、意見を述べる機会を与えなければならない。

(決定)

第85条の7 決定は、文書をもつて行い、且つ、理由を附さなければならない。

2 委員会は、決定書の正本を、異議の申立をした者及び聴聞に参加した者に交付しなければならない。但し、申立を却下する決定については、異議の申立をした者に交付すれば足りる。

(決定前の協議等)

第85条の8 鉱業又は採石業との調整に関する事案に係る異議の申立については、委員会は、申立を却下する場合を除き、あらかじめ、土地調整委員会に協議した上、決定をしなければならない。

2 関係各行政機関の長は、異議の申立に係る事案について意見を述べるることができる。

(手続)

第85条の9 前7条に定めるものの外、異議の申立に関する手続は、委員会規則で定める。

第2節 国に関する特例

(国に関する特例)

第86条 国又は国の機関に対しこの法律の規定を適用する場合において、この節に特別の規定のあるときは、その規定による。

第87条 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物が国有財産法(昭和23年法律第73号)に規定する国有財産であるときは、そのものは、文部大臣が管理する。但し、そのものが文部大臣以外の者が管理している同法第3条第2項に規定する行政財産であるときその他文部大臣以外の者が管理すべき特別の必要のあるものであるときは、そのものを関係各省各庁の長(同法第4条第2項に規定する各省各庁の長をいう。以下同じ。)が管理するか又は、文部大臣が管理するかは、文部大臣、関係各省各庁の長及び大蔵大臣が協議して定める。

2 前項但書の規定により協議する場合には、文部大臣は、委員会の意見を聞かなければならない。

第87条の2 前条第1項の規定により重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を文部大臣が管理するため、所國を異にする会計の間において所管換又は所屬替をするときは、国有財産法第15条の規定にかかわらず、無償として整理することができる。

第88条 国の所有に属する有形文化財又は民俗資料を国宝若しくは重要文化財又は重要民俗資料に指定したときは、第28条第1項又は第3項(第56条の10第2項で準用する場合を含む。)の規定により所有者に対し行すべき通知又は指定書の交付は、当該有形文化財又は民俗資料を管理する各省各庁の長に対し行ふものとする。この場合においては、国宝の指定書を受けた各省各庁の長は、直ちに国宝に指定された重要文化財の指定書を委員会に返付しなければならない。

2 国の所有に属する国宝若しくは重要文化財又は重要民俗資料の指定を解除したときは、第29条第2項(第56条の11第2項で準用する場合を含む。)又は第5項の規定により所有者に対し行すべき通知又は指定書の交付は、当該国宝若しくは重要文化財又は重要民俗資料を管理する各省各庁の長に対し行ふものとする。この場合においては、当該各省各庁の長は、直ちに指定書を委員会に返付しなければならない。

3 国の所有又は占有に属するものを特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物に指定し、若しくは仮指定し、又はその指定若しくは仮指定を解除したときは、第69条第3項(第70条第3項及び第71条第4項で準用する場合を含む。)の規定により所有者又は占有者に対し行すべき通知は、その指定若しくは仮指定又は指定若しくは仮指定の解除に係るものを管理する各省各庁の長に対し行ふものとする。

第89条 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を管理する各省各庁の長は、この法律並びにこれに基いて発する委員会規則及び委員会の勧告に従い、重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を管理しなければならない。

第90条 左に掲げる場合には、関係各省各庁の長は、文部大臣を通じ委員会に通知しなければならない。

一 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を取得したとき。

二 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の所管換を受け、又は所属替をしたとき。

三 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の全部又は一部が滅失し、き損し、若しくは喪失し、又はこれを亡失し、若しくは盗み取られたとき。

四 所管に属する重要文化財又は重要民俗資料の所在の場所を変更しようとするとき。

五 所管に属する重要文化財又は史跡名勝天然記念物を修理し、又は復旧しようとするとき(次条第1項第1号の規定により委員会の同意を求めなければならない場合その他委員会規則の定める場合を除く。)

六 所管に属する重要民俗資料の現状を変更し、又はこれを輸出しようとするとき。

七 所管に属する史跡名勝天然記念物の指定地域内の

土地について、その土地の所在、地番、地目又は地積に異動があつたとき。

八 所管に属する土地において貝づか、住居跡、古墳その他遺跡と認められるものを発見したとき。

2 前項第1号及び第2号の場合に係る通知には、第32条第1項並びに同項を準用する第56条の12及び第75条の規定を、前項第3号の場合に係る通知には、第33条並びに同項を準用する第56条の12及び第75条の規定を、前項第4号の場合に係る通知には、第34条及び同条を準用する第56条の12の規定を、前項第5号の場合に係る通知には、第43条の2第1項及び第80条の2第1項の規定を、前項第6号の場合に係る通知には、第56条の13第1項の規定を、前項第7号の場合に係る通知には、第72条第2項の規定を、前項第8号の場合に係る通知には、第84条第1項の規定を準用する。

3 委員会は、第1項第5号、第6号又は第8号の通知に係る事項に関し必要な勧告をすることができる。

第91条 左に掲げる場合には、関係各省各庁の長は、あらかじめ、文部大臣を通じ委員会の同意を求めなければならない。

一 重要文化財又は史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするとき。

二 所管に属する重要文化財を輸出しようとするとき。

三 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の貸付、交換、売却、譲与その他の処分をしようとするとき。

2 各省各庁の長以外の国の機関が、重要文化財又は史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、あらかじめ、委員会の同意を求めなければならない。

3 第1項第1号及び前項の場合には、第43条第1項但書及び同条第2項並びに第80条第1項但書及び同条第2項の規定を準用する。

4 委員会は、第1項第1号又は第2項に規定する措置につき同意を与える場合においては、その条件としてその措置に関し必要な勧告をすることができる。

5 関係各省各庁の長その他の国の機関は、前項の規定による委員会の勧告を十分に尊重しなければならない。

第92条 委員会は、必要があると認めるときは、文部大臣を通じ各省各庁の長に対し、左に掲げる事項につき必要な勧告をすることができる。

一 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理方法

二 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の修理若しくは復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置

三 重要文化財又は史跡名勝天然記念物の環境保全のため必要な施設

四 所管に属する重要文化財又は重要民俗資料の出品又は公開

2 前項の勧告については、前条第5項の規定を準用する。

3 第1項の規定による委員会の勧告に基いて施行する同項第2号に規定する修理、復旧若しくは措置又は同項第3号に規定する施設に要する経費の分担については、文部大臣と各省各庁の長が協議して定める。

4 前項の規定により協議する場合には、第87条第2項の規定を準用する。

第93条 委員会は、左の各号の1に該当する場合においては、国の所有に属する国宝又は特別史跡名勝天然記念物につき、自ら修理若しくは復旧を行い、又は滅失、き損、喪亡若しくは盗難の防止の措置をすることができる。この場合においては、委員会は、当該文化財が文部大臣以外の各省各庁の長の所管に属するものであるときは、あらかじめ、修理若しくは復旧又は措置の内容、着手の時期その他必要な事項につき、文部大臣を通じ当該文化財を管理する各省各庁の長と協議し、当該文化財が文部大臣の所管に属するものであるときは、文部大臣の定める場合を除いて、その承認を受けなければならない。

一 関係各省各庁の長が前条第1項第2号に規定する修理若しくは復旧又は措置についての委員会の勧告に応じないとき。

二 国宝又は特別史跡名勝天然記念物がき損し、若しくは喪亡している場合又は滅失し、き損し、喪亡し、若しくは盗み取られる虞のある場合において、関係各省各庁の長に当該修理若しくは復旧又は措置をさせることが適当でないと認められるとき。

第94条 委員会は、国の所有に属するものを国宝、重要文化財、重要民俗資料、特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物に指定するに当り、又は国の所有に属する国宝、重要文化財、重要民俗資料、特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物に関する状況を確認するため必要があると認められるときは、関係各省各庁の長に対し調査のため必要な報告を求め、又は、重要民俗資料に係る場合を除き、調査に当る者を定めて実地調査をさせることができる。

第95条 委員会は、国の所有に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の保存のため特に必要があると認めるときは、適当な地方公共団体その他の法人を指定して当該文化財の保存のため必要な管理（当該文化財の保存のため必要な施設、設備その他の物件で国の所有又は管理に属するものの管理を含む。）を行わせることができる。

2 前項の規定による指定をするには、委員会は、あらかじめ、文部大臣を通じ当該文化財を管理する各省各

庁の長の同意を求めるとともに、指定しようとする地方公共団体その他の法人の同意を得なければならない。

3 第1項の規定による指定には、第32条の2第3項及び第4項の規定を準用する。

4 第1項の規定による管理によつて生ずる収益は、当該地方公共団体その他の法人の収入とする。

5 地方公共団体その他の法人が第1項の規定による管理を行う場合には、重要文化財又は重要民俗資料の管理に係るときは、第30条、第31条第1項、第32条の4第1項、第33条、第34条、第35条、第36条、第47条の2第3項及び第54条の規定を、史跡名勝天然記念物に係るときは、第30条、第31条第1項、第33条、第35条、第72条第1項及び第2項、第72条の2第1項及び第3項、第76条並びに第82条の規定を準用する。

第95条の2 前条第1項の規定による指定の解除については、第32条の3の規定を準用する。

第95条の3 委員会は、重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の保護のため特に必要があると認めるときは、第95条第1項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人に当該文化財の修理又は復旧を行わせることができる。

2 前項の規定による修理又は復旧を行わせる場合には、第95条第2項の規定を準用する。

3 地方公共団体その他の法人が第1項の規定による修理又は復旧を行う場合には、重要文化財又は重要民俗資料に係るときは、第32条の4第1項及び第35条の規定を、史跡名勝天然記念物に係るときは、第35条、第72条の2第1項及び第73条の規定を準用する。

第96条 委員会は、第58条第1項の規定により自ら発掘を施行しようとする場合において、その発掘を施行しようとする土地が国の所有に属し、又は国の機関の占有するものであるときは、あらかじめ、発掘の目的、方法、着手の時期その他必要と認める事項につき、文部大臣を通じ関係各省各庁の長と協議しなければならない。但し、当該各省各庁の長が文部大臣であるときは、その承認を受けるべきものとする。

第97条 第63条の規定により国庫に帰属した文化財は、委員会が管理する。但し、その保存のため又はその効用から見て他の機関に管理させることが適当であるときは、これを当該機関の管理に移さなければならない。

第3節 地方公共団体及び教育委員会

（地方公共団体の事務）

第98条 地方公共団体は、文化財の管理、修理、復旧、公開その他その保存及び活用に必要な経費につき補助することができる。

2 地方公共団体は、条例の定めるところにより、重要文化財、重要民俗資料、重要無形文化財及び史跡名勝

天然記念物以外の文化財で当該地方公共団体の区域内に存するもののうち重要なものを指定して、その保存及び活用のため必要な措置を講ずることができる。

- 3 前項に規定する条例の制定若しくはその改廃又は同項に規定する文化財の指定若しくはその解除を行つた場合には、教育委員会は、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を報告しなければならない。

(権限の委任)

第99条 委員会は、必要があると認めるときは、左に掲げる委員会の権限の一部を都道府県教育委員会に委任することができる。

一 第35条第3項(第36条第3項(第56条の14、第76条第2項(第95条第5項で準用する場合を含む。))及び第95条第5項で準用する場合を含む。)、第37条第4項(第56条の14及び第77条第3項で準用する場合を含む。)、第56条の6第2項、第56条の9第2項(第56条の18で準用する場合を含む。)、第56条の14、第73条の2、第75条、第95条第5項及び第95条の3第3項で準用する場合を含む。))の規定による指揮監督

二 第43条又は第80条の規定による現状変更又は保存に影響を及ぼす行為の許可及びその取消並びにその停止命令(重大な現状変更又は保存に重大な影響を及ぼす行為の許可及びその取消を除く。)

三 第51条第5項(同条第7項(第56条の7第2項で準用する場合を含む。))、第51条の2(第56条の16で準用する場合を含む。)、第56条の15第2項及び第56条の16で準用する場合を含む。))の規定による公開の停止命令

四 第53条の規定による公開の許可及びその取消並びに公開の停止命令

五 第54条(第56条の17及び第95条第5項で準用する場合を含む。)、第55条、第82条(第95条第5項で準用する場合を含む。))又は第83条の規定による調査又は調査のため必要な措置の施行

六 第57条第2項の規定による発掘の停止命令

- 2 都道府県教育委員会が前項の規定による委任に基づき同項第2号若しくは第4号に規定する許可の取消又は同項第5号に規定する立入調査若しくは調査のため必要な措置を行う場合には、第85条の規定を準用する。

(出品された重要文化財等の管理の委任)

第100条 委員会は、必要があると認めるときは、都道府県又は地方自治法(昭和22年法律第67号)第252条の19第1項の指定都市教育委員会に対し第48条(第56条の16で準用する場合を含む。))の規定により出品された重要文化財又は重要民俗資料の管理の事務を委任することができる。

- 2 前項の規定による委任を受けた場合には、都道府県又は前項に規定する市の教育委員会は、その職員のう

ちから、当該重要文化財又は重要民俗資料の管理の責に任すべき者を定めなければならない。

(修理等の施行の委託)

第101条 委員会は、必要があると認めるときは、第38条第1項又は第93条の規定による国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行、第58条第1項の規定による発掘の施行及び第78条第1項又は第93条の規定による特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、衰亡若しくは盗難の防止の措置の施行につき、都道府県教育委員会に対し、その全部又は一部を委託することができる。

2 都道府県教育委員会が前項の規定による委託に基づき、第38条第1項の規定による修理又は措置の施行の全部又は一部を行う場合には、第39条の規定を、第58条第1項の規定による発掘の施行の全部又は一部を行う場合には、同条第3項で準用する第39条の規定を、第78条第1項の規定による復旧又は措置の施行の全部又は一部を行う場合には、同条第2項で準用する第39条の規定を準用する。

(重要文化財等の管理等の受託又は技術的指導)

第102条 都道府県教育委員会は、あらかじめ、委員会の承認を得て、所有者(管理団体がある場合は、その者)又は管理責任者の求めに応じ、重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理(管理団体がある場合を除く。)、修理若しくは復旧につき委託を受け、又は技術的指導をすることができる。

2 都道府県教育委員会が前項の規定により管理、修理又は復旧の委託を受ける場合には、第39条第1項及び第2項の規定を準用する。

(書類等の経由)

第103条 この法律の規定により文化財に関し委員会に提出すべき届書その他の書類及び物件の提出は、都道府県教育委員会を経由すべきものとする。

2 都道府県教育委員会は、前項に規定する書類及び物件を受領したときは、意見を具してこれを委員会に送付しなければならない。

3 この法律の規定により文化財に関し委員会が発する命令、勧告、指示その他の処分告知は、都道府県教育委員会を経由すべきものとする。但し、特に緊急な場合は、この限りでない。

4 この法律の規定により委員会に対してなすべき届出、報告、申出又は指定書の返付は、その届書その他の書類又は指定書が第1項の規定により經由すべき都道府県教育委員会に到達した時に行われたものとみなす。

(指揮監督及び経費の負担)

第104条 委員会は、この法律の規定により都道府県又は第100条第1項に規定する市の教育委員会に行わせる事務につき、その教育委員会を指揮監督することができる。

2 都道府県又は第100条第1項に規定する市の教育委員会が第99条から第101条までの規定による事務を処理するために要する経費は、国庫の負担とする。

(委員会に対する意見具申)

第104条の2 都道府県教育委員会は、当該都道府県の区域内に存する文化財の保存及び活用に関し、委員会に対して意見を具申することができる。

(教育委員会の文化財専門委員)

第104条の3 都道府県教育委員会に文化財専門委員を置くことができる。

2 文化財専門委員は、文化財の保存及び活用に関し、都道府県教育委員会の諮問に答え、又は都道府県教育委員会に意見を具申し、及びこのために必要な調査研究を行う。

3 文化財専門委員に関し必要な事項は、当該都道府県の条例で定める。

第105条 削除

第7章 罰則

(刑罰)

第106条 第44条の規定に違反し、委員会の許可を受けずに重要文化財を輸出した者は、5年以下の懲役若しくは禁じ又は10万円以下の罰金に処する。

第107条 重要文化財を損壊し、棄し、又は隠匿した者は、5年以下の懲役若しくは禁じ又は3万円以下の罰金若しくは料に処する。

2 前項に規定する者が当該重要文化財の所有者であるときは、2年以下の懲役若しくは禁じ又は1万円以下の罰金若しくは料に処する。

第107条の2 史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をして、これを滅失し、損し、又は喪失するに至しめた者は、5年以下の懲役若しくは禁じ又は3万円以下の罰金若しくは料に処する。

2 前項に規定する者が当該史跡名勝天然記念物の所有者であるときは、2年以下の懲役若しくは禁じ又は1万円以下の罰金若しくは料に処する。

第107条の3 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者がその法人又は人の業務又は財産の管理に関して前3条の違反行為をしたときは、その行為者を罰する外、その法人又は人に対し、各本条の罰金刑を科する。

(行政罰)

第108条 第39条第1項(第47条第3項(第56条の14で準用する場合を含む。)、第78条第2項、第101条第2項又は第102条第2項で準用する場合を含む。)、第49条(第56条の16で準用する場合を含む。))又は第100条第2項に規定する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理、修理又は復旧の施行の責に任ずべき者が怠慢又は重大な過失によりその管

理、修理又は復旧に係る重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を滅失し、損し、喪失し、又は盗み取られるに至しめたときは、3万円以下の過料に処する。

第109条 左の各号の1に該当する者は、3万円以下の過料に処する。

一 正当な理由がなくて、第36条第1項(第56条の14及び第95条第5項で準用する場合を含む。))又は第37条第1項の規定による重要文化財若しくは重要民俗資料の管理又は国宝の修理に関する委員会の命令に従わなかつた者

二 第34条の規定に違反して、委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わないう重要文化財の現状を変更し、又は委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県教育委員会の現状変更の停止の命令に従わなかつた者

三 正当な理由がなくて、第76条第1項(第95条第5項で準用する場合を含む。))又は第77条第1項の規定による史跡名勝天然記念物の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に関する委員会の命令に従わなかつた者

四 第80条の規定に違反して、委員会又はその権限の委任を受けた都道府県教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わないう史跡名勝天然記念物の現状を変更し、若しくはその保存に影響を及ぼす行為をし、又は委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県教育委員会の現状変更若しくは保存に影響を及ぼす行為の停止の命令に従わなかつた者

第110条 左の各号の1に該当する者は、1万円以下の過料に処する。

一 第39条第3項(第101条第2項で準用する場合を含む。))で準用する第32条の2第5項の規定に違反して、国宝の修理又は滅失、損若しくは盗難の防止の措置の施行を拒み、又は妨げた者

二 正当な理由がなくて第45条第1項の規定による制限若しくは禁止又は施設の命令に違反した者

三 第46条(第56条の14で準用する場合を含む。))の規定に違反して、委員会に国に対する売渡の申出をせず、若しくは申出をした後同条第3項(第56条の14で準用する場合を含む。))に規定する期間内に、国以外の者に重要文化財又は重要民俗資料を譲り渡し、又は同条第1項(第56条の14で準用する場合を含む。))の規定による売渡の申出若しくは同項但書(第56条の14で準用する場合を含む。))の規定による承認の申請につき、虚偽の事実を申し立てた者

四 第53条の規定に違反して、委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わないう重要

美術関係法規

文化財を公開し、又は委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の公開の停止の命令に従わなかつた者

五 第78条第2項又は第101条第2項で準用する第39条第3項で準用する第32条の2第5項の規定に違反して、特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、喪亡若しくは盗難の防止の措置の施行を拒み、又は妨げた者

六 正当な理由がなく、第81条第1項の規定による制限若しくは禁止又は施設の命令に違反した者

第111条 左の各号の1に該当する者は、5,000円以下の過料に処する。

一 第28条第5項、第29条第4項(第56条の11第2項で準用する場合を含む。)(又は第56条第2項(第56条の17で準用する場合を含む。))の規定に違反して、重要文化財又は重要民俗資料の指定書を委員会に返付せず、又は新所有者に引き渡さなかつた者

二 第31条第3項(第56条の12及び第74条第2項で準用する場合を含む。)、第32条(第56条の12及び第75条で準用する場合を含む。)、第33条(第56条の12、第75条及び第95条第5項で準用する場合を含む。)、第34条(第56条の12及び第95条第5項で準用する場合を含む。)、第43条の2第1項、第56条の5、第56条の13第1項、第56条の15第1項、第57条第1項、第72条第2項(第95条第5項で準用する場合を含む。)、第80条の2第1項又は第84条第1項の規定に違反して、届出をせず、又は虚偽の届出をした者

三 第32条の2第5項(第34条の3第2項(第56条の14で準用する場合を含む。))及び第56条の12で準用する場合を含む。又は第72条第4項の規定に違反して、管理、修理若しくは復旧又は管理、修理若しくは復旧のため必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避した者

四 第48条第4項(第51条第3項(第56条の16で準用する場合を含む。))及び第56条の16で準用する場合を含む。の規定に違反して、出品若しくは公開をせず、又は第51条第5項(同条第7項(第56条の7第2項及び第56条の16で準用する場合を含む。))、第51条の2(第56条の16で準用する場合を含む。))及び第56条の15第2項で準用する場合を含む。の規定に違反して、委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の公開の停止若しくは中止の命令に従わなかつた者

五 第54条(第56条の17及び第95条第5項で準用する場合を含む。)、第55条、第82条(第95条第5項で準用する場合を含む。)(又は第83条の規定に違反して、報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又

は当該公務員の立入調査若しくは調査のため必要な措置の施行を拒み、妨げ、若しくは忌避した者

六 第57条第2項の規定に違反して、委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の発掘の禁止又は停止若しくは中止の命令に従わなかつた者

七 第58条の規定による発掘の施行を拒み、又は妨げた者

第112条 削除

附 則

(施行期日)

第113条 この法律施行の期日は、公布の日から起算して3箇月をこえない期間内において、政令で定める。
[昭和25年8月政令第276号で、同25年8月29日から施行]

(関係法令の廃止)

第114条左に掲げる法律、勅令及び政令は、廃止する。

国宝保存法(昭和4年法律第17号)

重要美術品等の保存に関する法律(昭和8年法律第43号)

史跡名勝天然記念物保存法(大正8年法律第44号)

国宝保存法施行令(昭和4年勅令第210号)

史跡名勝天然記念物保存法施行令(大正8年勅令第499号)

国宝保存会官制(昭和4年勅令第211号)

重要美術品等調査審議会令(昭和24年政令第251号)

史跡名勝天然記念物調査会令(昭和24年政令第252号)
(法令廃止に伴う経過規定)

第115条 この法律施行前に行つた国宝保存法第1条の規定による国宝の指定(同法第11条第1項の規定により解除された場合を除く。)(又は第27条第1項の規定による重要文化財の指定とみなし、同法第3条又は第4条の規定による許可は、第43条又は第44条の規定による許可とみなす。

2 この法律施行前の国宝の滅失又はき損並びにこの法律施行前に行つた国宝保存法第7条第1項の規定による命令及び同法第15条前段の規定により交付した補助金については、同法第7条から第10条まで、第15条後段及び第24条の規定は、なおその効力を有する。この場合において同法第9条第2項中「主務大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と読み替えるものとする。

3 この法律施行前にした行為の処罰については、国宝保存法は、第6条及び第23条の規定を除く外、なおその効力を有する。

4 この法律施行の際現に国宝保存法第1条の規定による国宝を所有している者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、この法律施行後3箇月以内に委員会に届け出なければならない。

5 前項の規定による届出があつたときは、委員会は、当該所有者に第28条に規定する重要文化財の指定書を交付しなければならない。

6 第4項の規定に違反して、届出をせず、又は虚偽の届出をした者は、5,000円以下の過料に処する。

7 この法律施行の際現に国宝保存法第1条の規定による国宝で国の所有に属するものを管理する各省各庁の長は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、この法律施行後3箇月以内に委員会に通知しなければならない。但し、委員会規則で定める場合は、この限りでない。

8 前項の規定による通知があつたときは、委員会は、当該各省各庁の長に第28条に規定する重要文化財の指定書を交付するものとする。

第116条 この法律施行の際現に重要美術品等の保存に関する法律第2条第1項の規定により認定されている物件については、同法は当分の間、なおその効力を有する。この場合において、同法の施行に関する事務は、委員会が行うものとし、同法中「国宝」とあるのは、「文化財保護法ノ規定ニ依ル重要文化財」と、「主務大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と、「国宝保存法第1条ノ規定ニ依リテ国宝トシテ指定シ」とあるのは、「文化財保護法第27条第1項ノ規定ニ依リテ重要文化財トシテ指定シ」と読み替えるものとする。

2 文化財専門審議会においては、当分の間、委員会の諮問に応じて重要美術品等の保存に関する法律第1条の規定による輸出及び移出の許可、同法第2条の規定による認定の取消に関する事項その他重要美術品等の保存に関する重要事項を調査審議し、且つ、これらの事項に関し必要と認める事項を委員会に建議する。

3 重要美術品等の保存に関する法律の施行に関しては、当分の間、第103条の規定を準用する。

第117条 この法律施行前に行つた史跡名勝天然記念物保存法第1条第1項の規定による指定（解除された場合を除く。）は、第69条第1項の規定による指定、同法第1条第2項の規定による仮指定（解除された場合を除く。）は、第70条第1項の規定による仮指定とみなし、同法第3条の規定による許可は、第80条第1項の規定による許可とみなす。

2 この法律施行前に行つた史跡名勝天然記念物保存法第4条第1項の規定による命令又は処分については、同法第4条及び史跡名勝天然記念物保存法施行令第4条の規定は、なおその効力を有する。この場合において同令第4条中「文部大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と読み替えるものとする。

3 この法律施行前にした行為の処罰については、史跡名勝天然記念物保存法は、なおその効力を有する。

（最初の委員の任命）

第118条 委員会の最初の委員の任命については、国会

の閉会又は衆議院の解散の場合に限り、第9条第1項の規定にかかわらず、その後最初に召集された国会において両議院の事後の承認を得れば足りる。

2 文部大臣は、前項の規定による両議院の事後の承認が得られないときは、その委員を罷免しなければならない。

（第1回委員会の招集）

第119条 この法律に基く第1回の委員会は、第14条の規定にかかわらず、文部大臣が招集する。

（最初の委員の任期）

第120条 この法律により初めて任命される委員会の委員で委員長及びその職務を代理する委員以外のものの任期は、第10条第1項の規定にかかわらず、1人については1年、2人については2年とする。

2 前項の規定の適用を受ける委員の任期は、 $\frac{1}{2}$ で定める。

（国家行政組織法の1部改正）

第121条 国家行政組織法の1部を次のように改正する。

別表第1中	文部省			
「	文部省	文化財保護委員会		」

に改める。

（文部省設置法の1部改正）

第122条 文部省設置法（昭和24年法律第146号）の1部を次のように改正する。

目次中「第3章職員（第25条・第26条）」を「第3章外局（第25条・第26条）」に改める。
員（第27条・第28条）」

第2条第1項第2号中「国宝、重要美術品、史跡名勝天然記念物その他の文化財」を「文化財保護法（昭和25年法律第214号）に規定する文化財」に改める。

同条第3項中「出版」を「文化財保護法に規定する文化財、出版」に改める。

第10条第9号を次のように改める。

九 削除

第13条中「国立博物館」を削る。

第14条第1項中「国立博物館、」を削る。

第17条を次のように改める。

第17条 削除

第24条左表中国宝保存会、重要美術品等調査審議会及び史跡名勝天然記念物調査会の項を削る。

第3章を第4章とし、第25条を第27条とし、第26条を第28条とし、第2章の次に次の1章を加える。

第3章 外局

（外局の設置）

第25条 国家行政組織法第3条第2項の規定に基いて文部省に置かれる外局は、左の通りとする。

美術関係法規

文化財保護委員会

(文化財保護委員会)

第26条 文化財保護委員会の組織、所掌事務及び権限は、文化財保護法の定めるところによる。

(行政機関職員定員法の1部改正)

第123条 行政機関職員定員法(昭和24年法律第126号)の1部を次のように改正する。

第2条第1項中「文部省 本省 63,986人

うち61,847人は、国立学校の職員とする。」を

文部省	本省 文化財保護委員会	63,611 410	うち61,847人は、 国立学校の職員とする。
	計	64,021	

に改める。

(従前の国立博物館)

第124条 法律(これに基く命令を含む。)に特別の定めのある場合を除く外、従前の国立博物館及びその職員(美術研究所及びこれに所属する職員を除く。)は、この法律に基く国立博物館及びその職員となり、従前の国立博物館附置の美術研究所及びこれに所属する職員は、この法律に基く研究所及びその職員となり、同一性をもつて存続するものとする。

2 この法律に基く東京国立文化財研究所は、従前の国立博物館附置の美術研究所の所掌した調査研究と同一のものについては、「美術研究所」の名称を用いることができる。

(特別職の職員の給与に関する法律の1部改正)

第125条 特別職の職員の給与に関する法律(昭和24年法律第252号)の1部を次のように改正する。

第1条第14号の2の次に次の1号を加える。

14の3 文化財保護委員会の委員長及び委員

別表中「全国選挙管理委員会委員長」を

「全国選挙管理委員会委員長
文化財保護委員会委員長」に、「中央更生保護委員会委員」を「中央更生保護委員会委員
文化財保護委員会委員」に改める。

(遺失物法の1部改正)

第126条 遺失物法の1部を次のように改正する。

第13条第2項から第4項までの規定を削る。

2 この法律施行前に国庫に帰属した埋蔵物については、前項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(国有財産法の1部改正)

第127条 国有財産法の1部を次のように改正する。

第3条第2項第2号中「国宝」の下に「その他の重要文化財」を加える。

(屋外広告物法の1部改正)

第128条 屋外広告物法(昭和24年法律第189号)の1部を次のように改正する。

[次のよう略す]

(教育委員会法の1部改正)

第129条 教育委員会法(昭和23年法律第170号)の1部を次のように改正する。

[次のよう略す]

(富裕税法の1部改正)

第130条 富裕税法(昭和25年法律第174号)の1部を次のように改正する。

[次のよう略す]

附則(昭和26年12月24日法律第318号抄)

1 この法律は、公布の日から施行する。但し、第20条第22条、第23条及び第124条第2項の改正規定並びに附則第3項の規定は、昭和27年4月1日から施行する。

2 この法律施行前にした行為に対する罰則の適用については、改正前の文化財保護法第34条の規定は、なおその効力を有する。

附則(昭和27年7月31日法律第272号抄)

(施行期日)

1 この法律は、昭和27年8月1日から施行する。但し、附則第3項の規定は、公布の日から施行する。

(東京国立博物館の分館の職員に関する経過規定)

2 この法律施行の際現に東京国立博物館の分館の職員である者は、別に辞令を発せられない限り、同一の勤務条件をもつて、奈良国立博物館の職員となるものとする。

附則(昭和28年8月10日法律第194号抄)

1 この法律は公布の日から施行する。

附則(昭和28年8月15日法律第213号抄)

1 この法律は、昭和28年9月1日から施行する。〔後略〕

2 この法律施行前従前の法令の規定によりなされた許可、認可その他の処分又は申請、届出その他の手続はそれぞれ改正後の相当規定に基いてなされた処分又は手続とみなす。

3 この法律施行の際従前の法令の規定により置かれている機関又は職員は、それぞれ改正後の相当規定に基いて置かれるものとみなす。

附則(昭和29年5月29日法律第131号抄)

1 この法律は、昭和29年7月1日から施行する。

2 この法律の施行前にした史跡名勝天然記念物の仮指定は、この法律による改正後の文化財保護法(以下「新法」という。)第71条第2項の規定にかかわらず、新法第69条第1項の規定による指定があつた場合の外、この法律の施行の日から3年以内に同条同項の規定による指定がなかつたときは、その効力を失う。

3 この法律の施行前6月以内にこの法律による改正前の文化財保護法第43条第1項若しくは第80条第1項の規定によつてした現状変更等の許可若しくは不許可の処分又は同法第45条第1項若しくは第81条第1項

の規定によつてした制限、禁止又は命令で特定の者に対して行われたものに不服のある者は、この法律の施行の日から30日以内に委員会に対して異議の申立をすることができる。この場合には、第85条の2第2項及び第3項並びに第85条の3から第85条の9までの規定を準用する。

- 4 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。
- 5 史跡名勝天然記念物を管理すべき団体の指定等に関する政令(昭和28年政令第289号)は、廃止する。
- 6 旧史跡名勝天然記念物を管理すべき団体の指定等に関する政令第1条第1項の規定により指定を受けた地方公共団体その他の団体及び同令附則第2項の規定により同令第1条第1項の規定により指定を受けた地方公共団体その他の団体とみなされたもので法人であるものは、新法第71条の2第1項又は第95条第1項の規定により指定を受けた地方公共団体その他の法人とみなす。
- 7 前項に規定する団体で法人でないものには、新法第71条の2、第95条又は第95条の3の規定にかかわらず、この法律の施行の日から1年間は、新法第71条の2第1項、第95条第1項又は第95条の3第1項に規定する管理及び復旧を行わせることができる。この場合には、新法中第71条の2第1項又は第95条第1項の規定による指定を受けた法人に関する規定を準用する。

附 則 (昭和31年6月12日法律第148号抄)

- 1 この法律は、地方自治法の1部を改正する法律(昭和31年法律第147号)の施行の日から施行する。

附 則 (昭和31年6月30日法律第163号抄)

- 1 この法律は、昭和31年10月1日から施行する〔後略〕

附 則 (昭和33年4月25日法律第86号抄)

- 1 この法律は、公布の日から施行し、文化財保護法第13条の次に1条を加える改正規定を除くほか、昭和34年4月1日から適用する〔後略〕

附 則 (昭和34年4月20日法律第148号抄)

(施行期日)

- 1 この法律は、国税徴収法(昭和34年法律第147号)の施行の日から施行する。

(公課の先取特権の順位の改正に関する経過措置)

- 7 第2章の規定による改正後の各法令(徴収金の先取特権の順位に係る部分に限る。)の規定は、この法律の施行後に国税徴収法第2条第12号に規定する強制換価手続による配当手続が開始される場合について適用し、この法律の施行前に当該配当手続が開始されている場合における当該法令の規定に規定する徴収金の先取特権の順位については、なお従前の例による。

文化財保護委員会委員

委員長 職務代理 矢代 幸雄

委 員 矢代 幸雄

〃 細川 護立

〃 川北 禎一

〃 内田 祥三

文化財専門審議会令

(昭和25年10月13日)
(政令第309号)

沿革 昭和28年政令第2号(第1次改正)

昭和29年政令第163号(第2次改正)

文化財専門審議会令

内閣は、文化財保護法(昭和25年法律第214号)第21条第5号の規定に基き、この政令を制定する。

(所掌事務)

第1条 文化財専門審議会(以下「審議会」という。)は、文化財保護委員会(以下「委員会」という。)の諮問に応じて、左に掲げる事項を調査審議し、及び文化財の保存又は活用に関する専門的又は技術的事項に関し必要と認める事項を委員会に建議する。

一 文化財保護法(以下「法」という。)第21条第2項各号に掲げる事項

二 法第21条第3項の規定により委員会が重要と認めた事項

三 法第116条第2項に規定する重要美術品等の保存に関する重要事項

(組織)

第2条 審議会は、専門委員90人以内で組織する。

2 特別の事項を調査審議するため必要があるときは、審議会に臨時専門委員を置くことができる。

第3条 専門委員及び臨時専門委員は、学識経験のある者のうちから、委員会が任命する。

第4条 専門委員の任期は、2年とし、その欠員が生じた場合の補欠専門委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 臨時専門委員は、特別の事項の調査審議が終つたときは、退任するものとする。

3 専門委員及び臨時専門委員は、非常勤とする。

第5条 専門委員より会長として互選された者は、審議会の会務を総理する。

2 専門委員により副会長として互選された者は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(分科会)

第6条 審議会に置かれる分科会は、左表上欄に掲げる通りとし、それぞれ同表下欄に掲げる事項を分掌する。

分科会の 名 称	分 掌 事 項
第1分科会	建造物以外の有形文化財（埋蔵物であるものを除く。）に関する事項
第2分科会	建造物である有形文化財（埋蔵物であるものを除く。）に関する事項
第3分科会	記念物、民俗資料及び埋蔵文化財に関する事項
第4分科会	無形文化財に関する事項

2 前項の規定中有形文化財その他文化財に関する用語の定義は、法における用語の定義による。

第7条 専門委員及び臨時専門委員は、委員会の指名により、前条の分科会のいずれかに分属するものとする。

第8条 各分科会に属する専門委員により分科会長として互選された者は、各分科会の会務を掌理する。

2 分科会長に事故があるときは、その分科会に属する専門委員のうちから分科会長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。

第9条 審議会は、その定めるところにより、分科会の議決又は2以上の分科会の合同の議決をもつて、審議会の議決とすることができる。

（部会）

第10条 第6条の分科会は、その定めるところにより、部会を置くことができる。

2 部会に属すべき専門委員及び臨時専門委員は、分科会長が指名する。

3 各部会に属する専門委員により部会長として互選された者は、各部会の会務を掌理する。

4 分科会は、その定めるところにより、部会の議決又は2以上の部会の合同の議決をもつて、分科会の議決とすることができる。

（議事）

第11条 審議会は、専門委員及び議事に関係のある臨時専門委員の過半数が出席しなければ、議事を開き議決をすることができない。

2 審議会の議事は、出席した専門委員及び議事に関係のある臨時専門委員の過半数をもつて決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

3 前2項の規定は、分科会又は部会の議事及び2以上の分科会又は部会の合同の議事に準用する。この場合において、2以上の分科会又は部会の合同の議事を整理する会長には、それぞれ審議会又はその部会を置いた分科会の定めるところにより、その分科会又は部会の会長のうちの1人が当るものとする。

（庶務）

第12条 審議会の庶務は、委員会事務局において処理する。

（雑則）

第13条 この政令に定めるもののほか、審議会の議事の

手続その他その運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附 則

この政令は、公布の日から施行する。

附 則（第1次改正の附則）

この政令は、公布の日から施行し、第12条の改正規定は、昭和27年8月1日から適用する。

附 則（第2次改正の附則）

この政令は、昭和29年7月1日から施行する。

文化財専門審議会議事規則

（昭和30年3月15日総会決定）

第1条 文化財専門審議会令に規定するもののほか、文化財専門審議会（以下「審議会」という。）の議事の手続その他その運営に関し必要な事項は、この規定の定めるところによる。

第2条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。

2 1の議案につき、2以上の分科会長が、それぞれ当該分科会の議を経て会議の招集を請求したときは、会長は、会議を招集しなければならない。

第3条 会長は、会議の議長となり、議事を整理する。

第4条 会長及び副会長とともに事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が会長の職務を代理する。

第5条 発言しようとする者は、議長の許可を受けなければならない。

第6条 建議案を提出しようとする者は、案を作り、3人以上の賛成者と連署して、会長に差し出さなければならない。

第7条 修正の動議を提出しようとする者は、案を作り、議長に差し出さなければならない。ただし、輕易な修正については、口頭で述べることができる。

第8条 動議は、賛成がなければ、議題とすることができない。

第9条 議事の採決は、起立又は挙手によつてきめる。ただし、議決により、記名投票又は無記名投票によつて行うことができる。

第10条 文化財保護委員会の委員及び事務局職員は、会議において、発言することができる。

第11条 第2条第1項、第3条から第5条まで及び第7条から第10条までの規定は、分科会及び部会の会議について準用する。

第12条 2以上の分科会の合同の議事を整理する会長は、当該2以上の分科会の会長が協議して定める。

第13条 1の分科会に分属する専門委員は、他の分科会又は他の分科会の部会の会議に出席して意見を述べることができる。

2 前項の場合には、他の分科会又は他の分科会の部会

に出席することについて、当該他の分科会又は他の分科会の部会の会長の承認を得なければならない。

第14条 審議会に、幹事及び書記を置く。

第15条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

文化財専門審議会常任委員会設置規則

(昭和30年3月15日総会決定)

第1条 文化財専門審議会（以下「審議会」という。）に、その能率的かつ一体的運営を期するため、常任委員会を置く。

第2条 常任委員会は、前条の目的を達成するため、左に掲げる事項をつかさどる。

- 一 審議会から附託された事項の調査審議
- 二 審議会から附託された建議案の作成
- 三 審議会から審議会に代つて議決することを附託された事項についての議決
- 四 分科会相互間の連絡調整

第3条 常任委員会は、次に掲げる者をもつて組織する。

- 一 審議会会長
- 二 審議会副会長
- 三 審議会副会長代理
- 四 分科会長
- 五 分科会長代理
- 六 部会長

第4条 常任委員会に会長及び副会長を置き、それぞれ審議会の会長及び副会長がこれに当るものとする。

第5条 分科会長である常任委員会の委員は、分科会の分掌事項に関する調査審議の経過及び結果を常任委員会に報告するものとする。

第6条 文化財保護委員会委員並びに議事に関係のある専門委員及び臨時専門委員並びに事務局職員は、常任委員会において発言をすることができる。

第7条 常任委員会の会長は、第2条の事項に関する調査審議の経過及び結果を審議会に報告しなければならない。

第8条 文化財専門審議会議事規則第2条第1項、第3条から第5条まで、第7条から第9条まで及び第14条の規定は、常任委員会について準用する。

第9条 この規則に定めるもののほか、常任委員会の運営に関し必要な事項は、常任委員会の会長が定める。

文化財専門審議会諮問事項等取扱規則

(昭和30年3月15日総会決定)

第1条 文化財専門審議会（以下「審議会」という。）に対する文化財保護委員会（以下「委員会」という。）の諮問

事項及び委員会に対する審議会の建議の取扱については、この規則の定めるところによる。

第2条 審議会に対する委員会の諮問事項で次に掲げるものは、審議会の総会の議決事項とする。

- 一 国宝及び重要文化財の指定基準の制定改廃
- 二 特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物の指定基準の制定改廃
- 三 重要民俗資料の指定基準の制定改廃
- 四 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗資料の選択基準の制定改廃
- 五 重要無形文化財の指定及び保持者の認定の基準の制定改廃
- 六 記録作成等の措置を講ずべき無形文化財の選択基準の制定改廃
- 七 前各号に掲げる事項のほか、審議会の会長が総会において議決すべきものと認める事項

第3条 審議会に対する委員会の諮問事項のうち国宝の指定及びその指定の解除に係るものは、第1分科会及び第2分科会の合同の議決事項とする。ただし、前条第7号の適用がある場合を除く。

2 前項の議決事項が第1分科会及び第2分科会以外の分科会の分掌事項に関連する場合には、審議会の会長が第1分科会長及び第2分科会長並びに当該関係分科会長と協議して指定する三以上の分科会の合同の議決事項とする。

第4条 審議会に対する委員会の諮問事項で次に掲げるものは、分科会の分掌事項に応じて、1の分科会の議決事項又は審議会の会長が関係分科会長と協議して指定する2以上の分科会の合同の議決事項とする。ただし、第25号を除く各号に掲げる事項については、第2条第7号の適用がある場合を除く。

- 一 重要文化財の指定及びその指定の解除
- 二 重要文化財（国宝を含む。以下同じ。）の管理又は国宝の修理に関する命令
- 三 委員会による国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行
- 四 重要文化財の現状変更の許可
- 五 前号の許可又はその許可の取消の権限の都道府県教育委員会への委任
- 六 重要文化財の輸出の許可
- 七 重要文化財の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令
- 八 重要文化財の買取
- 九 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の指定及びその指定の解除
- 十 史跡名勝天然記念物の仮指定の解除
- 十一 史跡名勝天然記念物（特別史跡名勝天然記念物を含む。以下同じ。）の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に関する命令
- 十二 委員会による特別史跡名勝天然記念物の復旧又

美術関係法規

は滅失、き損、衰亡若しくは盗難の防止の措置の施行

十三 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可

十四 前号の許可又はその許可の取消の権限の都道府県の教育委員会への委任

十五 史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令

十六 史跡名勝天然記念物の無断現状変更等の行われた場合の原状回復の命令

十七 重要民俗資料の指定及びその指定の解除

十八 重要民俗資料の管理に関する命令

十九 重要民俗資料の買取

二十 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗資料の選択

二十一 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行

二十二 重要無形文化財の指定及びその指定の解除

二十三 重要無形文化財の保持者の認定及びその認定の解除

二十四 記録作成等の措置を講ずべき無形文化財の選択

二十五 前各号に掲げる事項のほか、審議会の会長が分科会において議決すべきものと認める事項

第5条 前2項の議決を行う場合において、分科会は、必要と認めるときは、他の分科会又は他の分科会の部会の意見を求めることができる。

第6条 委員会に対する審議会の建議は、審議会の総会の議決事項とする。

第7条 審議会の総会の議決事項は、関係分科会においてあらかじめ審議するものとする。

第1分科会における部会の設置及び議決事項の取扱に関する規程

(昭和29年11月19日)
第1分科会決定

第1条 第1分科会に左表上欄に掲げる部会を置き、各部会の分掌事項は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

部会の名称	分掌事項
絵画彫刻部会	絵画又は彫刻である有形文化財に関する事項
工芸品部会	工芸品である有形文化財に関する事項
書跡部会	書跡典籍又は、古文書である有形文化財に関する事項
考古部会	考古資料に関する事項

第2条 左に掲げる第1分科会の議決事項で第1分科会会長が緊急に処理することを要すると認めるもの及び文

化財専門審議会の会長が第1分科会において議決すべきものと認めた事項のうち第1分科会会長が部会において議決すべきものと認めるものは、部会の分掌事項に応じて、1の部会の議決事項又は第1分科会会長が部会長と協議して指定する2以上の部会の合同の議決事項とする。

一 重要文化財(国宝を含む。以下同じ。)の管理又は国宝の修理に関する命令

二 重要文化財の輸出の許可

三 重要文化財の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令

四 重要文化財の買取

第3条 第1分科会の議決事項は、関係部会においてあらかじめ審議するものとする。

第3分科会における部会の設置及び議決事項の取扱に関する規程

(昭和29年11月19日)
第3分科会決定

第1条 第3分科会に左表上欄に掲げる部会を置き、各部会の分掌事項は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

部会の名称	分掌事項
史跡部会	記念物のうち貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡に関する事項
名勝部会	記念物のうち庭園、橋りょう、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地に関する事項
天然記念物部会	記念物のうち動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む。)、植物(自由地を含む。及び地質鉱物(特異な自然の現象の生じている土地を含む。))に関する事項
民俗資料部会	民俗資料に関する事項
埋蔵文化財部会	埋蔵文化財に関する事項

第2条 左に掲げる第3分科会の議決事項で第4分科会会長が緊急に処理することを要すると認めるもの及び第3号に掲げる事項でその程度が軽いもの並びに文化財専門審議会の会長が第3分科会において議決すべきものと認めた事項のうち第3分科会会長が部会において議決すべきものと認めるものは、部会の分掌事項に応じて、1の部会の議決事項又は第3分科会会長が部会長と協議して指定する2以上の部会の合同の議決事項とする。

一 史跡名勝天然記念物の仮指定の解除

二 史跡名勝天然記念物(特別史跡名勝天然記念物を含む。以下同じ。)の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に関する命令

- 三 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可
 四 史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令
 五 史跡名勝天然記念物の無断現状変更等の行われた場合の原状回復の命令
 六 重要民俗資料の管理に関する命令
 七 重要民俗資料の買取
 八 文化財保護委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行

第3条 第3分科会の議決事項は、関係部会においてあらかじめ審議するものとする。

第4分科会における部会の設置及び議決事項の取扱に関する規程

(昭和31年3月26日)
 (第4分科会決定)

第1条 第4分科会に左表上欄に掲げる部会を置き、各部会の分掌事項は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

部会の名称	分 掌 事 項
芸 能 部 会	無形文化財のうち、音楽、舞踊、演劇その他の芸能に関する事項
工芸技術部会	無形文化財のうち陶芸、染織、漆芸、金工その他の工芸技術及び有形文化財の修理、模写、模造等の技術、規矩術等の建築術その他美術に関する技術に関する事項
技 能 部 会	無形文化財のうち教養、趣味、嗜好、生活、遊戯その他に関する技能に関する事項

第2条 文化財専門審議会の会長が第4分科会において議決すべきものと認めた事項のうち第4分科会長が部会において議決すべきものと認めるものは、部会の分掌事項に応じて、部会の議決事項とする。

第3条 第4分科会の議決事項は、関係部会においてあらかじめ審議するものとする。

文化財専門審議会委員名簿

会 長 原 田 淑 人
 副 会 長 小 宮 豊 隆
 副 会 長 代 理 石 田 幹 之 助

第1分科会

分 科 会 長 和 辻 哲 郎
 分 科 会 長 代 理 藤 田 亮 策
 (臨) 瓜 生 順 良

絵画彫刻部会

部 会 長 米 沢 嘉 圓
 部 会 長 代 理 田 中 一 松
 相 見 繁 一
 野 間 清 六
 福 井 利 吉 郎

(兼)

(兼)

(臨・兼)

工 芸 品 部 会

部 会 長

部 会 長 代 理

(兼)

(兼)

(兼)

(兼)

書 跡 部 会

部 会 長

部 会 長 代 理

(臨)

考 古 部 会

部 会 長

部 会 長 代 理

(兼)

(兼)

第2分科会

分 科 会 長

分 科 会 長 代 理

丸 尾 彰 三 郎
 山 口 三 郎
 和 辻 哲 郎
 脇 本 十 九 郎
 神 田 喜 一 郎
 田 沢 坦 美
 田 中 親 美

松 田 権 六 坦
 田 沢 盛 彦
 尾 崎 洵 蔵
 太 田 英 正
 香 取 正 彦
 河 瀬 虎 三 郎
 竜 村 謙 郎
 溝 口 三 郎
 宮 形 武 次
 吉 野 富 雄
 石 田 茂 作
 末 永 雅 雄
 水 町 和 三 郎
 脇 本 十 九 郎

石 田 幹 之 助
 岩 橋 小 弥 太 郎
 神 田 喜 一 郎
 西 田 直 二 美
 久 松 潜 親
 田 中

八 幡 一 郎
 藤 田 亮 策
 石 田 茂 作
 末 永 雅 雄
 水 野 清 一
 梅 原 末 治 人
 原 田 淑 人

藤 島 支 治 郎
 堀 口 捨 巳
 大 岡 実 一
 岸 田 日 出 刀
 古 宇 田 実 一
 下 村 寿 克
 関 野 泰 郎
 田 辺 吉 郎
 谷 口 敏 男
 福 山

美術関係法規

(兼)	村田和青	田中辻木	治一哲楠	郎松郎男	(兼)	末長原福水八	永谷田山野幡	雅部淑敏清一	雄人人男一郎
(兼)					(兼)				
(臨)					(兼)				
第3分科会					(兼)				
分科会長	籀坂瓜賀畠山福小岡関小沼	木本生屋中崎井室本盛金田	外太順正順政恆吉健政	雄郎良雄一斉男夫悟雄男矩	(兼)				
分科会長代理					民俗資料部会	長岡金今桜渋西柳田本八	谷部正一和勝敬正国尚安一	言京次	人雄助郎徳三慶男雄次郎
(臨・兼)					部会長代理				
(臨)									
(臨)									
(臨)									
(臨)									
(臨)									
(臨)									
(臨)									
(臨)									
史跡部会	坂原石梅長藤	本田原谷島田	太淑茂末言治亮	郎人作治人郎策	(兼)	久河	保田竹	万繁	郎俊
部会長					(兼)				
部会長代理					第4分科会	河加久小田高土中新野花浜本町三吉西柳安齊瓜	竹藤成万豊尚歳善祐良戒三米安嘉太義正国季順	繁成万豊尚歳善祐良戒三米安嘉太義正国季順	俊之郎隆雄雄磨吉三三郎蔵次章郎雄慶男巖正良
(兼)					分科会長				
(兼)					分科会長代理				
(兼)					芸能部会				
(兼)					部会長代理				
(兼)									
名勝部会	吉辻関辻谷堀本赤徳	永村口	義太	信郎郎永郎已次雄敬	(兼)				
部会長					(兼)				
部会長代理					(臨)				
(兼)					(臨)				
(兼)					(臨)				
(兼)					(臨・兼)				
天然記念物部会	本渡内籀黒佐藤吉辻	田辺清外田竹本井村	正武之岐長義治義太	次男助雄礼輔義次郎	工芸技術部会	西野浜水太香	沢口田町取	昂真象三英正	一造二郎蔵彦
部会長					部会長代理				
部会長代理									
(兼)									
埋蔵文化財部会	藤駒梅石	田井原田	亮和末茂	策愛治作	(兼)				
部会長(兼)					(兼)				
部会長代理									
(兼)									

(兼)	竜	村	謙
(兼)	松	田	権
(兼)	溝	口	三
(兼)	宮	形	武
(臨)	長	野	松
			蔵

文化財保護委員会事務局内部組織

(文部省組織令抄)

(昭和27年8月30日 政令第387号 以下中間)
(改正政令省略)
(昭和34年6月30日 政令第229号改正)

第2章 文化財保護委員会事務局

(事務局の分課)

第49条 文化財保護委員会事務局に左の6課及び文化財管理官1人を置く。

- 一 庶務課
- 二 会計課
- 三 記念物課
- 四 美術工芸課
- 五 建造物課
- 六 無形文化課

(庶務課)

第50条 庶務課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 文化財保護委員会(以下「委員会」という。)の機密に関すること。
- 二 委員会の公印を制定し、並びに委員長、事務局長及び次長の官印及び委員会印を管守すること。
- 三 委員会の組織及び定員に関すること。
- 四 委員会の職員の職階、任免、給与、分限、懲戒、服務その他の人事並びに教養及び訓練に関すること。
- 五 委員会に関する栄典及び表彰に関すること。
- 六 委員会の所管行政について総合調整を行うこと。
- 七 委員会の所掌事務に関する法令案を作成すること。
- 八 公文書類を審査し、接受し、発送し、編集し、及び保存すること。
- 九 委員会の所掌事務の監察に関すること。
- 十 委員会の政策の普及並びに文化財に関する知識の普及及び理解の徹底その他広報に関すること。
- 十一 委員会の所掌事務に関する会議、研究会その他の催しの主催又はこれらへの参加に関すること。
- 十二 文化財の保存又は活用に関する条約その他の国際約束の実施及び文化財の保存又は活用のための国際的諸活動に関すること。
- 十三 地方公共団体の行う文化財の保存及び活用のための措置に関し、教育委員会の報告を受け、及びこれに対し指導と助言を与えること。
- 十四 都道府県教育委員会その他の関係機関に対し、委員会の所掌事務に関する一般的、共通の事項

について連絡し、及び助言すること。

- 十五 委員会の所掌事務に関する民法(明治29年法律第89号)第34条に規定する法人に関する事務を処理すること。
- 十六 委員会に対する異議の申立及び委員会の行方聴聞に関する事務を処理すること。
- 十七 委員会の所掌事務に関する事項の官報掲載に関すること。
- 十八 委員会及び文化財専門審議会の会議その他庶務に関すること。
- 十九 国立博物館及び国立文化財研究所に関する事務を処理すること。
- 二十 委員会の所掌事務で他の所掌に属しない事務を処理すること。

(会計課)

第51条 会計課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 委員会の経費及び収入の予算、決算及び会計並びに会計の監査に関すること。
- 二 行政財産及び物品の管理に関すること。
- 三 国の所有又は占有に属する重要文化財(国宝を含む。以下第53条第1号及び第54条第1号の場合を除き同様とする。)、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物(特別史跡名勝天然記念物を含む。以下同じ。)の管理について連絡調整すること。
- 四 委員会の管理する事務所等の営繕に関すること。
- 五 委員会の職員の衛生、医療その他福利厚生に関すること。
- 六 委員会の職員の共済組合に関すること。
- 七 委員会の職員に貸与する国設宿舎に関する事務を処理すること。
- 八 庁内の取締に関すること。
- 九 委員会の所掌事務に関する物資の割当及びあつ旋その他物資の確保についての総括に関すること。

(記念物課)

第52条 記念物課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 重要民俗資料、史跡、名勝、天然記念物、特別史跡、特別名勝又は特別天然記念物の指定及びその解除に関すること。
- 二 無形の民俗資料のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきものの選択に関すること。
- 三 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物の管理又は修理若しくは復旧についての命令、勧告、指示及び指揮監督に関すること。但し、建造物課の所掌に属するものを除く。
- 四 特別史跡名勝天然記念物の復旧及び滅失、き損、盗難又は喪失の防止の措置の施行に関すること。
- 五 重要民俗資料の現状変更及び輸出についての届出に関すること。

美術関係法規

- 六 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可及び史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令に関すること。
- 七 史跡名勝天然記念物についての原状回復の命令に関すること。
- 八 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物についての調査並びに史跡名勝天然記念物の調査のために必要な措置の施行に関すること。
- 九 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物の管理又は復旧についての届出に関すること。
- 十 重要民俗資料の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び届出に関すること。
- 十一 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた重要民俗資料の管理又は修理に関すること。
- 十二 管理又は復旧の委託を受けた史跡名勝天然記念物の管理又は復旧に関すること。
- 十三 無形の民俗資料の記録の作成等の実施に関すること。
- 十四 遺跡発見の届出に関すること。
- 十五 埋蔵文化財に係る土地の発掘に関する届出、指示及び命令に関すること。
- 十六 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行に関すること。
- 十七 埋蔵物として委員会に提出された物件の鑑査に関すること。
- 十八 埋蔵物として委員会に提出された文化財で国庫に帰属したものの譲与及び譲渡に関すること。
- 十九 国の所有又は占有に属する重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物並びに埋蔵物として委員会に提出された文化財で国庫に帰属したものの管理、修理及び復旧に関すること。
- 二十 重要民俗資料、選択された無形の民俗資料及び史跡名勝天然記念物に関する台帳の整備に関すること。
- 二十一 民俗資料、記念物及び埋蔵文化財に関し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。
- 二十二 有形の民俗資料、記念物及び埋蔵文化財に関する記録、写真、複写及び複製に関すること。

(美術工芸課)

- 第53条 美術工芸課においては、左の事務をつかさどる。
- 一 建造物以外の有形文化財（以下「美術工芸品」という。）としての国宝又は重要文化財の指定及びその解除に関すること。
 - 二 刀剣類の製作の承認に関すること。
 - 三 美術品若しくは骨とう品として価値のある火なわ式銃砲又は美術品として価値のある刀剣類の登録に関すること。
 - 四 美術工芸品である重要文化財の管理又は修理についての命令、勧告、指示及び指揮監督に関すること。

- と。但し、建造物課の所掌に属するものを除く。
- 五 美術工芸品である国宝の修理及び滅失、き損又は盗難の防止の措置の施行に関すること。
- 六 美術工芸品である重要文化財の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び許可に関すること。
- 七 美術工芸品である重要文化財の現状変更及び輸出の許可並びにその環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令に関すること。
- 八 重要文化財の輸出の禁止の確保に関すること。
- 九 美術工芸品である重要文化財についての調査に関すること。
- 十 美術工芸品である重要文化財の管理又は修理についての届出に関すること。
- 十一 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた美術工芸品である重要文化財の管理又は修理に関すること。
- 十二 国の所有又は占有に属する美術工芸品である重要文化財の管理又は修理に関すること。
- 十三 美術工芸品である重要文化財に関する台帳の整備に関すること。
- 十四 美術工芸品に関し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。
- 十五 美術工芸品に関する記録、写真複写および複製に関すること。
- 十六 文化財保護法（昭和25年法律第214号）第116条の規定によりなおその効力を有する旧重要美術品等の保存に関する法律（昭和8年法律第43号。以下「旧法」という。）の施行に関する事務のうち美術工芸品に関するものを処理すること。

(建造物課)

- 第54条 建造物課においては、左の事務をつかさどる。
- 一 建造物としての国宝又は重要文化財の指定及びその解除に関すること。
 - 二 建造物である重要文化財の管理又は修理についての命令、勧告、指示及び指揮監督に関すること。
 - 三 建造物である国宝の修理及び滅失、き損又は盗難の防止の措置の施行に関すること。
 - 四 建造物である重要文化財の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び許可に関すること。
 - 五 建造物である重要文化財の現状変更及び輸出の許可並びにその環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令に関すること。
 - 六 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理のための防火施設その他の保存施設に関する命令、勧告、指示及び指揮監督並びに文化財の防火施設その他の保存施設に関する専門的、技術的な指導と助言に関すること。
 - 七 建造物である重要文化財についての調査に関すること。

- 八 建造物である重要文化財の管理又は修理についての届出に関すること。
- 九 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた建造物である重要文化財の管理又は修理に関すること。
- 十 国の所有又は占有に属する建造物である重要文化財の管理又は修理に関すること。
- 十一 建造物である重要文化財に関する台帳の整備に関すること。
- 十二 建造物に関し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。
- 十三 建造物に関する記録、写真及び複製に関すること。
- 十四 旧法の施行に関する事務のうち建造物に関するものを処理すること。

(無形文化財)

第55条 無形文化財においては、左の事務をつかさどる。

- 一 重要無形文化財の指定及びその解除に関すること。
- 二 重要無形文化財の保持者の認定及びその解除に関すること。
- 三 重要無形文化財以外の無形文化財のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきものの選択に関すること。
- 四 重要無形文化財の保持者に関する届出に関すること。
- 五 重要無形文化財についての記録の作成、伝承者の養成その他その保存のための措置の実施に関すること。
- 六 重要無形文化財の公開及び重要無形文化財の記録の公開についての勧告及び承認に関すること。
- 七 重要無形文化財の保存に関し、助言と勧告を与えること。
- 八 無形文化財の記録の作成等の実施に関すること。
- 九 文化財の修理技術者の養成に関すること。
- 十 重要無形文化財及び選択された無形文化財に関する台帳の整備に関すること。

(文化財管理官)

第56条 文化財管理官は、左の事務をつかさどる。

- 一 重要文化財についての国庫補助、国庫負担及び損害補償に関すること。
- 二 重要無形文化財についての国庫補助、国庫負担及び損害補償並びに重要無形文化財以外の無形文化財についての国庫補助に関すること。
- 三 重要民俗資料についての国庫補助、国庫負担及び損害補償並びに無形の民俗資料についての国庫補助に関すること。
- 四 史跡名勝天然記念物についての国庫補助、国庫負担及び損害補償に関すること。

- 五 重要文化財及び重要民俗資料の出品に対する給与金に関すること。
- 六 重要文化財及び重要民俗資料の買取に関すること。
- 七 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行に係る損害補償に関すること。
- 八 埋蔵文化財の発見に対する報償金に関すること。
- 九 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を管理すべき地方公共団体その他法人の指定及びその解除に関すること。
- 十 委員会の権限の委任に関する事務を処理すること。
- 十一 文化財の保存及び活用に関する一般的統計調査に関すること。
- 十二 文化財に関する調査研究の委託に関すること。

附 則

1 この政令は、昭和27年9月1日から施行する。

2 略

文化財保護委員会事務局

局 長	清水 康平
次 長	関野 房夫
庶務課長	西森 馨
会計課長	細川 可賀
記念物課長	滝本 邦彦
美術工芸課長	松下 隆章
建造物課長	服部 勝吉
無形文化課長	内山 正
文化財管理官	宮沢 武司

東京国立博物館組織

(昭和26年1月31日)
(文化財保護委員会規則第4号)

- 沿革 昭和27年文化財保護委員会規則第2号(第1次改正)
- 昭和27年文化財保護委員会規則第9号(第2次改正)

文化財保護法(昭和25年法律第214号)第22条第4項の規定に基づき、東京国立博物館組織規程を次のように定める。

東京国立博物館組織規程

(東京国立博物館の組織)

第1条 東京国立博物館(以上「東京博物館」という。)の所掌事務を分掌せしめるため、左の2部を置く。

庶務部
学芸部

(庶務課の分課)

第2条 庶務部に左の3課を置く。

管理課
会計課

美術関係法規

普及課

(管理課の所掌事務)

第3条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 機密に関すること。
- 二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における、職員の人事に関すること。
- 三 公文書類の接受、発送、編集及び保存に関すること。
- 四 公印を管守すること。
- 五 東京国立博物館評議員会に関すること。
- 六 警備に関すること。
- 七 翻訳、通訳その他渉外に関すること。
- 八 他部課の所掌に属さない事務を処理すること。
- 九 東京博物館の所掌事務の総合調整に関すること。

(会計課の所掌事務)

第4条 会計課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 予算案の準備等予算に関すること。
- 二 経費及び収入の決算その他会計に関すること。
- 三 行政財産及び物品の管理に関すること。
- 四 営繕に関すること。
- 五 職員の福利厚生に関すること。

(普及課の所掌事務)

第5条 普及課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 この館の事業を行うために必要な美術及び歴史に関する知識の普及に関すること。
 - 二 外国人に対しこの館の事業に関する美術及び歴史資料を解説すること。
 - 三 この館の事業に関する出版物の刊行及び頒布に関すること。
 - 四 その他この館の事業の普及宣伝に関すること。
- 2 普及課が前項各号の事務を行うに当つては、学芸部各課の助言を得、又は学芸部各課と連絡して処理するものとする。

(学芸部の分課)

第6条 学芸部に左の4課を置く。

美術課
工芸課
考古課
資料課

(美術課の4室及び所掌事務)

第7条 美術課に、美術課の所掌事務を分掌せしめるため、絵画室、彫刻室、書跡室及び建築室の4室を置く。

- 2 絵画室、彫刻室、書跡室及び建築室の4室は、それぞれ絵画、彫刻、書跡及び建築に関する陳列品の収集保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

(工芸課の5室及び所掌事務)

第8条 工芸課に、工芸課の所掌事務を分掌せしめるため、金工室、刀剣室、陶磁室、漆工室及び染織室の5室を置く。

- 2 金工室、刀剣室、陶磁室、漆工室及び染織室の5室は、それぞれ金工、刀剣、陶磁、漆工及び染織に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

(考古課の4室及び所掌事務)

第9条 考古課に、考古課の所掌事務を分掌せしめるため、先史室、原史室、有史室及び土俗室の4室を置く。

- 2 先史室、原史室、有史室及び土俗室の4室は、それぞれ先史考古、原史考古、有史考古及び土俗に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

(資料課の4室及び所掌事務)

第10条 資料課に、資料課の所掌事務を分掌せしめるため、庶務室、資料室、図書室及び写真室の4室を置く。

- 2 庶務室は、学芸部の一般庶務をつかさどる。
- 3 資料室は、図書以外の資料の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。
- 4 図書室は、図書の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。
- 5 写真室は、写真の作成、収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。
- 6 資料課がその所掌事務を行うに当つては、学芸部各課と連絡して処理するものとする。

(館長及び次長)

第11条 東京博物館に館長及び次長を置く。

- 2 館長は、館務を総理する。
- 3 次長は、館長を助けて館務を処理する。

(東京国立博物館評議員会)

第12条 東京博物館に東京国立博物館評議員会(以下「評議員会」という。)を置く。

- 2 評議員会は、館長の諮問に応じて、東京博物館の重要事項について調査審議するのほか、東京博物館の重要事項について館長に助言するものとする。
- 3 評議員会は、20人以内の評議員で組織する。
- 4 評議員は、学識経験のあるもののうちから、文化財保護委員会が任命する。
- 5 評議員の任期は、2年とする。
- 6 この規則に定めるもののほか、評議員会の議事その他運営に関し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行し、昭和25年8月29日から適用する。

附 則 (第1次改正の附則)

この規則は、昭和27年4月1日から施行する。

附 則 (第2次改正の附則)

この規則は、公布の日から施行し、昭和27年8月1日から適用する。

京都国立博物館組織

(昭和27年3月25日)
文化財保護委員会規則第3号

文化財保護法(昭和25年法律第214号)第22条第4項の規定に基づき、京都国立博物館組織規程を次のように定める。

京都国立博物館組織規程

(京都国立博物館の組織)

第1条 京都国立博物館(以下「京都博物館」という。)の所掌事務を分掌させるため、左の2課を置く。

管理課

学芸課

(管理課の所掌事務)

- 第2条 管理課においては、左の事務をつかさどる。
- 一 機密に関すること。
 - 二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。
 - 三 公文書類の接受、発送、編集及び保存に関すること。
 - 四 公印を管掌すること。
 - 五 京都国立博物館評議員会に関すること。
 - 六 翻訳、通訳、その他渉外に関すること。
 - 七 予算案の準備等予算に関すること。
 - 八 経費及び収入の決算その他会計に関すること。
 - 九 行政財産及び物品の管理に関すること。
 - 十 営繕に関すること。
 - 十一 職員の福利厚生に関すること。
 - 十二 警備に関すること。
 - 十三 他課の所掌に属さない事務を処理すること。
 - 十四 京都博物館の所掌事務の総合調整に関すること。

(学芸課の5室及び所掌事務)

第3条 学芸課に、学芸課の所掌事務を分掌させるため、左の5室を置く。

普及室

美術室

工芸室

考古室

資料室

- 2 普及室においては、この館の事業に関する出版物の刊行及び頒布、この館の事業を行うために必要な美術及び歴史に関する知識の普及その他この館の事業の普及宣伝に関する事務をつかさどる。
- 3 美術室においては、絵画、彫刻、書跡及び建築に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。
- 4 工芸室においては、金工、刀剣、陶磁、漆工及び染

織に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

- 5 考古室においては、先史考古、原史考古、有史考古及び土俗に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

- 6 資料室においては、写真の作製並びに図書、写真その他資料の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

(館長及び次長)

第4条 京都博物館に館長及び次長を置く。

2 館長は、館務を総理する。

3 次長は、館長を助けて館務を処理する。

(京都国立博物館評議員会)

第5条 京都博物館に京都国立博物館評議員会(以下「評議員会」という。)を置く。

2 評議員会は、館長の諮問に応じて、京都博物館の重要事項について調査審議するのほか、京都博物館の重要事項について館長に助言するものとする。

3 評議員会は、15人以内の評議員で組織する。

4 評議員は、学識経験のあるもののうちから、文化財保護委員会が任命する。

5 評議員の任期は、2年とする。

6 この規則に定めるもののほか、評議員会の議事その他運営に関し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附 則

この規則は、昭和27年4月1日から施行する。

奈良国立博物館組織

(昭和27年8月14日)
文化財保護委員会規則第8号

文化財保護法(昭和25年法律第214号)第22条第4項の規定に基づき、奈良国立博物館組織規程を次のように定める。

奈良国立博物館組織規程

(奈良国立博物館の組織)

第1条 奈良国立博物館(以下「奈良博物館」という。)の所掌事務を分掌させるため、左の2課を置く。

管理課

学芸課

(管理課の所掌事務)

第2条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

一 機密に関すること。

二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。

三 公文書類の接受、発送、編集及び保存に関すること。

美術関係法規

- 四 公印を管掌すること。
- 五 奈良国立博物館評議員会に関すること。
- 六 内外文化の交流その他国際文化に関すること。
- 七 予算案の準備等予算に関すること。
- 八 経費及び収入の決算その他会計に関すること。
- 九 行政財産及び物品の管理に関すること。
- 十 営繕に関すること。
- 十一 職員の福利厚生に関すること。
- 十二 警備に関すること。
- 十三 他課の所掌に属さない事務を処理すること。
- 十四 奈良博物館の所掌事務の総合調整に関すること。

(学芸課の5室及び所掌事務)

第3条 学芸課に、学芸課の所掌事務を分掌させるため、左の5室を置く。

普及室
美術室
工芸室
考古室
資料室

- 2 普及室においては、この館の事業に関する出版物の刊行及び頒布、この館の事業を行うために必要な美術及び歴史に関する知識の普及その他この館の事業の普及宣伝に関する事務をつかさどる。
- 3 美術室においては、絵画、彫刻、書跡及び建築に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。
- 4 工芸室においては、金工、刀剣、陶磁、漆工及び染織に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。
- 5 考古室においては、先史考古、原史考古、有史考古及び土俗に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。
- 6 資料室においては、写真の作成並びに図書、写真その他資料の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

(館長及び次長)

第4条 奈良博物館に館長を置く。館長は、館務を総理する。

- 2 奈良博物館に次長を置くことができる。次長は、館長を助けて館務を処理する。

(奈良国立博物館評議員会)

第5条 奈良博物館に奈良国立博物館評議員会(以下「評議員会」という。)を置く。

- 2 評議員会は、館長の諮問に応じて、奈良博物館の重要事項について調査審議するのほか、奈良博物館の重要事項について館長に助言するものとする。
- 3 評議員会は、十五人以内の評議員で組織する。

- 4 評議員は、学識経験のあるもののうちから、文化財保護委員会が任命する。
- 5 評議員の任期は、2年とする。
- 6 この規則に定めるもののほか、評議員会の議事その他運営に関し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行し、昭和27年8月1日から適用する。

東京国立文化財研究所組織

(昭和27年3月25日)
(文化財保護委員会規則第4号)

沿革 昭和29年文化財保護委員会規則第1号(第1次改正)

文化財保護法(昭和25年法律第214号)第23条第4項の規定に基づき、東京国立文化財研究所組織規程を次のように定める。

東京国立文化財研究所組織規程

(東京国立文化財研究所の組織)

第1条 東京国立文化財研究所の所掌事務を分掌させるため、左の3部及び1室を置く。

美術部
芸能部
保存科学部
庶務室

(美術部の3室及び所掌事務)

第2条 美術部に、美術部の所掌事務を分掌させるため、第1研究室、第2研究室及び資料室の3室を置く。

- 2 第1研究室においては、わが国の上代、中世及び近世の美術並びに東洋美術の調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。
- 3 第2研究室においては、わが国の近代及び現代の美術並びに西洋美術の調査研究並びにその結果の公表に関する事務のほか、黒田記念室に関する事務をつかさどる。
- 4 資料室においては、美術研究資料の作成、収集、整理、保管、公表及び閲覧並びに美術研究資料に関する写真の作成及びその原板の保管並びにエックス線写真、赤外線写真、紫外線写真その他の特殊写真による美術の研究に関する事務をつかさどる。

(芸能部の3室及び所掌事務)

第3条 芸能部に、芸能部の所掌事務を分掌させるため、演劇研究室、音楽舞踊研究室及び郷土芸能研究室の3室を置く。

- 2 演劇研究室においては、演劇及びその保存に関する調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

3 音楽舞踊研究室においては、音楽及び舞踊並びにその保存に関する調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

4 郷土芸能研究室においては、郷土芸能及びその保存に関する調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

(保存科学部の3室及び所掌事務)

第4条 保存科学部に、保存科学部の所掌事務を分掌させるため、化学研究室、物理研究室及び生物研究室の3室を置く。

2 化学研究室においては、文化財及びその保存に関する化学的及び分析的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

3 物理研究室においては、文化財及びその保存に関する物理学的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

4 生物研究室においては、文化財及びその保存に関する生物学的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

(庶務室の所掌事務)

第5条 庶務室においては、左の事務をつかさどる。

一 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。

二 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。

三 経費及び収入の予算、決算その他会計に関すること。

四 行政財産及び物品の管理に関すること。

五 職員の福利厚生に関すること。

附 則

1 この規則は、昭和27年4月1日から施行する。

2 美術研究所組織規程(昭和26年文化財保護委員会規則第5号)は、廃止する。

附 則

この規則は、昭和29年7月1日から施行する。

奈良国立文化財研究所組織

(昭和27年3月25日)

(文化財保護委員会規則第5号)

沿革 昭和29年文化財保護委員会規則第1号(第1次改正)

文化財保護法(昭和25年法律第214号)第23条第4項の規定に基づき、奈良国立文化財研究所組織規程を次のように定める。

奈良国立文化財研究所組織規程

(奈良国立文化財研究所の組織)

第1条 奈良国立文化財研究所の所掌事務を分掌させるため、左の四室を置く。

美術工芸研究室

建造物研究室

歴史研究室

庶務室

(美術工芸研究室の所掌事務)

第2条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他建造物以外の有形文化財並びに工芸技術に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(建造物研究室の所掌事務)

第3条 建造物研究室においては、建造物に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(歴史研究室の所掌事務)

第4条 歴史研究室においては、考古及び史跡に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(庶務室の所掌事務)

第5条 庶務室においては、左の事務をつかさどる。

一 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。

二 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。

三 経費及び収入の予算、決算その他会計に関すること。

四 行政財産及び物品の管理に関すること。

五 職員の福利厚生に関すること。

附 則

この規則は、昭和27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、昭和29年7月1日から施行する。

国立文化財研究所受託規程

(昭和34年4月30日)
(文化財保護委員会告示第14号)

(趣旨)

第1条 国立文化財研究所(以下「研究所」という。)が委託により行い文化財に関する科学的調査研究(以下「研究」という。)については、この規程の定めるところによる。

(委託の申込)

第2条 研究所に研究を委託しようとする者は、第1号様式による研究委託申込書を国立文化財研究所長(以下「研究所長」という。)に提出しなければならない。

(受託)

第3条 研究所長は、前条の規定による委託の申込を承諾する場合には、第2号様式による研究受託承諾書を当該研究を委託する者(以下「委託者」という。)に交付する。

美術関係法規

(費用の負担)

第4条 委託者は、その委託にかかる研究を実施するために必要な次の各号に掲げる費用の合計額に相当する金額を負担しなければならない。

- 一 国家公務員等の旅費に関する法律(昭和25年法律第114号)及び文部省所管旅費規則(昭和25年文部省訓令)の規定による旅費
- 一 器具機械費、消耗品費、通信運搬費、賃金その他研究に要する経費

(費用の納入等)

第5条 委託者は、前条の規定により負担すべき費用を文化財保護委員会徴収官の発行する納入告知書により前納しなければならない。

2 研究所は、研究が終了した結果、前項の規定により納入した金額に過不足が生じた場合には、委託者にその額に相当する金額を返還し、又は納入させなければならない。

3 委託者が第1項の規定による費用を納入告知書に定める期限内に納入しないときは、委託を取消したものとみなす。

(研究の中止)

第6条 研究所は、研究所の業務に支障があるため、又は災害その他やむを得ない理由があるため研究の継続が困難となったときは、当該研究を中止することができる。この場合において、研究所長は、遅滞なくその旨を委託者に通知しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、研究所は、委託者の申出によりその委託にかかる研究を中止することができる。

3 研究所は、第1項の規定により、研究を中止した結果、前条第1項の規定により納入した金額に過剰を生じた場合には、その額に相当する金額を返還しなければならない。

(研究の結果の報告)

第7条 研究所長は、研究が終了し、若しくは中止されたときは、遅滞なくその結果を委託者に報告しなければならない。ただし、研究の過程において委託者の求めに応じて中間報告をすることができる。

(研究の結果の公表)

第8条 研究の結果の公表は、研究所が行う。

(損害賠償の免責)

第9条 研究所は、天災その他研究所の責に帰することができない理由によつて、研究に関し委託者の受ける損害については、その賠償の責を負わない。

(委託者の協力)

第10条 委託者は、研究所長の承認を得て、その委託にかかる研究に関し協力することができる。

附 則

この規程は、公布の日から施行し、昭和34年5月1日以後に行われる委託の申込から適用する。

(第1号様式)

研究委託申込書

昭和 年 月 日

国立文化財研究所長 殿

現住所

氏 名

印

国立文化財研究所研究受託規程に基づき、下記内容をもつて、文化財に関する科学的調査研究を委託したいので申込みます。

記

1. 題 目	
2. 目的及び内容	
3. 予算の範囲	
4. 器具、資材等提供の有無 (品名、数量、提供の時期等)	
5. 完成希望期限	
6. 公表猶予期限	
4. その他希望事項	

(第2号様式)

研究受託承諾書

昭和 年 月 日

殿

国立文化財研究所長

昭和 年 月 日付研究の委託の申込は、国立文化財研究所研究受託規程に基づき、下記条件をもつて、これを承諾します。

記

1. 題 目	
2. 担当者氏名	
3. 完了予定期日	
4. 所要費用相当額	
5. 所要費用納期	
6. 提供を要する器具ならびに資材 (品名、数量、提供の時期等)	
7. そ の 他	

文部省社会教育局芸術課

文部省組織令(抄)

昭和27年8月30日
政令第387号
以下中間改正政令省略
昭和34年6月30日政令第229号

(社会教育局の分課)

第23条 社会教育局に左の4課及び社会教育施設主任官1人を置く。

- 一 社会教育課
- 二 芸術課
- 三 視聴覚教育課
- 四 著作権課

(芸術課)

第26条 芸術課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 文学、音楽、美術、演劇その他の芸術及び国民娯楽に関し、左に掲げる事務を行うこと。
 - イ 情報資料の収集及び提供に関すること。
 - ロ 研究集会、講習会、展示会その他の催しの主催又はこれらへの参加に関すること。
 - ハ その他芸術及び国民娯楽の向上及び普及に関し、援助と助言を与えること。
- 二 国立近代美術館、国立西洋美術館及び日本芸術院に関し、予算案の準備その他の他部局に属しない事務を処理すること。
- 三 芸術に関する団体との連絡に関すること。

附 則

- 1 この政令は、昭和27年9月1日から施行する。
- 2 略

国立近代美術館及び国立西洋美術館

文部省設置法(抄)

昭和24年5月31日
法律第146号
以下中間改正政令省略
昭和34年4月14日
法律第130号改正

第2章 本省

第1節 内部部局

(社会教育局の事務)

第10条 社会教育局においては、左の事務をつかさどる。但し、体育局の所掌に属するものを除く。

- 一 国立科学博物館、国立近代美術館、国立西洋美術館及び日本芸術院に関し、予算案の準備その他の他部局に属しない事務を行うこと。

(以下省略)

第2節 国立の学校その他の機関

(国立の学校等)

第14条 第25条の3第26条及び第27条に規定するもののほか、文部大臣の所轄の下に、国立の学校及び左の機関を置く。

日本ユネスコ国内委員会

国立教育研究所
国立科学博物館
国立近代美術館
国立西洋美術館
緯度観測所
統計数理研究所
国立遺伝学研究所
国立国語研究所
日本芸術院
日本学士院

(評議員会)

第15条 前条の機関のうち、国立教育研究所、国立科学博物館、国立近代美術館、国立西洋美術館、統計数理研究所及び国立遺伝学研究所にそれぞれ評議員会を置く。

- 2 評議員会は、それぞれの機関の事業計画、経費の見積、人事その他の運営管理に関する重要事項について、それぞれの機関の長に助言する。
- 3 それぞれの機関の長は、評議員会の推薦により、文部大臣が任命する。
- 4 評議員会は、20人以内の評議員で組織する。
- 5 評議員は、学識経験のある者のうちから、文部大臣が任命する。
- 6 評議員の推薦、任期その他評議員会の組織及び運営の細目については、政令で定める。

(国立近代美術館)

第20条 国立近代美術館は、国立西洋美術館の所掌に属するものを除き、近代美術に関する作品その他の資料を収集、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれに関連する調査研究及び事業を行う機関とする。

- 2 国立近代美術館は、東京都に置く。
- 3 国立近代美術館の内部組織は、文部省令で定める。

(国立西洋美術館)

第20条ノ2 国立西洋美術館は昭和30年10月8日に日本国政府及びフランス政府間に成立した合意に基づきフランス政府から日本国政府に寄贈された美術に関する作品並びに西洋美術に関するその他の作品及び資料を収集、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれに関連する調査研究及び事業を行う機関とする。

- 2 国立西洋美術館は、東京都に置く。
- 3 国立西洋美術館の内部組織は、文部省令で定める。

附 則

- 1 この法律は、昭和24年6月1日から施行する。

(以下省略)

附 則(昭和33年5月1日法律第113号)

(施行期日)

- 1 この法律は、公布の日から施行する。ただし、第10条第1号
[国立科学博物館に関する社会教育局の事務]、第14条[国立の学校等]、第15条第1項[評議員会]及び第

美術関係法規

20条第1項〔国立近代美術館〕の改正規定並びに第20条の次に1条を加える改正規定は、昭和34年4月1日から施行する。

(国立西洋美術館の設置に関する経過規定)

- 2 昭和33年12月1日から昭和34年3月31日までの間、国立近代美術館に分館として西洋美術館を置くものとし、その内部組織その他必要な事項は、文部省令で定める。

文部省設置法施行規則(抄)

(昭和28年1月13日)
文 部 省 令 第2号

(以下中間改正政令省略)
昭和34年7月1日第18号改正

第3章 所轄機関

第4節 国立近代美術館

(館長及び次長)

第45条 国立近代美術館に館長及び次長を置く

- 一 館長は、館務を掌理する。
- 二 次長は館長を助け、館務を整理する。

(内部組織)

第46条 国立近代美術館に左の2課を置く。

- 一 庶務課
- 二 事業課

(庶務課)

第47条 庶務課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 職員の人事に関する事務を処理すること。
- 二 職員の衛生、医療及び福利厚生に関する事務を処理すること。
- 三 公文書類を接受し、発送し、編集し、及び保存すること。
- 四 公印を管守すること。
- 五 国立近代美術館の所掌事務に関し、連絡調整すること。
- 六 国立近代美術館評議員会に関すること。
- 七 予算に関する事務を処理すること。
- 八 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。
- 九 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。
- 十 展示会の保全のための警備に関すること。
- 十一 庁内の取締りに関すること。
- 十二 前各号に掲げるものの外、他の所掌に属しない事務を処理すること。

(事業課)

第48条 事業課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 近代美術に関する作品その他の資料を収集し、保管し、展示し、解説し、及び修理すること。
- 二 前号に掲げる資料を館外で展示すること。
- 三 近代美術に関し、専門的な調査研究を行うこと。

四 近代美術に関する出版物等を作成し、及びこれらを刊行、頒布する等利用に供すること。

五 近代美術に関する展覧会、講演会、講習会、研究会、研究会等の催しを企画し、及び実施すること。

六 第1号に掲げる資料の利用に関し、内外の美術館、博物館、その他関係団体等と連絡協力して、刊行物、情報の交換等の相互援助を行うこと。

第4節の2 国立西洋美術館

(館長及び次長)

第48条の2 国立西洋美術館に館長及び次長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理する。
- 3 次長は、館長を助け、館務を整理する。

(内部組織)

第48条の3 国立西洋美術館に左の2課を置く。

- 一 庶務課
- 二 事業課

(庶務課)

第48条の4 庶務課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 職員の人事に関する事務を処理すること。
- 二 職員の衛生、医療及び福利厚生に関する事務を処理すること。
- 三 公文書類を接受し、発送し、編集し、及び保存すること。
- 四 公印を管守すること。
- 五 国立西洋美術館の所掌事務に関し、連絡調整すること。
- 六 国立西洋美術館評議員会に関すること。
- 七 予算に関する事務を処理すること。
- 八 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。
- 九 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。
- 十 展示品の保全のための警備に関すること。
- 十一 庁内の取締りに関すること。
- 十二 前各号に掲げるものの外、他の所掌に属しない事務を処理すること。

(事業課)

第48条の5 事業課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 昭和30年10月8日に日本国政府及びフランス政府間に成立した合意に基づきフランス政府から日本国政府に寄贈された美術に関する作品並びに西洋美術に関する作品その他の資料(以下「西洋美術に関する資料」という。)を収集し、保管し、展示し、解説し、及び修理すること。
- 二 西洋美術に関する資料を館外で展示すること。
- 三 西洋美術に関し専門的な調査研究を行うこと。
- 四 西洋美術に関する出版物等を作成し、及びこれらを刊行、頒布する等利用に供すること。

- 五 西洋美術に関する展覧会、講演会、講習会、映画会、研究会等の催しを企画し、及び実施すること。
- 六 西洋美術に関する資料の利用に関し、内外の美術館、博物館その他関係団体等と連絡協力して、刊行物、情報の交換等の相互援助を行うこと。

(別名)

第48条の6 国立西洋美術館は、別名をフランス美術松方コレクションと称する。

附 則

- 1 この省令は、公布の日から施行し、昭和28年1月1日から適用する。

(以下省略)

附 則(昭和34年4月1日文部省令第8号)

この省令は、公布の日から施行する。

文部省組織令(抄)

(昭和27年8月30日)
政令第387号

以下中間改正政令省略

(昭和34年6月30日)
政令第229号改正

第1章 本省の内部部局

第4節 社会教育局

(芸術課)

第26条 芸術課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 (省略)
- 二 国立近代美術館、国立西洋美術館及び日本芸術院に関し、予算案の準備その他の他部局に属しない事務を処理すること。
- 三 (省略)

附 則

- 1 この政令は、昭和27年9月1日から施行する。(註国立近代美術館関係)

2 (省略)

附 則(昭和33年5月1日政令第98号)

この政令は、公布の日から施行する。ただし、文部省組織令第26条第2号の改正規定は、昭和34年4月1日から施行する。

文部省所轄機関評議員会令(抄)

(昭和24年7月18日)
政令第274号

(昭和27年6月6日政令第175号)
(昭和34年4月1日政令第92号改正)

第3章 国立近代美術館評議員会及び国立西洋美術館評議員会

(組織)

第12条 国立近代美術館評議員会及び国立西洋美術館評議員会は、それぞれ評議員20人以内で組織する。

第13条 評議員の任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

2 評議員に欠員を生じた場合の補欠評議員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 評議員は、非常勤とする

第14条 評議員により会長として互選された者は、評議員会の会務を総理する。

2 評議員により副会長として互選された者は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

3 会長及び副会長の任期は、2年とする。

4 会長及び副会長が欠けた場合における後任の会長及び副会長の任期は、それぞれ前任者の残任期間とする。

(準用規定)

第14条の2 第5条から第9条まで[会議・庶務・雑則]の規定は、それぞれ国立近代美術館評議員会及び国立西洋美術館評議員会に準ずる。

国立近代美術館評議員会運営規則

(昭和28年3月24日)
国立近代美術館評議員会決定

第1条 文部省所轄機関評議員会令(昭和24年7月18日政令第274号)に規定するものの外、国立近代美術館評議員会(以下「評議員会」という。)の議事その他運営に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

第2条 会長は、会議の会長となり、議事を整理する。

第3条 発言しようとする者は、議長の許可を受けなければならない。

第4条 国立近代美術館長に対する助言の案を提出しようとする者は、案を作り、3人以上の賛成者と連署して、会長に差し出さなければならない。

第5条 動議は賛成者がなければ、議題とすることができない。

第6条 議事の採決は、起立又は挙手によつて行う。但し議決により、記名投票又は無記名投票によつて行うことができる。

第7条 評議員会に、幹事及び書記を置くことができる。

2 幹事及び書記は、国立近代美術館職員のうちから国立近代美術館長が任命する。

第8条 この規則に定めるものの外、評議員会の運営に関し必要な事項は、評議員会の承認を経て、会長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行し、昭和27年9月1日から適用する。

国立近代美術館運営委員会規程

(運営委員会)

第1条 国立近代美術館(以下「館」という。)の事業運営等について協議するため、館に運営委員会を置く。

美術関係法規

(議長)

第2条 運営委員会の議事を掌理するため、運営委員会に議長を置く。

2 議長は、館長をもつてあてゐる。

3 館長に事故があるときは、次長が議長の職務を代理する。

(運営委員)

第3条 運営委員会に運営委員15人以内を置く。

2 運営委員は、学識経験ある者のうちから館長が委嘱する。

3 館長は、特に必要と認めたときは、臨時に運営委員を委嘱することができる。

4 次長は、運営委員会に出席して、議事に参加することができる。

(分科会)

第4条 運営委員会は、館の事業運営上、特に必要と認めたときは、運営委員会の下に、分科会を設けることができる。

2 分科会の委員は、運営委員のうちから議長が委嘱する。

3 次長は、分科会の議長となる。

4 次長に事故があるときは、事業課長が議長の職務を代理する。

(資料の提出及び説明)

第5条 運営委員会及び分科会は、議事の必要により、館職員に資料の提出及び説明を求めることができる。

(庶務)

第6条 運営委員会の庶務は、館が掌る。

(その他)

第7条 前各条に規定する事項の外、運営委員会について必要な事項は、館長が運営委員会と協議して定める。

附 則

この規程は、昭和27年9月1日から適用する。

日本芸術院

明治40年勅令第220号をもつて美術審査委員会官制が制定され、これに基づき毎年文部省美術展覧会を開催し、美術審査委員会は美術展覧会の出品を審議した。大正8年に本官制が廃止され、新たに勅令第417号をもつて帝国美術院規定が制定された。帝国美術院は文部大臣の管理に属し美術の発達を裨補することを目的とし、文部大臣の諮詢に応じ、美術に関する意見を開申し、その他美術に関する重要事項を建設する機関であつた。

昭和10年勅令第147号をもつて帝国美術院官制が新たに制定され、帝国美術院規定は廃止された。

昭和12年勅令第280号をもつて帝国芸術院官制が新たに制定され、美術部門の他に文学及び音楽の両部門が加えられ、同時に帝国美術院官制を廃止された。

昭和22年政令第254号をもつて帝国美術院は日本芸術院と名称が変更され、昭和24年6月1日政令第281号をもつて日本芸術院令が制定せられ、日本芸術院官制は廃止されて今日に至っている。

(文部省設置法抜萃)

第2節 国立の学校その他の機関

(国立の学校等)

第14条 第26条及び第27条に規定するもののほか、文部大臣の所轄の下に、国立の学校及び左の機関を置く。

日本ユネスコ国内委員会

国立教育研究所

国立科学博物館

国立近代美術館

国立西洋美術館

緯度観測所

統計数理研究所

国立遺伝学研究所

国立国語研究所

日本芸術院

日本学士院

(日本芸術院)

第25条 日本芸術院は、芸術上の功績顕著な芸術家を優遇するために置かれる機関とする。

2 日本芸術院会員には、予算の範囲内で、文部大臣の定めるところにより、年金を支給することができる。

3 日本芸術院の内部組織、会員その他職員及び運営については、政令で定める。

附 則

1 この法律は、昭和24年6月1日から施行する。

2 左の勅令及び政令は、廃止する。但し、法律（これに基く命令を含む。）に別段の定がある場合を除くほか、従前の機関及び職員は、この法律に基く相当の機関及び職員となり、同一性をもつて存続するものとする。

文部省官制(昭和17年)
勅令第748号)

日本芸術院官制(昭和12年)
勅令第280号)

日本芸術院令

(昭和24年7月23日)
政令第281号)

日本芸術院令をここに公布する。

日本芸術院令

内閣は、文部省設置法(昭和24年法律第146号)第23条第3項[日本芸術院の内部組織]の規定に基づき、この政令を制定する。

(日本芸術院の目的)

第1条 日本芸術院は、芸術上の功績顕著な芸術家を優遇するための榮譽機関とする。

2 日本芸術院は、芸術に関する重要事項を審議し、芸術の発達に寄与する活動を行い、及び芸術に関する重要事項について文部大臣に建議することができる。

(組織)

第2条 日本芸術院は、院長1人及び会員100人以内で組織する。

2 日本芸術院に左の3部を置く。

第1部 美術

第2部 文芸

第3部 音楽、演劇、舞踊

3 会員は、いずれかの部に分属する。

第3条 会員は、部会が推薦し、総会の承認を経た候補者につき、院長の申出により、文部大臣が任命する。

2 前項の部会の推薦する者は、部会において芸術上の功績顕著な芸術家につき選挙を行い、部会員の過半数の投票を得た者とする。

3 前項の投票において、病気その他の事故のため出席できない者は、郵便その他の方法により投票することができる。

第4条 会員は、終身とする。但し、会員が退任を申し出た場合には、総会の承認を経て、これを認めることができる。

第5条 院長は、芸術に関し卓越した識見を有する者のうち、会員の選挙により過半数の投票を得た者につき、文部大臣が任命する。

2 前項の場合において、過半数の得票者のないときは、投票の最多数を得た者2人につき、更に会員が投票を行い、多数の得票を得た者をもつて当選者とする。但し、得票数が同数のときは、年長者をもつて当選者とする。

3 第3条第3項の規定は、前1項の選挙に準用する。

4 院長の任期は、3年とする。

5 院長は、非常勤とする。

6 院長は、院務を総理する。

7 院長に事故があるときは、部長のうち最年長者が、その職務を代理する。

第6条 各部に属する会員により部長として互選された者は、各部の部務を掌理する。

2 部長は、3年ごとに改選する。

(会議)

第7条 日本芸術院の会議は、総会、部会及び連合部会とする。

2 総会は、年2回、院長が招集する。但し、必要があるときは、臨時にこれを招集することができる。

3 部会は、部長が招集する。

4 連合部会は、関係する部の部長の申出により、院長が招集する。

5 総会は、会員の過半数が出席しなければ、議決をすることができない。但し、あらかじめ通知した議題について、書面をもつて意思を表示した者は、その議題に限り、出席したものと認めることができる。

6 総会の議決は、出席した会員の多数決による。

7 前2項の規定は、部会及び連合部会の会議に準用する。

(職員)

第8条 日本芸術院に事務長1人及びその他の職員5人以内を置く。

2 事務長は、院長の指揮をうけ、日本芸術院に関する庶務を整理し、その他の職員は、上司の指揮をうけ、庶務に従事する。

(雑則)

第9条 この政令の定めるもののほか、日本芸術院の運営に関し必要な事項は、総会の議を経て院長が定める。

附 則

この政令は、公布の日から施行し、昭和24年6月1日から適用する。

日本芸術院会則

(昭和25年5月30日)
総 会 議 決

(昭和34年6月5日一部改正)
(昭和35年11月11日一部改正)

第1条 日本芸術院各部の定員は、左に掲げる通りとする。

第1部 美術 50名以内

第2部 文芸 30名以内

第3部 音楽、演劇、舞踊 20名以内

第2条 各部に左の分科を置く。

第1部 美術

第1分科 日本画

第2分科 洋画

第3分科 彫塑

第4分科 工芸

第5分科 書

第6分科 建築

第2部 文芸

第7分科 小説、戯曲

第8分科 詩歌

第9分科 評論、翻訳

第3部 音楽、演劇、舞踊

第10分科 音楽

第11分科 邦楽(能楽及び雅楽を含む)

第12分科 演劇(人形劇及び映画を含む)

第13分科 舞踊(洋舞及び邦舞を含む)

第3条 日本芸術院会員の候補者を選考するため、日本芸術院に日本芸術院会員選考委員会を置く。

2 前項の委員会については、日本芸術院会員選考委員

美術関係法規

会規則の定めるところによる。

第4条 日本芸術院は卓越した芸術作品と認められるものを制作した者、及び芸術の進歩に貢献する顕著な業績ありと認める者に対して賞を授ける。

2 前項の授賞については、日本芸術院授賞規則の定めるところによる。

第5条 院長は、総会及び連合部会の議長となり、議事を整理する。

2 部長は、部会の議長となり議事を整理する。

3 総会、部会又は連合部会の議事が、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第6条 1の部において、その部に属する会員の3分の1以上の請求があるときは、その部の部長は部会を招集しなければならない。

2 2の部において、それらの部に属する会員の各3分の1以上の請求があるときは、院長は、連合部会を招集しなければならない。

第7条 部会または連合部会の議長は、必要があると認めたとときは、他の部に属する会員中適当な者を指名して部会または連合部会に出席を求め、その意見を求めることができる。

第8条 会議を公開するか否かは、その都度これを定める。

第9条 日本芸術院令第7条第1項に規定する総会、部会及び連合部会は、書面によりこれを行うことができる。

第10条 この会則の改正は、総会の議決がなければ行うことができない。

日本芸術院会員推薦並びに選考規則

(昭和25年5月30日 総会議決
昭和28年5月26日 一部改正)
以下中間改正省略
昭和35年11月11日一部改正

第1条 日本芸術院令(昭和24年政令第281号)第3条第2項の規定による部会の行う選挙の候補者(以下「候補者」という)を推薦ならびに選考するには、この規則の定めるところによる。

(推薦の開始)

第2条 日本芸術院会員の補充を必要とする場合、その年度に補充すべき会員の数並びに候補者推薦開始の時期については年度はじめに開催される総会において定める。

第3条 日本芸術院会員の候補者は、その所属すべき部の会員が推薦するものとする。但し、部が必要と認めた場合には、部外より意見をきくことができる。

2 推薦者は、次の事項を記載した推薦書を日本芸術院長に提出しなければならない。

- 一、被推薦者の氏名
- 二、所属すべき分科
- 三、推薦理由
- 四、略歴

五、主要なる芸術上の業績

六、主要なる作品および著書等の目録

3 推薦書は別記の書式により推薦者の署名・捺印を必要とする。

4 推薦には被推薦者の承認を必要としない。但し、被推薦者はこれを辞退することができる。

5 推薦書は、あらかじめ定められた期間内に日本芸術院事務局あてに送付しなければならない。

6 推薦書が期間経過後に提出された場合これを受理しない。推薦書がいちじるしく要件を欠くときも同様である。

7 書状、はがき等による推薦は、推薦書の提出と認めない。

8 郵送による推薦書が期間経過後に到着したときは、郵便官署の日附印により期間内の発信を確認し得る場合に限り、期間内に提出されたものとみなす。

9 提出された推薦書に不備があるときは推薦者はこれを補正しなければならない。

推薦書書式(略)

備考 左の事項は別紙に記載添付すること

- 一、推薦理由
- 二、主要な芸術上の業績
- 三、主要な作品、著書等目録
- 四、略歴

(被推薦者)

第4条 推薦される候補者は、芸術上の功績顕著な芸術家でなければならない。

(選考委員会)

第5条 候補者を選考するため、日本芸術院会員候補者選考委員会(以下「委員会」という)をおく。

第6条 委員会は、日本芸術院の全会員をもつて組織し、推薦された候補者について審査並びに選考を行う。

第7条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き議決することができない。但し、やむを得ない事情により欠席する委員にして、自己の属する部会の他の委員に議決権を委任した場合は出席とみなす。

第8条 委員会の委員長は、日本芸術院長とする。

2 委員長に事故あるときは、出席委員により代理委員長として互選されたものが委員長の職務を代理する。

第9条 委員会に美術・文芸及び芸能の3選考部会をおく。

2 選考部会の議事は、第7条を準用する。

3 選考部会の部務は、日本芸術院の各部長が部会長として掌理する。部会長に事故あるときは部会において互選されたものが代理する。

4 選考部会は、推薦された候補者につき、推薦者及び被推薦者に対し、選考に必要な資料の提出を求めることができる。

- 5 各選考部会は推薦された候補者につき第4条の趣旨に従い、補充すべき会員数の無記名連記投票を行う。
- 第10条 各選考部会は投票の結果を委員会に報告しなければならない。
- 第11条 委員会は選考部会の報告にもとづき、各部において補充すべき会員数の倍数の候補者を選考する。但し、特別の事情ある場合においてはこの限りではない。
- 第12条 委員会は候補者を決定した後選考報告書を作成しなければならない。
- 2 前項の報告書には、各被推薦者について、委員会で決定した順位を記載しなければならない。
- 第13条 委員会は、前条の規定により作成した選考報告書を日本芸術院の各部長に提出するものとする。
- 第14条 日本芸術院の各部は、前条の選考報告書に記載された候補者について選挙を行う。
- 第15条 日本芸術院令第3条第1項の規定に基づき、部会が推薦する候補者数は、当該部会の欠員数をこえることができない。
- 2 部会員の過半数の投票を得た候補者数が、当該部会の欠員数をこえるときは得票数の多い者から推薦するものとする。
- 3 前項の場合において得票数の同数のものがあるときは年令の高い者から推薦するものとする。
- 第16条 候補者の選考に際し、次の基準に従うよう注意すること。
- 一、候補者については、芸術上の功績に重点をおき、併せて芸術上の関歴及び人格を充分に考慮すること。
- 二、候補者については、当該芸術分野内において一方に偏しないように留意すること。
- 三、候補者の選考は、慎重を期し適任者を得ない場合は、必ずしも直ちに補充するを必要としないこと。

日本芸術院授賞規則

(昭和25年5月30日
総会議決
昭和28年5月26日
一部改正
昭和29年5月21日
一部改正
昭和32年5月23日
一部改正
昭和33年12月18日
一部改正
昭和34年6月5日
一部改正
昭和35年11月11日
一部改正)

- 第1条 日本芸術院は、卓越した芸術品または芸術の進歩に貢献する顕著な業績ありと認める者に対して授賞する。
- 第2条 賞は、恩賜賞及び日本芸術院賞とする。
- 2 恩賜賞は、毎年1個とする。
- 第3条 賞は、賞牌、賞状及び賞金とする。

- 第4条 賞は、日本芸術院会員でない者に授ける。但し、擬賞の決議があつた後会員となつた者は此の限りでない。
- 第5条 授賞は、日本芸術院会員の推薦による。但し、部が必要と認めた場合には、部外より意見をきくことができる。
- 2 日本芸術院会員が授賞の推薦をしようとするときは、その所属する部に属すべき候補者を、その所属の部会に提議しなければならない。
- 3 授賞候補者の推薦は故人は対象としないが、その年間に死亡した者に限り推薦の対象とすることが出来る。
- 4 2項の提議のあつた場合は、部会は全会員をもつて組織する授賞候補者選考委員会（以下「委員会」という）において授賞候補者又は授賞候補作品の選考審査を行う。
- 第6条 委員会の議決は多数決による。
- 第7条 委員会は、選考並びに審査の経過及び結果を部会に報告しなければならない。
- 第8条 部会における擬賞の議決には、部会員数の過半数の賛成を要する。
- 第9条 前条の規定によつて擬賞の議決のあつたときは部長は部会における結果について総会に報告し、その承認を得なければならない。
- 第10条 擬賞の議決については、投票は無記名とする。
- 2 病気その他の事故で出席することができない者は、封書で投票することができる。
- 第11条 賞を受けた者は受賞の目的である作品又は著書にその旨を表示することができる。
- 第12条 擬賞の議決があつた後、賞を受くべき者が死亡した場合には日本芸術院は授賞の旨を告示しその者に授くべき賞の処分を定める。

日本芸術院年金支給規則

(昭和25年5月30日
総会議決)

- 第1条 年金は区分して6月、9月、12月、3月の4期にこれを支給する。
- 第2条 年金を支給する場合は、初年度において、その発令が6月30日以前にある者は全額を、9月30日以前にある者はその4分の3を、12月31日以前にある者はその2分の1を、3月31日以前にある者はその4分の1を支給する。
- 2 年金受領者が死亡した場合の支給額は、その月の属する受給期分までとする。

日本芸術院会員

院長

昭和23、8、11

高橋誠一郎

第1部会員

昭和12、6、24

楠木健一(清方)

美術関係法規

昭和 22、4、17
昭和 25、12、15
昭和 12、6、24
昭和 22、4、17
昭和 22、7、14
昭和 23、10、5
昭和 25、12、15
昭和 12、6、24
昭和 12、6、24
昭和 25、6、1
昭和 30、1、1
昭和 12、6、14
昭和 22、4、17
昭和 25、12、15
昭和 29、1、1
昭和 22、7、14
昭和 29、1、1
昭和 30、1、1
昭和 32、2、28
昭和 33、5、1
昭和 34、5、1
昭和 35、3、1

前田 廉造(青邨)
松林 篤(桂月)
安田 新三郎(靱彦)
福田 平八郎
奥村 義三(土牛)
野田 道三(九浦)
小野 英吉(竹斎)
中村 恒吉(岳陵)
堂本 三之助(印象)
山口 三郎(蓬春)
有島 壬生馬(生馬)
梅原 龍三郎
小杉 国太郎(放庵)
中沢 弘光
山下 新太郎
和田 三造
辻 永
須田 国太郎
川島 理一郎
中村 研一
朝倉 文夫
北村 西望
斎藤 知雄
佐藤 清蔵
内藤 伸
平櫛 倬太郎(田中)
石井 鶴三
吉田 三郎
板谷 嘉七(波山)
清水 六和
松田 権六
高村 豊周
岩田 藤七
豊道 慶中(春海)
吉田 五十
八
村野 藤吾
徳岡 神泉
金山 平三
長谷川 昇
山鹿 清華
山崎 覚太郎
堅山 南風
伊東 深水
金島 桂華
児玉 希望
小糸 源太郎
小山 敬三
児玉 希望
東郷 青児
鈴木 翠軒

第2部第3部 会員略

(昭和35年現在)

正倉院評議会規程

(昭和32年4月20日
宮内庁訓令第2号)

正倉院評議会規程

- 第1条 宮内庁に、正倉院評議会(以下「評議会」という。)を置く。
- 第2条 評議会は、長官の諮問に応じて、正倉院に関する重要事項を審議する。
- 第3条 評議会は、会長及び会員15人以内で組織する。
- 第4条 会長及び会員は、学識経験ある者のうちから、長官が委嘱する。
- 2 会長及び、会員の任期は、2年とする。ただし補欠の会長又は会員の任期は前任者の残任期限とする。
- 第5条 会長は、会務を総理し、評議会の意見を、長官に答申する。
- 2 会長に事故があるときは、あらかじめその指名する会員が会長の職務を代理する。
- 第6条 評議会に、幹事及び書記を置く。
- 2 幹事及び書記は、長官が命じ、又は委嘱する。
- 3 幹事は、会長の命を受けて、庶務を整理する。
- 4 書記は、幹事の命を受けて、庶務に従事する。

正倉院評議会

会長	安部 能成	
会員	細川 護立	浅野 長武
	上野 直昭	藤田 亮作
	石田 茂作	原田 治郎
	原田 淑人	和辻 哲郎
	坂本 太郎	小宮 豊隆
	内田 祥三	
幹事	並木 四郎	和田 軍一
	植 秀男	

帝室技芸員

帝室技芸員の制度は明治23年10月我が皇室におかれて、明治維新以来芸術的に衰退し経済的に困窮していた当時の我が美術界振興の思召しから制定されたもので、帝室技芸員には人格芸術共に後進の師表と仰がれる大家を、特にその為には選ばれた委員をして監衡させ、任命されたものである。

	帝室技芸員名簿	拜命年月
日本画	安田 靱彦	昭和9年12月
	堂本 印象	昭和19年7月
	鐔 木 清方	シ
	前田 青邨	シ

松 林 桂 月 昭和19年7月
 洋 画 金 山 平 三
 中 沢 弘 光
 梅 原 龍 三 郎

彫 刻 朝 倉 文 夫
 平 櫛 田 中
 工 芸 板 谷 波 山 昭和9年12月

美術関係研究施設

東京大学史料編纂所

東京都文京区本富士町

電 (921) 2121、3151 (内線 2300—6)

史料編纂所は明治2年3月史料編輯国史校正局を旧和学講談所に設置したのに始まり其後数度の改変を経て明治28年4月史料編纂所として帝国大学文科大学に置かれ、更に昭和4年7月史料編纂所と改称した。同25年4月東京大学附置研究所に改組、現在に至っている。本邦に関する史料の研究、編纂及び出版を行い、第1部(編年史料)第2部(古文書)第3部(古記録)第4部(近世・維新史料)第5部(海外史料)第6部(史料調査)事務部の7部を置く。〔所長〕坂本太郎〔部長〕(第1)竹内理三、(第2)川崎庸之、(第3)桃祐行、(第4)伊東多三郎、(第5)岡田章雄、(第6)森末義彰

東京大学東洋文化研究所

東京都文京区大塚町 56

電 (941) 0509、6986

東洋文化の総合研究を目的として昭和16年11月東京帝国大学内に設置された。昭和23年4月、外務省所管東方文化学院を併合し、研究所を文京区大塚町に移した。設立当初は哲・文・史学部、法・政治、経・商部の3部門であつたが昭和24年新に3部門を加え、更に26年2部門を増加し現在、1、哲学・宗教 2、文学・言語学 3、歴史 4、文化・人類学 5、人文地理学 6、美術史・考古学 7、法律・政治 8、経済・商業の8部門に分れている。研究発表は講演会の外、本研究所発行の「東洋文化研究所紀要」「東洋文化」を通じて行っている。

〔所長〕飯塚浩二〔教授〕仁井田陞、飯塚浩二、江上波夫、結城令聞、植田捷雄、米沢嘉圃、(兼)山本達郎、(兼)丸山真男、川野重任、石田英一郎、(兼)辻直四郎、(兼)小野忍

東京国立文化財研究所 美術部

(美術研究所)

東京都台東区上野公園

電 (821) 4487、1923

当所は故黒田清輝子爵の遺志に基き、その遺産を以て開始されたもので、昭和5年開設の準備完了とともに政府に寄附移管された。初め帝国美術院附属として設置されたが昭和10年6月帝国美術院改革に伴い、新たに美術研究所官制を制定、文部省所管、帝国美術院に附置され、次で昭和12年6月官制改正の上文部省の直轄研究

所となつた。昭和22年国立博物館官制の成立とともに同館附属の研究所となり、更に昭和25年8月文化財保護法制定により国立博物館より分離し、美術研究所として文化財保護委員会の附属となつた。次いで同27年4月文化財保護法の一部改正に伴い東京文化財研究所が設置されるに及んで同研究所の美術部として藝能部、保存科学部と共に新発足し、更に昭和29年7月文化財保護法の一部改正により、東京国立文化財研究所美術部となつた。現在の内部組織は庶務室(東京国立文化財研究所の人事並びに業務全般の事務的統轄管理及び総合調整を行う)第1研究室(東洋及び日本の古美術の調査研究を行う)第2研究室(日本の近代及び西洋美術の調査研究を行う)資料室(図書、写真等基礎資料の蒐集の他、特殊写真による光学的研究を行う)となつている。定期刊行物としては「美術研究」「日本美術年鑑」があり、また「美術研究資料」や「研究報告」等を出版、その他随時講演会・特別展観等を開催する。なお所内には黒田記念室を設けその遺作を陳列、毎週末曜日午後には公開している。美術研究のために着実な基礎を提供すると共に文化財の保存活用に貢献している。

〔所長〕田中一松〔美術部長〕田沢坦、〔室長〕(庶務室)小島忠二、(第一研究室)熊谷宜夫、(第二研究室)隈元謙次郎、(資料室)中川千咲(4, 34—5頁参照)

産業工芸試験所

通商産業省工業技術院

東京本所 大田区下丸子町 313

電 (731) 6141—6

東北支所 仙台市二十人町通 10

電 仙台 7458、7459

九州出張所 久留米市津福本町 218

電 久留米 5238、5239

わが国固有の技術である木工・金工・漆工その他各種工芸産業の発展を図るため、昭和3年商工省工芸指導所として仙台市に設置されたものである。昭和12年8月には官制の改正に依り業務範囲を工芸全般に拡大し、同14年8月には大阪江の子島に関西支所を置き、翌15年11月には商工省告示を以て工芸指導所本所を東京市に移転、又従来の仙台の施設を東北支所として機構の充実をはかつた。戦時中は研究の方向転換を余儀なくされ、本所、関西支所は戦災焼失した。昭和23年1月川崎市久地元日本化学工場を借用し本所の再建を図ると共に同年8月久留米市に九州支所を設置、同24年4月に

美術関係研究施設

は布施市に関西支所を新築した。昭和26年内外情勢の推移に伴い、工藝に関する研究指導のほか工業意匠の改善研究、包装に関する研究等を加えて研究諸施設の整備充実を図った。昭和27年3月本所を所在地へ移設、同年4月機構を改め、関西支所を布施市に移設し、九州支所を出張所に改めて業務を集約的に推進し、通商産業省工業技術院の管轄の下に名称も産業工藝試験所として工業産業における意匠と技術の近代化という当初の目的に戻ると共に、包装技術に関する試験研究を開始した。昭和28年以降、欧米諸国における国際展への参加、東南アジアへの技術指導者の派遣、外国デザイナー招へい等技術交流をはかる一方、輸出見本試作など貿易の振興にも一役を買いますます業務範囲は広がっている。組織と事務分掌は左の通りである。

〔所長〕 松崎福三郎

〔意匠第1部〕 藤井左内

調査課(明石一男)―工藝および意匠の調査、機関誌の編集。

意匠分析課(服部茂夫)―工藝品および工業製品の意匠の基礎的要素の試験研究。

〔意匠第2部〕 芳武茂介

意匠第1課(梶尾宗一)―工藝品および室内装備品の意匠の試験研究と設計。

意匠第2課(畑正夫)―塑工品の意匠に関する試験研究・設計および原型に関する研究。

〔技術第1部〕 福岡縫太郎

木工技術課(新庄晃)―木材等の材料による工藝品の工作技術の試験、研究、試作。

金工技術課(森下基次)―金属等の材料による工藝品の工作技術の試験、研究、試作。

〔技術第2部〕 福岡和雄

試験課(小松和)―工藝品の品質及び材料の試験、研究。

包装材料課(芦原晋)―包装に関する原料、材料及び印刷に関する試験、研究。

包装技術課(有吉金太)―包装容器及び包装加工技術の試験、研究。

〔技術相談所〕 明石一男―工藝、意匠、包装に関する技術相談。講習会、講演会、展示。技術者の養成、指導。試作品参考品の貸与、譲与。

〔企画課〕 松田一雄―試験研究等の調整事業報告の作成、広報業務。特許出願業務。

〔庶務課〕 池田秀雄―庶務、人事、会計用度、厚生。

〔東北支所長〕 安倍郁二

意匠設計課(猪狩英一)―工藝及び意匠の技術指導、調査並びに工藝品の意匠設計等。

木工技術課(武田豊太郎)―木工品の工作、技術の試験、研究、試作。

漆工技術(鈴鹿清之介)―漆原材料、漆工技術に関する

試験、研究。

庶務課(高島得末)―庶務、人事、会計用度、厚生。

〔九州出張所長〕 船倉鯨―工藝技術の指導、九州地方工藝事情の調査、木竹工品、窯業、繊維製品の意匠設計、試験、研究。

京都大学人文科学研究所

京都市左京区北白川小倉町50

電 吉田 4111、4221

本研究所は昭和14年8月、国家に須要なる東亞に関する人文科学の総合研究を行うため設立された京都大学人文科学研究所を中核として、外務省所管東方文化研究所と、財団法人西洋文化研究所を合併して昭和24年3月あらたに世界文化に関する人文科学の総合研究を行う研究所として発足した。創立の際は3部門であつたが、合併により11部門に増加し、これを日本部、東洋部、西洋部に分け相互に協力して研究を推進している。「京都大学人文科学研究所紀要」其他出版物、講演会によつて研究発表を行い、又人文科学夏季講座を開いている。

〔所長〕 桑原武夫 〔教授〕(日本部)坂田吉雄、(東洋部)貝塚茂樹、水野清一、森鹿三、藪内清、長広敏雄、岩村忍、宮崎市定、(西洋部)清水盛光、今西錦司

奈良国立文化財研究所

奈良市春日野町50

電 奈良 5575

昭和27年文化財保護法の一部改正が行われ、同法の規定に基づき同年4月1日、奈良市に当研究所が設置された。所内の組織は庶務室、及び美術工藝研究室(絵画、彫刻、工藝品の有形文化財並びに工藝技術に関する調査研究を行う)、建造物研究室(建造物及庭園遺跡に関する調査研究を行う)、歴史研究室(考古及び史跡並びに古文書に関する調査研究を行う)の4室からなっている。

〔所長〕 藤田亮策 〔室長〕(庶務室)森川幸男、(美術工藝研究室)小林剛、(建造物研究室)森蘊、(歴史研究室)欠(3・35頁参照)

黒川古文化研究所

芦屋市打出春日町34

電 芦屋 2396

本研究所は黒川家歴代の蒐集品をもとにし、理事長黒川幸七が京大教授梅原末治指導の下に昭和25年10月財団法人黒川古文化研究所として設立されたものである。主として東洋古文化の調査研究を目的とし、資料及び研究成果の印刷物刊行、及び公開講演と展覧を行つてゐる。

〔理事長〕 黒川幸七 〔常務理事兼研究員〕 武藤誠 〔理事〕 有光次郎、内田幾助、梅原末治、辰馬悦蔵、江口治郎、石崎喜兵衛、黒川いく子、魚澄惣五郎(研究員兼務) 〔監事〕 木村徳兵衛、西川源三

美術関係学会 (50音順)

(括弧内は代表者)

京都大学美学会 京都市左京区吉田 京大文学部美学美術史研究室内 電 吉田 4111 学内(90)(井島勉)

藝術学会 文京区大塚窪町 東京教育大学内 電(941) 0181、7191(田原輝夫)

古文化資料自然科学研究会 台東区上野公園 東京国立文化財研究所保存科学部内 電 (821)3711—5内線38 (大賀一郎) 機関誌「古文化財之科学」発刊

史学会 文京区本富士町東京大学文学部内(岩生成一) 機関誌「史学雑誌」発刊

デザイン学会 台東区上野公園東京藝術大学美術学部図案計画研究室内 電(821) 3761—6(勝見勝)

東方学会 千代田区西神田2ノ2 電 (331) 1061(宇野哲人)機関誌「東方学」年2回刊「東方学論集」不定期刊、Books and Articles on Oriental Subjects Published in Japan (年刊)、The Transactions of the International Conference of Orientalists in Japan (年刊)

東洋学会 文京区本富士町 東京大学東洋文化研究所内 電 (941) 0509 内線 2196(仁井田陸)機関誌「東洋文化」発刊

日本建築学会 中央区銀座西3ノ1 電 (561) 1232、1238、3449、4572、6020、(佐藤武夫)機関誌「建築雑誌」発刊

日本考古学会 台東区上野公園 東京国立博物館内

電(821)3711—5 (原田淑人) 機関誌「考古学雑誌」発刊

日本考古協会 文京区本富士町 東京大学文学部考古学研究室内(藤田亮策)「日本考古学年報」発行

日本美術教育学会 京都市左京区吉田京大文学部美学美術史研究室内 電 吉田 4111 学内 90 (井島勉) 機関誌「美術教育」発刊

日本民俗学会 杉並区西荻窪2ノ12 能田方

美学会 文京区本富士町1 東京大学文学部美学研究室内 電 (921) 2121 内線 2351(竹内敏雄)機関誌「美学」発刊

美術教育学会 台東区上野公園東京藝術大学美術学部内 電 (821) 3761(小塚新一郎)

美術史学会 台東区上野公園 東京国立文化財研究所内 電 (821) 4487(熊谷宣夫) 機関誌「美術史」発刊

仏教史学会 京都市中京区東洞院三条上ル 449 平楽寺書店内 電 本局 16(禿氏祐祥) 機関誌「仏教史学」発刊

三田藝術学会 港区芝三田2ノ1 慶応義塾大学文学部美学美術史学研究室内 電 (451) 5181(守屋謙二)

早稲田大学美術史学会 新宿区戸塚町1ノ647 早稲田大学大学院文学研究科藝術科研究室内 電 (341) 4141 内線 82(小杉一雄)

東北大学美学美術史学会 仙台市片平丁 東北大学美学美術史研究室内 電 仙台(3) 5111 内線(604、257、624)(村田潔)

美術教育施設

[学校]

東京藝術大学美術学部

台東区上野公園
電 (821) 3761—6

東京藝術大学美術学部の前身東京美術学校は明治20年10月勅令を以て設置せられ、文部省専門学務局長浜尾新が学校長事務取扱を命ぜられ、同22年2月授業を開始した。同23年浜尾新に代つて岡倉覚三が学校長となつたが、同31年退官し、彼と共に教授橋本雅邦以下多数の教授、助教授が辞職した。高嶺秀夫、久保田鼎に次いで同34年正木直彦学校長となり昭和7年和田英作、同11年芝田徹心、同15年沢田源一、更に同19年6月上野直昭が学校長に任ぜられた。昭和24年5月31日法律第150号を以て国立学校設置法が公布され、東京美術学校は東京音楽学校と共に新制大学に包括され東京藝術大学美術学部及び東京藝術大学東京美術学校として夫々発足した。初代の学長には上野直昭、美術学部長には村田良策が任ぜられ、美術学校長は村田良策の兼任となつ

た。次いで昭和27年3月31日旧制課程廃止により東京美術学校及び同校附属工芸技術講習所は廃止された。

美術学部の学科は本科だけとなり旧制師範科は昭和27年3月31日官制を以て廃止された。

[本科]

絵画科 (日本画、洋画)

彫刻科

工芸科

建築科

藝術学科

版画研究室

陶磁器研究室

材料研究室

修業年限4年。授業料年額9000円。

入学資格

- (1) 高校卒業者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 高等学校を卒業したものと同等以上の学力がある

美術教育施設

と認められたもの

イ、外国において学校教育における12年の課程を修了したもの

ロ、文部大臣の指定したもの

ハ、大学入学資格検定に合格したもの

ニ、その他大学において相当の年令に達し高等学校を卒業したものと同等以上の学力があると認められたもの

〔専攻科〕

入学資格 本学卒業生及び他の新制大学卒業生

〔聴講生〕

学生以外の者で本学において教授する学科目中（実技を除く）一科目若しくは数科目を選び学習しようとするものは教授上差支えない場合に限り聴講を許可する。

（4月中に申込むこと）

聴講料一単位につき300円。

〔美術学部学生定員〕

〔絵画科〕	240名
〔彫刻科〕	120名
〔工芸科〕	240名
〔建築科〕	40名
〔藝術学科〕	80名
〔専攻生〕	20名

尚、陳列館と正木記念館があり、随時展観を行い学生及び一般に公開している。

〔学長〕上野直昭 〔美術学部長〕小塚新一郎 〔教授〕村田良策、日下喜一郎、吉岡堅二、田中文雄、磯矢陽、前田泰次、松本栄一、岡田捷五郎、吉田五十八、内藤春治、松田権六、林武臣、西田正秋、新規矩男、菊池一雄、摩寿意善郎、須藤雅路、伊藤廉、小磯良平、山本豊、加藤一、山脇洋二、内藤四郎 〔助教授〕久保守、笹村良紀、吉村順三、三井安蘇夫、宮川ムツ、寺田春式、西本順、小池岩太郎、末田利一、六角頼雄、野口三千三、桜林仁、小口八郎、新村撰吉、後藤年彦、山本学治、牛島憲之、淀井敏夫、山口薫、鈴木敬、須田善二、高田正二郎、柳宗玄 〔講師〕菅原安男、村田徳松、岩橋英遠、上原之節、小山清男、千野茂、田中芳郎、鈴木信一、伊藤茂之、加山四郎、成川武夫、西大由、山下恒雄、吉田左源二、中尾喜保、島村三七雄、〔兼任講師〕鹿取一男

京都工芸繊維大学

本 部 京都市上京区北野神社前

電 (44) 7111-7113

工芸学部 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

電 (7) 4141-4144

繊維学部 京都市北区大將軍坂田町

電 (44) 6111-6112

明治35年3月設置された京都高等工芸学校は昭和19年4月官制改正により京都工業専門学校と改称、更に昭和24年5月京都繊維専門学校と合併して京都工芸繊維

大学工芸学部及び繊維学部となつた。京都工業専門学校は昭和26年3月廃止された。

〔工芸学部〕 機織工芸学科、建築工芸学科、色染工芸学科、窯業工芸学科、意匠工芸学科(昭和29年増設)

〔繊維学部〕 養蚕学科、製糸紡績学科、繊維化学科 学生定員は昭和32年4月改正となり 〔工芸学部〕 (機織)140名、(建築)120名、(色染)140名、(窯業)120名、(意匠)100名

〔繊維学部〕 各学科160名とする。

〔学長〕中沢良夫 〔工芸学部長〕田中隆吉 〔繊維学部長〕服部達吉 〔美術関係教授・講師〕河本敦夫、土居次義、福永俊吉、藤原義一、大倉三郎、高原道夫、白石博三、竜村謙、霜島正三郎、松田尚之、石原正雄、相川浩、松岡理、赤沢誠太郎、山田新一、川端弥之助、野口茂

京都市立美術大学

京都市東山区今熊野日吉町50

電 (6) 7141-3

明治42年3月京都市立絵画専門学校として創立され、大正15年現地に移転した。昭和20年京都市立美術専門学校と改称、更に昭和25年新制大学令により京都市立美術大学となつた。京都市立美術専門学校は昭和27年3月廃止された。

〔学部及学科〕

〔学生定員〕

美術学部	日本画科	120名
	西洋画科	120名
	彫刻科	40名
	工芸科	120名

図案専攻、陶磁器専攻、塗装専攻、染織図案専攻
専攻科

〔学長〕川村多実二 〔教授〕榊原安造、黒田重太郎、久松真一、金子光介、上野伊三郎、富本憲吉、金尾音美、石村忠次、重久篤太郎、岡本午一、佐和隆研、上村信太郎、川端弥之助、中田勇次郎、辻晋堂、平館啓一郎、小合友之助、寺田勇、堀内正和、稲垣稔次郎、奥村厚一、高林和作、近藤雄三

京都市立日吉ヶ丘高等学校美術工芸課程

京都市東山区泉湧寺山内町

電 祇園 4142、710

明治13年京都府画学校が設立され、その後同24年に京都市美術学校、27年に京都市立美術工芸学校と名称を変えたが、更に昭和23年京都市立美術高等学校となり、同24年には京都市立日吉ヶ丘高等学校の総合制の中へ美術課程として併置された。

〔学科〕

日本画科
西洋画科
彫刻科
図案科
漆藝科

陶 藝 科 服 飾 科

〔校長〕 小林儀三郎 〔職員〕 勝田哲、天野大虹、川島浩、松下明治、錦義一郎、留岡彰、矢野判三、藤庭賢一、高橋慎吾、安田謙、笠間嘉一郎、水内平一郎、平石晃祥、中島清、加藤英子、上村健治、田代誠、橘目雅子、寺井二三子、武田恒夫、兼松貞、和田俊三

女子美術大学

杉並区和田本町 860
電 (381) 7141

明治33年本郷弓町に女子美術学校として創立された。のち菊坂に移り、昭和4年専門学校に昇格女子美術専門学校と改称、同10年杉並に移転した。昭和24年4月新制大学として女子美術大学となった。

〔藝術学部〕

洋 画 科
日 本 画 科
図 案 科
工 藝 科

修業年限 4年。授業料年額 25,000円。

〔学長〕 加藤成之 〔主要教職員〕 竹中武重、村岡景夫、沢柳大五郎、西田正秋、坂崎坦、松本栄一、中山公男、永井信一、久野健、後藤守一、秋山謙蔵、真崎公一、川島理一郎、木下義謙、中山嶺、森田元子、新道繁、佐々木四郎、高須鞆子、春田安喜子、吉江麗子、奥村土牛、三谷十糸子、片岡球子、後藤芳仙、大塚和、麻生秀二、新井泉、栗松敏、福田良一、由良玲吉、松川蒸二、松井汲夫、鈴木正道、河野鷹思、松井直樹、上原之節、高田力三、桑沢洋子、柳宗理、柳宗悦、芹沢銈介、柚木沙弥郎、柳悦孝

多摩美術大学

世田谷区玉川上野毛町 213
電 (701) 2206

昭和10年9月、北畠吉、牧野虎雄、杉浦非水、近藤清吾らが名義人となつて、多摩帝国美術学校が設立され、更に昭和22年専門学校令による多摩造形藝術専門学校となった。昭和25年新制大学令に伴い、3年制の短期大学として多摩美術短期大学を併設(27年度までは専門学校と短大併存)したが、28年度より4年制の新制大学となった。

〔学科〕

絵画科 (日本画、油画)
彫刻科 (塑造、木彫)
図案科 (商業デザイン、工業デザイン)

修業年限 4年。

〔学長〕 井上忻治 〔学部長〕 逸見梅栄 〔常務理事兼事務局長〕 村田晴彦

〔職員〕 奥村土牛、郷倉千鞆、森白甫、新井勝利、島田訥郎、森田廣平、宮本三郎、鈴木信太郎、福沢一郎、鈴木保徳、鈴木誠、大沢昌助、川端実、末松正樹、菊地精二、

高橋庸男、長屋勇、瀬島好正、三沢覚蔵、勝呂忠、佐々木大樹、笠置季男、早川巍一郎、円鋸勝二、建島寛造、杉浦非水、山名文夫、吉田謙吉、剣持勇、服部茂雄、山名裕一郎、畑正夫、芹沢銈介、今井兼次、霜田静志、青柳正広、三輪福松、渡辺素舟、吉沢忠、瀬木慎一、坂崎乙郎、高階秀爾、中山公男

武蔵野美術学校

武蔵野市吉祥寺 320
電 武蔵野 (2) 8171

昭和4年設立された帝国美術学校は同22年造型美術学園と改称され、更に同24年武蔵野美術学校となった。

なお別にデザインを専門とする武蔵野美術短期大学を併設している。

〔本科〕

日 本 画 科
西 洋 画 科
彫 刻 科
デザイン科

以上の入学資格は新制高校、旧制中学卒業者

研 究 科

本校卒業程度以上

修業年限。4年。学生定員 500名。

授業料年額 24,000円。

〔名誉校長〕 名取堯 〔校長兼学長〕 有光次郎

〔主要職員〕 奥村土牛、川崎小虎、福田豊四郎、三雲祥之助、鈴木信太郎、森芳雄、山口長男、山口薫、麻生三郎、高島達四郎、井上長三郎、斎藤長三、横地康国、内田武夫、藤井令太郎、清水多嘉示、原弘、亀倉雄策、三林亮太郎、河野鷹思、豊口克平、棟方志功、板垣鷹穂

〔文部省指定図工科教員養成科〕

修業年限 2ヶ年 入学資格 高校卒以上

(中学図工2級免授与)

教職員は同じ。

洋画通信教育部

本科・理論講座、実技講座、デザイン講座

教職員は同じ。

短期大学デザイン美術科通信教育部

日本大学藝術学部

練馬区旭丘 2 の 42
電 (951) 9111、1014

昭和2年文学部に藝術専攻科が設置されたのに始まり、昭和24年新制大学となり、大学院も併置している。

〔藝術学部〕

美術学科

音楽学科

文藝学科

演劇学科

写真学科

映画学科

〔藝術学部長〕 渡辺俊平 〔美術学科主任教授〕 山脇敏

美術教育施設・美術観覧施設

〔主要教員〕 湯川制、桜林仁、野口弥太郎、山本正、斎藤長三、糸國和三郎、沢健太郎、柳原義達、深瀬嘉臣、水谷武彦、三苦正光、富永惣一、吉田謙吉、田中一松、阿部公正、西川驍、高橋正年、鈴木太郎、麻生三郎、藤岡一、原弘

日本美術学校

練馬区向山町1

電 991 1939

大正6年、故早大教授紀淑雄により設立された。

〔本科〕 修業年限2年、入学資格は新制高校卒業生或は同程度の者

〔選科〕 修業年限2年、入学資格は新制中学卒業或は同程度の者

〔研究科〕 年限を定めない、入学資格は本科修了者及び同程度の者

授業料 年額(本科)(選科)(研究科)9,600円。

他に考查料、入学料を必要とする。

〔校長〕田中泰祐 〔講師〕(実技)林武、高野真美、服部正一郎、鷹山宇一、村山森人、高橋亮、村松乙彦、坂口英一、大津鎮雄、寺戸恒晴、山本朝子、古田達賢、中尾章、斎藤長三、荻太郎 (学科)田中泰祐、青柳正広、佐波甫

文化学院 美術科

千代田区神田駿河台

電 (東京291)2274—5

大正11年西村伊作により一般の学校教育とは異なる自由教育を標榜して設立された。

〔美術科〕

〔夜間美術科〕

修業年限 2年。授業料年額10,000円。材料費3,000円

入学資格 旧制中学、新制高校卒業程度。及び同等の

実力を持つ者。

〔日曜美術科〕

授業料年額5,000円。材料費1,500円。

〔院長〕 西村伊作

岩手県立美術工芸高等学校

盛岡市内丸69

盛岡短期大学美術工芸科参照。一般高等学校の学課規程に従い、その他専門学課と専門実習を課す。

〔学科〕

美術科(日本画専修、油絵専修)

工芸科(図案専修、木工専修、漆工専修、金工専修)

〔校長事務取扱〕加藤英夫 〔主要職員〕加藤英夫、松本総、池田龍甫、三ヶ尻正、堀江起、海野経、深沢省三、佐々木一郎、奈知安太郎、杉江康彦、中島喜雄、戸田芳鉄、照井儀也、菅原圭三、手塚健二、小関六平、松田俊男、多田進

金沢美術工芸大学

金沢市下本多町三番丁九

電 金沢(3)3530.1

昭和21年7月金沢美術工芸専門学校が設立され同10月開校した。同25年金沢美術工芸短期大学(3年制)として発足、同30年更に金沢美術工芸大学となり初代学長に森田亀之助が任命された。

〔美術工芸学部〕

美術学科(絵画専攻、彫刻専攻)

産業美術学科(工業意匠、商業美術)

修業年限4年、入学資格高校生

学長 森田亀之助 〔教授〕野田九浦、和田三造、大智哲、柳宗理、畠山錦成、北出塔次郎、小松芳光、原田太一、高光一也、矩幸成、板垣鷹穂、秋山光夫、五井孝夫、平野謙一、天川維文、米永嘉勝、小竹武夫

美術観覧施設

【東北地方】

秋田市美術館

秋田市上中城町六

電 秋田 7575

昭和33年6月創立、鉄筋コンクリート平屋建、約90坪。郷土の文化的伝統の認識と、市民の美の教室として運営される。

〔館長〕 奈良環之助

〔観覧日〕 10月—3月(午前9時半—午後4時半)4月—9月(9時—5時)月曜休館

〔観覧料〕 20円

本間美術館

山形県酒田市浜畑町12

電 酒田 1429

昭和22年5月創立。地方文化に貢献するために旧本間家別邸を美術館として公開した。文書・陶器等東洋美術関係500点。洋画・版画等西洋美術関係100数点を有し、年平均25回展覧会を開いている。運営は別に組織された酒田美術協会が当たっている。

〔館長〕 本間祐介

〔観覧日〕 月曜を除き、毎日午前9時—午後4時半

〔観覧料〕 40円

致道博物館

山形県鶴岡市家中新町戊一

電 鶴岡 1199

昭和27年3月創立。維新後、藩校致道館廃止と共に旧藩主酒井家邸内に図書研究所文会堂を設け、各種郷土資料の研究調査公開を行って来たが、昭和25年財団法人

人以文会の設立と同時にこれを継承、同27年博物館法により財団法人致道博物館になった。古文書600点、甲冑20点、刀剣34点、書画数350点、考古学資料2200点、民俗資料1500点等を有し、美術展・文化史展等を開きまた、民俗資料室、考古資料室を併設、常時公開している。

そのほか明治17年建造の初期洋風建築荘内文化会館(県有形文化財)を敷地内に移築し、保存している。

〔館長〕 犬塚又太郎

〔観覧日〕 毎日午前9時—午後5時

〔観覧料〕 一般50円

上杉神社拝殿

山形県米沢市南堀端町36

電 米沢 1730

大正11年4月創立。上杉神社祭神謙信公及び鷹山公の遺品を取蔵。絵画、工藝品及文書約500点

〔観覧日〕 希望に応じ随時開館

〔観覧料〕 30円

掬粋巧藝館

山形県川西町小松2911

昭和7年4月創立。財団法人組織。学術参考資料として支那、朝鮮及日本の古陶磁約500点を陳列公開する。

〔館長〕 井上庄七

〔観覧日〕 4—7、9、10の6ヵ月間、毎日午前10時—午後3時

〔観覧料〕 無料

中尊寺蹟衛蔵

岩手県西磐井郡平泉町

電 平泉 4

昭和30年5月3日竣工開館。一字金輪仏、大日如来、釈迦・弥陀・薬師の丈六仏、千手観音等の仏像を始め藤原4代副葬品及び多数の経巻、工藝品、古文書類に至る国宝重文を取蔵展観する。また同寺境内に金色堂(国宝)、経蔵(重要文化財)がある。

〔観覧日〕 4月—10月(午前8時—午後5時)11月—3月(午前8時半—午後4時半)

斎藤報恩会博物館

仙台市大聖寺裏門通3

電 仙台(2) 4777

大正12年2月創立。大正12年文部省認可となり昭和8年に開館一般公開した。昭和20年戦災を受けたが23年修理再開した。東北地方の自然科学資料、文化史資料を陳列する。

〔館長〕 斎藤養之助

〔観覧日〕 月曜日を除き毎日

〔観覧料〕 10円

北方文化博物館

新潟県中蒲原郡横越村大字沢梅6970

昭和20年創立。伊藤文吉の寄贈による1,090坪の建物を使用している。文化財の蒐集、保管、調査、展観を

行い、また清水谷の史跡を復元、保存し、新潟市に分館を設けている。常置陳列品は世界の古美術品、民芸品、民俗史料、考古資料、歴史資料である。

〔観覧日〕 毎日午前9時—午後4時

〔観覧料〕 30円

財団法人貞観園保存会附属茶道美術館

新潟県刈羽郡高柳町大字岡野町

昭和15年4月設立。延宝年間の造園になる村山家の林泉および茶器その他の美術品多数を保存する。毎年数回の特別展を催す。

〔館長〕 村上駟嶺

〔観覧日〕 5月—11月、月曜定休。

【関東地方】

茨城県立美術館

水戸市北ノ丸県立図書館内

昭和22年5月創立。新憲法公布を記念して設立され、美術思想の普及向上を図る目的を以て展覧会・講演会等の事業を行つている。日本画・洋画・彫刻・工芸の所蔵品がある。昭和31年右図書館内に移転。

〔館長〕 小島貢

〔観覧日〕 毎火曜日、年末年始、祝祭日、毎月末整理日を除き毎日午前9時—午後4時30分。

〔観覧料〕 20円

笠間市立美術館

茨城県笠間市佐白麓公園内

電 笠間 41・171・523

創立昭和25年11月。県内外に存在する国宝指定の仏像の複製(石膏)を保存し、また国宝仏像管理寺院の照会及び参観視察の便宜を計る。複製仏像の所蔵約11点、他に随時絵画展なども行う。

〔館長〕 榎並栄

〔観覧日〕 毎日午前8時半—午後5時

〔観覧料〕 20円

鹿島神宮宝物館

茨城県鹿島郡鹿島町宮中

電 鹿島 9

国宝直刀・鞍・甲冑・古文書等鹿島神宮の宝物を陳列。

〔観覧日〕 毎日午前8時—午後5時

〔観覧料〕 30円

日光宝物館

栃木県日光市山内

電 日光 114

大正4年5月東照宮300年祭記念事業として建設され、東照宮、二荒山神社、輪王寺所蔵の宝物類を陳列し、江戸時代の工芸品が多い。

〔観覧日〕 毎日、4月—10月午前8時—午後5時。11月—3月午前8時—午後4時。

〔観覧料〕 二社一寺の殿堂拝観料100円中に含まれ、本館のみのものはない。

美術観覧施設

長壽汲古館

埼玉県秩父郡野上町大字本野上 424

電 野上 75

昭和32年4月創立。財団法人組織。考古、歴史参考資料秩父古生層溪谷天然奇石ならびに化石を蒐集保管し、併せて展覧を行う。

〔館長〕 塩谷寛三郎

〔観覧日〕 無休。但12—2月は時により休館の予定。

〔観覧料〕 20円

芝山はにわ博物館

千葉県山武郡芝山町

電 芝山 4

昭和34年5月創設。殿塚・姫塚の遺物のうち、はにわ約60点を中心に展示する。他に約100点の工芸品を保存。

〔館長〕 滝口宏

〔観覧日〕 9時—4時。休館第1・3月曜。

〔観覧料〕 40円

〔東京〕

東京国立博物館

台東区上野公園

電 (821) 3711—5

創立は明治4年9月、湯島聖堂を陳列館として、古来の宝物、歴史的遺品を保存し、公衆の観覧に供する施設として発足した。後、千代田区内幸町に移した。初め文部省の所管であつたが同8年に内務省の所管となり次で14年農商務省の所管するところとなつた。この間、上野公園にあらたな館を建設する議が成り寛永寺本坊跡に建築を始め、15年3月開館した。敷地32,000余坪、本館は煉瓦石造、2階建、陳列室は30室1,100余坪であつた。19年宮内省管理となり22年帝国博物館と改称し、歴史、美術、美術工藝、工藝、天産の五部を設け、33年帝室博物館に改められた。天産部は大正14年文部省に移管された。大正天皇の御成婚記念として造営された表慶館は明治41年に竣工した。陳列本館は震災に大破し、其の後表慶館を列品陳列に充て昭和12年従来の歴史課、美術課を廃し列品課に改め、別に学藝課を新設した。今上陛下の御即位記念事業である帝室博物館復興賛会の復興大工事が昭和12年に竣工し、新築本館は同13年11月開館された。昭和22年5月帝室博物館は文部省国宝調査室、同保存修理室及び美術研究所と合併し、文部省の管轄の下に国立博物館として発足した。陳列課、事業課、調査課、保存修理課、資料課、監理課、附属美術研究所の六課一所制をとり、奈良帝室博物館は国立博物館奈良分館と称することとなつた。ついで昭和25年8月文化財保護法が制定実施され、さきに国立博物館に合併された調査課、保存修理課は文化財保護委員会事務局保存部に入ることとなつて再び博物館から離れ、美術研究所も分離し、博物館は文化財保護委員会の附属機関となつた。その内部組織は館長、次長の下にあらたに庶務、

学藝の2部を設け、庶務部には管理、会計、普及の3課、学藝部には美術、工藝、考古、資料の課をおき、また諸機関として国立博物館評議員会を設置し、奈良分館には分館長の下に庶務、学藝、普及の3課が置かれたが27年4月文化財保護法の一部改正にともない、当館は東京国立博物館と改称され、更に同年8月当館附属の奈良分館は奈良国立博物館となつて東京国立博物館から分離した。(4・31頁参照)

建物本館は、地上2階、地下2階、総面積6,522坪、鉄骨鉄筋コンクリート造りの東洋風建築である。

表慶館は建坪395坪、正面の長さ280尺、中央高樓尖頭まで高さ凡110尺、希臘羅馬の古代風を参酌した西洋式建築である。

又構内には九条道秀及び益田孝よりそれぞれ寄贈され、昭和11年開館された九条館と応挙館がある。前者はもと京都御所内九条邸にあつたもので伝山楽山雪筆の四季楼閣山水図の画かれた床張付、襖等があり、後者には円山応挙筆の壁張付、襖等がある。その他茶室六窓庵、校倉等の建物がある。

〔館長〕 浅野長武 〔次長〕 田内静三 〔部長〕 (庶務) 三浦勇助、(学藝) 野間清六、(課長) (管理) 吉田鉄助、(会計) 山高彌士、(普及) 坂元正典、(美術) 岡田謙、(工藝) 蔵田蔵、(考古) 矢島恭介、(資料) 近市藤太郎

〔評議員〕 有光次郎、石橋正二郎、石川一郎、宇佐美毅、上野直昭、河田烈、河原春作、小泉信三、小宮豊隆、坂本太郎、徳川宗敬、杉栄三郎、原田淑人、和辻哲郎、松本栄一

〔観覧日〕 月曜日、年末年始を除き、3月—10月午前9時—午後4時半、11月—2月午前9時—午後4時

〔観覧料〕 大人50円、小人20円

国立近代美術館

中央区京橋3—11

電 (561) 0823—5 5778

昭和26年、文部省社会教育局が中心となつて準備が進められ、昭和27年8月1日創立、12月1日開館。建物は旧日活会館を買上げ、建築家前川国男に依頼して改装した。更に昭和33年3月、約70坪の拡張工事の1部が完成し、近代日本における名作を常時陳列するようになった。(37頁参照)

敷 地 240坪

建 坪面積2475m² (鉄骨鉄筋コンクリート地上4階、地下1階)

〔館長〕 稲田清助 〔次長〕 今泉篤男 〔庶務課長〕 床井重男 〔事業課長〕 河北倫明

〔評議員〕 石橋正二郎、岡部長景、林屋亀次郎、細川護立、富永惣一、大谷竹次郎、河原春作、高橋誠一郎、団伊能、司忠、上野直昭、山下新太郎、矢代幸雄、前田廉造、松田権六、浅野長武、斎藤知雄、佐藤親次郎、北村徳太郎、坂崎坦

〔運営委員〕 池田義信、飯島正、岡本謙次郎、和田新、嘉門安雄、滝口修造、村田良策、牛原虚彦、植村鷹千代、野間清六、隈元謙次郎、前川国男、福原匡彦、清水晶、島崎清彦、久富寛、土方定一、関野嘉雄、川喜多かしこ
 〔観覧日〕 1月4日から12月28日迄。午前10時—午後5時、毎月曜休館。

〔観覧料〕 大人50円。学生30円、小人20円

国立西洋美術館

台東区上野公園
 電 (821)1418—9

昭和26年4月サンフランシスコ平和条約会議に際し吉田首相と仏国シューマン外相との旧松方コレクション返還に関する会議が契機となつて、同28年12月文部省に仮称フランス美術館設置準備協議会がおかれた。以後ル・コルビュジェ氏に設計依頼した美術館建設の準備も整い、昭和33年2月には起工。昭和34年1月フランス政府より日本政府に寄贈の正式調印が行われ、4月にはコレクションが到着、6月には開館をみるに至つた。当コレクションは松方幸次郎氏が正4・5年から昭和初年にかけて欧州で集められ、そのまま仏国に残されていた美術品で、第二次大戦によつて敵国財産として仏国政府の管理に歸していた絵画308点、彫刻63点よりなつている。(37頁参照)

敷 地 7094.9 m²

総 建 坪 4180.1 m² (鉄筋コンクリート造)

展示用壁面延長1202.5 m² (但し会議室壁面12.5 m²を含む)

〔館長〕 富永惣一 〔次長〕 平野出見 〔庶務課長〕 花村正道 〔事業課長〕 嘉門安雄

〔評議員〕 浅野長武、石橋正二郎、稲田清助、今泉篤男、上野直昭、大原総一郎、岡部長景、小塚新一郎、坂倉準三、高橋誠一郎、司忠、寺中作雄、細川護立、松方三郎、松本重治、村田良策、矢代幸雄、山田久就、鈴木俊一

〔観覧日〕 9時30分—5時 月曜および12月29日—1月3日休館

〔観覧料〕 大人50円、学生30円、小人20円

東京都美術館

台東区上野公園
 電 (821)3726—8・7093

大正10年平和博覧会記念事業期成実行会によつて東京に永久的美術館の設立が建議され、佐藤慶太郎の100万円の寄附及び大正13年皇太子殿下御慶事に際し宮内省より現敷地約13200 m²の無償貸与によつて、大正13年9月起工、同15年4月竣工した。5月聖徳太子奉讃美術展を開館記念として開催した。昭和4年東京府より約40万円を支出して別館を増築した。昭和18年旧称東京府美術館を東京都美術館と改めた。昭和32年5月東京都は25,000万円の予算をもつて、2・3階増改築工事着手、同33年3月竣工、総面積17,470 m²となつた。

〔館長〕 沼沢武彦 〔副館長〕 常田正治 〔係長〕 柿沼春雄、友部隆治、〔顧問〕 鍋木清方、松林桂月、川端龍子、北村西望、奥村土牛、安田靉彦、野田九浦、前田青郎、中村岳陵、平藤田中、松田権六、板谷波山、岩田藤七、豊道春海、内藤伸、斎藤知雄、朝倉文夫、佐藤清蔵、小杉放庵、和田三造、山下新太郎、中沢弘光、辻永、有島生馬、梅原龍三郎、石井鶴三、上野直昭、吉田五十八、斎藤隆三、川島理一郎、高村豊周、中村研一、山口蓬春、吉田三郎、山崎寛太郎、伊東深水、堅山南風、児玉希望、東郷青児、寺内万治郎、小山敬三、小糸源太郎、鈴木翠軒

〔参予〕 (日本画)岩橋英遠、田中青坪、吉岡堅二、奥田元宋、高山辰雄、東山魁夷、(洋画)宮本三郎、田崎広助、小寺健吉、小堀進、森田茂、中野和高、村井正誠、島村三七雄、田中忠雄、橋原健三、原精一、松本弘二、(彫刻)藤野舜正、山本豊市、木村珪二、菊地一雄、(工藝)大須賀喬、内藤春治、香取正彦、安原喜明、(書道)青山杉雨、金子鸛亭、香川京、山崎節堂、(学識経験者)有光次郎、岩佐新

一、東京都美術館処務規程(略)

二、東京都美術館顧問及び参予規程

第1条 東京都美術館(以下館という)に顧問及び参予若干人を置く。都教育委員会がこれを委嘱する。

第2条 参予の任期は2年とし、再任を妨げない。

第3条 顧問及び参予は館の運営について館長の諮問に応ずる。

第4条 館に常任参予若干人を置くことができる。参予の中から都教育委員会がこれを委嘱する。

附 則

この規則は、昭和22年4月1日からこれを施行する。

附 則(昭和25年教育委員会規則第7号)

この規定は、公布の日から施行する。

東京都美術館使用条例

第1条 東京都美術館(以下館と称する)は、次の目的を有する者にこの条例によつて使用せしめる。

一、美術についての創作の展覧

二、新古美術品の陳列

三、その他美術についての事業

前項各号の使用がない場合に限り藝術等の会に臨時に使用せしめることができる。

第2条 館を使用しようとする者は、別に定める様式によつて、要項を記して館長の承認を受けなければならない。

第3条 前条によつて承認を受けた者は、使用料を前納しなければならない。但し、特別な事情があると認めるときは、相当の保証人を附け又は保証金を納めさせた上後納を許すことがある。

第4条 使用料は次の範囲内において教育委員会が定める。

美術観覧施設

使用規則(略)

部屋の模様替その他の設備を必要とするときは、館長の承認を受けてその実費を納めなければならない。

看守、受付、下足等については、使用者がその費用によってこれを施設しなければならない。

第5条 館の使用の承認を受けた後これを他に転貸することはできない。

第6条 既納の使用料はこれを還付しない。但し下の場合にはその一部又は全部を還付することがある。

一、不可抗力によって指定の場所を使用することができないとき。

二、館の都合によって使用承認を取消したとき。

第7条 使用者が切符売場その他特別の設備をしようとするときは館長の承認を受けなければならない。

第8条 使用者が館についての諸規定及びこれに基づいてする館長の指示を遵守せず又は公安風紀を紊る虞があると認める場合には、館長は、使用者に対してその使用の承諾を取消すことがある。

前項の処分によって使用者に損害が生ずることがあつても、館は、その賠償の責を負わない。

第9条 使用者が使用を終り若しくは使用を中止したとき又は使用の承認を取消されたときは、速かに使用の場所を原状に回復し館長の検査を受けなければならない。

第10条 故意又は過失によって建物及び使用物を汚損し又は毀損した場合は、使用者はその賠償の責を負わなければならない。

第11条 館長において必要と認めるときは、使用者に対して臨機の指示をなすことができる。

第12条 この条例施行に必要な細則は都教育委員会が定めることができる。

附 則

一、この条例は昭和33年4月1日から施行する。

二、この条例施行の際、現に使用の承認を受けているものについては、なお従前の例による。

演劇博物館

(早稲田大学坪内博士記念)

新宿区戸塚町1ノ647 早稲田大学内

電 (341)2141・4144・(内300)

昭和3年10月創立。坪内逍遙の古稀の賀及びシェークスピア全集翻訳完成を記念して学界、芸能界其他有志数千名の拠出により創立、昭和3年10月開館した。西洋、日本の演劇に関する参考資料、文献を蒐集陳列して一般の観覧に供する一方、附属演劇図書館をもち、演劇研究及び調査の指導並びに受託など演劇文化の向上発展に資するを目的としている。なお年数回随時特別展示会を開催する。早稲田大学の管理に属すが公共機関として一般に無料で公開されている。季刊「演劇博物館」を発行。

〔館長〕 河竹繁俊 〔観覧日〕 毎日午前9時—午後4時。休館は毎月曜及び祭日の翌日、年末年始の他8月。

東洋美術陳列館

(早稲田大学附属、会津博士記念)

新宿区戸塚町、早稲田大学内

電 (341) 1404

昭和9年会津八一により早稲田大学内恩賜記念館内に創立された。同20年戦局非となり、列品の大部分を疎開したが、一部は疎開中戦災に遭つた。23年図書館内の旧貴賓室に一部を陳列、29年10月学生会館隣設の新館に移り開館した。本学名誉教授会津八一の収集した各種美術品を陳列し、同氏の学藝に対する功績を記念する。中国各時代の明器最も多く、中国、日本の古代瓦・銅鏡・仏像、書道名蹟拓本等を主な収蔵品とする。本大学関係者及び特別希望者のみに無料で観覧させている。

〔観覧日〕 毎週、月・水・金曜日。午前9時—午後4時。

大倉集古館

港区赤坂葵町3

電 (481)0781

大正6年3月創立。財団法人大倉集古館は其の土地、建物、蒐集品、維持資金等悉く故大倉喜八郎がその授爵記念として寄附したものである。創立当時土地15923m²、建物延3511m²、美術品3692点、書籍15,600冊であつたが、大正12年の大震災で蒐集品の大部分を焼失、大正15年再び大倉男の寄附により現在の陳列館を起工、焼失を免れた蔵品を基礎に多数の新収品を加え昭和3年3月開館した。本館は鉄筋コンクリート銅葺屋根延337坪の支那風建築である。絵画は毎月陳列替を行い、彫刻、工藝品等は3ヶ月—6ヶ月で陳列替を行う。

〔館長〕 大崎新吉

〔理事長〕 大倉喜七郎 〔理事〕 大崎新吉 藤田武雄

〔評議員〕 門野重九郎 大倉喜七郎 大倉喜六郎 大崎新吉 大倉彦一郎 吉武一雄 藤田武雄 伊東勇二 横田保 西本直民 門野正二

〔観覧日〕 4月—9月午前9時より午後4時迄、10月—3月午前10時より午後4時迄、但毎月曜、天皇誕生日、憲法記念日、勤労感謝の日、年末年始は休館。

〔観覧料〕 無料

書道博物館

台東区上根岸町125

昭和11年1月創立。財団法人書道博物館は故中村不折が40年に亘つて蒐集した書道に関する参考品12,000余点を以て昭和11年11月開館した。重要文化財11点がある。

〔館長〕 中村丙午郎

〔観覧日〕 月曜を除き毎日午前10時—午後4時 〔観覧料〕 100円

東洋文庫

文京区駒込上富士前町147

電 (941)0229・0668

大正6年9月岩崎久弥が前中華民国総統府顧問ジョージ・アーネスト・モリソンより購入したモリソン文庫を核心とし、其後更に東洋に関する諸書の蒐集を行つたもので現在の場所に文庫を新築し大正13年11月財団法人組織とし東洋文庫と称した。文庫の敷地、建物、図書其他一切の設備は岩崎久弥の寄附によるものである。終戦後昭和23年8月以来、財団基金喪失のため、文庫の図書部は国立国会図書館の支部東洋文庫として運営されることとなり、研究部は従前の如く内外の寄附金により財団法人にて経営されている。事業としては前記の如く東洋関係の図書を蒐集し閲覧に供するとともに東洋学の研究上有益なる研究、図書の出版、稀観書の複製をなし又講演会、展覧会等を行い、欧米東洋学諸学会の国際センターとして活躍し、また欧米少壮東洋学者の留学生をもうけ入れて補導している。

〔国会図書館支部東洋文庫長〕 岩井大慧 〔理事長〕 細川護立 〔理事〕 和田清 有光次郎 徳川宗敬 沢田敬三 小倉正恒 山本達郎 〔研究部長〕 榎一雄 〔監事〕 岡東浩 〔閲覧日〕 日曜 祝祭日以外毎日午前8時—午後4時半、但毎木曜 午後閉館 〔閲覧料〕 無料、但し紹介を要す。

日本民藝館

目黒区駒場861

電 (461)8742

昭和11年10月創立。民藝品の蒐集並に常置陳列を行い、地方民藝の指導と開発に当るを目的とす。蒐集の事業は大正15年に始められたが、昭和11年10月大原孫三郎の寄附によつて建物完成し、12月財団法人組織となつた。

〔館長〕 柳宗悦 〔観覧日〕 月曜日を除き午前10時—午後4時、但月曜1月、2月、8月休館 〔観覧料〕 100円

根津美術館

港区赤坂青山南町6ノ115

電 (401) 2536, 2572

昭和15年11月創立。根津嘉一郎の蒐集になる東洋美術品と邸宅庭園を、翁の歿後その遺志により寄附を受け財団法人根津美術館として設立し、翌16年11月開館第1回展を開いた。以後、春秋二季の特別展観と年数回の小展観を行つてきたが第二次大戦により建物を焼失したので28年10月より早大教授内藤多仲、今井兼次の設計による鉄筋コンクリートの和風総面積646.8m²の陳列館を新築、30年11月8日より常置陳列の美術館として開館、主な収蔵品は仏画、水墨画、写経、茶器、中国古銅器等。

〔館長〕 根津嘉一郎 〔主事〕 依田太郎 〔学藝員〕 酒井千尋 奥田直栄

〔観覧日〕 月曜日、祝日の翌日、年末年始及8月中を除き毎日午前9時半—午後4時半

〔観覧料〕 50円

ブリヂストン美術館

中央区京橋1ノ1

電 (561) 6317

昭和27年1月開館。石橋正二郎によりブリヂストンビルの二階に創設された常設美術館で、所蔵の西洋及日本近代の油絵、彫刻を主として陳列する。昭和34年改装。

〔顧問〕 細川護立、浅野長武 〔参与〕 上野直昭、大原総一郎、久保貞次郎、矢代幸雄、松本栄一、福島繁太郎、秋山光夫 〔運営委員長〕 団伊能 〔運営委員〕 石橋幹一郎、伊原宇三郎、猪熊弦一郎、今泉篤男、富永惣一、嘉門安雄、河北倫明、谷信一 〔主事〕 岩佐新

〔観覧日〕 月曜日を除き午前10時—午後5時半。

〔観覧料〕 50円

牧野記念館

(駒場高等学校美術館)

目黒区上目黒8の660

都立駒場高校内

電 (461) 2008

昭和25年7月創立。故牧野虎雄の遺作油絵77点、スケッチブック10冊、絵具一式、衣類若干、他関係資料数点、海外名画複製(19世紀から現代まで)約40点収蔵。春秋2回特別展観を行い、他は生徒作品展をはじめ内外ポスター、工藝、デザイン、古美術、書及び各美術大学作品展等年間を通じ開催。

〔観覧日〕 希望により随時開館

〔観覧料〕 無料

明治神宮宝物殿

渋谷区代々木外輪町

電 東京(401)(代)0116

大正10年11月開館。明治神宮文化課の所管で、明治天皇、昭憲皇太後の御物を保管陳列する。

〔観覧日〕 無休。4月—9月毎日午前8時半—5時、11月—3月午前9時—4時

〔観覧料〕 40円

明治神宮聖徳記念絵画館

新宿区霞丘町、明治神宮外苑

電 (401) 0312

明治天皇の聖徳を永遠に伝えるため大正15年建設された。当時の一流の画家80人がえがいた明治天皇と昭憲皇太後の事跡をあらわした日本画、洋画各40点が壁画として陳列されている。昭和11年に全部が完成した。

〔観覧日〕 12月31日を除き毎日午前9時—午後4時

〔観覧料〕 大人50円 小人20円

五島美術館

世田谷区玉川上野毛町111

電 (701) 5932

昭和35年4月創立。五島慶太が多年にわたり蒐集した美術品と土地の寄附を受け、これを中心に創立され

美術観覧施設

た。収蔵品は飛鳥時代から近代に至る多種類の美術品で、とくに古写経、書蹟、絵画、茶器類が根幹をなし、陶磁器、考古品、古鏡などが追加収蔵された。事業は美術品の蒐集、調査、研究と保管陳列のほか、春秋二季に特別展を開き、また講演会、映画会を催し、出版物を刊行している。建物は吉田五十八の設計になる鉄筋コンクリート造平屋建。展示室、講堂、収蔵庫など総面積1666.5m²。

〔館長〕 伊藤日出登 〔副館長〕 西村清

〔観覧日〕 毎週月曜日と年末年始を除き毎日午前9時半—午後4時

大東急記念文庫

世田谷区玉川上野毛町111

電 (701) 5932

東京急行電鉄株式会社取締役会長五島慶太が旧久原文庫を譲り受け、大東京急行電鉄の一大組織を現在の東京急行・京浜急行・京王帝都・小田急の四電鉄と東横百貨店の五社に分離の際に、その記念事業の一つとして、5社及び東映の協力のもとに昭和24年4月財団法人組織の本文庫を設立したもの。古版本2万5千数百点を蔵し、すでに国宝・重文・重宝に指定されたもの28点に及ぶ。昭和30年4月から一般に無料公開している。なおその一部を同年9月初旬東横百貨店で初公開した。なお貴重書漢籍、仏書解題及び去来妙覆製解題、承暦鈔本金光明最勝王経音義製解附索引文化講座シリーズ全36巻などを刊行した。昭和32年度から、毎年継続事業として期間を定めて文化講座を開設し、34年度第3回講座を開催さらに昭和33年11月から当文庫機関紙「かがみ」を発刊。

【神奈川】

県立金沢文庫

横浜市金沢区金沢町217

電 金沢局(7) 9069

昭和5年8月再建。史蹟金沢文庫及び称名寺に収蔵する書籍その他の文化財を襲継し、又図書記録の類を蒐集保存して一般に観覧させる。金沢文庫は鎌倉中期北条実時が蒐集した和漢書を納めるために創建し、鎌倉末期迄4代に亘って経営された。その後一時称名寺によつて保管されたが、昭和5年御大典記念事業として神奈川県が現在の文庫を再建した。

〔文庫長〕 熊原政男

〔観覧日〕 毎月末日、祝祭日、年末年始を除き、毎日午前9時—午後4時半

〔観覧料〕 20円

神奈川県立近代美術館

神奈川県鎌倉市雪ノ下1051

電 (0635) 2500

昭和26年11月開館。建物は坂倉準三の設計による。近代美術だけでなく、凡ゆる美術を新しい観点から展覧する。

〔館長〕 村田良策 〔副館長〕 土方定一 〔運営委員〕 内山岩太郎、伊東深水、木下孝則、小山富士夫、中村岳陵、坂倉準三、佐藤敬、富永惣一、山口蓬春、吉川逸治、山田智三郎、近藤市太郎、田辺至、高間惣七、教育長、県会議長。

〔観覧日〕 毎月曜を除き午前9時—午後4時、但土、日曜日午後4時半

〔観覧料〕 60円

鎌倉国宝館

神奈川県鎌倉市雪ノ下1034

電 (0635) 753

昭和3年4月創立。主に鎌倉を中心とする社寺及び個人寄託の古美術品を収蔵展覧する。年約4回特別展開催。

〔館長〕 渋谷二郎

〔観覧日〕 毎月曜を除き午前9時—午後4時半 年末12月27日—31日休館

〔観覧料〕 20円

鶴岡八幡宮宝物殿

神奈川県鎌倉市雪ノ下1051

電 (0635) 315

鶴岡八幡宮に伝来する神宝・刀剣・武具・工芸品等社宝の一般展覧をなす。

〔観覧日〕 毎日午前8時—午後5時 休館9月15日

〔観覧料〕 20円

常盤山文庫

神奈川県鎌倉市笛田1993

電 (0635) 1828

昭和21年5月開館。同28年以来財団法人組織とした。菅原通季収集の宋、元、鎌倉時代の書蹟を中心に、平安朝歌切、宋・元画、室町時代の水墨画が主で、天神画コレクションのほか平安時代の仏像がある。国宝、重要文化財、重要美術品に指定されたもの47点。

〔館長〕 菅原寿雄

〔観覧日〕 土・日曜、祝日と春秋特別展開催中に限る。午前10時—午後4時

〔観覧料〕 無料

長尾美術館

本館 鎌倉市鎌倉山 電 (0635) 923

分室 東京都中央区銀座8ノ1

電 (571) 7546、7586

昭和21年5月創立。財団法人組織、長尾欽弥の蒐集を中心とする染織美術品を保管公開する。毎年春秋2季特別展覧を行う。

〔理事長〕 清瀬三郎 〔理事〕 長尾欽弥、村田五郎、太田耕造、井上清一、柴沼直、有光次郎 〔監事〕 池田善哉

箱根神社宝物殿

神奈川県川足柄下郡箱根町元箱根

電 箱根町(3) 6031・6194

電 上田 1274

明治40年6月創立。現在の建物は昭和9年に新設された。同社所蔵の古美術品、古文書等を展覧する。

〔観覧日〕 無休、4月—10月午前8時—午後5時、11月—3月午前9時—午後4時

〔観覧料〕 20円

箱根美術館

神奈川県足柄下郡箱根町強羅

電 箱根 (2) 2623

昭和27年6月創立。世界救世教教祖岡田茂吉によって設立され、財団法人東明美術保存会箱根美術館として広く美術品を蒐集し一般に公開する。常設展の他に毎年各種の特別展並に箱根夏期美術講座等開催。

〔館長〕 岡田よし子

〔観覧日〕 4月1日—11月30日迄、午前9時—午後5時(但10月、11月は午後4時迄)木曜日休館

〔観覧料〕 普通観覧料100円。

熱海美術館

熱海市伊豆山大久保998

電 熱海 4586

昭和32年1月創立。箱根美術館と同じく財団法人東明美術保存会に所属し、箱根美術館の姉妹館として絵画、書跡、彫刻、工芸を陳列する。

〔館長〕 岡田よし子

〔観覧日〕 4月1日—9月30日午前9時—午後5時、10月1日—3月31日午前9時—午後4時、木曜日休館

〔観覧料〕 100円

【中部地方】

三嶋大社博物館

静岡県三島市伝馬町1

電 三島 172

昭和5年3月創立。三嶋大社所蔵の宝物を始め郷土出土品等を陳列する。刀剣38点、古文書142点、工芸43点。

〔館長〕 矢田部盛枝

〔観覧日〕 毎日午前9時—午後4時

〔観覧料〕 20円

久能山東照宮宝物館

静岡市根古屋389

大正3年3月宝物館を新築し現在に及んでいる。家康公遺品等徳川歴代将軍の武具刀剣類400点を陳列する。

〔観覧日〕 午前8時—午後4時 初穂料として30円以上奉納せる者にのみ拝観させる。

身延山宝物館

山梨県南巨摩郡身延町

電 身延山 2—3

大正15年5月創立。日蓮宗宗門に関する歴史考古資料其他を公開する。

〔観覧日〕 毎日午前8時—午後5時

〔観覧料〕 30円

上田市立博物館

長野県上田市新参町

昭和4年9月創立の上田徴古館が昭和29年4月より市立博物館として新発足したもの。旧上田城南北、西三基の櫓内に郷土資料を陳列公開する。

〔館長〕 平松芳重 〔学芸員〕 清水利雄

〔観覧日〕 毎日午前9時—午後4時

〔観覧料〕 10円

諏訪市美術館

長野県諏訪市大字上諏訪中浜町

電 諏訪 1217

昭和25年8月創立。従来片倉会館の一部として諏訪湖畔にあり、懐古館と呼ばれ、諏訪地方出土の考古学参考品を陳列し、時に応じ各種展覧会場として利用されてきたが、昭和25年8月28日、片倉家より諏訪市に寄附され、昭和31年5月より諏訪市常設美術館として油絵、水彩、版画、彫刻・工芸等を収蔵、展覧している。

〔館長〕 小口幸雄

〔観覧日〕 月曜日を除き毎日

松本市立博物館

長野県松本市2の丸3

電 松本 133

日本北アルプス、考古、民俗、歴史に関する諸資料並に近代美術品等を蒐集陳列し地方文化の向上を計り、学校・社会教育の資としている。分館中山考古館は市内中山地区出土の考古資料を収集展示している。

〔館長〕 下川頼人

碌山美術館

長野県南安曇郡穂高町

昭和32年4月創立。財団法人。我国近代彫塑の開拓者、荻原碌山(守衛)の全作品その他を保存し公開している。

〔館長〕 平林盛人

〔観覧日〕 1月10日から12月20日まで。但し月曜休館。国祭日の翌日も休む。4月1日—10月31日午前9時—午後5時、11月1日—3月31日午前9時—午後4時。

〔観覧料〕 大人30円。4月22日は碌山忌につき無料。

善光寺大勧進宝物館

長野市元善町492のイ

電 長野 (2) 2460

明治40年創立。大正7年増設、寺宝約250点を収蔵、参拝者、信徒に拝観させることを目的とする。

〔館長〕 都筑玄妙

〔観覧日〕 毎日午前6時—午後5時

〔観覧料〕 10円

北方文化博物館

新潟県中蒲原郡横越村大字沢海

電 横越1番甲

昭和20年10月創立、旧伊藤文吉邸とその所蔵品を基

美術観覧施設

として、財団法人組織により、美術・民俗・考古・郷土資料・農業資料等を展示公開する。なお新潟市に分館を、新発田市に清水園を管理公開している。

〔館長〕 伊藤文吉

〔観覧日〕 毎日午前9時—午後5時

〔観覧料〕 30円

高岡市美術館

富山県高岡市古城公園内

電 高岡 2666

昭和26年8月創立。主として郷土出身作家の作品を所蔵陳列する外地方展及特別展を開催している。日本画、洋画、工芸、彫刻、書等現代美術約300点。

〔館長〕 中条豊治

〔観覧日〕 毎日午前9時—午後5時

〔観覧料〕 無料

富山市立郷土博物館

富山市総曲輪

昭和29年創立。復元された旧富山城天守閣にあり、展示室は2部に分かれ、美術部には郷土作家の作品が多く、歴史部には主として富山藩時代の郷土資料を展示している。

〔観覧日〕 月曜日を除き毎日午前9時—午後5時

〔観覧料〕 20円

石川県美術館

金沢市出羽町1番丁37ノ1

電 金沢(3) 7580

昭和34年10月開館。兼六園内の「成巽閣」に隣接して建設された。収蔵品は、加賀伝統の美術工芸品が最も多く、中でも九谷焼、金工品、漆器類が大部分を占める。谷口吉郎の設計になる鉄筋コンクリート3階建、12室、延総面積1590.6m²。

〔館長事務取扱〕 小林庄平 〔事務局長〕 川崎政雄

〔観覧日〕 4月1日—9月30日 午前9時—午後4時、10月1日—3月31日 午前9時半—午後4時 毎月曜日、年末年始休館。

〔観覧料〕 50円

徳川美術館

名古屋市東区徳川町

電 東 6626

昭和6年12月財団法人黎明会により設立され昭和10年11月開館。尾州徳川家伝来の美術品、古文書等を保存し展覧する。絵画、彫刻、工芸品外約1万点。

〔館長〕 熊沢五六

〔観覧日〕 年中無休 毎日午前9時—午後4時

〔観覧料〕 50円

愛知県文化会館美術館

名古屋市東区久屋町(栄公園内)

電 (9) 5511—5

昭和29年12月創立。30年2月開館。鉄骨鉄筋コンクリート2階建、展示室18、計7630.3m²。国際美術の

紹介、国内藝術の交流、産業美術の進展及び郷土美術文化の振興を図るを目的とする。各美術団体の地方巡回展、特別展等を開催。

〔文化会館長〕 渡辺捨雄

〔観覧日〕 午前9時—午後5時

〔観覧料〕 展覧会により異なる

〔近畿地方〕

神宮徴古館

伊勢市倉田山

電 伊勢 2644, 5030

当館は、神宮司庁で経営する歴史・美術博物館で、神宮農業館とともに、はじめ財団法人神苑会によつて設立せられ、明治44年神宮に献納された。神宮の撤下御装束神宝類をはじめとして、神宮崇敬を物語る歴史参考品及び現代美術を収蔵し、一般に公開する。昭和20年戦災により焼失したが、同28年10月第59回神宮式年遷宮附帯事業として同所に新築開館した。

〔館長〕 神宮少宮司 小林巖雄 〔主幹〕 早山静夫

〔学藝員〕 西川元泰 〔書記〕 高山芳太郎

〔観覧日〕 1月1日—12月28日 午前8時半—午後4時半

〔観覧料〕 神宮農業館ともに30円

三重県立博物館

津市広明町 津市偕楽公園内

電 津 2283

昭和28年6月創立。地方総合博物館として考古・歴史・美術等の人文科学資料および植物・動物・鉱物等の自然科学資料、ならびに県内産業、特産等の展覧を行う。

〔館長〕 松林嘉吉

〔観覧日〕 毎日午前9時—午後4時 月曜、祭日の翌日、月末、年末年始休館

〔観覧料〕 15円

高野山霊宝館

和歌山県伊都郡高野町高野山

電 高野 32

大正9年9月30日創立。高野一山の宝物を保管し一般の拝観に供している。

〔館長〕 堀田真快

〔観覧日〕 毎月末及12月25日—1月31日迄を除き毎日、夏季午前8時—午後5時、冬季午前9時—午後3時

〔観覧料〕 50円

熊野神宝館

和歌山県新宮市新宮1

電 533

明治40年創立。速玉大社国宝古神宝類約400点、重要文化財2点の他、熊野郷土関係古美術資料を展覧する。昭和32年元速玉神社宝物館を鉄筋コンクリートに改築拡充した。

〔館長〕 上野 殖

〔観覧日〕 毎日午前9時—午後4時

〔観覧料〕 50円

滋賀県立産業文化館

大津市東浦一番町

電 6191

昭和23年11月創立。開館当初は同一建物内に博物館的な業務と物産陳列所的なものの2様を併設していた。

昭和29年6月隣接地に、鉄筋コンクリート5階建の滋賀会館が建設されて物産陳列部門は同会館内に移し、本館は純美術博物館として内容を充実したが、さらに昭和31年1月古美術部門も滋賀会館3階に移し現在に及んでいる。古画並びに本県関係画家の作品、書蹟、工藝品、考古・民俗資料等約250点を収蔵。

〔館長〕 田中 千年

〔観覧日〕 年中無休 午前9時—午後5時

〔観覧料〕 無料

【京 都】

京都国立博物館

京都市東山区大和太路通七条上ル

電 (6) 54、1424、5910

明治22年5月宮内省達を以て図書寮附属博物館が廃止され帝国博物館、帝国奈良博物館と同時に帝国京都博物館が設置された。25年工事に着手し28年竣工、30年5月開館した。この後官制改革により京都帝室博物館と改称、大正13年今上陛下の御成婚に際し宮内省より京都市に下賜され、同年2月1日より恩賜京都博物館と改称し、京都市の経営するところとなつたが、昭和27年文化財保護法の一部改正により同法の規定に基き4月1日より国立移管をもつて京都国立博物館として新発足をした。内部組織は館長、次長の下に管理課、学藝課を置き館長諮問機関として京都国立博物館評議員会が設置されている。(便欄4・33頁参照)

〔館長〕 神田喜一郎 〔次長〕 富岡益五郎 〔課長〕 (管理課) 有本利三郎、(学藝課) 梅津次郎

〔評議員〕 本田親男、堂本三之助、大宮庫吉、岡田戒玉、貝塚茂樹、高山義三、辰馬悦蔵、武田長兵衛、村田治郎、上野精一、梅原末治、高田三郎、平沢興、須田国太郎

〔観覧日〕 月曜日を除き1月4日—2月28日及び11月1日—12月25日午前9時—午後4時、3月1日—10月31日午前9時—午後4時半(但、3月1日—10月31日の日曜、祝日は午前9時—午後5時)

〔観覧料〕 大人50円

京都市美術館

京都市左京区岡崎法勝寺町

電 吉田 4107—8

昭和8年設立。鉄筋コンクリート2階建、4646.4m²。市主催の美術展を開催する外、一般美術団体に会場を貸与する。所蔵品日本画129、洋画74、工芸40、彫刻27。

〔館長〕 重達 夫

北野天満宮宝物殿

京都市上京区馬喰町

電 (44) 5

昭和2年12月創立。菅原道真公歿後1025年祭(半万燈祭)の記念事業の一つとして設立され、国宝北野天神縁起絵巻を初め絵画、古文書等の宝物類を展示する。

〔観覧日〕 毎月25日の月次祭当日と春秋二季の臨時開殿 午前9時—午後4時

〔観覧料〕 30円

広隆寺霊宝殿

京都市右京区太秦蜂岡町

大正11年10月創立。聖徳太子1300年遠忌記念に創設された。同寺蔵の飛鳥時代弥勒菩薩像を始め各時代の多くの仏像、仏画、美術工芸品等を収蔵している。

〔観覧日〕 毎日

〔観覧料〕 40円

醍醐寺霊宝館宝聚院

京都市伏見区醍醐東大路町22

電 醍醐 2

昭和10年4月開館、醍醐天皇1000年遠忌の記念事業として設立された。醍醐寺所蔵の珍しい仏画、一般絵画、彫刻、古文書記録、經典等を保管整理し、又一般に公開する。

〔館長〕 佐和隆研

〔観覧日〕 春秋2季(4月—5月、10月—11月) 毎日午前9時—午後4時

〔観覧料〕 50円

仁和寺霊宝館

京都市右京区御室仁和寺

電 (44) 38

昭和2年5月竣工開館、聖教30帖冊子、孔雀明王等仁和寺所蔵の国宝その他宝物を保管し一般に公開する。

〔館長〕 花柳智勝

〔観覧日〕 毎日午前9時—午後4時

〔観覧料〕 30円

豊国神社宝物館

京都市東山区大和太路正面茶屋町

電 祇園 3802

大正14年12月開館。神社宝物、歴史風俗資料を陳列する。

藤井有鄰館

京都市左京区岡崎円勝寺町44

電 吉田 5

大正15年11月創立。鉄筋コンクリート3階建。藤井善助の寄附行為による財団法人藤井齊成会の経営。藤井善助蒐集の東洋古美術品を保存展覧する。

〔代表理事〕 藤井志づ

〔観覧日〕 毎月第1、第3日曜の正午—3時迄開館、

美術観覧施設

但し1月、8月は休館。

〔観覧料〕 無料

陽明文庫

京都市右京区宇多野上ノ谷町1

電 西陣 7550

昭和13年11月財団法人組織として設立。旧近衛家文庫古文書10万余点、古典籍3万余部を収蔵し、研究者のもとにに応じ随時観覧の便を計っている。

〔理事長〕 細川護立

〔主事〕 小笹喜三

池大雅美術館

京都市右京区松尾万石町57

昭和34年12月開館。鉄筋コンクリート211.2m²坪。多年にわたる池大雅関係の絵画60、書50、資料7点の蒐集品を展示する。

〔館長〕 佐々木米行

〔観覧日〕 午前9時—午後5時 年中無休

〔観覧料〕 50円

【奈良】

奈良国立博物館

奈良市登大路50

電 奈良 7771—3

明治22年帝国奈良博物館設置せられ同28年4月開館。33年官制の改革と共に奈良帝室博物館と改められ、更に昭和22年5月官制改革により帝室博物館は文部省の管轄の下に国立博物館となるに及んで国立博物館奈良分館と改称された。ついで25年5月文化財保護法の制定にともない文化財保護委員会の管轄に、又27年4月東京国立博物館奈良分館に、同年8月文化財保護法一部改正により東京国立博物館より分離し、奈良国立博物館と改められて新発足をした。内部組織は館長の下に次長が置かれ、従前の庶務、学藝、普及の3課は廃されて新たに管理、学藝の2課が置かれ、館長の諮問機関として奈良国立博物館評議員会が設置されている。(便欄4・33頁参照)

〔館長〕 石田茂作 〔次長〕 高村峰蔵

〔課長〕 (管理課) 次長併任 (学藝課) 小泉顕夫

〔評議員〕 今村 荒男、梅原 末治、奥田 良三、落合 太郎、岡田 成玉、岸 勇一、佐伯 勇、藤田 亮策、高橋 正次、筒井 英俊、中山 正善、橋本 凝胤、春山 武松、村田 治郎、和田 軍一

〔観覧日〕 毎月第1、第3月曜日と年末年始を除き、3月—10月午前9時—午後4時半、11月—2月—午前9時—午後4時

〔観覧料〕 大人30円

春日大社宝物殿

奈良市春日野町御蓋山160

電 奈良 7788、7789

昭和10年4月創立。歴代朝野から献進の宝物を保存し、展覧する。絵画彫刻の他 鎧、太刀等工芸品約3000

点所蔵。

〔観覧日〕 毎日午前9時—午後5時

但し、7、8月は午前8時半、午後4時半

〔観覧料〕 30円

大和文華館

奈良市菅原町 969

電 (富雄) 544、545

昭和35年11月創立。昭和21年以来近畿鉄道株式会社が美術館設立のため内外の美術品の蒐集につとめて来たが、新しく美術館を建設して開館した。建物は吉田五十八の設計になる鉄筋コンクリート建、延面積約2310m²の近代建築である。常設展観のほか春秋二季に特別展観を行う。国宝4点、重要文化財20点をふくむ多数の収蔵品がある。昭和26年以降季刊美術雑誌「大和文華」を発行している。

〔館長〕 矢代幸雄 〔事務局長〕 高橋公男

〔学芸部〕 満岡忠成他5名

〔観覧日〕 年末年始を除き毎日午前10時—午後4時

〔観覧料〕 50円 特別展 100円

天理大学附属天理参考館

奈良県天理市布留

電 天理 2、3、4

昭和13年4月創立。天理大学の創立以来30年間に蒐集した海外土俗資料に、更に支那朝鮮の古美術、近東・中南米古代資料、日本の貝塚資料、アイヌ資料、キリシタン資料、交通関係資料、文楽人形等も加えて総点数約23万を数え大学附属施設として公開している。

〔観覧日〕 毎日午前9時—午後4時、日曜・祭日休館

〔観覧料〕 無料

東洋民族博物館

奈良市あやめ池町北園

電 富雄 69

昭和3年11月創立。財団法人組織。大正6年頃より九十九豊勝が個人として蒐集したものを収蔵し展覧する。各国民族資料、特に比較宗教学に関する資料が多い。

〔館長〕 九十九豊勝

〔観覧料〕 20円

奈良県立橿原公苑大和歴史館

奈良県橿原市畝傍町

電 大和橿原 478

昭和15年11月創立の大和国史館を同24年8月大和歴史館と改称したもの。縄文式土器をはじめ石器、弥生式土器、古墳出土品、飛鳥奈良時代寺院跡出土古瓦、万葉集関係文献など主として大和に関する上代の遺品、その他歴史的な事物を収集、保管、展示する。昭和30年12月28日、博物館相当施設としての指定を受けた。

〔館長〕 大谷好晴 〔主任〕 小島貞三

〔観覧日〕 毎日午前9時—午後4時半・月曜日午後・火曜日及祝祭日休館

〔観覧料〕 20 円

【大 阪】

大阪市立美術館

大阪市天王寺区茶臼山町121
電 天王寺 610、4609

古美術品の常設展覧と一般美術展の展覧場としての設備を兼ね、昭和11年5月落成した。同月開館し、古美術の常設展覧は同年9月より開始した。絵画、彫刻、美術工藝、考古学資料に亘る同館蒐集保存の古美術品を展覧し、展覧会室、講堂は一般美術展、講演会等に貸館する。

〔館長〕 望月信成 〔庶務課長〕 池永治雄

〔学芸課長〕 藤井源一

〔観覧日〕 1月6日—12月28日、午前9時—午後5時

〔観覧料〕 20 円

日本工芸館

大阪市浪速区新川町3ノ619
電 (64) 6309

昭和26年6月北区堂島上2ノ46に創立。堂島の米倉であつたものを改増築し、民藝の研究と普及を目的として、財団法人組織により設立されたが、昭和34年6月これを解体し、豊中市にある財団法人日本民族集落へ寄附。現在地に鉄筋コンクリート3階建と別館木造ブロック2階を新改築して移転した。日本の現代民衆工芸品および古民藝品を主体として現代美術工芸品・版画等を蒐集常時展覧する。

〔館長〕 三宅忠一

〔観覧日〕 日曜・祭日を除き午前10時—午後5時

〔観覧料〕 50 円

観心寺霊宝館

大阪府河内長野市寺元
電 河内長野 134

霊宝館は明治33年に開設され、重文、八大観音、如意輪観音像を始め、仏像、古文書、楠家遺品等の寺宝を保管展覧する。

〔館長〕 永島行喜

〔観覧日〕 毎日午前9時半—午後5時

〔観覧料〕 10 円

藤田美術館

大阪市都島区網島町40
電 堀川 4105

昭和26年3月財団法人設立認可。男爵 藤田伝三郎並びに同平太郎に亘つて蒐集された古美術品を主としこれに分家徳次郎の遺品を合わせて創立せられたもの。財団法人設立の認可後、展覧室、庭園、事務室の整備に3ヶ年を費し昭和29年5月に開館式を挙行した。一般公開は現在のところ春秋2期特別展開催のほか、随時展覧を行つている。国宝6点、重要文化財30点を含む絵画、彫刻、工藝、書を約3000点収蔵している。

〔館長〕 藤田富子 〔理事長〕 菅礼之助 〔理事〕 藤田光一、藤田富子、藤田治子、宮原清、久留島秀三郎、土井清、小川栄一 〔監事〕 坂井隆三、西村圭太郎

〔観覧日〕 春秋2期、午前10時—午後4時

〔観覧料〕 100 円

逸翁美術館

大阪府池田市建石町1965
電 池田 3865、4358

昭和32年7月創立。10月4日開館。財団法人組織、故小林一三氏蒐集の重要文化財その他美術工芸品の保存展覧を行う。収蔵品は、絵画(日本及東洋)750点(西洋)10点、彫刻70点、工藝2050点、書480点。

〔館長〕 岡田利兵衛

〔観覧日〕 特別展、春—4・5月、秋—10・11月(無休)。常設展、1月7日—3月25日、6月5日—20日、9月5日—25日、12月5日—20日(月曜休館)10時—4時

〔観覧料〕 50 円

【兵庫県】

市立神戸美術館

神戸市葦合区熊内町1丁目
電 葦合 3043

南蛮美術の蒐集で著名な池長美術館(昭和15年3月創立)が建物・所蔵品共に昭和26年4月神戸市へ寄附され市立神戸美術館となつた。同年7月より開館。春秋2回南蛮美術展を開催する。

〔館長〕 荒尾親成 〔学藝員〕 菅瀬正

〔観覧日〕 毎月1日より25日迄、午前9時—午後5時。月曜、8月休館。

〔観覧料〕 20 円

白鶴美術館

神戸市東灘区住吉町落合1545
電 (8) 6001

昭和6年3月創立。昭和6年嘉納治兵衛の古稀を記念し、その美術工芸品、考古資料の蒐集品を永久に保存するため財団法人白鶴美術館を設立した。建物は同年竣工し、5月から公開した。中国青銅器、陶磁器、鏡、銀器及日本奈良古寺伝来の工芸品、金石類、刀剣書画等の所蔵品を春秋陳列し、他に特別展を開催する。

〔理事長兼館長〕 嘉納治兵衛 〔理事〕 嘉納正治 〔理事兼主事〕 中村純一 〔学藝員〕 三杉隆敏

〔観覧日〕 4・5・9・10・11月の春秋2季展の他に特別展を随時開き、年間150日開館

午前10時—午後4時 月曜休館

〔観覧料〕 50 円

鶴林寺宝物館

兵庫県加古川市加古川町北在家
電 加古川 563

大正10年10月聖徳太子1300年御忌記念として宝物館を建設し、白鳳時代の金銅聖観音像その他重要文化財、絵画、工芸美術品、古文書等200余点を陳列し、希

美術観覧施設

望者のある毎に開館する。

【中国地方】

大原美術館

岡山県倉敷市新川町
電 倉敷 5

昭和5年11月創立。故洋画家児島虎次郎を記念し、美術の研究発達に資するため絵画及びその他の美術品の蒐集、陳列公開等を行う。大原孫三郎によつて創設され、昭和10年3月財団法人となつた。泰西絵画、彫刻、古代エジプト美術、海外古陶磁器等の収蔵品が著名である。

〔館長〕 武内潔真

〔観覧日〕 年末年始、毎月曜日、祭日を除き、毎日午前9時—午後4時

〔観覧料〕 50円

倉敷考古館

岡山県倉敷市前神町1015
電 倉敷 1542

昭和25年11月創立。考古学の研究普及と地方文化の向上を目的として、財団法人組織をとつている。考古学関係資料1500点を収蔵す。

〔館長〕 武内潔真

〔観覧日〕 月曜日、年末2日、年始3日、春分、秋分の日、天皇誕生日を除き午前9時—午後4時

観覧料 40円

倉敷民藝館

岡山県倉敷市前種町
電 倉敷 1637

昭和23年11月創立。岡山県民藝協会の事業の一つとして創設され、のち、財団法人として独立した。古今東西の民藝品の蒐集、展覧、普及に当つている。所蔵品約5100点。附属工芸研究所がある。

〔館長〕 外村吉之助

〔観覧日〕 月曜日、年末年始、祭日を除き、午前9時—午後4時

〔観覧料〕 50円

吉備考古館

岡山県都窪郡山手村
電 総社 433

昭和17年創立。吉備地方を中心とし、県内の考古資料・郷土資料を展覧する。

〔館長〕 宮岡亮行

〔観覧日〕 毎日、午前9時—午後4時

〔観覧料〕 20円

厳島神社宝物館

広島県佐伯郡宮島町

創立明治30年。現在の建物は昭和9年建造され、厳島神社宝物として伝承した藤原時代以後の書蹟・工芸品等を公開する。

〔館長〕 野坂元定

〔観覧日〕 毎日

〔観覧料〕 30円

島根県立博物館

松江市殿町1

昭和34年10月設立。地方文化の独自性とその向上、普及を目的として、県内指定文化財の常時展覧および特別展を開催。

〔館長〕 手銭白三郎

〔観覧日〕 4月—9月、8時—4時

10月—3月、9時—4時

月曜・年末年始休館

〔観覧料〕 30円

出雲大社宝物殿

島根県簸川郡大社町

電 大社48, 63

大正3年3月創設。絵画、彫刻、工芸品、古文書、考古資料、祭器等を収蔵する。

〔観覧日〕 毎日。午前8時—午後4時

長府博物館

山口県下関市長府町川端

電 555

昭和8年10月創立。当初は故桂弥一が財団法人長府尊攘堂を創設し明治維新前後の志士の遺墨等を収集陳列したものであつた。戦後は財団法人長府博物館と改称、郷土を中心とした文化資料を蒐集、保管し、常時展覧している。また、各種特別展も行つた。

〔館長〕 椿惣一

〔観覧日〕 3, 4, 5, 9, 10, 11の各月以外に毎月曜休館、午前9時—午後5時

〔観覧料〕 20円

県立山口博物館

山口市上宇野令鳥越2961

歴史美術資料と自然科学関係資料の常時展覧の他特別展を開催。

〔観覧日〕 3月—11月9時半—4時

12月—2月9時—4時

月曜・祝日・12月28日—1月5日休館

〔観覧料〕 無料

防府天満宮宝物館

(旧松崎神社宝物館)

山口県防府市宮市

松崎神社は昭和27年4月炎上、本殿幣殿拝殿の復旧工事は昭和33年5月には完了した。同宝物館は災禍を免れたが現在閉鎖中。尚昭和28年1月22日松崎神社は防府天満宮と改称した。

忌宮神社宝物館

山口県下関市長府町宮の内

電 長府 193

大正4年3月創立。神社創建以来の古文書其他寄進による絵画、工芸品等380余点を収蔵する。

〔館長〕 磯部稜威雄
 〔観覧日〕 無休
 〔観覧料〕 20円
岩国徴古館

山口県岩国市横山358
 電 岩国 837

私立岩国徴古館(昭和19年4月設立)が昭和26年4月岩国市へ移管され、市立となつたもの。郷土に関係ある美術工芸品、歴史地理資料を蒐集保存し、且公開して文化の向上に資しようとする。藩制時代の地方的美術品、工芸品、同時代の地方史料、大内、毛利、特に吉川氏に関する多くの古文書等を所蔵する。

〔館長〕 瀬川秀雄
 〔観覧日〕 午前9時—午後4時半、毎月曜と祭日の翌日は休館。
 〔観覧料〕 無料
萩市郷土博物館

山口県萩市江向524—4
 電 700・510

昭和34年8月、在来の萩市科学博物館に人文科学部門を加えて開館。萩市の産業・歴史・民俗資料および美術工芸品を一階に陳列し、二階には自然科学資料を展示する。

学芸部員2名
 〔観覧日〕 8時半—午後5時月曜・祝日の翌日休館
 【四国地方】

市立高松美術館

香川県高松市栗林公園内
 電 高松(3) 3216

昭和24年11月開館。昭和24年高松観光大博覧会を機会にその建物の一部1207.8m²を市立美術館として存置し、日展、県展、各種美術展を開催、地方文化の普及を計っている。

〔館長〕 中村良三
金刀比羅宮博物館

香川県琴平町
 電 琴平 1

金刀比羅宮博物館は、宝物館、学芸館、金刀比羅宮書院の三施設に分れている。

宝物館は明治38年創立。金刀比羅宮所蔵の書画、刀剣、古文書等を収蔵展観する。学芸館は昭和3年創立。学芸参考品、標本等のほか高橋由一の作品26点を収蔵展観する。書院には鶴の間外4室に書かれた応挙の絵(重要文化財)等がある。

〔館長〕 琴陵光重
 〔観覧日〕 無休、午前8時—午後4時
 〔観覧料〕 20円

総本山善通寺宝物館

香川県善通寺市615
 電 111

明治35年4月創立。善通寺伝来の絵画、仏像、工芸品等約120余点を陳列展覧する。

〔館長〕 亀谷有英
 〔観覧日〕 春、夏、午前8時—午後5時。秋、冬、午前9時—午後4時
 〔観覧料〕 無料

大山祇神社宝物館

愛媛県越智郡大三島町
 電 大三島 32, 16

大正15年6月創立。鎧、太刀等工芸品1000余点を収蔵、展観する。

〔館長〕 三島安久
 〔観覧日〕 無休。春、夏、午前8時—午後5時。秋、冬、午前9時—午後4時
 〔観覧料〕 100円

愛媛文華館

愛媛県今治市山里通

昭和30年3月創立、財団法人組織の陶磁美術館。

〔観覧日〕 年2回の特別展観の折開館

【九州地方】

石橋美術館

福岡県久留米市野中町
 石橋文化センター内

昭和31年4月創立

〔主事補〕 増田洋
 〔観覧日〕 年末、年始を除き毎日
 〔観覧料〕 40円(但し別に石橋文化センター入園料10円を必要とする)

市立長崎博物館

長崎市浜口町196
 長崎国際文化会館内
 電 (4) 0999

昭和16年2月創立。開国史に関係ある郷土資料、主として切支丹関係、中国、オランダ貿易関係の資料を蒐集し展観する。

〔館長〕 築瀬義一
 〔観覧日〕 午前9時—午後5時、無休
 〔観覧料〕 無料

八幡市美術工芸館

八幡市本町4丁目

昭和34年開館。米国アジア財団よりの援助を基に、とりわけ工芸美術の教育普及活動にその特色を発揮する文化センターとして発足した。特別展のみ、その他個展などの利用にも供する。

〔館長〕 瀬戸崎啓夫

佐賀県文化館

佐賀市松原町70

昭和27年4月以来博物館相当施設としての活動を続けてきた。自然科学資料・人文科学資料(考古・民俗・工芸とくに陶磁)の常時展の他に特別展を開催。

美術観覧施設

〔館長〕 千々岩富士夫

〔入場料〕 20円

有田陶磁美術館

佐賀県有田町大樽 1356

昭和29年5月創立。石造2階建の石蔵を改造し、日本における磁器発祥の地にふさわしい古磁器と各種資料を常時陳列するほか特別展を企画する。

〔副館長〕 徳見知孝

〔観覧日〕 月曜休館 9時—4時半

〔観覧料〕 20円

祐徳博物館

鹿児島市苦枝祐徳稻荷神社内

祐徳稻荷神社宝物、佐賀県内考古出土品の常時陳列。

〔観覧日〕 8時—5時

〔観覧料〕 20円

小笠原記念館

唐津市西寺町近松寺内

小笠原藩関係の宝物を中心とする常時陳列のほか特別展開催。

〔観覧日〕 9時—6時(冬期5時)

12月29日—1月3日休館

〔観覧料〕 30円

本妙寺宝物館

熊本県熊本市花園町6

電 熊本(2) 0630

明治42年5月創立。明治42年清正公300年祭に際し公の威徳顕彰の目的を以て開設した。

〔館長〕 池上義豊

〔観覧日〕 毎日、午前8時—午後5時

〔観覧料〕 10円

菊池神社宝物館

熊本県菊池市隈府

電 2549

大正8年11月創立。菊池神社の教化活動の一環として設けたもので、祭神菊池氏の遺品その他関係資料を取蔵、展覧する。

〔館長〕 千種宣夫

〔観覧日〕 午前8時—午後4時

〔観覧料〕 20円

宮崎県立博物館

宮崎市神宮町東神苑

電 5238

昭和26年4月創立。昭和15年、紀元2600年記念事業として奉讃会が設立した徴古館を同26年県立博物館として新発足したもの。考古資料を主し他に歴史、美術資料も陳列する。

〔館長〕 隈江信光

〔観覧日〕 午前9時—午後4時半

〔観覧料〕 20円

鹿児島市立美術館

鹿児島市山下町134

昭和29年9月1日開館、黒田清輝記念室を設け、その他藤島武二、和田英作等の洋画、橋口五葉の版画、木村探元の日本画、新納忠之介、安藤照の彫塑等郷土作家の作品及び薩摩工芸品等を展覧している。又展示会場として4室以上の場合は有料で使用させている。なお昭和31年6月、岩崎与八郎寄贈の100余坪の新館が完成した。

〔館長〕 谷口午二 〔次長〕 泊朝男

〔観覧日〕 毎月曜、祝祭日を除き1月5日—12月28日、毎日午前9時—午後5時

〔観覧料〕 大人20円。年間通用券100円

全国美術館会議

台東区上野公園

東京都美術館内

昭和27年11月14日発足。昭和34年5月第8回全国美術館会議を開催。

全国美術館会議規約

第1章 総則

第1条 本会は全国美術館会議という。

第2条 本会の事務所は東京都美術館内におく。

第2章 目的及び事業

第3条 本会は美術館相互の連絡提携を図るを以て目的とする。

第4条 本会は前条の目的を達成するために左の事業を行う。

① 美術に関する協議会、展覧会、講習会、講演会、研究会等の開催

② 美術団体との連絡

③ 美術館相互の連絡情報及び出版物の交換

④ 其他本会の目的達成上必要な事業

第3章 組織

第5条 本会は全国の美術館施設を以て組織する。

第6条 本会の会費は年額金1,000円とする。

第4章 役員

第7条 本会に左の役員を置く。

会長1名 副会長1名 幹事若干名

第8条 本会の役員は互選による。会長は本会を代表し、会務を総理する。

副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは会長を代理する。

幹事は会務を処理する。

第9条 役員の任期は2年とする。

第5章 会議

第10条 総会は全会員を以て構成し会長が召集する。

通常総会は毎年1回開く。必要に応じて臨時に総会を開くことができる。

第11条 総会は会員総員の3分の1以上の出席を以て成

立し、其の議事は出席者の過半数を以て決する、可否同数のときは議長が決するところによる。

第6章

第12条 本会の経費は会費及び寄附金を以てこれにあて
る。

第13条 本会の予算は総会の承認を経なければなら
ない。

第14条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3
月末日終る。

〔会長〕神奈川県立近代美術館長 村田良策 〔副会長〕
大阪市立美術館長 望月信成、根津美術館長 根津嘉一
郎 〔幹事〕ブリヂストン美術館主事 岩佐新、国立近
代美術館長 稲田清助、大原美術館長 武内潔真、本間美
術館長 本間祐介、愛知県立名古屋美術館美術部長 太
田三郎、高松美術館長 中村良三、東京都美術館長 沼沢
武彦、東京国立博物館長 浅野長武、市立神戸美術館長
荒尾親成、国立西洋美術館長 富永惣一〔会員〕東京
都美術館(沼沢歩彦)、ブリヂストン美術館(岩佐新)、根津
美術館(根津嘉一郎)、都立駒場高校美術館(長坂勝一)、東
京国立博物館(浅野長武)、国立近代美術館(稲田清助)、京
都市美術館(重達夫)、神奈川県立近代美術館(村田良策)、
高岡市美術館(中条豊治)、大阪市立美術館(望月信成)、
大原美術館(武内潔真)、高松美術館(中村良三)、佐賀県
文化館(千々岩富士夫)、白鶴美術館(加納治兵衛)、市立
神戸美術館(荒尾親成)、大阪市天王寺、奈良国立博物館
(石田茂作)、滋賀県立産業文化館(草野文男)、本間美術
館(本間祐介)、箱根美術館、熱海美術館(岡田与志)、天
理参考館(岸勇一)、大倉集古館(大崎新吉)、愛知県立名
古屋美術館(太田三郎)、藤田美術館(藤田富子)、致道博
物館(大塚又太郎)、物持巧藝館(井上庄七)、石橋美術館
(石橋幹一郎)、常盤山文庫(菅原通濟)、茶道美術館(村
山歌嶺)、蟹山洞(長谷川謙)、金刀比羅宮博物館(琴陵光
重)、秋田市美術館(奈良環之助)島根県立博物館(手銭白
三郎)、市立長崎博物館(築瀬義一)、国立西洋美術館(富
永惣一)、五島美術館(伊藤日出登)、鎌倉国宝館(渋谷二
郎)

東京画廊一覧

三越画廊 中央区日本橋室町1ノ7 三越6階
電 (241) 3311
室町画廊 中央区日本橋室町1ノ12 電 (241)
7356
カワスミ画廊 中央区室町1ノ4 電 (561) 2984
白木屋画廊 中央区日本橋通1ノ9 白木屋5階
電 (211) 0511
高島屋画廊 中央区日本橋通2ノ5 高島屋6階
電 (211) 4111
丸善画廊 中央区日本橋通2ノ6 電 (271)
2351
いとう画廊 中央区日本橋通2ノ7 電 (271)
1804

壺中居 中央区日本橋通3ノ1 電 (271)
1836・8912
三彩堂 中央区日本橋通3ノ1 電 (271)
日本橋画廊 5995・8626
南画廊 中央区日本橋通3ノ3 丹平ビル2階
電 千代田 (271) 8616・1661
フジカワ画廊東京店 中央区日本橋通3ノ3 電 (271)
5360
此花画廊 中央区日本橋3ノ5 電 (271) 509
八重洲画廊 中央区日本橋通3ノ4 電 (271)
4337・8501
新進画廊 中央区八重洲4ノ1 電 (281) 1346
造形画廊 中央区八重洲5ノ5 電 (281) 9860
春風堂画廊 中央区宝町1ノ6 電 (561) 5455
いづみギャラリー 中央区京橋1ノ1 電 (561) 7354
フジキ画廊 中央区京橋1ノ1 電 (561) 2084
南天子画廊 中央区京橋1ノ5 電 (561) 7015
中央公論画廊 中央区京橋2ノ1中央公論ビル7階
電 (561) 5993
兼素洞 中央区京橋3ノ4第百生命館2階 電
(281) 2070
美交社画廊 中央区京橋2ノ9 電 (561) 1215
・1258
東京美術画廊 中央区銀座1ノ3 電 (535) 2650
夢土画廊 中央区銀座1ノ3 電 (535) 3858
ナビス画廊 中央区銀座西1ノ7 電 (561) 2962
銀座画廊 中央区銀座2ノ1 電 (561) 7890
一哉堂画廊 中央区銀座2ノ2 電 (561) 0516
サエグサー 中央区銀座3ノ2 電 (561) 5356
ギャラリー
楡の木画廊 中央区銀座3ノ2 電 (535) 2826
栄画廊 中央区銀座3ノ2 電 (561) 0517
おりかさ画廊 中央区銀座3ノ3 電 (561) 1523
松屋画廊 中央区銀座3ノ1 松屋6階 電
(561) 3111
和光 中央区銀座4ノ1 電 (561) 8451
教文館画廊 中央区銀座4ノ2 電 (561) 8446
日動画廊 中央区銀座西5ノ1 電 (571) 2553
・2563
フオルム画廊 中央区銀座5ノ2 電 (571) 5061
イエナ画廊 中央区銀座5ノ4 電 (571) 2980
・3280
安藤画廊 中央区銀座5ノ4 電 (571) 888
中林画廊 中央区銀座西5ノ5 電 (571) 2966
ギャラリー・ホ
アン 中央区銀座5ノ5 電 (571) 3292
文藝春秋社画廊 中央区銀座5ノ5 電 (571) 6496
阿部養清堂 中央区銀座西5ノ5 電 (571) 2471
松坂屋画廊 (銀座店) 中央区銀座6ノ1 電
(571) 3181 (上野店) 台東区上野
広小路1 電 (831) 1111

美術観覧施設

東京電力サービスセンター	中央区銀座6ノ1 電 (571) 8305-6
中央画廊	旧トキワ画廊 中央区銀座6ノ2 菊水ビル 電 (571) 1480
兜屋画廊	中央区銀座西6ノ3 電 (571) 6331
小松名店街ギャラリー	中央区銀座6ノ4 電 (571) 7721
銀座画廊	中央区銀座西6ノ5 電 (561) 7890
数寄屋橋画廊	中央区銀座西6ノ6 鉄道工業ビル1階 電 (571) 1864
村松ギャラリー	中央区銀座7ノ1 電 (571) 0857
サトウ画廊	中央区銀座西7ノ2 電 (571) 1592
国際画廊	中央区銀座7ノ2 電 (571) 6765
櫛田画廊	中央区銀座7ノ3 電 (571) 0347
竹川画廊	中央区銀座7ノ4 電 (571) 0320
東京画廊	中央区銀座西7ノ5 電 (571) 1808
弥生画廊	中央区銀座西並木通り7ノ5 電 (571) 3220
三笠画廊	中央区銀座西8ノ1 南旺ビル4階 電 (571) 6760
ギャラリー・キムラ	中央区銀座東8ノ2 電 (571) 0188
たぐみ	中央区銀座西8ノ3 電 (571) 2017
銀橋画廊	中央区銀座西8ノ4 電 (571) 586
現代画廊	中央区銀座西8ノ4 電 (571) 4778
全線画廊	中央区銀座8ノ4 電 (571) 2941
村越画廊	中央区銀座西8ノ5 斎藤ビル3階 電 (571) 2880
ギャラリー創苑	中央区銀座西8ノ9 電 (571) 218
新橋画廊	港区芝新橋2ノ14 電 (571) 4222
草土舎画廊	千代田区神田小川町 電 (231) 6446
三省堂画廊	千代田区神田神保町1ノ1 電 (291) 1126
文房堂画廊	千代田区神田神保町1ノ21 電 (291) 700-2
大丸画廊	千代田区丸ノ内大丸百貨店4階 電 (231) 1531
日比谷画廊	千代田区日比谷公園内 電 (591) 823
産経会館東京画廊	千代田区大手町1ノ3 電 (231) 571 (内線 760)
ひろし	港区芝新橋1ノ4 電 (571) 1953
光風会美術会館画廊	港区芝新橋田町19 電 (591) 1732
美松書房画廊	港区芝田村町1ノ3 電 (591) 4455-2
六本木画廊	港区麻布三河台町12 電 (401) 8656
双樹洞画廊	港区青山南町6-147 電 (408) 3322
不忍画廊	台東区元黒門町18 電 (866) 0666
伊勢丹画廊	新宿区新宿3ノ8 電 (351) 5355 323

ブランシェ画廊	新宿区歌舞伎町879 電 (351) 1141
第一画廊	新宿区角筈1ノ1 電 (369) 3263
きのくにや画廊	新宿区角筈1ノ842 龍生堂ビル 電 (361) 2107
池袋画廊	豊島区池袋1ノ739 電 (971) 4418
西武百貨店画廊	豊島区池袋2丁目 電 (982) 0111
北壮画廊	豊島区長崎3ノ40 電 (951) 6360
東横百貨店画廊	渋谷区上通2ノ55 電 (461) 1171
渋谷画廊	渋谷区上通2ノ27 宮益ビル 電 (401) 0161
みつぎ画廊	武蔵野市吉祥寺ダイヤ街 電 (022) 2444

名古屋画廊一覧

愛知県文化会	東区久屋町 電 (9) 551
ヴィーナス画廊	中区朝日町4ノ2 電 (9) 0007・4406
美交社画廊	中区栄町4 電 (9) 4430
松坂屋画廊	中区南大津通り2 電 (24) 1511
丸善画廊	中区栄町3 電 (24) 3531
丸栄画廊	中区栄町4 電 (24) 5151
文天堂画廊	中区栄町6 電 (24) 4226
オリエンタル中村ギャラリー	中区栄町6 電 (24) 4341・5141
桂花堂画廊	中区南園町2の57 電 (23) 1841
トヨタビルギャラリー	中村区笹島町1 電 (55) 9600

京都画廊一覧

大文字ギャラリー	中京区木屋町通御池上ル 電 (23) 0910
京美堂ギャラリー	中京区河原町三条上ル 電 (23) 5209
京都書院画廊	中京区河原町四条上ル 電 (22) 1062
丸善画廊	中京区河原町通蛤薬師上 電 (22) 2161
大丸美術画廊	中京区四条高倉 電 (2) 2121
京都府ギャラリー	下京区四条通河原町西入 電 (22) 5207
土橋画廊	下京区四条通堺町東入 電 (22) 0123-3
丸物美術画廊	下京区烏丸通七条上 電 (35) 8721
画装堂画廊	下京区河原町通五条上ル 電 (35) 0875
祇園商会画廊	東山区四条通祇園町南側 562 電 (6) 1446
京都美術倶楽部	東山区新門前通東大路西入

大阪・神戸画廊一覧

(大阪)

白鳳画廊	北区曾根崎上1ノ35 電 (34) 3061
梅田画廊	北区曾根崎上2ノ38 電 (34) 5074

梅新画廊 北区曾根崎上2ノ41 電 (34) 7074
 堂島画廊 北区神明町50 電 (34) 5519
 丸善美術画廊 北区梅田町 阪神百貨店内 電 (36) 2787
 福田画廊 北区網笠町18 電 (34) 1069
 阪急画廊 北区角田町62 電 (45) 6461
 三越画廊 東区高麗橋2ノ63 電 (23) 851
 フジカワ画廊 東区瓦町2 フジカワビル 電 (23) 1490—1・4494—5
 美交社画廊 東区南久太郎町4ノ20 電 (25) 3624—5
 淀屋画廊 東区今橋5ノ36 電 (23) 6018

北浜ギャラリー 東区北浜3ノ21 電 (44) 3745
 そごう画廊 南区心斎橋1 電 (27) 2221
 大阪フォーラム画廊 南区心斎橋北詰 電 (25) 2246
 高島屋画廊 南区難波新地6 電 (64) 1
 松坂屋画廊 浪速区日本橋3ノ45 電 (64) 1531
 近鉄画廊 阿倍野区阿倍野町1ノ1 電 (77) 5131

(神戸)

茜画廊 三宮町1ノ29 電 (3) 1537
 元町画廊 生田区元町1ノ11 電 (3) 2359

美術団体一覧 (五〇音順)

(あ)

アートクラブ(洋・彫・工・建・評論) 品川区大井倉田町3238山口勝弘方 電 (771) 1549 昭和28年5月国際アートクラブ日本本部として創立(通称アートクラブ)。画家、彫刻家、その他の美術家、評論家によつて組織され、各国のアートクラブと連繫し、現代藝術を発展させるための活動を行う。又本会は一切政治に関与しない。各国アートクラブは各々本部を国内に持ち、国際的な中央本部に連繫するが、中央本部は2年毎に国際会議によつて所在を決めることになっている。

〔幹事〕 岡本太郎、杉全直、難波田竜起、昆野恒、藤沢典明、向井良吉、建畠覚造、末松正樹、駒井哲郎、山口勝弘、阿部展也、村井正誠、中井幸一、品川工、吉田穂高、赤穴宏、中原佑介、滝口修造、徳大寺公英、針生一郎、〔書記長〕 滝口修造

アトリエ・ド・1(洋) 北区田端町500 香取忠彦方 昭和29年創立。昭和28年2月に日仏学院に絵画クラスが設けられ、その担当教官としてロジェ・ヴァンエックがあたつたが、29年12月当クラス廃止後も同教官に共鳴して、元絵画クラスの有志でグループ・アトリエ・ド・R・ヴァンエックを結成した。昭和29年12月第1回グループ展、30年6月第2回展、32年12月第3回展、この回よりアトリエ・ド・1と改称した。

〔会員〕 ロジェ・ヴァンエック、原武典、早川みな子、片山和子、香取忠彦、小島兼司、小林喜、小久保晴行、楠原昌樹、岩立広子、村上暁郎、東海林護、武川昌子、牛窪正

(い)

一栄社(日) 世田谷区成城町129 高山辰雄方 昭和16年4月創立。同20年戦災のため展覧会を中止したが翌21年より引続き毎年春に展覧会を開き、昭和35年3月第19回展開催。

〔会員〕 大山忠作、加藤東一、加藤辰明、河部貞夫、高山辰雄、中村正義、浦田正夫、野島青兹、山口吉三

郎、山田申吾、我妻碧宇、佐藤園夫、三尾雄治、嶋谷自然、森録翠、鈴木竹柏、伊藤弘、加倉井和夫、桑原清明、小栗潮

一水会(洋) 横浜市鶴見区馬場町馬場谷403の5(電鶴見8157) 木下孝則方 昭和11年12月、旧二科会員8名は「会場藝術を非とし、技術を重んじ、高雅なる藝術を尊重することに於て一致」、同会を創立した。同12年12月東京都美術館に第1回公募展を開催し、爾後毎秋季に展覧会を開き、昭和35年9月第22回展開催。

〔委員〕 池部鈞、池辺一郎、谿三彩亭、小野末、奥田郁太郎、高橋庸男、高田誠、田崎広助、仲田好江、中村善策、中村琢二、納富進、山下新太郎、深沢紅子、福田新生、小山敬三、高野三三男、有島生馬、安宅虎雄、荒谷直之介、木下孝則、木下義謙、鈴木良三

〔会員〕 139名

一線美術(洋・彫) 品川区小山6—362 関川富士郎方 電 (781) 7670 昭和25年7創立、年1回春に展覧会を開き昭和35年3月第10回展開催。

〔代表委員〕 上野山清貴、岩井弥一郎

〔委員〕 (絵画部) 石上駒吉、伊藤徳衛、神田房光、田村満、村瀬真治、松浦光城、西東重義、佐々木栄松、紫藤卓三、平田健三、菱輪初太郎、宮沢今朝雄、木村博之、倉沢康、大黒孝儀、金子文吾、根本清満、山田邁、高橋治男、関川富士郎、村元俊郎、平松幸子、対比地初雄、田畑弘、阿部和夫、飯塚吉光、石井芳弥、武田範芳、田中久雄、ドン・ブー、柳林卓、山下偉

(彫刻部) 石田来之助、成川明

一陽会(洋・彫) 台東区上野桜木町36 野間仁根方(電駒込3400) 昭和30年7月創立。二科会を脱退した鈴木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根を中心に、同じく二科会を脱退した会員19名、会友7名によつて結成された。昭和30年9月日本橋高島屋において第1回公募展開催。昭和35年9月第6回展開催。

〔会員〕 (絵画部) 鈴木信太郎、高岡徳太郎、野間仁

美術団体一覧

根、米良道博、山路真護、鯉利彦、荻野康児、丹下富士男、森由太郎、中田豊、山谷鉄一、長谷川三千春、棟方寅雄、近藤長三郎、松下明治、片柳忠男、飯田慶三、小出泰弘、村上英男、指田由米、沢田重隆、沢田正太郎、田辺栄次郎、小川哲郎(彫刻部)浅野孟府、植木力、伊本淳、中村暉、根本勲、金田忠

(え、お)

恵下会(日) 逗子市久木335 若林卓方 前田青郎門下生の会、昭和32年5月第1回展、35年4月第4回展開催。会員約60名

筵上会(日) 文京区西片町10ろ9 四方田草炎方昭和12年創立。昭和34年7月第8回展開催。

〔会員〕 四方田草炎、岩崎巴人、根本進、相沢一男、土居淳男、上田臥牛、大野正六、野村清六、田代三善、藤田将文、川越康司、田代高之、安蔵英二、鈴木正太郎

旺玄会(洋) 東京都練馬区向山町1586 高野真美方昭和8年当時の官展を離脱した牧野虎雄を主宰者として槐樹社その他の新進作家が集つて旺玄社を結成し、同年第1回旺玄展開催。昭和21年旺玄会と改称した。昭和30年2月大久保作次郎、田沢八甲、吉松芳村ら古参会員を含む6名は脱退した。昭和35年6月第26回展開催。

〔委員〕 五十嵐祥晃、石黒義一、池田修三、市川加久一、梅野順三、大久保四郎、金井文彦、清原馬目、小林喜代吉、小林猶治郎、近藤せい子、甲賀義成、近藤良悦、酒井嘉久、阪井谷松太郎、相良文雄、佐藤雄治郎、清水正博、獅子吼真、杉浦勝人、杉浦一郎、鈴木金平、高野真美、玉の内満雄、古橋義朗、松下芳太郎、皆見勝三、宮城健盛

岡山県民藝協会 岡山県倉敷市向市場電倉敷1541 昭和21年6月創立、「凡ゆる生活用具を健康、簡素、誠実ならしめ、生活に真の美を直結せしめる。」ことを趣旨とし、工芸品の調査、指導、地方民藝館の創設経営、工芸研究所及び図案指導所等の開設を事業目的としている。

〔会員〕 個人350名、法人14団体

(か)

塊土社(彫) 水戸市鈴坂町741 高久茂雄方 昭和30年1月創立。昭和24年以来の彫塑協会在29年末に発展的解散をして30年初めより新発足したもの。主に茨城県に在住する彫塑家達による団体。年1回展覧会開催。

〔会員〕 後藤清一、一色五郎、渡辺卓熙、吉田暁禾、高久茂雄、後藤修、後藤末吉、小森邦夫、小鹿尚久、森山朝光、山崎猛、中井川洋、大高令子、吉田貫、石塚輝雄、武川昭夫、蛭田二郎、丹下保

可江会(日) 神奈川県逗子市久木335 若林卓方 昭和29年4月創立。前田青郎門下の一部同志的結合で、毎月の研究会と年1回の展覧会を行う。昭和33年5月第3回展開催。

〔会員〕 入江正巳、伊藤弘人、蓮尾辰雄、西丸静園、若林卓、染谷祇通、月岡栄貴、山中雪人、牧野三生郎、

小西国葉、斎藤辰雄、桜井清三、水谷愛子、渋谷由美子、守屋多々志、鈴木大麻、鈴木至夫。

華畝美術協会(洋) 京都市上京区北大路新町東入ル〔事務代表〕京都市上京区塔之段蔵ノ下町421 中川義憲方 昭和15年6月創立。紀元2600年を記念して爾歩会を解散、華畝美術協会として再発足した。昭和28年9月第16回展開催。

〔会員〕 赤沢正次、赤松文子、新井完、荒木貞人、伊丹愛子、井上三郎、岩田順三、梅林良子、上田輝七郎、角野判治郎、北川威夫、楠見文雄、小西丘太郎、小林正雄、島戸繁、霜島之彦、篠崎貞五郎、鈴木昶、武田新太郎、坪井一男、辻川新十郎、中井潔、中川義憲、成田浩子、成瀬十郎、西岡義一、原田久之助、伴庄兵衛、富士一男、藤松弁之助、正木順子、松田藤兵衛、松田淑子、三尾公三、宮内順三、山尾平、山田新一、山田キミ、由里明

関西水彩画協会(水) 大阪市東住吉区山坂町5-101 桂龍雄方(電東住吉1990) 昭和10年4月創立。関西在住の水彩画家の団結、新陸、普及研究を趣旨とする。機関紙「関西水彩」発行。公募展、講習会開催。

〔会員〕 池島勘治郎、別車博資、桂龍雄、青野馬左奈、田村雅保、芹生政夫、庭田定男、大久保正義、赤尾長二、山田一雄、上田素由、栗林忠男、佐野比呂志、溝尻顯吉、水野修造、中川隆史、宮本草一路、大久保三一、中安徹、池上三郎右エ門、村井新治、河村久子、仁科実、大田健一、山野一、永山隆二、小出哲夫、片山民二、笠松方成、松井情人、富士本昇、太田三郎、福井勝重、玉井武二、木原義明、玉置吉郎、野口良兼、平沢一晃、高田定雄

(き)

衣笠会(日) 京都市北区平野八丁柳町61 金島桂華方(電西陣3010) 金島桂華を塾主とした日本画研究団体 昭和25年創立。

九室会(洋・彫) 杉並区久我山2の626 森田信夫方 昭和13年11月創立。二科展の第9室を中心とする新傾向作家の親睦を図り、併せて各自の研究を目的とする。戦時中絶、昭和25年再組織、昭和26年第1回展開催

〔絵画会員〕 阿部金剛、井上覚造、桂ユキ子、桑原実、中原実、野村守夫、岡本太郎、大沢昌助、織田広喜、鷹山宇一、寺田竹雄、鶴岡義雄、山口長男、山本敬輔、吉原治良、伊藤研之、松葉清吾、安藤幹衛、藤田金之助、萩尾テル、堀賢三、春田安喜子、今泉六郎、今長谷蔵、稻垣克己、因藤寿、伊勢谷慶子、伊藤静尾、岩田安郎、狩野守、加藤孝一、加藤正一、木俣滋彦、越谷繁造、増田勉、森田信夫、中川時之助、浪江勘次郎、根本茂子、西村千太郎、能間弘、大淵陽一、織田りら、小川清、斎藤三郎、榊山勝、佐々木良三、田川寛三、高橋満州男、田中君子、竹中清、戸川串田、戸川ふみ子、上田民子、山本不二夫、山ノ内靖己、吉村勲、吉田一夫

〔彫塑会員〕 浅野孟府、堀内正和、笠置季男、乗松巖、上田暁、植木力、野水信、淀井敏夫、広瀬不可止、飯田艇三、岩元梶子、水野修造、野口嘉光、関口孝吉、曾山節雄、植村育子

京都金藝錚錚会(工) 京都市北区等持院西町16 加藤宗巖方 昭和26年5月創立。京都金藝作家の同志の集り。展覧会を錚錚展という。昭和33年3月第7回展開催。

〔会員〕 浅井徳太郎、今大路長光、上田哲三、上田直和、大久保朋湖、加藤宗巖、加茂露峯、金谷五良三良、金江宗観、小林高取、広瀬兼応、野田喜市、村上直行、辻井健三、五島正広、倉賀野茂樹、田中秀明

京都陶藝家クラブ (工) 京都市東山区五条坂八幡前南入森野嘉光方 (電祇園4371) 昭和23年12月創立。京都府在住の陶藝家及び陶芸会、白泥社、粘土の三陶藝団体で組織される。昭和24年から33年まで京都において10回、展覧会を開催。昭和30年から33年迄東京大丸において当クラブ粘土のみ4回展覧会を開催。

〔会長〕 清水六兵衛 〔副会長〕 森野嘉光、河合栄之助 〔総務〕 井上治男、新開寛山 〔委員〕 7名 〔会員〕 45名

櫛田会(洋) 豊島区要町1/48/4 (電落合8155) 櫛田英一方 昭和27年10月創立。昭和16年12月東京美術学校油画科卒業生の集団。昭和35年8月第8回展開催。

〔会員〕 綾井秀宣、笠木実、櫛田英一、黒沢梧朗、沢田正太郎、清宮賢文、田代利夫、田畔司朗、土屋広倫、弦田英太郎、富安昌也、中尾良一、細小路真、柚木祥吉郎、吉原秀夫

(く)

黒潮会(日) 京都市左京区岡崎東天王町89 細木成実方(電吉田3202) 昭和29年8月創立。京都在住の、各種団体中、新進、中堅作家が各4.5名宛集つて成る日本画の団体。新しい日本画の創造を目的とする。昭和33年4月京都大丸にて、同年5月名古屋丸栄にて第4回展開催。

〔会員〕 細木成実、樋口辰志、下保昭、野々内良樹、木村広吉、猪田青以、中瀬昂、三輪良平、西内利夫、稲田和正、桑野博利、海老名正夫、岸田秀式、藤田孝正、利倉群青、大日躬世子、今井彦彦、林末次、山本昌平、石川義、岩沢重夫

九名会(日) 京都市中京区蛸薬師通鳥丸東入 土井久弥方 京都に住む35歳位までの日本画新人作家によつて結成される。第1次9名会は大正9年創立。平八郎、神泉、桂華、大三郎、華楊、萩郁、印象らが所属した。第2次九名会は昭和32年11月に創立され、33年1月に第1回展、34年5月に第6回展を開催。

〔会員〕 池田道夫、山本知克、下保昭、三輪良平、石本正、麻田鷹司、他3名

(け)

形象派美術協会(洋) 愛知県安城市下小入道 福山進

方 昭和18年5月創立。昭和28年5月第1回創設公募展を岐阜市公会堂にて開催、34年8月第7回公募展を愛知県美術館にて開催。

〔会員〕 福山進、木村政夫、加藤博、杉浦艶子、岡本照美、牧野正則、三矢幸子、川澄虎男、山田新吉、安藤智雄、兵藤康彦、浅野英三、田辺繁雄、青野裕彦、野村正夫、有川武夫、中田早、鎌田知治、馬淵敏彦、祖田功、近藤克己、渡辺勝海、高橋三郎、河合幸三、大関新意、谷口汎明、太田正敏、宮城照己、岡本功、吉兼一男、棚橋明義、近藤功、藤谷久吉、京田寛、児玉康彦、小木英雄、中村隆、岡本脩、岡崎清郷

型生派美術家協会(洋) 世田谷区砧町58 庫田毅方 国画会中堅会員により昭和25年結成された。昭和30年第5回展開催。

〔会員〕 宇治山哲平、香月泰男、喜多村知、国松登、熊谷九寿、庫田毅、須田勉太、福井敬一、山崎隆夫、原精一、橋本三郎

現代美術家協会(略称現展美術)(洋) 杉並区阿佐ヶ谷3/520 佐藤亘宏方(電(311)3855) 昭和23年11月、日本作家協会洋画部、現代美術作家協会、新生派美術家協会の3団体が合同して設立発足したものである。昭和31年構成部を新設。昭和33年6月第15回現展開催。

〔委員〕 佐藤亘宏、原田雅光、古川恂、三浦勝治、照丘晃子、武藤重典、相沢謙一、村瀬卓郎、島崎貞子、戸塚春男、斎藤森重

〔会員〕 鈴木重雄、船橋公平、大庭三郎、阿部保、堀弘尚、平田俊一、齊藤朗彦、立原比呂雄、大野民雄、陶山博、荒木繁、山本和子、下川研、小幡普士男、山路光男、野口満、古野由男、杉山茂、狩野寿一、長崎盛輝、小谷津功、山中市郎、横山三郎、吉田輝彦、塚越正治、内海源太郎

(こ)

工彩会(工) 北区中十条2/8 会田富康方(電王子6555) 昭和17年研究団体として発足。昭和24年第1回展を開く。昭和33年9月第9回展開催。その間地方に於いて移動展を開催する。33年3月大阪フェスティバルホールに総合工芸の「孔雀」、34年9月小倉市民公民館に「交詢」の壁画装飾を完成。

〔会員〕 飯塚小玗斎、伊藤隆光、伊藤鏖一、土肥刀泉、富樫謙也、大谷玲石、大坪重周、岡本玉水、岡本輝子、山本曠、川上南甫、加藤嶺男、竹内蘭山、武田三千子、中島珠光、松本佐吉、小林清、寺井直次、会田富康、有田利章、天野策地、佐野貞一、木下寛、木下ボクドウ、佐竹伊助、三田村秀雄、新村撰吉、平野利太郎、平田郷陽、宏きよ子、介川芳秀、中野馨一、市橋敏雄、山浦等、音丸隼、音丸淳、山崎一成。

〔準会員〕 中村文美、山田彰春、酒井市三郎

紅土会(洋) 新宿区上落合1/436 桜井慶治方(電東京(361)5983) 昭和23年6月創立。同年より毎年展覧会開催。昭和35年7月第14回展を開いた。

美術団体一覧

〔会員〕 桜井慶治、上島一司、矢口洋、武内和夫、野本正雄、海老沢 巖夫、花田 忠吾、大道 健治、篠田 喜代志、森清治郎、橋本万寿子、遊馬正

行動美術協会(洋・彫) 調布市上ヶ給 130 の 1 佐藤真一方 電 (0229) 4352 昭和 20 年 11 月創立。昭和 19 年二科会解散し、翌年 8 月終戦後二科会は再結成を図ったが、その際主張の異なる二科会々員の一部を中心として組織された。昭和 35 年 9 月第 15 回展開催。

〔会員〕 (絵画部) 榎倉省吾、福井勇、古家新、飯田清毅、柏原覚太郎、三芳悌吉、向井潤吉、村田實史雄、難波香久三、田中忠雄、高橋進、伊谷賢蔵、伊藤久三郎、小林武夫、小出卓二、西阪修、田川寛一、下高原龍巳、田辺三重松、坪内節太郎、川原章二、山中春雄、高井寛二、佐藤真一、斎藤貞成、津高一、田中勇次郎、河野通紀、高須国之、全和風、江見絹子、田中阿喜良、大谷久子、辻親造、野尻弘、貝原六一、玉沢潤一、大森朗衛、長谷川晶、深見隆、田中稔之、藤形一勇、河端亮治、荒井秀宣、尾崎悌之助、下高原千歳、平川勇、保地謹也、(彫塑部) 建昌覚造、中島快彦、向井良吉、板谷慎、今村輝久、林是、阿井正典、野崎一良、小谷謙、篠井欽治、白井謙二郎、戸津侃、藤庭賢一、松岡卓

光風会(洋・工) 港区芝田村町 1 / 7 光風会館内(電 東京(591) 1732)、責任者小寺健吉。明治 45 年創立。明治 44 年白馬会解散後、中沢弘光、山本森之助、三宅克己、杉浦非水、岡野榮、小林鐘吉、跡見泰の 7 氏発起して創立、第 1 回展を 45 年 6 月上野竹之台陳列館に開催した。官展系洋画家の団体、毎年春季公募展を開催、昭和 35 年 4 月第 46 回展を開いた。

〔会員〕 (絵画) 青井幸雄、安達真太郎、足立真晃、足代義郎、朝比奈文雄、有馬三斗枝、秋元松子、荒井邦朝、浅井光男、井手宣通、井上武、伊藤応久、伊藤悌三、伊藤四郎、伊藤鎭一、岩船修三、飯田弥生、池野寿彦、石橋武治、石河彦男、石野安親、岩本隆善、宇城時志、鶴飼幸雄、内山孝、江藤純平、海老沢巖夫、円地信二、岡田又三郎、小合保一郎、小川博史、大沢海蔵、大河内信敬、大原省三、大倉克次、大桃寛、大村浄一、緒方亮平、斧山万次郎、奥山堤、岡本由郎、岡崎勇次、尾崎侃、加藤久幹、角卓、河井清一、上島一司、梶進、梶田英一、角野判治郎、風野信雄、片岡銀蔵、笠井忠郎、金子徳衛、金子仁三郎、金沢秀之助、兼行武四郎、川田茂、川端謹次、川村嘉久、神戸文子、清原重以知、鬼頭鍋三郎、木村八郎、北浜淳、久山章、黒田頼綱、黒田久美子、熊沢欽三、熊野礼夫、樽松正利、小糸源太郎、小林真二、小寺健吉、小林易夫、国領経郎、鮫島利久、阪倉宜暢、笹鹿彪、笹岡了一、桜井悦、桜井慶治、桜田精一、斎藤齊、坂田虎一、里見明正、市ノ木慶治、新道繁、白石隆一、白川一郎、島野重之、島戸繁、神保和幸、新保兵次郎、庄司栄吉、篠田喜与志、杉村惇、鈴木三五郎、菅谷邦敏、相井春雄、妹尾寿信、瀬戸千代三、千田徹夫、千名恒、泉田康治、相馬其一、反町博彦、田村一

男、田中実一、田中実、高木春太郎、高宮一栄、高田正二郎、高橋道雄、高光一也、高倉一二、竹岡良太郎、竹沢基、千原成一、中条茂、辻永、辻朗、辻村八五郎、寺内万治郎、寺島竜一、手塚義三郎、遠山清、土橋醇一、土佐林豊夫、戸塚孝三郎、戸田定、島居昇、留岡彬、島屋尾孝吉、時田幸彦、長原坦、中村研一、中沢弘光、中島晋次郎、中岡恒雄、中川義憲、永田精二、永瀬義郎、長坂春雄、長尾真佐栄、名渡山愛順、新延輝雄、西尾善積、西尾毅、西山真一、西村憲定、西村俊郎、西村喜久子、西岡義一、西田亨、根津莊一、根木縦之介、根岸秀雄、野平上、野本正雄、橋本正躬、早田嘉之、日原晃、久本弘一、藤彦衛門、藤本東一良、藤井芳子、藤江理三郎、藤井軍三郎、藤原昇一、古屋浩蔵、舟木徳重、福井重男、星野正三、馬淵聖、牧野司郎、益山英吾、松尾正己、松浦莫章、松本正人、丸山豊一、円地信二、耳野卯三郎、南政善、水上信雄、三尾文夫、三尾公三、三上義人、三輪孝、三宅次郎、御正伸、溝江勘二、宮脇憲三、村岡平蔵、森田元子、森田源一郎、森桂一、森新市、森清治郎、守屋千之、矢田清四郎、山尾平、山中清一郎、山下忠平、山口猛彦、山喜多二郎太、山村孝太郎、山本彪一、山田新一、山名武、柳瀬俊雄、矢口洋、由里明、幸島重雄、米本一郎、説谷山朝典、渡辺武夫、和田香苗、和田清

(工藝)

一噌元治、伊勢瑛子、飯田美郎、岩下洋、岩田久利、海野建夫、大久保婦久子、大樋年郎、大津健、岡部達男、川合修二、加納真輝、勝和子、神成渥、久保駒太郎、小林清、坂本和子、松風栄一、城秀男、杉浦非水、鈴木青々、武内信弘、帖佐美行、辻光典、土屋杏平、寺本美茂、中田満雄、中村俊介、中村董一、中村草山、中野馨一、夏井清、西村英夫、浜達也、般若佑弘、原稻生、福原達朗、二口志保子、堀友三郎、松岡武夫、三橋国民、皆川月華、宮之原謙、宮入製滋雄、山形駒太郎、山鹿清華、山崎覚太郎、山本正年、米沢久、鷺田うめゑ

神戸洋画会(洋) 神戸市東灘区本山町田辺三八、三木朋太郎方(電御影 1524) 昭和 21 年創立。阪神在住の洋画家をもつて組織、毎年展覧会を開く。

〔常任委員〕 朝倉斯道、大塚銀次郎、小磯良平、川西英、上田清一、小松益喜、大石輝一、江田誠郎、三木朋太郎

光陽会(洋) 北区上中里 1 / 2 多々羅義雄方 昭和 29 年 2 月創立。多々羅義雄、早川芳彦。井口勇らが創立委員となつて結成し、民族性を活かした独自の藝術を創作することを目的とする。昭和 35 年 7 月第 8 回展開催。

〔会員〕 多々羅義雄、早川芳彦、井口勇、加賀英二、斎藤哲爾、吉川俊久、鷺田新、島田良雄、原田繁男、大川美友、北島吾二平、滝沢実、若林清、丸山妙子、湯沢明、岡野靖子、飯塚年男、本間勝太郎、高山幸夫、川島義一、野呂正夫、池田英夫、諸橋政範、梅地さわ

子、大西あや子、古泉光子、徳増節子、山本弘子、高林泰、木林良孝、岩田直英、岡崎万太郎、戸田辰弘、角田剛康、野村安俊、河辺昌久

国画会(絵・版・工・写真) 都下北多摩郡久留米町門前311 田中道久方 大正7年1月小野竹喬、土田麦僊、村上華岳、野長瀬晩花、榊原紫峰の5名は国画創作協会を設立、爾来毎春東京及び京都で協会展を開催し、又入江波光はじめ数名の若い作家を同人に推挙したが、同15年梅原竜三郎、川島理一郎の両名を迎えて第2部を新設し、更に富本憲吉、金子九平次を加えて彫刻及び工藝を同部に置いた。その後昭和3年7月解散したが、第2部は存続して国画会と改称し、梅原竜三郎、川島理一郎、大橋幸吉、金子九平次、富本憲吉、山脇信徳の旧会員に新に高村光太郎、椿貞雄、河野通勢の3名が参加し、翌4年「第4回国画会展」を公募の上開催した。第6回展に版画部新設、平塚運一が鑑査を担当した。10年梅原竜三郎及び富本憲吉は新帝院会員に任命され、同年6月川島理一郎は同会を脱退した。尚第14回展には写真部を新設し、鑑査には福原信三、野島康三の両名が当たった。同14年彫刻部は同会を結束離脱し、彫刻部は解消した。29年理事制を廃し客員制を設けた。昭和35年4月第34回展開催。

〔名誉会員〕 梅原竜三郎(客員) 浜田庄司、河井寛次郎、野島康三、柳宗悦

〔会員〕(絵画部) 青山義雄、青木達弥、東貞美、伊藤廉、池部貞喜、遠藤未満、井上三綱、石原宏策、石井佐一、宇治山哲平、内堀勉、大森啓助、大清水咲子、尾田龍、柏木俊一、川口軌匡、香月泰男、金子三蔵、喜多村知、木内広、菊地辰幸、国松登、熊谷九寿、久保守、庫田袈、小林邦報、小泉清、沢野岩太郎、里見勝蔵、渋谷栄志、島内キミ、杉本健吉、須田剋太、曾宮一念、立石鉄臣、高松健太郎、辻愛造、田田文雄、中村博、中村好宏、長野静司、野田好子、長谷川春子、原精一、橋本三郎、南風原朝光、張替正次、平塚運一、日向裕、福留章太、福井敬一、二見利節、細谷重雄、益田義信、馬越樹太郎、真垣武勝、松本満史、松田正平、宮田重雄、三橋健、村上巖、宗像逸郎、山村誠、山崎隆夫、養田つや子、和田忠志、鈴木正二、小館善四郎、上田清一、田中道久、北村綱義、音部幸司、本田克己、鎌田雛子、岩尾秀樹、土田次枝、積田麗士、渡辺貞一(版画部) 畦地梅太郎、稻垣知雄、伊藤勉、橋本興家、川上澄生、川西英、斎藤清、下沢木鉢郎、品川工、笹島喜平、関野準一郎、平塚運一、ブブノワ、前田政雄、益田義信、山口源、中川雄太郎、栗山茂(写真部) 入江泰吉、小野由行、川崎亀太郎、大村伊兵衛、平松太郎、中居正躬、西山清、錦口里孝治、野島康三、北角玄三、長浜慶三、ハナヤ勘兵衛、吉川富三、内田美胤、竹見義雄、島田貫一郎(工芸部) パアナード・リーチ、上田恒次、及川全三、岡村吉右衛門、河井武一、小島恵次郎、後藤清吉郎、佐久間藤太郎、芹沢銈介、鈴木繁男、外村

吉之介、立花長子、滝田項一、船木道忠、船木研志、三代沢本寿、森義利、柚木沙弥郎、柳悦孝、柳悦博、安川慶一、原田麻那、長沼孝一

国際観光美術家協会(工) 京都市下京区寺町通高辻上(登喜和ビル)近畿地方の工芸美術を観光客を通じて紹介するために昭和33年5月に設立された。

同年6月開所展

〔理事〕 浅見隆三、河合卯之助、小泉秀雄、小林尚現、久保金平、佐野猛夫、徳力富吉郎、皆川泰蔵、森野嘉光〔専務理事〕 沢井一染、谷岡美雄、会員147名

国際具象派協会(洋・彫) 横浜市中区西竹之丸12 寺田春式方(電本局4762) フランス側事務所 33 Rue Charcot Paris 13^e. Roger Montané 方 昭和31年6月創立された国際具象作家協会を1958年1月に改称した。1954年(昭和29年)在仏中交友のあつた日・仏の作家評論家によつて結成。各々の伝統を尊重しつつ、生活に基盤をもつレアリテュメンを造型表現に訴えようとするものだと声明している。

昭和35年4月第3回展開催。

〔会員〕 Aizpuri, Montané, Minaux, Guérrier, Lorjou, Vinay, Desnoyer, Lotiron, Bardone, Winsberg, Savary, Commère, 寺田春式、矢口洋、小野末、関口俊吾、山本豊市、松田正平、林武、伊藤廉、本田克己、原精一、古茂田守介、中谷泰、野田好子、牛島憲之、吉田俊雄、香月泰男、木内克、千野茂、柳原義達、淀井敏夫、桜井祐一、〔参予〕 今泉篤男、嘉門安雄、福島繁太郎

国際工芸美術協会「J・A・C・C」(工) 北区田端町337 佐竹伊助方 昭和30年12月創立。伝統を生かしつつ世界的視野に立つた新しい工芸の創造を目的とする。その目的達成のため、デザイン、技術の研究、日本工芸の海外進出及交流、工芸に関する印刷物の刊行、会員相互の扶助、親睦、内外諸官庁、商社との連携その他必要なる事業を行う。

〔理事長〕 中村光哉 〔理事〕 11名 〔会員〕 54名

国際版画協会 千代田区神田小川町2ノ1 武崎ビル内(電東京29局2788) 各種版画の研究とその普及を国際的に、版画美術の振興と普遍化により、文化の発展に貢献することをもつて目的とする。事業としては、版画の研究普及に関すること、国際的な交流、内外における展覧会の開催、版画製作者助成に関すること等を行う。その一つとして昭和32年7月第1回国際版画協会展(日米交換版画展)を行った。

〔会長〕 辻永 〔理事〕 足達源一郎、伊藤廉、江藤純平、大河内信敬、奥瀬英三、大久保作次郎、小野瀬圭三、片平勝、鈴木千久馬、長坂春雄、中村研一、野口弥太郎 〔監事〕 大江恒吉、三輪孝 〔会員〕 37名

国際美術協議会 港区芝白金台町1ノ55(電東京441局、8106、8107) 昭和32年8月創立。日本美術の国際的発展、国際美術展への参加、国際的交流に関し、国内関

美術団体一覧

係諸機関の連絡を緊密にし、必要な審議を行うとともに、右事項に関する政府の施策に協力するために設置する。

〔委員長〕 富永惣一 〔主務幹事〕 米沢菊二 〔委員〕 外務省情報文化局第三課長菅沼潔、文部省社会教育局藝術課長福原匡彦、文化財保護委員会事務局次長田中章、国立博物館次長田内静三、国立近代美術館次長今泉篤男、日本美術家連盟宮本三郎、益田義信、田中忠雄、柳原義達、和田新、美術評論家連盟滝口修三、土方定一、嘉門安雄

国民文化会議 千代田区富士見町2ノ3 電(30) 13 43 昭和30年7月創立。正しい国民文化を守り育てるために、国民各層の人々と文化を専門とする人々を結びつつ、我国の文化の伝統を正しく発展させ、専門家の創造活動を培い、その成果を普及、大衆の文化的要求を満たすことを綱領としている。原則として団体会員をもつて構成され、文学、教育、写真、藝能、映画、生活文化、音楽、舞踊、科学技術、言論、美術、演劇の12部会がある。

〔会長〕 上原専祿 〔顧問〕 碓伊之助、山田耕筰、市川猿之助、木村伊兵衛、石井漢、町田嘉章、秋田雨雀、徳川夢声 〔事務局長〕 南博

児玉画塾(日) 文京区駒込林町35 児玉希望方 電(821) 0525 児玉希望の主宰する日本画塾

コンレアル美術協会(洋・彫・デザイン) 神戸市灘区八幡町2ノ63 岡本弘三郎方 大阪市立工芸学校同窓生により昭和26年5月創立。昭和33年6月第8回展開催。

〔会員〕 小田村貞雄、小笠原美代治、岡本弘三郎、矢野友司、中辻大、原弘、山口品子 (さ)

朔日会(洋) 台東区谷中真島町1ノ1 羽藤馬佐夫方 電(821) 7785 昭和12年創立。昭和35年5月第29回展開催。

〔同人〕 羽藤馬佐夫、加藤正信、竹上義治、高木秀男、越次男、白石延夫、後藤高司、徳本立憲、西徳二郎、池淵知世、斎藤敬一、新野一弘、羽藤淑子、了正敬一郎、荒井一男、大塚武、戸泉静子、長岡一敏、西村淑、麻生良子、尾籠晴夫、須藤猷、鶴沢守治、五十嵐吉夫、長谷川隆、横関武、稲川一郎、宮島資雄

〔会員〕 85名

座標(洋・版画) 兵庫県神戸市兵庫区熊野町5ノ89ノ20 大西江二方 昭和31年4月創立。構成メンバーは春陽会々員と一般出品者である。昭和31年10月第1回展を神戸で開催。毎年10月に展覧会を開く。

〔会員〕 佐藤篤郎、池内登、市川陽一郎、市原宏郎、大西江二、鈴木敏董、長尾和義、前田清子、山田文宏

サロン・ド・ジュワン(洋) 豊島区椎名町8ノ3898 木谷俊方 昭和26年6月創立。昭和34年6月第12回展開催。

〔会員〕 浜田稔、堀田操、大口登、渡辺寛治、米倉寿

仁、中島穰、真島健三、三水公平、木谷俊、辻章夫、盛益子、安部幸毅、小野洋、若菜寿夫、中林松太郎、遠藤敏弥、窪田知矩、宮野進、岡本治男、山下一郎

〔準会員〕 岩井孝之、国島征二、森島澄子、

三軌会(水・油・染色・版画・平面デザイン) 杉並区上荻窪1ノ13 互井開一方(電荻窪 6465) 昭和24年2月創立の新水彩作家協会を30年1月三軌会と改名。昭和32年写真部解散。図案部新設。昭和35年2月第12回展開催。

〔委員〕 (絵画部) 古郷八郎、小林新吉、前林章司、滝沢清、互井開一、坂梨心澄 (染色部) 大坪重周、矢島青郎、野村信、高山芳樹 (平面デザイン) 山内善之進、中村春路、佐藤晃一

〔会員〕 (絵画部) 田村貫一、三輪田元也、細田賢作、高杉洋介、植田実、森田一男、阿部合成、松本明也、鶴田孝治、芹生芳郎 (染色部) 野村信、十束敏子、田内康近、大西澄子、山岸登美、宮沢貞子 (平面デザイン) 城橋夫、大西憲治郎、佐藤晃一、篠田健史、山岡陣平、石毛正一、水上暁浩、水谷彦彦、渋谷竜治

三光会(日) 杉並区堀之内1ノ131 田中針水方 川合玉堂の塾生により昭和21年11月創立。昭和30年3月第9回展開催。

〔会員〕 井上恒也、田中針水、山下巖 (し)

示現会(洋) 文京区駒込千駄木町50 奈良岡正夫方 電(821) 0201 昭和22年10月創立。昭和35年3月第13回展開催。

〔代表者〕 石川寅治 〔事務責任者〕 大内田茂士

〔委員〕 青木純子、石川寅治、居関金一、江崎寛友、大内田茂士、大沼静蔵、奥瀬英三、工藤靖彦、古瀬静夫、斎藤俊雄、佐々木真夫、田原輝夫、寺崎善次郎、内藤定昭、内藤秀因、中村勝美、中村新次郎、奈良岡正夫、橋原健三、能見三三、藤坂太郎、細島昇一、三上知治、三上浩、光安浩行、水戸敬之助、三井滋雄、山田説義、吉原甲蔵

四耕会(彫・工・写真) 京都市東山区高台寺榎屋町349 宇野三吾方(電祇園 2411)、昭和23年10月創立。彫刻・工芸・写真等の研究団体。毎年1回公募展開催。

〔会員〕 伊豆蔵寿郎、宇野三吾、岡本素六、大西金之助、加藤仁、沼田一三、林康夫、雲雀民雄、藤田作、益田哲、渡辺好章、土本真澄、宇野瑞子、北出藤雄

七象会(洋) 台東区谷中坂町63 小松崎邦雄方 昭和31年3月第1回展以後第3回展を34年6月に開催。

〔会員〕 赤堀尚、稲村洋、小松崎邦雄、酒匂諒、志郎武久、田口安男、松本昭、松原元人

日社(日) 北区田端町448 村山径方 電(821) 1327 昭和25年2月創立。官展系日本画家の研究団体。毎年各地で展覧会開催、昭和34年6月第10回展開催。

〔顧問〕 伊東深水、児玉希望、矢野橋村 〔客員〕 寺

島紫明、池田遙都〔常任委員〕奥田元宋、佐藤太清、立石春美、伊東万耀、村松乙彦、松浦満、浜田台児、白鳥映雪〔委員〕○西野新川、田中針水、武藤嘉享、海野旭世、○山下巖、牧野雅彦、福与悦夫、○白井烟嵩、森正元、浜田台児、○渡辺阿以湖、○笠原可雄、松本郭南、鈴木由太郎、鈴木石鷗子、間宮正、入幡白帆、直原玉青、○大原華泉、川上青山、秋元節朗、北村道明、水野陽翠、森田邦仁、米重忠夫、○陳永森、○関根雅雄、三上巴峽、○村山徑、横尾芳月(○印特別委員)

〔会員〕145名(委員共)

実験工房(綜) 世田谷区松原町3 / 814 秋山邦晴方(電松沢 6665) 美術家、音楽家、詩人等の集団

〔会員〕(美術)北代省三、駒井哲郎、山口勝弘、福島秀子、今井直次、山崎英夫、大辻清司 (音楽)武満徹、鈴木博義、湯浅譲二、園田高弘 (文学)秋山邦晴

室内構成美術家連盟 目黒区衾町100 佐々木達三方(電佐原 2409) 昭和26年創立。同年第1回展開催。

〔会員〕佐々木達三、岩瀬要三、浜中勝、喜多村政良、野口寿郎、奥平貞俊、水谷文平、大泉博一郎、狩野雄一

信濃美術会(綜) 千代田区神田小川町3 / 8 信州会館(電日本橋 8807・8209) 昭和27年3月創立。在京信州美術家及在郷有力美術家による団体。昭和28年6月第2回展開催。

〔会員〕(日本画)横尾芳月、町田曲江、江崎孝坪、亀割隆、藤森青藝、宮沢鉄夫、他 (洋画)伊川鷹治、辻村八五郎、中川紀元、小山敬三、高橋貞一郎、小穴隆一、須山計一、小林邦報、宮川仁、矢崎牧広、日向裕、関四郎五郎、志村一男、加藤陽、他 (彫塑)清水多嘉示、瀬戸団治、小林章、小林三郎、長田平治、大和作内、矢崎虎夫、他 (工芸)北原三佳、高橋節郎、山岸堅二、他

J・A・N(洋・写)〔青年美術家集団〕練馬区江古田2082 斎藤正夫方(電051 8351) 昭和10年創立。昭和33年3月第29回展開催。

〔会員〕土橋醇、藤井令太郎、福井敬一、五味秀夫、浜谷次郎、伊藤朗朗、今関一馬、井上孟、南桂子、武藤久、村瀬静孝、松村禎夫、中村道、斎藤正夫、笹岡了一、佐分利良夫、堀出千鶴子、田中岑、山下鉄之輔、横地康国、江田豊、大村連、辻正男、(写)藤本四八。

十一会(洋) 世田谷区成城町114 小野彦三郎方 電(416) 2204 昭和33年創立。創元会を退会した小野彦三郎、木下幹一、山野正、松崎利行に旧東光会々員関口茂、国画会より清水光子、新日展木下繁、山脇正邦8名により結成。昭和35年8月第3回展開催。

自由美術家協会(洋・彫・版) 杉並区東田町1 / 40 中野淳方 電(311) 6091 保守的な形式主義、形式模倣を超克し、自由に新しい前衛美術を作ろうと云う主張で結ばれている。昭和11年7月創立。昭和12年第1回展を開催。戦時中昭和16年第5回展より美術創作家協

会と改称したが昭和21年第9回展(大阪)より旧称に復活、昭和35年10月第24回展開催。

〔会員〕青木正春、赤塚徹、麻生三郎、荒木道夫、安藤士、安部真知、伊藤昭二、井沢元一、池田淑人、磯村敏之、糸園和三郎、井上長三郎、井上照子、井上信道、井上武吉、今井繁三郎、一木平蔵、上野省策、上野実、上原二郎、江見崇、榮永大治良、小貫政之助、小野州一、大野五郎、大村清隆、大村連、大家鋭郎、岡弘、岡本実、乙葉統、奥富修、尾内健治、小俣球一、加藤一、加藤隆、金井新一、香山逸人、加納敬次、川合喜二郎、川口精六、川瀬孝二、柿手春三、賀川孝、木ノ内岬、鬼頭肇、金光珠、久保田九一、倉石隆、熊谷明広、小谷良徳、小谷博貞、小管徳二、小林邦二、小林良曹、小山寿夫、金野宏治、佐藤美代子、佐藤吉彦、佐藤弘、佐藤省三郎、境野一之、迫田潤一、沢野井信夫、佐野文夫、島田由紀子、島鉄生、清水七太郎、塩水流功、末松正樹、杉原清司、鈴木国稔、鈴木福男、関正和、関戸伸、石寿星、清希卓、曹良奎、蘭田猛、田中彦次、田中朝吉、田中健三、田原史、竹中三郎、田勇、田尻稲四郎、中条顕、塚谷政義、鶴岡政男、手塚益雄、寺田政明、土井栄、渡カ敷唯信、登崎三三郎、富山好子、富田卓司、豊田一男、中島保彦、永田力、中野淳、長野誠之助、中村健一郎、中本達也、中山一郎、奈知安太郎、西八郎、西良三郎、新田実、西谷富士雄、西村保史郎、根岸正、野崎南海雄、野見山曉治、灰谷正男、羽田重亮、浜口陽三、浜田方一、早川重章、林田セツ子、比田井仁史、平沢熊一、広田嘉子子、藤沢匠、藤沢喬、藤沢友一、藤田昭子、藤間清、文挾克明、深見公道、細井憲摩、前川博人、前田常作、松野庸子、松永浩二郎、松本忠義、松本正子、牧野重信、万城信郎、三木弘、水谷武彦、三井滋夫、南桂子、峯孝、峰村リツ子、宮本正之、森堯茂、森川昭、森田正治、森芳雄、矢崎甲子夫、八鍬四郎、八幡健二、山口英哉、山内豊喜、山田千秋、山田光春、山本新蔵、幸辰辰門、吉井忠、吉本時昌、園房江、福井顕男、羽原智達、古山保子、千原三郎、小野木学、吉江新二、森本仁平、白井都、瀬高政義、平野遼、八橋誠滋、南園義博、安部毅、東喜久夫、梅藤哲男、峰村ユキエ

集団・現代彫刻(彫) 豊島区栗鴨町5 / 1079 建畠覚造方 電(982) 3091 昭和35年8月創立。年1回発表展を行う。

〔会員〕井上武吉、井上平八郎、橋本正司、戸津侃、小野忠弘、川瀬孝二、建畠覚造、中島快彦、村岡三郎、山口勝弘、福岡道夫、児島幸雄、阿井正典、朝倉響子、木村賢太郎、志水晴児、平川正道、毛利武士郎、原武典、広井力、今村輝久、橋本惣介、堀岡正和、レオン・ターナー、田中榮作、曾山節雄、向井良吉、野崎一良、山口牧生、小谷謙、昆野恒、荒川修作、篠井欽治、三林暢夫、篠田守夫、広重昌子、森堯茂、砂沢ビッキ

集団・版(版) 品川区南品川4—358 東和荘内森村惟一 昭和34年夏、日本版画院・日本版画家協会に

美術団体一覧

属さない作家たちの研究と発表機関として結成。8月第1回展。会員28名

主潮社(日) 大阪府豊中市清風荘2-47 矢野橋村方(池田8342) 大正8年創立。昭和22年1月復活、矢野橋村方を会長とする日本画塾。

出版美術家連盟 新宿区下落合2-586 (電落合0510734) 昭和25年10月創立。戦前の日本挿絵画協会を戦後改称したもの。年1回出版美術祭を行う。〔会長〕岩田専太郎〔理事長〕田代光〔事務局長〕西原比呂志
珠玉会 杉並区高円寺3-184 三輪孝方(電8117975) 昭和32年11月創立。日展特選及岡田賞受賞者を以て結成、年1回発表展を行う。

〔会員〕秋元松子、高橋道雄、武永慎雄、寺島竜一、中村一郎、二重作竜夫、松本重雄、三輪孝、三井滋夫、大蔵敏秋、角卓、菅沼金六、山中清一郎、海津五郎、益山英吾、高島常雄、内山孝

朱玄会(工) 京都市左京区浄土寺南田町103 番浦省吾方(電吉田3049) 昭和32年4月創立。旧創人社は創立10年を経て初期の目的を達したと考え、発展的解散をなし、新に工芸の新造型をめざし結成した。京都在住作家の集り。昭和32年6月第1回展開催。

〔会員〕井田宣秋、伊藤裕司、市川準一、上原清、上原茂、岡田章人、久保金平、鈴木雅也、堂本漆軒、中清太郎、中村弘子、番浦省吾、東端真彦、平石晃祥、南祥輝、真鍋光男、水内平一郎、水谷時三郎、山下悦夫、山田栄金

朱葉会(洋) 中野区城山町27 大久保為世子方(電62496) 大正7年創立。女流洋画家の団体、昭和35年6月第12回連立展開催。

〔会員〕友田みね子、吉田ふじを、山田文子、大久保為世子、赤津捨子、岩村芳子、水沢順子、南桂子、吉田千鶴子、森野照子、石川よし子、仲敬子、直井澄子、梅川慶子、重松京子、改井貞子、村田米子、宗久恭子、岸田麗子、南桂子等44名。

春泥会(日) 大阪市住吉区帝塚山中3ノ26 中村貞以方 中村貞以の主催する日本画の画塾。昭和11年5月創立。昭和30年6月第14回展開催。

春陽会(洋・版・舞台美術) 世田谷区代田1ノ360 中谷泰方 電(414)6756 大正9年秋日本美術院洋画部を脱退した小杉未醒、山本鼎、倉田白洋、森田恒友、長谷川昇、足立源一郎の6名は同11年1月、新婦朝の梅原竜三郎を加え、更に8名名の客員を迎えて同会を創立。「春陽会は従来展々見たる如き既成会への社会的対抗として興らず、単なる藝術家の心を以て因縁相熟したるものです」と声明した。翌年5月上野竹之台陳列館に第1回展を開き、爾後毎年春季に公募展を開催し、又東京開催後大阪、名古屋等に地方展を催している。昭和26年から舞台美術部を設けた。昭和35年4月第37回展開催。尚春陽会研究所は昭和4年開設、現在に及んでいる。

〔会員〕(油絵) 石井鶴三、石井光楓、伊藤慶之助、岩田栄之助、伊川鷹治、今竹七郎、岩崎又二郎、伊藤善、原田武男、原田平治郎、林俊行、本莊赴、豊泉恵三、友田みね子、岡鹿之助、小穴隆一、鬼塚金華、小栗哲郎、大沢鉦一郎、小川マリ子、大嶺政寛、小川緑、若山為三、加山四郎、川端弥之助、加賀孝一郎、川隅路之助、川上尉平、川島昇太郎、加藤秀夫、横堀角次郎、吉田達磨、高田力蔵、高橋辰雄、田中寿太郎、田川勤次、田辺謙輔、田中岑、土屋義郎、中川一政、南城一夫、中谷泰、中村徳三郎、村山密、上野春香、上原欽二、魚津良吉、野村千春、栗田雄、倉田三郎、山川清、藤野龍、藤井令太郎、小杉放庵、小泉倫之助、遠藤典太、足立源一郎、秋口保波、荒木市三、佐藤篤郎、佐藤昌胤、水谷清、三雲祥之助、南大路一、宮田武彦、宮脇晴、三井永一、志村一男、角南松生、木本晴三、福田庸一、笠木実、小柳秀太郎、中山爾郎、高木勇次、関四郎五郎、市川晃、五味秀夫、大嶺政敏、井上重生、香掛利通、田畔司朗、西尾節子、宮城音蔵、出岡実、越智雄二、木下公男、関頼武、徳田信保、松村禎夫、(客員)アントニン・レイモンド(版画) 石井鶴三、長谷川潔、前田藤四郎、古川龍生、駒井哲郎、北岡文雄、清宮賢文、深沢幸雄、(舞台美術) 伊藤煮朔、織田音也、河野国夫、三林亮太郎、板坂普治、小林雍夫、中島八郎、真野誠二(客員)花柳章太郎

上彩会(綜) 千代田区神田大和町38区立今川小学校内(電8517809) 代表者 藤沢典明 昭和22年創立。東京都小学校在職者にて終戦後東京都美術派遣生として東京美術学校に派遣された26名にて結成する。

女流画家協会(洋) 武蔵野市吉祥寺223 高須鞆子方 電(381)0910

昭和21年11月創立。女流画家相互の研究と新人の登龍門として展覧会を開催する。昭和35年5月14回展開催。

〔会員〕140余名

新槐樹社(洋) 武蔵野市吉祥寺3261 堀田清治 昭和33年3月結成。6月第1回展、35年2月第4回展開催。会員120名。

新協美術会 新宿区戸山ハイツ3の313 佐々木方 電(341)9268 昭和32年11月創立。在野美術団体。昭和32年11月第1回創立展を開催。以後年1回公募展を行う。

〔委員〕青山裏、太宰澄、細井繁誠、河野浩、河野重軌、三谷長博、長井恵之、西原比呂志、尾島薫、佐々木利栄、田沢八甲、田中比左良、田代光、橋作次郎、横山義雄、長野英雄 〔会員〕委員を含め45名

新工人会(工) 品川区大井北浜町1147 三上修一郎方 昭和26年12月創立。若い工藝家の新作発表機関、昭和34年10月第8回展開催。

〔会員〕松浦弾、辻清明、近藤実、近藤昭作、江頭源一、古田重郎、三上修一郎、増田武夫、坂田種男、山岸

証史、矢村仁四郎、安田与佐

新構造社(綜) 目黒区下目黒3/576 本目勇市方(電713)4991 昭和10年6月構造社有志幹事会は絵画部の解消を決議したが同部は翌月構造社総会を招集、絵画部の存続を決議し同年11月第9回構造社絵画展を公募の上開催した。11年7月彫塑団体17会の加盟により名を新構造社と改称、更に工藝部を新設した。昭和24年から太平洋画会、新構造社、朱葉会、創造美術会の4団体による自主連立展を開催し、3回展を了えて太平洋画会が退会、3団体による連立展を運営している。毎年1回展覧会開催。昭和35年5月第12回連立展開催。

〔会員〕(絵画) 新井時厚、本目勇市、市川兼治、何徳来、清浦正風、楠本繁、北沢博生、小祝嘉一郎、斎藤六郎、斎藤慶一、岡田洋采、岡本華伯、岡義長、中川安一、南部一信、難波魁、大沢康之、吉村勇、大西福意、小田福丸、小口一郎、島太郎、三枝惣太郎、竹沢要作、寺中靖直、徳山巍、多比羅栄一、山本好信、神山恒、何乃沢、福岡精哉、内山豊、北沢定一、宮村泰彦、高野直一、山本百合子、石田正義、名兄耶良英、田中志郎、羽山登、玉置清、雄賀紀光、福地良太郎、松井正吉、隅井竹一(彫刻) 恩田忠一、寺畑助之丕、山名常人、河野文一郎(工藝) 高浜加乃(写真) 秋山青磁、岩間俱久、則松皓一、天野光章、熊谷辰男、長口宮吉、立花浩二、山田広次、茶谷弘、古谷正三郎

新興美術院(日) 豊島区目黒3/3559 電(971) 8971 昭和12年9月日本美術院を脱退した元院友12名を以て結成、戦争中一時中絶していたが昭和25年旧新興美術院同人6名に他2名を加え再興新興美術院として発足、毎年春秋2回展覧会を開催。昭和30年社団法人となる。昭和35年5月第10回展開催。

〔会員〕 茨木杉風、横田仙草、小林巢居人、鬼原素俊、芝垣厚生、高島祥光、林部圭宰、岡田鍊石、倉持晋一、松永光玉、上田臥牛、箱山精一、花岡朝生、養父清直、谷口正春、大路孫三郎、根本正、上地瑛一郎、片岡已代子、中沢恵以子、大山魯牛、大川一男、中西一路、渡辺玉花、柴山蘭亭、野田松岳、野原茂生、黒崎義介、鍋島古舟、林一羅、松本涼草、恩田耕作、上条静光、小川洗二、安部信雄、鎌田緑峰、鈴木草牛、山本政雄、リリー・ストランド、野口広文、笹川和夫、関川都、斎藤二良、戸時晟光

新樹会(洋・彫・版) 台東区谷中清水町3 大河内信敬方(電駒込4887) 昭和22年3月創立。昭和34年8月第13回展開催。

〔会員〕 井手宣通、林武、原勝郎、浜口陽三、大河内信敬、大久保泰、岡田又三郎、野口弥太郎、山本豊市、海老原喜之助、朝井園右衛門、斎藤愛子、木内克、南政善、清水多嘉示、三雲祥之助、三岸節子、三岸黄太、島村三七雄

新具象(彫・洋) 東京都北多摩郡国立町東区93 中本達也方 昭和30年2月創立。新しいリアリズムを求め

る研究団体。昭和32年6月第1回新具象展開催。

〔会員〕 井上武吉、木ノ内岬、森川昭、永田力、中野淳、中本達也、比田井仁史、松田博

新匠会(工) 京都市東山区泉涌寺東林町29 鈴木清方(電祇園1280) 昭和22年新匠工藝会として第1回展を開催。昭和26年第5回展より新匠会と改め、昭和27年在野団体として新発足。昭和32年第12回展開催。

〔顧問〕 富本憲吉 〔会員〕(陶) 福田力三郎、近藤悠三、鈴木清、徳力孫三郎、徳力牧之助、山田詰、安田茂郎、(染) 稲垣稔次郎、河合隆三、暮田延美、鈴田照次(漆) 山永光甫、古山英司(金) 増田三男 〔会友〕(陶) 小山喜平、壺井明日香、平田興一、早川毅(染) 手嶋有男、楠野スミ、伊砂久二雄、高井貞子

新象作家協会(洋) 大田区馬込東1/1399 丸野幸雄方 電(772) 0616 昭和33年1月創立。美術文化協会を脱退した会員を中心に広く優秀な作家の参加をもとめ、自由な藝術活動を理想とする団体として発足した。昭和34年7月第2回新象展開催。

〔会員〕 浅利篤、内田慎蔵、坂家久美、井上市三郎、岩間正男、内山牛松、浅井昭、石井玲一、池原正男、大田登、太田一男、安藤憲三、皆光茂、金子滋、香川勇、熊谷文利、須賀卯夫、佐伯和美、島津純一、谷口克己、千葉健作、土井俊生、高橋勉、中村良七郎、永橋正次、庭田定男、野村基義、野口トシ子、龍島庸二、長谷川望、古川泰隆、横山重生、柳沢祥隆、山田武彦、幸寿、大和秋平吉、川三伸吉、加江京司、吉田好斗、奥口信一

森々会(日) 杉並区阿佐ヶ谷3の528 川崎小虎方(電荻窪1077) 昭和25年7月川崎小虎塾有志により結成。昭和30年4月第5回展開催。

〔顧問〕 川崎小虎、東山魁夷 〔会員〕 石曾根貞亀、石田重子、太田歳夫、奥山芳泉、小倉芳司、小沢春子、川崎鈴彦、川崎春彦、永山十志夫、奈良裕功、小関きみ子、佐藤永芳、三河義太郎、大島秀信、小野茂明、石倉正富、斎藤俊雄

新世紀美術協会(洋) 練馬区仲町1/169 東海林広方(電933) 1070 昭和30年4月創立。無所属、藝術院会員中の和田三造、川島理一郎を名誉会員として迎え、旺玄会離脱の大久保作次郎、吉村芳松、長屋勇等其他17名に、東光会より松本富太郎、横山義雄、境保博等、無所属の柚木久太、草光信成、創元会より東海林広等が参加して結成された日展系の団体。昭和30年7月日本橋高島屋に於て創立記念会員展を開催、35年2月第5回公募展開催。

〔名誉会員〕 和田三造、川島理一郎 〔会員〕 荒木穂雄、藤川光次、刑部人、草光信成、松本富太郎、池上浩、大久保作次郎、東海林広、栢森義、別府貫一、柚木久太、吉村芳松、準会員とも179名

新制作協会(日・洋・彫・建) 渋谷区代々木本町825 村田勝四郎方 電(371) 8521 昭和11年7月、第2部会が文展に参加するに及び猪熊弦一郎、内田巖、佐藤敬、

美術団体一覧

中西利雄、小磯良平、三田康の6名は同会を離脱、脇田和、伊勢正義、鈴木誠の3名とともに新制作派協会を設立、同14年7月国画会の彫刻部を脱退した本郷新、佐藤忠良、山内壮夫、柳原義達、吉田芳夫、舟越保武、明田川孝、によつて彫刻部を設けた。同24年には建築部を新設、26年には日本画在野団体創造美術と合流し新に日本画部を設け新制作協会と改称した。展覧会回数は従来の回数を追うことになった。昭和35年9月第24回展開催。

〔会員〕(油絵部) 伊藤雄一郎、猪熊弦一郎、石川滋彦、伊勢正義、西田勝、西村元三郎、荻太郎、荻須高德、太田忠、小関利雄、脇田和、若松光一郎、角浩、風間完、竹谷富士雄、田中修、田中田鶴子、田淵安一、玉置正敏、中尾進、行木正義、村尾隆栄、内田武夫、桑田道夫、丸山正三、小磯良平、小松益喜、合田小三郎、赤穴宏、佐藤敬、坂井範一、三田康、山東洋、三岸節子、宮脇公実、関口俊吾、瀬島好正、鈴木誠、鈴木新夫(日本画部) 石本正、堀文子、奥村厚一、加山又造、吉岡堅二、高橋周桑、向井久万、上村松篁、山本丘人、福田豊四郎、朝倉拱、麻田鷹司、秋野不矩、沢宏毅、菊池隆志、信太金昌、広田多津、稗田一穂、上野泰郎、野崎貢、(彫刻部) 伊東健、五十嵐芳三、早川巍一郎、西常雄、細川宗英、本郷新、豊福知徳、岡本庄三、加藤昭男、吉田芳夫、田畑一作、土谷武、武次郎、村田勝四郎、久保孝雄、柳原義達、山内壮夫、山本常一、山本格二、舟越保武、芥川永、佐藤忠良、菊池一雄、菅原安男、石場清四郎、小坂圭二、阿部米蔵、(建築部) 池辺陽、岡田哲郎、吉村順三、谷口吉郎、丹下健三、山口文象、剣持勇、松村勝男

新世代(洋) 品川区大井原町5200 原小学校内(電大森894) 代表東俊二 昭和17年創立。教職にあるものでモダンアートの傾向に立つ作家の集り、昭和28年7月第1回展開催。

〔会員〕 東俊二、勝田寛一、藤沢典明等25名

新超現実派(洋) 板橋区志村前野町139 古沢岩美方 昭和33年7月伊藤、福田ら7名で結成され、9月に工藤が参加。9月第1回展および機関紙「新超現実派」発行。

〔会員〕 伊藤好一郎、工藤昌仲、浜田稔、奥田徳雄、古沢岩美、古沢恒敏、福田杜子夫、佐久間阿佐緒

晨鳥社(日) 京都市北区北野紅梅町33の1 山口華楊方 明治45年創立の西村五雲塾晨鳥社は昭和13年9月五雲の逝去により解散、同年11月6日旧塾生の総意により新たに晨鳥社を結成した。現在山口華楊が主宰する。

新美術協会(日・彫) 兵庫県芦屋市西芦屋町41 山田皓斎方電(芦屋2)4529 東京事務所 港区赤坂梅町10 日本教文社内 伊東種方 昭和29年3月創立。「各自が自由な立場にあつて新しい日本画、彫刻を創造する」主旨の集団。年1回会員展と公募展を行う。昭和35年2月東京会員展、35年8月第7回公募展(大阪)

〔顧問〕 青木大乗

〔会員〕 荒木賢治、荒尾昌朔、淵上晃成、長谷川保枝、聖蕃多、伊東種、伊藤秀峰、石井馨、小宮山俊、前田晃邦、松本雅山、諸永青鬼、長浜虎雄、長浜建樹、昇外義、大橋良三、大泉以更、田所量司、立脇泰山、安川日霧四、山田皓斎、小野信、館花修

〔準会員〕 昇外義、亀岡本部、高増径草、横田文雄等(す)

水彩連盟(水) 世田谷区玉川奥沢町3/175 上田哲農方(電701)5563 昭和15年5月創立。昭和35年3月第19回展開催。

〔会員〕 荒谷直之介、春日部たすく、小堀進、長沢節、上田哲農、古川弘、山本彪一、牧原万之助、仁戸田秀吉、酒泉淳、増永直樹、寺居健一、三橋兄弟治、新井邦雄、藤川九郎、田中実、渡部百合子、伴敏子、青野馬左奈、サイタ享、柴田祐作、柄谷繁夫、生田正雄、(スタイル画部) 原雅夫、宮内裕、中原淳一、長沢節

(せ)

生活工芸集団(工) 台東区谷中初音町3/38 北村一郎方(電駒込7521) 型々工芸集団とココ工芸が合体、同時に同志を糾合して昭和26年発足した。昭和30年12月第3回展開催。

〔会員〕 浅野陽、磯矢阿佐良、緒方正洋、小倉紘梧、北村一郎、後藤年彦、関谷四郎、田村耕一、内藤四郎、林二郎、矢部連兆、牧田良一、林卯太郎、堀恒治、河津直武、大泉博一郎、小笠原陸兆、井上秀雄、平野和子、大熊喜英、岩倉康二、黒木純子

薔薇会(日) 京都市北区上賀茂坂口町2 水田竹圃方(電京都78局282) 水田竹圃の主宰する日本画塾。

青季会(洋) 新宿区西落合1/303 村岡平蔵方 昭和22年創立。年1回展覧会開催。昭和33年6月展覧会開催。

〔会員〕 森田元子、鬼頭鍋三郎、幸島重雄、土佐林豊夫、田村一男、大沢海蔵、小川博史、高光一也、桜井悦、村岡平蔵、新道繁

青丘会(洋) 新宿区下落合4/1588 高木紀重方 日展所属各団体の中堅作家各2名よりなる研究団体。昭和25年9月創立。

〔会員〕 西尾善積、渡辺武夫、橋原健三、大内田茂士、高田誠、広瀬功、森田茂、山本日子士良、伊藤清永、平松譲、小野彦三郎(在会会員 館慶一)

青桂会(日) 神奈川県逗子市山野根423 中村岳陵方(電逗子379) 昭和32年創立。中村岳陵の蒼野社塾員中、日展審査員、同出品依頼者、特選受賞者と、それに準ずる作家数名を加えた塾員団体。昭和32年7月第1回展開催。

〔会員〕 我妻碧宇、森緑翠、加藤辰明、鈴木竹柏、遠藤桑珠、野島青茲、中村正義、中野蒼穹、望月定夫、倉光博、尾山楓、菅蒲大悦、丸山石根、渋谷江津、東韶光

青港会(洋) 横浜市南区別所30 川島実方 昭和30年1月創立。横浜在住又は関係ある作家で日展系画家の集

りとする。昭和32年第3回展開催。

〔会員〕 川島実、氏田喜八郎、島田四郎、永野富美夫、大河内幸俊、西島健太郎、堀真通

青晴会(洋) 中央区日本橋蛸薬町3ノ18 川越昭子方 国画会の在京女流出品者により昭和26年結成された。

〔会員〕 田中美知子、土田次枝、野田好子、川越昭子

青陶社(陶) 京都市東山区渋谷通東大路西入鐘鐺町39 6 市川通三方 昭和28年6月創立。楠部弥弼を中心とする陶藝研究会。昭和34年6月第6回展開催。

〔会員〕 20余名。

青塔社(日) 京都市左京区下鴨中川原町71 池田遙邨方(電京都78局2560) 昭和28年創立。池田遙邨を指導者とする日本画研究所。

青龍社(日) 大田区新井宿4の1053 川端龍子方 電(772)0860 昭和3年、日本美術院を脱退した川端龍子が、龍子及び御形塾員の製作発表の機関として同4年6月同社を創立した。同年東京府美術館に第1回展を開催。尚秋期本展覧会に対して毎年「春の春龍社展」を開催する。春期展は秋期展における入選者を出品資格者として鑑別の上陳列する。「健剛なる会場藝術」を唱え、在野団体として官展には参加しない。昭和35年9月第32回展開催。

〔主宰〕 川端龍子 〔社人〕 加納三楽輝、山崎豊、市野亨、安西啓明、小島鼎子、時田直善、亀井玄兵衛、琴塚英一、松宮左京、佐藤土筆、佐々木邦彦、結城天童、竹内未明、渡辺不二根、横山操、水島裕、高山晴雄、大塚香緑

繊維デザイン創作集団(工) 杉並区和田本町860 女子美大デザイン研究室内(電中野7141—4) 昭和30年4月創立。繊維デザイナーの創作団体として結成された。

〔代表〕 新井泉、松井汲夫

一九六〇年会 新宿区諏訪町227 植松真治方(電982局8289) 昭和32年4月創立。年2回発表展を開く。昭和32年4・11月第1・第2回展、33年5月第3回展開催。

〔会員〕 植松真治、東平哲弥、山下充、春日部洋、松岡真男

前衛美術会(洋・日・彫・版) 杉並区荻窪2ノ187 井手則雄方(電398局4564) 戦後、美術文化協会より分れ、近代美術の批判的摂取、並びに美術の存在意義を社会的視野より考え、画壇化をいましめ、美術の正当なる基盤を大衆を通じてくみをとることを趣旨として会を結成。次後昭和27年には、当時の日本の当面する諸問題を反映して、課題展、ニッポン展を主催し今日に至る。なお、現在課題意識は次第に内面化され創造的な表現方法の問題として展開されるべきことが志向されている。昭和34年第7回ニッポン展開催。

〔会員〕 (絵画) 尾藤豊、桂川寛、木村成敏、小島直、植竹邦良、白水興承、鈴木慶則、園阿莉、中川俊雄、吉田楨介、永岡博、石井茂雄、大桐国光、小粥智夫、宮城

泰介、中野秀人、新居広治、小笠原直春、大野斉治、大塚睦、島田澄也、菅野陽、高山良策、滝漣三、山下菊二、山内衛、寄本麟二、中村宏、中山正、原右門、長島吉三郎、橋本録永、味岡恒子、高頭詳八、吉川佳男、斎藤国雄、小林弘男、法山昇、斎藤康子、金谷哲郎(彫刻) 岡本素六、井手則雄、入江弘、後藤喜一

全日本工芸美術家協会(工) 千代田区有楽町2ノ5 東京都商工指導所内 梨谷静山 気付(電和田倉2286) 昭和26年12月創立。

〔会長〕 徳川宗敬 〔副会長〕 高村豊周

〔事務局長〕 梨谷静山

(そ)

創型会(彫) 世田谷区玉川奥沢町2ノ149 森大造方(電田園調布3180) 九元社の会員有志により結成。昭和26年11月創立。昭和35年6月第9回展開催。

〔同人〕 森大造、中野四郎、村井辰夫、奥山泰堂、大田重範、法元六郎、金城真輔、奏紹世、阿部晃工、尾崎一草、長谷川宏、紺谷英儀、三木貞夫、翁朝盛

造形版画協会(版) 台東区金杉1ノ6 清水正博方(電浅草190) 昭和7年新版画集団として創立。11年第6回展を経て組織変更、12年3月造形版画協会と改称。版画の純粋なる絵画的造型性の確立を目的とす。戦時中一時展覧会を休止し、24年再出発して30年5月第14回展開催。32年12月展覧会開催。

〔会員〕 松下芳太郎、水船六洲、武藤六郎、小野忠重、柴秀夫、清水正博、後藤忠光、森本宏、小口益一

創元会(洋) 世田谷区上馬町の1の871 樋口一郎方(電411)3201 昭和16年3月創立。昭和35年4月第19回展開催。

〔会員〕 阿山勇祐、青地秀太郎、赤津実、安次嶺金正、荒明実、安藤信哉、飯野安、石塚三郎、石原義武、伊庭康雄、伊勢幸平、磯谷桂治、伊藤朝子、犬飼尚、井上和、井上自助、井上正子、井上森夫、岩井新吉、岩永武男、岩本晃、上野維信、氏家秀之進、内田一郎、内山市郎、内海太吉、江口美春、大島勲、大槻達二、大橋城、岡田竹男、小川勝蔵、小城基、小野勉、恩田孝徳、柏木治子、糟谷実、香取徳、金子千恵子、上条雄也、川口雄男、川口四郎、河野文男、河本一男、川辺外治、北角隆義、木下舜久、木村敏一、木村英雄、櫛田弘義、久米小夜子、倉員辰雄、栗原七三、小池鉄太郎、小池喜雄、小泉繁、小沼源雄、小又光、児子美義、後藤純史、後藤立也、斎藤二男、斎藤弥平、坂本幹男、佐々木福基、佐々木文綱、佐竹禹南、佐藤辰一、鮫島梓、塩見俊治、島崎三則、島崎庸夫、進藤清、鈴木千久馬、仙波盛久、鷹尾寿助、高島常雄、高橋北修、高橋正人、財牧園、田口克己、立花重雄、館慶一、田中繁吉、谷俊男、塚本張夫、鶴甫、鶴永悦男、出口竜一、手島貢、戸田郁郎、戸谷賀一、名村定之、中敬子、中島研介、中西清、中野和高、中村一郎、中山節子、中山良一、長尾徹、長字利家、沼倉正見、根本悦夫、野田健郎、野々垣甚一郎、野坂軍

美術団体一覧

治、橋本花子、八田豊、長谷川政子、長谷川竜平、原田貞嘉、范雲舜、樋口一郎、樋口治平、平野逸郎、広本季与丸、深山力、深谷徹、福迫徹郎、藤谷庸夫、古谷馨、堀内孝恵、牧野正吉、増田常吉、益本好信、町田洋二、門馬小二郎、三浦逞爾、三樹保、三島利正、宮地享、宮下広吉、崎竜之助、望月正男、矢沢一梨、安武芳男、山崎政太郎、山口勝、山口幹雄、豊千里、吉田民尚、吉田義英、川島みよ子、刀禰悦三、野坂軍治、堀みさ子、藤井宏

創玄会(工) 大阪府 池田市 石橋町 57 平松宏春方(電池田 8539) 昭和31年6月創立。在阪工藝家の志を同じくする者の集り。研究会を開き発表展を行う、昭和32年5月第1回展開催。

〔会員〕 橋田裕士、中条青香、川端三義、角谷一圭、角谷沙村、田辺竹雲斎、武石勇、中島保美、前田竹房斎、小林美春、梶山竹司、平松宏春、末村笙文

爽々会(水) 豊島区長崎 5 / 31 電(951)0901 春日部たすく方 昭和31年4月創立、水彩画の向上発展をめざす、水彩画家の集り。昭和32年6月第2回展開催

〔会員〕 荒谷直之介、春日部たすく、小堀進。

創造美術会(洋・日・応美) 都下北多摩郡保谷町上保谷 815 下田範次方 昭和22年創立。同35年5月第12回連立展開催。

〔会員〕 (洋画部) 五十嵐堅一、岩井泰三、岩間武平、石原勇美太郎、石川厳康、原田幸夫、西村進、加藤繁一、金沢俊夫、土橋義延、長沢政輝、成瀬憲、松本茂雄、福島長二郎、国分治、坂口辰巳、下田範次、鈴木義史、小谷智昭、山田三郎、雨宮芳文、富田燎、直原信衛、岡本操、竹田一夫、内海松寿、河合弥、田上博彰、円本秀三、鈴木伴造、賀古伊佐男(日本画部) 飯塚正賢、岡戸竜生、蟻川秀華、土味川独甫、落合盛雲、河口中津、辻本大晃、小柳創生、小林恒火子、秋元節郎、阿部定雄、菊地友一、宮下秀石、樋口陵人、平田晴耕、鈴木節雪、菅野剛吉、長嶋北彩(応用美術部) 高橋馮哉、辻とと以、林敏子、子田香丘、津田耕村、園キミ子、太宰智恵子、水谷美知子

創造美術協会(洋・日・彫) 大阪市東佐吉区矢田住吉道町 881 下高原竜巳方 昭和10年創立の洋画団体 セクションダールが同15年創造美術協会と改称、関西在住の各派美術家により組織されたもの。昭和29年第15回会員展、同34年第12回公募展を開催。

〔常任委員〕 上嶋龍、辻好子、下高原龍巳、荒井秀宜、

〔委員〕 西阪修、玉沢潤一、小林武夫、高須国治、河野通紀、山田千秋、藤田重夫、荒木由三、貝原六一、斎藤正治、村尾克己、今村市久、片岡竜平、久保晃、村井新児、大森重夫、辻正人、松岡卓(以上絵画) 白石正義、村上龍起、仲真弘(以上彫刻)

双台社(洋) 世田谷区玉川奥沢町 1 / 384 鍋谷伝一郎方 昭和16年創立。昭和35年7月第19回展開催。

〔同人〕 石井柏亭、荒谷直之介、上田哲農、岡田行一、

大兼実、刑部人、林鶴雄、堀忠義、細島昇一、下沢木録郎、鈴木良三、鈴木信太郎、須山計一、田坂乾、滝川太朗、近藤吾朗、高橋庸夫、近岡善次郎、千ヶ崎梯六、斎藤州外、平塚運一、鍋谷伝一郎、納富進、真下慶治、松村三冬、他38名

走泥社(工) 京都市東山区五条坂白糸町 八木一夫方 昭和21年9月創立。新時代に即応する工藝の総合的研究団体。昭和35年7月第20回展開催。

〔会員〕 原照夫、藤本能道、河合紀、河島浩三、神崎建三、加藤達美、門井嘉衛、叶敏、熊倉順吉、三浦篤雄、森里忠男、村井次郎、佐藤雅彦、鈴木治、柘植敏吉、辻勘之、鳥羽克昌、山田光、八木一夫

蒼野社(日) 神奈川県逗子市山ノ根 423 中村岳陵方(電逗子 379) 中村岳陵の主宰する日本画塾。

(た)

第一美術協会(洋・工) 〔事務局〕 文京区高田豊川町 60 石川方(電大塚 1501) 昭和4年5月創立。毎年展覽会開催、昭和35年5月第31回展開催。

〔委員長〕 石川重信 〔副委員長〕 高橋亮、岡登貞治

〔委員〕 石川重信、大沢邦雄、高橋亮、神津港人、谷井喜三郎、村上松次郎、鶴田貞男、任補豊丸、横山群、竹野谷仁重、上原重和、野沢孝作、山口美勇、間所春、斎藤茂、青木武、佐野忠吉、佐藤晃、新川昭一、石本信夫、新関国臣

対象(工) 埼玉県戸田町木沢 1520 岸沢武雄方 昭和29年5月創立。新しい世代的認識のもとに生れる工藝の研究発表機関。昭和32年11月第4回展開催。

昭和34年4月解散。

〔賛助会員〕 高村豊周 〔会員〕 蓮田脩吾郎、西大山、染川鉄之助、岸沢武雄、伊藤豊、坂坂辰治

第二紀会(洋・彫) 世田谷区玉川奥沢町 2 / 304 宮本三郎方(電田園調布 3276) 二科会は昭和19年第30回展後解散し戦後再結成を図つたが、旧二科会員黒田重太郎、栗原信、田村孝之介、中川紀元、鍋井克之、正宗得三郎、宮本三郎、横井礼市の9名は参加せず旧二科会の活動を第一期とし、戦後新しく第2の紀元を劃するの目的を以て昭和22年5月第2紀会を創立した。昭和35年10月第14回展開催。

〔委員〕 (絵画) 黒田重太郎、栗原信、田村孝之介、中川紀元、鍋井克之、正宗得三郎、宮本三郎、横井礼以、佐野繁次郎、峰岸義一、藪野正雄、成井弘、大兼実、大石俊彦、佐佐木孔、秋保正三、高山道雄、森英、津田周平、中野安次郎、佐伯米子、土岐国彦、近藤嘉男、島岡実、鳥取敏、兒玉幸雄、青木寿、金田辰弘、森本健二、中西勝、山口操助、加藤敏子、小島真佐吉、西村功、岡田登志男、熊野俊一、宮永岳彦、山田等、築山節生、浜田信、久野修男、市野長之介、星崎孝之助、同人163名 (彫刻) 菅沼五郎、中川為延、松村外次郎、八柳恭次、長野隆業、斎藤聖香、坂上政克、辻晉堂、上田曉、小島弘、新谷秀雄、滝川美一、丹羽康晴、長谷川八十、

堀義雄、真鍋忠、水野欣三郎

太平洋美術会(旧称太平洋画会)(洋・彫・染) 荒川区日暮里町9ノ1080 電(821)4100 明治22年創立の明治美術会を同34年組織を一新し翌年1月太平洋画会と改称、第1回展を上野公園五号館に開催した。同37年洋画研究所を開設、昭和4年太平洋美術学校と改称し、同20年戦災にあい中絶、32年再び開校した。なお32年、会名を太平洋美術会と改称した。毎年展覧会を開催し昭和35年6月第56回展を開催した。

〔名誉会員〕 坂本繁二郎

〔会員〕(絵画部) 布施信太郎、浅川恒明、尼谷良、石井明、石井弥一郎、市川光雄、一井増郎、大木卓、大宮松太郎、大森商二、小柳津経広、河合敏雄、川村信雄、近藤洋二、小坂健三、近馬勘吾、小宮惣太郎、小泉秀松、小島清、沢村みちる、島添鶴雄、爾見信郎、砂田正巳、鈴木武志、高橋虎之助、多田栄二、武田好文、竹内栄蔵、佃武昭、椿悦三、原正俊、原ツマ子、広島八重子、藤田親宏、藤田実、堀潔、丸毛利久、牧田実、三浦金之進、山口美好、梅原英子、長岡忠三郎、深水正策、岩崎英子、行友藏、永島吉太郎、蒲生栄一、慶伊安次郎、後藤泰作、杉山司七、古城弘、安藤邦衛、伊藤正三、川堀たか子、小池不可止、中山章、日向茂夫、秋場洋二、熱尾艶男、内田豊、海老原録郎、北岡数彦、久郷良祐、近馬治、小岡頼重、田賀美代子、戸田利兵衛、沼田一郎、市川勝之、野沢一郎、花谷時子、服部弘、菱沼藤男、日比野美根男、布施悌次郎、古橋昭夫、馬淵鈴美、松下国夫、村上郁一、森川豊三、山本甚作、山田武、吉木梓、和田甫、楠喬(彫塑部) 堀進二、沢田政広、山本豊市、中野桂樹、石井明、吉田陽悦、宮本重良、三沢寛、木島正夫、杉本宗一、関保寿、今里龍生、土井要輔、松田喜三郎、村田竜正、相曾秀之助(染織部) 野口道方、溝留満、野田習之、仁科十郎、海老原美登

匠(工・染) 京都市左京区下鴨西高木町7 皆川泰蔵方 昭和23年4月創立。染色美術家の集り、毎年1回展覧会開催。

〔会員〕 皆川泰蔵、今西良雄、春日井秀雄、三浦景雄、山出守二

(ち)

竹枝会(日) 京都市上京区等持院西町35 徳岡神泉方 明治28年故竹内栖鳳塾生にて創立。昭和30年7月第7回展を京都で開催。

〔会員〕 西山翠嶺、小野竹喬、徳岡神泉、金島桂華、池田遙邨、浜田観、伊藤小坡、中田晃陽、森月城、大村広陽、榊原苔山、山本紅雲、東原方徳、青木生沖、大矢峻嶺、川口呉川、山本朝光、稲葉春生、佐藤寛山、伊藤石華、小豆島甘兆、吉田兆青、吹田草牧

中央美術協会(洋・日・彫・デザイン) 杉並区善福寺町48 中央美術学園内(電398局4227) 昭和27年5月創立。中央美術学園の指導者と卒業生をもつて組織する。昭和34年第10回展開催。

〔参予〕 今泉篤男等19名 〔会員〕 新倉政英等87名
鍔金家協会(工) 練馬区南町4ノ6201 市橋敏雄方 明治41年2月東京鍔金会として創立。昭和17年まで32回の展覧会を開いたが、戦争と共に中絶し、昭和22年3月鍔金家協会として新発足した。同年第1回展、33年5月第3回展開催。

〔会長〕 高村豊周

〔副会長〕 香取正彦、内藤春治

〔委員長〕 丸谷端堂

中部在野美術連盟 名古屋市北区成願寺町712 中部在野連盟事務所(会務代表者) 岡田徹 昭和30年2月創立。中部地方における在野美術団体の連合体でこの地方に新鮮な美術文化を確立し、努めて広範囲な造型面の実践に寄与することを目的とする。毎年秋10月春3月の2回、各団体より選抜された作家により、新しい展覧会方式による集団個展を開催する。他に中部アンデパンダン展を主催し新人の発見につとめる。

〔会員〕 二科、行動、国画、春陽、新制作、モダンアート、自由、独立、美術、文化、第2紀の各団体に所属する作家は自動的に連盟会員として登記される。565名。

(て)

デッサン社 千代田区神田鍛冶町2ノ9 大正15年創立。毎年1回現代名家作品展を定期開催。昭和32年第22回展、機関誌「デッサン」発行

〔特別賛助員〕 梅原竜三郎、中川一政、石井鶴三

〔主宰〕 旭正秀物故のため高沢甲一郎継承。

天香画塾(日) 世田谷区深沢町4ノ122 松林桂月方 電(701)0717 松林桂月の主宰する日本画塾。塾長 吉田登毅

点々会(日・洋) 世田谷区世田谷2ノ1365 後藤禎二方 昭和30年1月創立。昭和33年8月第4回展開催。昭和34年9月解散。

〔会員〕 別府貫一郎、後藤禎二、大森啓助、若山為三、岡本唐貴、寺島貞志、山上喜吉

(と)

稲花会(工) 杉並区久我山3ノ1133 三田村自芳方 大正15年1月創立。故赤塚自得の社中を以て組織し、社中間の親睦を図り常に漆工芸研究の向上に務める。随時展覧会開催。

〔同人〕 三田村自芳、太田自適、岡本昇三、吉岡郁三、月尾慶水、村田義忠、井沢徹二、工藤喜代志、山浦等、三田村秀雄、魚野自醒、石川古堂、小沢裕、南忠、岡本好美、月尾正之、中西正

東丘社(日) 京都市北区平野桜木町28(電西陣968) 堂本印象の主宰する画塾で毎年京阪神で展覧会を開催する。昭和33年第15回展開催。

〔総務〕 三輪晃勢、山本倉丘

東京展 世田谷区北沢5ノ861 竹上義治方 昭和29年2月創立。

〔会員〕 羽藤馬佐夫、加藤正信、竹上義治、白石延夫、

美術団体一覧

西徳二郎、木村昭弥、荒井一男、徳本立憲、越次男、斉藤敬一、新野一弘、高木秀男、羽藤淑子、後藤高司、池淵知世、了正敬一郎、大塚武、長岡一敏、西村淑、麻生良方、尾籠晴夫、須藤猛、鶴沢守治、五十嵐吉夫、長谷川隆、宮島資雄、横関武、稲川一郎

東京美術文化協会 台東区上根岸町44(電浅草301,3456) 小中学及高校の図画教育の振興のため昭和21年財団法人として創立。毎年多美術館において展覧会開催。都内各小中学校において美術と書道展を主催する。研究雑誌「美術教室」を年4回発行。昭和34年3月19日開催。

東京民藝協会 中央区銀座西8ノ3 たくみ内(電銀座290・2017・2071)昭和29年3月創立。日本民藝協会の東京地方支部として、民藝運動の振興に尽し、会員相互の親睦をはかる。30年1月より機関誌「民藝」を発刊。32年10月号より全国誌として日本民藝協会に移管、33年6月号より月刊「民藝手帖」を機関誌として刊行する。毎月講演会、見学会、研究会、鑑賞会を行う。入会随意。

〔会長〕 松方三郎 〔会員〕 400名

東光会(洋) 豊島区椎名町1ノ1873 森田茂方電(951)1663 昭和7年創立。昭和35年4月第26回展開催。

〔委員〕 岩下三四、石本秀雄、家永隼三郎、石田勝重、橋詰英一郎、原田博介、林林男、西寺鉄舟、錦織保久、豊島利右衛門、渡辺浩三、渡辺文雄、河原修平、河井達海、横垣孝一、田代順七、田中孝夫、多田俊彦、武永慎男、辻利平、筒井茂雄、常重利、梅津五郎、野沢寛、能登靖幸、小野政吉、大和田富子、大寄丹次郎、大滝斗良樹、大木茂、奥野康春、岡本肇、大歳暁、大歳敏秋、越智旭輝、胡桃沢源人、熊岡正夫、桑原福保、栗家功、山本日士朗、山形光寿、山崎修二、松岡正直、松岡正、松永敏太郎、直木宣武、的場勇、河野肇、近藤喜義、葦名芳夫、朝井清、清原武則、三田村策、水野一好、島村剛生、江藤哲、平通武男、森田茂、関真、瀬田忠司、杉山卓、稲村退三、石原梅男、岡一夫、和田貢、斎藤久子、長根翠、有馬侃、坂田憲雄

〔会員〕 他121名

東陶会(工・陶) 目黒区下目黒4—843 安原喜明方(電712局4320) 昭和2年創立。年2回、同人展開催。

〔会長〕 板谷波山〔会員〕 安原喜明、宮之原謙、井上良斎、土肥刀泉、中静昭平、館野善次郎、古宇田正雄、城戸夏男、板谷梅樹、磯谷丹舸春、横山朝陽、山本正年、中野馨一、林茂松、川上正三郎、西沢爽、中村雅臣、小島章光、井高宏、井高洋成、唐杉壽光、唐杉信、磯博、手塚昇、田村吾川、伊藤哲次、沢井平三郎、横山光之助、篠田義一、三橋英作、鈴木章子

読画会(日) 板橋区常盤台1—29 西沢笛舫方(電板橋1201) 明治41年故荒木寛敏及十敏の門下を主体として発足、毎年展覧会を開催。展覧会名を一新社展と改め昭和26年第3回展開催。

其後日本伝統花鳥画研究のため毎月研究会を開催。

〔委員〕 西沢笛舫、森白甫、永田春水、朝井観波、田

口黄葵、木本大果、温原柳敏、亀割隆

独立美術協会(洋) 杉並区上高井戸4ノ1971 中間冊夫 昭和5年11月創立、里見勝蔵、児島善三郎、林重義、林武等二科会の会員会友及び同会出品者11名に国画会の高島達四郎、春陽会の三岸好太郎を加え「我々は既設の団体より絶縁し新時代美術の確立を期す」と宣言、独立美術協会を創立した。翌年1月第1回展を開き新帰朝の福沢一郎も第1回展から会員として参加した。昭和35年10月第28回展開催。

〔会員〕 青柳暢夫、赤星孝、赤堀佐兵、足立襄、池島勘治郎、井上寛信、今井憲一、伊藤彪、入江一子、宇根元警、海老原喜之助、江川平三、大久保泰、岡部繁夫、尾崎良二、織田彩子、岡村芳男、小原雄二、片山公一、加藤陽、河村春、菊地精二、久保一雄、熊谷登久平、小出三郎、児島善三郎、小島善太郎、小林和作、小林数雄、斎田武夫、斎藤長三、斎藤求、桜井浜江、坂本善三、佐川敏子、芝田耕、芝田米三、島村三七雄、下川都一郎、清水鍊徳、志村計介、末永胤生、菅野恵介、鈴木保徳、鈴木亜夫、須田国太郎、妹尾正彦、妹尾正雄、高須靱子、高島達四郎、田中行一、高橋忠弥、高岡惣七、田中佐一郎、島海青児、鉄指公蔵、島居敏文、中尾彰、中津瀬忠彦、中間冊夫、仲村一男、中村節也、中村善種、中山嶽、嶋川誠一、西田藤次郎、西山舜之助、野口弥太郎、狭間二郎、林武、針生鎮郎、樋口加六、藤岡一、堀之内一誠、斑目秀雄、松崎真一、松島一郎、松島正幸、松島鈴子、水島清、緑川広太郎、宮崎精一、宮島佐一郎、水島清、李田たけを、矢崎牧広、山田栄二、山道栄助、山本正、横地康国、和氣史郎

土曜会(工) 大阪市天王寺区逢坂上ノ町141 柴崎風岬方 昭和27年1月創立。京阪在住の官展系工芸作家の有志の集り。

〔会員〕 平松宏春、角谷一圭、森崎静亮、小林美春、川端三義、田辺竹雲斎、中島保美、稲山竹司、米沢蘇峰、楠田撫泉、伊東翠壺、宮下善寿、堂本漆軒、中村鵬生、勝尾青龍洞、森野嘉光、柴崎風岬

(に)

二科会(洋・彫・理・漫・商業美術・写) 杉並区久我山2—590 東郷青児方 電(391)0524 大正3年文展第2部に二科設置運動が起つたが、当局に容れられず、同年10月ついに文展より分離して、上野竹之台陳列館に二科美術展覧会を開催した。同展開催の際の鑑査員11名は翌年そのまま会員となり在野団体として独立した。爾来同会は新進流派の作家を包容して我洋画史上に啓蒙的功績を挙げている。大正8年藤川勇造が会員に推され初めて彫刻部の加入をみた。其後昭和5年児島善三郎、里見勝蔵等は退会し独立美術協会を創立、更に石井柏亭、有島生馬、山下新太郎、安井曾太郎等の名誉会員辞退があり、会員の移動はあつたが在野として行動を続け昭和18年第30回展を開催した。翌19年には情報局の指令により展覧会は中止となり更に諸般の事情により同年10月ひ

とまず解散した。同20年終戦となり再結成を図つたが旧会員中、向井潤吉、古家新等は行動美術協会を、また正宗得三郎、熊谷守一等は第二紀会を結成して離脱した。昭和20年新に工芸部、理論部を、同26年漫画部、商業美術部、同28年写真部を設けた。同30年7月鈴木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根は退会を声明、一陽会を結成するに当り、米良道博、荻野康児、鱧利彦、山路貞護、浅野孟府、植木力等絵画部並びに彫刻部の会員は行動を共にした。昭和35年9月第45回展開催。

〔会員〕(絵画部) 阿部金剛、青山龍水、安藤幹衛、藤井二郎、藤川栄子、藤沢典明、福島金一郎、服部正一郎、伊庭伝治郎、井上賢、井上寛造、伊藤研之、伊東静尾、今長谷巖、北川民次、桑原実、桂ユキ子、松本弘二、松井正、松葉清吾、浪江勘次郎、中原実、錦義一郎、野村守夫、岡本太郎、大沢昌助、織田広喜、佐藤吉五郎、斎藤三郎、佐々木良三、清水刀根、鷹山宇一、多賀谷伊徳、寺田竹雄、東郷青児、鶴岡義雄、山口長男、山尾薫明、山本敬輔、山本不二夫、吉井淳二、吉村勲、吉原治良(彫塑部) 笠置季男、大西金次郎、安藤菊男、堀内正和、乗松巖、野水信、松下隆治、平川正道、淀井敏夫、日高正法、広瀬不可止、飯田艇三、曾山節雄、高須賀佳、長谷川雅司(理論部) 鈴木崧、山中散生、菊岡久利(写真部) 大竹省三、秋山庄太郎、早川雄二、林忠彦、緑川洋一、植田正治(商業美術部) 河村運平、赤羽喜一、石川茂、石川ナツオ、高橋春人

日展(綜) 台東区上野公園、電(82)

明治中期の美術の隆盛に伴つて美術団体の群生をみたが、明治40年政府は美術振興策として文部省に作家・学者・批評家よりなる美術審査委員会を設け、毎年文部省美術展覧会(文展)を開催し、その出品を審議させた。しかし、新旧の対立は免れず、その結果大正3年日本画では横山大観、下村観山、今村紫紅・安田靉彦らが分離して日本美術院を再興し、洋画では石井柏亭、有島生馬・山下新太郎・坂本繁二郎らが二科会を分立することになる。大正8年美術審査委員会は廃止され、新たに帝国美術院規定による美術展覧会(帝展)が設けられた。審査員の一部には文展時代にしばしば受賞した作家たちが選ばれ、回を重ねるごとに帝展で特選を得た新進作家たちが加わつて、文展時代の情性を破ることに努めた。昭和2年には日本画・洋画・彫刻の3部の外に、第4部として美術工芸を加えたが、年を経るに従つて帝展にも無鑑査出品の氾濫というような弊害が顕著になつた。昭和10年松田文相は帝国美術院を改組し、在野団体の作家を加え、無鑑査出品者を整理するなどの改革を考えたが、美術界は混乱に陥つた。そこで平生文相は再改組を行つて一層の紛糾を呼び、昭和12年帝国美術院を解消して帝国藝術院を設置することによつて収まり、展覧会は文部省主催の4部の総合展(新文展)として毎年開かれることになつた。これには在野の作家も出品した。第2次大戦後、昭和21年文展は日本美術展覧会(日展)と改称して

再出発したが、不参加団体が増加し、昭和23年アメリカ軍総司令部顧問の「改組と民主化」の勧告に従つて、翌24年には日本藝術院と藝術院会員有志によつて組織される日展運営会との共催として日展を開いた。しかし、昭和32年その運営状況が国会において問題になり、その結果、以後藝術院はこれに関係せず、社団法人日展という民間団体が昭和33年3月設立され、新しい出発が準備されることになつた。その目的と事業としては、日本画・洋画・彫塑・工芸・書の5科よりなる日本美術展覧会を毎年秋に開催するほか、内外の美術に関する調査研究および機関誌「日展美術」の刊行などが計画実施されている。昭和35年11月第3回展開催。

〔理事長〕 辻永〔常務理事〕 小野竹喬、中村岳陵、福田平八郎、山口蓬春、中村研一、有島生馬、北村西望、斎藤知雄、吉田三郎、山崎清華、山崎寛太郎、豊道春海、〔理事〕 徳岡神泉、伊東深水、堂本印象、川島理一郎、長谷川昇、山下新太郎、高村豊周、金島桂華、児玉希望、小糸源太郎、小山敬三、寺内万次郎、鈴木翠軒

〔監事〕 石川寅治、司忠〔顧問〕 高橋誠一郎、松永東、鎭清方、松林桂月、野田九甫、中沢弘光、金山平三、和田三造、朝倉文夫、内藤伸、平櫛田中、板谷波山、岩田藤七

〔評議員〕(日本画) 我妻碧宇、麻田弁次、池田遙邨、岩田正巳、宇田萩邨、加藤栄三、川崎小虎、杉山寧、高山辰雄、寺嶋紫明、西山英雄、橋本明治、浜田観、東山魁夷、三輪晃勢、望月春江、森白甫、森田沙伊、矢野橋村、山口華揚、山本倉丘、吉田登穀(洋画) 伊原宇三郎、池部鈞、江藤純平、大久保作次郎、奥瀬英三、鬼頭鍋三郎、木下孝則、小寺健吉、小堀進、高野三三男、佐竹徳、新道繁、鈴木千久馬、田崎広助、田中繁吉、田村一男、中野和高、中村善策、中村琢二、三上知治、耳野卯三郎、森田元子、山喜多二郎太、棟方志功、胡桃沢源人、大沢海蔵、倉員辰雄、高光一也、島野重之(彫塑) 赤堀信平、雨宮治郎、敵村直久、大須賀力、加藤顕清、北村治禧、北村正信、木村珪二、国方林三、黒田嘉治、古賀忠雄、後藤清一、佐々木大樹、沢田政広、清水多嘉示、中川清、長沼孝三、藤野舜正、堀進二、松田尚之、三国慶一、森野門象、山本稚彦、柚月芳、横江嘉純、吉田久継(工芸) 板谷梅樹、井上良齊、小合友之助、大須賀喬、大坪重周、岡部達男、各務鉦三、河村蟠山、岸本景春、清水六兵衛、楠部弥次、小松芳光、佐治正、高橋節郎、帖佐美行、辻光典、堂本漆軒、内藤春治、蓮田脩吾郎、般若術弘、番浦省吾、皆川月華、宮之原謙、森野嘉光、山岸堅二、山室百世以、山脇洋二、会田富康、海野建夫、丸谷端堂、北出塔次郎、安原喜明、信田洋(書) 相沢春洋、安東聖空、石井雙石、印南溪龍、江川碧潭、大池晴嵐、川村驥山、近藤秋堂、鈴木梅溪、炭山南木、園田湖城、田中塊堂、高塚竹堂、津金雀仙、手島右卿、中村蘭台、西川寧、平尾孤往、松井如流、松本芳翠、松丸東魚、柳田泰雲、山崎節堂、山田正平、内田鶴

美術団体一覧

雲、赤羽雲庭、青山杉雨、村上三嶋

日本アブストラクト・アート・クラブ (洋・版・彫・評) 世田谷区若林町 461 西田信一方 電(421) 1587

昭和 28 年 6 月創立。アブストラクト・アートの国際交流を目的として結成した集団。

〔会員〕 西田信一、川口軌厓、末松正樹、山口長男、植木茂、村井正誠、山口薫、川端実、須田剣太、津高一、佐野繁次郎、小野忠弘、山口源、淀井敏夫、向井良吉 (客員) イサム・ノグチ、岡田謙三

日本インダストリアル・デザイナー協会(工) 通称 J I D A 目黒区柿ノ木坂 283 (電 717 局 4945) 昭和 27 年 10 月創立。

〔理事長〕 小杉二郎 〔理事〕 明石一男、秋岡芳夫、河潤之介、小池岩太郎、豊口克平、松本文郎、真野喜一、皆川正、由良玲吉

〔監事〕 金子至、山口勇次郎

日本浮世絵協会 港区麻布区兵衛町 2 の 1 国華社内 (電赤坂 1752) 旧日本浮世絵協会とその後設立された浮世絵同好会が合体して昭和 16 年に創立されたもの。不定期に浮世絵に関する講演会を開催又展覧会を指導する。

〔会長〕 浅野長武 〔常任理事〕 橋崎宗重、金田信武、渡辺庄三郎

日本画院(日) 台東区谷中清水町 1 望月春江方 電(821)3810 昭和 13 年 5 月創立。昭和 35 年 5 月第 20 回展開催。

〔創立同人〕 岩田正巳、川崎小虎、野田九浦、松本姿水、望月春江、根上富治、町田曲江、穴山勝堂、森村宜永

〔同人〕 石塚青我、大田歳夫、小関きみ子、長嶺雅雄、永山十志夫、是永伸一、石曾根貞、猪木匡四郎、大島秀信、橋爪雄恩、細谷達三、小沢春子、川村暢洋、川合清、川崎鈴彦、川崎春彦、高橋光輝、高橋穉、奈良裕功、佐藤永芳、佐藤昭三、佐藤美雄、宮沢鉄夫、三河義太郎、塩原友子、清水保雄、望月美江、関口如水、小野塚馨干、石倉正富、松原道男、宮沢和雅

日本画府(日) 練馬区中村北 1 の 13 電(991)2732 昭和 31 年 2 月創立。同志 10 名を中心とし公募展を年 1 回開催する。昭和 35 年 2 月第 7 回展開催。

〔同人〕 児玉三鈴、宅間説、跡部白鳥、石田粧春、弓家恒敏、大石哲路、早坂士鈴、清水三嶋、川端正光、深尾広道、田中水蛙、倉島丹波、東原徹、歸山千蒼、佐田実、楊隆生

日本金工制作協会(工) 世田谷区新町 2 の 184 大須賀喬方 大須賀、信田、松原、北原、羽原は昭和 32 年 1 月日本金工制作協会を樹立。6 月第 1 回展、昭和 34 年 6 月第 3 回展開催。

〔会員〕 大須賀喬、信田洋、松原春男、土屋杏平、北原央、羽原一陽、添田勇、大須賀選、鈴木治平、斉藤銑一、牧田久義、提浪夫、新山栄、田所茂男

日本工芸会(工) 文京区宮下町 65 松田権六方 電(941) 8060 昭和 30 年 6 月設立。無形文化財に選定された京都在住の人によつて結成された日本工人社が発端となり、同社会員の増加につれ全国的にこの組織を拡大しようと、29 年 7 月同社を解散して設立に着手していたが、約 1 カ年後に社団法人組織として結成したもの。わが国の伝統工芸に従事する作家、技術者相互の連携を密にし、伝統工芸に関し、調査研究、伝承者の養成等、必要な諸事業を行い、これらの貴重な伝統工芸の保存と活用を図り、かつ、その発展を期し、もつて文化の向上に寄与することを目的とする。昭和 35 年 9 月第 7 回日本伝統工芸展開催。

〔総裁〕 高松宮 〔会長〕 細川護立 〔役員〕 (理事長) 西沢笛舩 〔常任理事〕 加藤土師萌、香取正彦、松田権六、明石国助、荒川豊蔵、石黒宗磨、太田英蔵、音丸耕堂、鹿児島寿蔵、加藤唐九郎、木村雨山、久保隆美、玉井敬泉、中村勝馬、野口真造、堀柳女、前大峰、水町和三郎

〔会員〕 陶藝 22 名、染織 24 名、漆藝 19 名、金工 28 名、木竹工 7 名、人形その他 7 名

日本国際芸術協会 中央区銀座東 2 の 13 テレビ会館 8 階 (電 54—4443, 5421—4) 昭和 32 年 10 月設立。各国との藝術その他文化一般に関する交流の企画・実施を行い、これによつて文化の進展、国際友好の促進に寄与することを目的とする。事業として藝術家、学者、視察団等の派遣、受入、文化に関する図書、フィルム等資料の交換、前項と関連する公演、展示、出版等の企画、実施、その他を行う。

〔会長〕 平塚常次郎 〔副会長・理事長〕 谷川徹三 〔常任理事〕 箕作秋吉、松田権六、水沢澄男、中地勇栄、林広吉

日本国際デザイン協会(工) 中央区銀座西 6 の 6 銀座日産館 (電(517)2609) 都市計画、建築設計、インダストリアルデザイン、クラフトデザイン、グラフィックデザイン等における国際性を高めることを意図して創作、生産、技術、教育、マネージメントなどの領域における協力を計る。昭和 32 年 10 月設立。講演会を屢々催す。

〔会長〕 足立正 〔副会長〕 加納久朗 〔常務理事〕 大月栄一 〔理事〕 岩田久利、岡本太郎、勝見勝、亀倉雄策、河合正一、剣持勇、河野鷹思、斎藤鎮雄、坂倉準三、清家清、丹下健三、浜口隆一、原弘、菱田安彦、柳宗理、吉阪隆正、渡辺力、〔監事〕 高田忠、野沢隆一

日本山岳画協会(洋) 杉並区高円寺 3 の 184 三輪孝 電(311)9757 山に親しみをもち、山を画く画家をもつて結集した会。昭和 35 年 6 月第 21 回展開催。

〔会員〕 足立源一郎、畦地梅太郎、石井鶴三、井手宣通、伊藤清永、上田哲農、江藤純平、大久保作次郎、大河内信敬、荻原孝一、奥瀬英三、春日部たすく、加藤水城、河越虎之進、倉員辰雄、田崎広助、田村一男、島野重之、中村清太郎、中村善策、長屋勇、長坂春雄、長坂

やす子、永瀬義郎、松本富太郎、南政善、三輪孝、横山義雄、山川勇一郎、佐竹徳次郎

日本山林美術協会(絵・彫・工) 豊島区要町2ノ33 鶴田吾郎方(電落合1357) 昭和29年5月創立。山林による凡ゆる面に対しての美術創作と活動を行う。昭和35年8月第5回展開催。

〔会員〕 鶴田吾郎、光安浩行、古賀忠雄、安達真太郎、清水敦次郎、刑部人、松田文雄、二口善雄、太田洋愛、桑原宏、小島三郎、高木周平、白尾三男、宮本光庸、村井長夫、奥山泰堂、林二郎、松野伍秀、水野英夫、牧野四子吉、須山計一、佐々木秀夫、鈴木賢次、円鋸勝二

日本水彩画会(水) 中野区江古田1ノ291 細島昇一方(電落合6723) 故大下藤次郎、故丸山晩霞、故河合新蔵の3人の経営せる日本水彩画会研究所を大正2年4月、石井柏亭、白滝幾之助、真野紀太郎等37名の発起に依り、改制拡張して新たに各派水彩画家の綜合団体として設立。毎年1回東京及関西で展覧会開催、昭和35年6月第48回展開催。

〔代表者〕 幹事 細島昇一

〔委員〕 阿部広司、相沢光朗、不破章、細島昇一、石川達三、小山良修、牧野正吉、増田喜恵蔵、水野以文、水平護、内藤秀因、野沢潤次郎、岡崎祇容、竹内梅治郎、竹内栄三郎、丹野良輔、富田通雄、渡辺義一、渡辺文雄、山中仁太郎、山崎政太郎、大和屋巖、山本不二夫

〔会員〕 阿部広司、相沢光朗、青津清喜、荒木芳男、荒木茂喜、安藤信哉、別車博資、千ヶ崎梯六、江口均、淵上政夫、藤江志津、藤野盈雄、藤田薫、福田四郎、古川盛雄、不破章、早川国彦、林義勇、荻原実、星野正三、細島昇一、広田幸吉、原田貞嘉、本多信彦、平沼淡水、平島武夫、日野九州男、飯島公夫、飯島敏三、飯島直、池尻一朗、石井鶴三、石川新二、板倉賛治、池部鈞、甲斐栄一郎、梶谷保、木島工、小山周次、小山良修、小泉政孝、栗原七三、今野五郎、桂龍雄、小宮重吉、町田源三郎、牧野正吉、間宮勇、丸山東美男、増田喜恵蔵、松本寿雄、松本慎三、三浦巖、水野以文、水平護、水木伸一、水谷景房、水田莊介、三上信次、三上知治、宮島羊郎、宮部進、宮崎信吉、森寅雄、森田正世史、村上鉄太郎、宮地茂、望月正信、中田早、中沢弘光、内藤秀因、名柄正之、丹羽美智子、野沢潤次郎、野村英夫、野村閑一、沼尾松三、野津佐吉、仲井義雄、西原務、小原博司、太田黒幸、岡田正二、岡崎祇容、恩田孝徳、小川俊郎、納直次、齊藤大、坂江重雄、白山卓吉、繁野三郎、篠原新三、柴山英雄、菅沼金六、佐竹泰次郎、杉原茂右エ門、島村宇三郎、田坂ゆたか、高木重雄、財保、高山長一郎、竹野谷仁重、竹内梅治郎、竹内栄三郎、滝沢邦行、丹野良輔、富田通雄、富安昌也、鳥井三郎、高野浩、谷俊男、田幸福、寺島脩治、田中武子、有働観美、海野正男、牛尾弘、漆畑広作、渡辺徳、渡辺義一、渡部文雄、八木岐羊、山本不二夫、山森元

亀、山村秀一、山中仁太郎、山崎政太郎、大和屋巖、吉田豊、吉田四郎、吉田収、吉松真司

日本水墨派(日) 世田谷区経堂町685 沢令花方(電東京41局968) 昭和29年5月創立。初め中川紀元、棟方志功、峰岸義一によつて組織し、津田青楓、近藤浩一路、などを客員として同年第1回展を開いたが、昭和32年海外美術の水墨画への関心のたかまるにつれ、新に、新しい東洋の墨画追求をもとめ改組、再出発した。昭和35年8月第7回展開催。

〔会員〕 中川紀元、峯岸義一、橋原祥太郎、宮永岳彦、希代稔、沢瀾吾

日本墨絵会(日) 渋谷区千駄谷町3ノ18ノ1 竹内方 昭和12年2月日本水墨会を創立。小川芋銭、小杉放庵、津田青楓、中川一政、矢野橋村、菅橋彦、生田花朝、小松均、岸浪百舛居、渡辺大虚等によつて結成された墨人会の後身で、伝統を尚びつつ新しい和風墨絵道を振興し、"清潤素雅"を基調とする国民美術の確立を期するを趣旨としている。昭和31年9月第7回展開催。33年日本墨絵会と改称。34年4月第8回展開催。

〔会員〕 渡辺聖空、戸田暎春、加藤素郷、久富裕慈、竹内雅明、吉村嘉嗣、森友光潤、竹内清紅、戸田秀雅、河合素玄 〔客員〕 小杉放庵、前田青邨、菅橋彦、中川一政、津田青楓、小松均、山喜多二郎太

日本染織作家協会(工) 文京区指ヶ谷町60 長浜重太郎方(電小石川1382) 昭和30年5月日本染織作家集団創立。伝統の上に立ち新しい染織藝術を創造し、我国造型美術界の進展に寄与せんとする在野染織作家達の集り。昭和34年日本染色作家協会と改称。昭和34年10月第4回公募展開催。

〔会員〕 二科十朗、長浜重太郎、中村妙子、栗原宏、木村和一、菊沢草露路、中川啓子、山内安藝、井山秀雄、横山みち、古谷みよ、諸岡照子、菊屋栄子

日本染織美術協会 世田谷区上馬町1-607(電世田谷1033) 昭和20年4月創立。機関誌「染織美術」を発行。

〔会長〕 野口真造 〔主幹〕 本吉春三郎

日本宣伝美術会 中央事務局・千代田区有楽町2-7(電和田倉2900) 昭和26年6月創立。毎年東京・大阪・名古屋・九州・北海道その他各地で展覧会を開催、そのほかデザイン講習会等を行う。昭和35年8月第10回展開催。

〔中央委員〕 板橋義夫(事務局長・東京)、伊藤憲治(東京)、片山利弘(大阪)、沢村徹(大阪)、大橋正(東京)、亀倉雄策(東京)、小林葉三(大阪)、河野鷹思(東京)、佐佐木貴士児(札幌)、中島康雄(大阪)、高橋錦吉(東京)、半田米之助(九州)、宮桐四郎(東京)、早川良雄(大阪)、原弘(東京)、狭間寿郎(名古屋)、山城隆一(東京)、山名文夫(東京)、大智浩(東京)

日本彫塑家倶楽部(彫) 台東区谷中初音町3ノ5(電駒込4549) 昭和28年2月創立。昭和22年創立の

美術団体一覧

日本彫刻家連盟を発展改称したもので職能団体的性格を離れ彫塑家相互の親睦と彫塑の研究、発展を目的として再発足した。昭和35年4月第8回展開催。

創立委員は加藤顯清、北村治裕、古賀忠雄、沢田晴広、中野桂樹、長沼孝三、橋本朝秀、昼間弘、藤野舜正、安田周三郎、山本雅彦。昭和34年4月第7回日彫展開催。

〔顧問〕 朝倉文夫、北村西望、斎藤知雄、藤井浩佑、吉田三郎〔32年度運営委員〕 雨宮治郎、赤堀信平、朝倉響子、円鋸勝二、藤野舜正、橋本朝秀、昼間弘、加藤顯清、木村圭二、北村治裕、古賀忠雄、倉持芳、三国慶一、宮地寅彦、水船六州、長沼孝三、中野桂樹、佐々木大樹、沢田政広、清水多嘉示、畠村直久、山本雅彦、安田周三郎、中川清〔会員〕 350名

日本彫塑家倶楽部関西支部(彫) 京都市左京区修学院大林町16 松田尚之方(電吉田5108) 昭和28年6月創立関西日展彫塑家協会が発展改称し、日本彫塑家倶楽部(東京)に合流し、京都、大阪、兵庫、奈良、滋賀の2府3県をもつて其の関西支部として新発足した。昭和32年第5回展を京都、大阪、奈良で開催。

〔関西支部長〕 松田尚之〔会員〕 32名

日本デザイン協議会(J・D・C)(工) 事務局 千代田区神田三崎町2ノ22(電東京03757) 三輪梅三郎 昭和32年4月創立。我国デザイン界の相互の交流をはかるとともに、強力にデザイン活動を推し進め、その進展を期して、とりあえず下記五団体をもつて組織発足した。つねに相互に情報の交換を行うとともに、各方面からの呼びかけに対しては、十分検討し、その対策をすみやかに処理しようとする常設機関であり、共通の場である。

〔会員〕 日本インダストリアル・デザイナー協会(J・I・D・A)、日本デザイナー・クラフトマン協会(J・D・C・A)、国際工芸美術協会(J・A・C・C)、日本宣伝美術会(J・A・A・C)、日本建築家協会(J・A・A)の各団体。

日本童画会 新宿区西大久保1ノ429 文学会館内(電四谷2644) 昭和21年創立。毎年展覧会開催。

〔代表委員〕 輪島清隆(電951)8949)

〔委員〕 武井武雄、初山滋、黒崎義介、市川禎男、中尾彰、安泰、松山文雄、井口文秀、鳥居敏文、鈴木寿雄、沢井一三郎、駒宮録郎、太田大八、林義雄、古田重郎、小坂茂、富永秀夫、北田卓史、久保雅勇、川本哲史、久米宏一、水野二郎、池田仙三郎、黒谷太郎

日本陶磁協会 中央区銀座東2ノ11 日本医事新法社梅沢彦太郎方(電東京54局8150) 昭和20年1月創立。社団法人。毎月研究会、講演会並びに春秋2回古陶磁の展覧講演会等を行う。機関誌「陶説」毎月発行。

〔役員〕(顧問) 尾崎尚盛、田伊能、松永安左衛門、細川護立、畠山一清(理事長)梅沢彦太郎(理事)磯野信威、大屋敦、小田栄作、加藤唐九郎、加藤土師萌、久志卓真、黒田領治、小山富士夫、小森新一、佐藤進三、陶

守三思郎、瀬川昌世、瀬津伊之助、田中作太郎、鷹巣豊治、内藤匡、中村一雄、中本守、広田熙、堀口捨巳、蕨山順吉、満岡忠成、森村義行、保田憲三、田山信郎、藤岡了一、田中丸善八

〔会員〕 2500名

日本陶彫会 世田谷区新町3ノ432 伊藤芳雄方(電421局9876呼出) 昭和26年創立。昭和33年8月第8回展開催。

〔会長〕 沢田政広〔副会長〕 古賀忠雄、加藤土師萌

〔事務会計〕 伊藤芳雄〔会員〕 鈴木仁亮、杉江瀬軒、多田瑞穂、滝川美一、富永直樹、中川為延、中野五一、中野桂樹、沼田喜代子、長谷川義起、林茂松、長谷秀雄、真鍋知道、宮本光庸、三井高義、森豊一、安田周三郎、山畑阿利一、山本正年、分部順治、浅井行雄、井上美都、伊藤芳雄、今城国忠、井高宏、円鋸勝二、江川治、大内青圃、尾形喜代治、大橋年郎、加藤土師萌、唐杉清光、片岡静観、木下繁、古賀忠雄、沢田政広、坂上政克、柴山清風、菅原安男、鈴木賢二、辻晋堂

日本銅版画画家協会(版) 世田谷区新町1ノ77 駒井哲郎方(電421局7181) 昭和28年7月創立。関野、浜田、駒井等の中堅作家が発起人となつて銅版画家の全国的な集団をつくつた。昭和32年7月第1回展開催。

〔理事長〕 駒井哲郎〔理事〕 浜田知明、関野準一郎、浜口陽三、〔経理〕 田河水泡〔会員〕 100名

日本都市美推進連盟 財団法人、大阪市北区堂島上1ノ32 電大阪346705・6706 昭和27年5月創立。市街地の人々に潤いを与え、文化の向上に寄与するため、希望と秩序のある美しい街「都市美」を推進すると共に、美術文化の顕揚発展を期して、その健全な育成を図ることを目的としている。都市美彫塑展を2年毎に各都市で行うなど都市美に関する研究、啓蒙、宣伝、測量、設計、製作施行、美術講演会、出版物の刊行、その他目的達成上必要と認めた事業を行う。機関紙「都市美」毎月発行。

〔顧問〕 山下新太郎、金山平三、有島生馬〔相談役〕 杉山司七、望月信成、村野藤吾〔理事長〕 美津島一〔理事〕(常務) 和田新、中山一男、木下孝則、石川滋彦、小山敬三、吉田久継、山下登、小堀進、寺内万治郎、荒谷直之介、〔会員〕 60名、各府県知事、市長、商工会議所会頭は協力会々員

日本南画院 社団法人、世田谷区深沢町4ノ122 松林方(電701)0717 昭和35年5月8日創立。日本の伝統的な南画を究めんとする画家を結集して京都で発会式を挙げた。〔会長〕 松林桂月〔副会長〕 矢野橋村〔理事長〕 河野秋郎〔理事〕 奥本広子ほか。

日本板画院(版) 杉並区荻窪4ノ57 棟方志功方(電391)5301 昭和27年5月創立。同34年11月第11回展開催

〔会長〕 松方三郎

〔顧問〕 磯伊之助、富本憲吉、梅原竜三郎、森口多里、植村鷹千代、石井雙石、富永惣一、滝口修造、今泉

鷲男、式場隆三郎、平櫛田中、河北倫明、秋田雨雀、水沢澄夫、鈴木進、嘉門安雄、久保貞次郎

〔会員〕 棟方志功、棟方末華、ブブノワ、笹島喜平、北川民次、下沢木鉢郎、長谷川富三郎、金守世志夫、木内克、沢田政広、岡村吉右衛門、芹沢銈介、セリサワ・スィラ、レオンゴールデン、野村侯三、山本道子、斎藤徳三郎、永礼孝二、森本木羊子、河村俊子、高田一夫、松尾少輔、佐藤米次郎、伊藤宝城、伊東快堂、脇田和、渡辺禎雄、内間安堀、島勉、招瑞娟、森義利、奥井友子、大阪良一、越野義郎、加納告保、日下賢二、ジョン・ヨッペ、中川タマオ。

日本版画協会〔版〕 豊島区千早町3ノ5 橋本興家 大正7年創立の日本創作版画協会が昭和6年版画家の大同団結をはかり改組したもの。昭和35年4月第28回展開催。

〔会長〕 石井鶴三 〔常務委員〕 畦地梅太郎、前田政雄、橋本興家、北岡文雄、稲垣知雄、山口源、関野準一郎、駒井哲郎、菅野陽、吉田遠志、吉田政次 〔会務委員〕 前川千帆、武井武雄、平塚運一、品川工、泉茂、若山八十氏、塚本哲、川西英、内間安堀、吉田穂高、〔会員〕 川上澄生、前田藤四郎、ブブノワ（33年帰国）浜田知明、浜口陽三、永瀬義郎、清宮彬、長谷川潔、古川竜生、馬淵聖、宮尾しげを、山口進、上野誠、斎藤清、大田耕土、南桂子、益田義信、水船六州、岩見礼花、初山滋、笹島喜平、吹田文明、リーチズユー他100余名

日本美術院（日・彫） 台東区谷中上三崎南町52（電駒込4510） 明治31年10月、当時東京美術学校長を退いた岡倉覚三を盟主とし、橋本雅邦以下26名を正員として結成。「新時代における東洋美術の維持並開発」が創立に際しての二大主張であった。同年10月第1回展を開催、研究所を下谷谷中初音町に設置して後進の養成に努め、雑誌「日本美術」を発刊した。同39年12月に至り一時東京の研究所を撤廃し、同人4名は岡倉覚三と共に常陸の五浦に退去し専念研鑽に努めた。大正2年岡倉覚三病歿するに及び、直ちに院の再興を画して新に院舎を谷中上三崎南町に起し、翌3年9月開院式を挙行、10月再興第1回展を開催した。再興に当たったのは横山大観、下村観山、木村武山、安田靉彦、今村紫紅、小杉未醒、辰沢延次郎、笹川種郎、斎藤隆三等で其の中実技者6名を以て同人とした。再興美術院には彫刻部並びに洋画部を設けたが、洋画部は大正9年小杉未醒、山本鼎、倉田白羊等の脱退と共に消滅した。毎年秋期に公募展を開き、また春季には内部の試作展を開く。大正10年米国クリエブランド美術館の要請に応じ、同国主要都市6箇所に巡回展を開き、以後日本美術の海外紹介にも努めた。昭和10年帝院改組に際して、同人合議の上新帝院への参加を声明し、横山大観、安田靉彦、小林古徑、前田青邨、富田溪仙、平櫛田中、佐藤朝山、藤井浩佑の8名が会員に就任した。昭和33年5月財団法人設立許可。昭和35年9月

第45回展開催。

〔理事長〕 安田靉彦 〔理事〕 斎藤隆三、前田青邨 〔監事〕 郷倉千鶴、新海竹蔵、平櫛田中、堅山南風、奥村土牛

〔同人〕 石井鶴三、保田龍門、真道黎明、郷倉千鶴、堅山南風、酒井三良、富取風堂、喜多武四郎、新海竹蔵、大内青圃、奥村土牛、小倉遊亀、田中青坪、山本豊市、太田聰雨、中村貞以、中村直人、宮本重良、松原松造、村田徳次郎、関谷充、新井勝利、北沢映月、小谷津任牛、小松均、古藤正雄、中島清、片岡球子、中島多茂都、岩橋英遠、桜井祐一、田中太郎、千野茂、基俊太郎、羽石光志、島田訥郎、真野満

日本美術会 豊島区池袋2ノ1238 舞台芸術学院内（電971）2819 昭和21年創立。日本美術の自由で民主的な発展と、その新しい価値の創造を目的とする広汎な美術家の自主的なあつまりである。毎年アンデパンダン展開催。同35年2月第13回展開催。機関紙「美術運動」を発行。国民美術運動の推進を目的とする。

〔中央委員〕 井上長三郎、永井潔、箕田源二郎、新海覚雄、吉井忠、高柳博也、金野新一、中谷泰、佐田勝、須山計一、佐藤忠良、朝倉摂、小野忠重、尾藤豊、中山正、蘭田猛、桜井誠、小室寛、中村宏、桂川寛、森田信夫、渋谷草三郎、池田龍雄、針生一郎、松山文雄、赤塚徹、伊吹英次、中野淳、長島吉三郎、穂積肇、杉本博、曹良奎、小山田二郎、福田恒太、中島保彦、山野卓、稻伊之助、麻生三郎、石橋和美

日本美術家連盟 新宿区四谷1ノ18（電東京341局578） 昭和24年6月創立。美術家（日本画、洋画、版画、彫刻家）の藝術上の主義や傾向にとらわれない個人加盟によって組織し、美術家の職能組合として、権益の擁護、相互扶助、其他美術の普及、国際交流等文化に寄与するための諸事業を行う。昭和33年より社団法人組織として運営する。

〔会長〕 前田青邨 〔理事長〕 宮本三郎 〔常務理事〕 田中忠雄、益田義信、望月春江 〔監事〕 大久保泰、村井正誠 〔会館建設委員長〕 伊原宇三郎 〔事務局長〕 和田新 〔委員〕（日本画部） 朝倉摂、新井勝利、岩田正巳、奥村土牛、小倉遊亀、近藤浩一路、高山辰雄、西沢笛畝、橋本明治、東山魁夷、福田豊四郎、松本姿水、望月春江、森白甫、山本丘人（洋画部） 阿部展也、伊原宇三郎、大久保泰、大河内信敬、大沢昌助、岡本太郎、加山四郎、川端実、栗原信、高野三三男、小山敬三、三田康、鈴木信太郎、高島達四郎、田崎広助、田中忠雄、田村一男、中野和高、中村善策、中山巍、難波田竜起、野口弥太郎、林武、益田義信、松本弘二、三雲祥之助、宮田重雄、宮本三郎、向井潤吉、村井正誠、森田元子、山口薫、脇田和（版画部） 畦地梅太郎、北岡文雄、駒井哲郎、平塚運一、前田政雄、山口源（彫刻部） 笠置季男、清水多嘉史、新海竹蔵、本郷新、村田勝四郎、柳原義達、山内壮夫、山本豊市、山本雅彦、淀

井敏夫〔会員〕1291名

日本美術協会 台東区上野公園桜ヶ丘(電821局3910)
明治12年創立の龍池会を同20年日本美術協会と改称し
財団法人組織とした。毎年展覧会を継続して太平洋戦争
までに145回に及んだ。本邦美術の振興をはかることを
目的とし、戦後組織を新たに各流各派を綜合融和する
方針で絵画展を東京並びに各地で開催している。昭和
32年第10回展開催。

〔総裁〕高松宮宣仁親王〔顧問〕細川護立、浅野長
武、岡部長景、他15名〔理事〕畠山一清、長尾欽弥、
団伊能、秋山光夫〔会頭〕団伊能〔専務理事〕秋山
光夫〔常任委員長〕松林桂月〔常任委員〕21名
〔委員〕47名

日本木彫会(彫) 練馬区北大泉町530 熊谷幸太郎方
昭和4年創立。33年6月18回展開催。

〔会員〕石井滋、長谷川昂、西田明史、岡正敏、内藤
伸、中野桂樹、熊谷幸太郎、日下寛治、山脇敏男、山脇
正司、山口伊之助、古川武治、佐々木大樹、木村威夫、
三国慶一、水島弘一、清水源可、大島駒蔵、西出大三、
松原重正、柳沼雲雪〔会友〕岩川義雄

人形玩具文化の会 板橋区常盤台1/29 西沢笛敵方
(電板橋1201) 昭和11年創立。同25年財団法人とな
る。近時欧米人の日本人形に対する関心が深いので、特
に蒐集の古代人形参考品を研究所内に陳列し観賞に供し
ている。なお月1回研究会を催し古代人形玩具について
意見の交換を行つている。

〔会長〕金森徳次郎〔理事長〕西沢笛敵〔理事〕
板谷波山、団伊能、佐藤達夫、鈴木隆夫、品田豊治
(の)

能彫会(彫) 世田谷区粕谷町10 横山正三(電321)
6239) 昭和22年創立。戦前能美会として出発したが発
表展を9回継続して20年に中止、戦後あらたに再出発
した。流派を問わず能の真髓を彫刻によつて表現しよう
とする同好の士の集りである。毎年1回展覧会を行う。
昭和35年8月第13周年展開催。

〔会員〕石井鶴三、畑正吉、花岡幸雄、花里金央、綿
引司郎、吉田満、横山正三、中野素昂、梅田修、佐藤助
雄、藤野舜正、紺谷英儀、宮本光庸、柴田佳石、昼間
弘、門伝正衛、関谷充、須賀東篁、鈴木仁亮、木内礼智
(は)

白鳥会(洋) 豊島区高松町1/6 伊藤彪方 昭和27
年7月創立。昭和30年9月第3回展開催。

〔会員〕熊谷守一、藤田鶴夫、多田栄二、鳥居敏文、
島津純一、賀茂牛之輔、伊藤彪、江川平三、福島金一
郎、志村一男、千葉健作、坂元益夫、清川泰次、小林森
次

白日会(洋・彫) 目黒区下目黒4/966 平松譲方
大正13年創立。昭和35年3月第36回展開催。

〔会員〕(絵画部) 青木春見、伊藤清永、伊藤利行、
岩月光金、石崎五郎、内山又輔、氏田喜八郎、大崎善

生、小野瀬進、川島実、川村精一郎、川口栄、東理次
良、小堀進、小林一雄、小泉馨式、酒泉淳、笹口淳、篠
原薫、島田四郎、柴田裕作、柴田三千春、鈴木信男、田
中君江、武田由平、高須敬司、千葉精三、手塚忠一、富
山芳男、中沢弘光、長井幸一、難波栄子、中兼久偉、中
山鎭三郎、中山忠彦、西田耕作、灰野文一郎、八景正
義、広本了、平松譲、古川弘、福田義之助、藤江幾太
郎、堀英治、岡部時雄、牧原万之助、町田源三郎、益子
洋、水野富美夫、宮島武男、村上鉄太郎、森谷重夫、柳
沢淑郎、山本道乗、山田鶴久、安井藤三郎、吉田比古
蔵、渡部百合子

(彫刻部) 伊藤五百亀、内堀功、大木禪作、木村珪二、
児島正典、小池藤雄、笹野恵三、坂手護、富田匠美、中
村晋也、星野宣、吉田三郎

白申会(日) 京都市北区北野白梅町33 宇田 荻邨方
(電西陣2246) 宇田荻邨の主宰する日本画塾

白鳳会(洋) 中野区沼袋560 篠窪亮方 昭和15年創
立。昭和29年10月第12回展開催。昭和16年東京美術
学校油画科藤島教室を卒業した10名で創設した。

〔会員〕井上慎、加藤長一、北岡文雄、小泉富司、呉
天華、鮫島宗明、篠窪亮、高田肇三、高田久、松永敏太
郎、松永和夫、安田寛、吉野広行、吉田政次、原良次、
友沢泰男、浅井忠男、大里光春

版画懇話会 台東区上野桜木町32 昭和29年創立。
版画家、版画研究家、その他版画に関心を持つ人々の集
りて、日本版画の育成、発展に寄与することを目的とす
る。講演会、研究会、関係資料の作成、収集、伝統技術
新技術の紹介、版画の振興、普及に関する審議、提案な
どを行う。

〔幹事長〕 裕伊之助 (幹事) ○上野誠、岡畏三郎、菊
地貞夫、○笹島喜平、○清水正博、滝平二郎、○中山正、
深水正策、○渡辺規、○稲田三郎、○張替正次、○秋山
巖、○遠藤昭、○池田修三、○井手岳水、○森義利、○
藪野豊、○佐藤和男、布施徳次郎、三浦二郎(○印常任)

阪都美術工芸会(工) 大阪市天王寺区逢坂上ノ町141
汎工藝社内 (電天王寺9705) 昭和29年7月創立。大
阪を中心に在住する有志による研究団体で同人の大部分
は日展出品に重点を置く作家からなる。

〔幹事〕橋田裕土、川端三義、角谷一圭、田辺竹雲斎、中島
保美、磯山竹司〔委員長〕島野三秋〔副委員長〕小林
美春、平松宏春〔特別委員〕柴崎風岬〔会員〕30名

汎美術家協会(洋) 大阪市阿倍野区北畠西1/105
前田藤四郎方 昭和22年7月創立。関西在住の洋画家
の団体。昭和27年2月第5回展以降展覧会なし。

〔会員〕藤井二郎、原精一、長谷川三郎、橋上菁児、
萩森久朗、伊藤久三郎、井上覚造、井上賢三、池島勘治
郎、石丸一、伊庭伝治郎、江川平三、川西英、小出三
郎、前田藤四郎、松井正、米良道博、宮下貞之介、李田
たけを、中村真、中村善種、仲村一男、中川力、中村徳三
郎、中畑艸人、錦義一郎、須田剋太、佐藤篤郎、田川勤

次、植木茂、山本敏輔、山崎隆夫、吉原治良、和田季悦、渡辺修

パンリアル美術協会(日) 京都市東山区五条東6ノ531 山崎隆夫(電祇園1253) 昭和23年6月創立。昭和32年11月第15回京都展開催。同年2月第2回東京展開催。

〔会員〕 生駒国一、不動茂弥、日ノ下淳一、星野真吾、小林司郎、三上誠、野村耕二郎、大野秀隆、下村良之介、湯田寛、山崎隆

(ひ)

ひこばゆ(日・洋) 横浜市鶴見区東寺尾794 加山又造方 昭和29年11月創立。昭和31年2月第2回展開催。

〔会員〕 赤穴宏、赤穴桂子、深尾庄介、大住閑子、稗田一穂、加山又造、竹山博、上野泰郎

美術記者会 中央区京橋3ノ11 国立近代美術館内

〔幹事〕 小川正隆、松江智寿、日野耕之祐、桑原住雄

〔会員〕 社名50音順

朝日新聞社 学藝部 小川 正隆
学藝部 高松喜八郎
社会部 牧田 茂
出版局 赤井 正友
共同通信社 特信部 松江 智寿
文化 斎藤 茂男
社会部 長手 道夫

産経新聞社 文化部 日野耕之祐
社会部 平野 光男

信濃毎日新聞社 山本 道生
新聞三社連合 三宅正太郎

中部日本新聞社 文化部 岡山 東
白木 博
豊田 稔
社会部 伊藤友八郎

東京新聞社 文化部 桑原 住雄
宮川 謙一
寺田 千壱

西日本新聞社 文化部 江頭 光
社会部 伊東 浩三

日本経済新聞社 文化部 仁村美津夫
滝 悌三
津崎 至

日本放送協会 内信部 小島 弘蔵
高畑 昭久

報知新聞社 文化部 島野 功
北海道新聞社 浜尾 穎逸

毎日新聞社 学藝部 船戸 洪吉
整理部 上島 長健

ラジオテレビ部 大河原 元
読売新聞社 文化部 和田伊都夫
連絡部 藤沢 逸哉

美術評論家協会 台東区上野公園 都美術館内 本会は主に美術報道に関係する記者を以て組織され、会員相互の親睦を図ると共に美術界の発展に寄与する諸事業を行うを目的とする。

〔会員〕 泉与志(美術新潮会)、大山広光(美術街社)、神谷清太郎(画廊社)、河原義和(美術家会・美術主義評論社)、高木紀重(日本美術通信社)、樽原祐、中尾雅俊(新日本美術社)、中田宗男、小森盛、安藤鉦一(月刊日本画・日本美術振興会)、佐久間善三(美術新聞)、菊地芳一郎(美術グラフ・時の美術社)、三輪武士、三輪鄰(週刊美術社)、柴崎風岬(汎工藝社)、大久保積梨(都市と藝術社)、中台青陵(造型新報社)、松村広(アート誌)

美術評論家連盟 中央区京橋3ノ11 国立近代美術館 気付 昭和29年5月創立。日本における美術評論家の団結をはかるとともに、国際的に協力し、造型文化の発達に寄与することを目的とする。国際美術評論家連盟に加盟し、その日本支部となつている。

〔会長〕 滝口修造 〔常任委員長〕 岡本謙次郎 〔常任委員〕 秋山光和、穴沢一夫、石川公一、井関正昭、江原順、嘉門安雄、高階秀爾、東野芳明、河北倫明、瀬木慎一、徳大寺公英、和田新、中村溪男、中原佑介、中村伝三郎、針生一郎、久富寛、本間正義〔事務総長〕 嘉門安雄 〔書記〕 小倉忠夫、穴沢一夫、高階秀爾、二見友子

美術文化協会(絵・彫・オブジェ・写・建・墨) 川崎市下作延2041 久富金之方 独立を脱退した福沢一郎を中心に主として独立、二科の所謂前衛派の新進が昭和14年に結成した。同会は絵画、彫刻、写真、装飾、図案、書等各分野を網羅し総合的に前衛運動を行う。昭和29年4月分裂したが同年10月新人を吸収して再編成した。昭和35年3月第20回展開催。

〔会員〕 浅野弥衛、小関通、田中昇、小原勉、加藤一夫、村上馨、戸川金雄、村岡和雄、入来天、川元頼山、長尾晴海、羽坂清、山崎貴英子、早瀬龍江、大野英一、原田圭司、岡田徹、竹村文男、吉田隆、米田三男之介、伊藤直介、中村博、国光与、宮地周、喜田一夫、伊東一信、水野修道、坂根健一郎、猪飼重明、鶴野政、内田克己、岡田久春、尾崎喜久雄、金春錫、佐野美咲子、島駿一郎、白木正一、堂庭郁夫、内藤健一、久富金之、広部喜一、藤井捨次、牧野静雄、宮本初義、森和、山本徳一、山本祐明、吉田彰、吉元竜郎、水野孝嗣、富士井盛文、村上賢秀、室谷俊行、義江清司、下郷羊雄、千葉一雄

七象会(洋) 浦和市高砂町5ノ83 小松崎邦雄方 昭和31年3月創立。第1回展開催。昭和29年藝大油絵科卒業生で、同専攻科に2年在学した者のうち7人が集り林武教授の力添えで発足した。昭和32年第2回展開催。

〔会員〕 赤堀尚、稻村洋、小松崎邦雄、酒匂護、志郎武久、田口安男、松本昭

匹亜会(洋・日) 名古屋市中川区愛知町2ノ61 竹田

美術団体一覧

大助方 昭和30年3月創立。毎月、懇談会、研究会を行い、同人誌「匹亜」を刊行する。昭和34年5月第5回展開催。

〔同人〕 堀尾実、水谷勇夫、藤田武、加藤直昌、竹田大助、志村礼子、加藤充

(ふ)

仏教美術協会 練馬区豊玉中3ノ25 萩原雅春方 昭和28年10月創立、現在。仏像彫刻家と彩色専門の集りである。伝統的木彫及彩色技法の保存、正しい継承をねがって、信仰の対象としての造像儀軌の究明及び表現の研究練磨を旨とする。昭和34年8月第6回展開催。

〔顧問〕 逸見梅栄、佐藤玄々

〔会員〕 阿井瑞岑、森大造、高村晴雲、鈴木回策、西山如拙、佐藤勝利、先崎栄伸、鈴木信春、野坂法山、西川宗舟、萩原雅春、佐藤匡義

舞踊美術家懇話会 武蔵野吉祥寺 2095 東原徹方 (電武蔵野 2945) 舞台美術の発展に寄与するため昭和27年創立した。

〔会員〕 荒島鶴吉、石浜日出雄、国東清、三枝大二、島公靖、田中良、東原徹、遠山静雄、長瀬直諒、中村正典、真木小太郎、三林亮太郎、三輪祐輔、吉村俊一、渡辺正男

(へ)

霹靂社(日) 練馬区大泉学園町718 平子聖龍方 昭和4年6月創立。戦争により中絶。昭和21年10月再建。昭和34年4月第13回展開催。

〔主宰者〕 平子聖龍

(ま)

真赤土工芸会(工) 中野区野方町1ノ951 織田慎一方 昭和17年5月創立。毎年東京他各地で展覧会を開く。昭和34年4月19回展

〔会員〕 (染色) 栗原宏、清水喜美 猪瀬敏子、浅野雅子、中川啓子 (陶器) 森一紀 (彫金) 織田慎一 (綴織) 古戸忠平、堀篤子、成田阿久利 (竹工) 平沼浄 (木彫) 逸見良之助 (皮革) 数見吾一 (ガラス) 簗口滋人

(む)

無厭会(工・陶) 京都市東山区五条橋東6丁目 山崎光洋方 (電祇園 1253) 昭和22年2月創立。清水焼作家20名によつて結成。昭和31年6月第9回展開催。

〔会員〕 河合瑞豊、河合榮之助、米沢蘇峯、高橋道八、大丸北峰、宇野仁松、久世久宝、山崎光洋、近藤悠三、浅見五郎助、赤沢露石、清水六和、清水六兵衛、三浦竹泉、宮川香齋、七兵衛信翠、新開邦太郎、永樂善五郎、森野嘉光、諏訪蘇山

(も)

萌木会 (染) 大田区女塚2ノ33(電73)1553 芹沢銈介門下の染色作家の研究団体で、毎月研究会を開き、年1回作品発表会を行う。

〔会員〕 芹沢銈介、岡村吉右エ門、小島恵次郎、柚木沙弥郎、立花長子、長沼孝一、大杉準雄、秋山弘史、三代沢木寿、坂和正春、関口信男、森義利、渡辺頑雄、五味幸雄、塩入守治、小川保家、大熊武男、片野元彦、増田邦太郎。

木彩会(工・木) 港区赤坂田町4ノ1 小川正八方 電(481)3628 昭和23年4月木工藝の制作又は研究に携わる者が集まつて創立した。昭和28年9月第6回展開催。昭和29年6月現代工芸連合展参加。現在は親睦団体となつている。

〔会員〕 河津直武、梅田総太郎、山口寿泉、山本葉弥志、前田保三、佐藤豊、本吉春三郎、本橋政一、須田利雄、原田英、落合一郎、大熊喜英、内藤幸夫、桜井博、江刺英一、吉原良雄、前田康夫、小川正八、佐藤謙一

モダンアート協会(洋) 川崎市渡田町3ノ126中井幸一方 電(川崎2)3012 昭和25年9月創立。昭和35年4月第10回展開催。

〔会員〕 朝妻治郎、東俊二、広井力、小松義雄、城所昌夫、勝本富士雄、勝田寛一、蔭山光義、村井正誠、靱山七重、宮田正己、中村真、小川孝子、周襄吉、杉本亀久雄、勝呂忠、谷沢秀晃、竹田長年、和田季悦、矢橋六郎、山口薫、清野恒、吉田政次、中井幸一、銚之原捷夫、西原照子、清野克己、本野東一、藤本能道、新妻実、牛玖健治、土橋敏造、岡本公夫、刀根真澄、嶋本昭三、柴田紗千夫、高崎元尚、佐藤努、吉川悦陽、島居良禪、光永直人、岡周末、執行正夫

モダンアート研究会(洋) 神奈川県相模原市上鶴間 4852 勝田寛一方 昭和27年モダンアート協会の補助団体として発足したもの。

〔会員〕 モダンアート協会々員及び同会所属出品者

(ゆ)

幽韻会 (日) 都下北多摩郡東村山町野口 1964 今中訓方、昭和32年1月今中素友を中心として設立。昭和33年2月第1回展開催。

〔会員〕 河津光波、是永高顕、薄井貫玖、赤岩懸泉、加納千恵女、佐藤一彰、木村溪佳、岡村佐代子、小林貢子、木村仁佳、棚橋千代子、馬田珊々、宮本好子

(り)

立軌会(洋) 世田谷区成城町89 玉置弘三方 (電411局8429) 昭和24年4月創立。元創進会の会員7名によつて結成、昭和35年8月第12回展開催。

〔会員〕 有岡一郎、飯島一次、牛島憲之、大貫松三、須田寿、山下大五郎、玉置弘三、若狭曉男、藤橋正枝、秋野卓美、五百柱乙、内田光之助、河村俊子、辻茂、小川イチ、川越昭子、アル・エヴェレット

(れ)

黎明美術研究会(洋) 大田区仲六郷3ノ24住宅協会アパート633号 松村禎夫方 昭和18年4月創立。基礎理論の徹底、新技法の習得、構図学の研究等を目的とする。月1回例会、会報「レイメイ」を発行している。

〔会長〕 柳亮〔会員〕 263 名

連袖会(洋) 大田区馬込東1ノ1060 山川勇一郎方
昭和12年安井曾太郎の門下を以て組織、昭和35年7月
第22回展開催。

〔会員〕 広瀬功、本郷惇、金子博信、狩野寿一、加藤
水城、木村辰彦、児島三吉、中村琢二、二宮雪夫、丸野
豊司、三浦俊輔、小野末、大津鎮雄、桜井恵美子、菅野
矢一、高田誠、高見耿太郎、幸雍二、山川勇一郎、松本
恵子、皆吉志郎、庄野雅三、谷田貝修

(ろ)

六窓会(綜) 世田谷区等々力3ノ5ノ2 黒田嘉治

方 東京美術学校昭和6年卒業の同窓を以て昭和25年
創立。昭和29年4月第5回展開催。昭和30年度の展覧
会は休み、以後展覧会は毎年開催せず随時開催とする。

〔会員〕(日本画) 橋本明治、加藤栄三、山田申吾、東
山魁夷、(洋画) 伊藤正義、大貫松三、佐藤敬、須田寿
(彫刻) 長沼孝三、野々村一男、大須賀力、黒田嘉治、
(建築) 吉村順三 (工藝) 内藤四郎

朗峯画塾(日) 鎌倉市山の内瓜ヶ谷1034 伊東深水方
(電鎌倉2463) 伊東深水の主宰する日本画塾 会務代表
者 鎌倉市山ノ内西瓜谷1063 伊東万燿

189 団 19

美術家及美術関係者名簿

凡 例

- 1 本名簿にのせた美術家及美術関係者の数は2025名である。

我が国において、美術家として社会的地位を有する人々を採録した。又日展参加団体の会員は編輯の都合上日展役員、出品委嘱者の掲載にとどめた。その他掲載予定の人々で回答未着、調査不可能の分は来年度とし不備の点は次年度に補いたい。

- 1 名簿は氏名の頭文字の発音により50音順に記載した。発音の同じ場合は字劃の少ないものを先にし、頭文字の同じものは二字目の発音により、その発音の同じ場合は字劃の少ないものを先に掲げた。但し、同字は訓音の異なるものとなるべく1箇所に集めた。安宅、安達、安西、安藤等を同一箇所に掲げた如くである。

- 1 名簿に用いた略語は左の通りである。

(日)日本画 (洋)洋画 (挿)挿画 (版)版画 (漫)漫画 (彫)彫塑 (工)工藝 (漆)漆工藝 (陶)陶磁 (金)金工藝 (染)染色 (織)織物 (繡)刺繡 (硝)硝子工藝 (建)建築 (写)写真 (記)美術記者 (文化財事務局)文化財保護委員会事務局 (文化財審委)文化財専門審議会専門委員 (日展)日本美術展覧会 (昭和35年日展委嘱)昭和35年第3回日展出品委嘱者 (元日展委嘱)昭和35年以前の日展出品委嘱者 (日展審)日本美術展覧会審査員 (東京藝大)東京藝術大学 (東美校)東京美術学校 (京都美術大)京都市立美術大学 (京都絵専校)京都市立絵画専門学校 (京都美専校)京都市立美術専門学校 (女子美大)女子美術大学 (女子美校)女子美術学校・女子美術専門学校 (帝国美校)帝国美術学校 (日美校)日本美術学校 (大阪美校)大阪美術学校 (東京高工藝校)東京高等工藝学校 (東京高工業校)東京高等工業学校 (京都高工藝校)京都高等工藝学校 (名古屋高工業校)名古屋高等工業学校 (京都美工藝校)京都市立美術工藝学校、其他これに準じた。

- 1 住所中東京都のみは都名を略して区名を以て始めた。

「美術家及美術関係者名簿」 ページ (91~136 ページ)

個人情報保護のため非公開

Pages of the list of Artists and Experts in Art (pp.91-136)

Cut for protection of the personal information

美術関係定期刊行物一覧 (50音順)

- アイデア** 隔月刊行 編集宮川峻 発行誠文堂新光社 千代田区神田錦町1ノ5 電(291)1211—5
- アトリエ** 月刊 編集北原義雄 発行アトリエ出版社 千代田区神田神保町3ノ13 電(331)2575・2576・3429
- インダストリアル・デザイン** 季刊 編集山本久史 発行技報堂 港区赤坂溜池5
- カラー・デザイン** 月刊 編集日本繊維意匠センター 大阪市東区南本町2ノ37ノ1 発行明治書房 電(291)0726・8120
- 季刊文化財** 季刊 発行文化財保護委員会 千代田区霞ヶ関3ノ4
- 近代美術研究** 季刊 編集木村重夫 発行近代美術研究会 中野区千光前町25
- 藝術新潮** 月刊 編集佐藤義夫 発行新潮社 新宿区矢来町71 電(341)7111—8
- 建築史研究** 季刊 編集建築史研究会(藤島友治郎) 発行彰国社 千代田区平河町2ノ11 電(331)0293・2851・4523・1745
- 建築雑誌** 月刊 編集北村正雄 発行日本建築学会 中央区銀座西3ノ1 電(561)1232・1238・4572
- 建築文化** 月刊 編集金春国雄 発行彰国社 千代田区平河町2ノ11 電(331)0293・2851・4523・1745
- 工 藝** 月刊 編集工芸学会編集委員会 発行財団法人工芸学会 港区麻布三河台町24 電(481)1034
- 工 藝 研 究** 発行通商産業省産業工芸試験所 大田区下丸子313 電(731)6141—6
- 工 藝 ニ ュ ー ス** 月刊 編集通商産業省産業工芸試験所 発行丸善株式会社出版部 中央区日本橋 電(271)2321・2351・2361
- 考古学雑誌** 月刊 編集日本考古学会(原田淑人) 発行日本考古学会 台東区上野公園東京国立博物館内 電(821)3711—3715
- 国 華** 月刊 編集国華社内 国華編集委員会 発行国華社 港区麻布市兵衛町2ノ1 電(481)1752
- 国際建築** 月刊 編集国際建築協会(小山正和) 発行美術出版社 新宿区市ヶ谷本村町15 電(332)5221—8
- 国立近代美術館ニュース(現代の眼)** 月刊 編集兼発行人国立近代美術館 発行所国立近代美術館 中央区京橋3ノ11 電(561)0823—5
- 国立博物館ニュース** 月刊 編集鎌原正巳 発行国立博物館 台東区上野公園 電(821)3711—5
- 古文化財之科学** 編集大岡実 発行古文化資料自然科学研究会 台東区上野公園東京国立文化財研究所保存科学部内 電(821)6954
- 三 彩** 月刊 編集藤本昭三 発行 三彩社 中央区銀座東7ノ6 大栄会館 電(541)4811(内線6・33番)
- 史 迹 と 美 術** 月刊 編集川勝政太郎 発行史迹美術同友会 京都市北区紫野下柳町14 電(44)5956
- 秀 作 美 術** 年2回刊 編集田島敬助 発行秀作美術社 台東区西黒門町21 電(831)6890
- 色 鳥** 季刊 編集矢野勝代 発行芸術社 目黒区下目黒3ノ521 電(712)3442
- 書 品** 月刊 編集庄司一夫 発行東洋書道協会 中央区京橋2ノ3 電(561)0304・4891—3
- 新 建 築** 月刊 編集吉岡保五郎 発行新建築社 中央区宝町1ノ6 電(561)4752・4306
- 造 形** 月刊 編集井手義男 発行造形同人会 中央区八重洲5ノ5 電(281)9860
- 淡 交** 月刊 編集納屋嘉治 発行淡交社 京都市上京区堀川通寺ノ内上ル 電(44)1507—8・7750
- デ ザ イ ン** 月刊 発行美術出版社 新宿区市ヶ谷本村町15 電(332)5221—8
- デザイン・ジャーナル** 月2回発行 編集発行繊維デザイン研究会 日本繊維意匠センター企画課内 大阪市東区南本町2ノ37 電(26)4451—5
- 刀 剣 美 術** 編集宮崎芳樹 発行日本刀剣美術保存協会 台東区上野公園 東京国立博物館内 電(821)3711—5
- 都 市 美** 月刊 発行財団法人日本都市美推進連盟 東京都中央区京橋2ノ9 電(561)1258
- 陶 説** 月刊 編集梅沢彦太郎 発行日本陶磁協会 中央区東銀座2ノ11 電(541)8150
- 東 邦 美 術** 月刊 編集小野修三 発行東邦美術社 豊島区千早町2ノ3 電(951)5269
- 日 展 美 術** 年5回発行 編集大河内信敬 発行日展美術刊行会 千代田区神田駿河台3ノ4
- 日 本 画** 月刊 編集安藤鉦一 発行日本美術振興会 中野区新井町649 電(386)2990

美術関係定期刊行物一覧

日 本 工 藝	月刊 編集工芸研究会 発行芸艸堂 京都市中京区寺町二条南入 電上3613 文京区湯島1ノ1 電神田5840	美 術 新 潮	月刊 編集泉与志 発行美術新潮会 港区麻布龍土町58 電(408)5887
日 本 の 工 藝	月刊 編集河島泰津子 発行日本工藝 館 大阪市浪速区新川3ノ619 電(6 4)6309・5214	美 術 新 日 本	月刊 編集中尾雅俊 発行新日本美術 社 大阪市旭区大宮西ノ町6ノ205
日 本 漆 工	月刊 編集富田英一 発行日本漆工協 会 千代田区神田鍛冶町114 電(291) 1787	美 術 新 聞	隔日刊 編集佐久間善三 発行 美術 新聞社 大田区蓮沼町107 電(731)62 85
日 本 美 術	季刊 編集山崎始子 発行日本美術社 港区芝浜松町1ノ3 新夕刊新聞社内	美術ジャーナル	月刊 編集羽生道昌 発行株式会社色 研港区赤坂田町7ノ3 電(481)7509
日本美術工芸	月刊 編集加藤義一郎 発行日本美術 工芸社 大阪市北区梅田阪急ビル内	美 術 探 求	隔月刊 編集難波専太郎 発行美術探 求社 大田区石川町98 (782)5566
汎 工 藝	旬刊 編集柴崎俊吉 発行汎工藝社 大阪市天王寺区逢坂上之町 141 電(7 7)9705	美 術 通 信	旬刊 編集高木紀重 発行美術通信社 新宿区下落合4ノ1588 電(951)1568
美 学	季刊 編集美学会(男沢淳) 発行美術 出版社 新宿区市ヶ谷本村町15 電 (332)5221—8	美 術 手 帖	月刊 編集大下正男 発行美術出版社 新宿区市ヶ谷本村町15 電(332)5221— 8
美術案内	季刊 編集藤森淳三 発行独断社 世 田谷区岡本町1107 電(701)0757	仏 教 藝 術	季刊 編集仏教藝術学会 発行毎日新 聞社 大阪堂島 東京有楽町
美術館ニュース (東京都美術館)	月刊 編集早川治平 発行東京都美術 館友の会 台東区上野公園 電(821) 3726—8	萌 春	月刊 編集猪木達二 発行日本美術新 報社 東京都千代田区九段1ノ14 電 (331)9046
美術館ニュース (愛知県文化会 館)	月刊 編集田中潤三 発行愛知県文化 会館美術館 名古屋市中区久屋町8ノ 8 電(97)5512	墨 美	月刊 編集森田子龍 発行墨美社 京 都市上京区樺木町黒門東入ル 電(84) 4902
美術館ニュース (京都市美術館)	月刊 発行京都市美術館 京都市左京 区岡崎公園 電(吉田)4107—8	み づ 系	月刊 編集大下正男 発行美術出版社 新宿区市ヶ谷本村町15 電(332)5221— 8
美術研究	隔月刊 編集美術研究所(田沢坦) 発 行吉川弘文館 文京区本富士町2 電 (921)6908, 5214	ミュージアム	月刊 編集国立博物館 発行美術出版 社 新宿区市ヶ谷本村町15 電(332) 5221—8
美術業界	旬刊 編集河原義和 発行美術主義評 論社 豊島区雑司ヶ谷1ノ392	民 藝	月刊 編集田中豊太郎 発行日本民藝 協会 目黒区駒場861 電(461)8742
美術グラフ	月刊 編集菊地芳一郎 発行時の美術 社 世田谷区祖師谷2ノ1258	大 和 文 華	年4回 編集大和文華館 発行大和文 華館出版部 奈良市菅原町 969 電 (富雄)0544・0845
美術史	季刊 編集美術史学会(熊谷宣夫) 発 行便利堂 京都市中京区新町通竹屋町 南 電上4351 5238	大和文化研究	編集大和文化研究会(中山正善) 発行 同研究会 奈良市春日野町50 奈良国 立博物館内
美術振興	月刊 編集田中宗男 発行日本美術振 興会 中野区新井町649 電(381)2990	連盟ニュース	月刊 7・8月休刊 編集和田新 発行 日本美術家連盟 新宿区四谷1ノ18 電(341)0578

(本年鑑・編集並びに執筆者)

岡畏三郎、隈元謙次郎、坂本満、関千代、田沢坦、田実栄子、中村伝三郎、永雄ミエ、宮次男

印刷 昭和36年3月1日
発行 昭和36年3月31日

日本美術年鑑

——昭和35年版——

編集者 東京国立文化財研究所美術部
(美術研究所)

印刷所 大蔵省印刷局
東京都新宿区市谷本村町15
電話 (331) 531~9

発行所 東京国立文化財研究所
東京都台東区上野公園
電話 (821) 4487, 1923
